

中央社会保険医療協議会 診療報酬改定結果検証部会（第69回）
議事次第

令和5年11月10日（金）8:30～

議 題

- 令和4年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和5年度調査）の報告書案について

令和4年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和5年度調査）の結果について

（ 令和5年11月10日
中央社会保険医療協議会
診療報酬改定結果検証部会 ）

中央社会保険医療協議会診療報酬改定結果検証部会（以下「検証部会」という。）では、令和4年6月15日に策定した「令和4年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査の実施について」に掲げられた特別調査10項目のうち、令和5年度に実施する5項目について調査を行った。

- （1）リフィル処方箋の実施状況調査
- （2）歯科医療機関における院内感染防止対策の評価等に関する実施状況調査
- （3）かかりつけ薬剤師・薬局の評価を含む調剤報酬改定の影響及び実施状況調査
- （4）後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査
- （5）オンライン資格確認システムに係る診療報酬上の対応の実施状況調査

この特別調査は外部委託により実施し、実施に当たっては受託者、検証部会委員、関係機関等により構成された「調査検討委員会」において、具体的な調査設計及び集計方法等の検討を経て行った。

今般、その調査結果について、検証部会として報告書案の検討を行い、その結果を取りまとめたので報告する。

リフィル処方箋の実施状況調査報告書(案) ＜概要＞

調査の概要①

1 調査の目的

- 令和4年度診療報酬改定において、症状が安定している患者について、医師の処方により医師及び薬剤師の適切な連携の下、一定期間内に処方箋を反復利用できるリフィル処方箋の仕組みを設け、処方箋の様式を変更した。
- これらを踏まえ、本調査では、改定に係る影響等について調査・検証を行った。

2 調査の対象

本調査では、「病院・診療所調査」、「医師調査」、「保険薬局調査」、「患者調査(郵送調査)」及び「患者調査(インターネット調査)」の5つの調査を実施した。各調査の対象は、次のとおり。

(1) 病院・診療所調査

- ・令和4年10月から12月の間に、5件以上のリフィル処方箋の発行実績がある病院
- ・上記期間にリフィル処方箋の発行実績がない病院

上記合計1,000施設

- ・令和4年10月から12月の間に、5件以上のリフィル処方箋の発行実績がある診療所
- ・上記期間にリフィル処方箋の発行実績がない診療所

上記合計1,000施設

(2) 医師調査

- ・病院・診療所調査の対象施設で外来診療を担当する常勤医師のうち、各施設から2名(リフィル処方箋発行経験の有無等で抽出)

調査の概要②

2 調査の対象(続き)

(3) 保険薬局調査

- ・令和4年10月から12月の間に、5件以上のリフィル処方箋の受付実績がある薬局
- ・上記期間にリフィル処方箋の受付実績がない薬局

上記合計1,000施設

(4) 患者調査(郵送調査)

- ・病院・診療所調査の対象施設に調査期間中に受診した外来患者2名
- ・保険薬局調査の対象施設に調査期間中に来局した患者のうち、1施設につき2名

(5) 患者調査(インターネット調査)

直近3か月間で保険薬局に処方箋を持って来局した患者のうち、無作為抽出した3,000人

3 調査の方法

- 病院・診療所調査、保険薬局調査、患者調査(郵送調査)は、対象施設に対して自記式調査票を郵送配布し、回答を依頼した。医師調査は、対象施設経由で依頼状を配布し、回答を依頼した。
- 対象施設からの回答方法は、同封の返信用封筒により記入済の紙の調査票を返送してもらう方法と、調査専用のウェブサイトから電子調査票をダウンロードし、記入済のファイルをメールで調査事務局あて送付してもらう方法の2種類を用意し、対象施設に選択いただけるようにした。医師調査は、調査専用のウェブサイトまたはメールにより回答。患者調査(インターネット調査)は、インターネット上での回答・回収とした。
- 調査実施時期は、令和5年7月26日から令和5年9月15日であった。

調査の概要③

4 回収の状況

- 病院・診療所調査は発送数2,000件に対し、有効回答数が700件（有効回答率35.0%）であった。
- 医師調査の有効回答数は、528件であった。
- 保険薬局調査は発送数1,000件に対し、有効回答数が582件（有効回答率58.2%）であった。
- 患者調査の有効回答数は、郵送調査は1,119件、インターネット調査は3,000件であった。

	発送数	有効回答数	有効回答率
①病院・診療所調査	2,000件	700件	35.0%
病院:リフィル発行実績あり	500件	215件	43.0%
病院:リフィル発行実績なし	500件	147件	29.4%
診療所:リフィル発行実績あり	500件	192件	38.4%
診療所:リフィル発行実績なし	500件	146件	29.2%
②医師調査	—	528件	—
③保険薬局調査	1,000件	582件	58.2%
リフィル受付実績あり	500件	305件	61.0%
リフィル受付実績なし	500件	276件	55.2%
④患者調査(郵送調査)	—	1,119件	—
⑤患者調査(インターネット調査)	—	3,000件	—

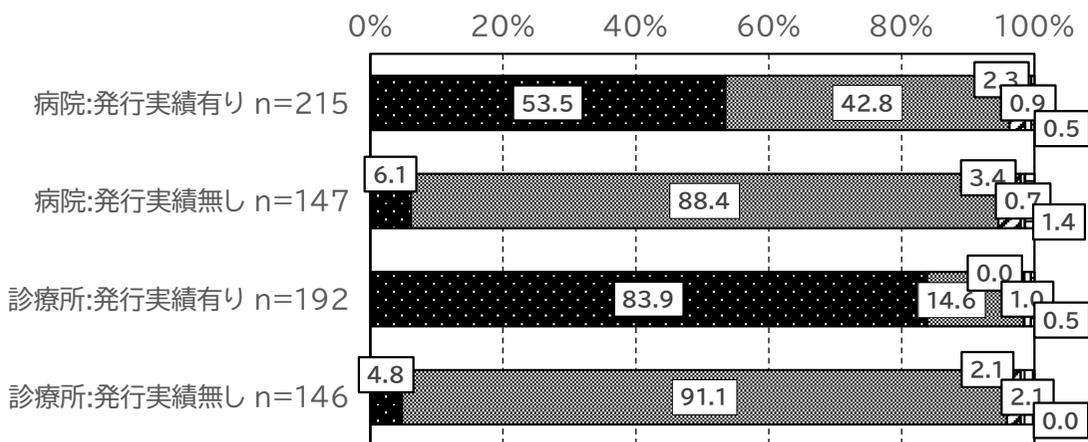
病院・診療所調査の結果①

＜リフィル処方箋の発行有無＞（報告書p10）

○「リフィル処方箋の発行実績がある群」として調査票を送付した群の有効回答のうち「リフィル処方箋を発行したことがある」と回答した割合は病院で50.7%、診療所で83.9%。「リフィル処方箋の発行実績がない群」として調査票を送付した群の有効回答のうち「リフィル処方箋を発行したことがない」と回答した割合は病院で93.9%、診療所で95.9%であった。

令和5年度調査（病院・診療所票）

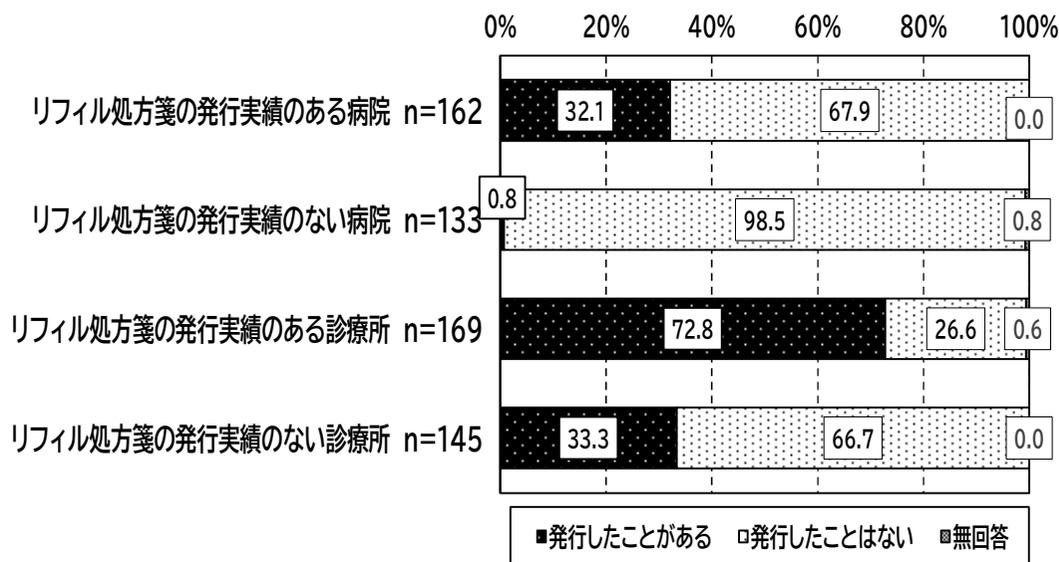
図表 2-1 院内でリフィル処方箋を発行したことがある医師を知っている、または自身で発行しているか、わからない場合はリフィル処方箋を交付したことがないか
（病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別）



■リフィル処方箋の発行医師:知っているまたは自身で発行している + リフィル処方箋の発行医師:わからない / リフィル処方箋を発行したことの有無:発行した
 ■リフィル処方箋の発行医師:わからない / リフィル処方箋を発行したことの有無:発行したことはない
 □リフィル処方箋の発行医師:わからない / リフィル処方箋を発行したことの有無:わからない
 □リフィル処方箋の発行医師:わからない / リフィル処方箋を発行したことの有無:無回答
 ■リフィル処方箋の発行医師:無回答

参考：令和4年度調査（病院・診療所票）

図表 2-1 リフィル処方箋の発行したことの有無
（病院・診療所、リフィル処方箋発行実績の有無別）



■発行したことがある □発行したことはない ■無回答

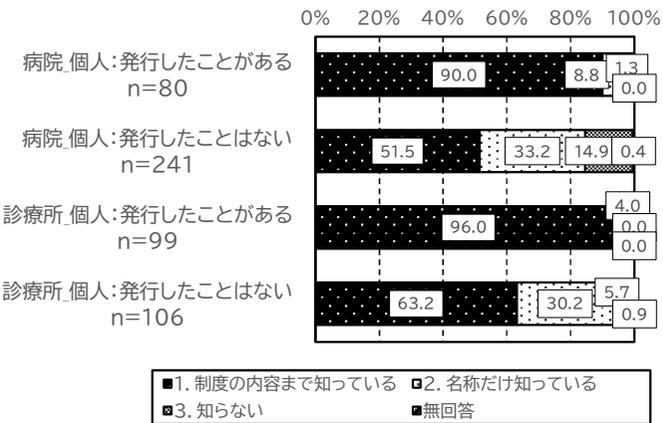
病院・診療所調査の結果②

＜リフィル処方箋の制度の認知度＞（報告書p28,66）

○リフィル処方箋の発行の回答別にみると発行実績のある病院では94.4%、発行実績のない病院では91.7%、発行実績のある診療所では81.6%、発行実績のない診療所では63.0%がリフィル処方箋について「制度の内容まで知っている」と回答した。

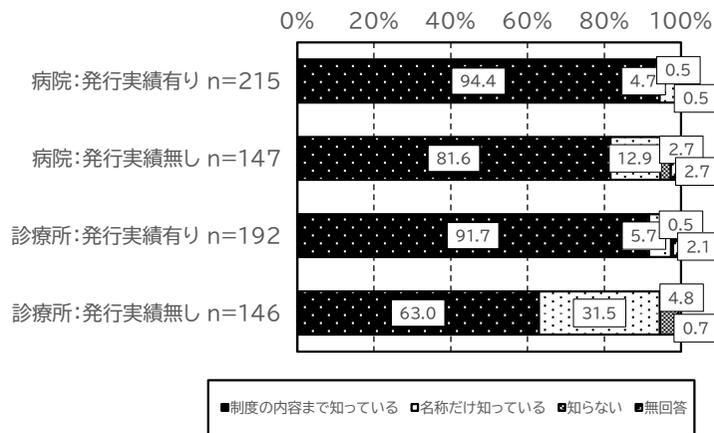
令和5年度調査(医師票)

図表 3-9改 リフィル処方箋の制度の認知
(病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別)



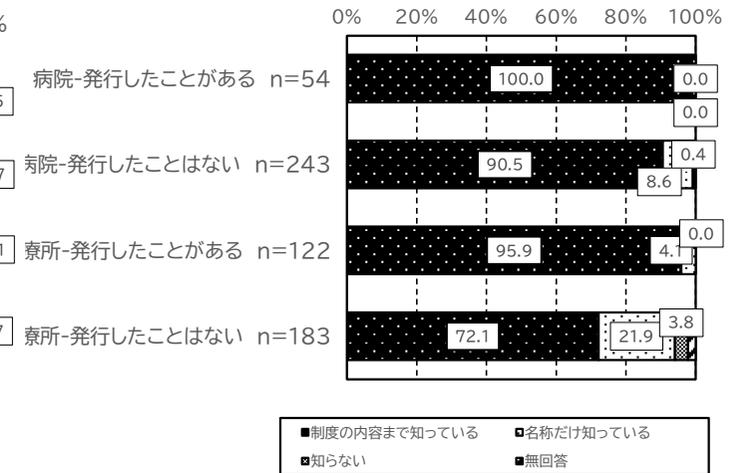
令和5年度調査(病院・診療所票)

図表 2-33改 リフィル処方箋の制度の認知
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)



参考:令和4年度調査(病院・診療所票)

図表 2-37 リフィル処方箋の制度の認知度
(病院・診療所別、調査票におけるリフィル処方箋の発行に係る回答別)



病院・診療所調査の結果③

＜リフィル処方箋処方箋の発行枚数＞（報告書p37）

		回答施設数	平均値	標準偏差	中央値
全体	1番目	154	70.2	186.9	15.5
	2番目	67	31.4	90.7	11
	3番目	53	27.4	88.2	4
	4番目	42	29.4	92.9	4.5
	5番目	36	29.3	92.3	4
病院： 発行実績有り	1番目	72	54.7	120.7	17.5
	2番目	58	33.3	96.7	11.5
	3番目	49	29.4	91.5	5
	4番目	39	31.6	96.1	6
	5番目	35	30.1	93.6	4
病院： 発行実績無し	1番目	3	1.3	0.6	1
	2番目	2	1	0	1
	3番目	1	1	—	1
	4番目	1	1	—	1
	5番目	0	—	—	—
診療所： 発行実績有り	1番目	77	89.1	236.3	16
	2番目	7	24.6	33.7	11
	3番目	3	2	1	2
	4番目	2	1.5	0.7	1.5
	5番目	1	2	—	2
診療所： 発行実績無し	1番目	2	3	2.8	3
	2番目	0	—	—	—
	3番目	0	—	—	—
	4番目	0	—	—	—
	5番目	0	—	—	—

病院・診療所調査の結果④

くどのような患者にリフィル処方箋を発行しているか(複数回答) > (報告書p39,69)

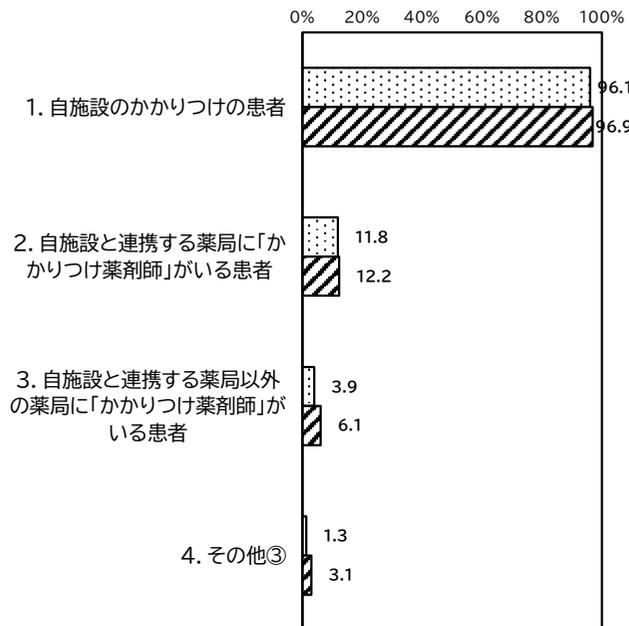
○どのような患者にリフィル処方箋を発行しているかについて、病院では「自施設にかかりつけの患者」が最も多く96.3%、次いで「自施設と連携する薬局に「かかりつけ薬剤師」がいる患者」が11.3%であった。診療所では「自施設にかかりつけの患者」が最も多く97.0%、次いで「自施設と連携する薬局に「かかりつけ薬剤師」がいる患者」が12.1%であった。

令和5年度調査(医師票)

令和5年度調査(病院・診療所票)

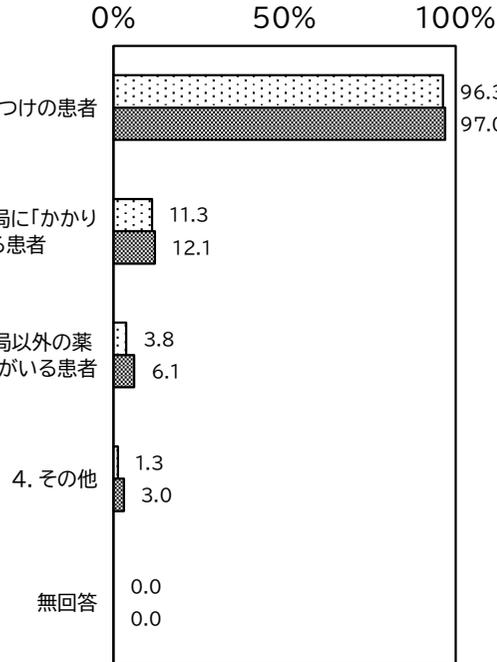
参考: 令和4年度調査(病院・診療所票)

図表 3-12改 どのような患者にリフィル処方箋を発行しているか(複数回答)
(リフィル処方箋を発行したことがある医師)
(病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別)



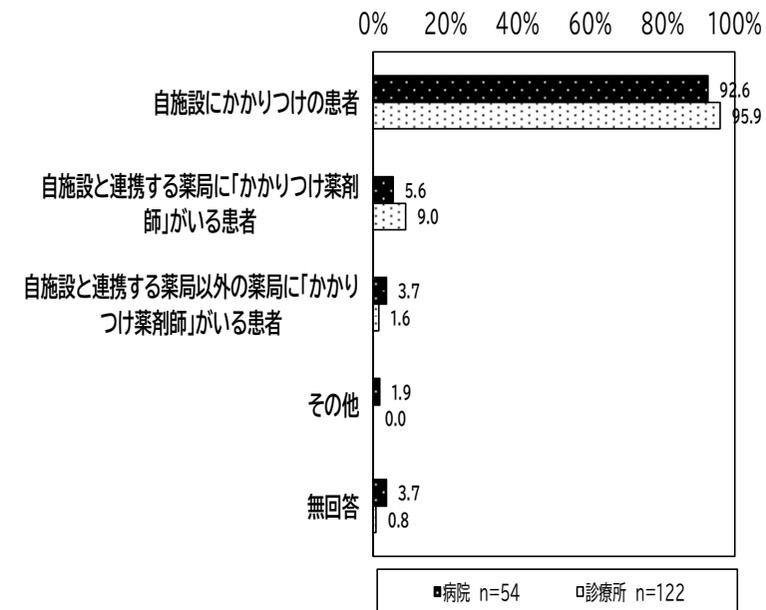
□病院_リフィル処方あり n=76 □診療所_リフィル処方あり n=98

図表 2-49改 どのような患者にリフィル処方箋を発行しているか(複数回答)
(病院・診療所別)



□病院 n=80 □診療所 n=99

図表 2-45 どのような患者にリフィル処方箋を発行しているか(複数回答)
(病院・診療所別)



■病院 n=54 □診療所 n=122

病院・診療所調査の結果⑤

＜リフィル処方箋を発行した理由＞（報告書p47,70）

○リフィル処方箋を発行した理由についてみると、「症状が安定していたから」が最も多く、次いで「患者からの希望があったから」であった。

令和5年度調査(医師票)

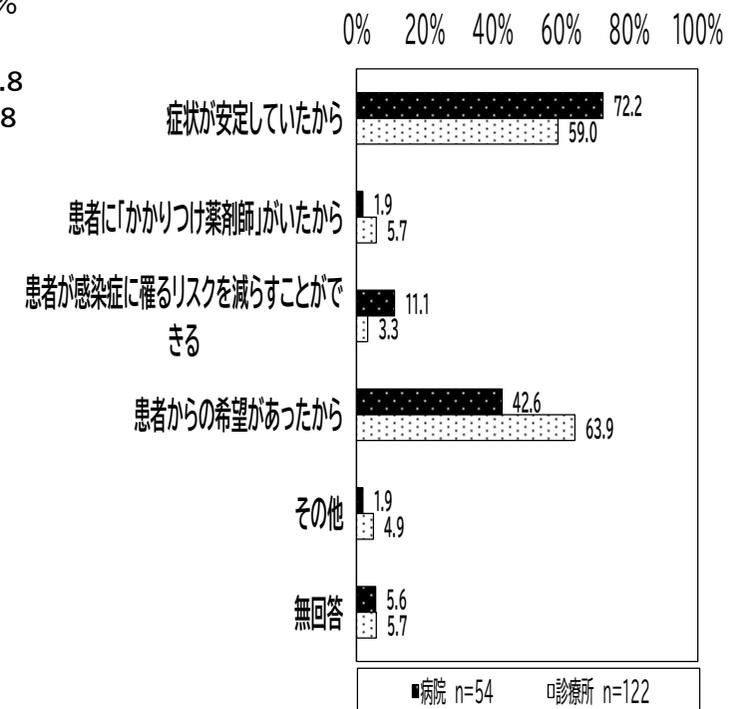
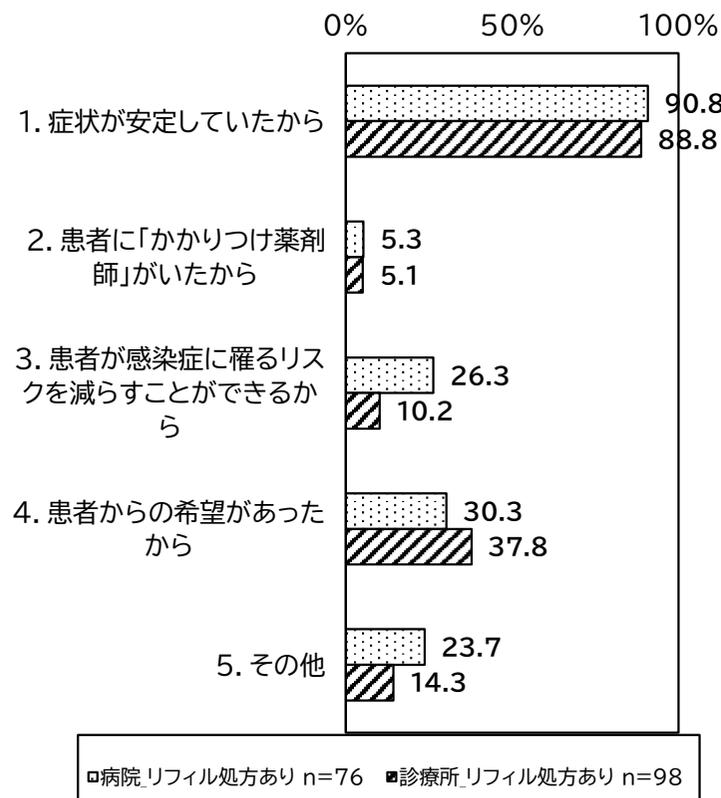
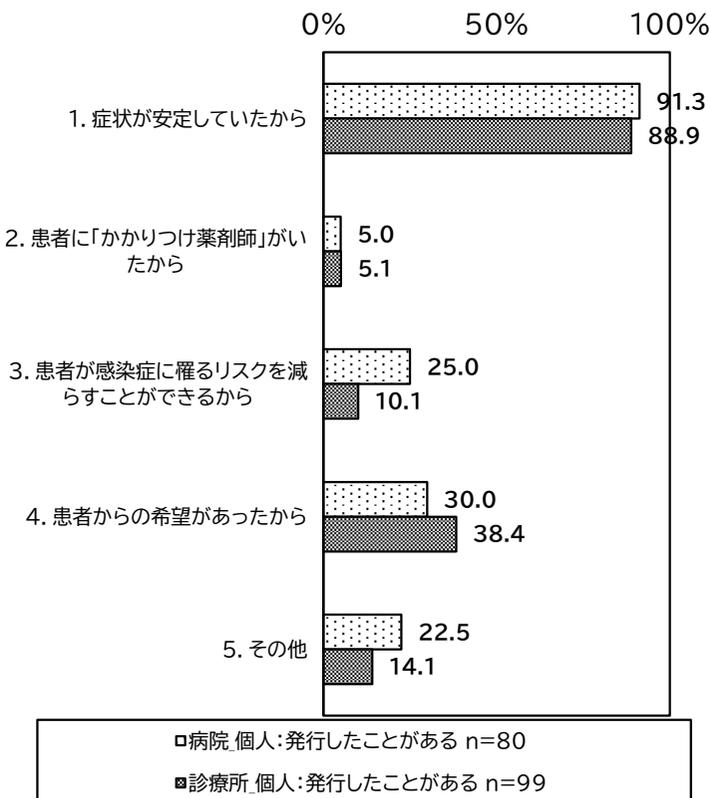
令和5年度調査(病院・診療所票)

参考: 令和4年度調査(病院・診療所票)

図表 3-13改 あなたがリフィル処方箋を発行した理由
(複数回答) (リフィル処方箋を発行したことがある医師)
(病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別)

図表 2-57改 リフィル処方箋を発行した理由
(複数回答) (病院・診療所別)

図表 2-54 リフィル処方箋を発行した理由(複数回答)
(病院・診療所別)



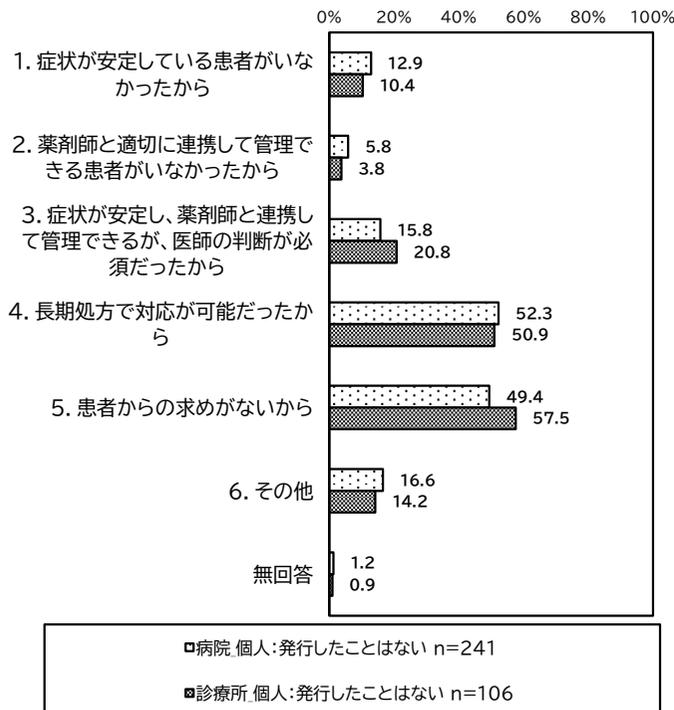
病院・診療所調査の結果⑥

＜リフィル処方箋を発行しなかった理由(複数回答)＞(報告書p49,71)

○リフィル処方箋を発行しなかった理由について、病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別でみると、以下のとおりであった。

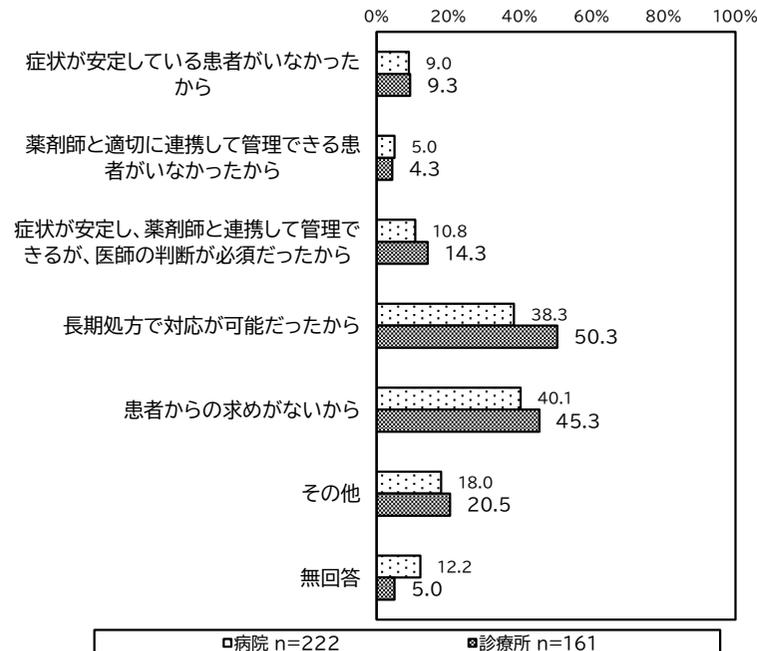
令和5年度調査(医師票)

図表 3-14改 あなたがリフィル処方箋を発行しなかった理由(複数回答)
(病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別)



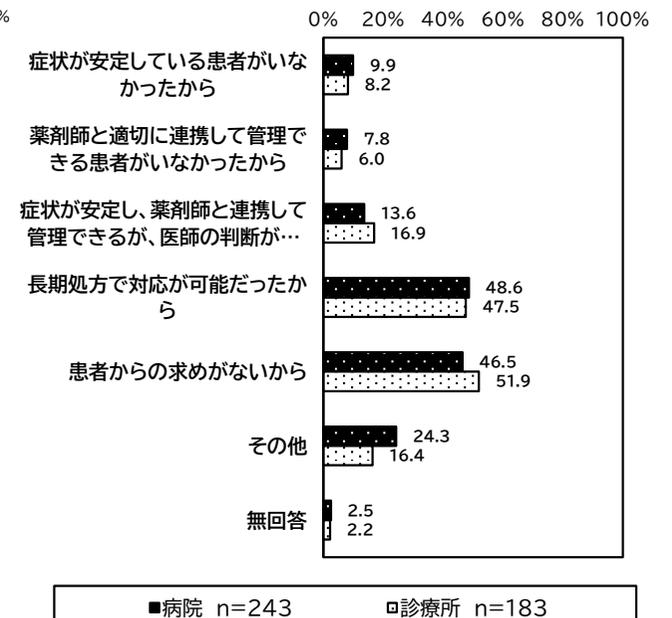
令和5年度調査(病院・診療所票)

図表 2-59改 リフィル処方箋を発行したことが無い理由(複数回答)
(院内でリフィル処方箋の発行したことがある医師を知らない、かつ発行したことが無いとか回答した施設のみ対象)
(病院・診療所別)



参考:令和4年度調査(病院・診療所票)

図表 2-56 リフィル処方箋を発行しなかった理由(複数回答)
(病院・診療所別)



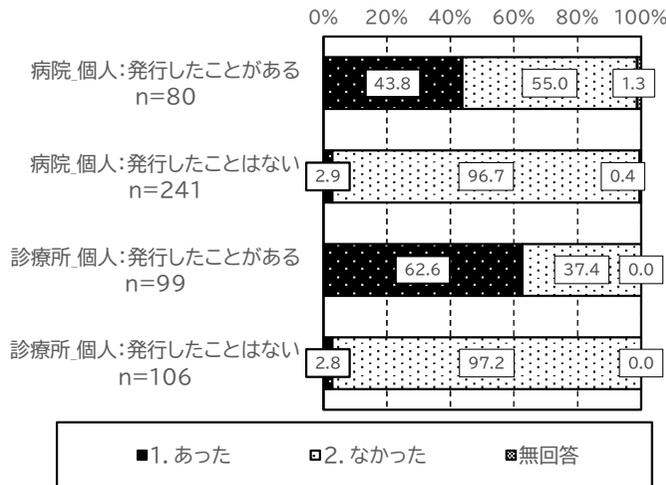
病院・診療所調査の結果⑦

＜リフィル処方箋の発行について患者からの希望の有無＞（報告書p51,72）

○リフィル処方箋の発行についての患者からの希望の有無について、病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別でみると、以下のとおりであった。

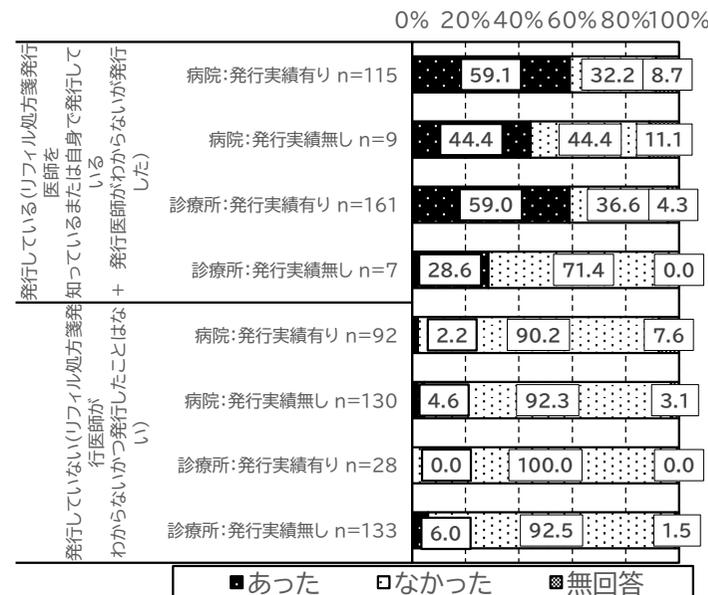
令和5年度調査(医師票)

図表 3-15 リフィル処方箋の発行について患者からの希望の有無
(病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別)



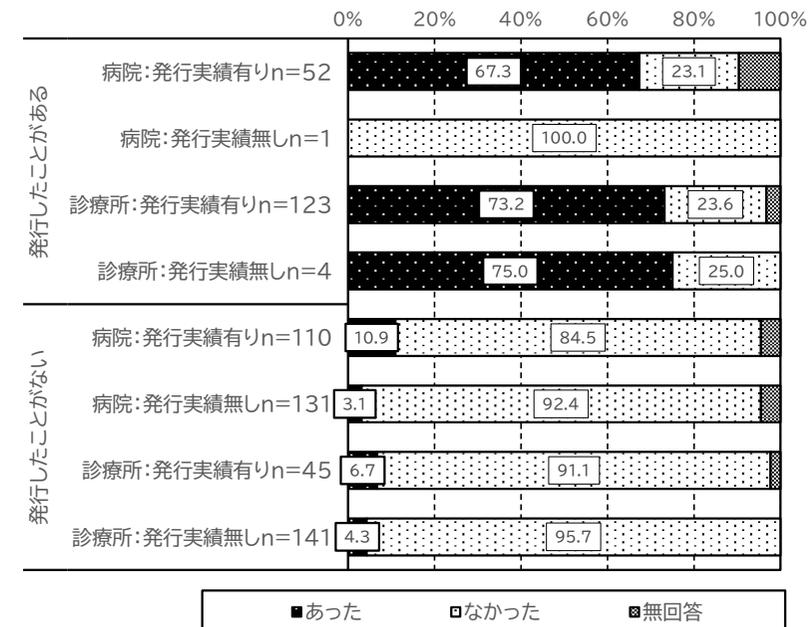
令和5年度調査(病院・診療所票)

図表 2-61 リフィル処方箋の発行について患者からの希望の有無
(調査票上の「リフィル処方箋を発行したことがあるか」の回答別・病院診療所別)



参考: 令和4年度調査(病院・診療所票)

図表 2-59 リフィル処方箋の発行について患者からの希望の有無
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別、調査票における発行の回答別)



病院・診療所調査の結果⑧

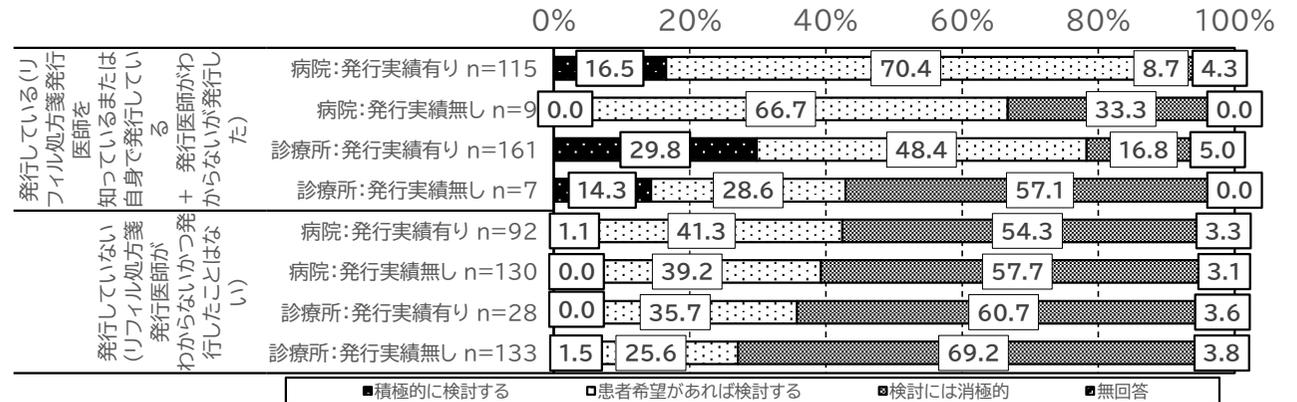
＜リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通し＞（報告書p53,74）

○リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通しに関して、リフィル処方箋を発行したことのある医師を知っているか別、病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別でみると、以下のとおりであった。

令和5年度調査（病院・診療所票）

図表 2-63 リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通し

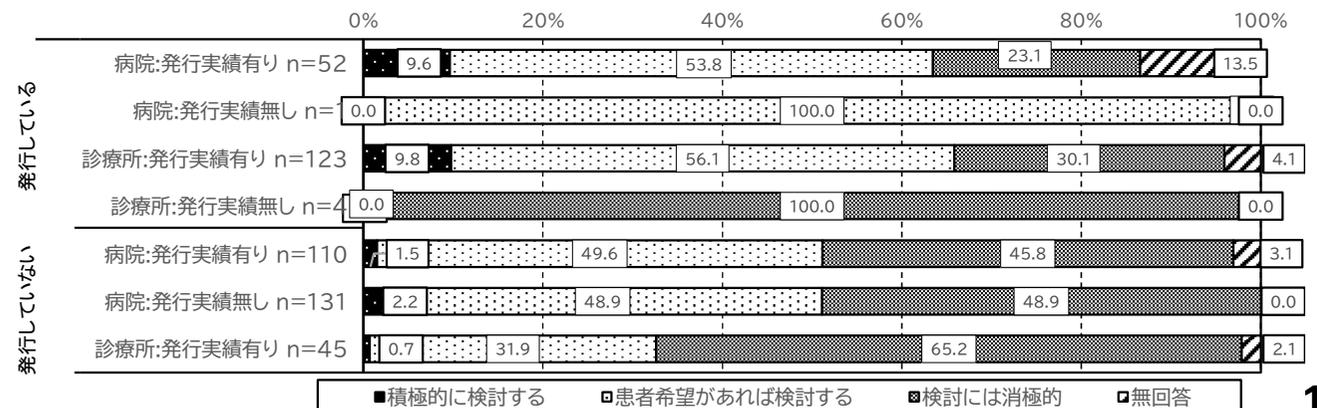
（調査票上の「リフィル処方箋を発行したことがあるか」の回答別・病院診療所別・リフィル処方箋の発行実績の有無別）



参考：令和4年度調査（病院・診療所票）

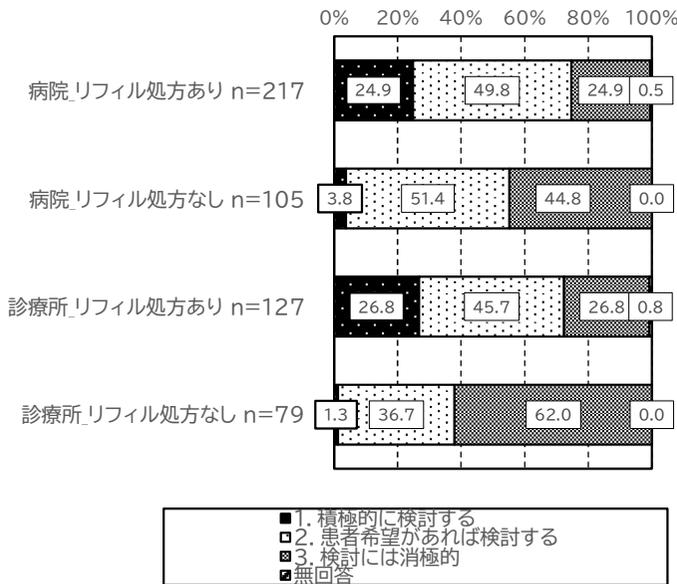
図表 2-62 リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通し

（病院・診療所別リフィル処方箋の発行実績の有無別、調査票における発行の回答別）



令和5年度調査（医師票）

図表 3-17改 リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通し（病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別）



病院・診療所調査の結果⑨

＜積極的に検討すると回答した理由＞（報告書p54,75）

○積極的に検討すると回答した理由についてみると、「患者の待ち時間が減るから」が最も多く、次いで「医師の負担軽減につながるから」であった。

令和5年度調査(医師票)

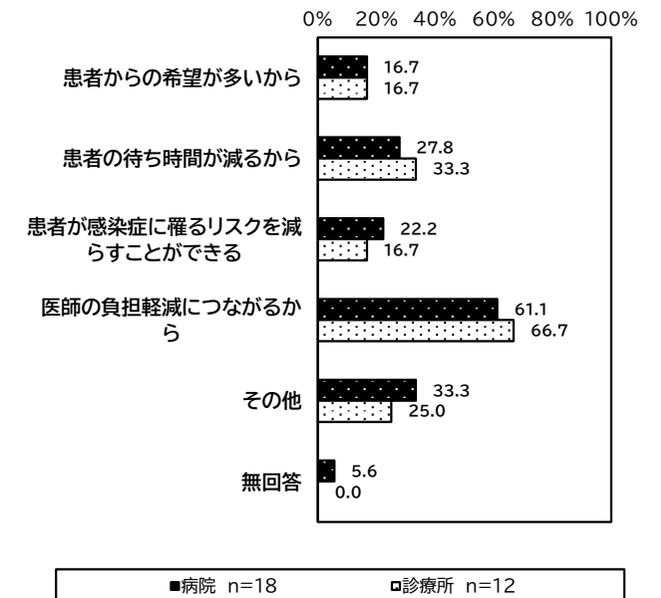
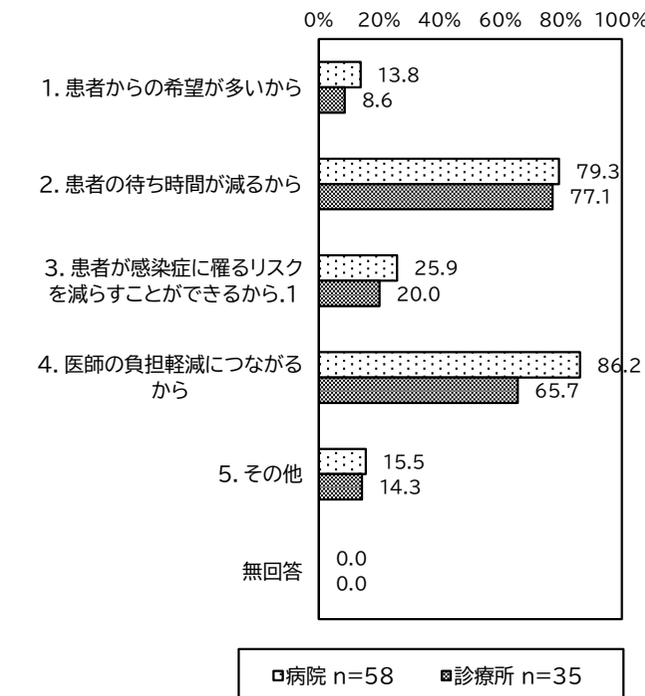
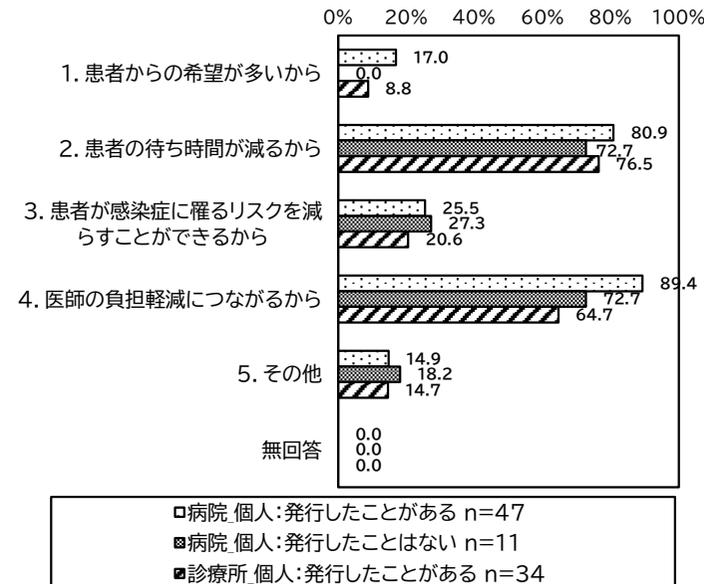
令和5年度調査(病院・診療所票)

参考: 令和4年度調査(病院・診療所票)

図表 3-18改 (7)で「1. 積極的に検討する」と回答した理由
(病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別)

図表 2-64改「1. 積極的に検討する」と回答した理由
(複数回答)
(リフィル処方箋の発行について積極的に検討する施設)
(病院・診療所別)

図表 2-63 積極的に検討すると回答した理由
(病院・診療所別)



N=2以下は省略

病院・診療所調査の結果⑩

＜検討には消極的と回答した理由＞（報告書p56,76）

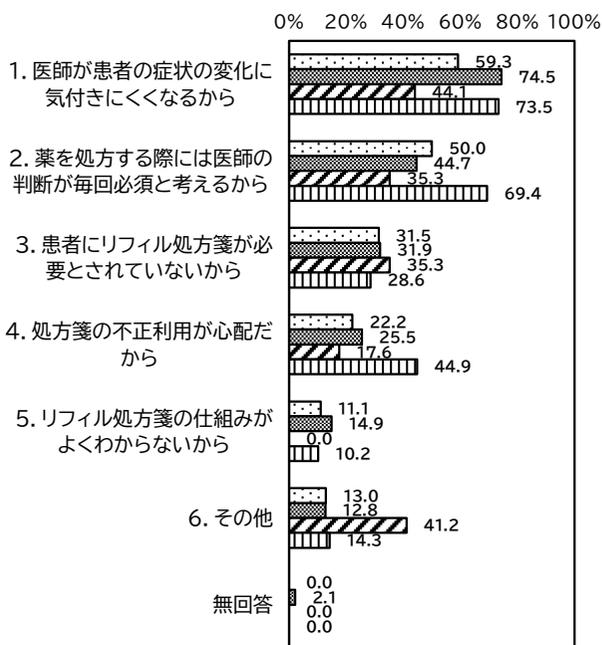
○検討には消極的と回答した理由について、病院・診療所別に見ると、以下のとおりであった。

令和5年度調査(医師票)

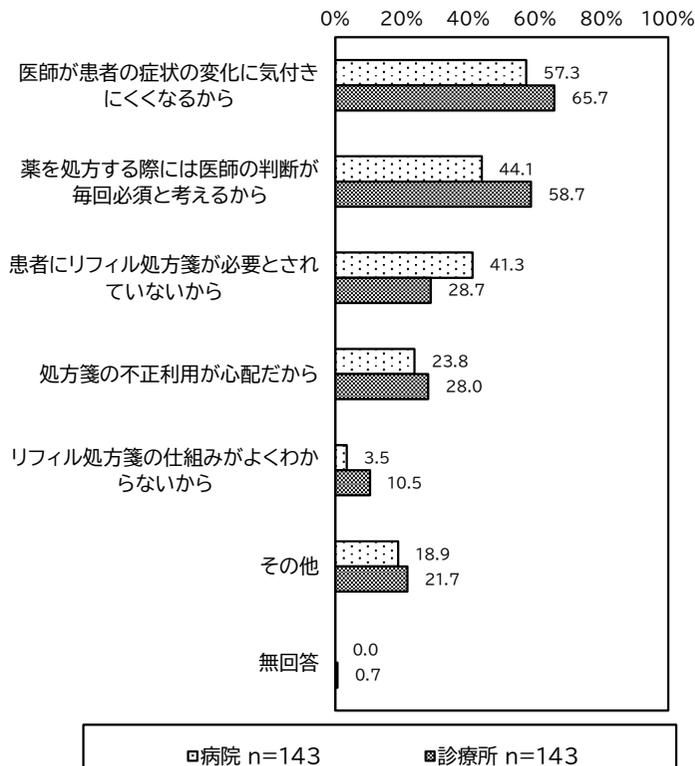
令和5年度調査(病院・診療所票)

参考:令和4年度調査(病院・診療所票)

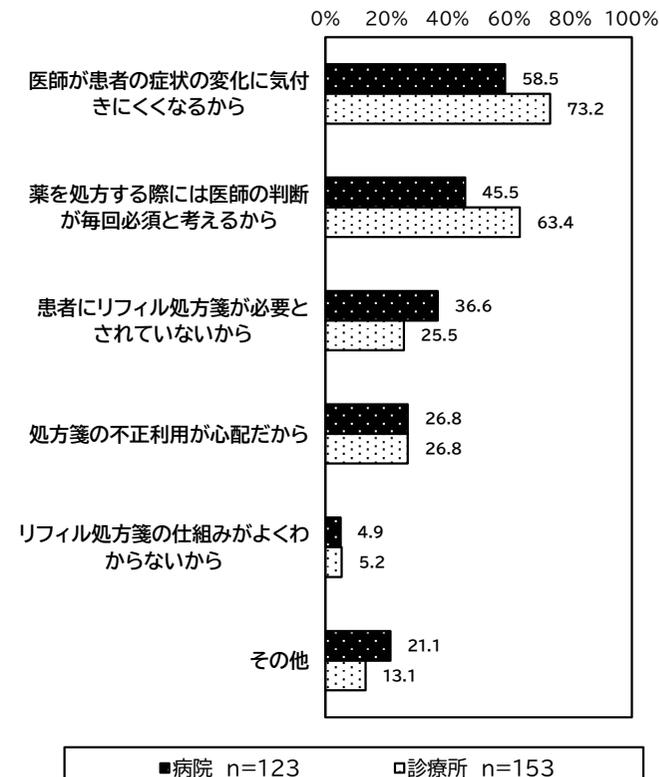
図表 3-19改(7)で「3. 検討には消極的」と回答した理由
(病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別)



図表 2-66改「3. 検討には消極的」と回答した理由(複数回答)
(病院・診療所別)



図表 2-68 検討には消極的と回答した理由
(病院・診療所別)



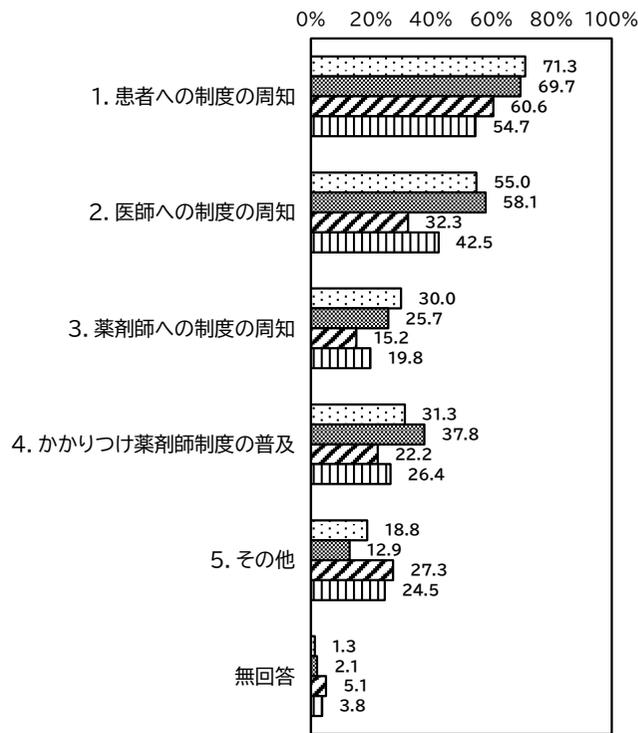
病院・診療所調査の結果⑪

＜リフィル処方箋の課題と考えられること＞(報告書p59,77)

○リフィル処方箋の課題と考えられることについて、リフィル処方箋を発行したことがある医師を知っているか別、病院・診療所別で見ると、以下のとおりであった。

令和5年度調査(医師票)

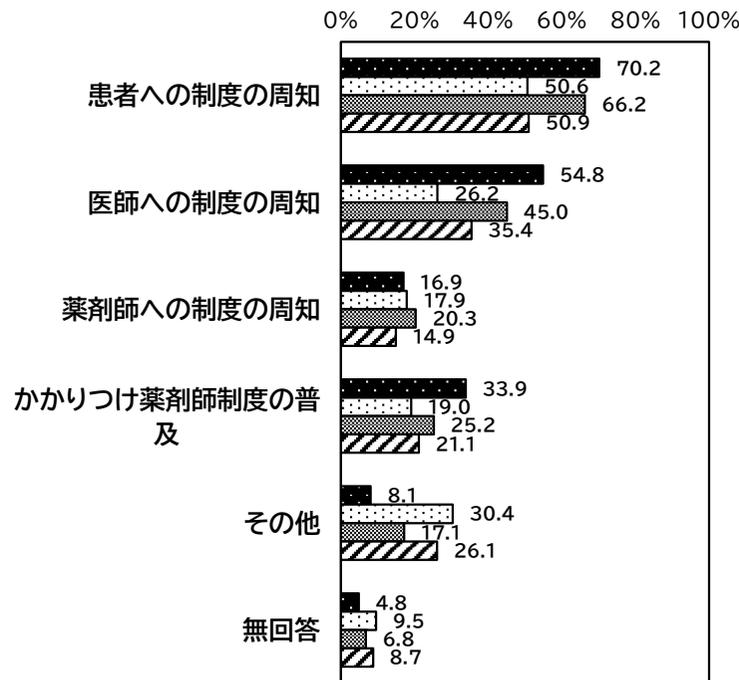
図表 3-20改 このほか、リフィル処方箋の課題と考えられること
(病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別)



□病院_個人:発行したことがある n=80
 □病院_個人:発行したことはない n=241
 ■診療所_個人:発行したことがある n=99
 ■診療所_個人:発行したことはない n=106

令和5年度調査(病院・診療所票)

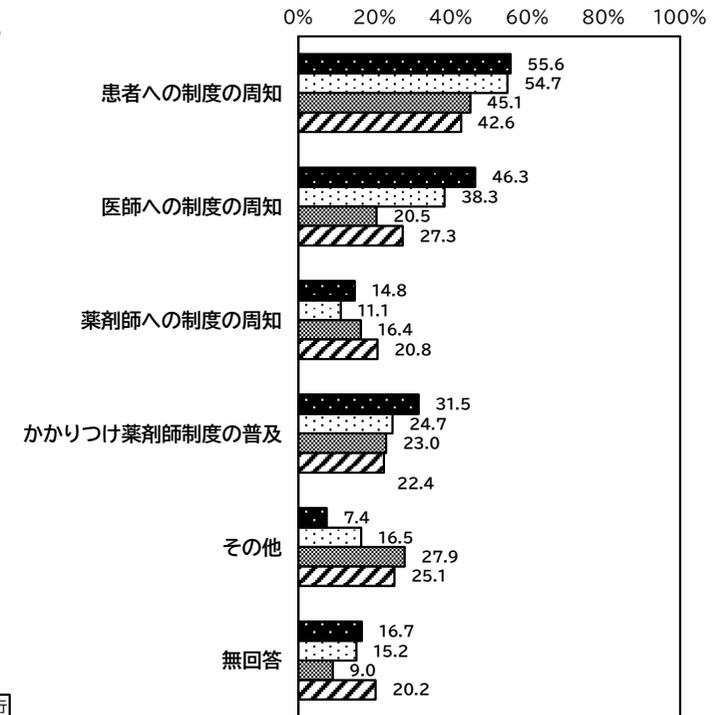
図表 2-69 リフィル処方箋の課題と考えられること
(複数回答)
(リフィル処方箋を発行したことがある医師を知っているか別、病院・診療所別)



■発行している(リフィル処方箋発行医師を知っているまたは自身で発行している) + 発行医師がわからないが発行した)
 病院 n=124
 □発行していない(リフィル処方箋発行医師を知っているまたは自身で発行している) + 発行医師がわからないが発行した)
 診療所 n=168
 ■発行していない(リフィル処方箋発行医師がわからないかつ発行したことはない)
 病院 n=222
 □発行していない(リフィル処方箋発行医師がわからないかつ発行したことはない)
 診療所 n=161

参考:令和4年度調査(病院・診療所票)

図表 2-71 リフィル処方箋の課題と考えられること
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別、調査票における発行の回答別)



■病院-発行したことがあるn=54
 □病院-発行したことはないn=243
 ■診療所-発行したことがあるn=122
 □診療所-発行したことはないn=183

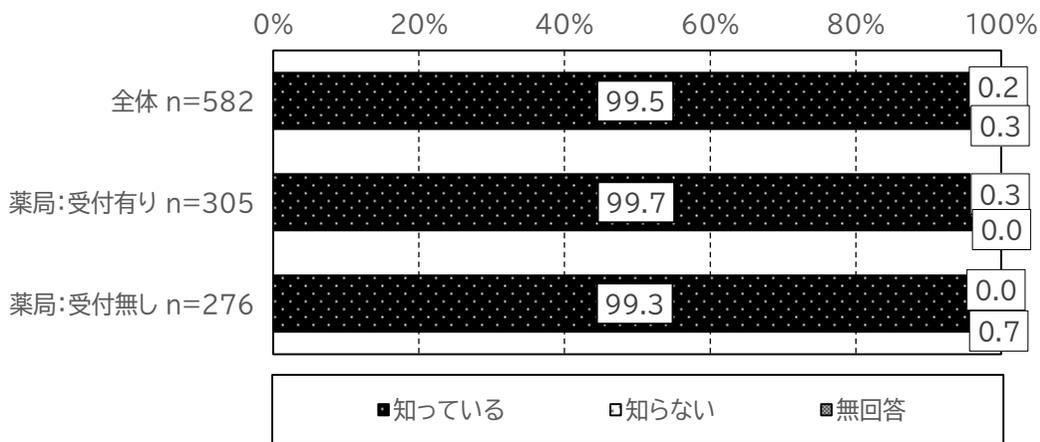
保険薬局調査の結果①

＜リフィル処方箋の仕組みについての認知状況＞（報告書p93）

○ リフィル処方箋の仕組みについての認知状況は、「知っている」がリフィル処方箋の受付実績が有る薬局では99.7%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では99.3%であった。

令和5年度調査（薬局票）

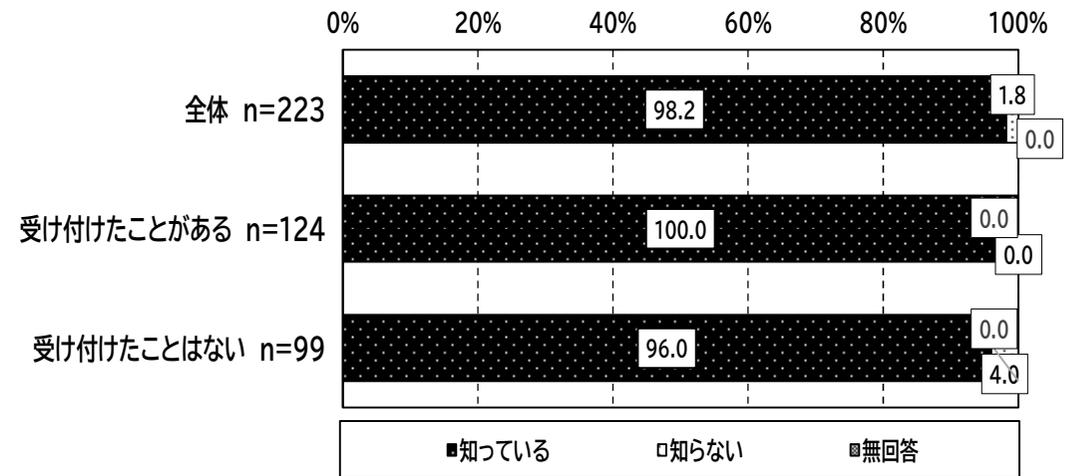
図表 4-21 リフィル処方箋の仕組みについての認知状況
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



令和4年度調査（薬局票）

（参考）令和4年度調査

図表 3-38 リフィル処方箋の仕組みについての認知状況
（調査票におけるリフィル処方箋の受付に係る回答実績有無別）



保険薬局調査の結果②

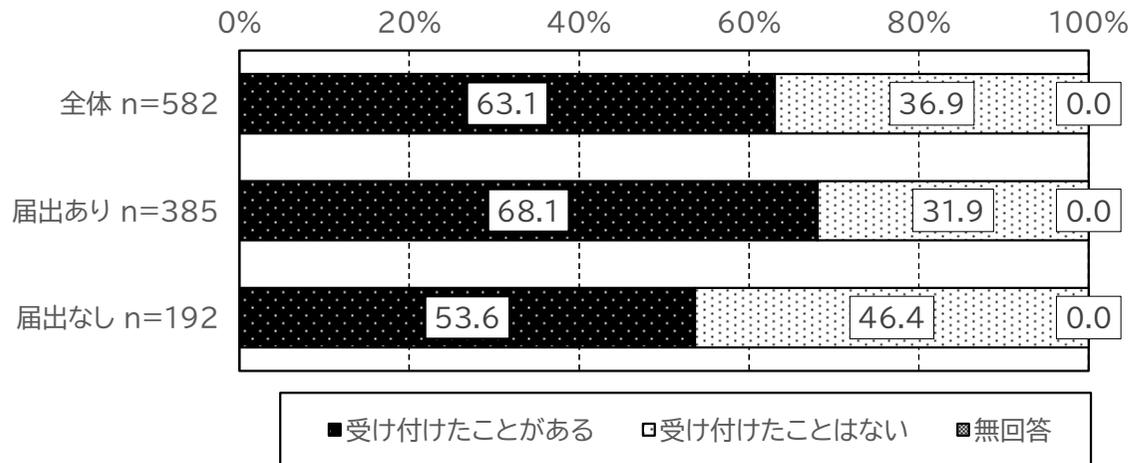
＜リフィル処方箋の受付経験＞（報告書p94）

○ リフィル処方箋の受付経験は、かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料の施設基準の届出がある薬局では「受け付けたことがある」が68.1%、届出がない薬局では「受け付けたことがある」が53.6%、であった。

令和5年度調査（薬局票）

図表 4-22 リフィル処方箋の受付経験
リフィル処方箋の受付経験

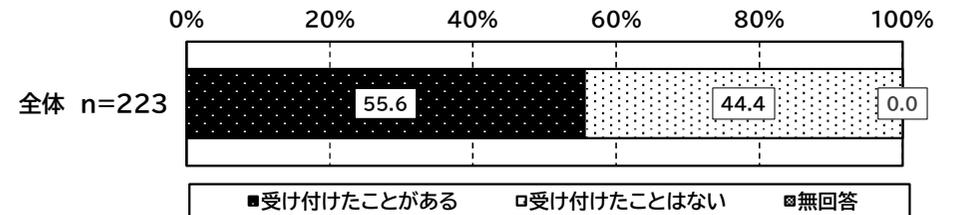
（かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料の施設基準の届出有無別）



令和4年度調査（薬局票）

（参考）令和4年度調査

図表 3-39 リフィル処方箋の受付経験



保険薬局調査の結果③

＜リフィル処方箋の受付経験＞（報告書p95）

○ 受け付けたリフィル処方箋を発行した医療機関数について、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では平均で2.1箇所、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では1.1箇所であった。

令和5年度調査（薬局票）

図表 4-24 受け付けたリフィル処方箋を発行した医療機関数
（リフィル処方箋を受け付けたことがあると回答した施設のみ）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）

（単位：箇所）

	回答 施設数	平均値	標準偏差	中央値
全体	357	2.0	2.0	1.0
受付実績有り	295	2.1	2.2	2.0
受付実績無し	62	1.1	0.5	1.0

令和4年度調査（薬局票）

（参考）令和4年度調査

図表 3-41 受け付けたリフィル処方箋を発行した医療機関数

（単位：箇所）

	回答 施設数	平均値	標準偏差	中央値
受け付けたリフィル処方箋を発行した医療機関数	123	1.5	0.7	1.0

（※「リフィル処方箋の受付実績が有る」とは、令和4年10月～12月の期間に5件以上、NDB上でのリフィル処方箋の受付実績が有ることを指します。）

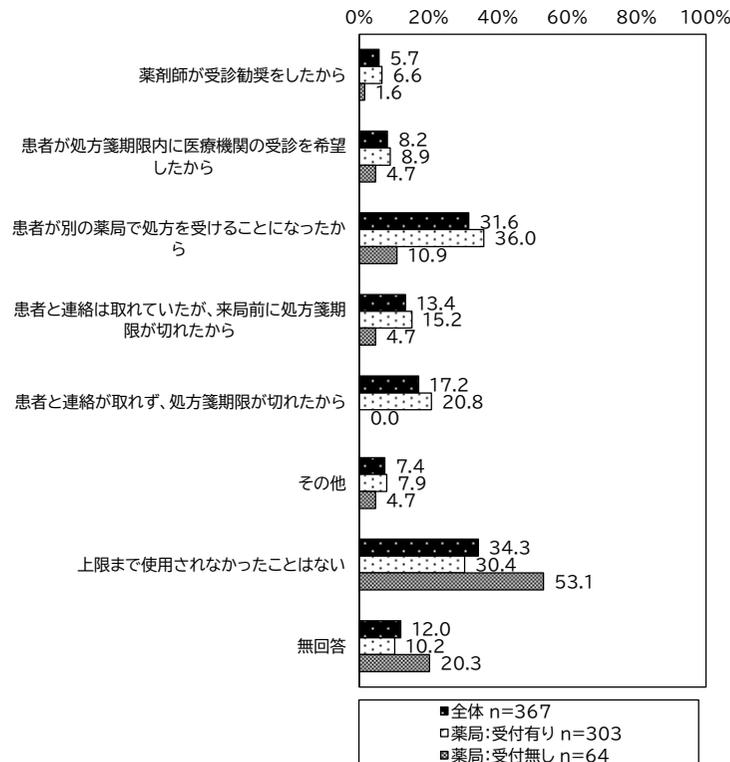
保険薬局調査の結果④

＜リフィルの上限まで使用されなかった理由、薬剤師が受診勧奨した理由＞（報告書p100,103）

○ リフィル処方箋がリフィルの上限まで使用されなかった理由は、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では「患者が別の薬局で処方を受けることになったから」が最も多く36.0%であった。リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では上限まで使用されなかったことはない」が最も多く53.1%であった。

令和5年度調査(薬局票)

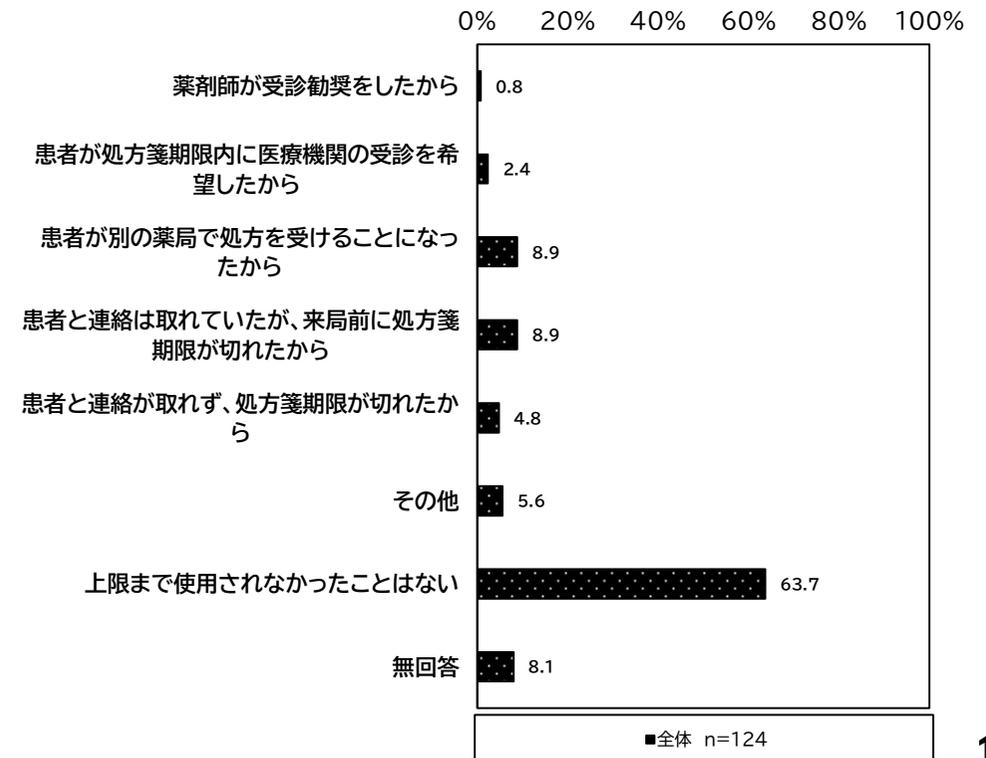
図表 4-30 リフィルの上限まで使用されなかった理由
(リフィル処方箋を受け付けたことがあると回答した施設のみ)
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



令和4年度調査(薬局票)

(参考) 令和4年度調査

図表 3-51 リフィルの上限まで使用されなかった理由



保険薬局調査の結果⑤

＜リフィルの上限まで使用されなかった理由、薬剤師が受診勧奨した理由＞（報告書p100,103）

○ 薬剤師が受診勧奨をした理由は「患者の症状の変化に気付いたから」が最も多く、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局で60.0%であった。

令和5年度調査(薬局票)

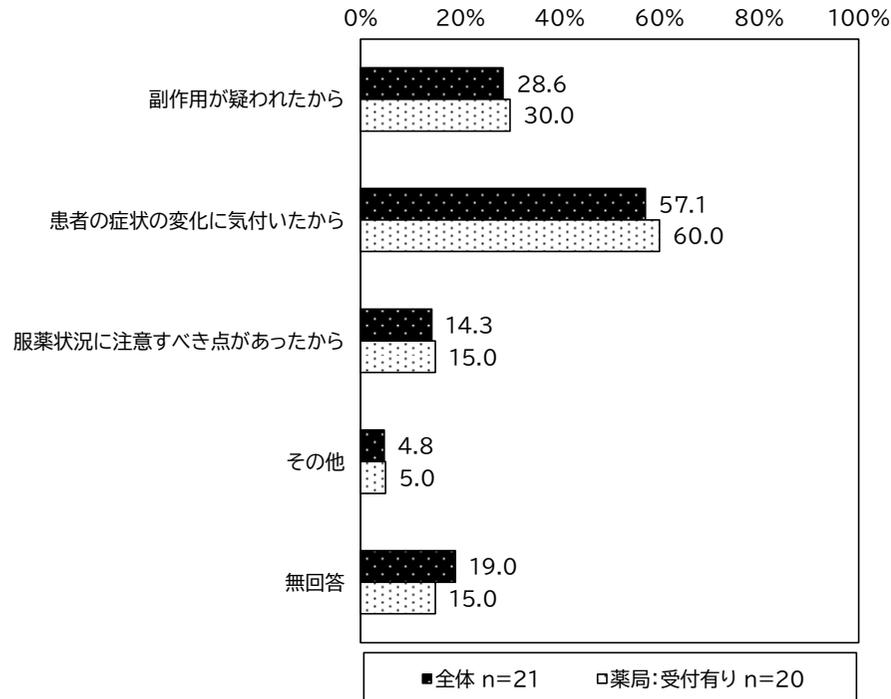
令和4年度調査(薬局票)

(参考)令和4年度調査

図表 4-35 薬剤師が受診勧奨をした理由

(リフィル上限まで使われなかった理由として、受診勧奨をしたと回答した施設)
(リフィル処方箋の受付実績有無別)

実績無し薬局のサンプルがn=1であったためグラフは割愛



図表 3-53 薬剤師が受診勧奨をした理由 (複数回答)

カテゴリー名	回答施設数	%
副作用が疑われたから	0	0.0
患者の症状の変化に気付いたから	1	100.0
服薬状況に注意すべき点があったから	0	0.0
その他	0	0.0
無回答	0	0.0
全体	1	100.0

保険薬局調査の結果⑥

＜1枚のリフィル処方箋の処方の途中で薬局が変わった経験、他の薬局へ情報提供を行った方法＞
 (報告書p107,110)

○ 1枚のリフィル処方箋の処方の途中で薬局が変わった経験は、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では「ある」が47.5%、「ない」が38.0%、「不明」が12.5%であった。リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では「ある」が25.0%、「ない」が67.2%、「不明」が4.7%であった。

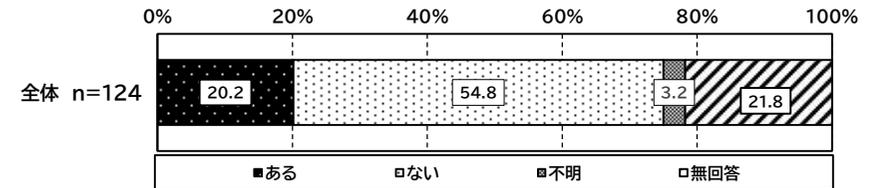
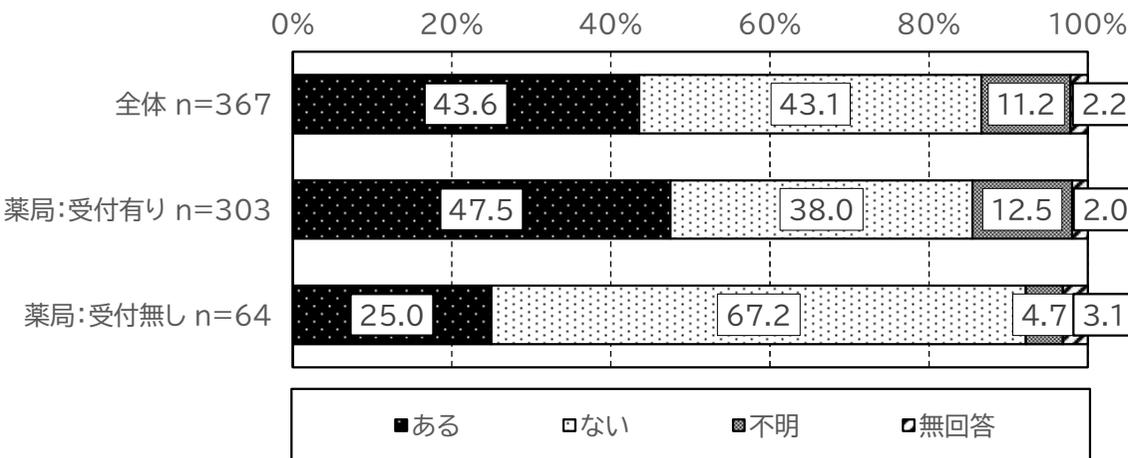
令和5年度調査(薬局票)

令和4年度調査(薬局票)

(参考)令和4年度調査

図表 4-39 1枚のリフィル処方箋の処方の途中で薬局が変わった経験
 (リフィル処方箋を受け付けたことがあると回答した施設のみ)
 (リフィル処方箋の受付実績有無別)

図表 3-59 1枚のリフィル処方箋の処方の途中で薬局が変わった経験



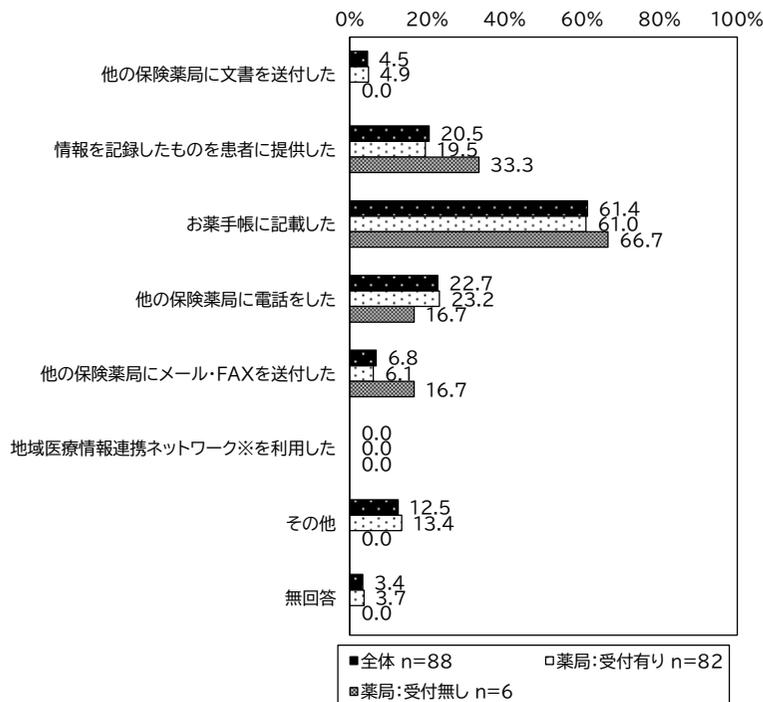
保険薬局調査の結果⑦

＜1枚のリフィル処方箋の処方の途中で薬局が変わった経験、他の薬局へ情報提供を行った方法＞
(報告書p107,110)

○ 他薬局へ情報提供を行った方法は「お薬手帳に記載した」が最も多く、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では61.0%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では66.7%であった。次いで多いのはリフィル処方箋の受付実績が有る薬局では「ほかの保険薬局に電話をした」で23.2%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では「情報を記録したものを患者に提供した」で33.3%であった。

令和5年度調査(薬局票)

図表 4-42 他薬局へ情報提供を行った方法(複数回答)
(「自薬局から他薬局へ」が1枚以上と回答した施設のみ)
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



令和4年度調査(薬局票)

(参考)令和4年度調査

図表 3-62 他薬局へ情報提供を行った方法(複数回答)

カテゴリー名	回答施設数	%
他の保険薬局に文書を送付した	1	11.1
情報を記録したものを患者に提供した	1	11.1
お薬手帳に記載した	1	11.1
他の保険薬局に電話をした	0	0.0
他の保険薬局にメール・FAXを送付した	0	0.0
地域医療情報連携ネットワーク※を利用した	0	0.0
その他	2	22.2
無回答	5	55.6
全体	9	100.0

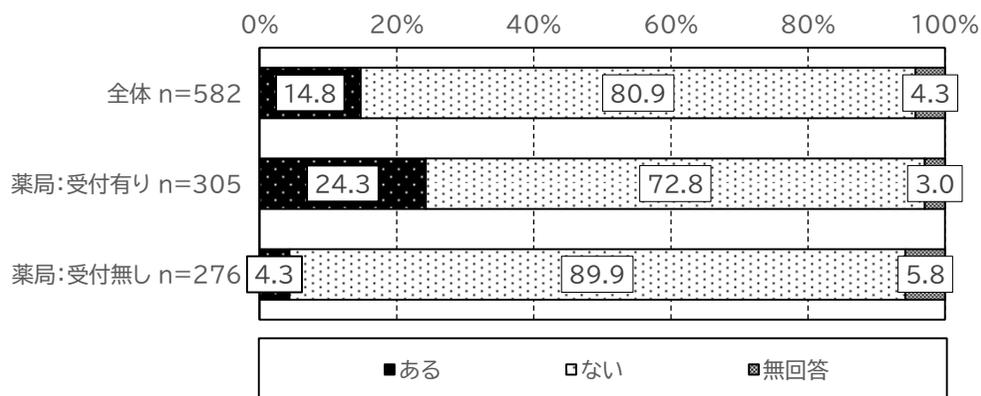
保険薬局調査の結果⑧

＜リフィル処方箋の患者に関して医師に服薬指導提供書(トレーシングレポート)を提供した経験・その内容＞(報告書p121,122)

○リフィル処方箋の患者に関して医療機関に服薬指導提供書(トレーシングレポート)を提供した経験については、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では「ある」が24.3%、「ない」が72.8%であった。リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では「ある」が4.3%、「ない」が89.9%であった。

令和5年度調査(薬局票)

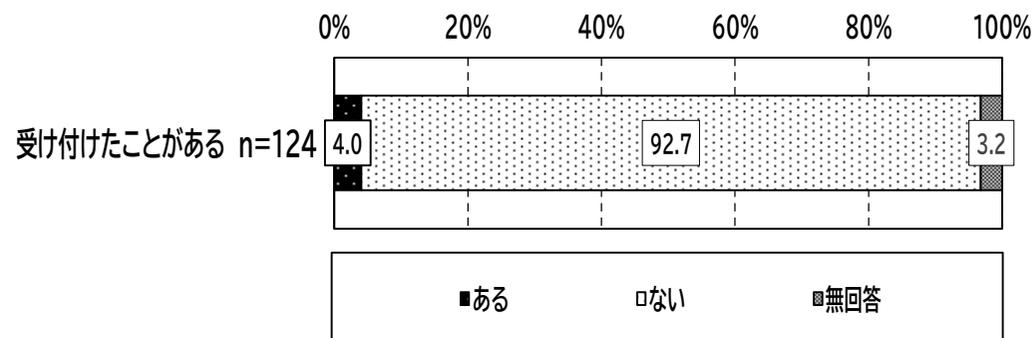
図表 4-57 リフィル処方箋の患者に関して医療機関に服薬指導提供書(トレーシングレポート)を提供した経験(リフィル処方箋の受付実績有無別)



令和4年度調査(薬局票)

(参考) 令和4年度調査

図表 3-77 リフィル処方箋の患者に関して医師に服薬指導提供書(トレーシングレポート)を提供した経験(調査票におけるリフィル処方箋の受付に係る回答実績有無別)



保険薬局調査の結果⑨

＜リフィル処方箋の患者に関して医師に服薬指導提供書(トレーシングレポート)を提供した経験・その内容＞(報告書p121,122)

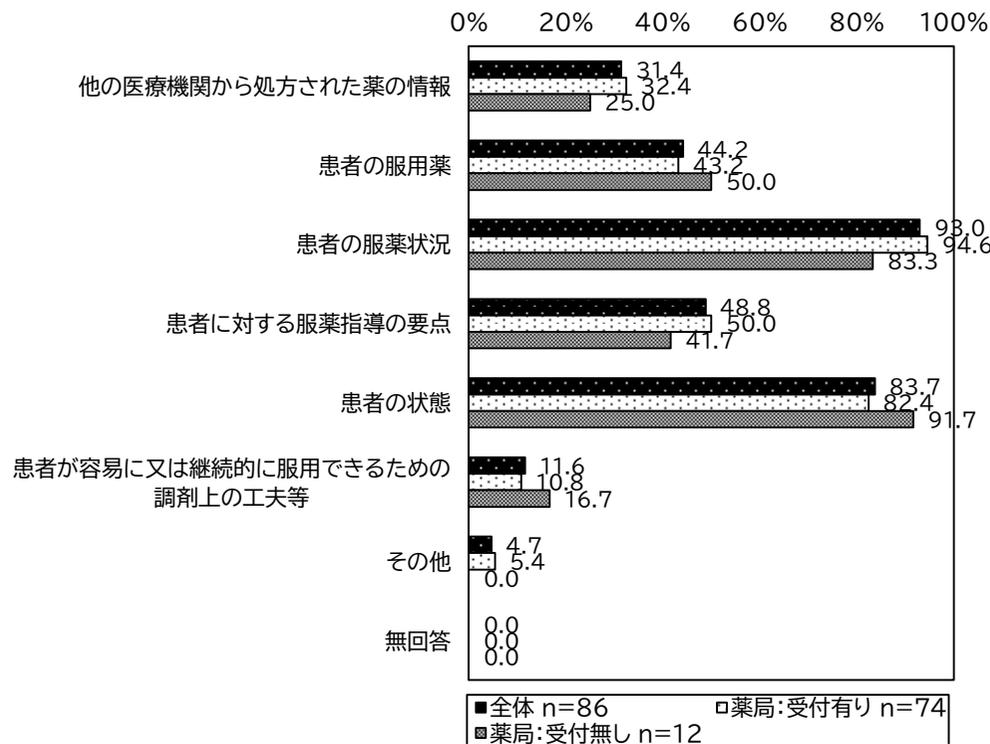
○リフィル処方箋の患者に関して医師に服薬指導提供書(トレーシングレポート)で提供した情報の内容については、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では「患者の服薬状況」が最も多く94.6%であった。リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では「患者の状態」が最も多く91.7%であった。

提供した情報として最も多いものについては、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では「患者の服薬状況」が最も多く67.6%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では「患者の状態」が最も多く41.7%であった。

令和5年度調査(薬局票)

令和4年度調査(薬局票)

図表 4-58 リフィル処方箋の患者に関して医師に服薬指導提供書(トレーシングレポート)で提供した情報の内容(複数回答)(トレーシングレポートを提供した経験のある施設のみ対象)(リフィル処方箋の受付実績有無別)



(参考)令和4年度調査

図表 3-78 リフィル処方箋の患者に関して医師に服薬指導提供書(トレーシングレポート)で提供した情報の内容(複数回答)

カテゴリー名	回答施設数	%
他の医療機関から処方された薬の情報	5	100.0
患者の服用薬	5	100.0
患者の服薬状況	5	100.0
患者に対する服薬指導の要点	2	40.0
患者の状態	4	80.0
患者が容易に又は継続的に服用できるための調剤上の工夫等	0	0.0
その他	1	20.0
無回答	0	0.0
全体	5	100.0

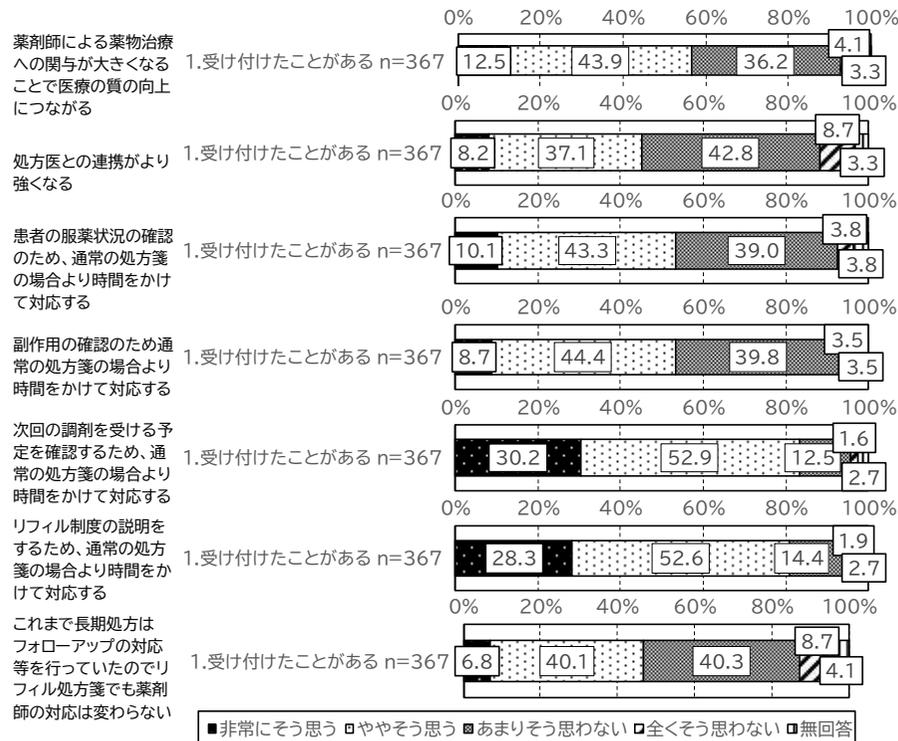
保険薬局調査の結果⑩

＜リフィル処方箋導入による薬局・薬剤師業務等への影響＞（報告書p127,128）

○ リフィル処方箋導入による薬局・薬剤師業務等への影響について、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では「非常にそう思う」が最も多かったのは「次回の調剤を受ける予定を確認するため、通常の処方箋の場合より時間をかけて対応する」で30.2%であった。

令和5年度調査（薬局票）

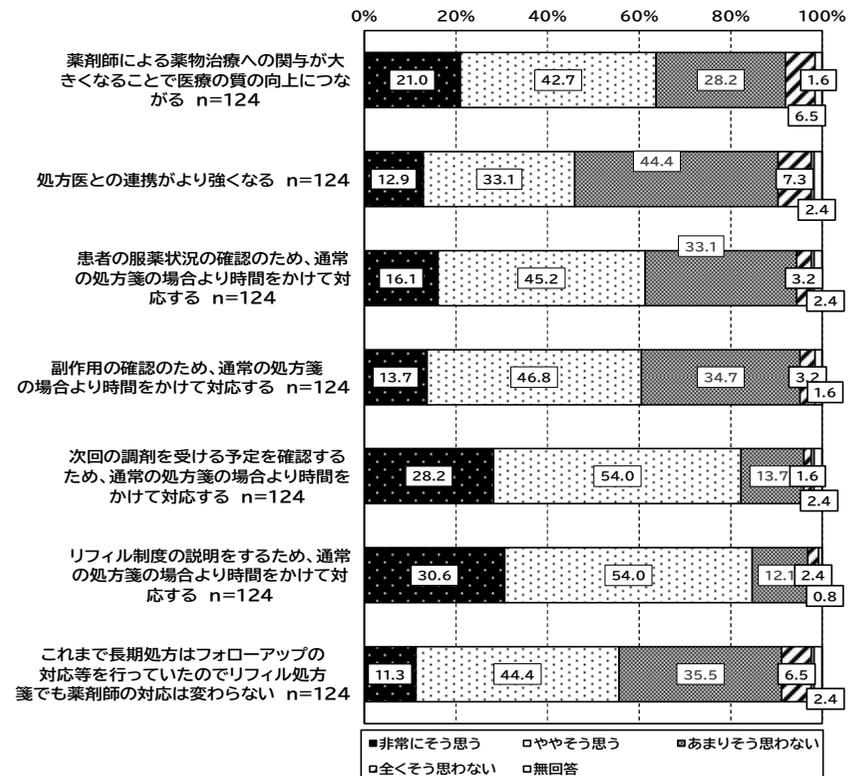
図表 4-63 リフィル処方箋導入による薬局・薬剤師業務等への影響（調査票上でリフィル処方箋を「受け付けたことがある」と回答した薬局）



令和4年度調査（薬局票）

（参考）令和4年度調査

図表 3-80 リフィル処方箋導入による薬局・薬剤師業務等への影響（調査票におけるリフィル処方箋の受付に係る回答実績あり）



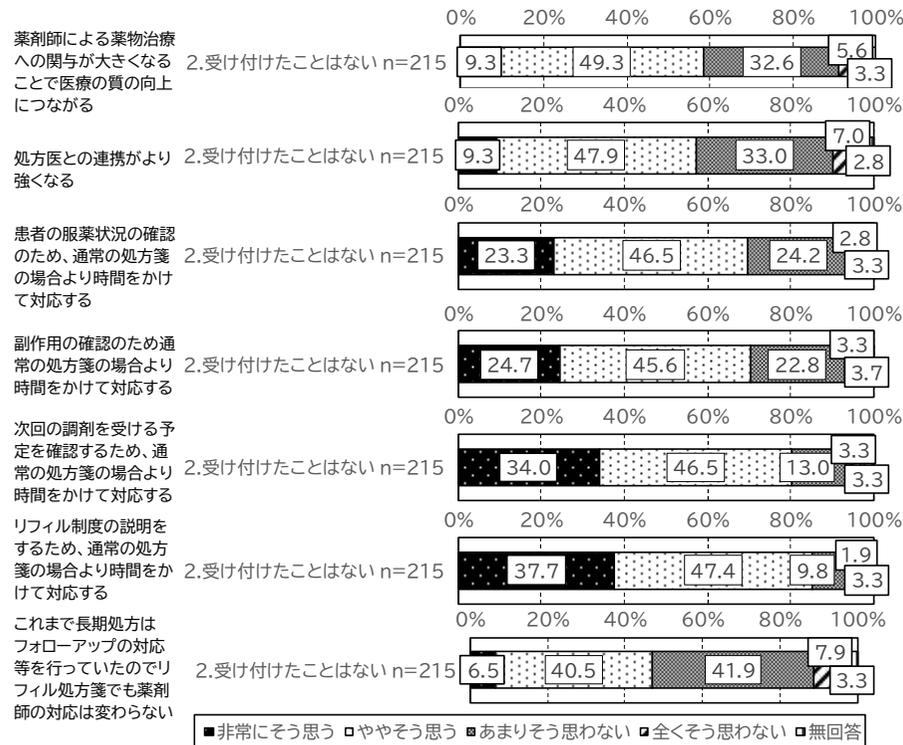
保険薬局調査の結果⑪

＜リフィル処方箋導入による薬局・薬剤師業務等への影響＞（報告書p127,128）

○ リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では「非常にそう思う」が最も多かったのは「リフィル制度の説明をするため、通常の処方箋の場合より時間をかけて対応する」で37.7%であった。

令和5年度調査（薬局票）

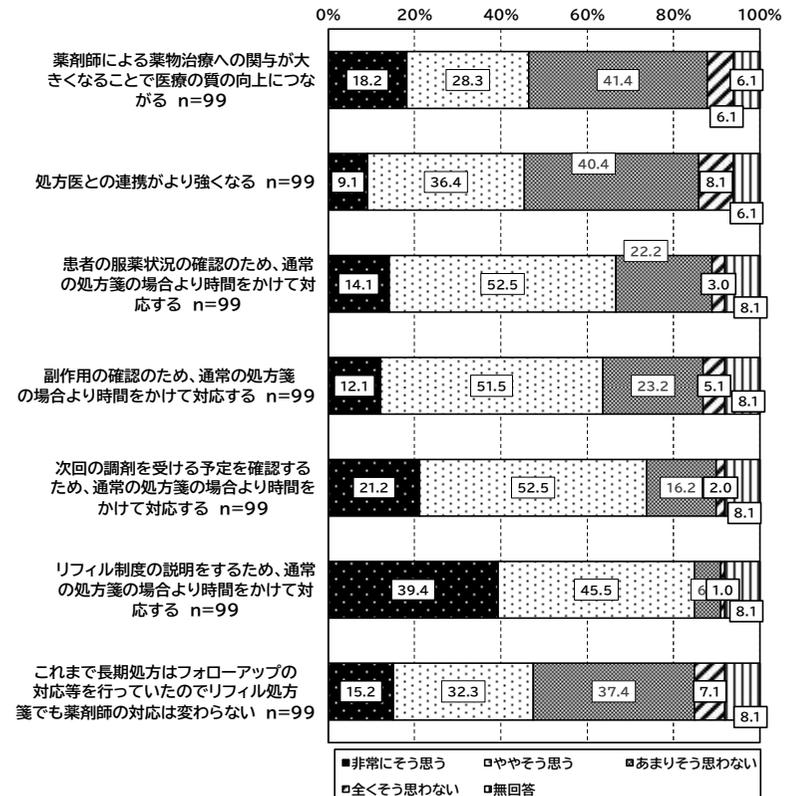
図表 4-64 リフィル処方箋導入による薬局・薬剤師業務等への影響（調査票上でリフィル処方箋を「受け付けたことはない」と回答した薬局）



令和4年度調査（薬局票）

（参考）令和4年度調査

図表 3-81 リフィル処方箋導入による薬局・薬剤師業務等への影響（調査票におけるリフィル処方箋の受付に係る回答実績なし）

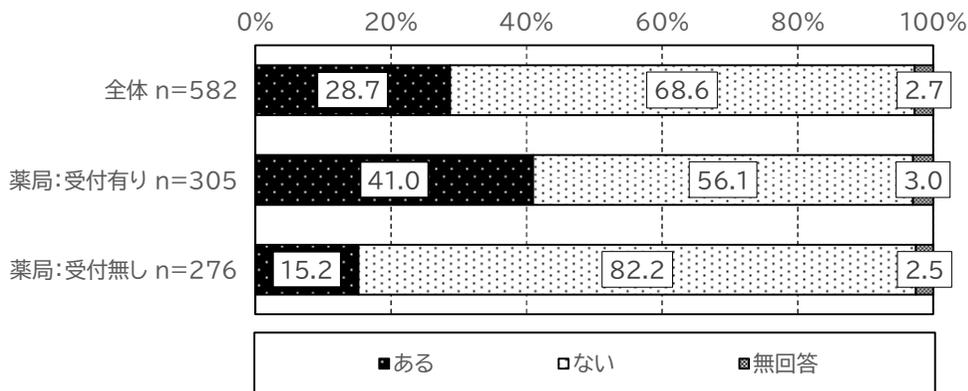


保険薬局調査の結果⑫

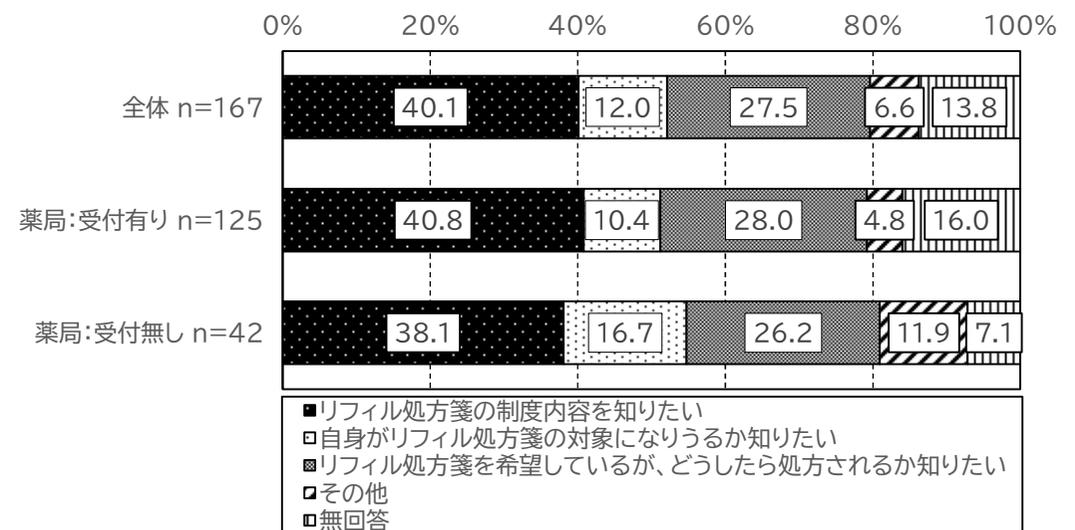
＜患者からのリフィル処方箋に関する相談を受けた経験、相談内容＞（報告書p129,130）

- 患者からのリフィル処方箋に関する相談を受けた経験について、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では「ある」が41.0%、「ない」が56.1%であった。リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では「あり」が15.2%、「ない」が82.2%であった。
- 患者からのリフィル処方箋に関する相談を受けた内容について、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では「リフィル処方箋の制度内容を知りたい」が最も多く40.8%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局でも同項目が最も多く38.1%であった。

図表 4-65 患者からのリフィル処方箋に関する相談を受けた経験
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



図表 4-67 最も多く受けた相談の内容
（患者からのリフィル処方箋に関する相談を受けた経験がある施設のみ対象）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



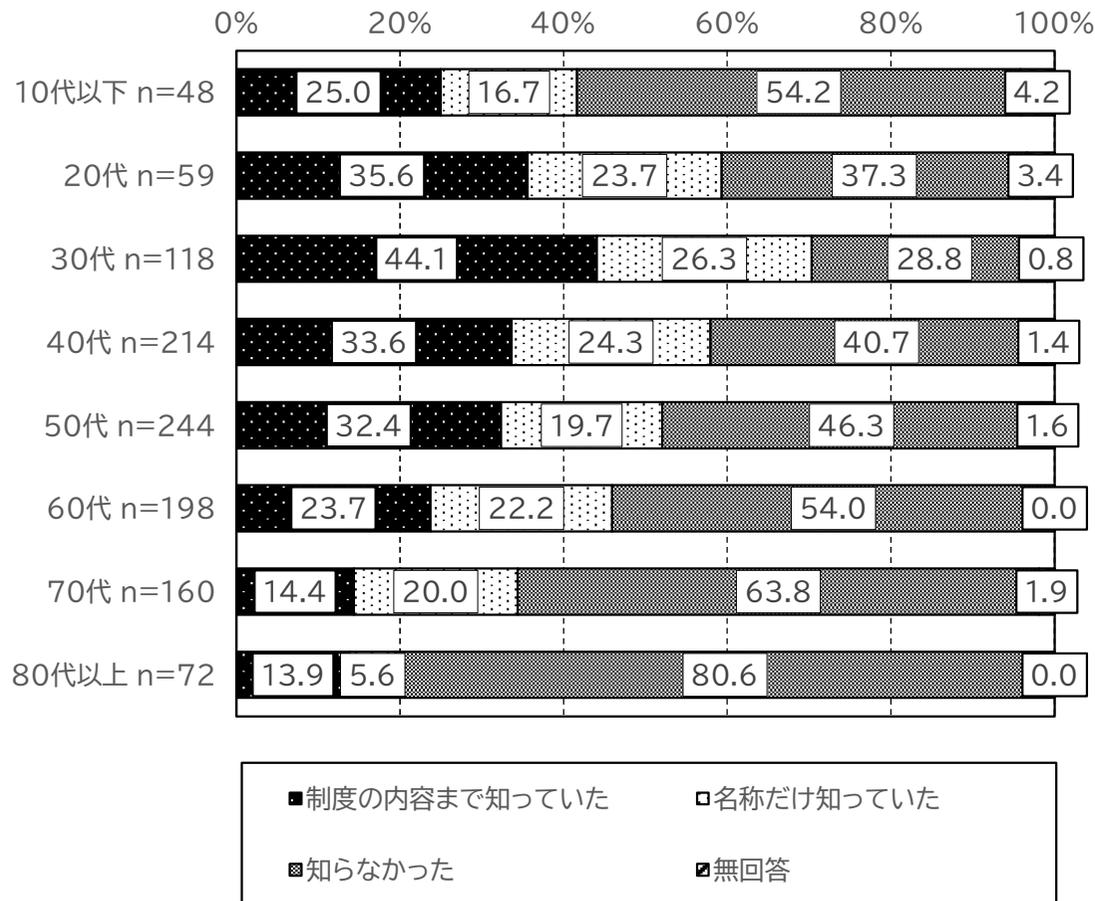
患者調査の結果①

<リフィル処方箋の認知度> (報告書p144)

○リフィル処方箋を知っているかについては、年代別に見ると「制度の内容まで知っている」「名称だけ知っている」と答えたのは30代が最も多かった。

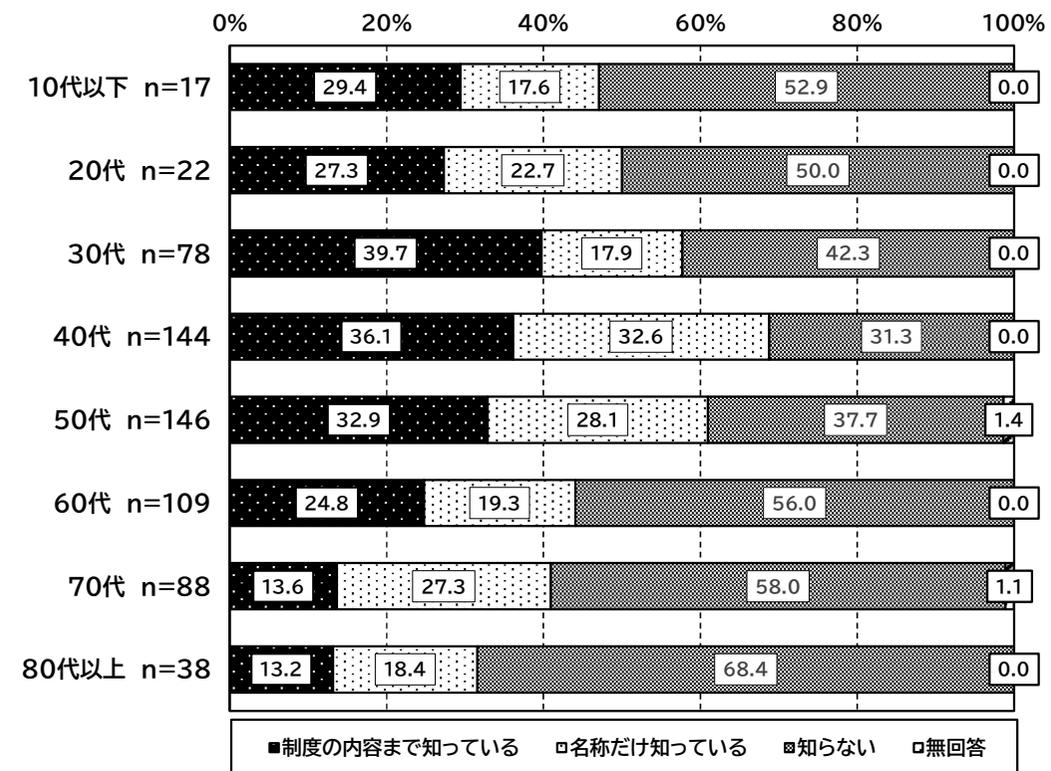
令和5年度調査(患者票 郵送)

図表 5-20 リフィル処方箋の認知度 (年代別)



令和4年度調査(患者票 郵送)

図表 4-18 リフィル処方箋を知っているか (年代別)



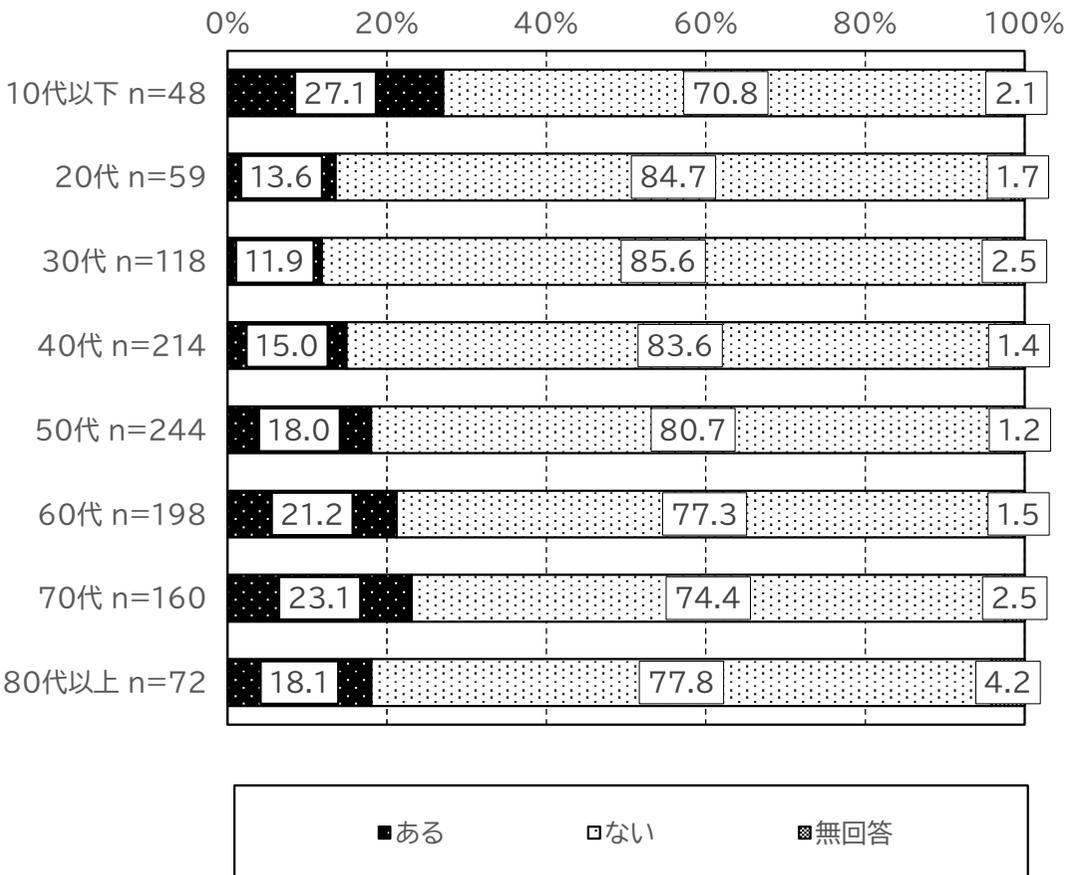
患者調査の結果②

＜リフィル処方箋について医師からの説明を受けた経験＞（報告書p145）

○リフィル処方箋について医師から説明を受けたことがあるかについては、「ある」と答えたのが10代で27.1%と最も多く、次いで70代が23.1%であった。

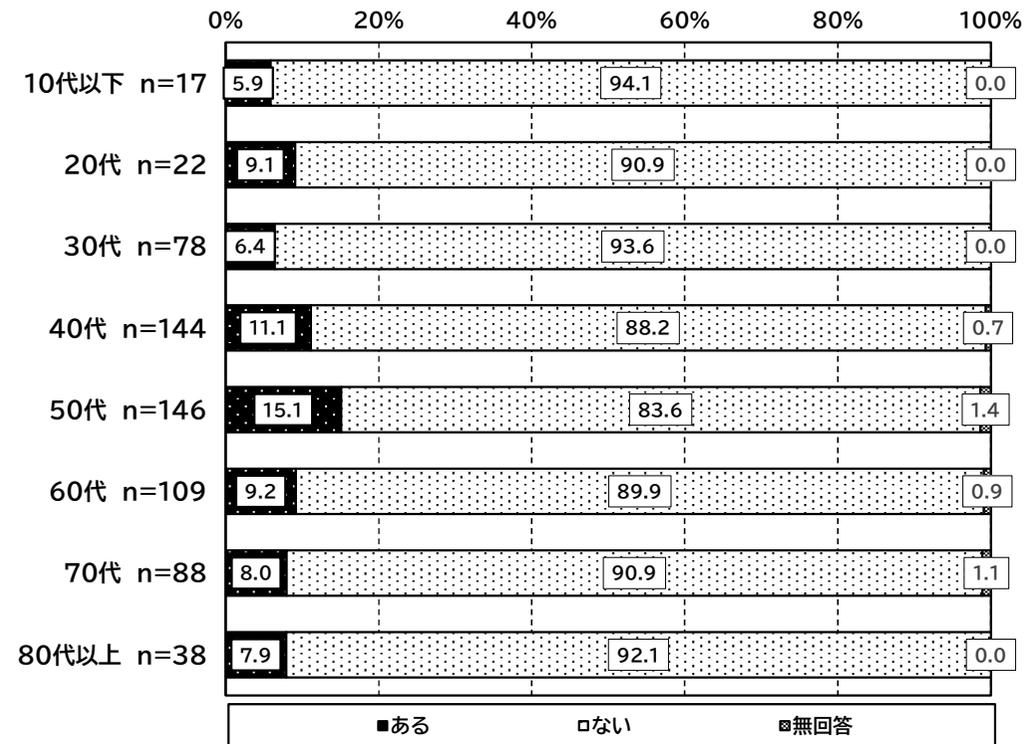
令和5年度調査（患者票 郵送）

図表 5-22 リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験（年代別）



令和4年度調査（患者票 郵送）

図表 4-20 リフィル処方箋について医師からの説明を受けた経験（年代別）



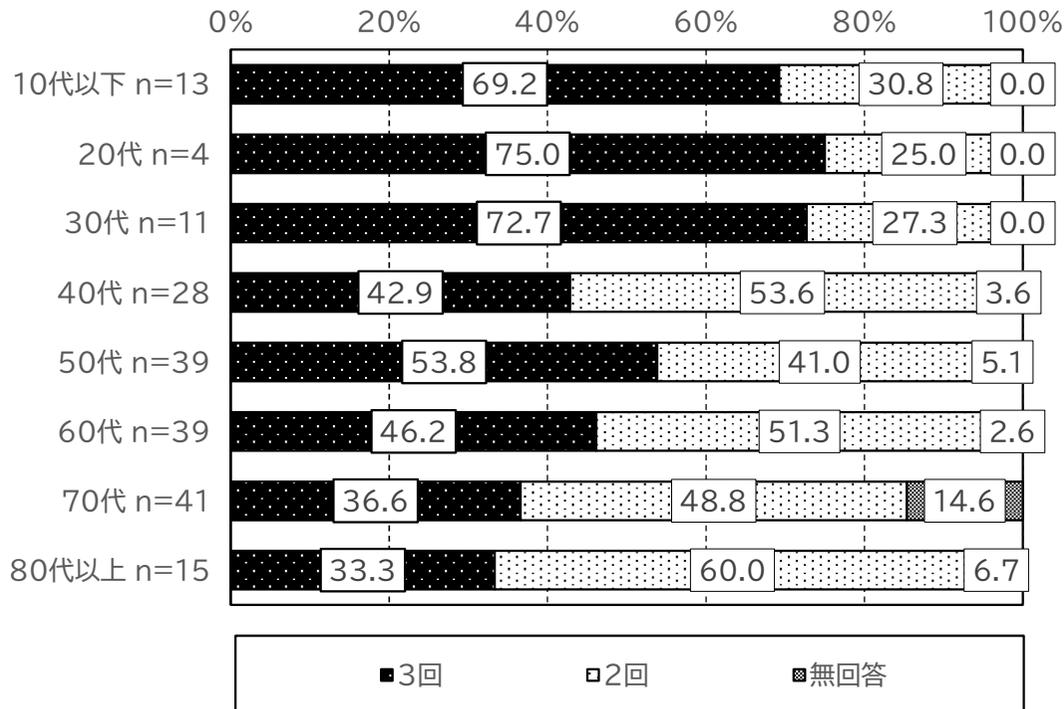
患者調査の結果③

＜直近のリフィル処方箋は何回反復利用できる処方箋か＞（報告書p150）

○直近のリフィル処方箋は何回反復利用できる処方箋かについて、年代別に見ると、30代以下の世代及び50代では、「3回」との回答が最も多かったが、70代では「3回」が36.6%で、「2回」が48.8%であった。

令和5年度調査(患者票 郵送)

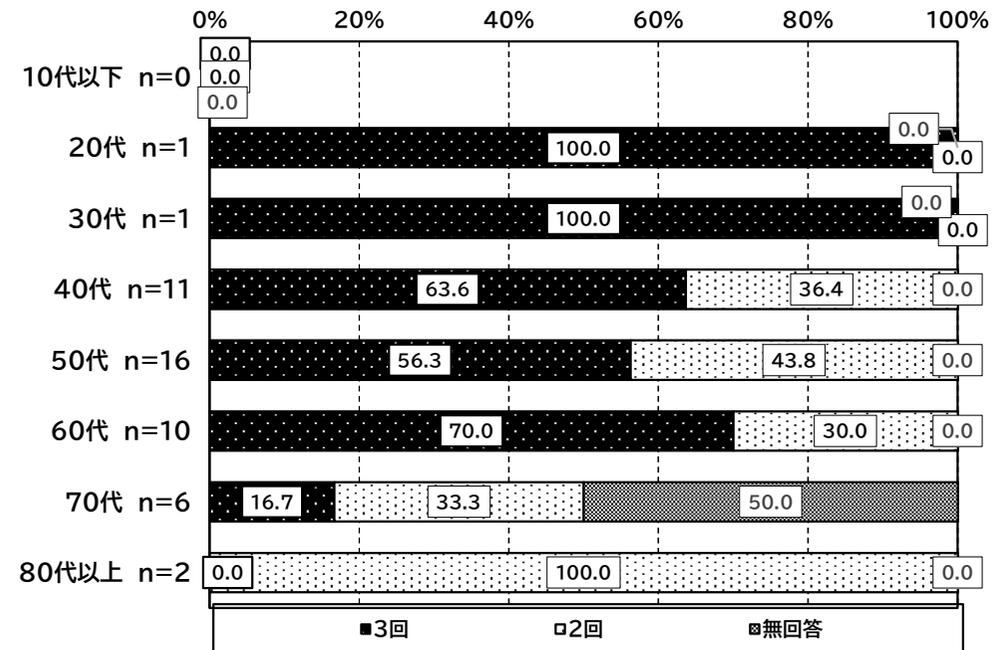
図表 5-32 直近のリフィル処方箋は、何回反復利用できる処方箋か (リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ) (年代別)



令和4年度調査(患者票 郵送)

(参考) 令和4年度調査

図表 4-30 直近のリフィル処方箋は何回反復利用できる処方箋か (年代別)



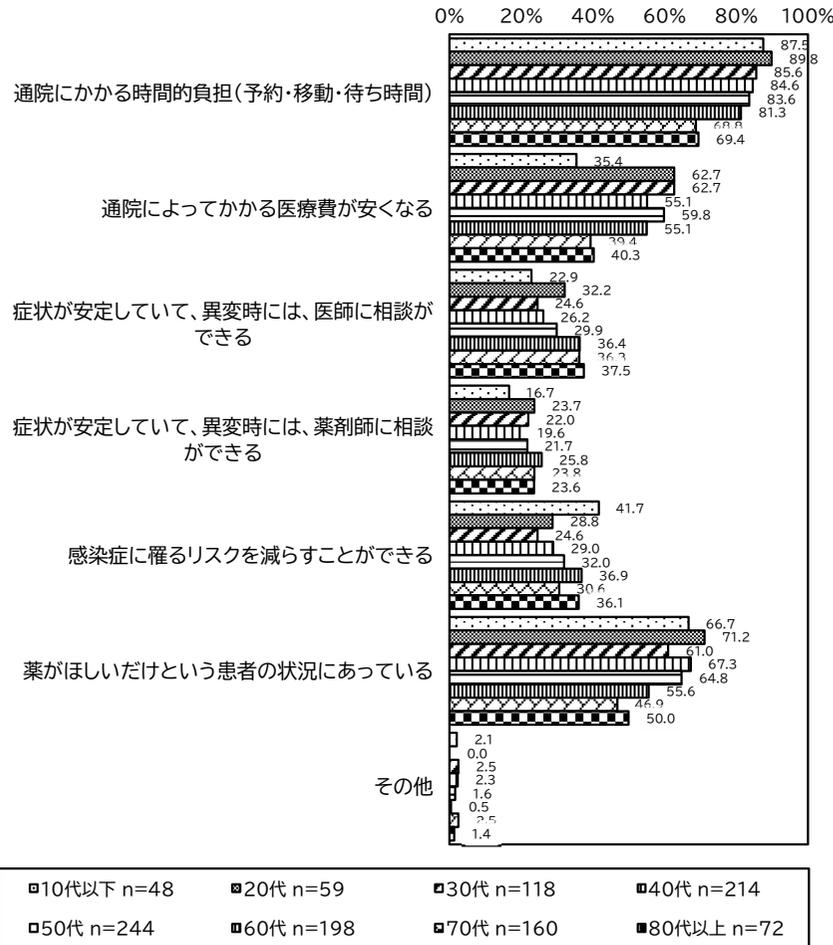
患者調査の結果④

＜リフィル処方箋を利用することについてメリットになると感じるもの＞（報告書p161）

○リフィル処方箋を利用することについてメリットになると感じるものについては、「通院にかかる時間的負担(予約・移動・待ち時間)を減らせる」が最も多く、次いで「薬がほしただけという患者の状況にあって」との回答が多かった。

令和5年度調査(患者票 郵送)

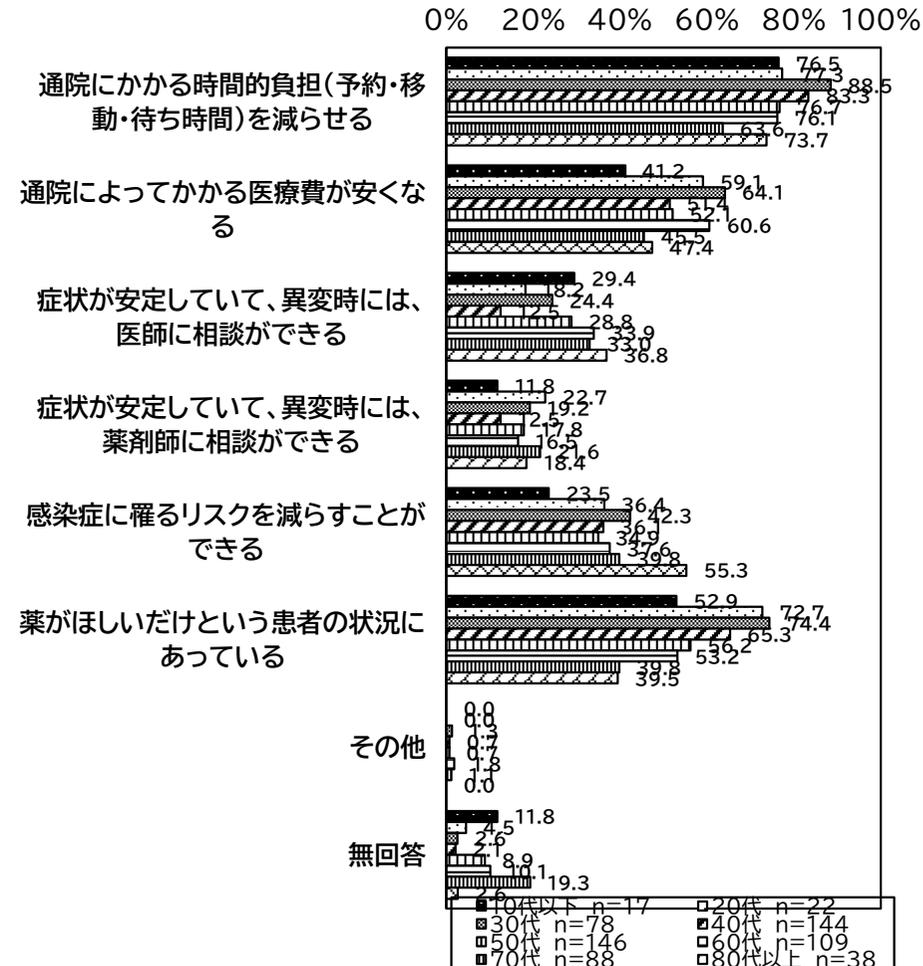
図表 5-50改 リフィル処方箋を使用することについて、メリットになると感じるもの(複数回答)(年代別)



令和4年度調査(患者票 郵送)

(参考)令和4年度調査

図表 4-51 リフィル処方箋を利用することについてメリットになると感じるもの全て選択(年代別)



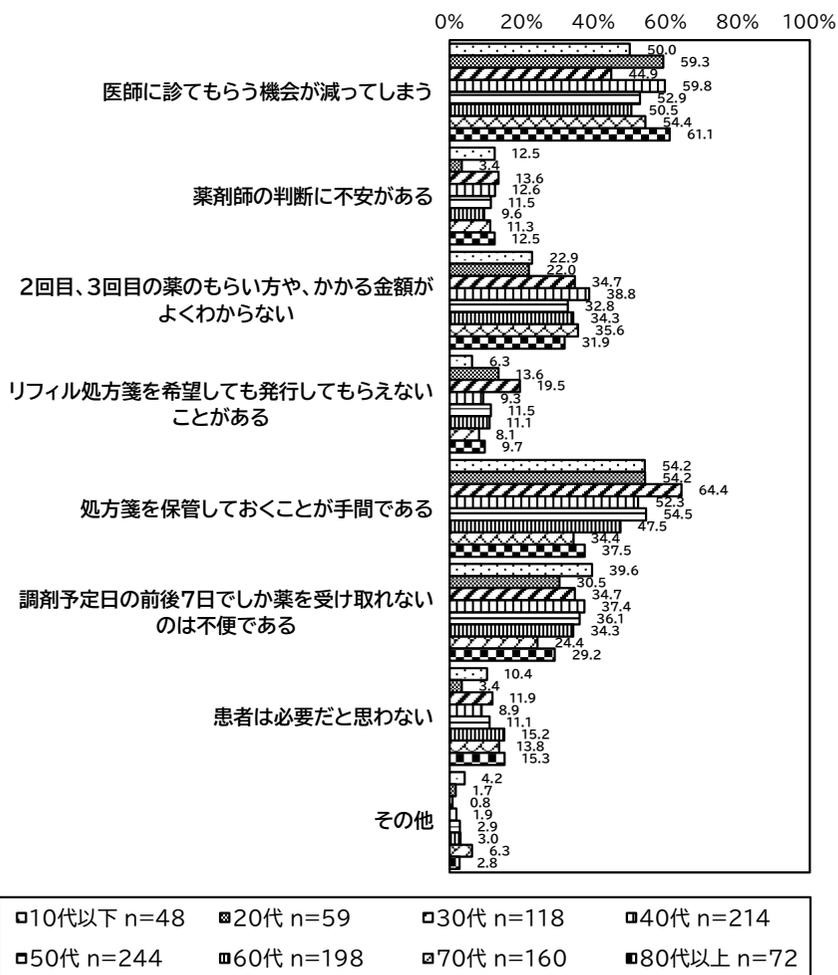
患者調査の結果⑤

＜リフィル処方箋を利用することについてデメリットになると感じるもの＞（報告書p167）

○リフィル処方箋を利用することについてデメリットになると感じるものについては、「医師に診てもらえる機会が減ってしまう」が最も多く、次いで「処方箋を保管しておくことが手間である」との回答が多かった。

令和5年度調査（患者票 郵送）

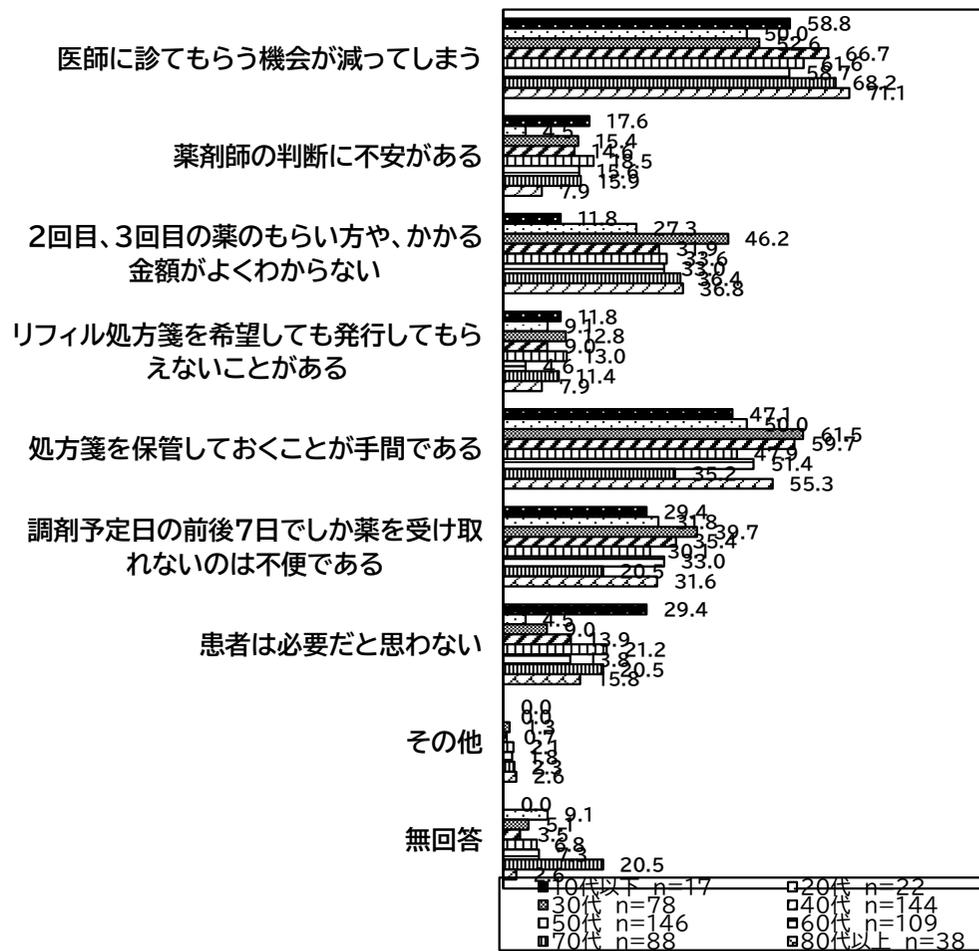
図表 5-56改 リフィル処方箋を使用することについて、デメリットになると感じるもの（複数回答）（年代別）



令和4年度調査（患者票 郵送）

図表 4-55 リフィル処方箋を利用することについてデメリットになると感じるもの全て選択（年代別）

0% 20% 40% 60% 80% 100%



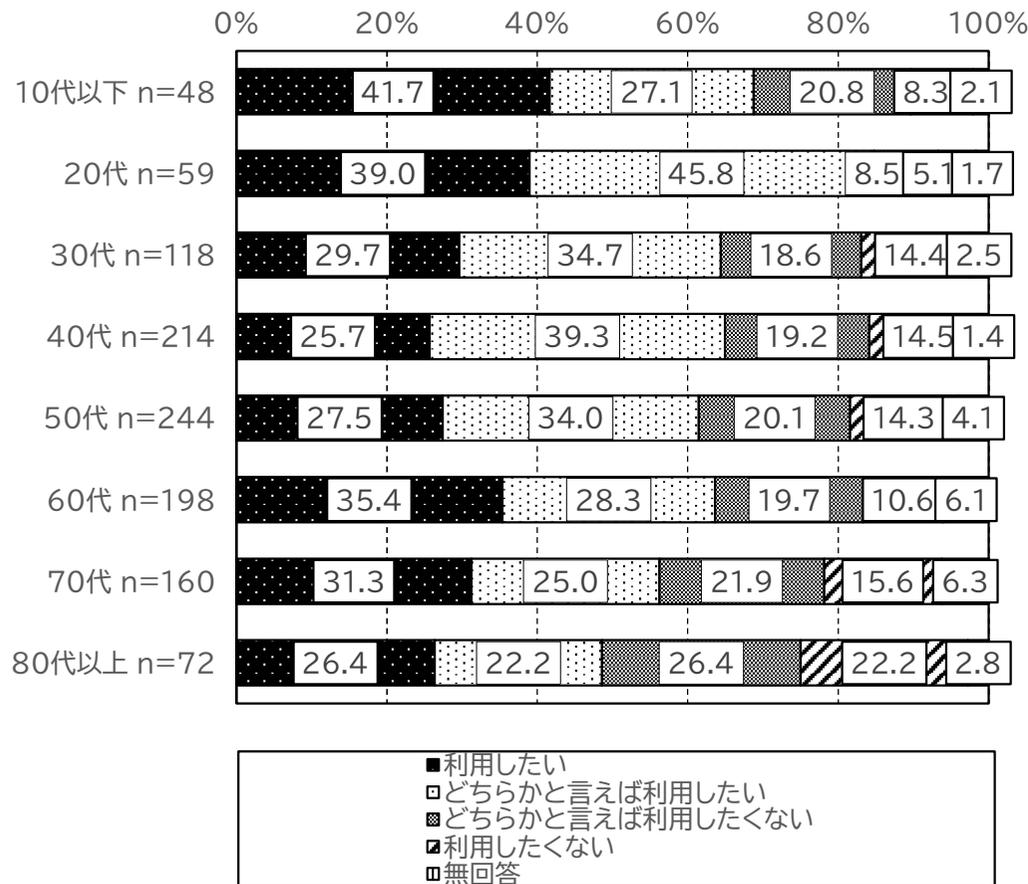
患者調査の結果⑥

＜今後、症状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいか＞（報告書p172）

○今後、症状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいかについて、「利用したい」または「どちらかと言えば利用したい」との回答のほうが多かった。

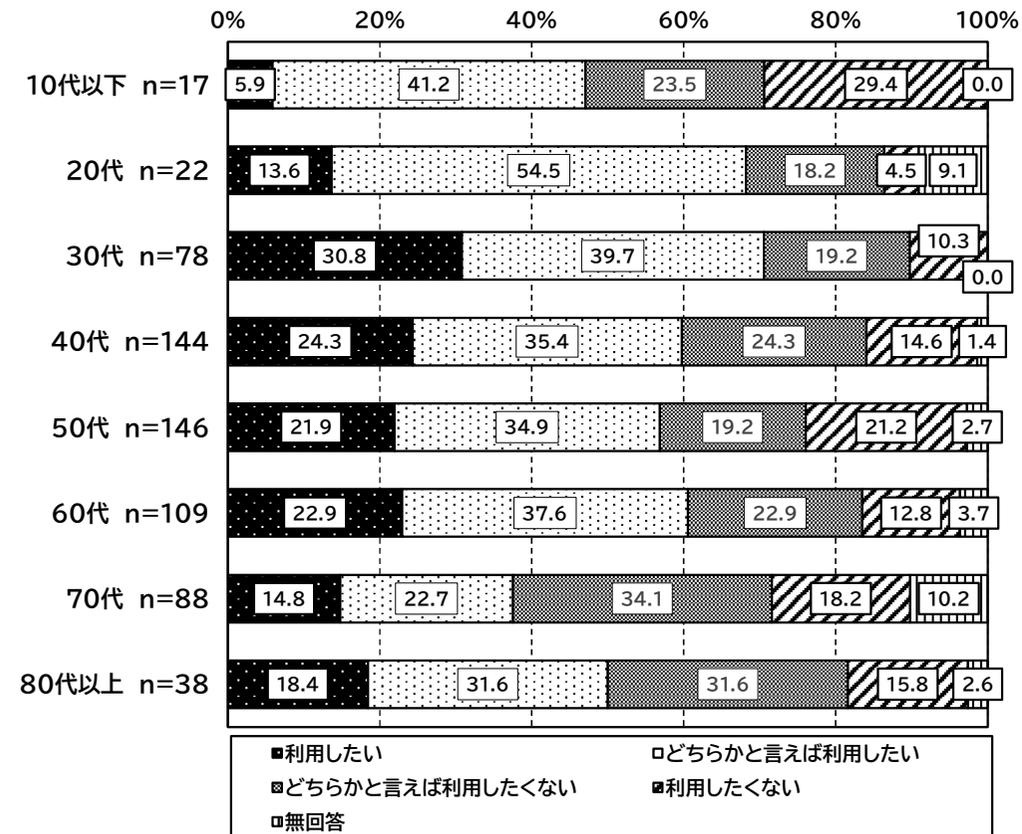
令和5年度調査（患者票 郵送）

図表 5-62 今後、病状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいと思うか（年代別）



令和4年度調査（患者票 郵送）

図表 4-59 今後、症状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいか（年代別）



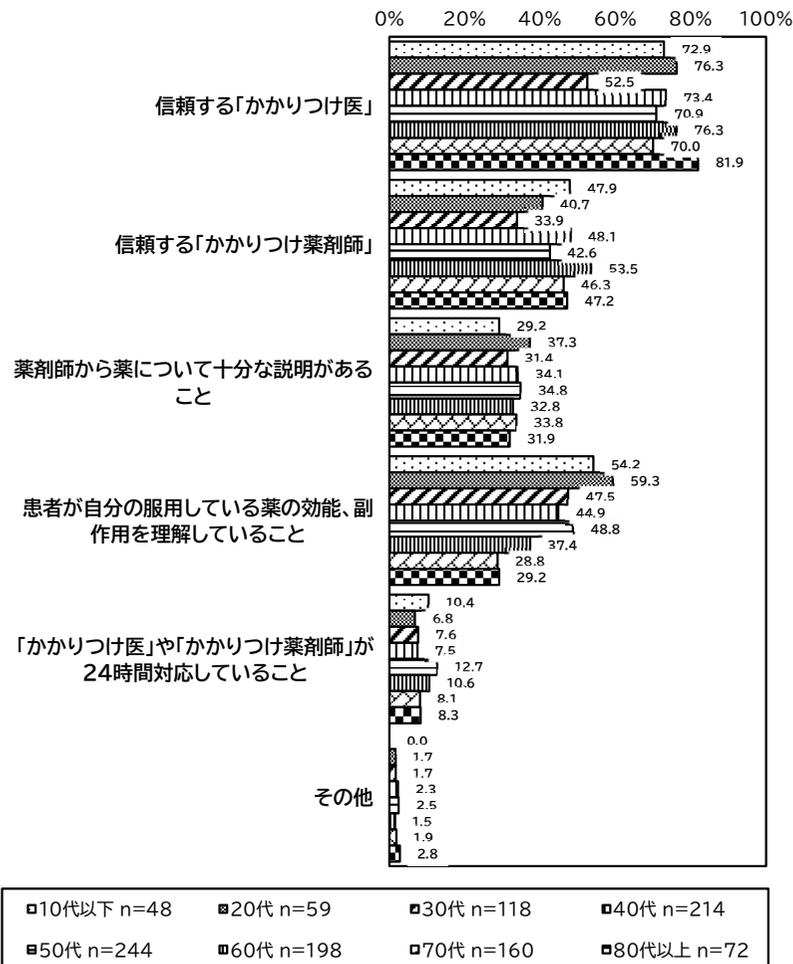
患者調査の結果⑦

＜リフィル処方箋を利用するにあたり必要だと感じること＞(報告書p175)

○リフィル処方箋を利用するにあたり必要だと感じることについては、「信頼する「かかりつけ医」がいること」との回答が最も多かった。

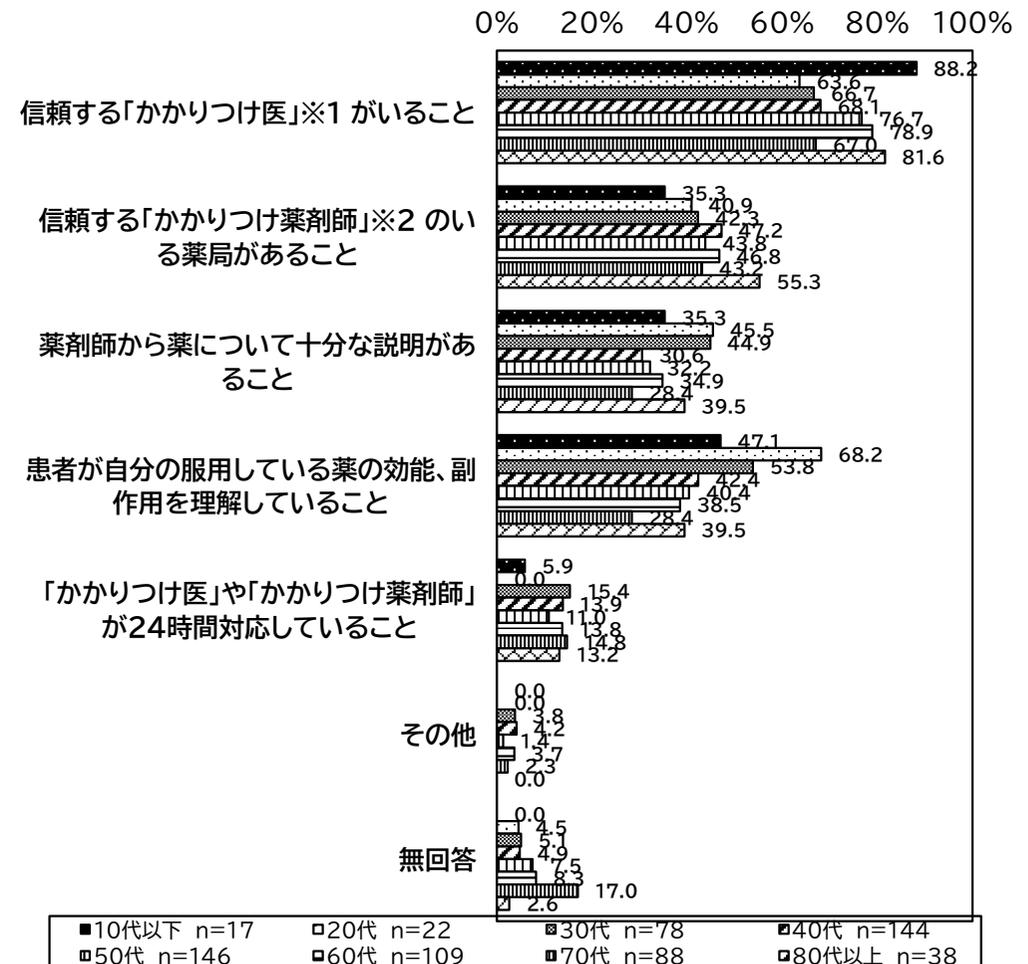
令和5年度調査(患者票 郵送)

図表 5-65改 リフィル処方箋を利用するにあたり必要だと感じることは何か(複数回答)(年代別)



令和4年度調査(患者票 郵送)

図表 4-61 リフィル処方箋を利用するにあたり必要だと感じること(複数回答)(年代別)



患者調査の結果⑧

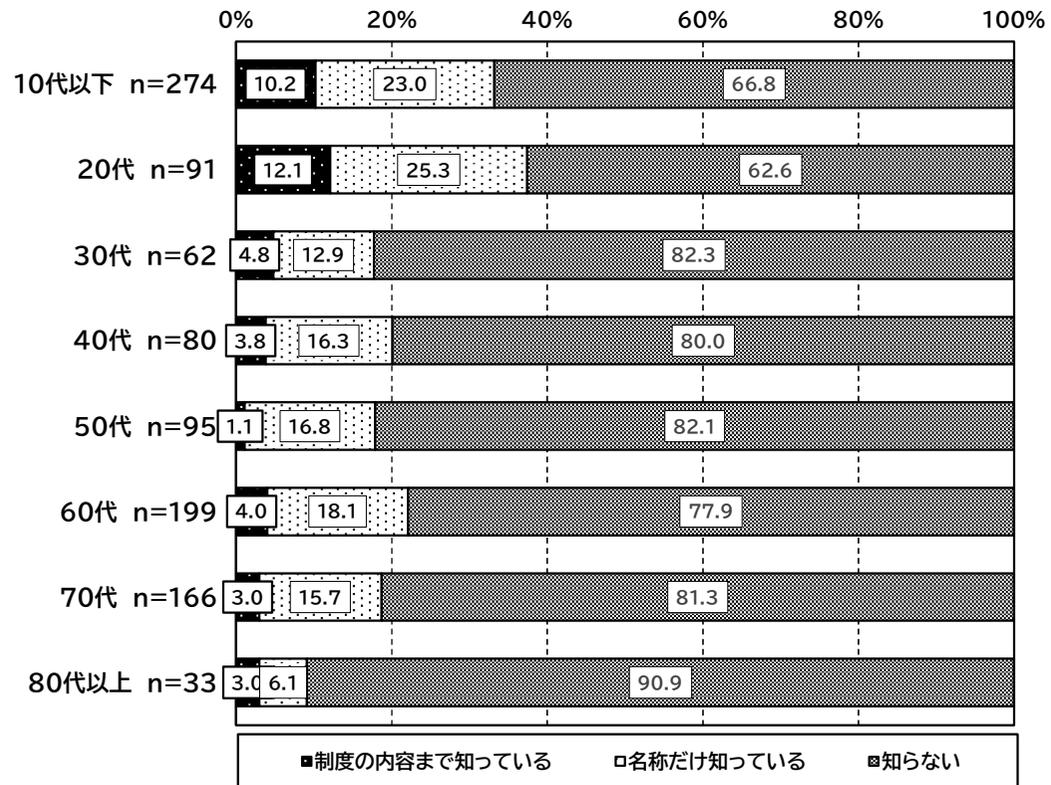
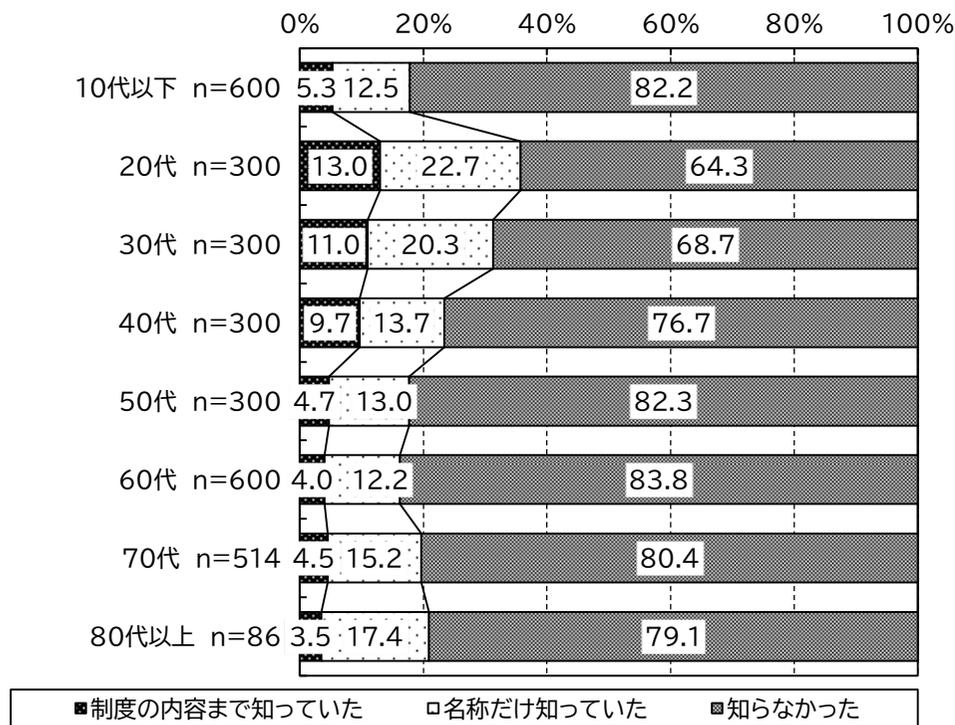
＜リフィル処方箋の認知度＞（報告書p199）

令和5年度調査（患者票 インターネット）

令和4年度調査（患者票 インターネット）

図表 6-20 リフィル処方箋の認知度（年代別）

図表 5-18 リフィル処方箋を知っているか（年代別）

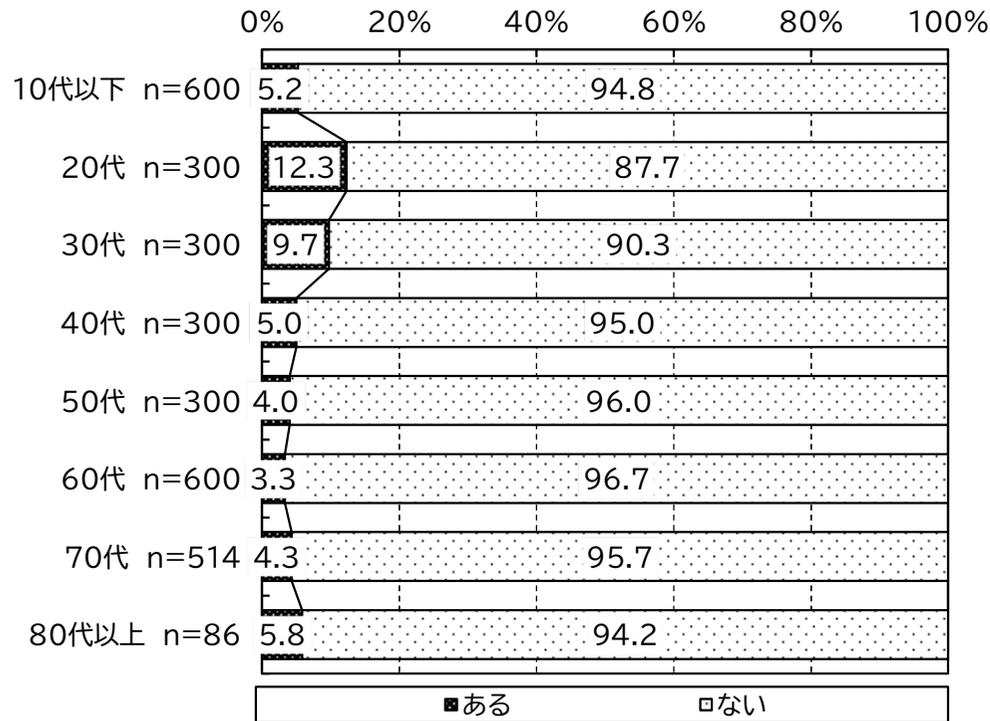


患者調査の結果⑨

＜リフィル処方箋について医師からの説明を受けた経験＞（報告書p200）

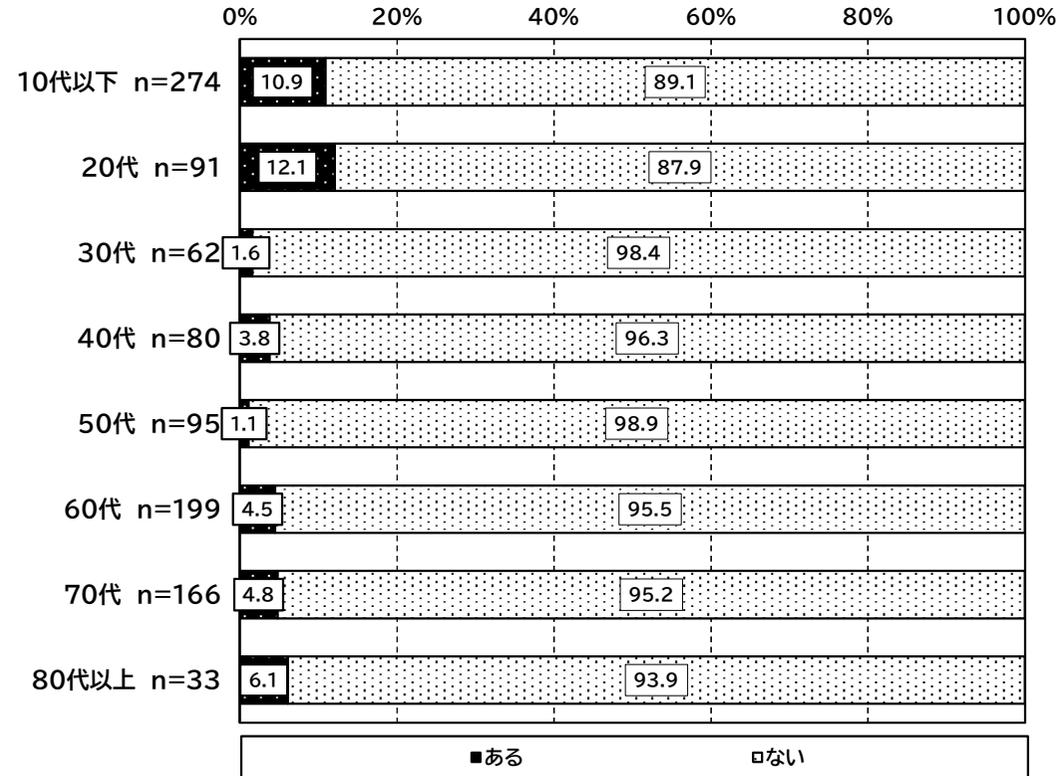
令和5年度調査（患者票 インターネット）

図表 6-22 リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験（年代別）



令和4年度調査（患者票 インターネット）

図表 5-20 リフィル処方箋について医師からの説明を受けた経験（年代別）

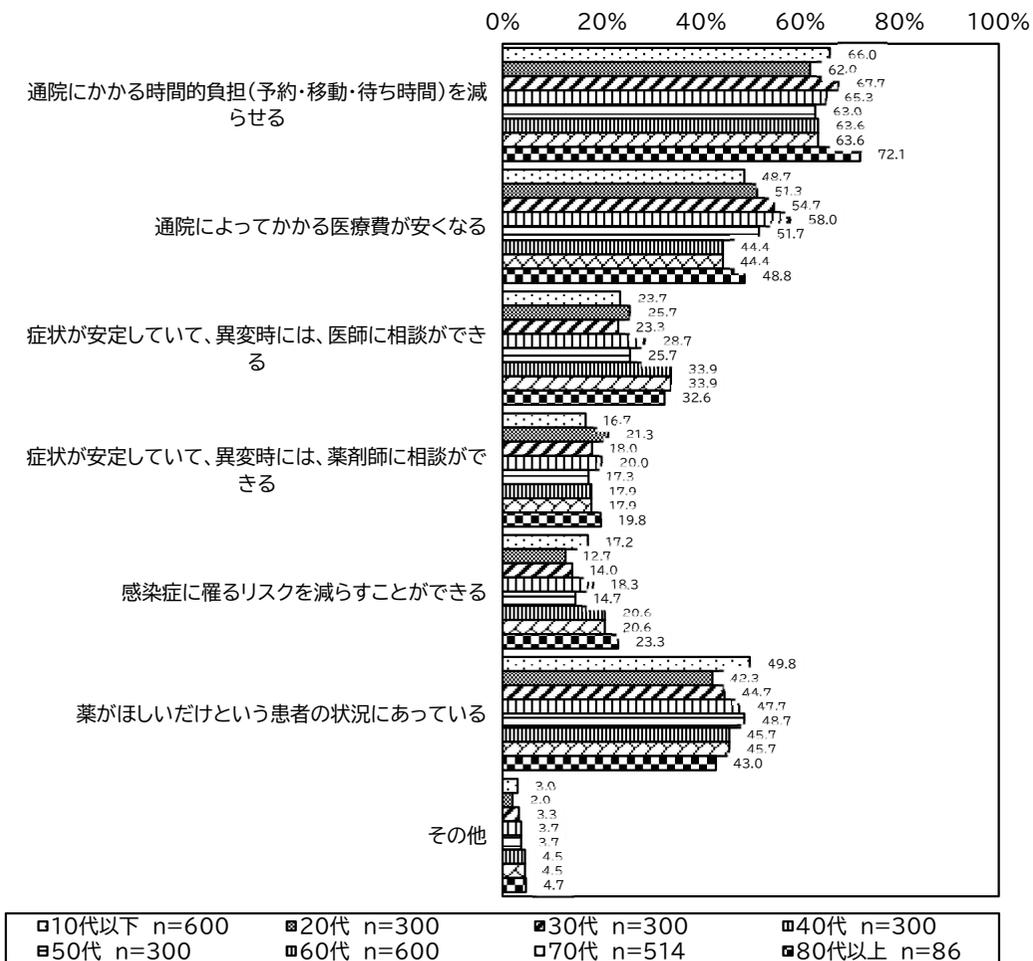


患者調査の結果⑩

＜リフィル処方箋を利用することについてメリットになると感じるもの＞（報告書p216）

令和5年度調査（患者票 インターネット）

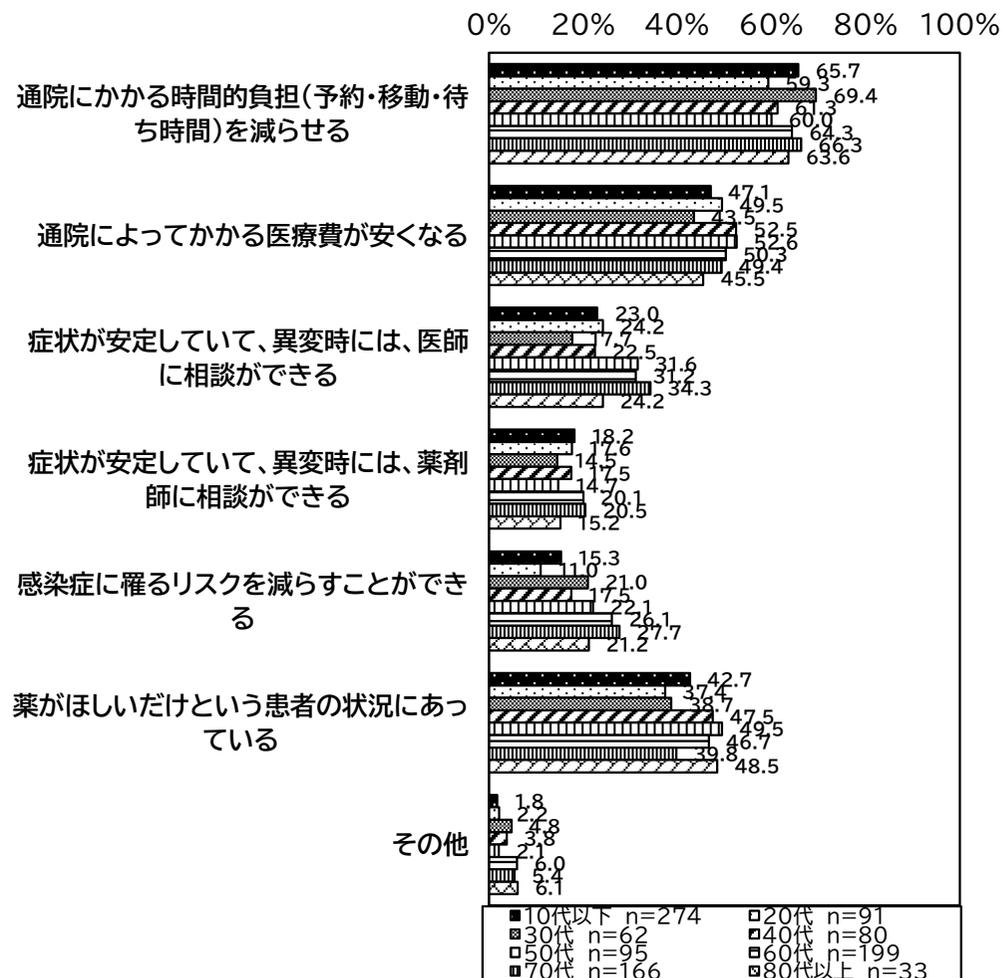
図表 6-50 リフィル処方箋を使用することについて、
メリットになると感じるもの
（複数回答）（年代別）



令和4年度調査（患者票 インターネット）

（参考）令和4年度調査

図表 5-51 リフィル処方箋を利用することについて
メリットになると感じるもの全て選択（年代別）



患者調査の結果⑪

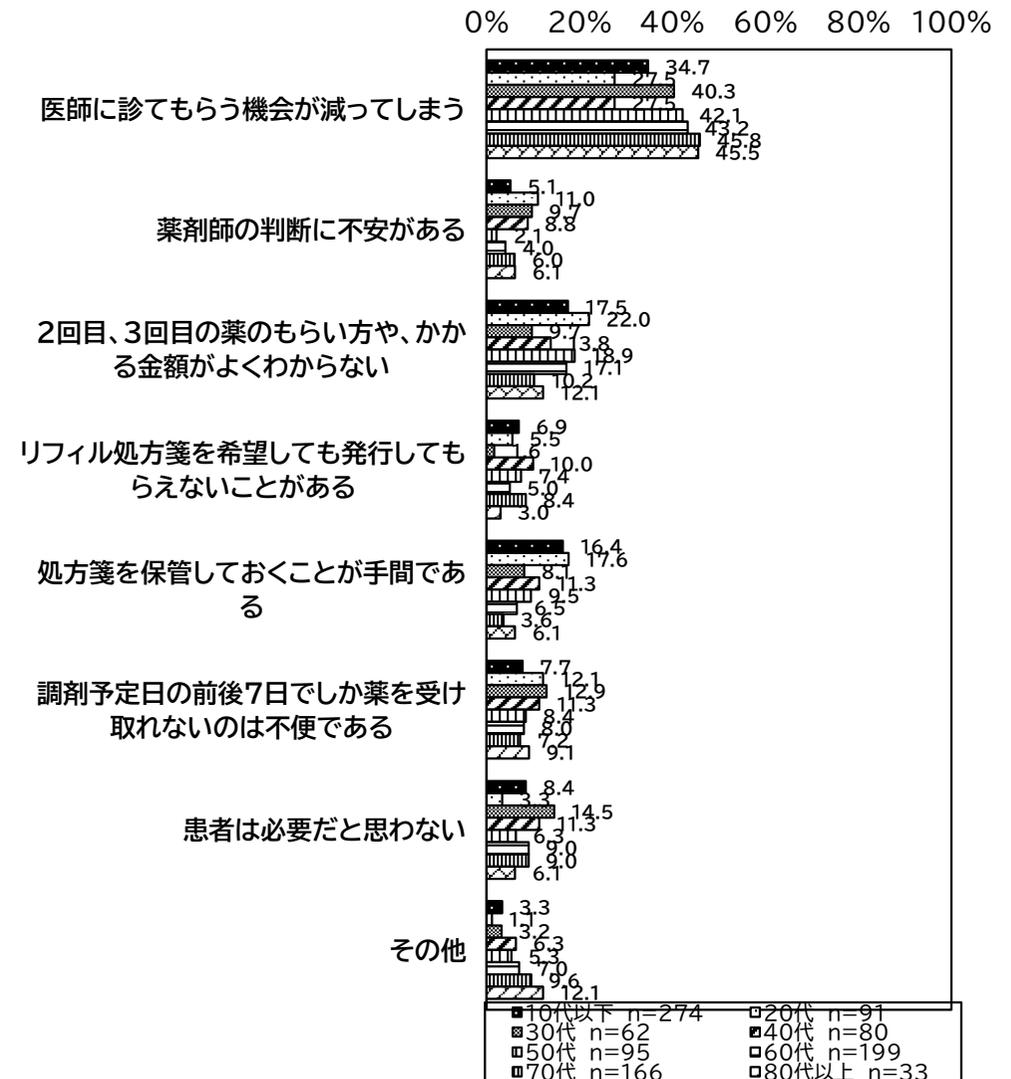
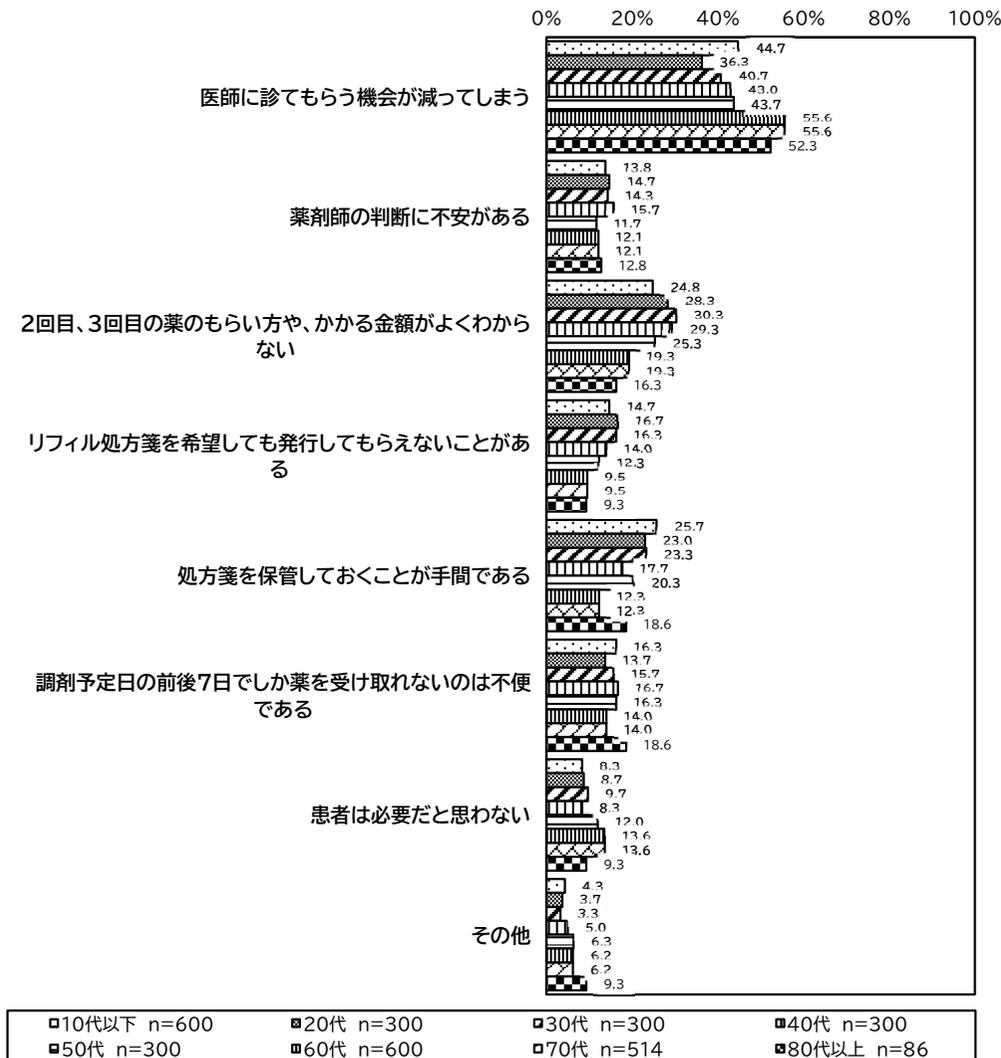
＜リフィル処方箋を利用することについてデメリットになると感じるもの＞（報告書p222）

令和5年度調査（患者票 インターネット）

令和4年度調査（患者票 インターネット）

図表 6-56 リフィル処方箋を使用することについて、デメリットになると感じるもの（複数回答）（年代別）

図表 5-55 リフィル処方箋を利用することについてデメリットになると感じるもの 全て選択（年代別）



患者調査の結果⑫

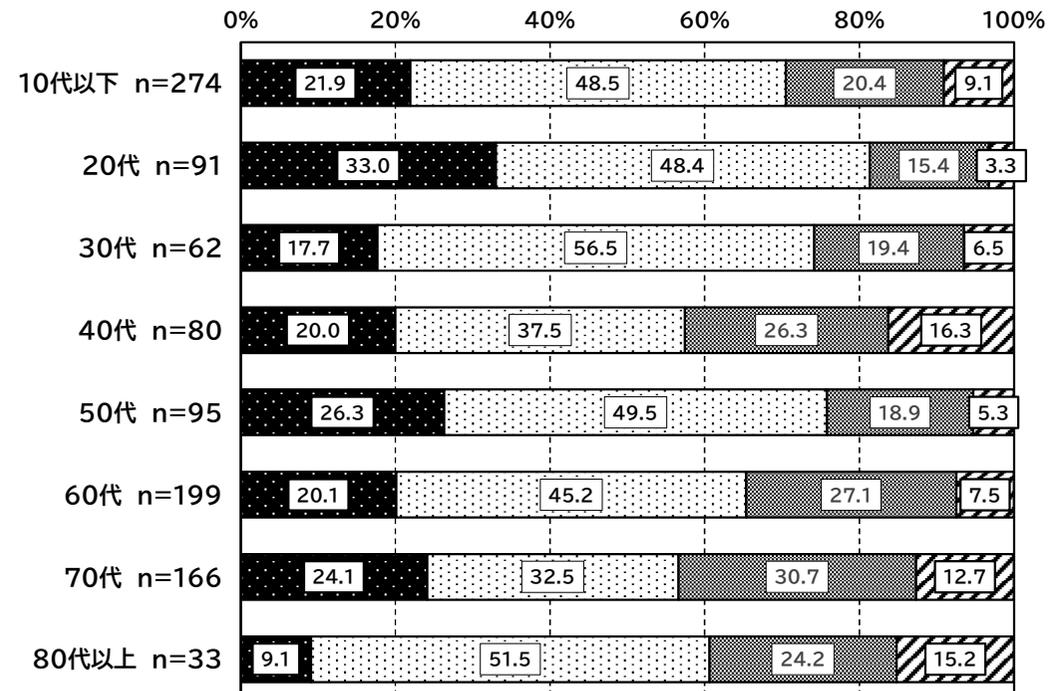
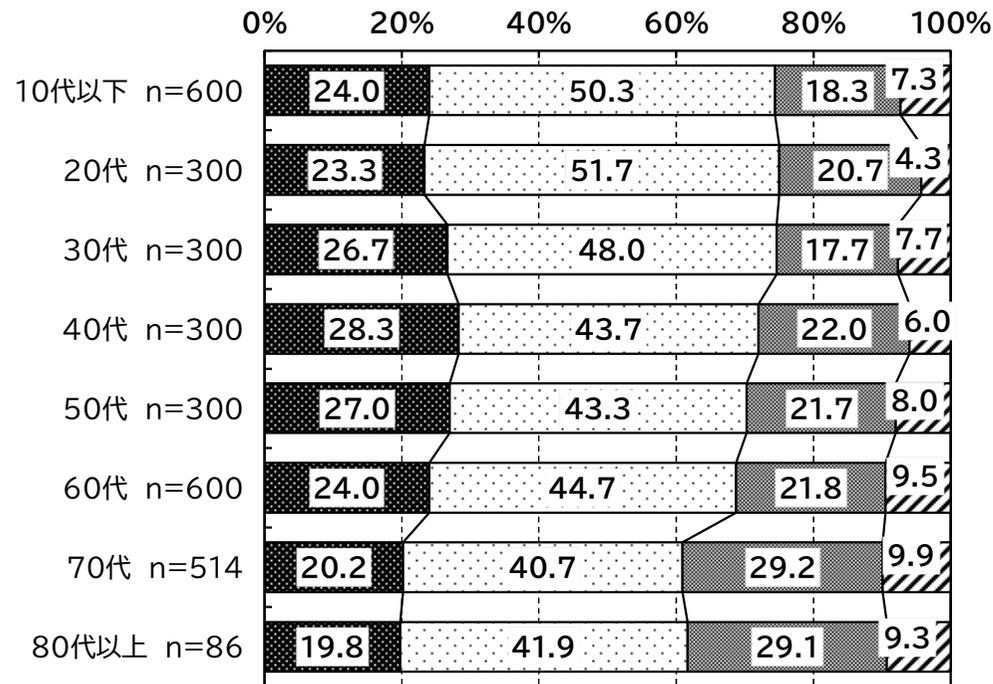
＜今後、症状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいか＞（報告書p227）

令和5年度調査（患者票 インターネット）

令和4年度調査（患者票 インターネット）

図表 6-62 今後、病状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいと思うか（年代別）

図表 5-59 今後、症状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいか（年代別）



■利用したい
 □どちらかと言えば利用したい
 ▨どちらかと言えば利用したくない
 ▩利用したくない

■利用したい
 □どちらかと言えば利用したい
 ▨どちらかと言えば利用したくない
 ▩利用したくない

患者調査の結果⑬

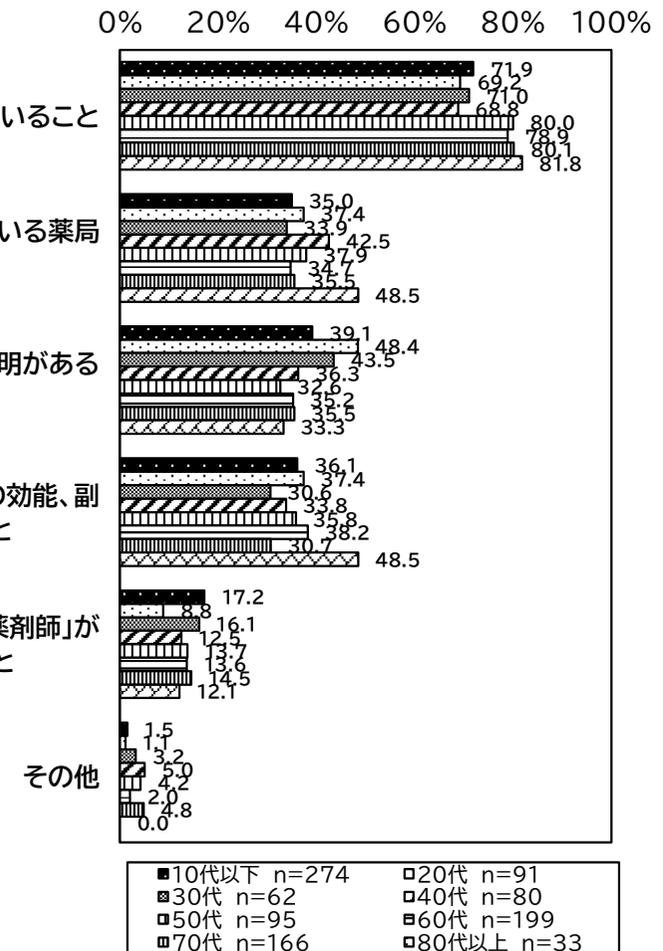
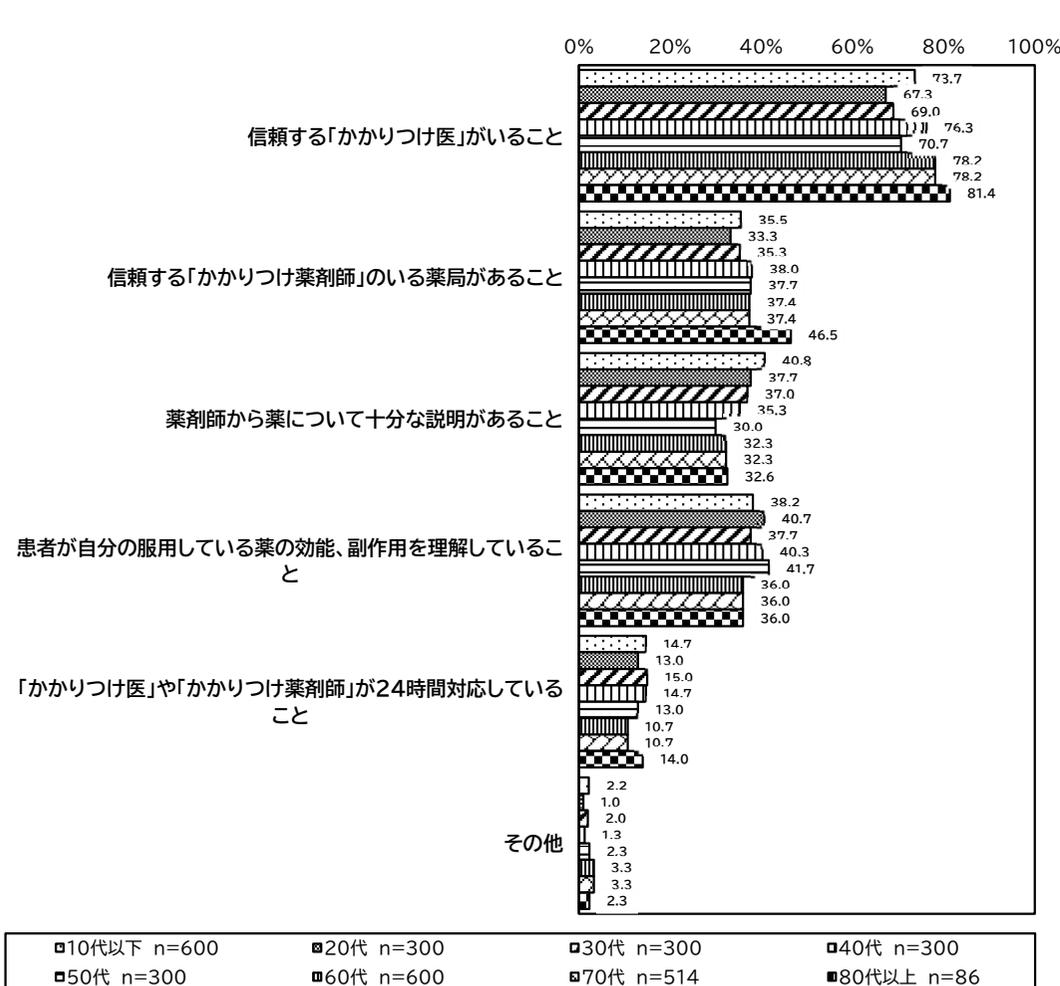
＜リフィル処方箋を利用するにあたり必要だと感じること＞（報告書p230）

令和5年度調査（患者票 インターネット）

令和4年度調査（患者票 インターネット）

図表 6-65 リフィル処方箋を利用するにあたり必要だと感じることは何か（複数回答）（年代別）

図表 5-61 リフィル処方箋を利用するにあたり必要だと感じること（複数回答）（年代別）



処方箋料（リフィル）の算定回数の推移

病院・診療所別の処方箋料の算定回数

		令和4年 5月	令和4年 11月	令和5年 3月
病院	リフィル処方箋 (割合)	6267 (0.05%)	14436 (0.10%)	17060 (0.11%)
	全処方箋	13,579,110	14,822,495	15,976,167
診療所	リフィル処方箋 (割合)	14750 (0.03%)	16133 (0.03%)	18854 (0.03%)
	全処方箋	46,171,939	50,746,364	57,243,117
合計	リフィル処方箋 (割合)	21,025 (0.04%)	30,569 (0.05%)	35,914 (0.05%)
	全処方箋	59,798,382	65,538,290	73,183,370

病院・診療所別の処方箋料（リフィル）の算定医療機関数

		令和4年 5月	令和4年 11月	令和5年 3月
病院		910	937	981
診療所		2,368	2,463	2,583

参考：令和4年5月分は令和4年度検証調査報告書より
 令和4年11月分は令和5年度検証調査報告書より
 令和5年3月分は令和5年11月時点の最新の実績

出典：NDBデータ(令和4年5月、11月、令和5年3月)

主傷病名別のリフィル処方箋発行回数①（病院）

○ 令和4年4月～令和5年3月の病院におけるリフィル処方箋の疾患毎の発行数と年齢構成は以下のとおり。

主傷病名

年齢

	主傷病名	リフィル処方箋発行回数 (a)	全処方箋発行回数 (b)	リフィル処方箋発行割合 (a/b)
TOP1	糖尿病	10,146	10,183,786	0.10%
TOP2	高血圧性疾患	8,633	14,083,204	0.06%
TOP3	その他の心疾患	6,856	5,356,596	0.13%
TOP4	その他の消化器系の疾患	6,350	7,092,455	0.09%
TOP5	虚血性心疾患	5,405	3,116,593	0.17%
TOP6	その他の悪性新生物<腫瘍>	5,339	5,066,480	0.11%
TOP7	症状、徴候及び異常臨床所見・ 異常検査所見で他に分類されないもの	4,880	5,462,856	0.09%
TOP8	その他の神経系の疾患	4,267	4,508,400	0.09%
TOP9	乳房の悪性新生物<腫瘍>	4,211	1,661,559	0.25%
TOP10	良性新生物<腫瘍>及びその他の新生物	4,104	2,766,386	0.15%
TOP11	脂質異常症	3,767	4,695,965	0.08%
TOP12	脊椎障害（脊椎症を含む）	3,544	4,303,304	0.08%
TOP13	甲状腺障害	3,411	1,792,643	0.19%
TOP14	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	3,227	3,777,315	0.09%
TOP15	脳梗塞	3,073	2,773,836	0.11%
TOP16	骨折	2,893	3,334,715	0.09%
TOP17	骨の密度及び構造の障害	2,846	1,706,612	0.17%
TOP18	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	2,752	4,436,050	0.06%
TOP19	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	2,722	2,153,191	0.13%
TOP20	関節症	2,377	3,545,482	0.07%

	年齢	リフィル処方箋発行回数 (a)	全処方箋発行回数 (b)	リフィル処方箋発行割合 (a/b)
	0歳以上～5歳未満	821	2,447,560	0.03%
	5歳以上～10歳未満	1,196	2,177,963	0.05%
	10歳以上～15歳未満	1,206	2,384,452	0.05%
	15歳以上～20歳未満	1,452	2,183,603	0.07%
	20歳以上～25歳未満	1,830	2,321,326	0.08%
	25歳以上～30歳未満	1,993	2,868,838	0.07%
	30歳以上～35歳未満	2,541	3,523,548	0.07%
	35歳以上～40歳未満	3,544	4,489,127	0.08%
	40歳以上～45歳未満	5,323	5,712,244	0.09%
	45歳以上～50歳未満	8,211	8,340,709	0.10%
	50歳以上～55歳未満	11,204	10,320,756	0.11%
	55歳以上～60歳未満	12,113	10,843,574	0.11%
	60歳以上～65歳未満	12,835	12,486,874	0.10%
	65歳以上～70歳未満	14,151	15,887,302	0.09%
	70歳以上～75歳未満	22,205	24,931,475	0.09%
	75歳以上～80歳未満	20,658	23,580,572	0.09%
	80歳以上～85歳未満	15,813	21,573,827	0.07%
	85歳以上～90歳未満	9,619	14,871,365	0.06%
	90歳以上～95歳未満	3,225	6,662,057	0.05%
	95歳以上～100歳未満	805	1,805,224	0.04%
	100歳以上	105	255,729	0.04%

主傷病名別のリフィル処方箋発行回数②（診療所）

○ 令和4年4月～令和5年3月の診療所におけるリフィル処方箋の疾患毎の発行数と年齢構成は以下のとおり。

主傷病名

年齢

	主傷病名	リフィル処方箋発行回数 (a)	全処方箋発行回数 (b)	リフィル処方箋発行割合 (a/b)
TOP1	高血圧性疾患	36,139	79,378,068	0.05%
TOP2	アレルギー性鼻炎	20,073	27,233,131	0.07%
TOP3	脂質異常症	17,371	31,443,769	0.06%
TOP4	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	8,798	26,628,026	0.03%
TOP5	糖尿病	6,727	25,952,477	0.03%
TOP6	その他の眼及び付属器の疾患	5,831	22,517,325	0.03%
TOP7	その他の消化器系の疾患	5,487	14,011,288	0.04%
TOP8	皮膚炎及び湿疹	4,856	30,904,267	0.02%
TOP9	骨の密度及び構造の障害	4,759	5,118,910	0.09%
TOP10	胃炎及び十二指腸炎	4,626	13,887,797	0.03%
TOP11	月経障害及び閉経周辺期障害	4,274	2,940,003	0.15%
TOP12	喘息	3,893	15,903,972	0.02%
TOP13	脊椎障害（脊椎症を含む）	3,513	11,921,230	0.03%
TOP14	その他の神経系の疾患	3,472	11,000,733	0.03%
TOP15	結膜炎	3,455	9,326,882	0.04%
TOP16	関節症	3,361	11,151,988	0.03%
TOP17	症状、徴候及び異常臨床所見・ 異常検査所見で他に分類されないもの	3,345	12,968,592	0.03%
TOP18	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	2,802	4,555,968	0.06%
TOP19	甲状腺障害	2,756	3,643,889	0.08%
TOP20	その他の腎尿路系の疾患	2,259	5,551,640	0.04%

	年齢	リフィル処方箋発行回数 (a)	全処方箋発行回数 (b)	リフィル処方箋発行割合 (a/b)
	0歳以上～5歳未満	1,142	18,324,591	0.01%
	5歳以上～10歳未満	4,825	23,394,656	0.02%
	10歳以上～15歳未満	5,522	18,570,113	0.03%
	15歳以上～20歳未満	4,334	14,004,323	0.03%
	20歳以上～25歳未満	4,297	14,359,105	0.03%
	25歳以上～30歳未満	5,581	16,841,921	0.03%
	30歳以上～35歳未満	5,990	18,962,662	0.03%
	35歳以上～40歳未満	7,989	22,281,626	0.04%
	40歳以上～45歳未満	10,068	25,643,322	0.04%
	45歳以上～50歳未満	13,927	32,984,183	0.04%
	50歳以上～55歳未満	16,293	37,897,523	0.04%
	55歳以上～60歳未満	16,628	37,728,585	0.04%
	60歳以上～65歳未満	17,092	39,894,122	0.04%
	65歳以上～70歳未満	18,114	45,930,501	0.04%
	70歳以上～75歳未満	22,685	66,639,000	0.03%
	75歳以上～80歳未満	17,540	60,853,424	0.03%
	80歳以上～85歳未満	13,919	54,218,116	0.03%
	85歳以上～90歳未満	8,707	36,449,228	0.02%
	90歳以上～95歳未満	4,354	16,232,432	0.03%
	95歳以上～100歳未満	1,248	4,427,030	0.03%
	100歳以上	206	658,053	0.03%

令和4年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和5年度調査）の
報告案について

○ リフィル処方箋の実施状況調査 （右下頁）

・報告書（案）	1頁
・NDBデータ	245頁
・調査票	246頁

令和4年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和5年度調査）

令和4年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査
（令和5年度調査）

リフィル処方箋の実施状況調査

報告書（案）

◆◆目次◆◆

I. 調査の概要	1
1. 目的	1
2. 調査対象	1
3. 調査方法	2
4. 調査項目	3
5. 調査検討委員会	8
II. 調査の結果	9
1. 回収結果	9
2. 病院・診療所調査	10
1) 施設の状況（令和5年7月1日現在）	11
2) リフィル処方箋について	27
3. 医師調査	60
1) 回答者ご自身について	61
2) リフィル処方箋について	66
4. 保険薬局調査	79
1) 薬局の状況（令和5年7月1日現在）	80
2) 届出の状況	92
3) リフィル処方箋の対応状況	93
4) 医療機関等との連携について	118
5) リフィル処方箋に関する薬局・薬剤師への影響等	124
5. 患者調査（郵送調査）	132
1) この調査票のご記入者	133
2) 患者さんご自身のことについて	134
3) 医療機関や保険薬局の利用状況等について	138
4) これまでにリフィル処方箋を交付された経験	145
5) これからのリフィル処方箋の利用意向	160
6) リフィル処方箋に関するご意見・ご要望等	185
6. 患者調査（インターネット調査）	186
1) この調査票のご記入者	186
2) 患者さんご自身のことについて	188
3) 医療機関や保険薬局の利用状況等について	194
4) これまでリフィル処方箋を交付された経験	200
5) これからのリフィル処方箋の利用意向	215
6) リフィル処方箋に関するご意見・ご要望等	242

I. 調査の概要

1. 目的

令和4年度診療報酬改定において、症状が安定している患者について、医師の処方により医師及び薬剤師の適切な連携の下、一定期間内に処方箋を反復利用できるリフィル処方箋の仕組みを設け、処方箋の様式を変更した。

これらを踏まえ、本調査では、改定に係る影響等について調査・検証を行った。

2. 調査対象

本調査では、「(1)病院・診療所調査」「(2)医師調査」「(3)保険薬局調査」「(4)患者調査(郵送調査)」および「(5)患者調査(インターネット調査)」の5つの調査を実施した。各調査の対象は、次のとおりである。

(1) 病院・診療所調査

令和4年10月から12月の間に、5件以上のリフィル処方箋の発行実績がある病院から500件、同期間に発行実績がない病院から500件をそれぞれ無作為抽出し、同様に令和4年10月から12月の間に、5件以上のリフィル処方箋の発行実績がある診療所から500件、同期間に発行実績がない診療所から500件をそれぞれ無作為抽出し、合計で2,000施設を調査対象とした。

(2) 医師調査

病院・診療所票の調査対象となった施設に勤める医師のうち、外来を担当する医師を、各施設から2名(リフィル処方箋の発行経験のある医師を特定できている場合は発行したことのある医師と発行したことのない医師を1名ずつ、特定できていない場合は無作為に2名)を調査対象とした。調査客体数は最大で4,000人(2×2,000=4,000)とした。

(3) 保険薬局調査

令和4年10月から12月の間に、5件以上のリフィル処方箋の受付実績がある薬局から500件、同期間に受付実績がない薬局から500件をそれぞれ無作為抽出し、合計で1,000施設を調査対象とした。

(4) 患者調査(郵送調査)

上記(1)病院・診療所調査の対象施設の調査日に外来した患者、並びに、上記(3)保険薬局調査の対象施設の調査日に来局した患者を調査対象とした。1施設につき2名を本調査の対象とし、調査客体数は最大で6,000人(2,000×2+1,000×2=6,000人)とした。

(5) 患者調査(インターネット調査)

直近3か月間で、保険薬局に処方箋を持って来局した患者を調査対象とした。調査客体数は3,000人とした。

3. 調査方法

本調査の「(1)病院・診療所調査」「(3)保険薬局調査」「(4)患者調査（郵送調査）」は、郵送発送による自記式アンケート調査方式により実施した。回答は、紙媒体（IDを印字した調査票）に記入後、郵送返送する方法と、専用ホームページより電子調査票をダウンロードし、入力の上、メールへの添付により返送する方法から選択できるようにした。

「(4)患者調査（郵送調査）」については、自記式調査票（患者票）の配布は上記(1)および(3)の対象施設（病院・診療所、保険薬局）を通じて行い、回収は事務局宛の専用返信封筒により患者から直接郵送で行った。

「(2)医師調査」は、医師向けの依頼状の配布は上記(1)の対象施設（病院・診療所）を通じて行い、回収は専用ホームページより Web 上で回答用フォームに記入・送信する形式とした。

「(5)患者調査（インターネット調査）」については、インターネット上での回答・回収とした。

調査実施時期は、令和5年7月26日から9月15日であった。

4. 調査項目

各調査の調査票（「(1)病院・診療所調査」「(2)医師調査」「(3)保険薬局調査」「(4)患者調査（郵送調査）」「(5)患者調査（インターネット調査）」の調査項目は以下のとおりである。

(1) 病院・診療所調査

設問種類	設問項目
1. 施設状況について	所在地（都道府県）
	開設者
	医療機関の種別
	許可病床数
	過去1年間の病床数変更の有無
	標榜診療科
	外来分離の有無
	地域医療情報連携ネットワークの参加有無
	外来を担う医師の人数
	外来の患者数
	処方箋の発行枚数
2. リフィル処方箋について	リフィル処方箋の制度の認知
	（制度を知っている場合）
	リフィル処方箋の制度を知ったきっかけ
	リフィル処方箋を発行したことのある医師を知っている又は自身で発行しているか
	（発行したことのある医師を知っている又は自身で発行した場合）
	施設全体で発行したリフィル処方箋の枚数の把握状況（令和5年4～6月）
	（リフィル処方箋の発行枚数がわかる場合）
	病院全体のリフィル処方箋発行回数、分割調剤発行回数
	（リフィル処方箋の発行枚数がわかる場合）
	リフィル処方箋発行数が多い常勤医師を多い順に、個人別のリフィル発行枚数、全処方箋発行枚数
	（発行したことのある医師を知っている又は自身で発行した場合）
	どのような患者にリフィル処方箋を発行しているか
	（発行したことのある医師を知っている又は自身で発行した場合）
	リフィル処方に関する薬局からの服薬情報提供書（トレーシングレポート）の有無
	（発行したことがあり、トレーシングレポートがあった場合）
	リフィル処方箋のトレーシングレポート受領頻度
	（発行したことがあり、トレーシングレポートがあった場合）
リフィル処方に関するトレーシングレポートで、提供された情報	
（発行したことがあり、トレーシングレポートがあった場合）	
リフィル処方に関するトレーシングレポートで、提供してほしい情報	
（発行したことのある医師を知っている又は自身で発行した場合）	
薬剤師の受診勧奨を受け受診した患者数	
（発行したことのある医師を知っている又は自身で発行した場合）	
リフィル処方箋を発行した理由	
（発行したことのある医師を知らない場合）	
リフィル処方箋を発行しなかった理由	

設問種類	設問項目
	リフィル処方箋の発行について患者からの希望の有無
	リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通し (積極的に検討する場合) 「積極的に検討する」と回答した理由
	(検討には消極的な場合) 「検討には消極的」と回答した理由
	このほか、リフィル処方箋の課題と考えられること

(2) 医師調査

設問種類	設問項目
1. 回答者について	性別
	年代
	主な担当診療科
	外来診察患者数
2. リフィル処方箋について	リフィル処方箋の制度の認知 (制度を知っている場合) リフィル処方箋の制度を知ったきっかけ
	リフィル処方箋の発行有無 (発行したことがある場合) どのような患者にリフィル処方箋を発行しているか
	(発行したことがある場合) リフィル処方箋を発行した理由
	(発行したことがない場合) リフィル処方箋を発行しなかった理由
	リフィル処方箋の発行について患者からの希望の有無
	リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通し (積極的に検討する場合) 「積極的に検討する」と回答した理由
	(検討には消極的な場合) 「検討には消極的」と回答した理由
	このほか、リフィル処方箋の課題と考えられること

(3) 保険薬局調査

設問種類	設問項目
1. 薬局の状況について	所在地（都道府県）
	開設者
	同一グループ等による薬局店舗数
	開設年
	チェーン薬局（同一経営者が20店舗以上を所有する薬局の店舗）か否か
	どのような場に立地しているか
	応需医療機関数
	最も多く処方箋を受け付けた医療機関からの処方箋枚数割合 （最も多く処方箋を受け付けた医療機関からの処方箋枚数割合で） 集中度が最も高い医療機関情報：診療所・病院の別、診療科の種類
	（最も多く処方箋を受け付けた医療機関からの処方箋枚数割合で） 集中度が最も高い医療機関情報：最も多く処方箋を受け付けた医療機関と貴薬局との位置関係
	（最も多く処方箋を受け付けた医療機関からの処方箋枚数割合で） 集中度が最も高い医療機関情報：あてはまる診療科
	貴薬局の売上高に占める保険調剤売上の割合（令和4年度決算）
	調剤基本料の届出状況
	全処方箋の受付回数（令和5年4月～6月の合計）
	職員数（薬剤師、かかりつけ薬剤師、その他事務職員等）
	貴薬局の認定等の状況
	2. 届出の状況について
地域支援体制加算の届出	
連携強化加算の届出の有無	
3. リフィル処方箋の対応状況について	リフィル処方箋の仕組みについて知っているか
	リフィル処方箋の受付経験
	（受付ありの場合） 受け付けたリフィル処方箋を発行した医療機関数
	（受付ありの場合） どのような関係の医療機関からリフィル処方箋を受け付けたか
	（受付ありの場合） どの診療科のリフィル処方箋を受け付けたか
	（受付ありの場合） どの診療科のリフィル処方箋を受け付けたか、の中で最も多くリフィル処方箋を受け付けた診療科
	（受付ありの場合） リフィル処方箋の受付件数（令和5年4月～6月の合計）
	（受付ありの場合） リフィル処方箋の総使用件数の調剤が終わった枚数（令和5年4月～6月）
	（受付ありの場合） リフィルの上限まで使用されなかった理由
	（受付あり、受診勧奨をした場合） 薬剤師が受診勧奨をした回数 <全体・調剤時・フォローアップ時>
	（受付あり、受診勧奨をした場合<フォローアップ時が1件以上>） 受診勧奨を判断し、説明する際の処方医への相談状況

設問種類	設問項目
	(受付あり、受診勧奨をした場合) 薬剤師が受診勧奨をした理由
	(受付あり、受診勧奨をした場合) 受診勧奨の際に行ったこと
	(受付ありの場合) リフィル処方箋による調剤の可/否の判断に困った経験の有無
	(受付あり、調剤の可/否の判断に困った場合) リフィル処方箋による調剤の可/否の判断に困った際に行った疑義照会の内容
	(受付ありの場合) 1枚のリフィル処方箋の処方の途中で薬局が変わった経験の有無
	(受付あり、薬局が途中で変わった経験ありの場合) リフィル処方の途中で患者が薬局を変えた場合の内訳
	(受付あり、薬局が途中で変わった経験あり、自薬局から他薬局がある場合) どのような方法で他薬局へ情報提供を行ったか
	(受付あり、薬局が途中で変わった経験あり、自薬局から他薬局がある場合) どのような内容を情報提供したか
	(受付あり、薬局が途中で変わった経験あり、他薬局から自薬局がある場合) どのような方法で他薬局から情報提供を受けたか
	(受付あり、薬局が途中で変わった経験あり、他薬局から自薬局がある場合) どのような内容を情報提供されたか
	(受付ありの場合) リフィル処方箋に関する情報提供を受ける際、提供してほしい情報
	(受付ありの場合) リフィル処方箋の対応方法について薬局内の手順書の状況
	(受付ありの場合) リフィル処方箋の次回調剤日の管理方法
	(受付ありの場合) 薬局でリフィル処方箋を受けるにあたって課題と感ずること
4. 医療機関との連携について	服薬情報等提供料の算定の有無
	リフィル処方箋の患者に関して医師に服薬指導提供書（トレーシングレポート）を提供した経験の有無
	(リフィル処方箋のトレーシングレポート提供ありの場合) リフィル処方箋の患者に関して医師に服薬指導提供書（トレーシングレポート）で提供した情報の内容
5. リフィル処方箋の薬局・薬剤師への影響等について	リフィル処方箋導入による薬局・薬剤師業務等への影響
	患者からのリフィル処方箋に関する相談を受けた経験の有無
	(患者からのリフィル処方箋に関する相談を受けたことがある場合) 受けた相談の内容
	(患者からのリフィル処方箋に関する相談を受けたことがある場合) 患者の希望を処方医に連絡したことの有無

(4) 患者調査（郵送調査）・（5）患者調査（インターネット調査）

設問種類	設問項目	
1. 調査票の記入者について	この調査票のご記入者は患者さんご本人か	
2. 患者自身のことについて	性別	
	年齢	
	お住まい	
	薬局の窓口で支払うお金の有無	
3. 医療機関や保険薬局の利用状況について	ご自身が、定期的を受診している医療機関（病院・診療所）、診療科の数	
	定期的に決まった薬の処方を受けているか （定期的に決まった薬の処方を受けている場合）	
	定期的な処方を受けている期間	
	リフィル処方箋を知っているか	
4. これまでリフィル処方箋を交付された経験について	リフィル処方箋について医師から説明を受けたことの有無 （説明を受けた場合）	
	リフィル処方箋についての説明はどのように行われたか （説明を受けた場合）	
	リフィル処方箋についての説明は理解できたか	
	リフィル処方箋を交付されたことの有無 （交付有る場合）	
	リフィル処方箋を交付されたのはどのような薬か （交付有る場合）	
	直近のリフィル処方箋は、何回反復利用できる処方箋か （交付有る場合）	
	直近のリフィル処方箋は、1回あたり何日分のお薬が処方されたか （交付有る場合）	
	リフィル処方箋の1回目の処方で、どこの薬局に行ったか （交付有る場合）	
	リフィル処方箋の2回目以降の処方で、薬局を変えたか （交付有り、2回目以降薬局を変えた場合）	
	薬局を変更した理由 （交付有り、2回目以降薬局を変えた場合）	
	2回目以降のリフィル時に、薬剤師から受診が必要と言われたかの有無	
	5. これからのリフィル処方箋の利用意向について	リフィル処方箋を使用することについて、メリットになると感じるもの
		リフィル処方箋を使用することについて、デメリットになると感じるもの
		今後、病状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいと思うか
リフィル処方箋を利用するにあたり必要だと感じることは何か		
リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか、1回目		
リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか、2回目		
6. リフィル処方箋に関するご意見・ご要望	リフィル処方箋に関するご意見・ご要望等	

5. 調査検討委員会

本調査を実施するにあたり、調査設計、調査票の作成、調査の実施、集計・分析、報告書案等の検討を行うため、以下のとおり、調査検討委員会を設置・計2回開催した。

【委員】（○は委員長、五十音順、敬称略）

- | | |
|--------|---|
| 秋山 美紀 | 慶應義塾大学環境情報学部 教授（第1回まで委員長） |
| 津留 英智 | 社会医療法人水光会 宗像水光会総合病院 理事長
全日本病院協会 医療保険・診療報酬委員会 委員長 |
| 豊見 敦 | 公益社団法人日本薬剤師会 常務理事 |
| 羽鳥 裕 | はとりクリニック 理事長 |
| ○本田 文子 | 一橋大学大学院経済学研究科・社会科学高等研究院 教授 |

【オブザーバー】（敬称略）

- | | |
|-------|-----------------------|
| 永瀬 伸子 | お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系 教授 |
|-------|-----------------------|

※所属は報告書取りまとめ時のもの

II. 調査の結果

1. 回収結果

「(1)病院・診療所調査」の有効回答数（施設数）は700件、有効回答率は35.0%、「(2)医師調査」の有効回答数（医師数）は528件、「(3)保険薬局調査」の有効回答数（施設数）は582件、有効回答率は58.2%、「(4)患者調査（郵送調査）」の有効回答数は1,119件、「(5)患者調査（インターネット調査）」の有効回答数は3,000件であった。

図表 1-1 今年度の回収の状況

	発送数	有効回答数	有効回答率
(1)病院・診療所調査	2,000件	700件	35.0%
病：リフィル発行実績有り	500件	215件	43.0%
病：リフィル発行実績無し	500件	147件	29.4%
診：リフィル発行実績有り	500件	192件	38.4%
診：リフィル発行実績無し	500件	146件	29.2%
(2)医師調査	—	528件	—
(3)保険薬局調査	1,000件	582件	58.2%
リフィル受付実績有り	500件	305件	61.0%
リフィル受付実績無し	500件	276件	55.2%
(4)患者調査（郵送調査）	—	1,119件	—
(5)患者調査（インターネット調査）	—	3,000件	—

※保険薬局調査については、回収IDが不明のケースが1件発生したため、全体集計には含まれているものの、リフィル処方箋の受付実績あり、なしのどちらの小分類にも含まれていない回答がある。

※医師調査、患者調査（郵送調査）については、病院や薬局から何部配布されたかが把握できない方法で調査を行っていることから、発送数と有効回答率の表記を行っていない。また、患者調査（インターネット調査）については、回答数が3,000件になるまで回収を続けるという他との調査とは異なる方式で調査を行っていることから、発送数、有効回答率の表記を行っていない。

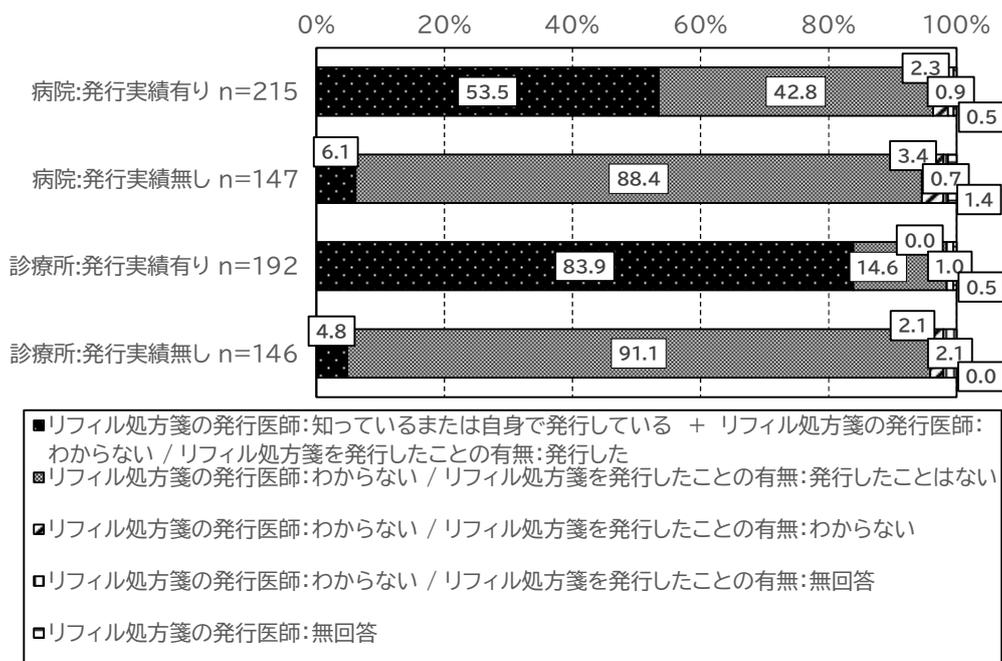
2. 病院・診療所調査

【調査対象等】

○調査票 施設票
調査対象：令和4年10月から12月の間に、5件以上のリフィル処方箋の発行実績がある病院から500件、同期間に発行実績がない病院から500件をそれぞれ無作為抽出し、同様に令和4年10月から12月の間に、5件以上のリフィル処方箋の発行実績がある診療所から500件、同期間に発行実績がない診療所から500件をそれぞれ無作為抽出した
回答数：700施設
回答者：開設者・管理者

以下、本調査では「リフィル処方箋の発行実績が有る」とは、令和4年10月～12月の期間に5件以上、NDB上でのリフィル処方箋の発行実績が有ることを指します。また、グラフ内の凡例である「病院：発行有り」「病院：発行無し」「診療所：発行有り」「診療所：発行無し」の発行有無は、上記の令和4年10月～12月の期間に5件以上、NDB上でのリフィル処方箋の発行実績の有無を指します。

図表 2-1 院内でリフィル処方箋を発行したことのある医師を知っている、または自身で発行しているか、わからない場合はリフィル処方箋を交付したことがないか（病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別）

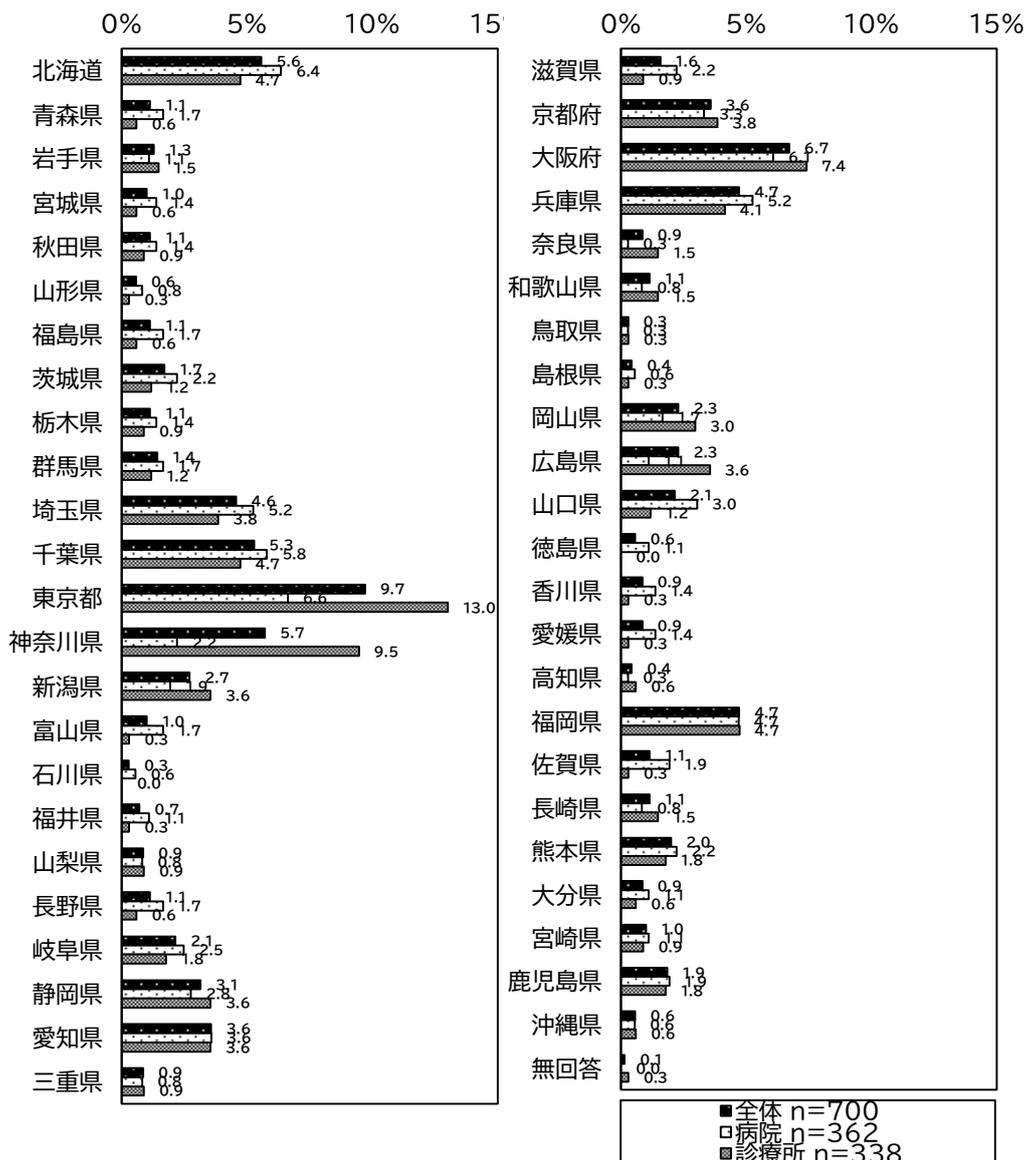


1) 施設の状況（令和5年7月1日現在）

(1) 所在地

回答があった医療機関の所在地は病院・診療所ともに「東京都」が最も多くそれぞれ6.6%、13.0%であった。

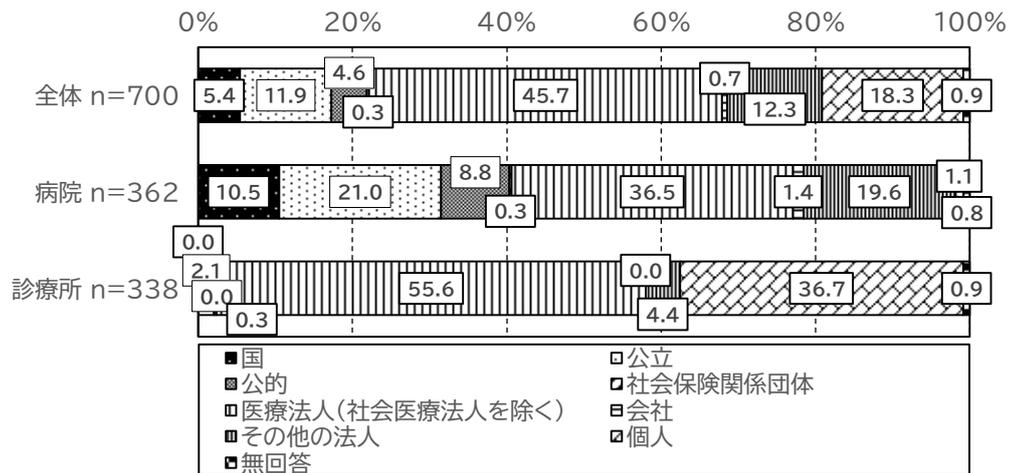
図表 2-2 所在地
(病院・診療所別)



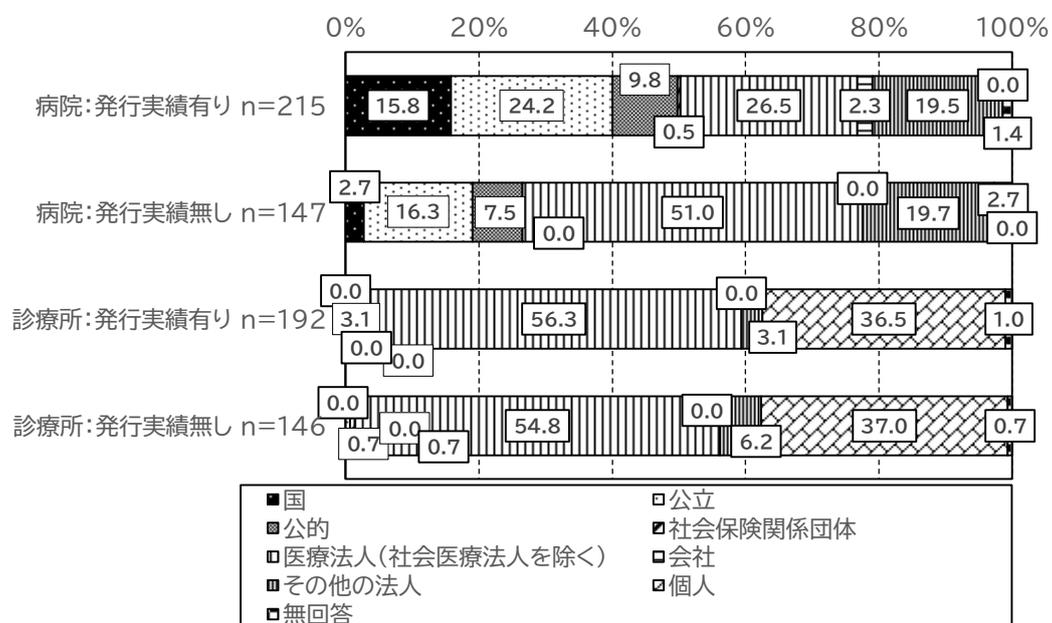
(2) 開設者

回答があった医療機関の開設者は病院・診療所ともに「医療法人（社会医療法人を除く）」が最も多くそれぞれ 36.5%、55.6%であった。

図表 2-3 開設者
(病院・診療所別)



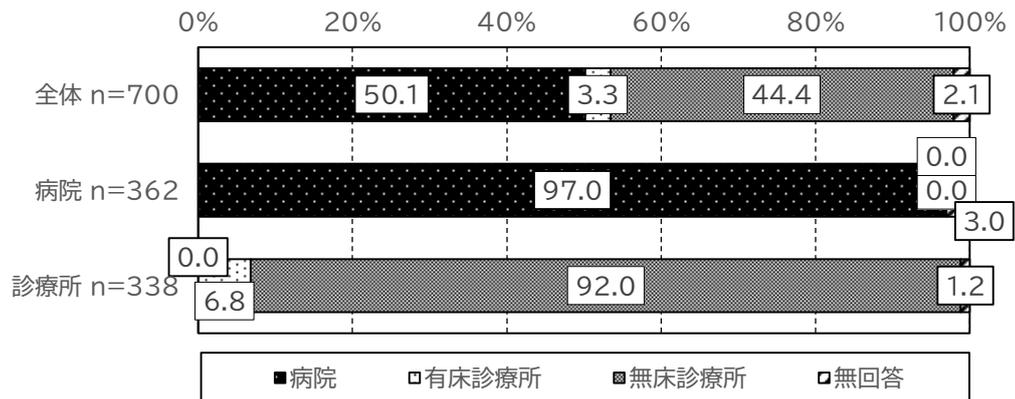
図表 2-4 開設者
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)



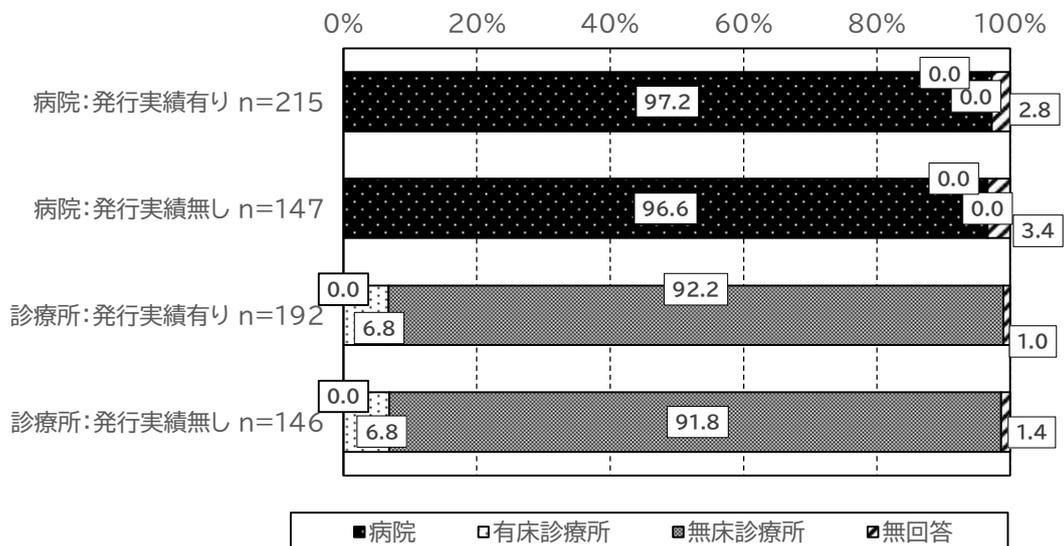
(3) 医療機関の種別

医療機関の種別についての調査票上での回答は、診療所は「有床診療所」が6.8%、「無床診療所」が92.0%であった。

図表 2-5 医療機関の種別
(病院・診療所別)



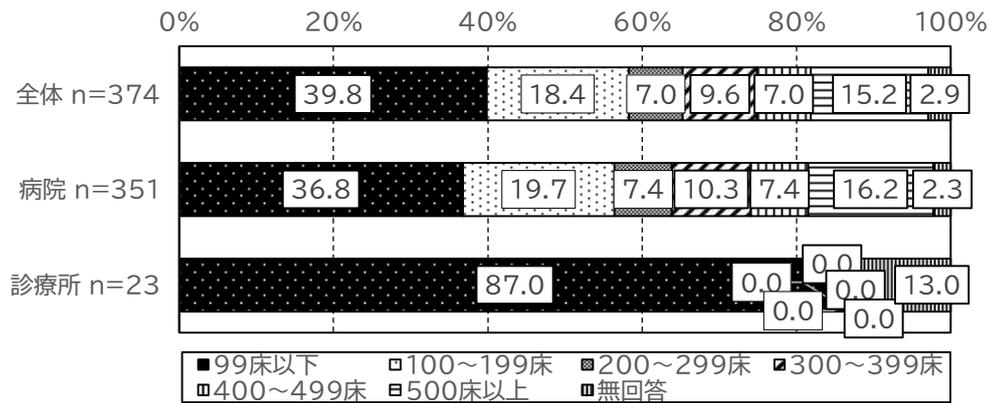
図表 2-6 医療機関の種別
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)



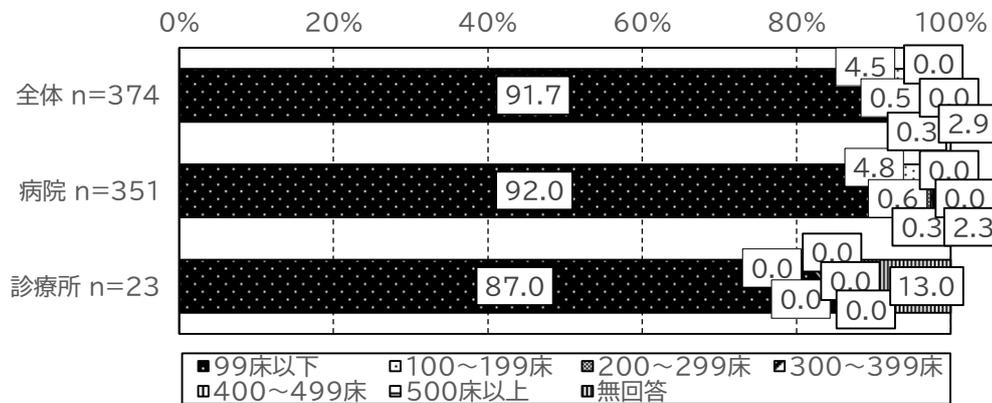
(4) 許可病床数 ((3)で施設種別を「病院」または「有床診療所」と回答した施設が対象)

許可病床数については、リフィル処方箋発行実績の有る病院では施設全体で400～499床が最も多く26.3%、リフィル処方箋発行実績の無い病院では99床以下最も多く40.8%であった。

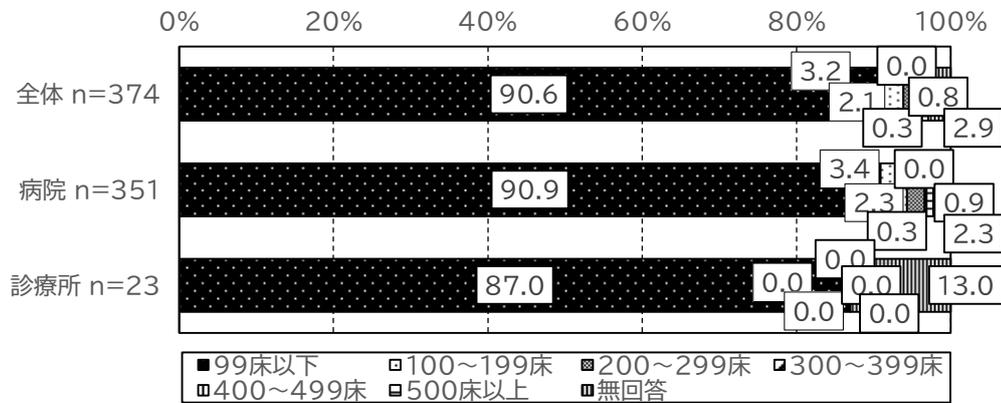
図表 2-7 許可病床数 一般病床
(病院・診療所別)



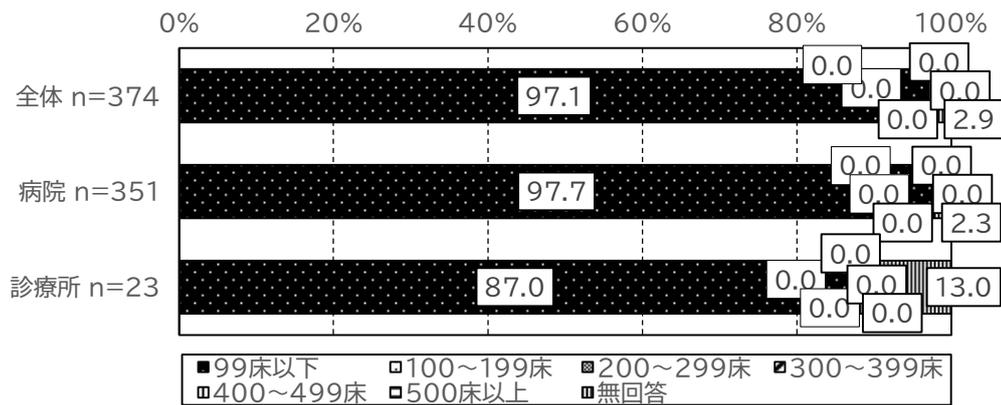
図表 2-8 許可病床数 療養病床
(病院・診療所別)



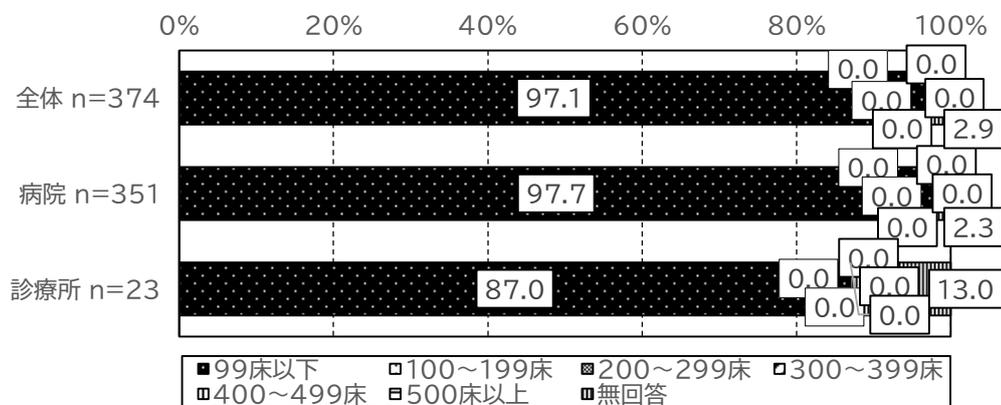
図表 2-9 許可病床数 精神病床
(病院・診療所別)



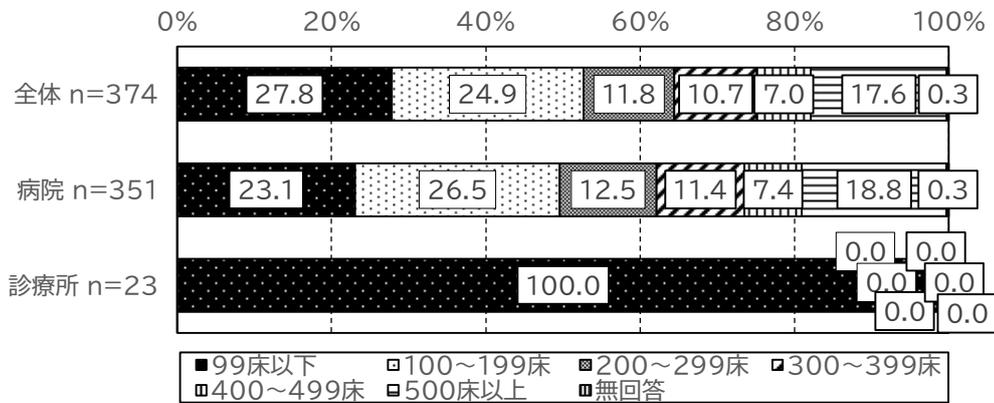
図表 2-10 許可病床数 結核病床
(病院・診療所別)



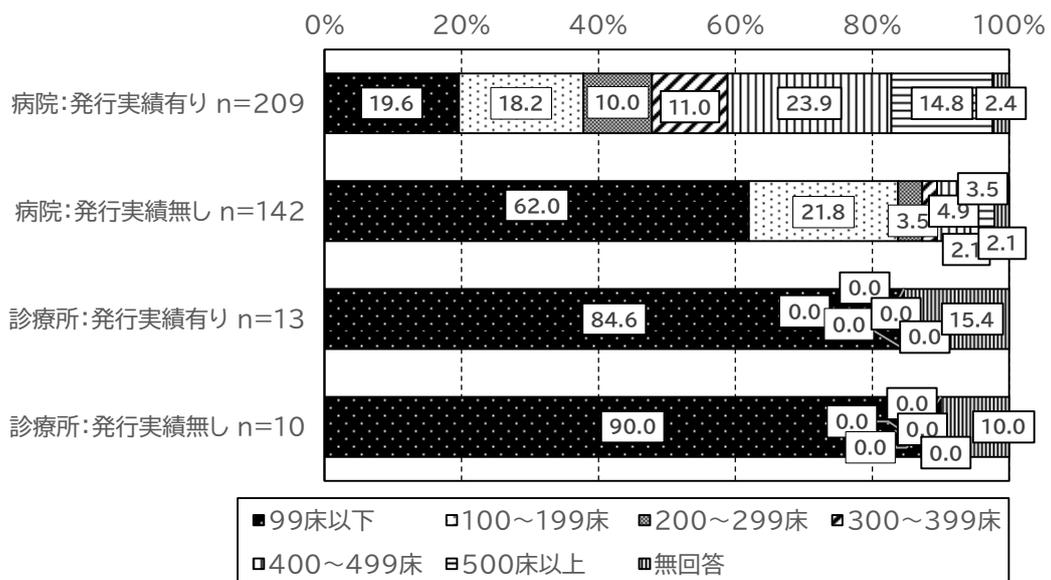
図表 2-11 許可病床数 感染症病床
(病院・診療所別)



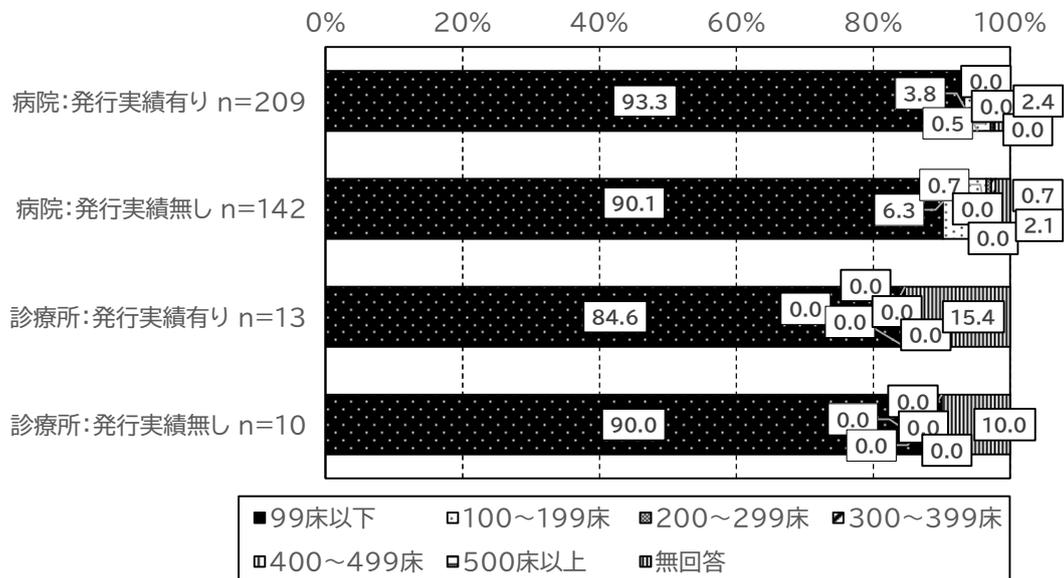
図表 2-12 許可病床数 施設全体
(病院・診療所別)



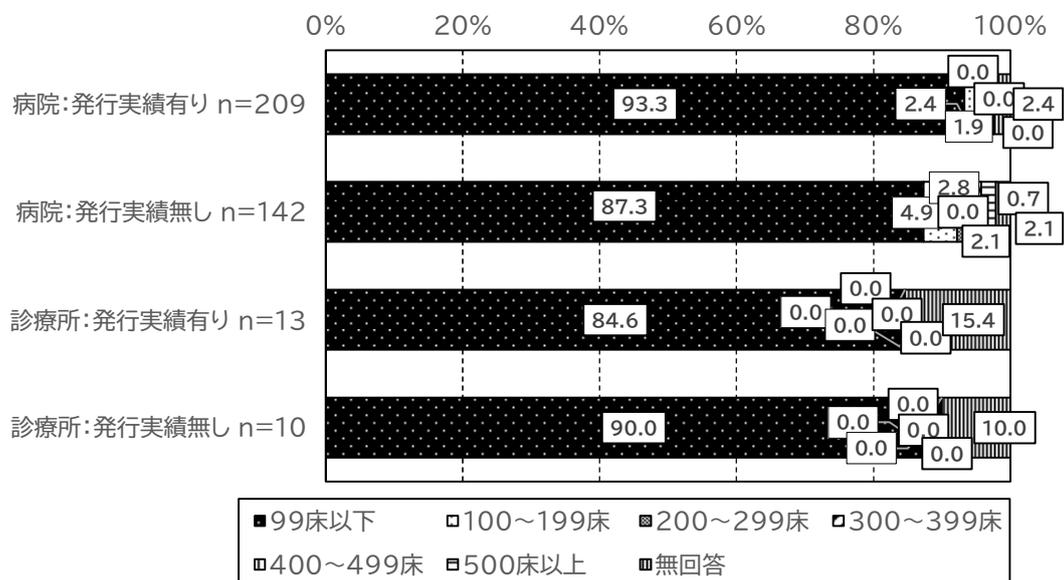
図表 2-13 許可病床数 一般病床
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)



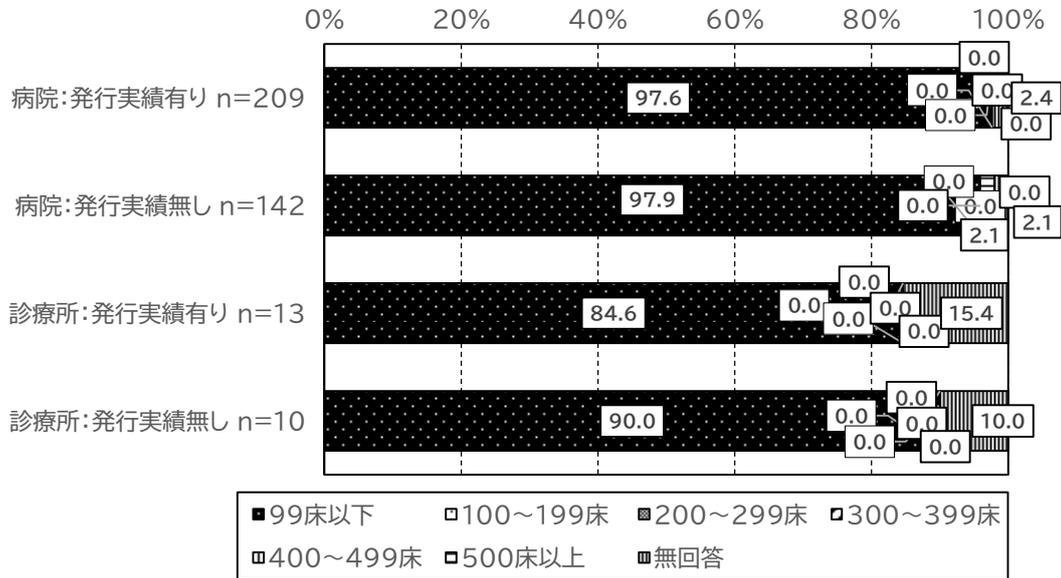
図表 2-14 許可病床数 療養全体
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)



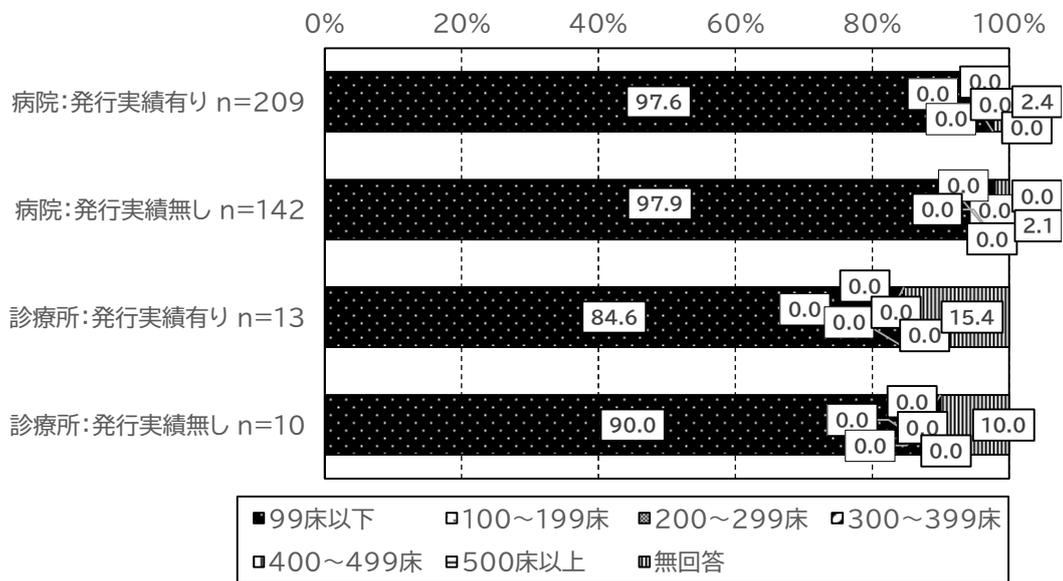
図表 2-15 許可病床数 精神全体
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)



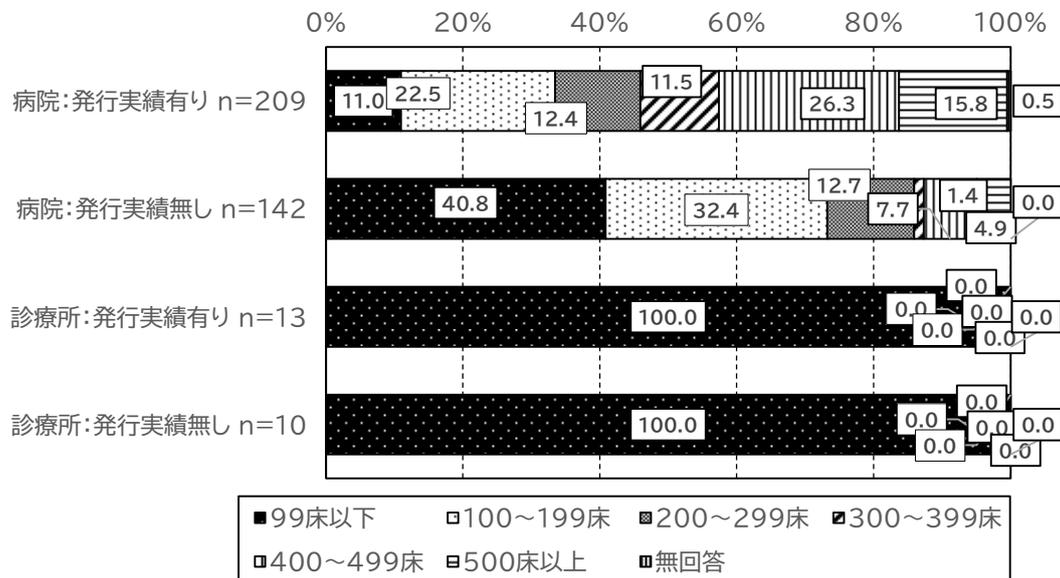
図表 2-16 許可病床数 結核全体
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)



図表 2-17 許可病床数 感染症全体
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)



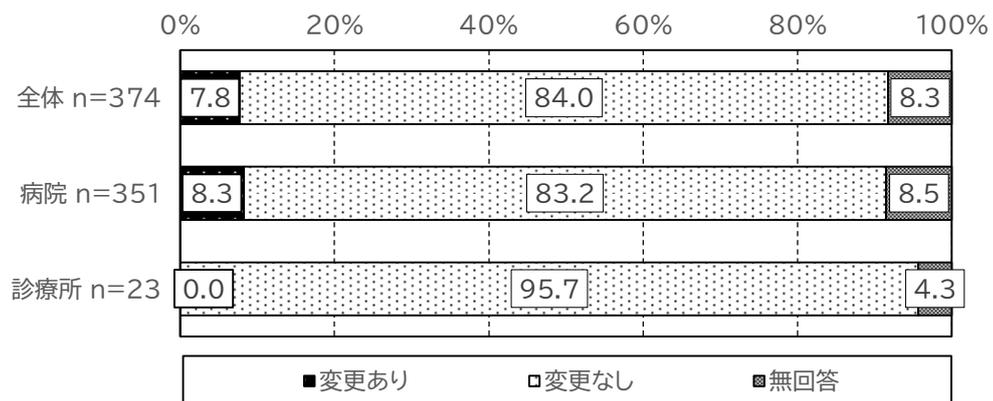
図表 2-18 許可病床数 施設全体
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)



(5) 過去1年間の病床数変更 ((3)で施設種別を「病院」または「有床診療所」と回答した施設が対象)

過去1年間の病床数変更について、病院では「変更あり」が8.3%、「変更なし」が83.2%であった。診療所では「変更あり」が0.0%、「変更なし」が95.7%であった。

図表 2-19 過去1年の病床数変更
(病院・診療所別)

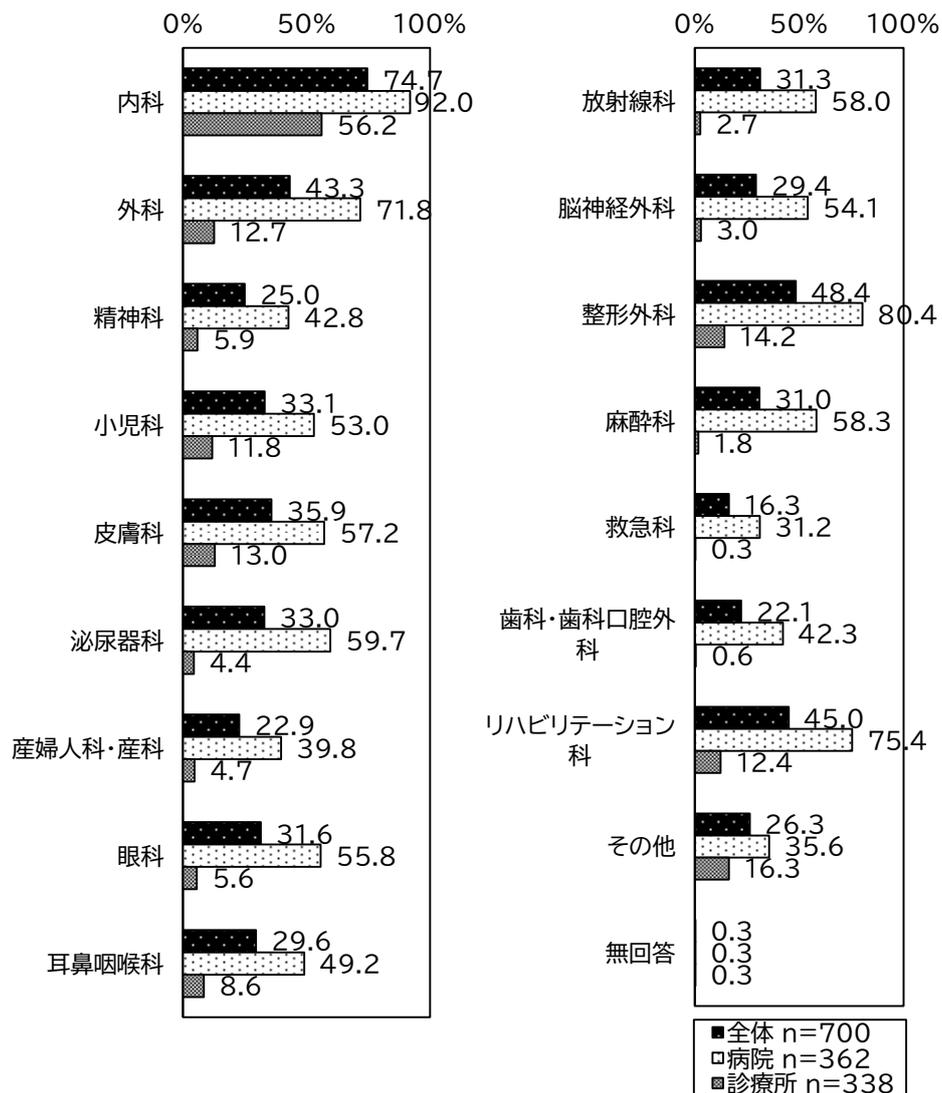


(6) 標榜診療科

標榜診療科は、病院では「内科」が92.0%で最も多く、診療所も同じく「内科」が最も多く、56.2%であった。

また、リフィル処方箋の発行実績の有る病院・発行実績の無い病院・発行実績の有る診療所・発行実績の無い診療所の全てにおいて、「内科」が最も多くそれぞれ96.3%、85.7%、54.2%、58.9%であった。

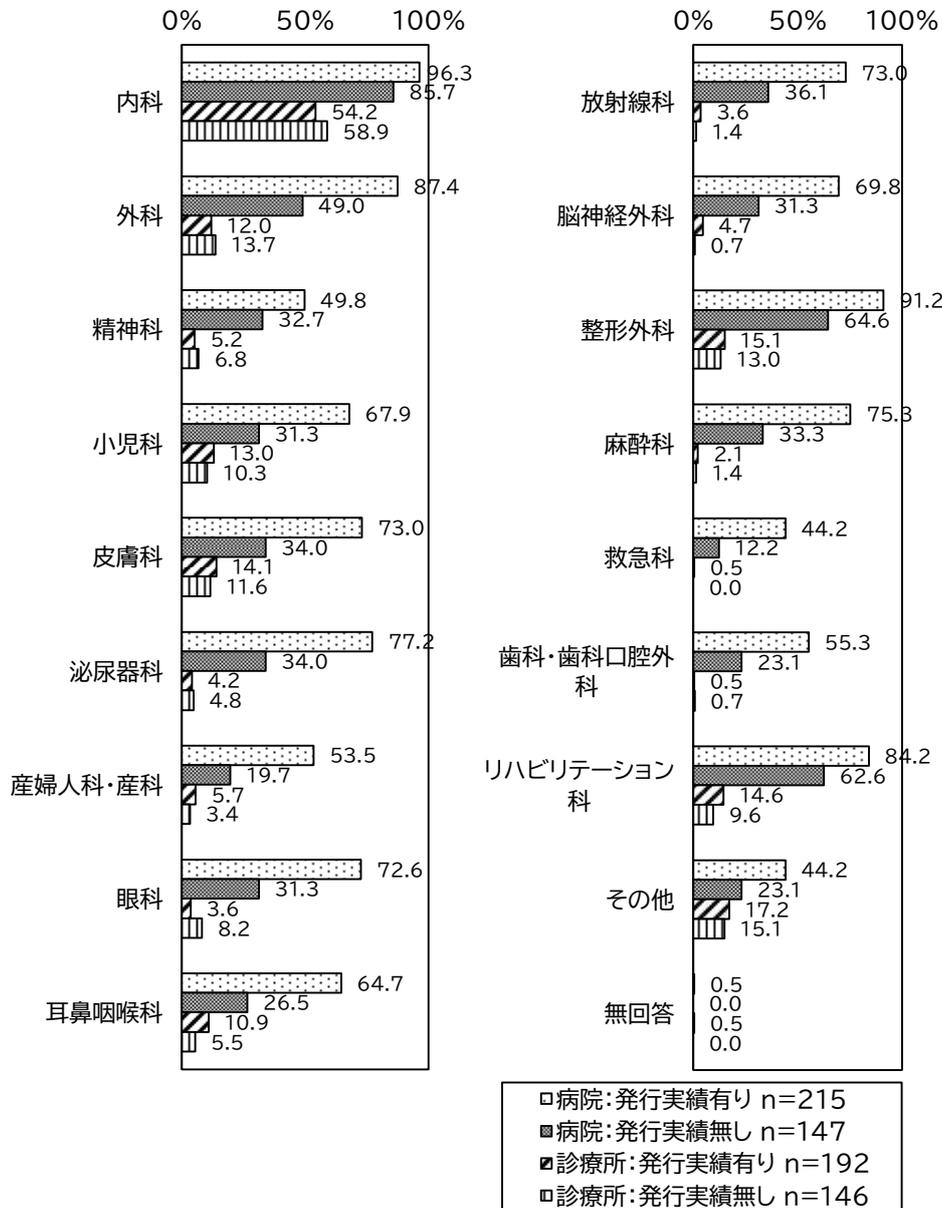
図表 2-20 標榜診療科（複数回答）
（病院・診療所別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・形成外科
- ・病理診断科
- ・緩和ケア内科
- ・アレルギー科
- ・リウマチ科 など

図表 2-21 標榜診療科（複数回答）
（病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別）

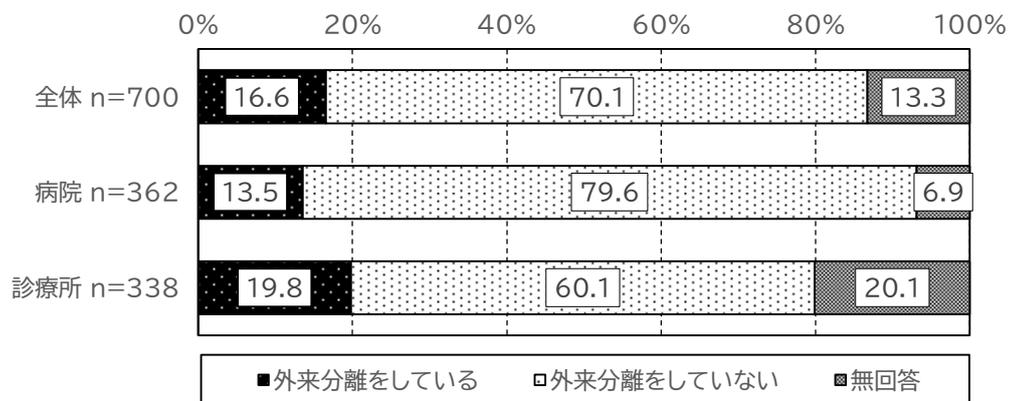


(7) 外来分離の状況

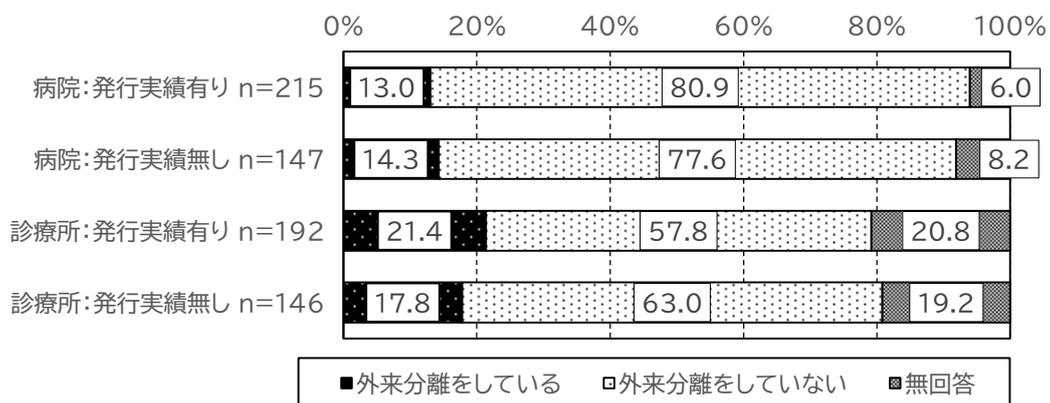
外来分離の状況については、病院では「外来分離をしている」が13.5%、「外来分離をしていない」が79.6%であった。診療所では「外来分離をしている」が19.8%、「外来分離をしていない」が60.1%であった。

リフィル処方箋の発行実績の有る病院・発行実績の無い病院・発行実績の有る診療所・発行実績の無い診療所において「外来分離をしている」割合はそれぞれ、13.0%、14.3%、21.4%、17.8%であった。

図表 2-22 外来分離の状況
(病院・診療所別)



図表 2-23 外来分離の状況
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)

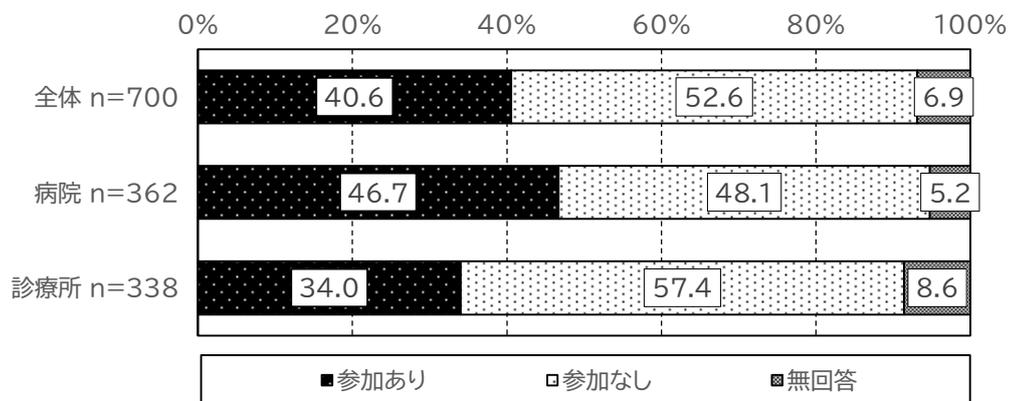


(8) 地域医療情報連携ネットワークへの参加の有無

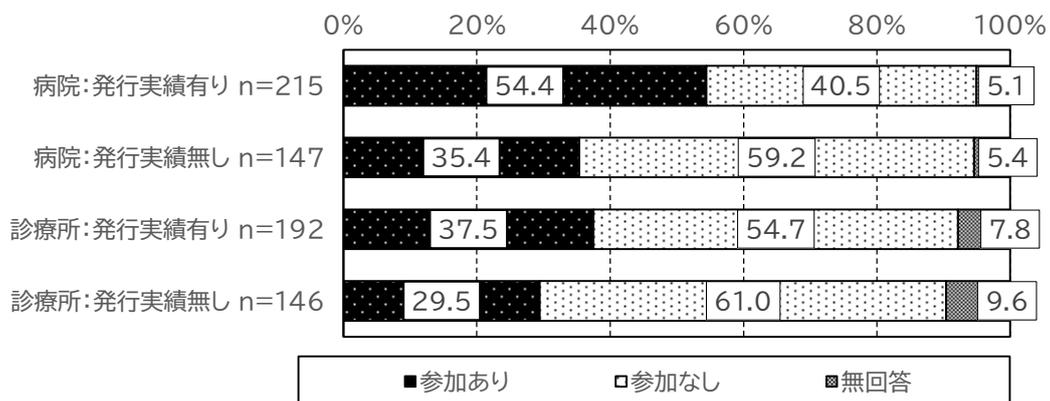
地域医療情報連携ネットワークへの参加の有無については、病院は「参加あり」が46.7%、「参加なし」が48.1%、診療所は「参加あり」が34.0%、「参加なし」が57.4%であった。

リフィル処方箋の発行実績の有る病院・発行実績の無い病院・発行実績の有る診療所・発行実績の無い診療所において「参加あり」の割合はそれぞれ、54.4%、35.4%、37.5%、29.5%であった。

図表 2-24 地域医療情報連携ネットワークへの参加の有無
(病院・診療所別)



図表 2-25 地域医療情報連携ネットワークへの参加の有無
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)



(9) 外来を担う医師の人数

外来を担う医師の人数については、リフィル処方箋の発行実績の有る病院では常勤医師が平均で 86.8 人、リフィル処方箋の発行実績の無い病院では常勤医師が平均で 21.4 人、リフィル処方箋の発行実績の有る診療所では常勤医師が平均で 2.2 人、リフィル処方箋の発行実績の無い診療所では常勤医師が平均で 1.2 人であった。

図表 2-26 外来を担う医師の人数
(病院・診療所別)

(単位：人)

		回答 施設数	平均値	標準偏差	中央値
全体	常勤医師	669	31.7	82.2	2.0
	非常勤医師 実人数	468	27.7	59.0	9.0
	非常勤医師 常勤換算	382	10.4	39.4	2.2
病院	常勤医師	342	60.2	107.3	64.0
	非常勤医師 実人数	313	39.4	68.8	18.0
	非常勤医師 常勤換算	268	14.4	46.4	4.5
診療所	常勤医師	327	1.8	6.3	1.0
	非常勤医師 実人数	155	4.1	12.2	1.0
	非常勤医師 常勤換算	114	1.0	3.3	0.2

図表 2-27 外来を担う医師の人数
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)

(単位：人)

		回答 施設数	平均値	標準偏差	中央値
病院： 発行実績 有り	常勤医師	203	86.8	124.2	46.0
	非常勤医師 実人数	191	52.0	81.3	31.0
	非常勤医師 常勤換算	165	19.8	57.1	5.8
病院： 発行実績 無し	常勤医師	139	21.4	57.4	6.0
	非常勤医師 実人数	122	19.7	34.1	10.0
	非常勤医師 常勤換算	103	5.6	16.6	2.0
診療所： 発行実績 有り	常勤医師	187	2.2	8.3	1.0
	非常勤医師 実人数	88	5.4	15.7	1.0
	非常勤医師 常勤換算	64	1.3	4.4	0.2
診療所： 発行実績 無し	常勤医師	140	1.2	0.4	1.0
	非常勤医師 実人数	67	2.3	4.4	1.0
	非常勤医師 常勤換算	50	0.5	0.8	0.1

(10) 外来の患者数

4～6月の外来の患者数については、リフィル処方箋の発行実績の有る病院では平均で18,615.6人、リフィル処方箋の発行実績の無い病院では平均で8,755.4人、リフィル処方箋の発行実績の有る診療所では平均で4,193.3人、リフィル処方箋の発行実績の無い診療所では平均で3,409.9人であった。

図表 2-28 外来の患者数
(病院・診療所別)

(単位：人)

	回答 施設数	平均値	標準偏差	中央値
全体	565	8344.9	9587.0	4507.0
病院	260	13609.7	11555.8	9707.5
診療所	305	3856.8	3582.2	3065.0

図表 2-29 外来の患者数
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)

(単位：人)

	回答 施設数	平均値	標準偏差	中央値
病院：発行有り	128	18615.6	11848.5	17303.5
病院：発行無し	132	8755.4	8926.8	5870.0
診療所：発行有り	174	4193.3	4155.9	3298.5
診療所：発行無し	131	3409.9	2582.9	2712.0

(11) 処方箋の発行枚数

4～6月の処方箋の発行枚数については、リフィル処方箋の発行実績の有る病院では平均で10,816.8枚、リフィル処方箋の発行実績の無い病院では平均で5003.5枚、リフィル処方箋の発行実績の有る診療所では2,964.4枚、リフィル処方箋の発行実績の無い診療所では平均で1,844.5枚であった。

図表 2-30 処方箋の発行枚数
(病院・診療所別)

(単位：枚)

	回答 施設数	平均値	標準偏差	中央値
全体	563	5209.7	5923.3	2900.0
病院	274	8101.1	7061.2	6086.0
診療所	289	2468.4	2388.9	2074.0

図表 2-31 処方箋の発行枚数
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)

(単位：枚)

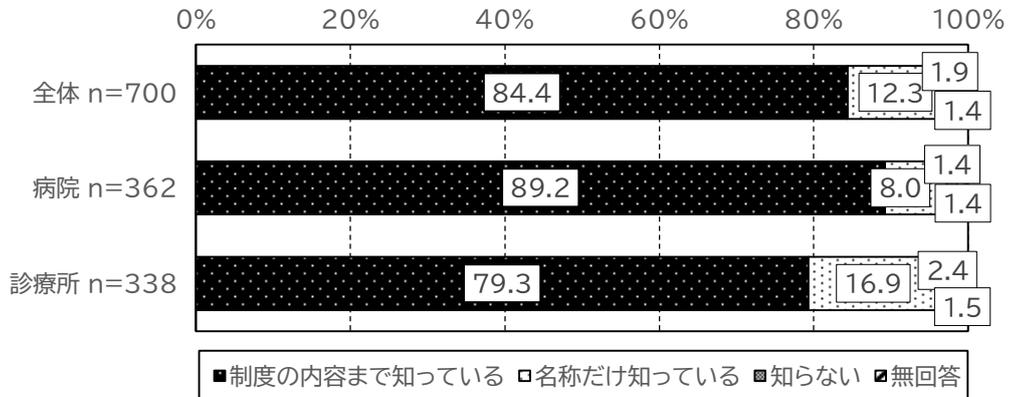
	回答 施設数	平均値	標準偏差	中央値
病院：発行有り	146	10816.8	7254.3	10367.0
病院：発行無し	128	5003.5	5380.3	2821.0
診療所：発行有り	161	2964.4	2752.3	2598.0
診療所：発行無し	128	1844.5	1641.2	1700.0

2) リフィル処方箋について

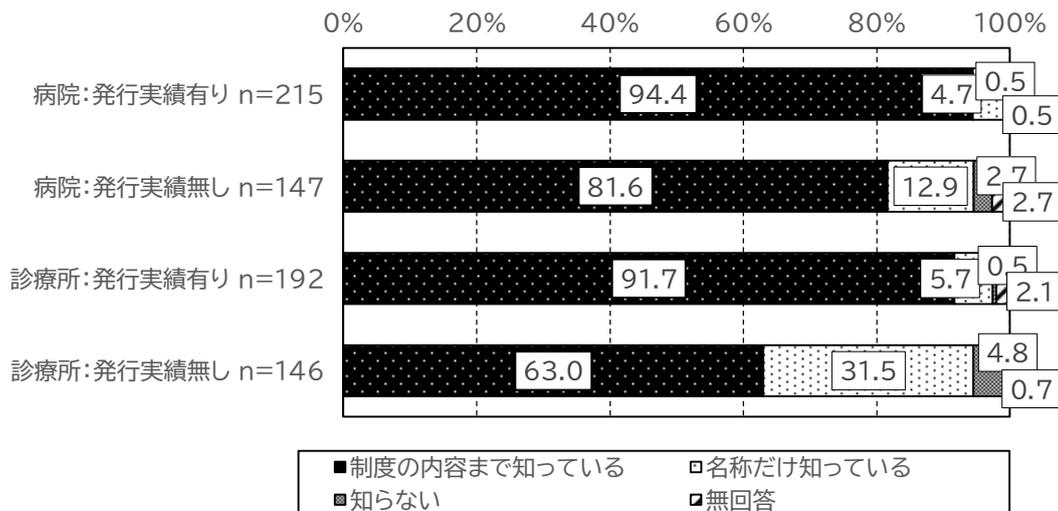
(1) リフィル処方箋の制度の認知

リフィル処方箋の制度の認知について、リフィル処方箋の発行実績の有る病院・発行実績の無い病院・発行実績の有る診療所・発行実績の無い診療所において「制度の内容を知っている」の割合はそれぞれ、94.4%、81.6%、91.7%、63.0%であった。「名称だけ知っている」の割合はそれぞれ、4.7%、12.9%、5.7%、31.5%であった。

図表 2-32 リフィル処方箋の制度の認知
(病院・診療所別)



図表 2-33 リフィル処方箋の制度の認知
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)



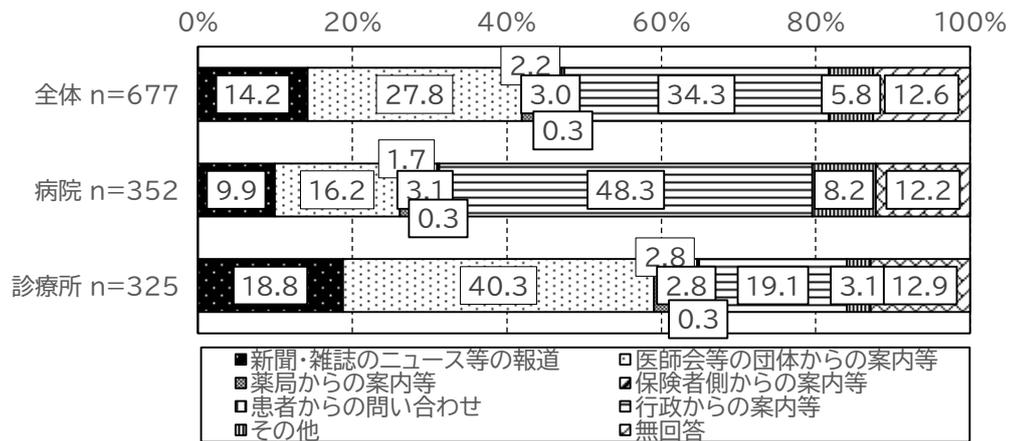
① リフィル処方箋の制度を知ったきっかけ (リフィル処方箋について制度の内容まで知っているまたは、名称だけ知っている施設が対象)

リフィル処方箋の制度を知ったきっかけについて、リフィル処方箋について制度の内容を知っているまたは、名称だけ知っている施設に対して確認した。その結果、病院では「行政からの案内等」が48.3%で最も多く、診療所では「医師会等の団体からの案内等」が40.3%と最も多かった。

リフィル処方箋の発行実績の有る病院・発行実績の無い病院においては「行政からの案内等」が最も多くそれぞれ55.9%、36.7%であった。発行実績の有る診療所・発行実績の無い診療所においては「医師会等の団体からの案内等」が最も多くそれぞれ37.4%、

44.2%であった。

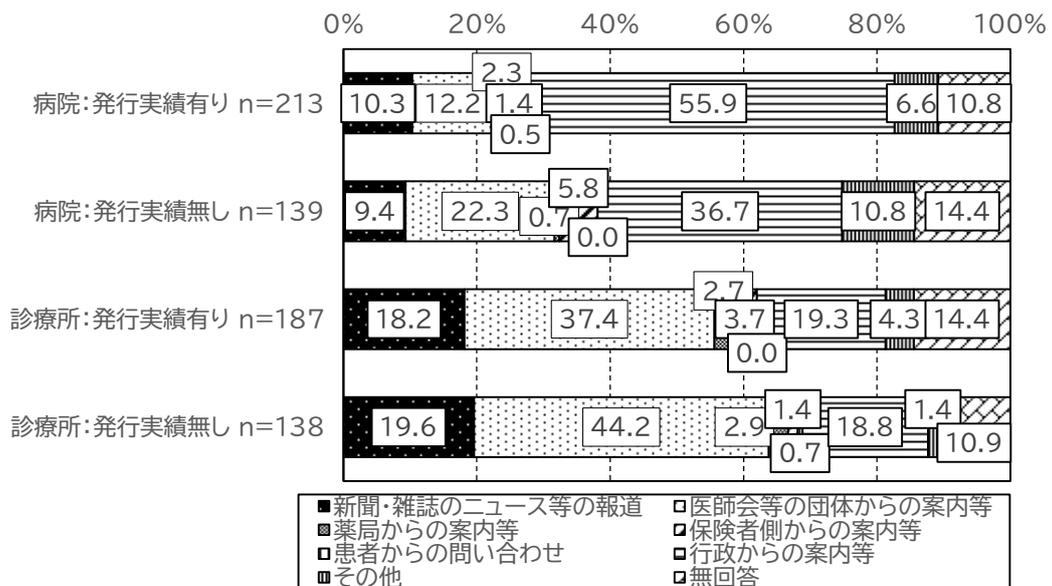
図表 2-34 制度を知ったきっかけ
 (リフィル処方箋について制度の内容まで知っているまたは、名称だけ知っている施設が対象)
 (病院・診療所別)



【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・診療報酬改定の説明資料
- ・レセコンメーカーの会社からの説明

図表 2-35 制度を知ったきっかけ
 (リフィル処方箋について制度の内容まで知っているまたは、名称だけ知っている施設が対象)
 (病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)

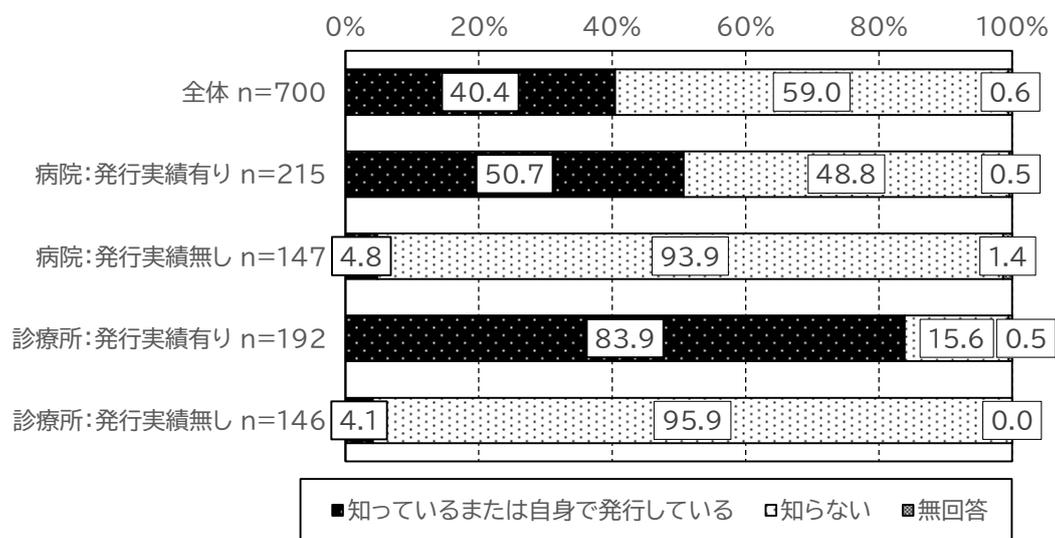


(2) 院内でリフィル処方箋を発行したことがある医師を知っている、または自身で発行しているか

院内でリフィル処方箋を発行したことがある医師を知っている、または自身で発行しているかについては、「知っているまたは自身で発行している」と回答した割合は、リフィル処方箋の発行実績のある病院・発行実績のない病院・発行実績のある診療所・発行実績のない診療所において、それぞれ 50.7%、4.8%、83.9%、4.1%であった。

図表 2-36 院内でリフィル処方箋を発行したことがある医師を知っている、または自身で発行しているか

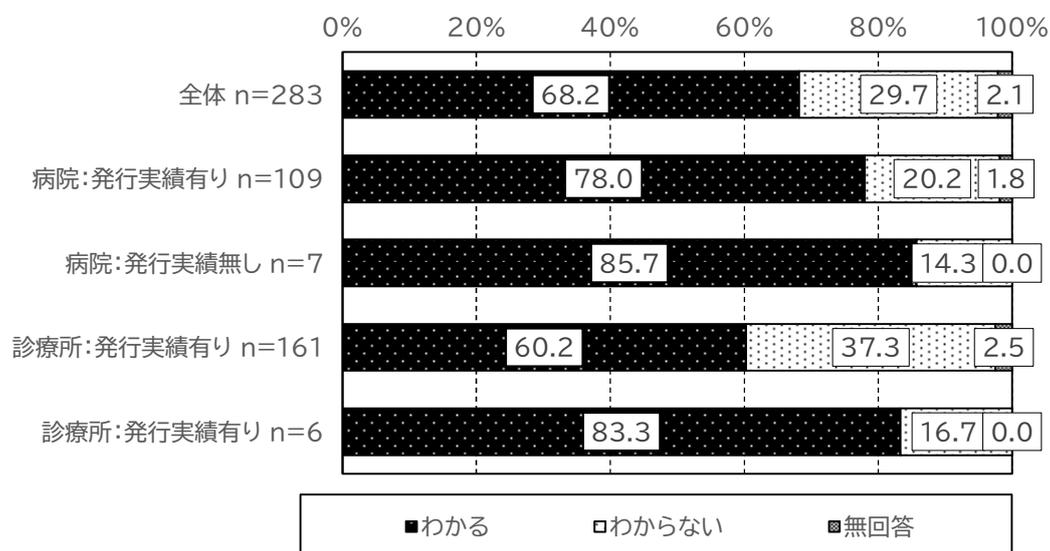
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)



① 院内全体で発行したリフィル処方箋の枚数の把握状況 (令和5年4~6月)
(院内でリフィル処方箋の発行したことがある医師を知っているまたは自身で発行している施設のみ対象)

院内全体で発行したリフィル処方箋の枚数の把握状況 (令和5年4~6月) について、院内でリフィル処方箋の発行したことがある医師を知っているまたは自身で発行していると回答した施設に確認した。その結果、リフィル処方箋の枚数を「わかる」と回答した割合は、リフィル処方箋の発行実績が有る病院・発行実績の無い病院・発行実績の有る診療所・発行実績の無い診療所において、それぞれ 78.0%、85.7%、60.2%、83.3%であった。

図表 2-37 施設全体で発行したリフィル処方箋の枚数の把握状況（令和5年4～6月）
 （院内でリフィル処方箋の発行したことがある医師を知っているまたは
 自身で発行していると回答した施設）
 （病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別）



② 貴院が全体で発行したリフィル処方箋の発行枚数等（施設全体で発行したリフィル処方箋の枚数がわかる施設のみ対象）

リフィル処方箋の発行枚数について、院内でリフィル処方箋の発行したことがある医師を知っているまたは自身で発行していると回答した施設に確認した。その結果、院内全体で発行したリフィル処方箋の枚数の平均は、リフィル処方箋の発行実績が有る病院・発行実績の無い病院・発行実績の有る診療所・発行実績の無い診療所において、それぞれ412.5枚、1.3枚、89.8枚、1.2枚であった。

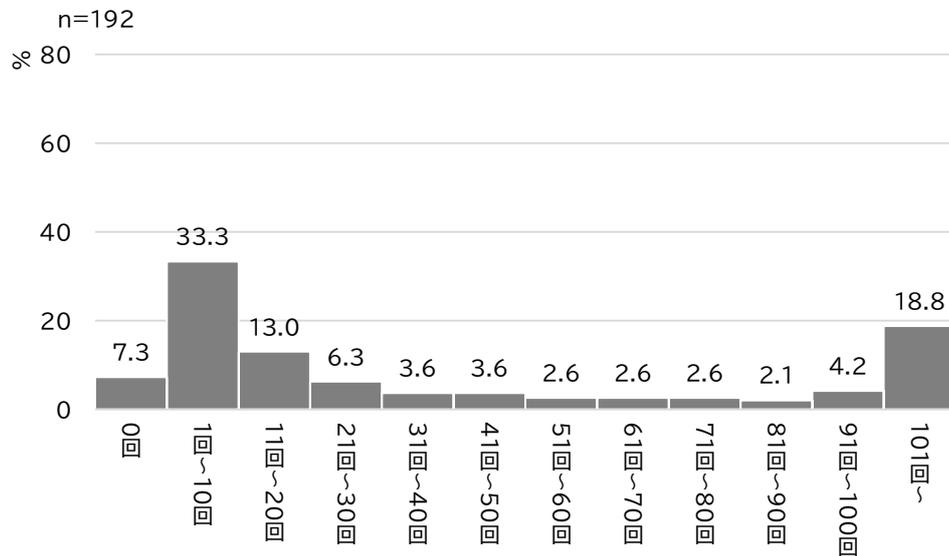
図表 2-38 施設全体で発行したリフィル処方箋の発行枚数
 （施設全体で発行したリフィル処方箋の枚数がわかる施設のみ対象）
 （病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別）

（単位：枚）

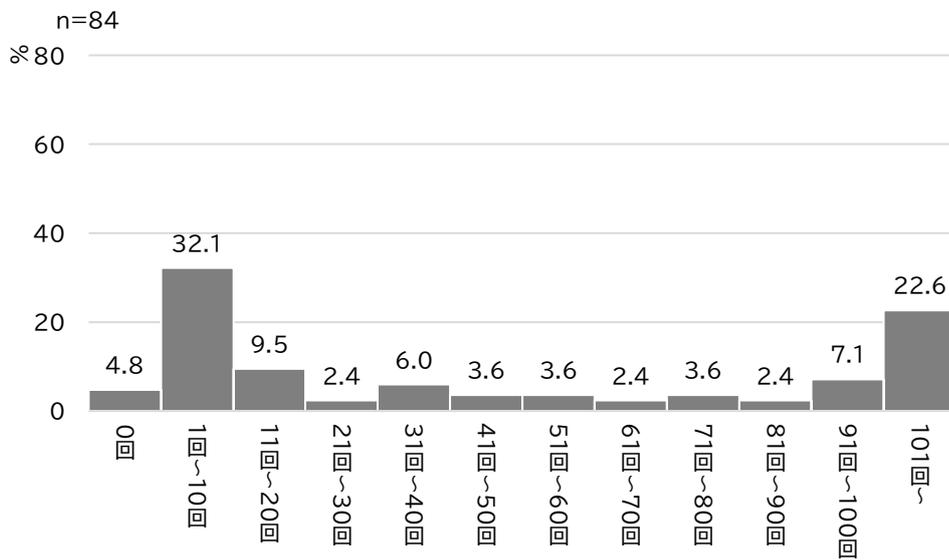
		回答施設数	平均値	標準偏差	中央値
全体		192	225.9	1548.8	17.0
病院	発行実績有り	84	412.5	2323.3	33.0
	発行実績無し	6	1.3	2.0	0.5
診療所	発行実績有り	97	89.8	224.5	17.0
	発行実績無し	5	1.2	2.2	0.0

※ 施設単位でのリフィル処方箋の発行実績の有無は、令和4年10～12月の実績にもとづいており、調査の回答時点とは異なる。

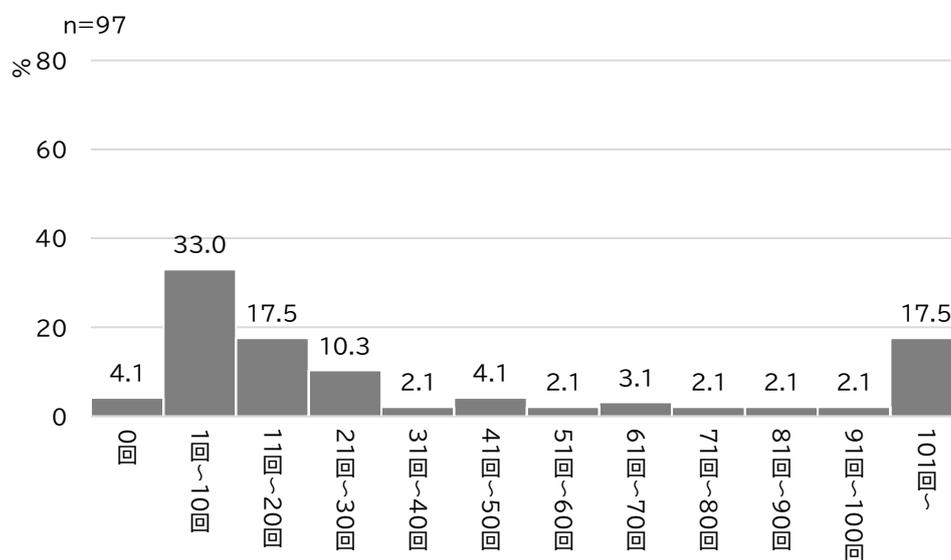
図表 2-39 施設全体で発行したリフィル処方箋の発行枚数等の分布
 (施設全体で発行したリフィル処方箋の枚数がわかる施設のみ対象)
 (全体)



図表 2-40 貴院が全体で発行したリフィル処方箋の発行枚数等の分布
 (施設全体で発行したリフィル処方箋の枚数がわかる施設のみ対象)
 (リフィル処方箋の発行実績の有る病院)



図表 2-41 貴院が全体で発行したリフィル処方箋の発行枚数等の分布
 (施設全体で発行したリフィル処方箋の枚数がわかる施設のみ対象)
 (リフィル処方箋の発行実績の有る診療所)

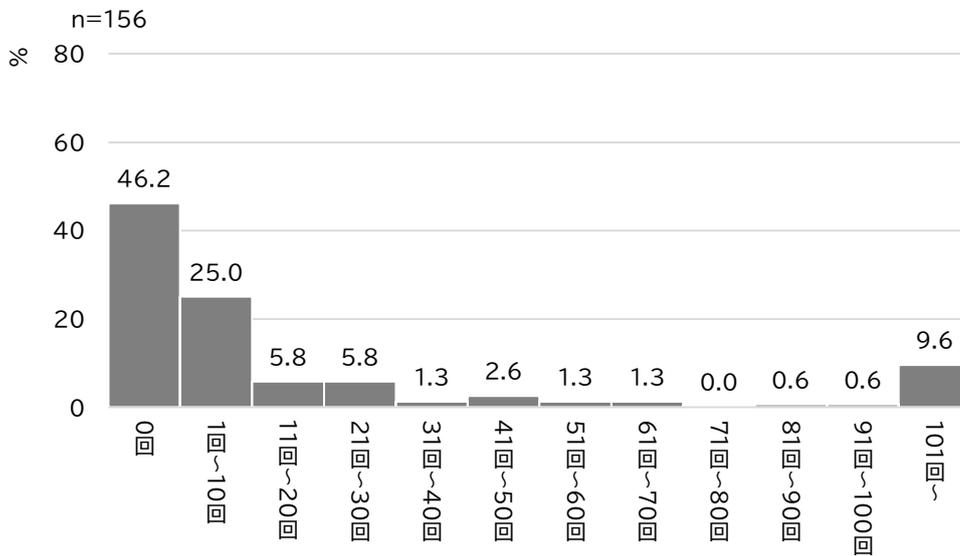


図表 2-42 貴院が全体で発行した分割調剤の指示回数等
 (施設全体で発行したリフィル処方箋の枚数がわかる施設のみ対象)
 (病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)

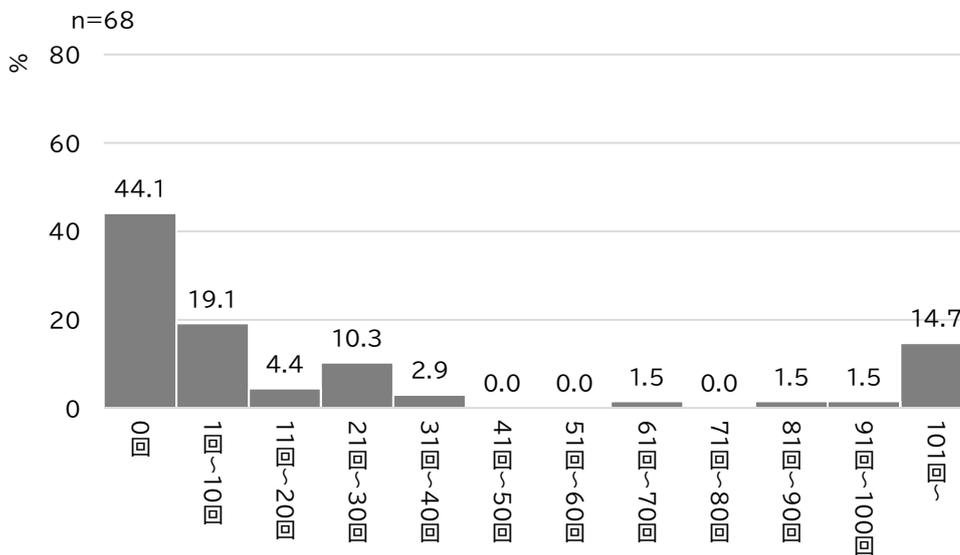
(単位：回)

		回答 施設数	平均値	標準偏差	中央値
全体		156	39.5	127.9	2.0
病院	発行実績有り	68	51.2	132.5	2.0
	発行実績無し	4	0.0	0.0	0.0
診療所	発行実績有り	80	33.5	130.0	2.0
	発行実績無し	4	0.8	1.5	0.0

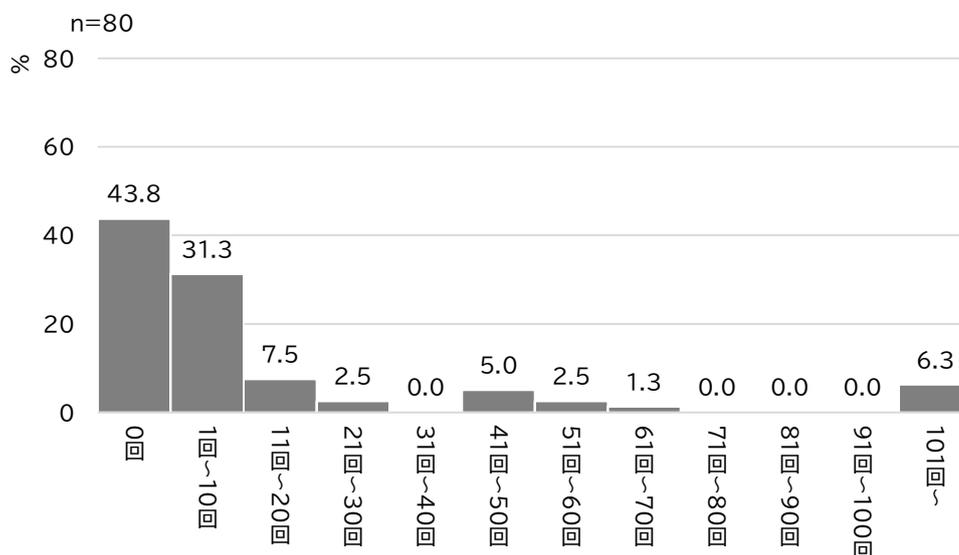
図表 2-43 貴院が全体で発行した発行した分割調剤の指示回数の分布
 (施設全体で発行したリフィル処方箋の枚数がわかる施設のみ対象)
 (全体)



図表 2-44 貴院が全体で発行した発行した分割調剤の指示回数の分布
 (施設全体で発行したリフィル処方箋の枚数がわかる施設のみ対象)
 (リフィル処方箋の発行実績の有る病院)



図表 2-45 貴院が全体で発行した発行した分割調剤の指示回数の分布
 (施設全体で発行したリフィル処方箋の枚数がわかる施設のみ対象)
 (リフィル処方箋の発行実績の有る診療所)



③ 貴院において外来を担当する常勤医師のうち、リフィル処方箋の発行枚数が多い順に上から5番目までの医師の a. 有無、b. リフィル処方箋の発行枚数、c. 全処方箋の発行枚数

【a. 2番目～5番目までの医師の有無】

外来を担当する常勤医師のうちリフィル処方箋の発行枚数が多い順に2番目から5番目までの医師の有無について施設全体で発行したリフィル処方箋の枚数がわかる施設に確認した。その結果、リフィル処方箋の発行実績の有る病院では、2番目～5番目について「有」と答えた割合は、75.3%・65.4%・53.1%・46.9%であった。同様にリフィル処方箋の発行実績の有る診療所において2番目～5番目について「有」と答えた割合は、11.8%・4.3%・3.2%・2.2%であった。

【b. リフィル処方箋の発行枚数】

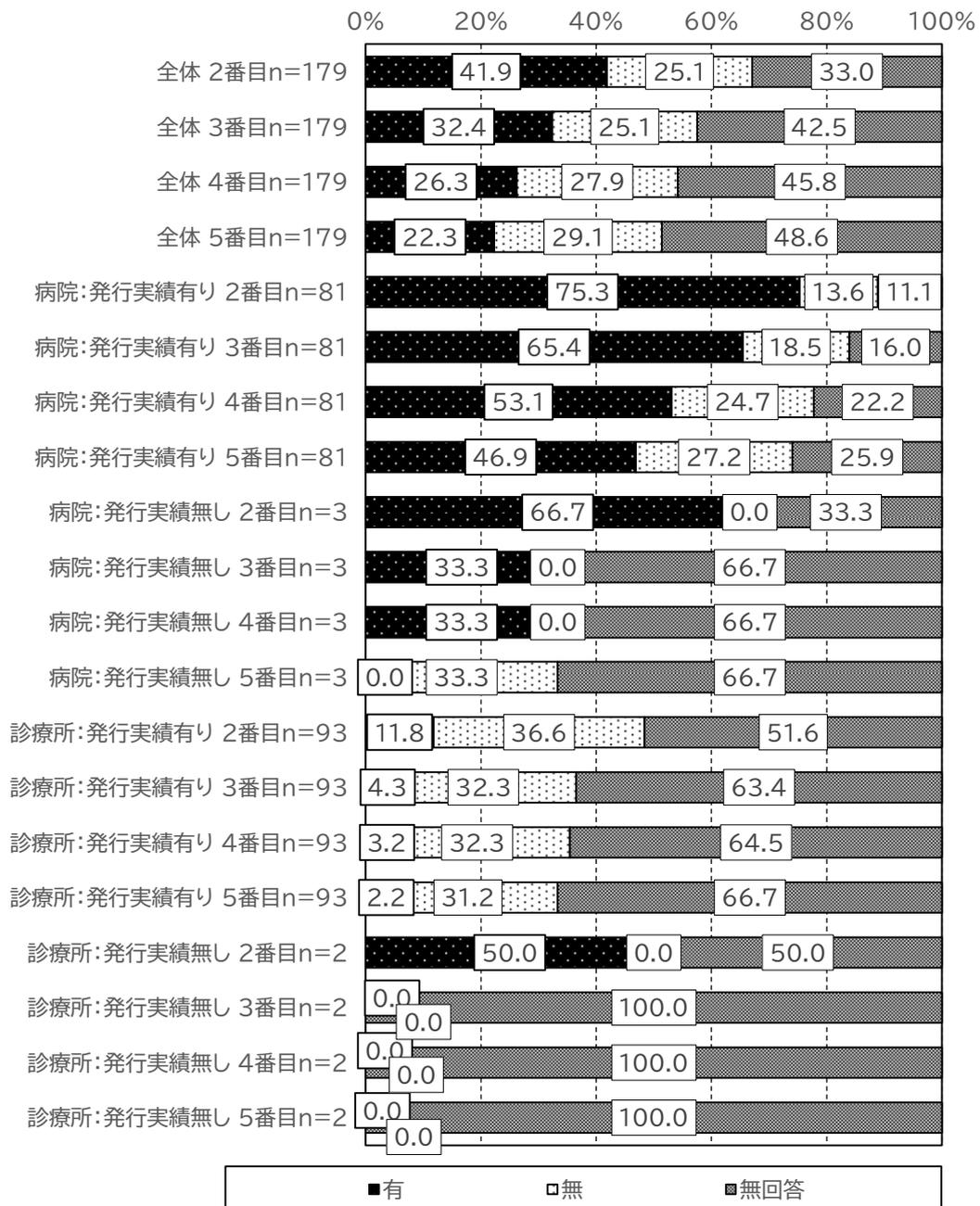
外来を担当する常勤医師のうちリフィル処方箋の発行枚数が多い順に1番目から5番目までの医師のリフィル処方箋発行枚数について施設全体で発行したリフィル処方箋の枚数がわかる施設に確認した。その結果、リフィル処方箋の発行実績の有る病院では、1番目の医師は平均で54.7枚であった。同様にリフィル処方箋の発行実績の有る診療所において1番目の医師は平均で89.1枚であった。

【c. 全処方箋の発行枚数】

外来を担当する常勤医師のうちリフィル処方箋の発行枚数が多い順に1番目から5番目までの医師の全処方箋の発行枚数について施設全体で発行したリフィル処方箋の枚数がわかる施設に確認した。その結果、リフィル処方箋の発行実績の

有る病院では、1番目の医師は平均で454.9枚であった。同様にリフィル処方箋の発行実績の有る診療所において1番目の医師は平均で2120.6枚であった。

図表 2-46 外来を担当する常勤医師のうち、リフィル処方箋の発行枚数が多い順に上から2番目～5番目の医師の有無
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)



図表 2-47 院において外来を担当する常勤医師のうち、リフィル処方箋の発行枚数が多い順に上から1番目～5番目の医師のそれぞれのリフィル処方箋発行枚数（4～6月）
（病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別）

（単位：枚）

		回答 施設数	平均値	標準 偏差	中央値
全体	1番目	154	70.2	186.9	15.5
	2番目	67	31.4	90.7	11
	3番目	53	27.4	88.2	4
	4番目	42	29.4	92.9	4.5
	5番目	36	29.3	92.3	4
病院： 発行実績有り	1番目	72	54.7	120.7	17.5
	2番目	58	33.3	96.7	11.5
	3番目	49	29.4	91.5	5
	4番目	39	31.6	96.1	6
	5番目	35	30.1	93.6	4
病院： 発行実績無し	1番目	3	1.3	0.6	1
	2番目	2	1	0	1
	3番目	1	1	—	1
	4番目	1	1	—	1
	5番目	0	—	—	—
診療所： 発行実績有り	1番目	77	89.1	236.3	16
	2番目	7	24.6	33.7	11
	3番目	3	2	1	2
	4番目	2	1.5	0.7	1.5
	5番目	1	2	—	2
診療所： 発行実績無し	1番目	2	3	2.8	3
	2番目	0	—	—	—
	3番目	0	—	—	—
	4番目	0	—	—	—
	5番目	0	—	—	—

図表 2-48 院において外来を担当する常勤医師のうち、リフィル処方箋の発行枚数が多い順に上から2番目～5番目の医師のそれぞれの全処方箋発行枚数
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)

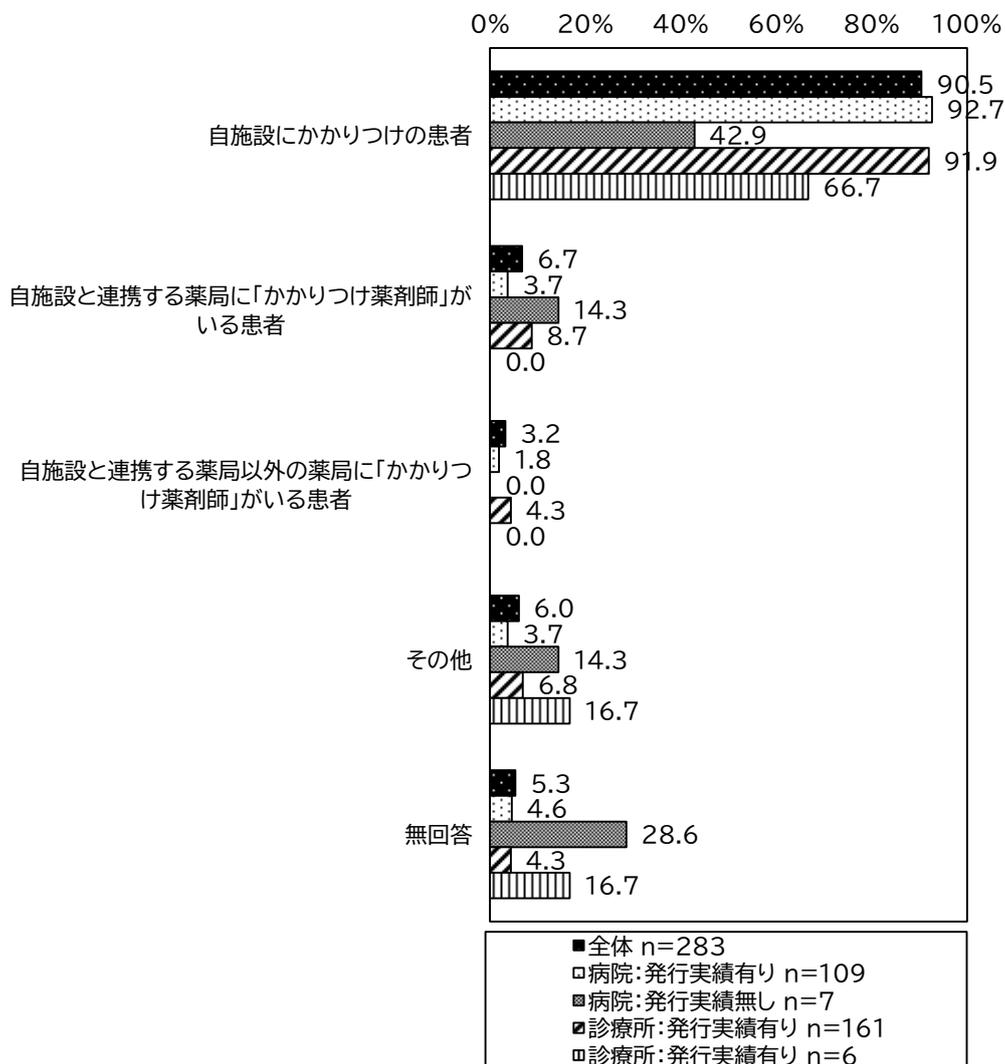
(単位：枚)

		回答 施設数	平均値	標準 偏差	中央値
全体	1 番目	136	1239.3	1502.8	539
	2 番目	63	360.5	379.1	226
	3 番目	53	270.2	264.6	160
	4 番目	43	296.3	275	189
	5 番目	37	246.5	240.4	159
病院： 発行実績有り	1 番目	67	454.9	537.4	273
	2 番目	55	366.1	374.8	228
	3 番目	49	284.6	269.7	191
	4 番目	39	307.7	281.7	189
	5 番目	35	255.3	244.1	163
病院： 発行実績無し	1 番目	2	10	11.3	10
	2 番目	2	6.5	7.8	6.5
	3 番目	1	1	—	1
	4 番目	1	1	—	1
	5 番目	0	—	—	—
診療所： 発行実績有り	1 番目	65	2120.6	1716.1	1869
	2 番目	6	427.2	456.8	224.5
	3 番目	3	125.7	42.4	113
	4 番目	3	246.7	175	194
	5 番目	2	92.5	62.9	92.5
診療所： 発行実績無し	1 番目	2	101.5	142.1	101.5
	2 番目	0	—	—	—
	3 番目	0	—	—	—
	4 番目	0	—	—	—
	5 番目	0	—	—	—

④ どのような患者にリフィル処方箋を発行しているか（院内でリフィル処方箋の発行したことがある医師を知っているまたは自身で発行している施設のみ対象）

どのような患者にリフィル処方箋を発行しているかについて、院内でリフィル処方箋の発行したことがある医師を知っているまたは自身で発行している施設に対して確認した。その結果、リフィル処方箋の発行実績の有る病院・発行実績の無い病院・発行実績の有る診療所・発行実績の無い診療所の全てにおいて「自施設にかかりつけの患者」が最も多くそれぞれ 92.7%、42.9%、91.9%、66.7%であった。

図表 2-49 どのような患者にリフィル処方箋を発行しているか（複数回答）
（病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別）



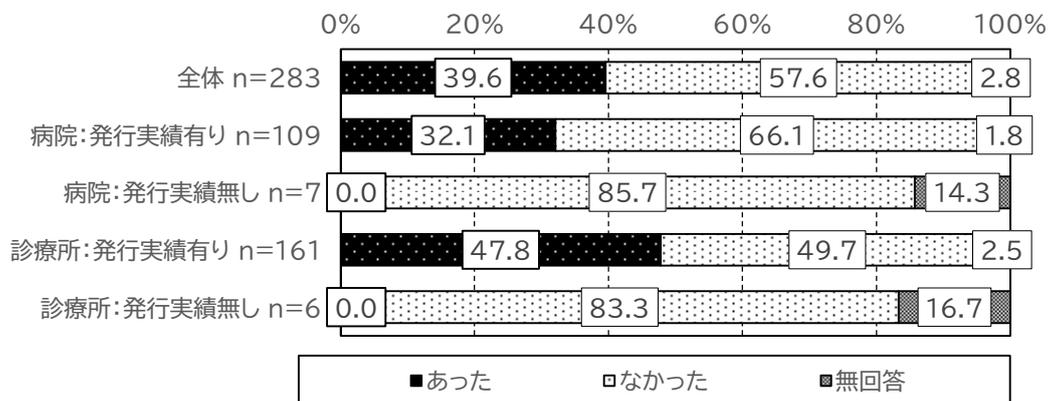
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・慢性疾患で安定している患者
- ・老健施設の入居者
- ・2か月以上にわたってしっかりと内服できている患者
- ・婦人科で低用量ピルを処方する患者 など

① リフィル処方箋に関する薬局からの服薬情報提供書（トレーシングレポート）の有無（院内でリフィル処方箋の発行したことのある医師を知っているまたは自身で発行している施設のみ対象）

リフィル処方箋に関する薬局からの服薬情報提供書（トレーシングレポート）の有無について、院内でリフィル処方箋を発行したことのある医師を知っているまたは自身で発行している施設を対象に確認した。その結果、リフィル処方箋に関する服薬情報提供書が「あった」と回答した割合は、リフィル処方箋の発行実績の有る病院・発行実績の無い病院・発行実績の有る診療所・発行実績の無い診療所でそれぞれ 32.1%、0.0%、47.8%、0.0%であった。

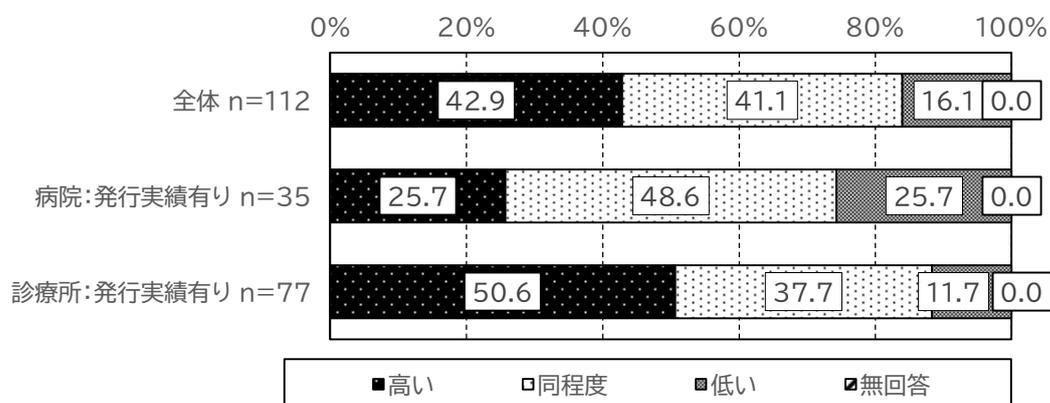
図表 2-50 リフィル処方箋に関する薬局からの服薬情報提供書（トレーシングレポート）の有無（院内でリフィル処方箋の発行したことのある医師を知っているまたは自身で発行している施設のみ対象）
（病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別）



②-5-a. 症状が安定している通常の処方箋と比較したリフィル処方箋のトレーシングレポート受領頻度
 (リフィル処方箋に関する服薬情報提供書があった施設のみ対象)

リフィル処方箋のトレーシングレポート受領頻度について、服薬情報提供書があったと回答した施設に対して確認した。その結果、リフィル処方箋の発行実績の有る病院・発行実績の有る診療所において、症状が安定している通常の処方箋と比較して「高い」と回答した割合はそれぞれ 25.7%、50.6%、「同程度」はそれぞれ 48.6%、37.7%、「低い」はそれぞれ 25.7%、11.7%であった。

図表 2-51 症状が安定している通常の処方箋と比較したリフィル処方箋のトレーシングレポート受領頻度
 (リフィル処方箋に関する服薬情報提供書があった施設のみ対象)
 (病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)

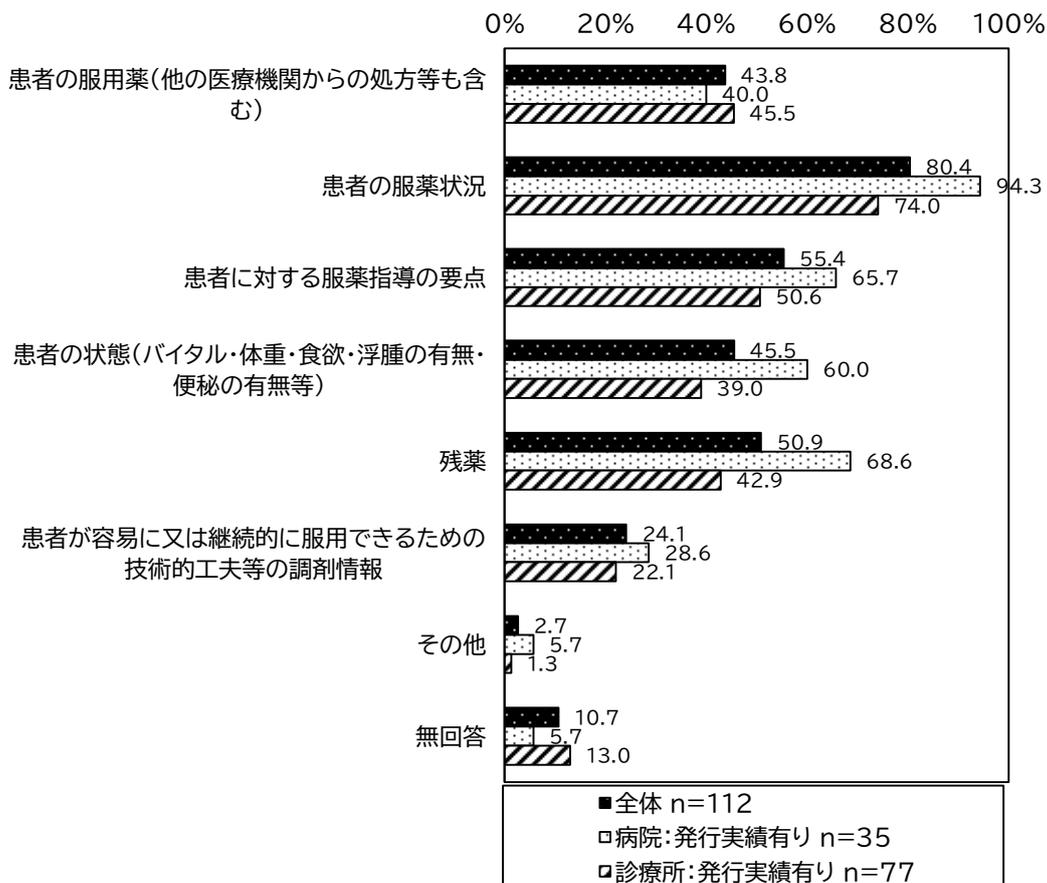


②-5-b.リフィル処方に関するトレーシングレポートで提供された情報

(服薬情報提供書があったと回答した施設のみ対象)

リフィル処方箋に関するトレーシングレポートで提供された情報について、服薬情報提供書があったと回答した施設に対して確認した。その結果、リフィル処方箋の発行実績の有る病院・発行実績の有る診療所のいずれにおいても「患者の服薬状況」が最も多くそれぞれ 94.3%、74.0%であった。

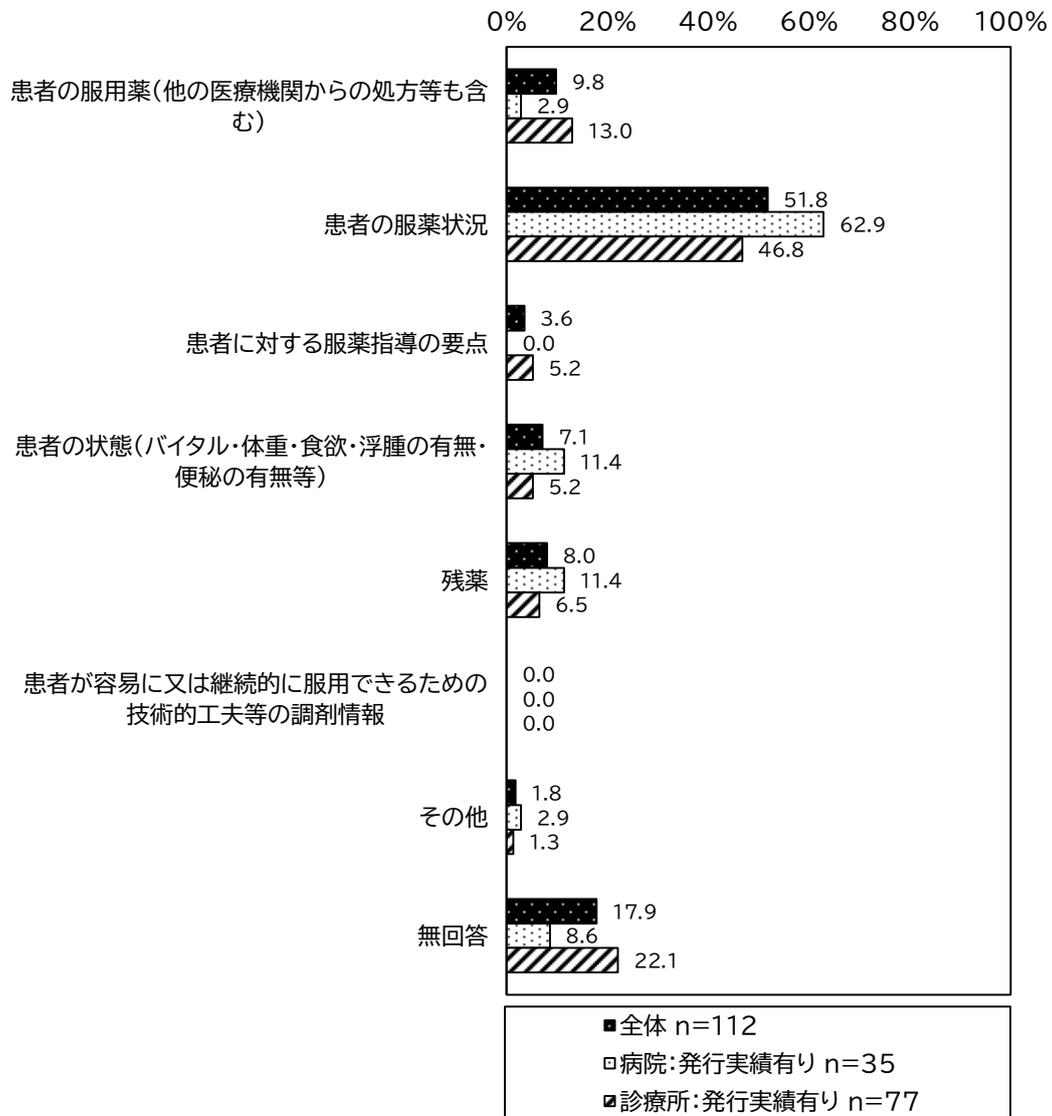
図表 2-52 リフィル処方に関するトレーシングレポートで提供された情報 (複数回答)
(服薬情報提供書があったと回答した施設のみ対象)
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)



【その他 (自由記載) の具体的な内容】

- ・そもそもトレーシングレポートが来ない
- ・患者からの訴え

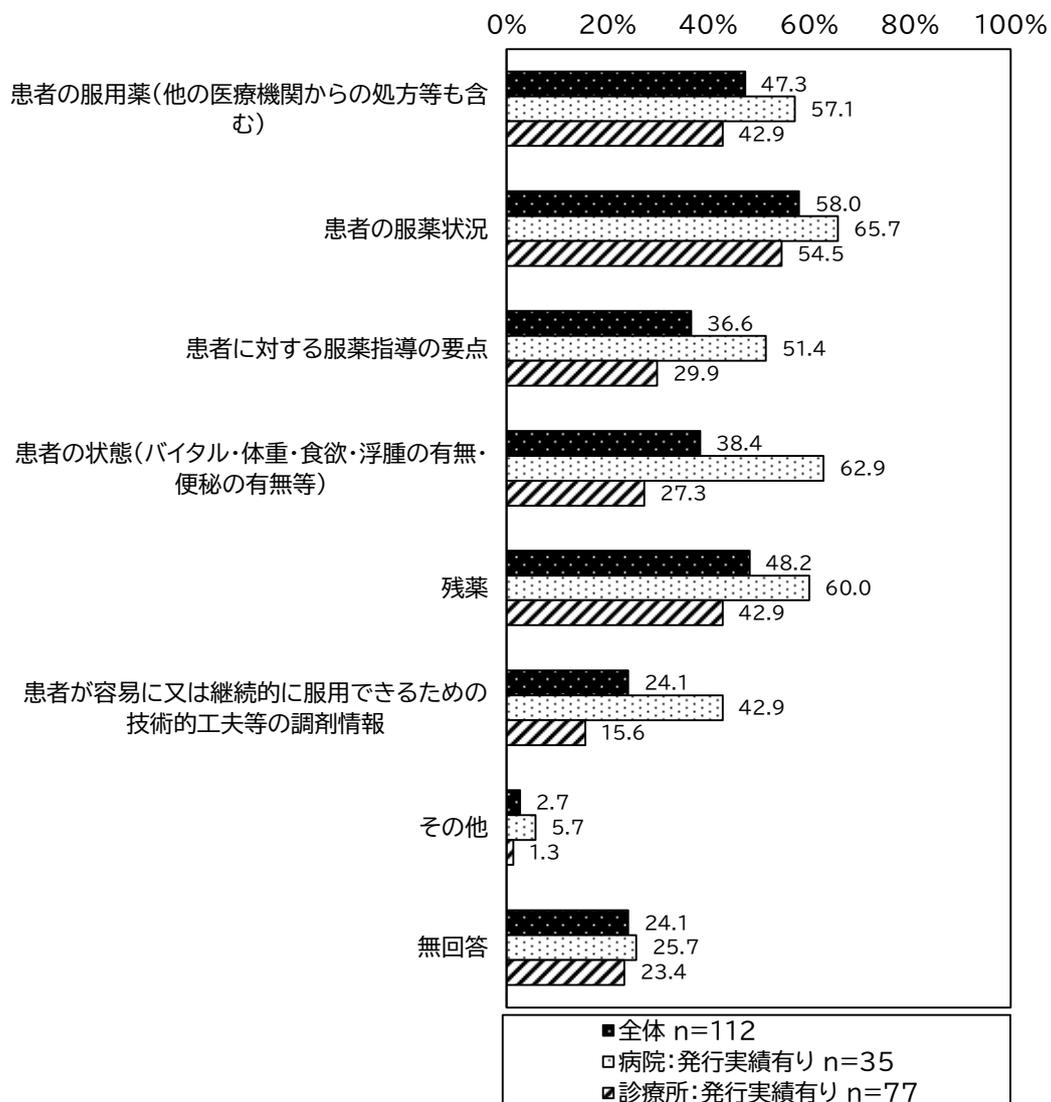
図表 2-53 リフィル処方に関するトレーシングレポートで提供された情報
 (最も多いもの一つ) (病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)



②-5-c.リフィル処方に関するトレーシングレポートで提供してほしい情報

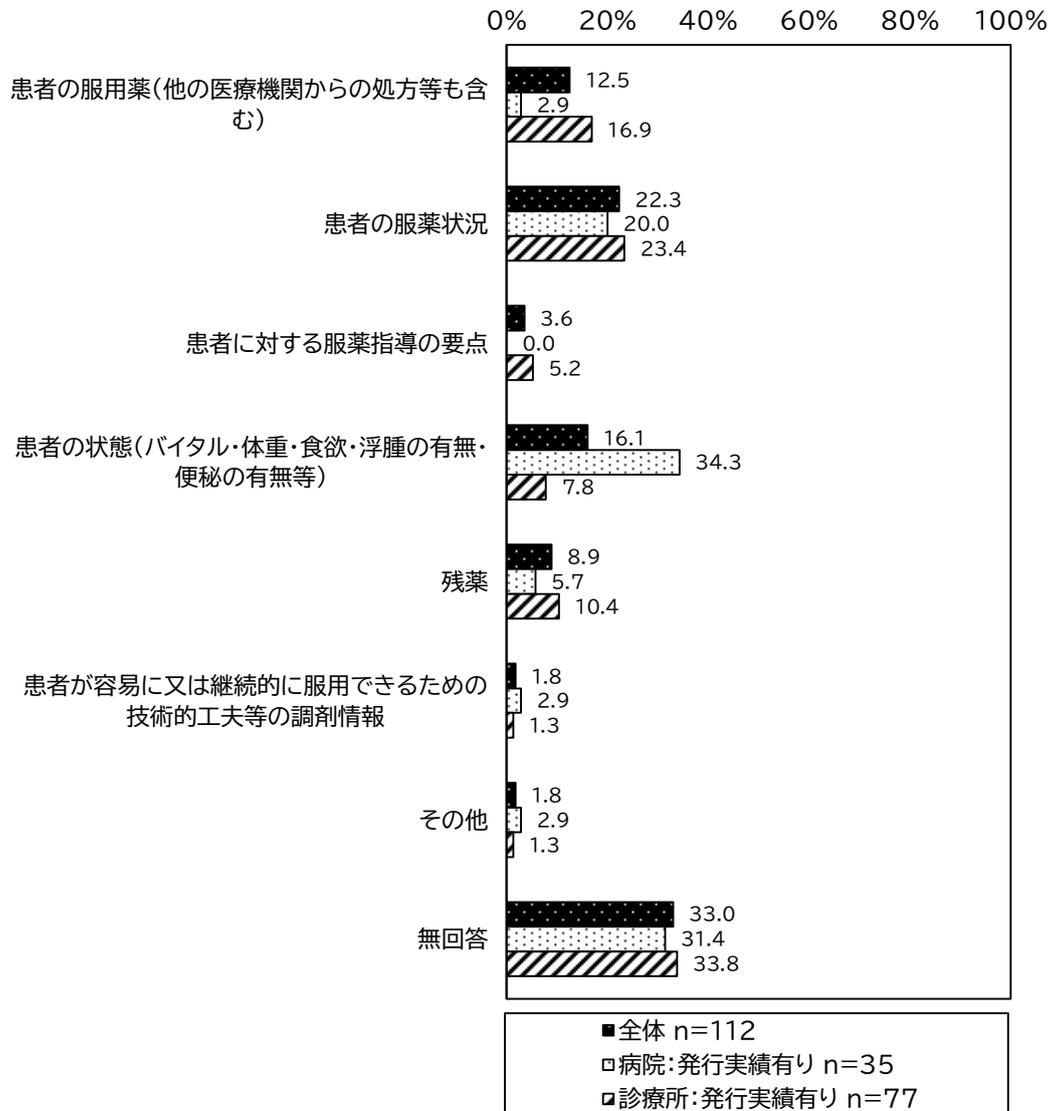
リフィル処方箋に関するトレーシングレポートで提供してほしい情報について、服薬情報提供書があったと回答した施設に対して確認した。その結果、リフィル処方箋の発行実績の有る病院・発行実績の有る診療所のいずれにおいても「患者の服薬状況」が最も多くそれぞれ65.7%、54.5%であった。2番目に多い選択肢は、リフィル処方箋の発行実績の有る病院では「患者の状態（バイタル・体重・食欲・浮腫の有無・便秘の有無等）」で62.9%、リフィル処方箋の発行実績の有る診療所では「患者の服用薬（他の医療機関からの処方等も含む）」と「残薬」で42.9%であった。

図表 2-54 リフィル処方に関するトレーシングレポートで提供してほしい情報（複数回答）
（病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】 ※提供された情報と共通
 ・そもそもトレーシングレポートが来ない
 ・患者からの訴え など

図表 2-55 リフィル処方に関するトレーシングレポートで提供してほしい情報
 (最重要のもの一つ) (病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)



② 薬剤師の受診勧奨を受け受診した患者数（院内でリフィル処方箋の発行したことのある医師を知っているまたは自身で発行している施設のみ対象）

薬剤師の受診勧奨を受け、受診した患者数について、院内でリフィル処方箋の発行したことのある医師を知っているまたは自身で発行している施設に確認した。その結果、リフィル処方箋の発行実績の有る病院・発行実績の有る診療所・発行実績の無い診療所において、受診勧奨を受け受診した人数の平均は、それぞれ0.9人、1.1人、0.0人であった。

図表 2-56 薬剤師の受診勧奨を受け受診した患者数
（病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別）

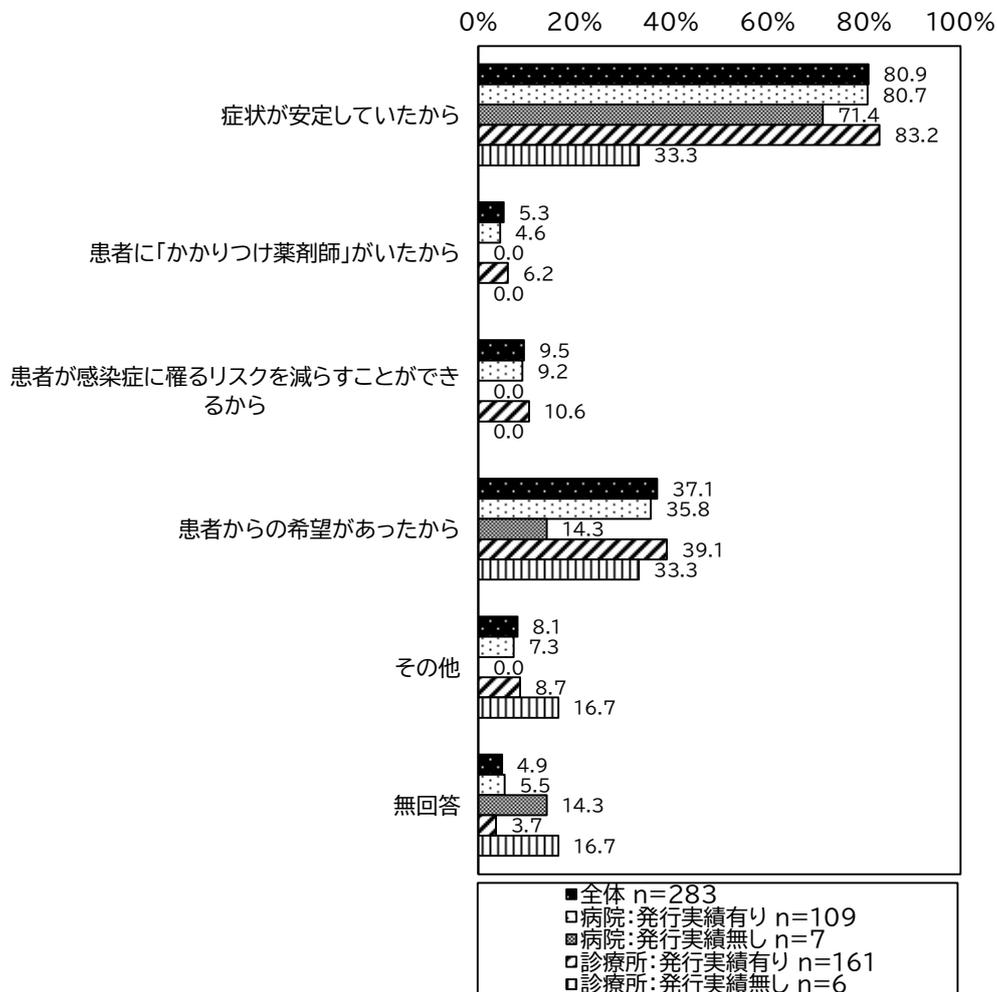
（単位：人）

		回答 施設数	平均値	標準偏差	中央値
全体		67	1.0	4.3	0.0
病院	発行実績有り	16	0.9	3.8	0.0
	発行実績無し	0	—	—	0.0
診療所	発行実績有り	49	1.1	4.5	0.0
	発行実績無し	2	0.0	0.0	0.0

③ リフィル処方箋を発行した理由（院内でリフィル処方箋の発行したことがある医師を知っているまたは自身で発行している施設のみ対象）

リフィル処方箋を発行した理由については、院内でリフィル処方箋の発行したことがある医師を知っているまたは自身で発行している施設に確認した。その結果、リフィル処方箋の発行実績の有る病院・発行実績の無い病院・発行実績の有る診療所・発行実績の無い診療所のいずれにおいても「症状が安定していたから」が最も多くそれぞれ 80.7%、71.4%、83.2%、33.3%であった。発行実績の無い診療所については「患者からの希望があったから」も同じく 33.3%で最多であった。

図表 2-57 リフィル処方箋を発行した理由（複数回答）
（院内でリフィル処方箋の発行したことがある医師を知っているまたは自身で発行している施設のみ対象）（病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

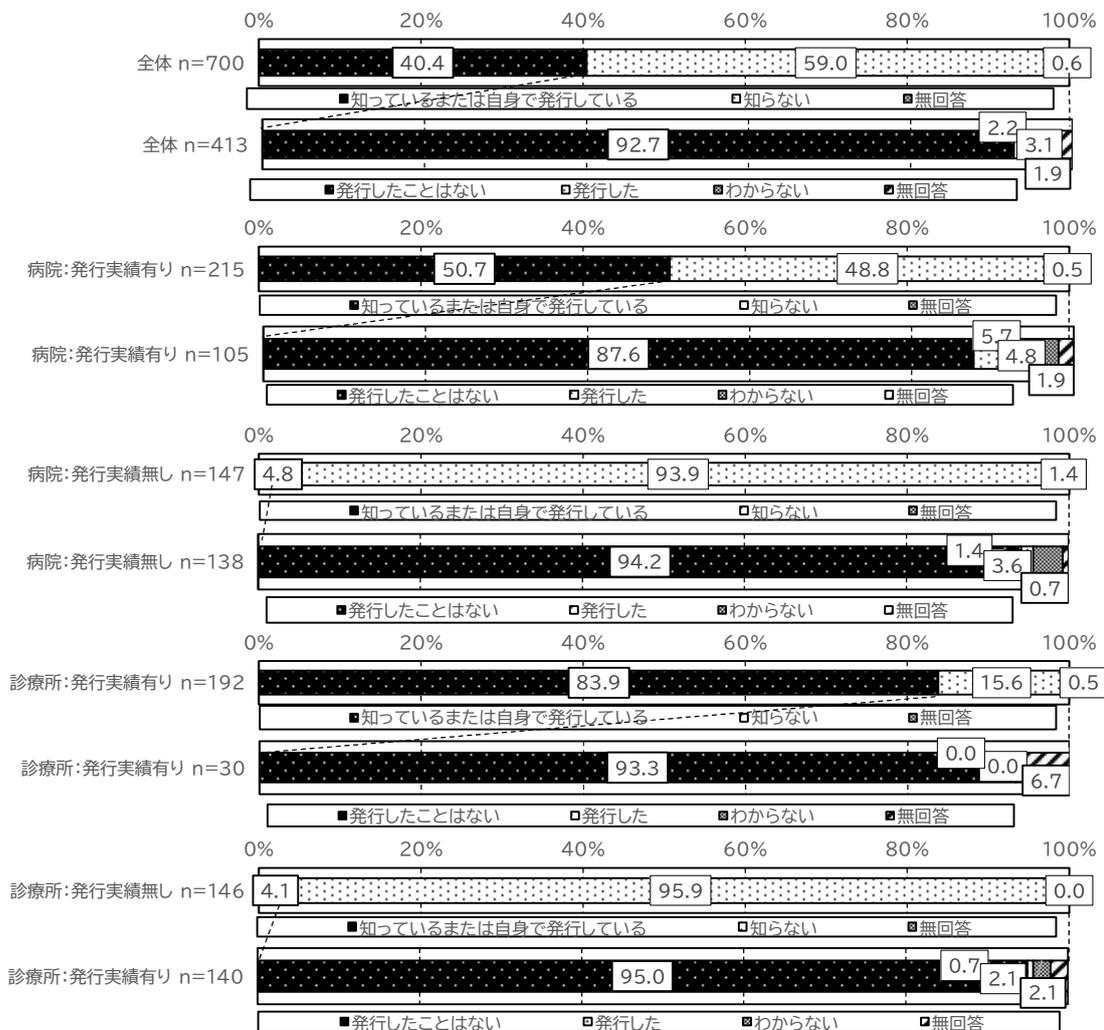
- ・患者本人の経済的な事情を勘案
- ・医療費削減の政策に協力するべきと考えたため
- ・受診頻度を抑制するため
- ・遠距離通院等の患者の事情を勘案

④ リフィル処方箋を発行したことはないか（院内でリフィル処方箋の発行したことがある医師を知らない施設のみ対象）

施設にてリフィル処方箋を発行したことはないかについて、院内でリフィル処方箋の発行したことがある医師を知らない施設に確認した。その結果、「発行したことはない」と回答した割合は、リフィル処方箋の発行実績の有る病院・発行実績の無い病院・発行実績の有る診療所・発行実績の無い診療所のそれぞれで87.6%、94.2%、93.3%、95.0%であった。

図表 2-58

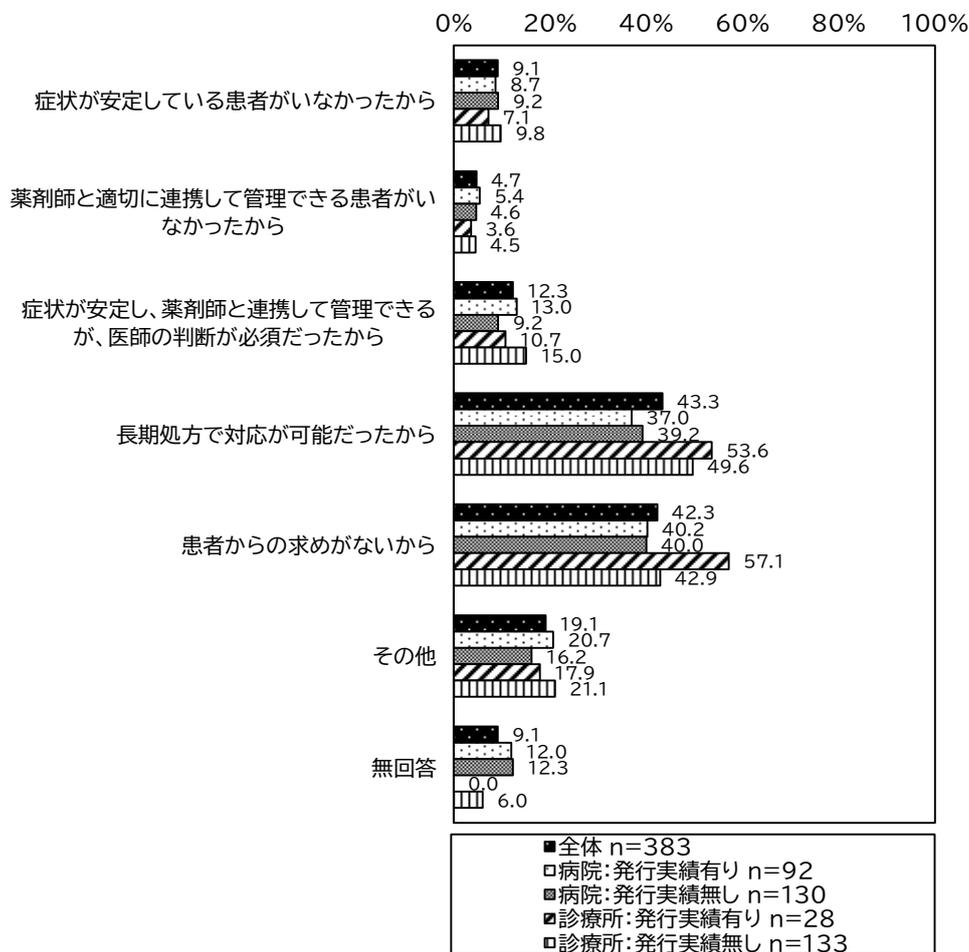
リフィル処方箋を発行したことがある医師を知っている、または自身で発行しているか(上段)
 リフィル処方箋を発行したことはないか(下段)
 (下段：院内でリフィル処方箋の発行したことがある医師を知らない施設のみ対象)
 (病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)



④-1.発行したことが無い理由(リフィル処方箋を発行したことはない施設のみ対象)

リフィル処方箋を発行したことが無い理由について、院内でリフィル処方箋の発行したことがある医師を知らない、かつ発行したことが無いと回答した施設を対象に確認した。その結果、リフィル処方箋の発行実績が有る病院・発行実績が無い病院では「患者からの求めがないから」が最も多くそれぞれ40.2%、40.0%であった。リフィル処方箋の発行実績が有る診療所では「患者からの求めがないから」が最も多く57.1%であった。リフィル処方箋の発行実績が無い診療所では「長期処方に対応可能だったから」が最も多く49.6%であった。

図表 2-59 リフィル処方箋を発行したことが無い理由（複数回答）
 (院内でリフィル処方箋の発行したことがある医師を知らない、
 かつ発行したことが無いとか回答した施設のみ対象)
 (病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)



【その他（自由記載）の具体的な内容】

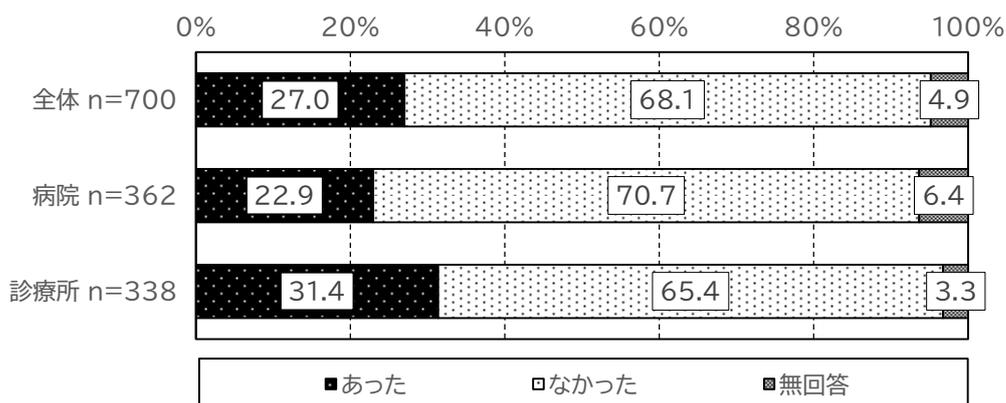
- ・対象外となる症状、医薬品（向精神薬等）であったため
- ・病院として運用を認めていないため
- ・院内処方であるため
- ・必要性を感じないため
- ・システムが対応していないため

(3) リフィル処方箋の発行について患者からの希望の有無

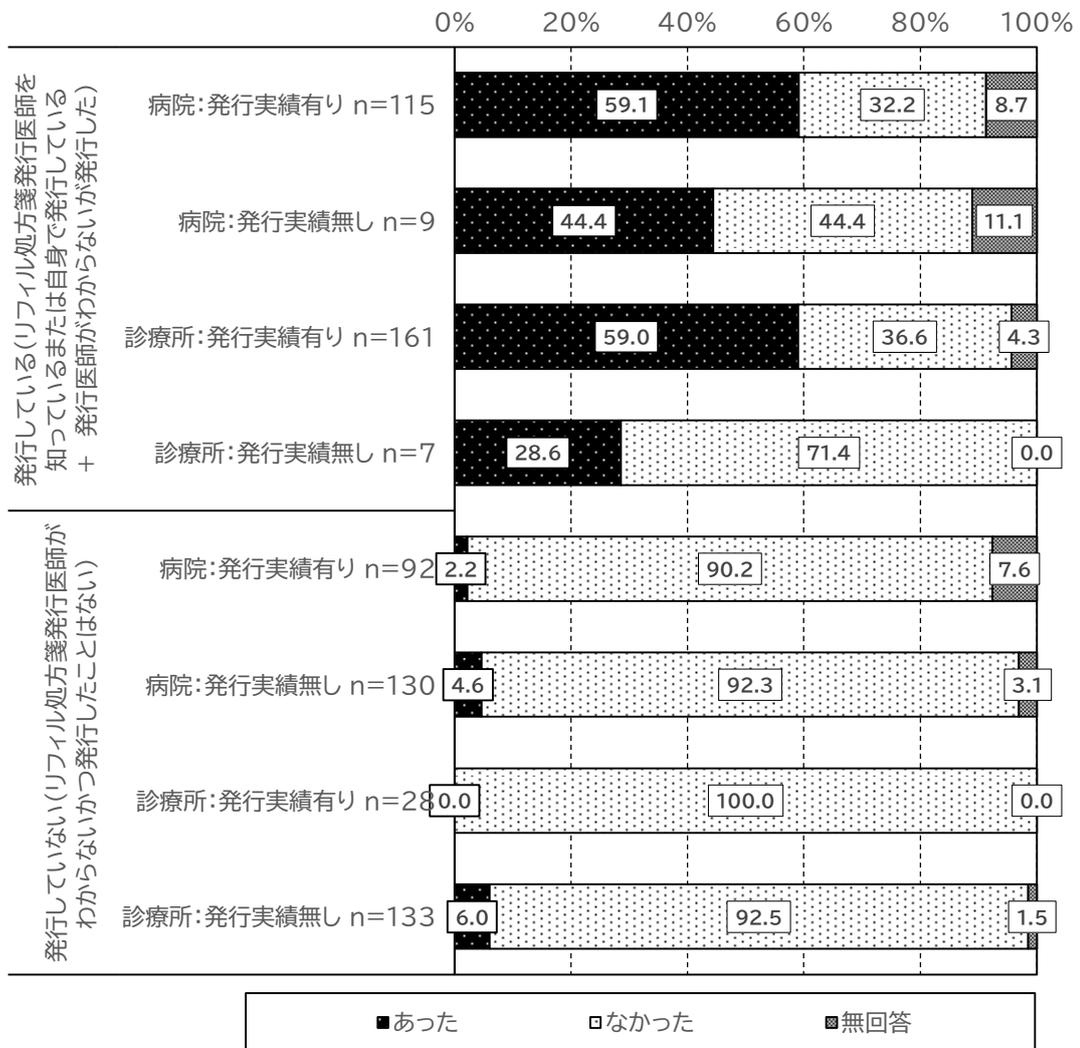
リフィル処方箋の発行についての患者からの希望の有無については、リフィル処方箋を発行していると調査票上で回答した（リフィル処方箋を発行した医師を知っているまたは自身で発行している、または発行医師がわからないが発行したと回答）施設のうち、リフィル処方箋の発行実績の有る病院では「あった」が59.1%「なかった」が32.2%、発行実績の無い病院では「あった」が44.4%「なかった」が44.4%、発行実績の有る診療所では「あった」が59.0%「なかった」が36.6%、発行実績の無い診療所では「あった」が28.6%「なかった」が71.4%であった。

リフィル処方箋を発行していないと調査票上で回答した（リフィル処方箋を発行した医師がわからないかつ発行したことはないと回答）施設のうち、リフィル処方箋の発行実績の有る病院では「あった」が2.2%「なかった」が90.2%、発行実績の無い病院では「あった」が4.6%「なかった」が92.3%、発行実績の有る診療所では「あった」が0.0%「なかった」が100.0%、発行実績の無い診療所では「あった」が6.0%「なかった」が92.5%であった。

図表 2-60 リフィル処方箋の発行について患者からの希望の有無
(病院・診療所別)



図表 2-61 リフィル処方箋の発行について患者からの希望の有無
(調査票上の「リフィル処方箋を発行したことがあるか」の回答別・病院診療所別)

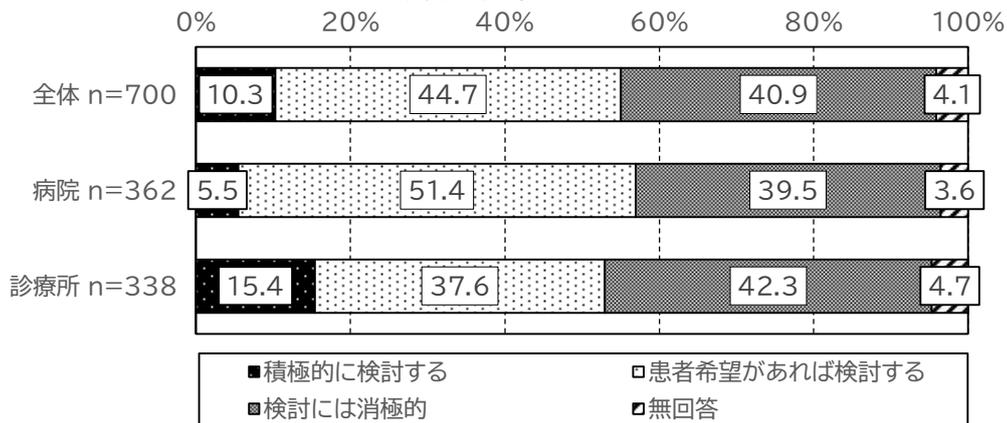


(4) リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通し

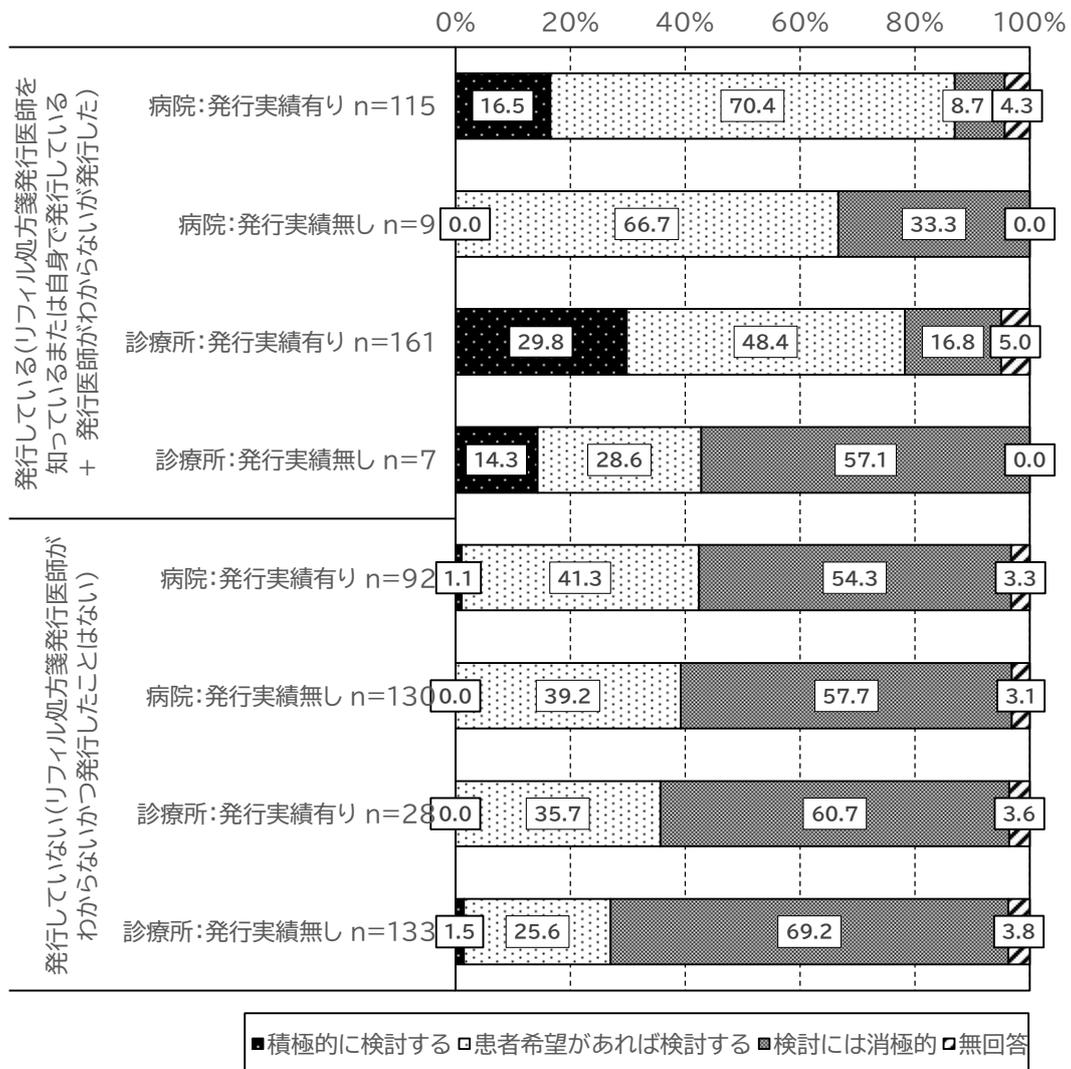
リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通しに関しては、リフィル処方箋を発行していると調査票上で回答した（リフィル処方箋を発行した医師を知っているまたは自身で発行している、または発行医師がわからないが発行したと回答）施設のうち、リフィル処方箋の発行実績の有る病院では「積極的に検討する」が16.5%「検討には消極的」が8.7%、発行実績の無い病院では「積極的に検討する」が0.0%「検討には消極的」が33.3%、発行実績の有る診療所では「積極的に検討する」が29.8%「検討には消極的」が16.8%、発行実績の無い診療所では「積極的に検討する」が14.3%「検討には消極的」が57.1%であった。

リフィル処方箋を発行していないと調査票上で回答した（リフィル処方箋を発行した医師がわからないかつ発行したことはないと回答）施設のうち、リフィル処方箋の発行実績の有る病院では「積極的に検討する」が1.1%「検討には消極的」が54.3%、発行実績の無い病院では「積極的に検討する」が0.0%「検討には消極的」が57.7%、発行実績の有る診療所では「積極的に検討する」が0.0%「検討には消極的」が60.7%、発行実績の無い診療所では「積極的に検討する」が1.5%「検討には消極的」が69.2%であった。

図表 2-62 リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通し
(病院・診療所別)



図表 2-63 リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通し
 (調査票上の「リフィル処方箋を発行したことがあるか」の回答別・病院診療所別・
 リフィル処方箋の発行実績の有無別)



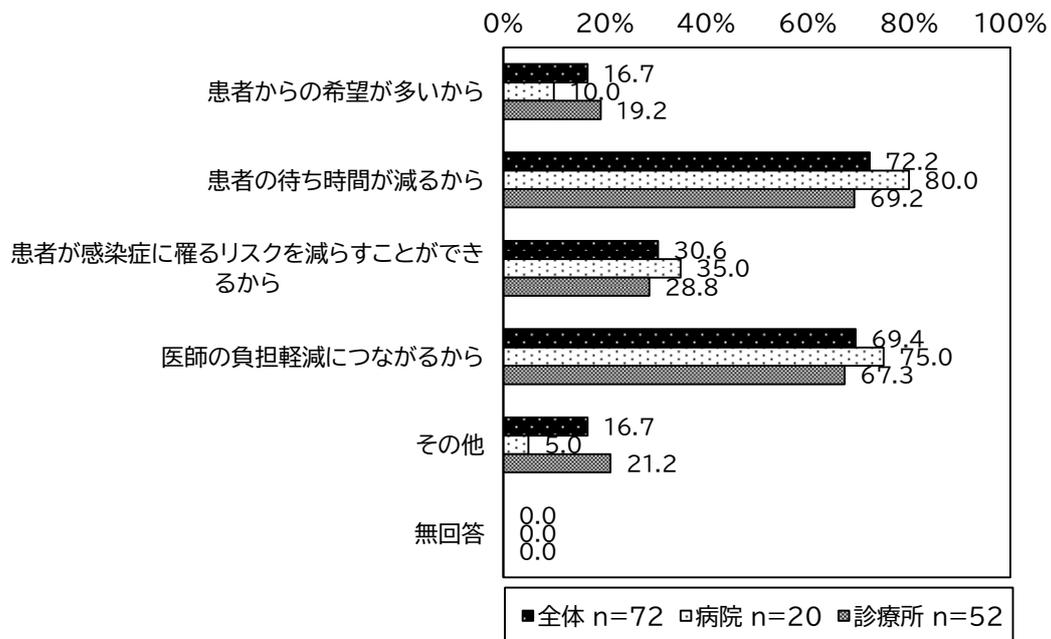
※上記の「発行実績」はNDB上でのリフィル処方箋の発行実績の有無を指します。

(5) 「1. 積極的に検討する」と回答した理由（リフィル処方箋の発行について積極的に検討する施設を対象）

積極的に検討すると回答した理由について、リフィル処方箋の発行について積極的に検討する施設を対象に確認した。その結果、リフィル処方箋を発行していると調査票上で回答した（リフィル処方箋を発行した医師を知っているまたは自身で発行している、または発行医師がわからないが発行したと回答）施設のうち、リフィル処方箋の発行実績の有る病院では「患者の待ち時間が減るから」が最も多く84.2%、発行実績の有る診療所では「患者の待ち時間が減るから」が最も多く72.9%であった。

リフィル処方箋を発行していないと調査票上で回答した（リフィル処方箋を発行した医師がわからないかつ発行したことはないと回答）施設のうち、リフィル処方箋の発行実績の無い診療所では「医師の負担軽減につながるから」が最も多く100.0%であった。

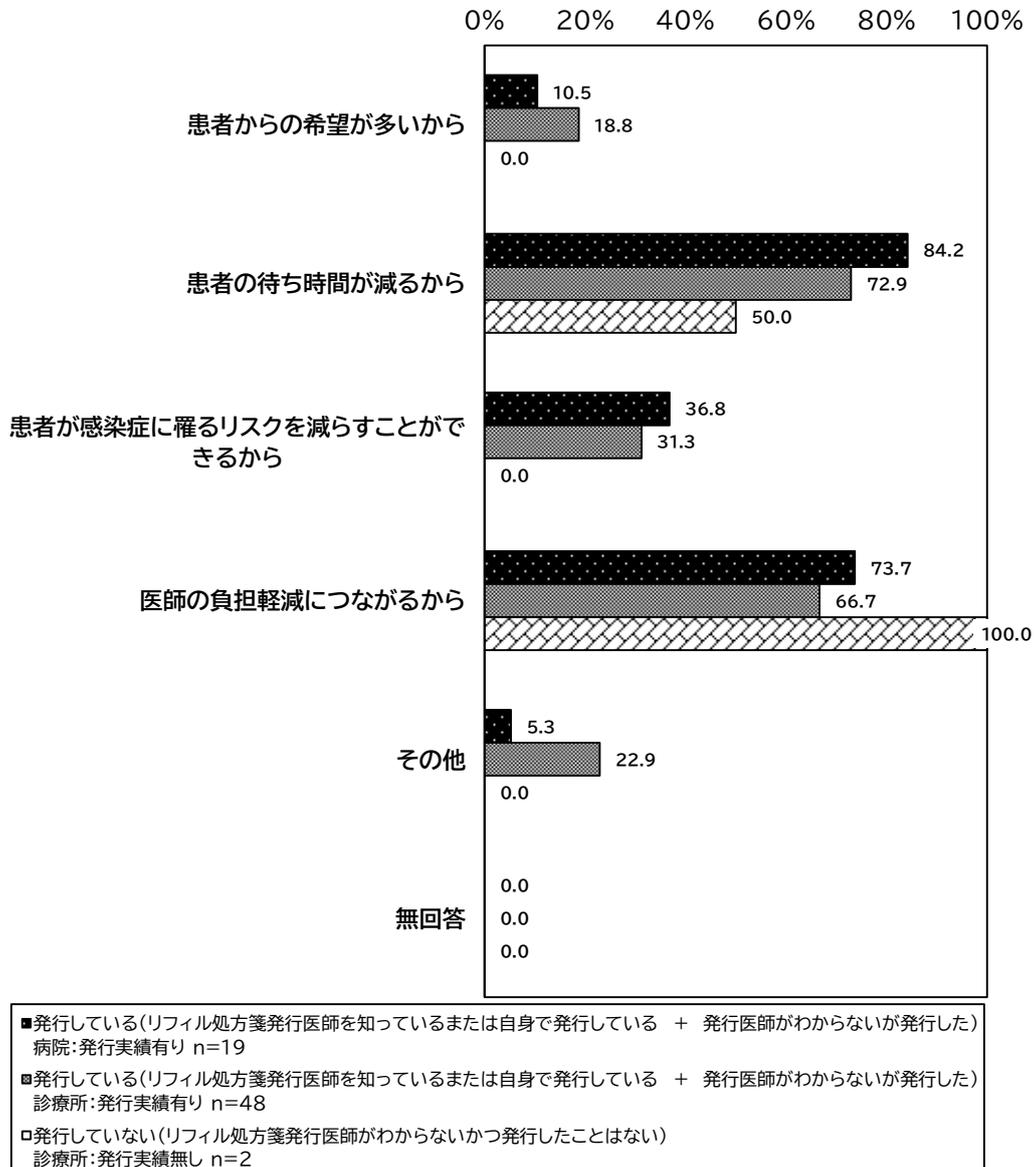
図表 2-64 「1. 積極的に検討する」と回答した理由（複数回答）
（リフィル処方箋の発行について積極的に検討する施設）
（病院・診療所別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・医療費の削減、医療資源の節約につながる
- ・服薬中断を避けることができる
- ・1 か月等定期的に薬局に通ってくれることがアドヒアランス等の面で安心できる

表 2-65 「1. 積極的に検討する」と回答した理由（複数回答）
 （リフィル処方箋の発行について積極的に検討する施設）
 （調査票上の「リフィル処方箋を発行したことがあるか」の回答別・病院診療所別・
 リフィル処方箋の発行実績の有無別）



※上記の「発行実績」は NDB 上でのリフィル処方箋の発行実績の有無を指します。

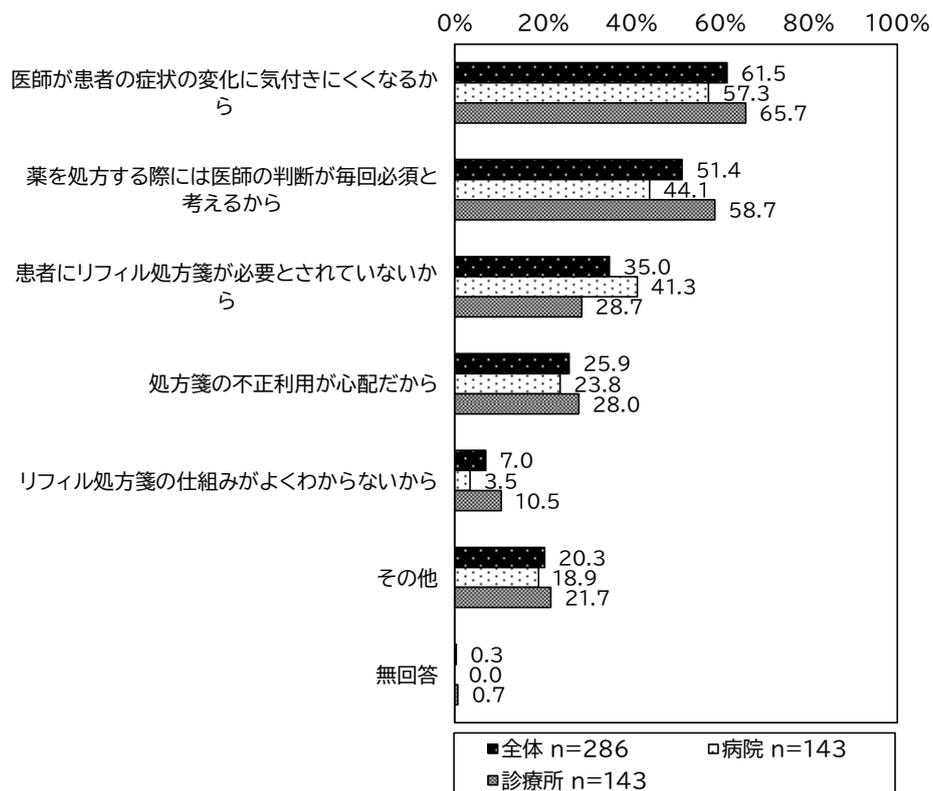
(6) 「3. 検討には消極的」と回答した理由(リフィル処方箋の発行について検討には消極的な施設を対象)

検討には消極的と回答した理由についてリフィル処方箋の発行について検討には消極的な施設に確認した。その結果、リフィル処方箋を発行していると調査票上で回答した(リフィル処方箋を発行した医師を知っているまたは自身で発行している、または発行医師が

わからないが発行したと回答) 施設のうち、リフィル処方箋の発行実績の有る病院では「薬を処方する際には医師の判断が毎回必須と考えるから」が最も多く 70.0%、発行実績の無い病院では「患者にリフィル処方箋が必要とされていないから」が最も多く 66.7%、発行実績の有る診療所では「薬を処方する際には医師の判断が毎回必須と考えるから」が最も多く 74.1%、発行実績の無い診療所では「薬を処方する際には医師の判断が毎回必須と考えるから」が最も多く 100.0%であった。

リフィル処方箋を発行していないと調査票上で回答した(リフィル処方箋を発行した医師がわからないかつ発行したことはないと回答) 施設のうち、リフィル処方箋の発行実績有る病院では「薬を処方する際には医師の判断が毎回必須と考えるから」が最も多く 58.0%、発行実績無い病院では「薬を処方する際には医師の判断が毎回必須と考えるから」が最も多く 57.3%、発行実績有る診療所では「患者にリフィル処方箋が必要とされていないから」が最も多く 82.4%、発行実績無い診療所では「薬を処方する際には医師の判断が毎回必須と考えるから」が最も多く 64.1%であった。

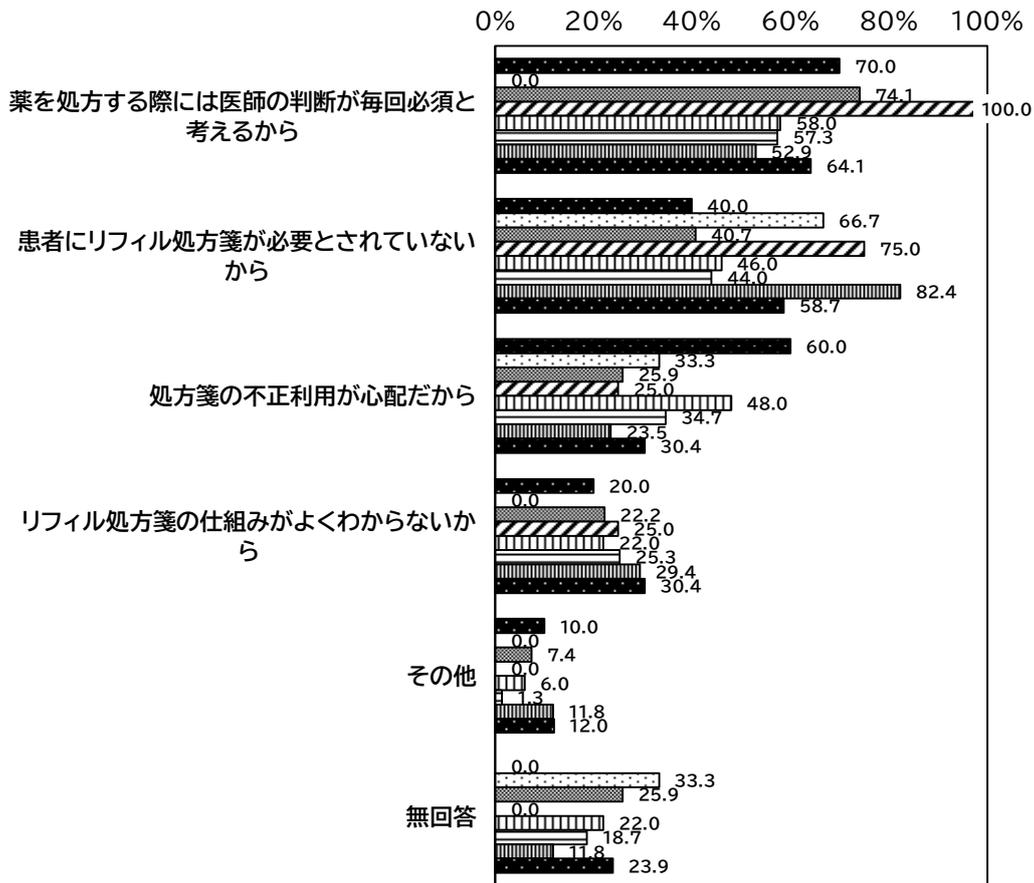
図表 2-66 「3. 検討には消極的」と回答した理由(複数回答)
(リフィル処方箋の発行について検討には消極的な施設を対象)
(病院・診療所別)



【その他(自由記載)の具体的な内容】

- ・長期処方代替可能だから
- ・医療機関側にメリットがないから
- ・対象外となる症状、医薬品(向精神薬等)がほとんどだから
- ・院内処方が基本であるから
- ・院内スタッフが制度を理解していない、理解が難しいから
- ・患者側が制度を理解していない
- ・急性期医療を主体とする施設だから
- ・症状が安定した患者は、他院への逆紹介となるから
- ・病院として発行しないと決めたため

図表 2-67 「3. 検討には消極的」と回答した理由（複数回答）
 （リフィル処方箋の発行について検討には消極的な施設を対象）
 （調査票上の「リフィル処方箋を発行したことがあるか」の回答別・病院診療所別・
 リフィル処方箋の発行実績の有無別）



■発行している(リフィル処方箋発行医師を知っているまたは自身で発行している + 発行医師がわからないが発行した) 病院:発行実績有り n=10
 □発行している(リフィル処方箋発行医師を知っているまたは自身で発行している + 発行医師がわからないが発行した) 病院:発行実績無し n=3
 ■発行している(リフィル処方箋発行医師を知っているまたは自身で発行している + 発行医師がわからないが発行した) 診療所:発行実績有り n=27
 □発行している(リフィル処方箋発行医師を知っているまたは自身で発行している + 発行医師がわからないが発行した) 診療所:発行実績無し n=4
 □発行していない(リフィル処方箋発行医師がわからないかつ発行したことはない) 病院:発行実績有り n=50
 □発行していない(リフィル処方箋発行医師がわからないかつ発行したことはない) 病院:発行実績無し n=75
 □発行していない(リフィル処方箋発行医師がわからないかつ発行したことはない) 診療所:発行実績有り n=17
 ■発行していない(リフィル処方箋発行医師がわからないかつ発行したことはない) 診療所:発行実績無し n=92

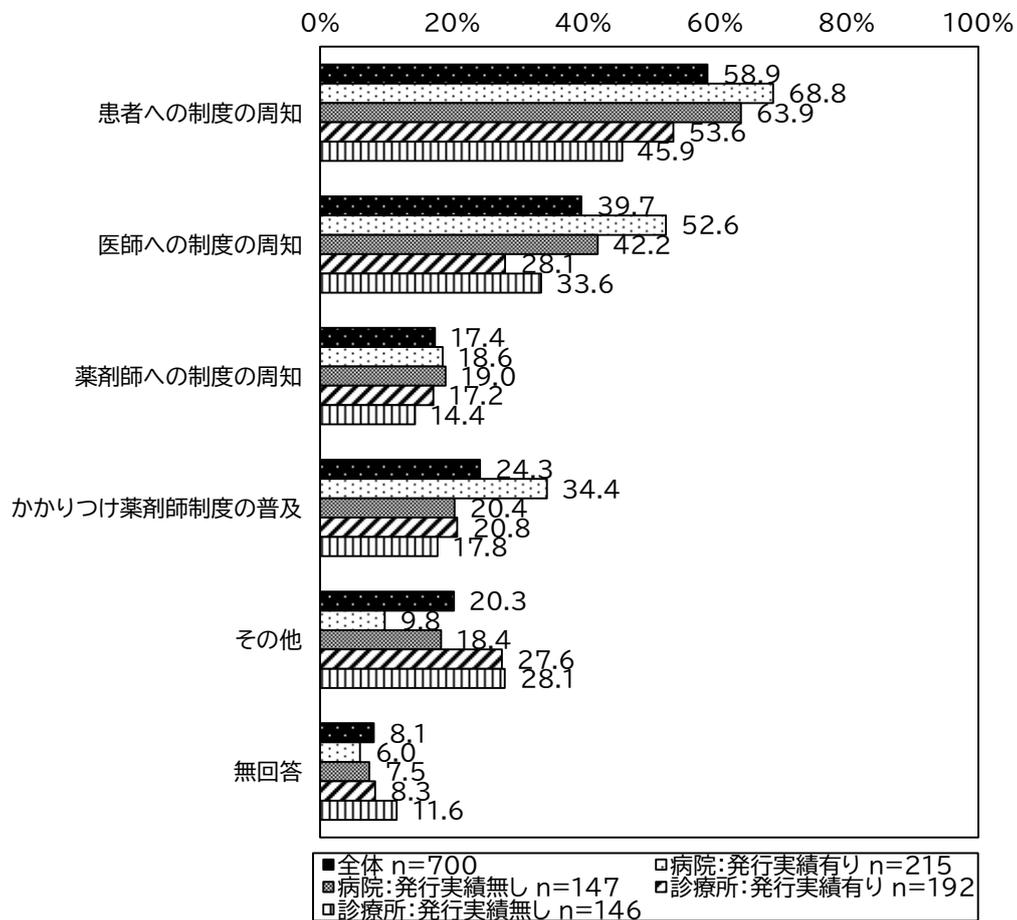
※上記の「発行実績」はNDB上でのリフィル処方箋の発行実績の有無を指します。

(7) このほか、リフィル処方箋の課題と考えられること

リフィル処方箋の課題と考えられることについては、リフィル処方箋の発行実績の有る病院では「患者への制度の周知」が最も多く68.8%、次いで「医師への制度の周知」が多く52.6%であった。発行実績の無い病院でも「患者への制度の周知」が最も多く63.9%、次いで「医師への制度の周知」が多く42.2%であった。

リフィル処方箋の発行実績の有る診療所では、「患者への制度の周知」が最も多く53.6%次いで「医師への制度の周知」が多く28.1%であった。発行実績の無い診療所では「患者への制度の周知」が最も多く45.9%次いで「医師への制度の周知」が多く33.6%であった。

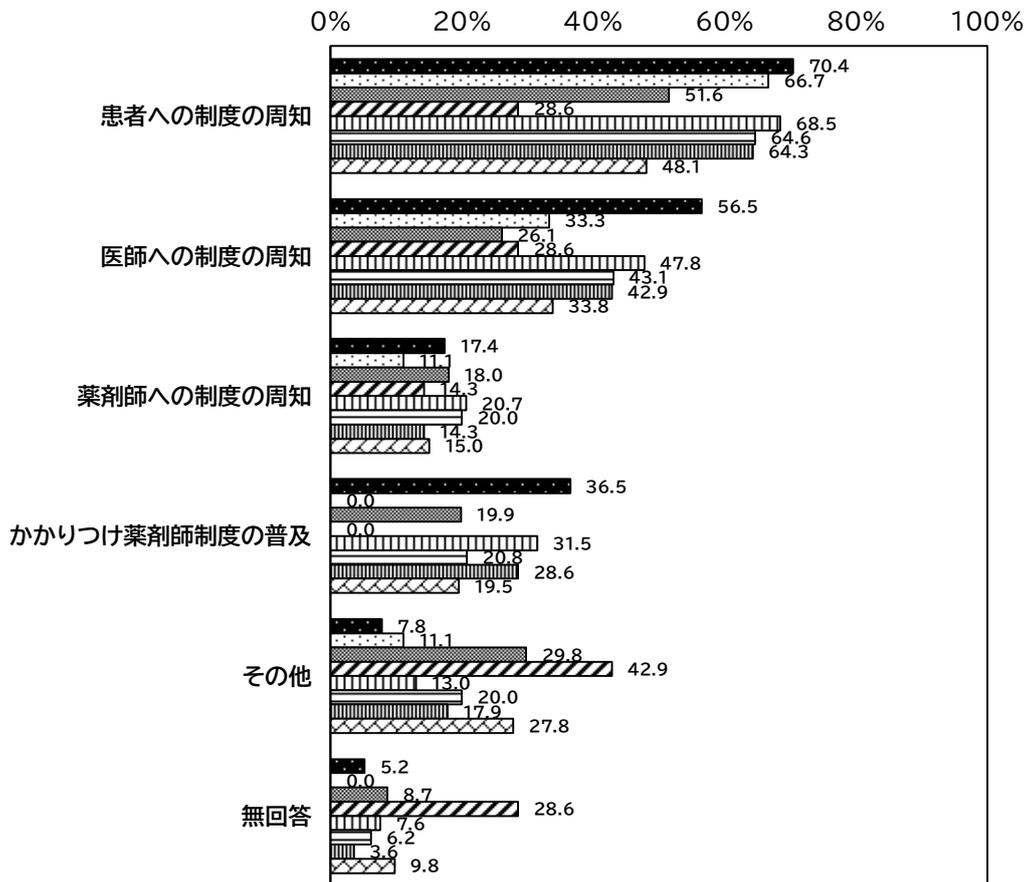
図表 2-68 リフィル処方箋の課題と考えられること（複数回答）
（病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・ 90日処方等との差の意義付け
- ・ オーダーリングシステムの改変等のシステム対応
- ・ 制度に関する報道
- ・ リフィル処方箋で処方したこと、調剤したことをスムーズに病薬で共有する仕組みの構築
- ・ 責任は医師へという状況でも発行したほうがよいと考えられるインセンティブ設計
- ・ 医療機関としては減収、薬局としては手間増加というデメリットを超えるインセンティブ設計
- ・ リフィル処方箋制度は不要 など
- ・ 患者が処方箋を紛失した際の対応
- ・ 患者の症状変化があった際のリスク管理
- ・ 日数制限の緩和

図表 2-69 リフィル処方箋の課題と考えられること（複数回答）
 （調査票上の「リフィル処方箋を発行したことがあるか」の回答別・病院診療所別・
 リフィル処方箋の発行実績の有無別）



- 発行している(リフィル処方箋発行医師を知っているまたは自身で発行している + 発行医師がわからないが発行した) 病院:発行実績有り n=115
- 発行している(リフィル処方箋発行医師を知っているまたは自身で発行している + 発行医師がわからないが発行した) 病院:発行実績無し n=9
- 発行している(リフィル処方箋発行医師を知っているまたは自身で発行している + 発行医師がわからないが発行した) 診療所:発行実績有り n=161
- 発行している(リフィル処方箋発行医師を知っているまたは自身で発行している + 発行医師がわからないが発行した) 診療所:発行実績無し n=7
- 発行していない(リフィル処方箋発行医師がわからないかつ発行したことはない) 病院:発行実績有り n=92
- 発行していない(リフィル処方箋発行医師がわからないかつ発行したことはない) 病院:発行実績無し n=130
- 発行していない(リフィル処方箋発行医師がわからないかつ発行したことはない) 診療所:発行実績有り n=28
- 発行していない(リフィル処方箋発行医師がわからないかつ発行したことはない) 診療所:発行実績無し n=133

※上記の「発行実績」はNDB上でのリフィル処方箋の発行実績の有無を指します。

3. 医師調査

【調査対象等】

○医師調査

調査対象：病院・診療所票の調査対象となった施設に勤める医師のうち、外来を担当する医師を、各施設から2名（リフィル処方箋の発行経験のある医師を特定できている場合は発行したことがある医師と発行したことがない医師を1名ずつ、特定できていない場合は無作為に2名を各施設が抽出し、回答）

回答数：528名

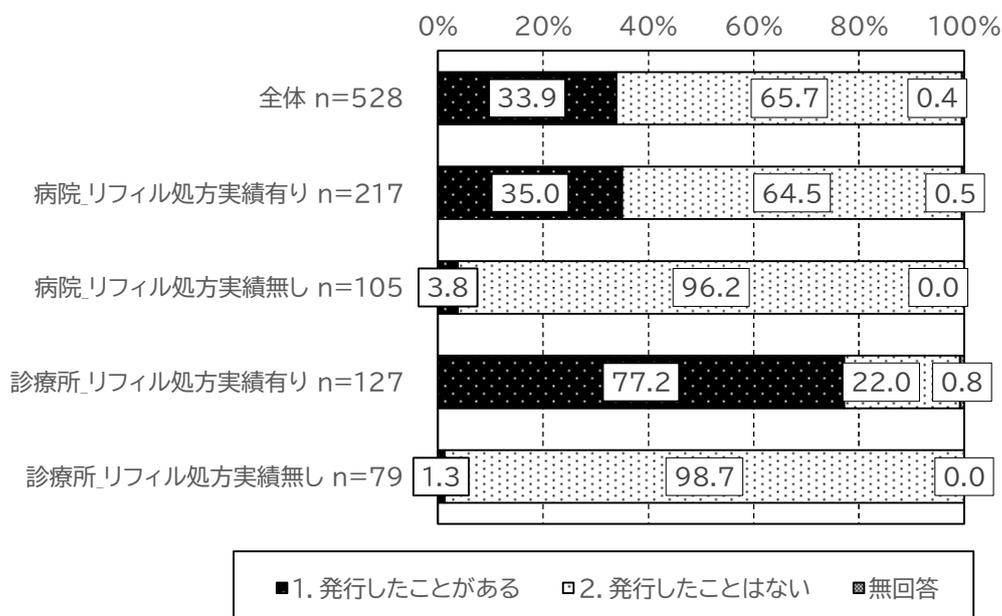
回答者：医師

リフィル処方箋の発行実績（NDB上）の有無と、回答上の発行経験有無について

グラフ内の「病院：リフィル処方実績有り」「病院：リフィル処方実績無し」「診療所：リフィル処方実績有り」「診療所：リフィル処方実績無し」は、医師の施設単位でのNDB上の発行実績を指す。一方、「発行したことがある」「発行したことはない」は医師個人のリフィル処方箋をした経験の有無についての回答を指す。

リフィル処方箋の発行有無について、リフィル処方箋の発行実績の有る病院の医師は「発行したことがある」が35.0%、「発行したことはない」が64.5%、リフィル処方箋の発行実績の無い病院の医師は「発行したことがある」が3.8%、「発行したことはない」が96.2%であった。

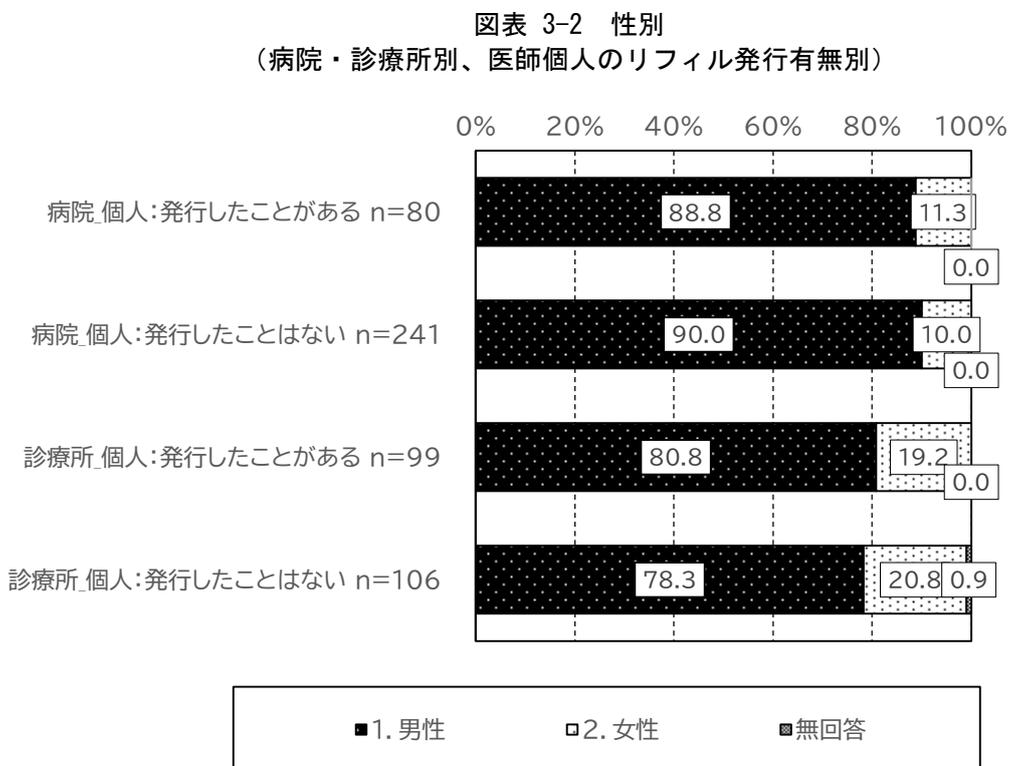
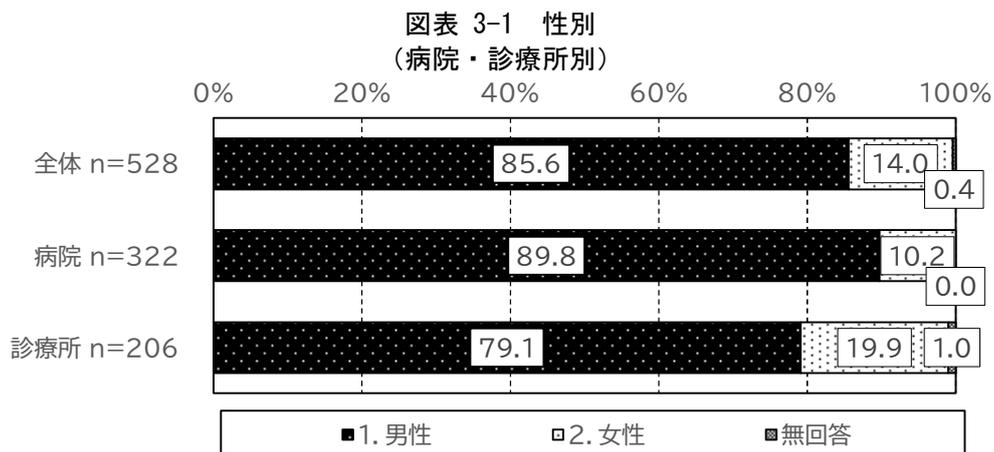
リフィル処方箋の発行実績の有る診療所の医師は「発行したことがある」が77.2%、「発行したことはない」が22.0%、リフィル処方箋の発行実績の無い診療所の医師は「発行したことがある」が1.3%、「発行したことはない」が98.7%であった。



1) 回答者ご自身について

(1) 性別

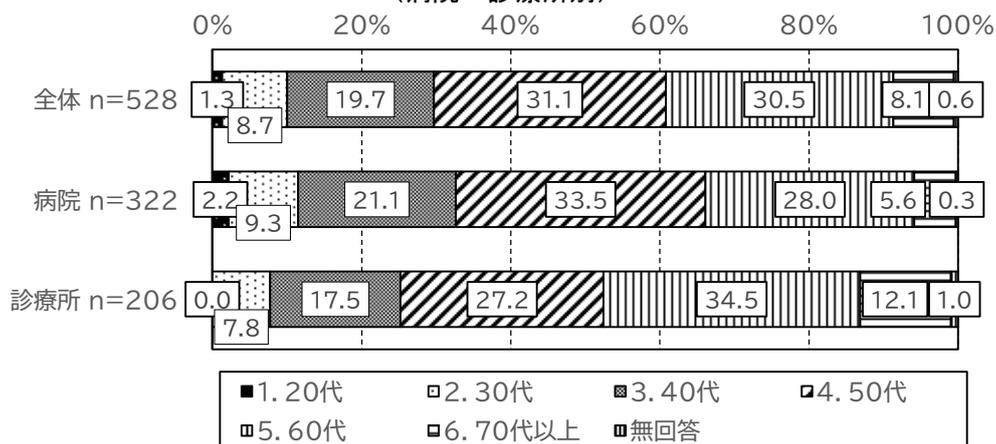
性別については、病院では「男性」が89.8%、「女性」が10.2%、診療所では「男性」が79.1%、「女性」が19.9%であった。



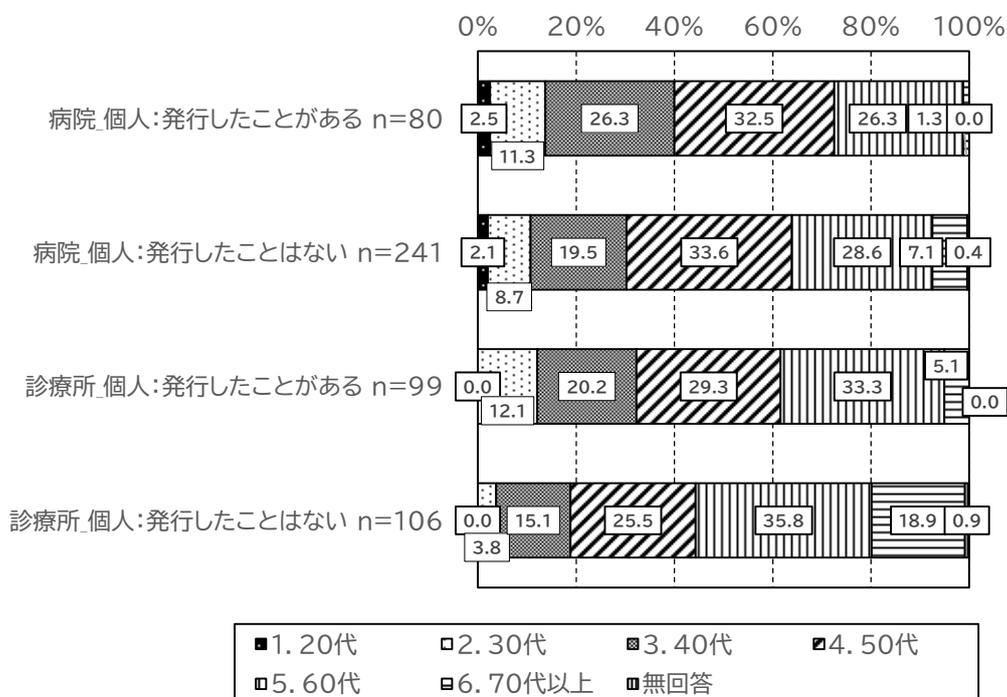
(2) 年代

年代については、病院では「50代」が最も多く33.5%、次いで「60代」が多く28.0%、診療所では「60代」が最も多く34.5%、次いで「50代」多く27.2%であった。

図表 3-3 年代
(病院・診療所別)

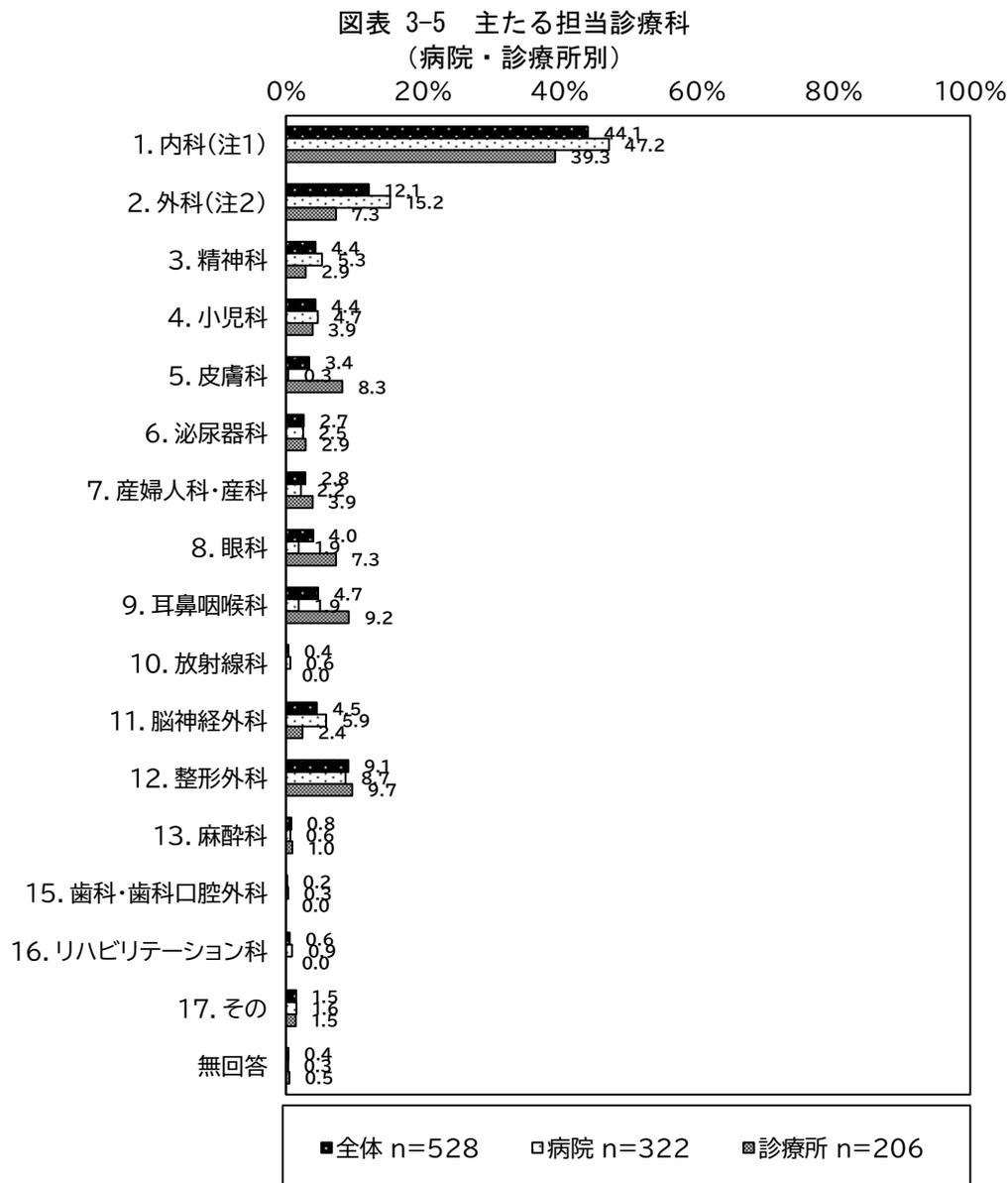


図表 3-4 年代
(病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別)

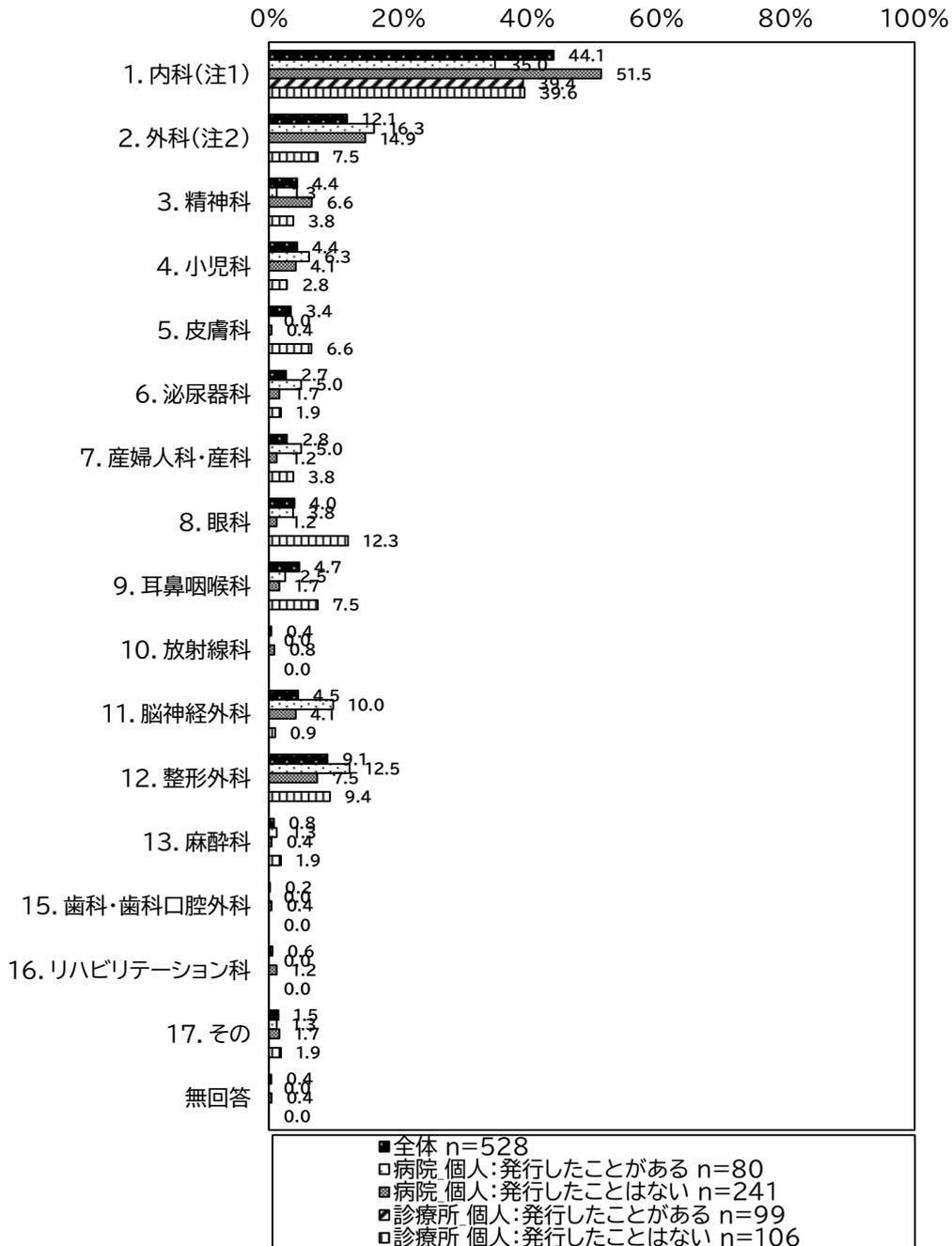


(3) 主たる担当診療科

主たる担当診療科については、病院の場合は「内科」が最も多く47.2%、次いで「外科」が多く15.2%であった。診療所の場合は「内科」が最も多く39.3%、次いで「整形外科」が多く9.7%であった。



図表 3-6 主たる担当診療科
(病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別)



(4) 外来診察患者数

外来診察患者数については、以下の通り。

図表 3-7 外来診察患者数
(病院・診療所別)

(単位：人)

施設種別	回答 医師数	平均値	標準偏差	中央値
全体	425	1,820.8	1,918.6	969.0
病院	257	1,049.9	1,477.1	550.0
診療所	168	3,000.2	1,920.3	2,829.5

図表 3-8 外来診察患者数
(病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別)

(単位：人)

施設種別	医師個人のリフィル 発行有無	回答 医師数	平均値	標準偏差	中央値
病院	発行したことがある	65	1,218.0	1,632.5	715.0
	発行したことはない	191	996.4	1,423.7	504.0
診療所	発行したことがある	84	3,217.1	1,828.1	3,000.0
	発行したことはない	84	2,783.2	1,995.7	2,400.0

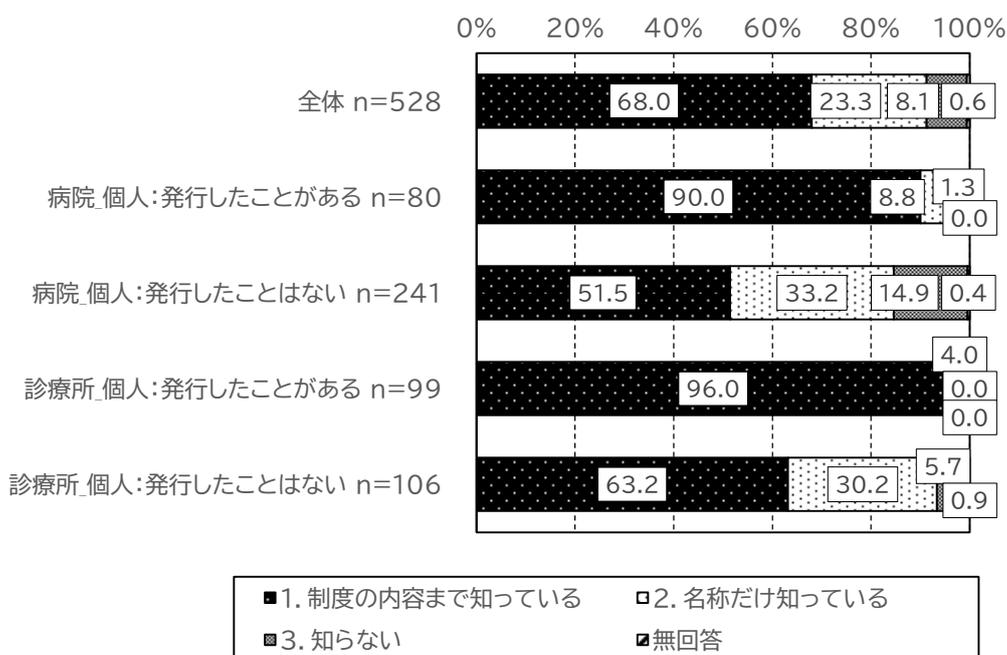
2) リフィル処方箋について

(1) リフィル処方箋の制度の認知

リフィル処方箋の制度の認知については、病院の医師で医師個人としてリフィル処方箋を発行したことがある場合「制度の内容を知っている」が90.0%、「名称だけ知っている」が8.8%、「知らない」が1.3%、病院の医師で医師個人としてリフィル処方箋を発行したことがない場合は「制度の内容を知っている」が51.5%、「名称だけ知っている」が33.2%、「知らない」が14.9%であった。

診療所の医師で医師個人としてリフィル処方箋を発行したことがある場合は「制度の内容を知っている」が96.0%、「名称だけ知っている」が4.0%、「知らない」が0.0%、診療所の医師で医師個人としてリフィル処方箋を発行したことがない場合は「制度の内容を知っている」が63.2%、「名称だけ知っている」が30.2%、「知らない」が5.7%であった。

図表 3-9 リフィル処方箋の制度の認知
(病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別)

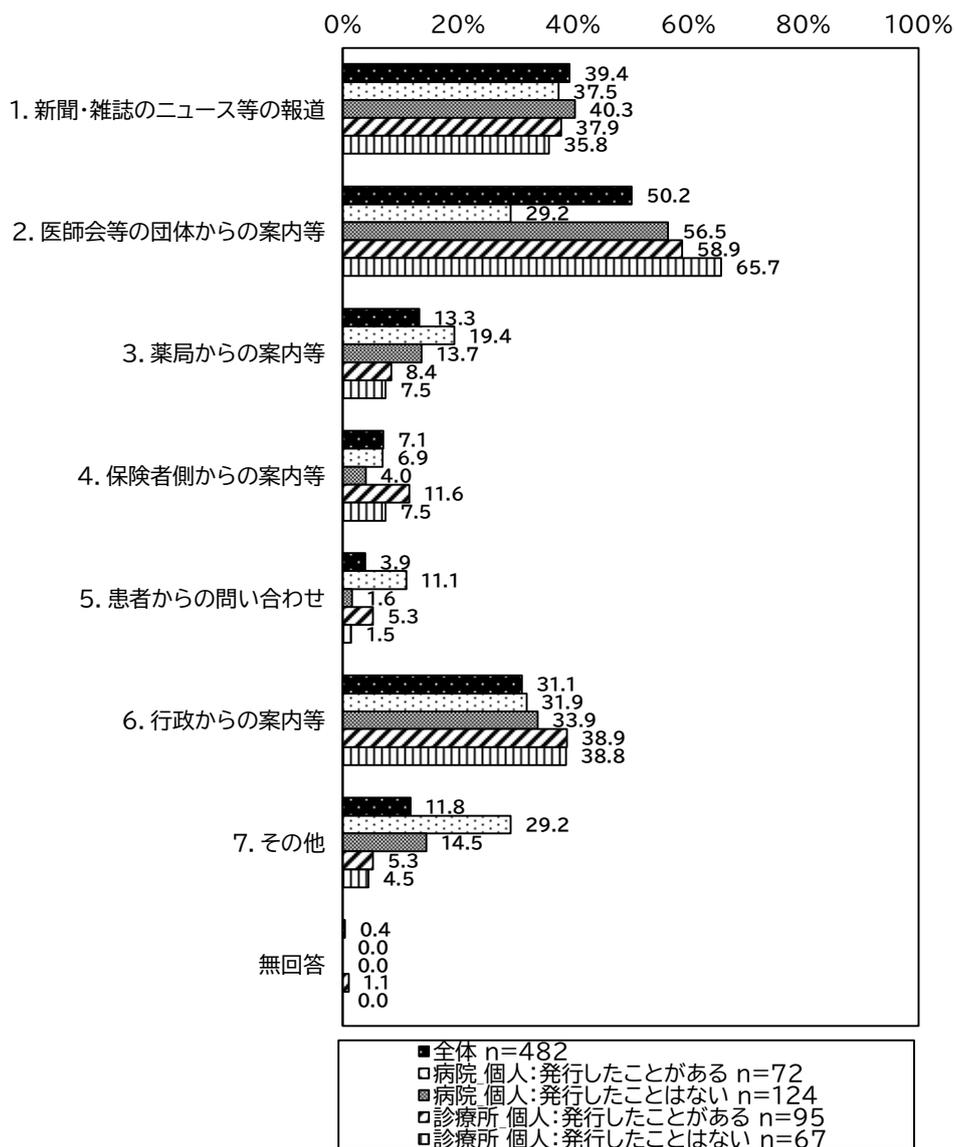


① リフィル処方箋の制度を知ったきっかけ（リフィル処方箋の制度を「制度の内容まで知っている」または「名称だけ知っている」医師が対象）

リフィル処方箋の制度を知ったきっかけについて、リフィル処方箋の制度を「制度の内容まで知っている」または「名称だけ知っている」医師を対象に確認した。その結果、病院の医師でリフィル処方箋を発行したことがある場合は「新聞・雑誌のニュース等の報道」が最も多く37.5%、病院の医師でリフィル処方箋を発行したことがない場合は「医師会等の団体からの案内等」が最も多く56.5%であった。

診療所の医師でリフィル処方箋を発行したことがある場合は「医師会等の団体からの案内等」が最も多く 58.9%、診療所の医師でリフィル処方箋を発行したことがない場合は「医師会等の団体からの案内等」が最も多く 65.7%であった。

図表 3-10 リフィル処方箋の制度を知ったきっかけ（複数回答）
 （リフィル処方箋の制度を「制度の内容まで知っている」または「名称だけ知っている」医師）
 （病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

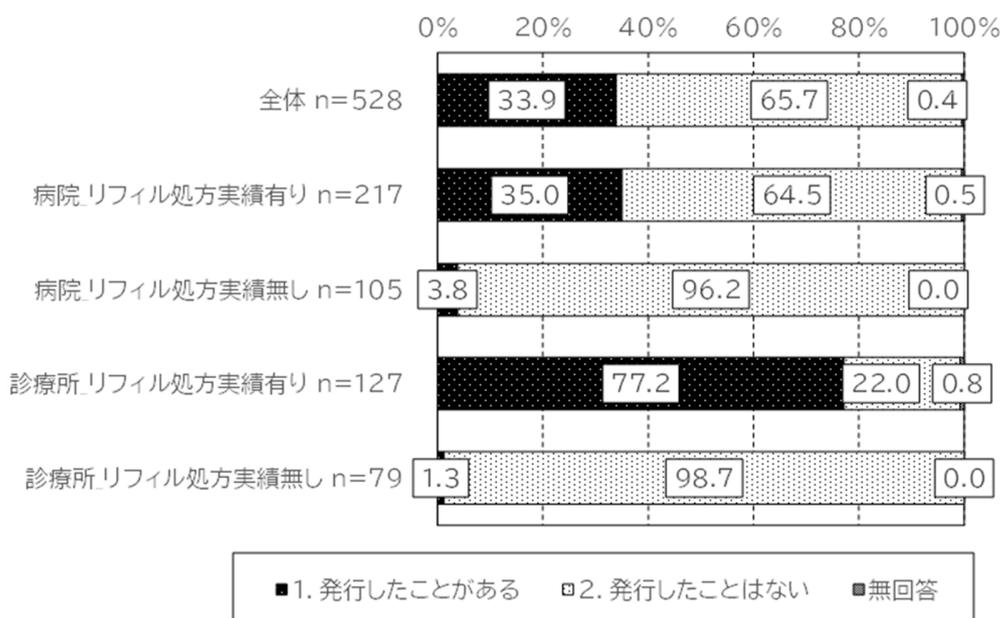
- ・ 薬局からの案内
- ・ インターネットからの情報
- ・ 院内通知、院内研修会
- ・ 診療報酬改定の説明資料 など

(2) リフィル処方箋の発行有無

リフィル処方箋の発行有無について、リフィル処方箋の発行実績の有る病院の医師は「発行したことがある」が35.0%、「発行したことはない」が64.5%、リフィル処方箋の発行実績の無い病院の医師は「発行したことがある」が3.8%、「発行したことはない」が96.2%であった。

リフィル処方箋の発行実績の有る病院の医師は「発行したことがある」が77.2%、「発行したことはない」が22.0%、リフィル処方箋の発行実績の無い病院の医師は「発行したことがある」が1.3%、「発行したことはない」が98.7%であった。

図表 3-11 リフィル処方箋の発行有無
(病院・診療所別、リフィル処方箋の発行実績の有無別)

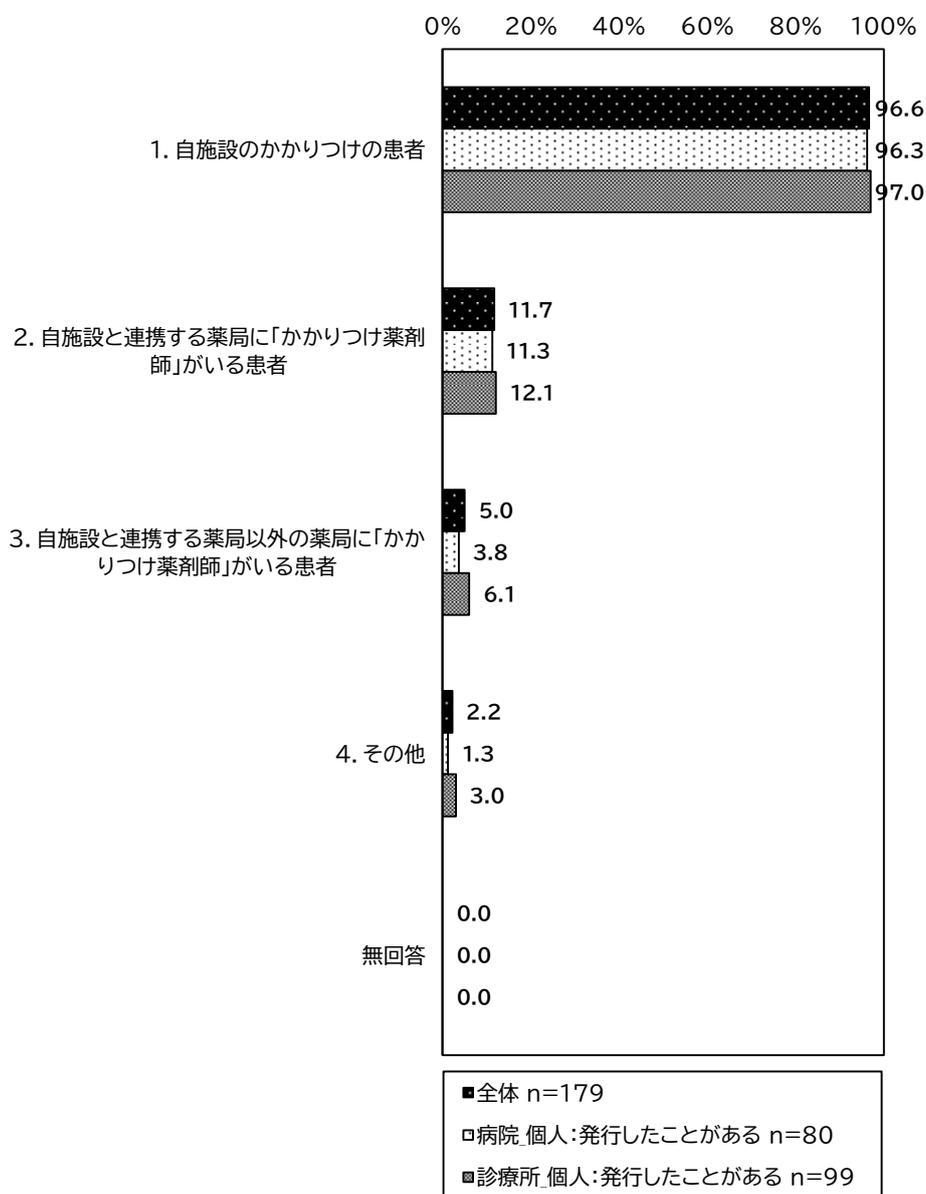


※ 施設単位でのリフィル処方箋の発行実績の有無は、令和4年10～12月の実績にもとづいており、調査の回答時点とは異なる。

(3) どのような患者にリフィル処方箋を発行しているか (リフィル処方箋を発行したことがある医師が対象)

どのような患者にリフィル処方箋を発行しているかについて、リフィル処方箋を発行したことがある医師を対象に確認した。その結果、病院の医師の場合も診療所の医師の場合も「自施設のかかりつけの患者」が最も多く、それぞれ96.3%、97.0%であった。

図表 3-12 どのような患者にリフィル処方箋を発行しているか（複数回答）
 （リフィル処方箋を発行したことがある医師）
 （病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別）

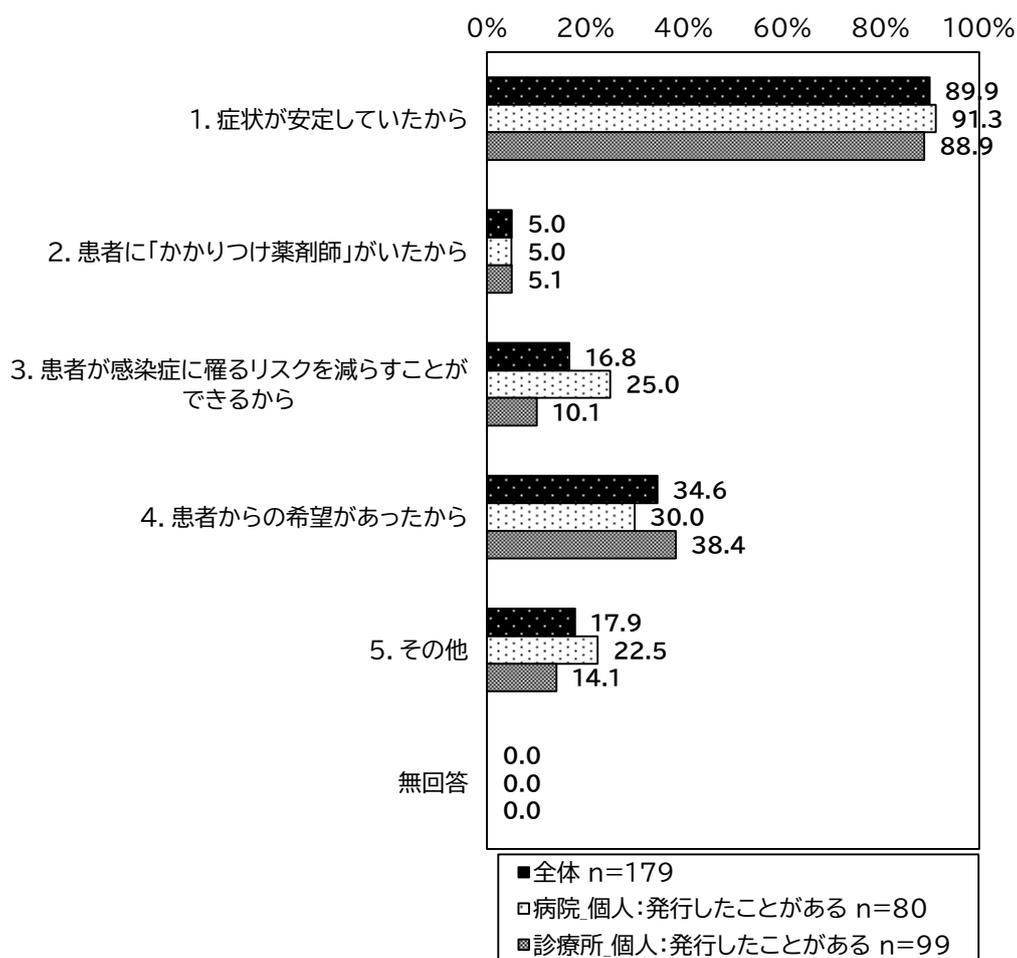


【その他（自由記載）の具体的な内容】
 ※具体的な記載なし

(4) リフィル処方箋を発行した理由（リフィル処方箋を発行したことがある医師が対象）

リフィル処方箋を発行した理由について、リフィル処方箋を発行したことがある医師を対象に確認した。その結果、病院の医師の場合も診療所の医師の場合も「症状が安定していたから」が最も多く、それぞれ91.3%、88.9%であった。

図表 3-13 あなたがリフィル処方箋を発行した理由（複数回答）
（リフィル処方箋を発行したことがある医師）
（病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別）



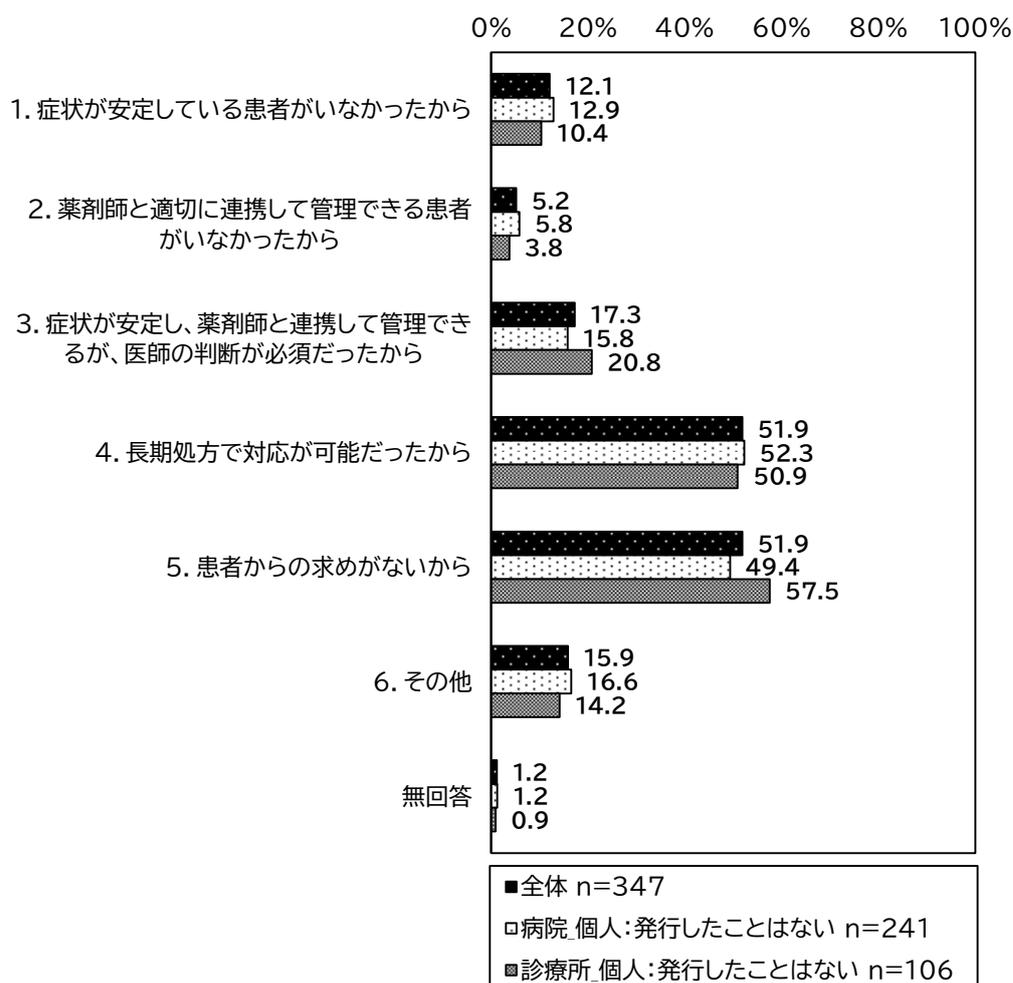
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・受診頻度、診察回数を減らすため
- ・通院困難な患者の便益確保のため
- ・服薬の中断を回避するため など

(5) リフィル処方箋を発行しなかった理由（リフィル処方箋を発行したことがない医師が対象）

リフィル処方箋を発行しなかった理由について、リフィル処方箋を発行したことがない医師を対象に確認した。その結果、病院の医師の場合は「長期処方に対応が可能だったから」が最も多く、52.3%であった。診療所の医師の場合は「患者からの求めがないから」が最も多く 57.5%であった。

図表 3-14 あなたがリフィル処方箋を発行しなかった理由（複数回答）
（病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別）



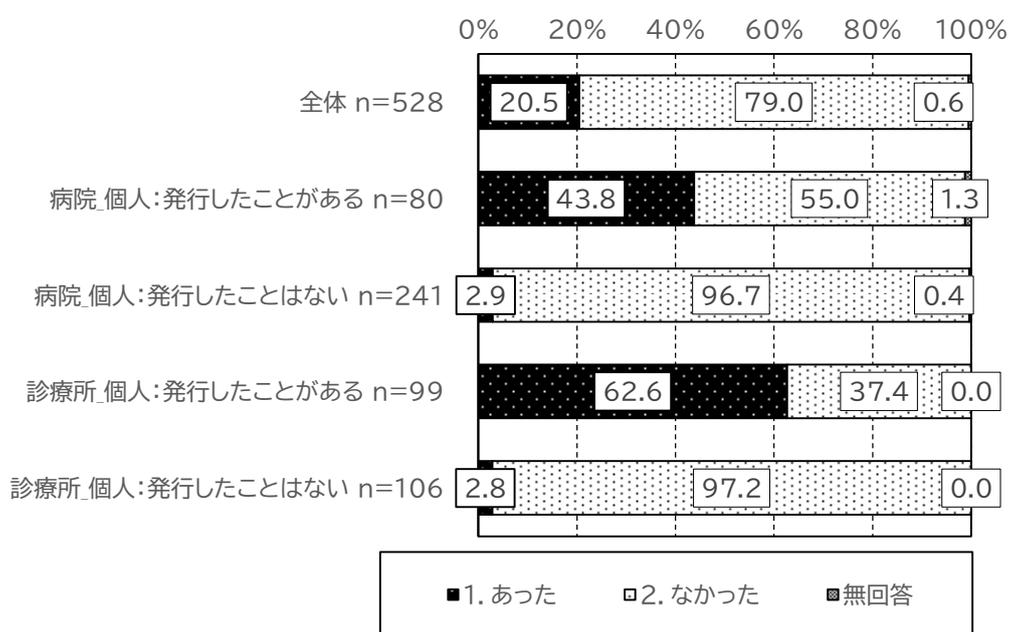
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・ 症状、薬の副反応のチェックが困難になるため
- ・ 制度ができたことを忘れていた、知らなかったから
- ・ 向精神薬等の制度対象外の医薬品を処方することが多いため
- ・ 院内の体制が整っていないため
- ・ 病院の方針としてリフィル処方箋を処方しないことになっているから
- ・ 診察による収入が減ってしまうため など

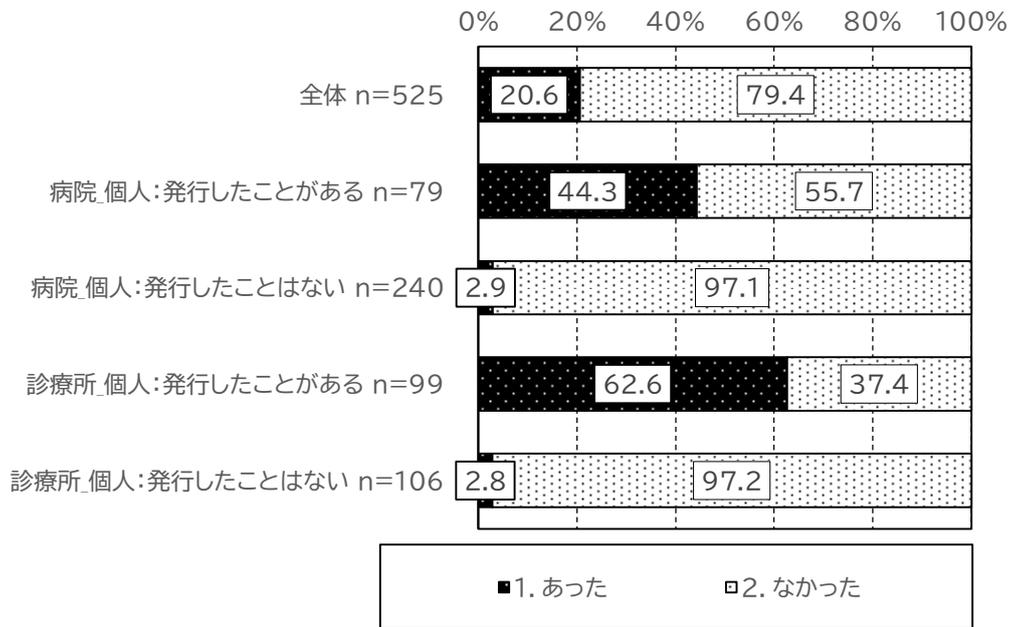
(6) リフィル処方箋の発行について患者からの希望の有無

リフィル処方箋の発行について患者からの希望の有無は、病院の医師で医師個人としてリフィル処方箋を発行したことがある場合は「あった」が43.8%、病院の医師で医師個人としてリフィル処方箋を発行したことがない場合は「あった」が2.9%であった。診療所の医師で医師個人としてリフィル処方箋を発行したことがある場合は「あった」が62.6%、診療所の医師で医師個人としてリフィル処方箋を発行したことがない場合は「あった」が2.8%であった。

図表 3-15 リフィル処方箋の発行について患者からの希望の有無
(病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別)



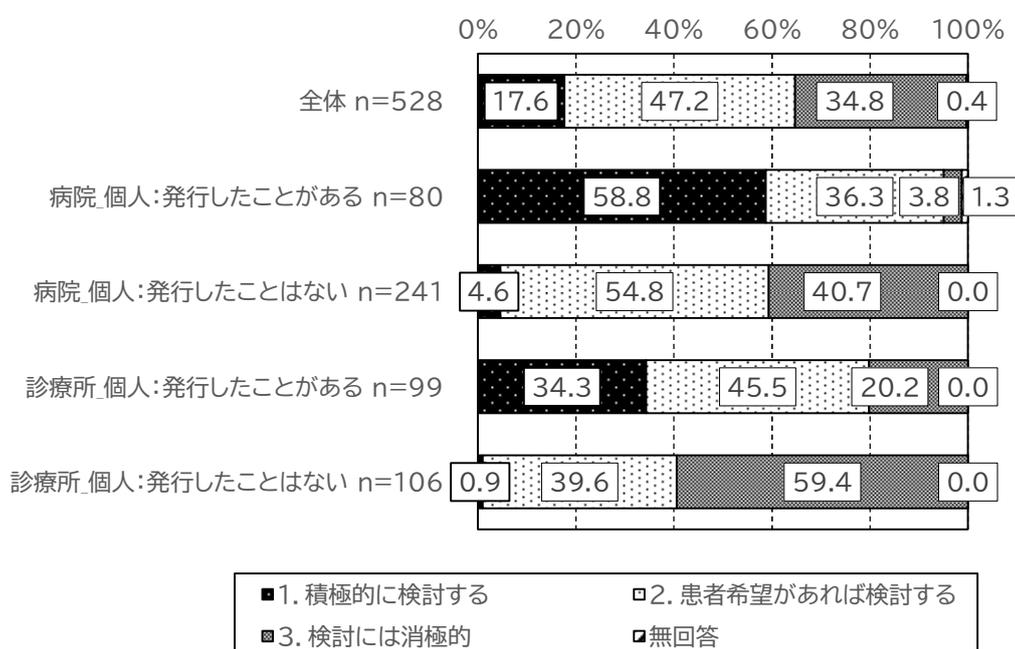
図表 3-16 リフィル処方箋の発行について患者からの希望の有無 <無回答除く>
(病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別)



(7) リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通し

リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通しは、「積極的に検討する」と回答した割合は、病院の医師で医師個人としてリフィル処方箋を発行したことがある場合は58.8%、病院の医師で医師個人としてリフィル処方箋を発行したことがない場合は4.6%、診療所の医師で医師個人としてリフィル処方箋を発行したことがある場合は34.3%、診療所の医師で医師個人としてリフィル処方箋を発行したことがない場合は0.9%であった。

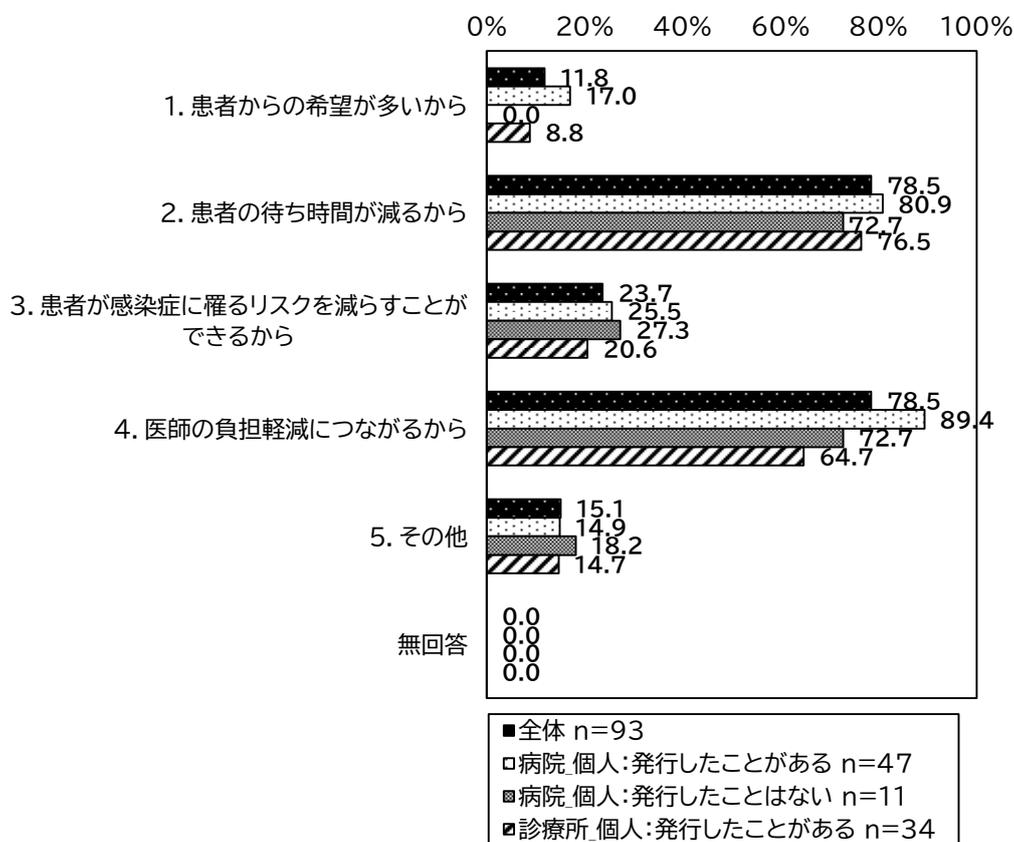
図表 3-17 リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通し
(病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別)



(8) (7)で「1. 積極的に検討する」と回答した理由（リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通しを積極的に検討するとした医師が対象）

(7)で「1. 積極的に検討する」と回答した理由を、リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通しを積極的に検討するとした医師を対象に確認した。その結果、病院の医師で医師個人としてリフィル処方箋を発行したことがある場合は「医師の負担軽減につながるから」が最も多く89.4%であった。病院の医師で医師個人としてリフィル処方箋を発行したことがない場合は「患者の待ち時間が減るから」と「医師の負担軽減につながるから」が最も多く72.7%であった。診療所の医師で医師個人としてリフィル処方箋を発行したことがある場合は「患者の待ち時間が減るから」が最も多く76.5%であった。

図表 3-18 (7)で「1. 積極的に検討する」と回答した理由（複数回答）
（病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別）



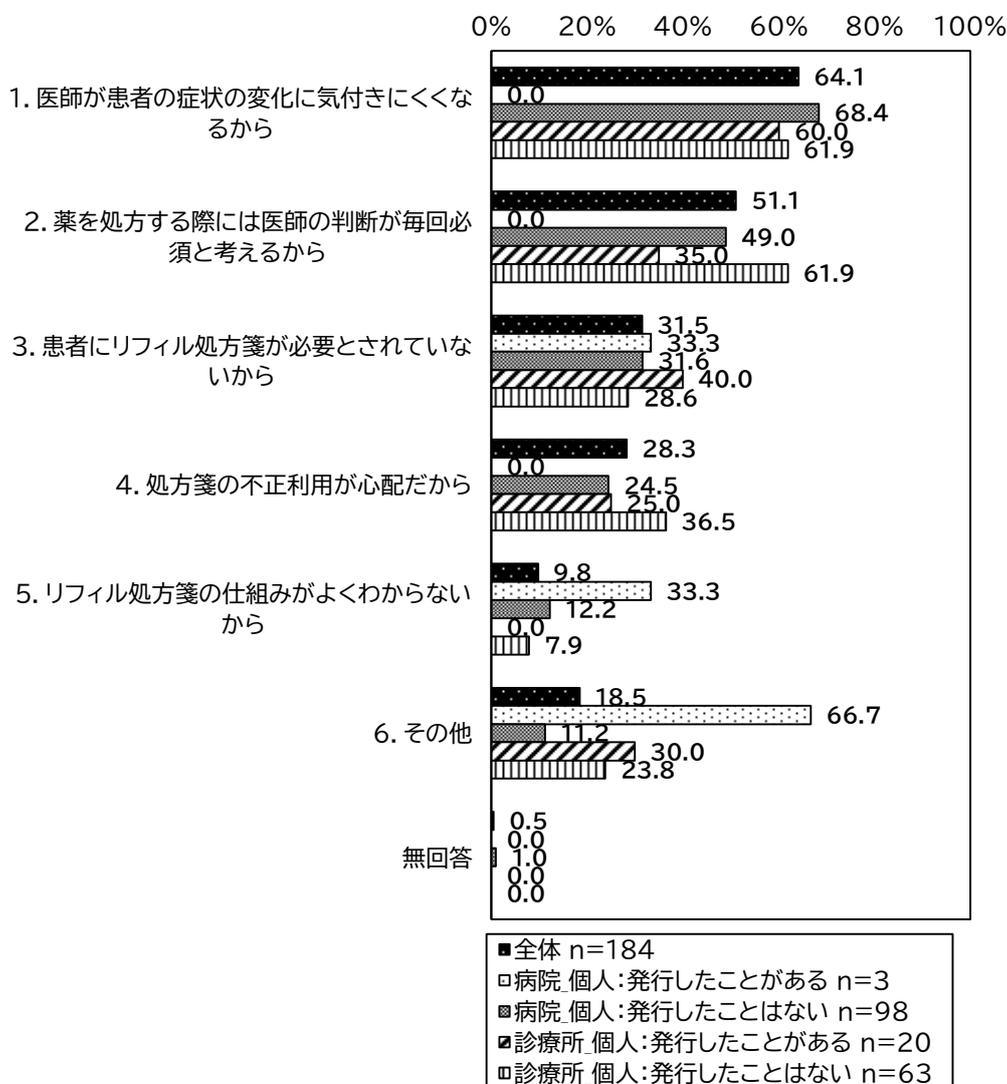
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・通院のために仕事を調整するなどの患者負担が減るため
- ・本当に診察が必要な患者に集中できる など

(9) (7)で「3. 検討には消極的」と回答した理由（リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通しを検討には消極的と回答した医師が対象）

(7)で「3. 検討には消極的」と回答した理由を、リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通しを検討には消極的と回答した医師を対象に確認した。その結果、病院の医師で医師個人としてリフィル処方箋を発行したことがある場合は「その他」が最も多く66.7%、次いで「患者にリフィル処方箋が必要とされていないから」と「リフィル処方箋の仕組みがよくわからないから」が33.3%であった。病院の医師で医師個人としてリフィル処方箋を発行したことがない場合は「医師が患者の症状の変化に気付きにくくなるから」が最も多く68.4%であった。診療所の医師で医師個人としてリフィル処方箋を発行したことがある場合は「医師が患者の症状の変化に気付きにくくなるから」が最も多く60.0%であった。診療所の医師で医師個人としてリフィル処方箋を発行したことがない場合は「医師が患者の症状の変化に気付きにくくなるから」と「薬を処方する際には医師の判断が毎回必須と考えるから」が最も多く61.9%であった。

図表 3-19 (7)で「3. 検討には消極的」と回答し理由（複数回答）
（病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

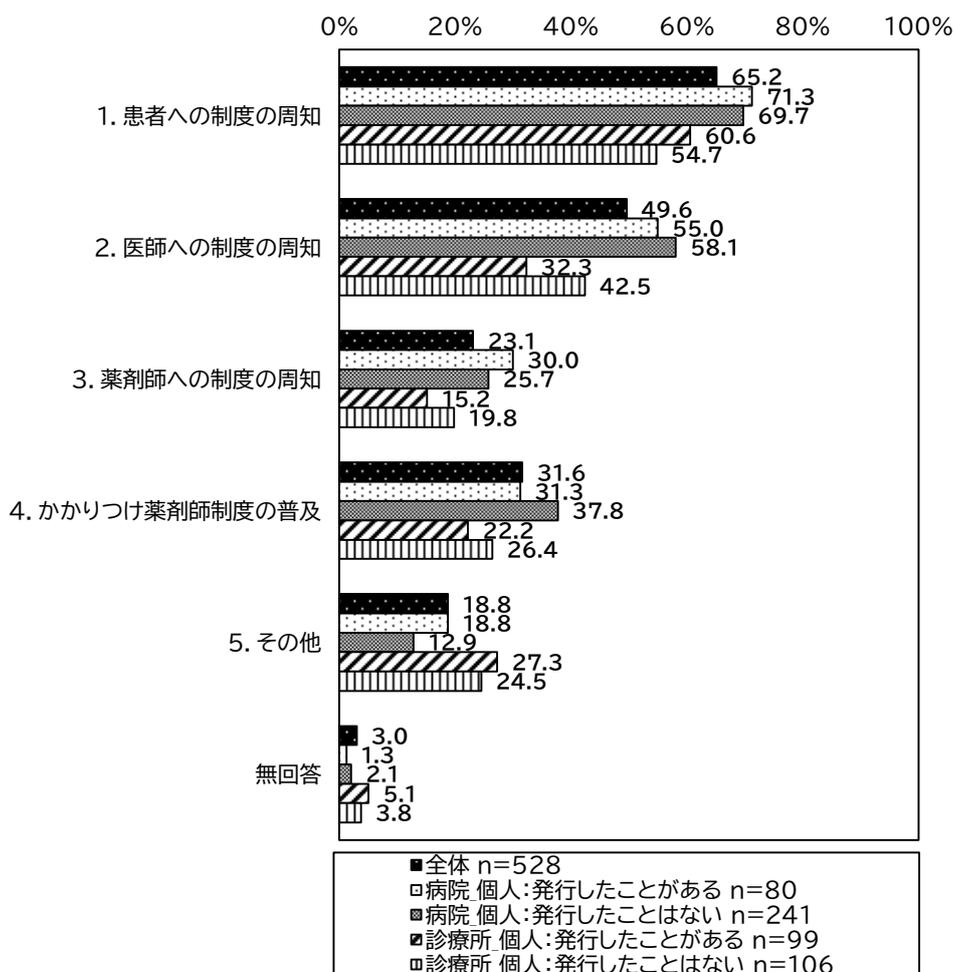
- ・こまめな情報交換がしづらい
- ・リフィル処方箋を処方できるほど安定している患者は、かかりつけ医で診てもらうため
- ・向精神薬等の制度対象外の医薬品を処方することが多いため
- ・病院の方針として決まっているため など

(10) このほか、リフィル処方箋の課題と考えられること

このほか、リフィル処方箋の課題と考えられることについては、病院の医師で医師個人としてリフィル処方箋を発行したことがある場合「患者への制度の周知」が最も多く71.3%、病院の医師で医師個人としてリフィル処方箋を発行したことがない場合「患者への制度の周知」が最も多く69.7%であった。

診療所の医師で医師個人としてリフィル処方箋を発行したことがある場合「患者への制度の周知」が最も多く60.6%、診療所の医師で医師個人としてリフィル処方箋を発行したことがない場合「患者への制度の周知」が最も多く54.7%であった。

図表 3-20 このほか、リフィル処方箋の課題と考えられること（複数回答）
（病院・診療所別、医師個人のリフィル発行有無別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・ 2回目の処方をおぼれる患者が多いため、スマートフォン等でアラートするシステムがあるとよい
- ・ リフィル処方の期間が短いので、延ばしてほしい
- ・ 病院、薬局側の体制面に不備がある
- ・ 処方制限のある薬剤の長期処方緩和がまずは重要
- ・ 処方箋紛失時の対応を考えると、安易に患者に勧めることはできない

4. 保険薬局調査

【調査対象等】

○調査票 保険薬局票

調査対象：令和4年10月から12月の間に、5件以上のリフィル処方箋の受付実績がある薬局から500件、同期間に受付実績がない薬局から500件をそれぞれ無作為抽出し、合計で1,000施設を調査対象とした

回答数：582施設

回答者：開設者・管理者

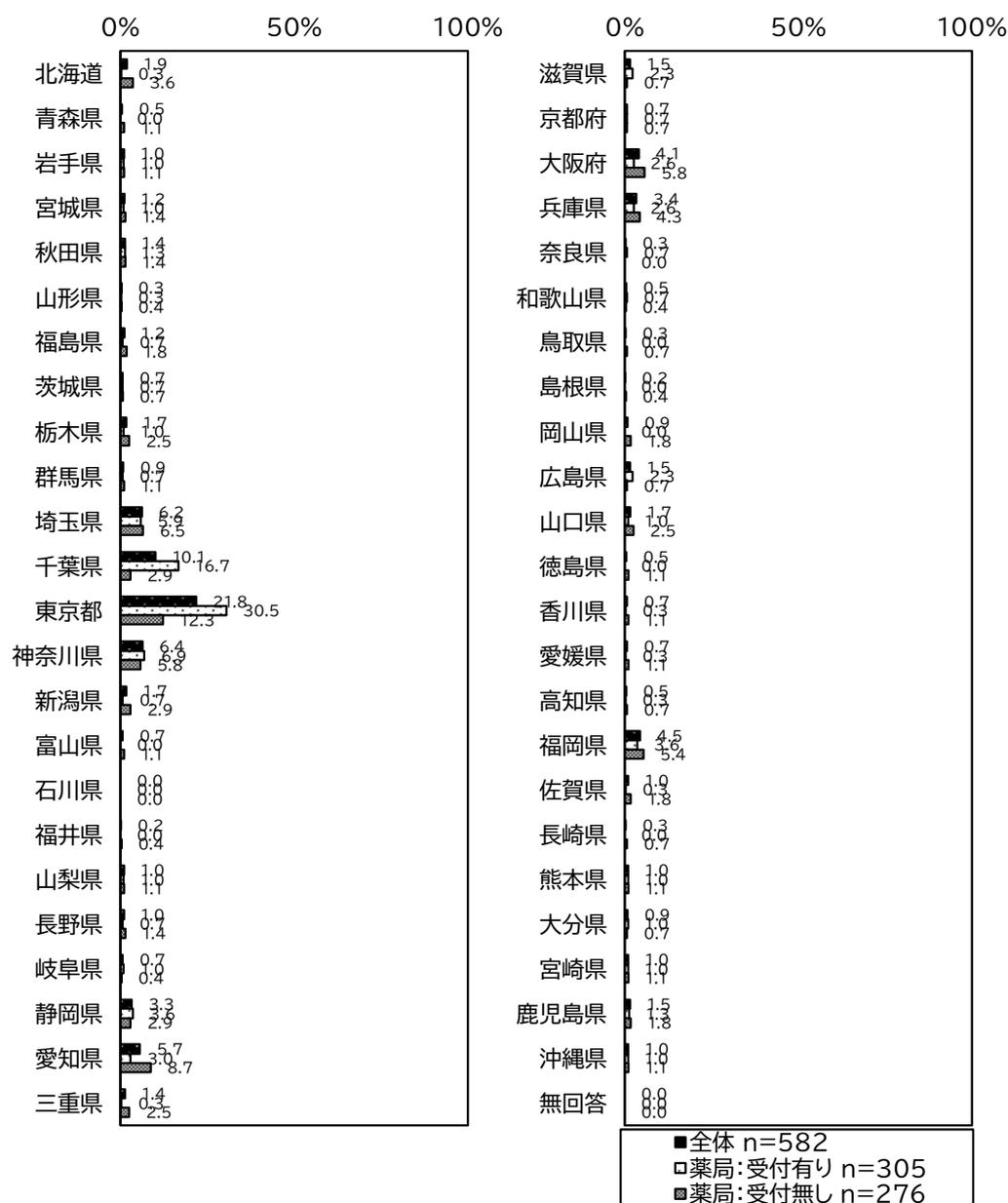
以下、本調査では「リフィル処方箋の受付実績が有る」とは、令和4年10月～12月の期間に5件以上、NDB上でのリフィル処方箋の受付実績が有ることを指します。また、グラフ内の凡例である「受付有り」「受付無し」は、上記の令和4年10月～12月の期間に5件以上、NDB上でのリフィル処方箋の受付実績の有無を指します。

1) 薬局の状況（令和5年7月1日現在）

(1) 所在地

所在地はリフィル処方箋の受付実績が有る薬局は「東京都」が30.5%と最も多く、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局も「東京都」が12.3%と最も多かった。

図表 4-1 所在地
(リフィル処方箋の受付実績有無別)

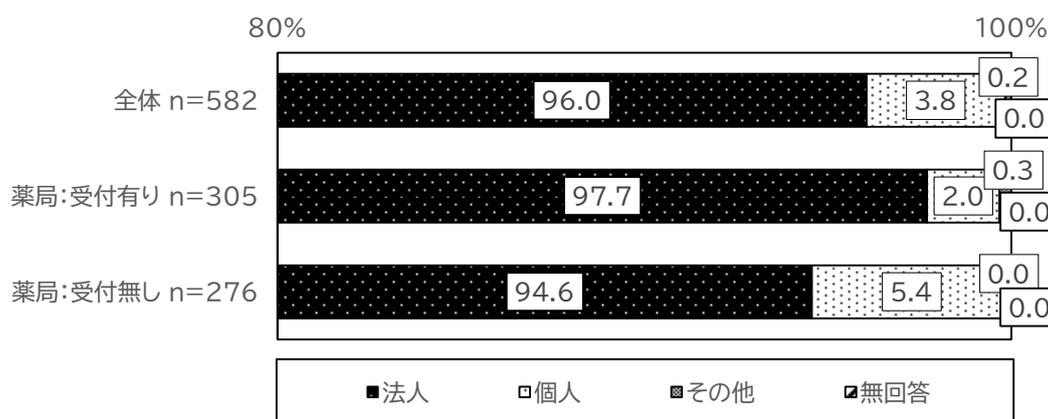


※回収 ID が不明のケースが 1 件発生したため、全体集計には含まれているものの、リフィル処方箋の受付実績あり、なしのどちらの小分類にも含まれていない回答がある。

(2) 開設者

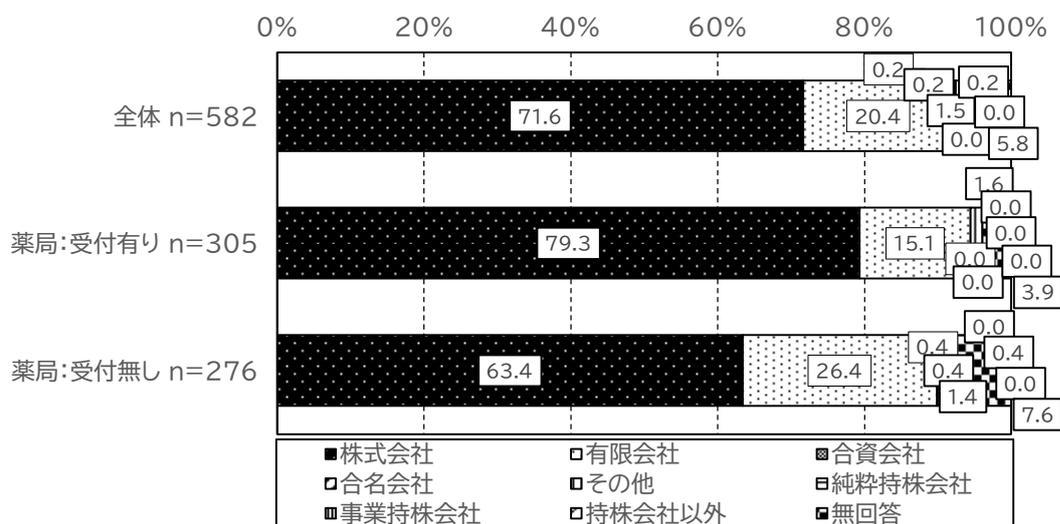
開設者はリフィル処方箋の受付実績が有る薬局は「法人」が97.7%、「個人」が2.0%、「その他」が0.3%であった。リフィル処方箋の受付実績が無い薬局は「法人」が94.6%、「個人」が5.4%、「その他」が0.0%であった。

図表 4-2 開設者
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



【その他（自由記載）の具体的な内容】
※具体的な記載なし

図表 4-3 開設者（法人の内訳）
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



(3) 同一グループ等による薬局店舗数

同一グループ※による薬局店舗数は、リフィル処方箋の受付実績有りの薬局で平均 457.5 店舗、リフィル処方箋の受付実績無し of 薬局で平均 220.8 店舗であった。

図表 4-4 同一グループ（財務上又は営業上若しくは事業上、緊密な関係にある範囲の保険薬局をいう）等による薬局店舗
（リフィル処方箋の受付実績有無別）

（単位：店舗）

	回答 施設数	平均値	標準偏差	中央値
全体	543	343.3	635.8	16.0
受付実績有り	282	457.5	713.3	59.5
受付実績無し	260	220.8	513.8	5.0

※ 同一グループは次の基準により判断する（調剤基本料の施設基準における同一グループの考え方と同様）

1. 保険薬局の事業者の最終親会社
2. 保険薬局の事業者の最終親会社の子会社
3. 保険薬局の事業者の最終親会社の関連会社
4. 1 から 3 までに掲げる者と保険薬局の運営に関するフランチャイズ契約を締結している者

(4) 開設年

開設年については、リフィル処方箋の受付実績有りの薬局が平均で 2007 年中、リフィル処方箋の受付実績無し of 薬局が平均で 2006 年中であった。

図表 4-5 開設年
（リフィル処方箋の受付実績有無別）

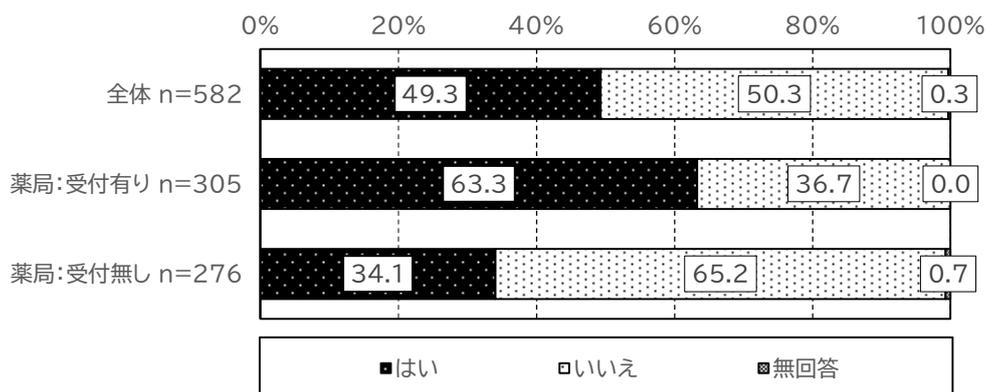
（単位：年(西暦)）

	回答 施設数	平均値	標準偏差	中央値
全体	543	2006.6	14.9	2010.0
受付実績有り	276	2007.2	14.0	2011.0
受付実績無し	266	2006.0	15.8	2010.0

(5) チェーン薬局（同一経営者が20店舗以上を所有する薬局の店舗）か否か

チェーン薬局（同一経営者が20店舗以上を所有する薬局の店舗）かどうかについては「はい」と回答割合が、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では63.3%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では34.1%であった。

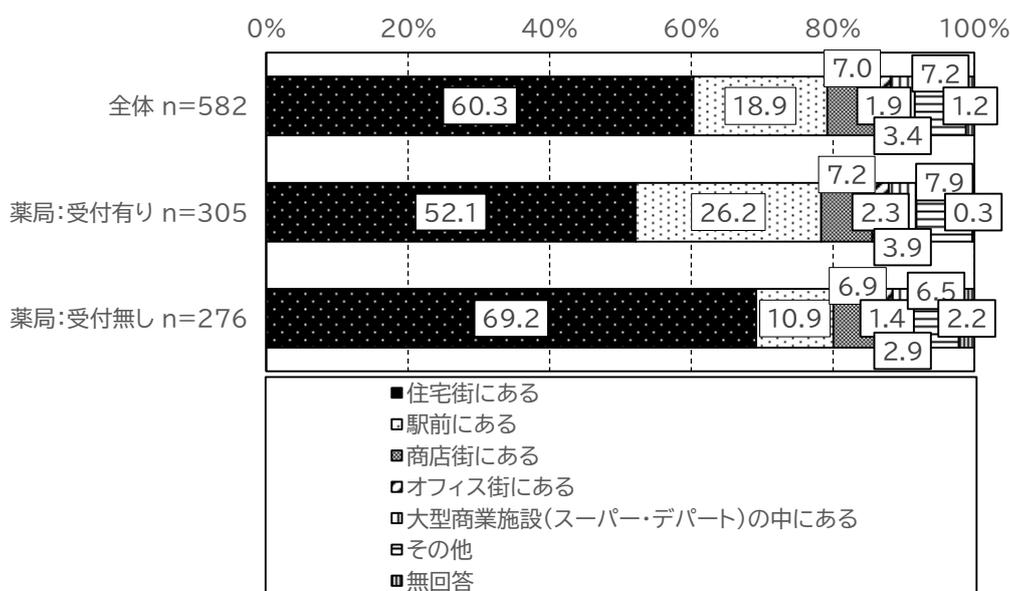
図表 4-6 チェーン薬局（同一経営者が20店舗以上を所有する薬局の店舗）か（リフィル処方箋の受付実績有無別）



(6) 薬局の立地

薬局の立地は「住宅街にある」が最も多く、リフィル処方箋を受け付けたことがある薬局では52.1%、リフィル処方箋を受け付けたことがない薬局では69.2%であった。

図表 4-7 薬局の立地（リフィル処方箋の受付実績有無別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・医療機関の門前
- ・国道、幹線道路沿い
- ・医療ビルの中 など

(7) 応需医療機関数（令和5年4月～6月の月平均値）

令和5年4月～6月の期間における応需医療機関数について、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局は平均で92.2施設、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局は平均で42.1施設であった。

図表 4-8 応需医療機関数（令和5年4月～6月の月平均値）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）

（単位：施設）

	回答 施設数	平均値	標準 偏差	中央値
全体	508	66.7	60.8	49.0
受付実績有り	250	92.2	68.2	80.0
受付実績無し	257	42.1	39.4	29.0

(8) 最も多く処方箋を受け付けた医療機関からの処方箋枚数割合

令和5年4月～6月の期間において、最も多く処方箋を受け付けた医療機関からの処方箋割合については、リフィル処方箋の受付実績有りの薬局が平均52.8%、リフィル処方箋の受付実績無しの薬局が平均69.2%であった。

図表 4-9 最も多く処方箋を受け付けた医療機関からの処方箋枚数割合
（リフィル処方箋の受付実績有無別）

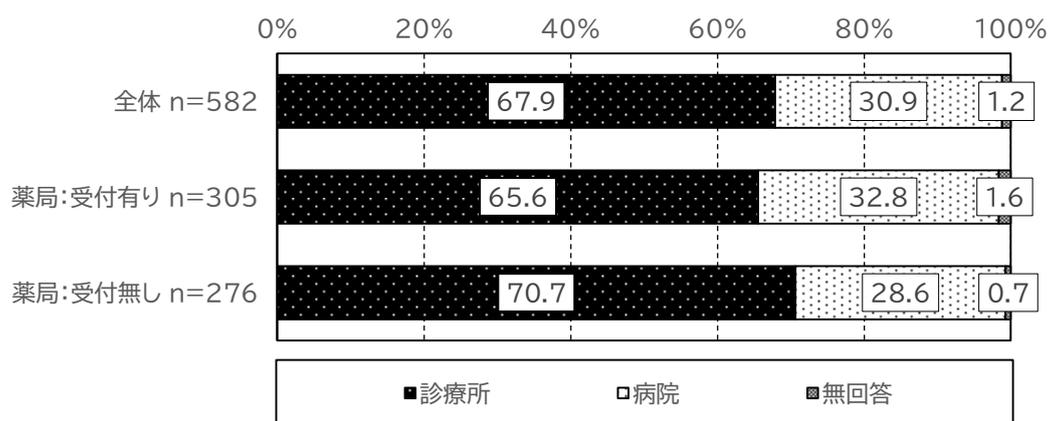
（単位：%）

	回答 施設数	平均値	標準 偏差	中央値
全体	568	60.6	30.3	64.5
受付実績有り	296	52.8	29.7	50.0
受付実績無し	271	69.2	28.7	80.0

① 最も多く処方箋を受け付けた医療機関の診療所・病院の別

令和5年4月～6月の期間において、最も多く処方箋を受け付けた医療機関の診療所・病院の別については、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では「診療所」が65.6%、「病院」が32.8%であった。リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では「診療所」が70.7%、「病院」が28.6%であった。

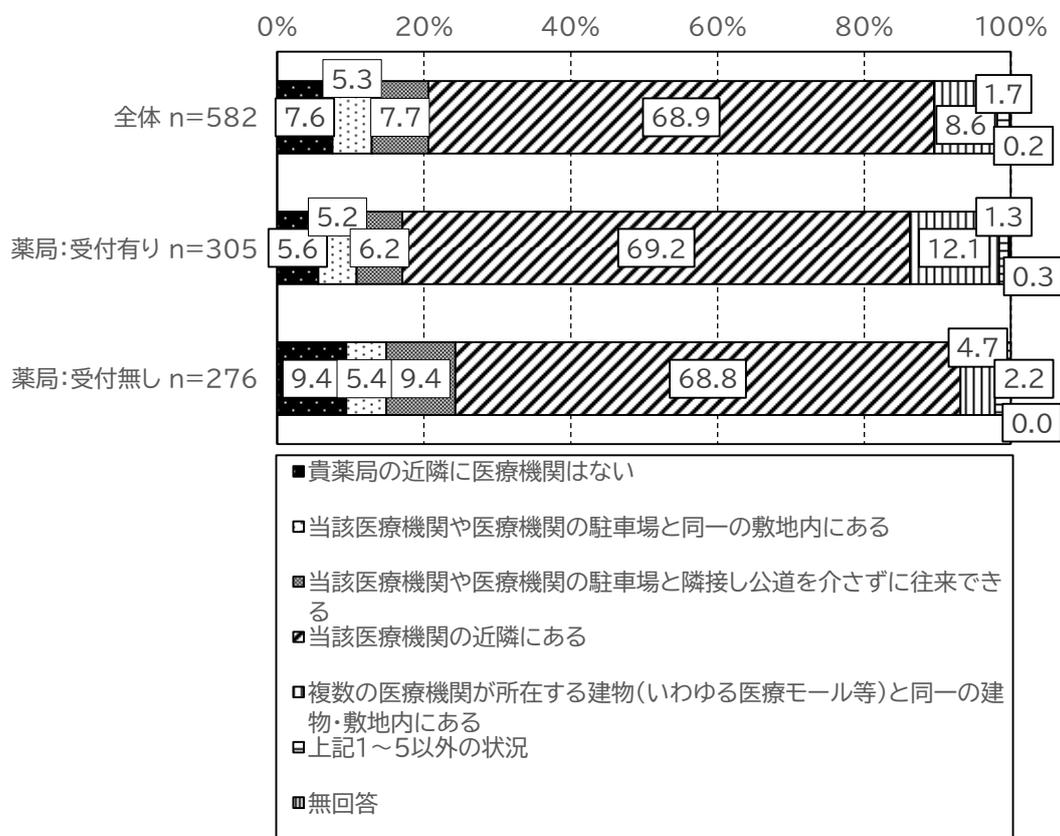
図表 4-10 最も多く処方箋を受け付けた医療機関の診療所・病院の別
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



② 最も多く処方箋を受け付けた医療機関と貴薬局との位置関係

最も多く処方箋を受け付けた医療機関と貴薬局との位置関係については「当該医療機関の近隣にある」が最も多く、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では69.2%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では68.8%であった。

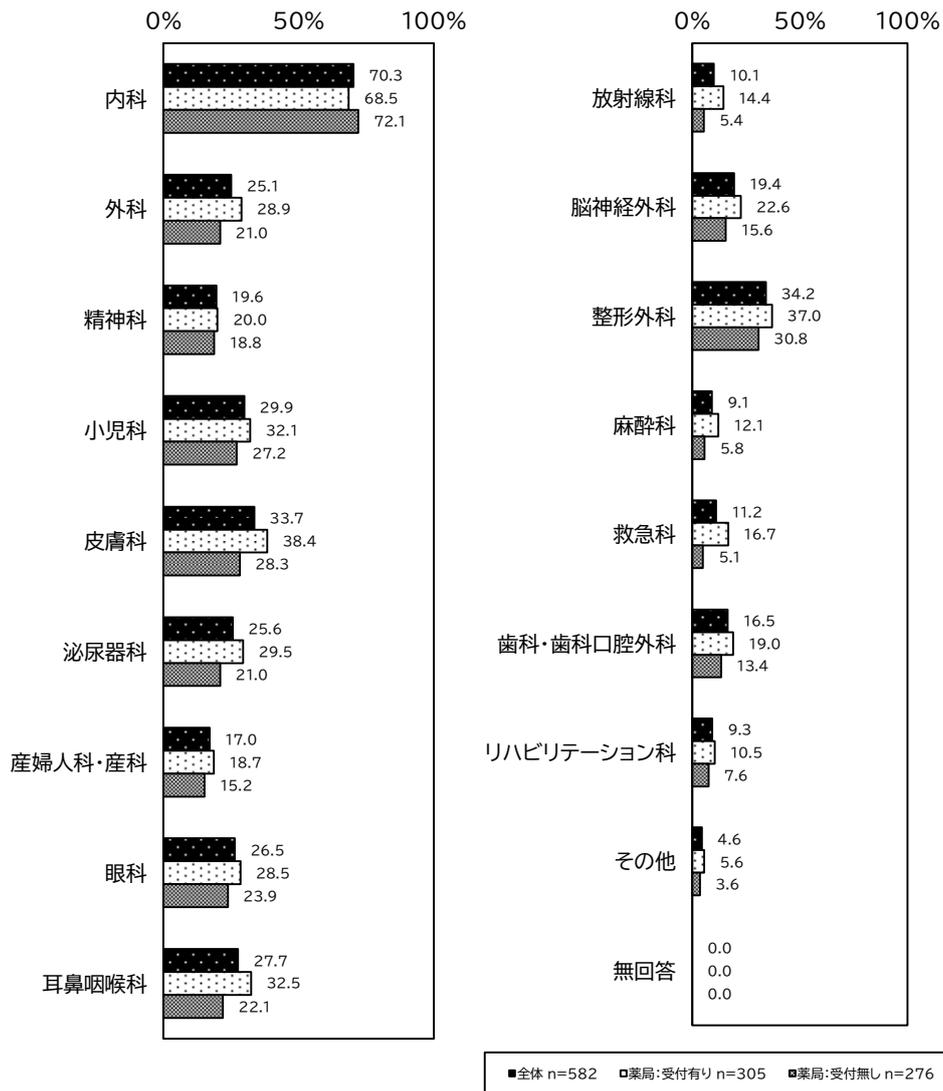
図表 4-11 上記(8)の集中度が最も高い医療機関の情報のうち、最も多く処方箋を受け付けた医療機関と貴薬局との位置関係 (リフィル処方箋の受付実績有無別)



③ 最も多く処方箋を受け付けた医療機関の診療科

最も多く処方箋を受け付けた医療機関の診療科の種類については「内科」が最も多く、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では68.5%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では72.1%であった。

図表 4-12 最も多く処方箋を受け付けた診療科の種類
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・アレルギー科
- ・形成外科
- ・緩和ケア など

(9) 売上高に占める保険調剤売上の割合（令和4年度決算）

売上高に占める保険調剤売上の割合（令和4年度決算）については、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局が平均で88.7%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局が平均で91.0%であった。

図表 4-13 貴薬局の売上高に占める保険調剤売上の割合
（リフィル処方箋の受付実績有無別）

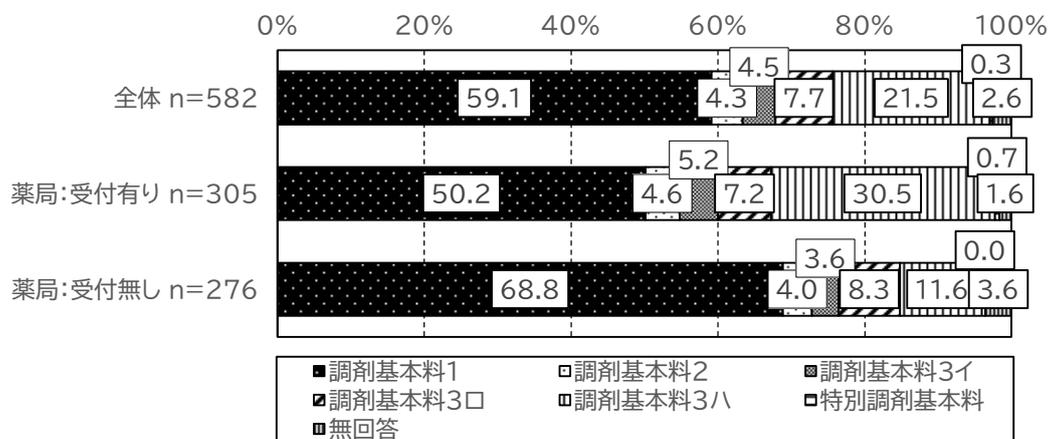
（単位：％）

	回答 施設数	平均値	標準 偏差	中央値
全体	497	89.8	22.3	98.0
受付実績有り	251	88.7	23.2	98.0
受付実績無し	245	91.0	21.3	98.5

(10) 令和5年度の調剤基本料の届出状況

令和5年度の調剤基本料の届出状況は「調剤基本料1」最も多く、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では50.2%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では68.8%であった。

図表 4-14 令和5年度の調剤基本料の届出状況
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



① 全処方箋の受付回数（令和5年4月～6月の合計）

全処方箋の受付回数（令和5年4月～6月の合計）については、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では平均で4877.4回、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では平均で3121.6回であった。

図表 4-15 全処方箋の受付回数（令和5年4月～6月の合計）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）

（単位：回）

	回答 施設数	平均値	標準 偏差	中央値
全体	460	4041.5	2570.1	3432.5
受付実績有り	241	4877.4	2620.9	4563.0
受付実績無し	219	3121.6	2173.2	2688.0

(11) 職員数

リフィル処方箋の受付実績が有る薬局の常勤の職員数については、薬剤師が平均3.7人、うち、かかりつけ薬剤師指導料等における「かかりつけ薬剤師」が平均1.5人であった。同様に受付実績が有る薬局の非常勤職員の実人数については、薬剤師が平均2.9人、うち、かかりつけ薬剤師指導料等における「かかりつけ薬剤師」が平均0.2人であった。受付実績が有る薬局の非常勤職員の常勤換算人数については、薬剤師が平均1.2人、うち、かかりつけ薬剤師指導料等における「かかりつけ薬剤師」が平均0.1人であった。

リフィル処方箋の受付実績が無い薬局の常勤の職員数については、薬剤師が平均1.9人、うち、かかりつけ薬剤師指導料等における「かかりつけ薬剤師」が平均0.9人であった。同様に受付実績が無い薬局の非常勤職員の実人数については、薬剤師が平均2.0人、うち、かかりつけ薬剤師指導料等における「かかりつけ薬剤師」が平均0.2人であった。受付実績が無い薬局の非常勤職員の常勤換算人数については、薬剤師が平均0.8人、うち、かかりつけ薬剤師指導料等における「かかりつけ薬剤師」が平均0.1人であった。

図表 4-16 職員数
(リフィル処方箋の受付実績有無別)

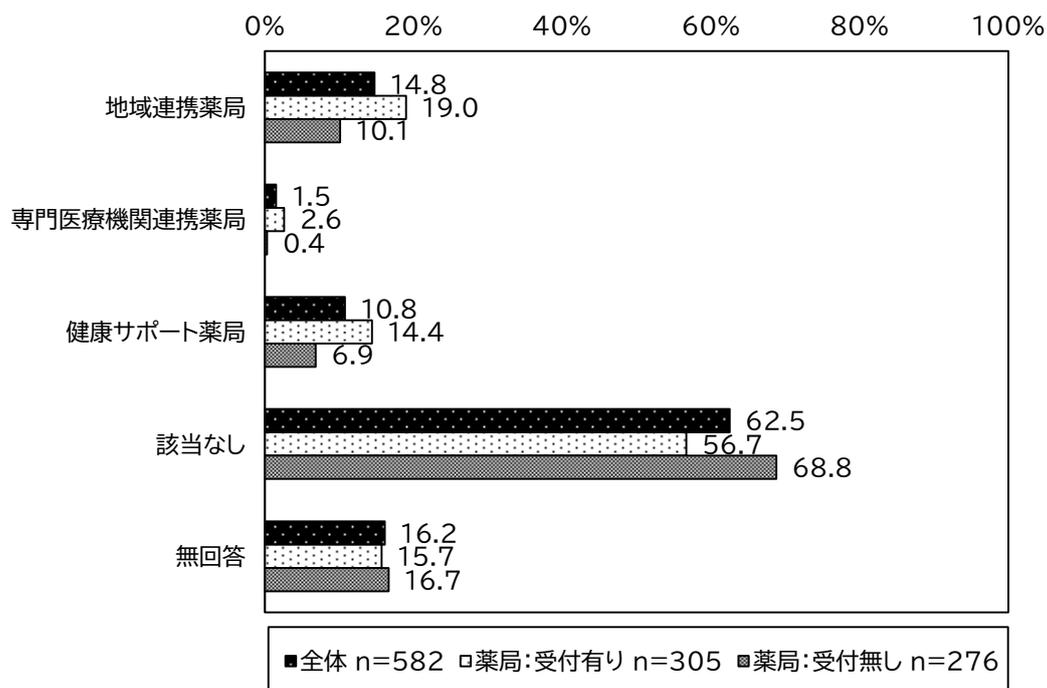
(単位：人)

			回答 施設 数	平均 値	標準 偏差	中央 値
全体	常勤職員	薬剤師	575	2.9	2.2	2.0
		うち、かかりつけ薬剤師指導料等 ^注 ¹ における「かかりつけ薬剤師」	503	1.2	1.3	1.0
		その他（事務職員等）	524	2.1	1.6	2.0
	非常勤 職員 実人数	薬剤師	423	2.5	3.3	2.0
		うち、かかりつけ薬剤師指導料等 ^注 ¹ における「かかりつけ薬剤師」	299	0.2	0.5	0.0
		その他（事務職員等）	347	1.4	2.2	1.0
	非常勤 職員 常勤換算	薬剤師	375	1.0	1.1	0.8
		うち、かかりつけ薬剤師指導料等 ^注 ¹ における「かかりつけ薬剤師」	289	0.1	0.3	0.0
		その他（事務職員等）	310	0.7	1.2	0.0
受付 実績 有り	常勤職員	薬剤師	301	3.7	2.5	3.0
		うち、かかりつけ薬剤師指導料等 ^注 ¹ における「かかりつけ薬剤師」	267	1.5	1.5	1.0
		その他（事務職員等）	274	2.3	1.9	2.0
	非常勤 職員 実人数	薬剤師	234	2.9	4.0	2.0
		うち、かかりつけ薬剤師指導料等 ^注 ¹ における「かかりつけ薬剤師」	162	0.2	0.6	0.0
		その他（事務職員等）	187	1.7	2.8	1.0
	非常勤 職員 常勤換算	薬剤師	209	1.2	1.3	0.9
		うち、かかりつけ薬剤師指導料等 ^注 ¹ における「かかりつけ薬剤師」	156	0.1	0.3	0.0
		その他（事務職員等）	168	0.9	1.5	0.5
受付 実績 無し	常勤職員	薬剤師	273	1.9	1.2	2.0
		うち、かかりつけ薬剤師指導料等 ^注 ¹ における「かかりつけ薬剤師」	235	0.9	0.9	1.0
		その他（事務職員等）	249	1.8	1.1	2.0
	非常勤 職員 実人数	薬剤師	188	2.0	2.0	2.0
		うち、かかりつけ薬剤師指導料等 ^注 ¹ における「かかりつけ薬剤師」	136	0.2	0.5	0.0
		その他（事務職員等）	159	1.1	1.3	1.0
	非常勤 職員 常勤換算	薬剤師	165	0.8	0.8	0.5
		うち、かかりつけ薬剤師指導料等 ^注 ¹ における「かかりつけ薬剤師」	133	0.1	0.3	0.0
		その他（事務職員等）	141	0.5	0.8	0.0

(12) 薬局の認定等の状況

薬局の認定等の状況は「該当なし」が最も多くリフィル処方箋の受付実績が有る薬局では56.7%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では68.8%であった。次いで多かったのは「地域連携薬局」でリフィル処方箋の受付実績が有る薬局では19.0%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では10.1%であった

図表 4-17 薬局の認定等の状況（複数回答）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）

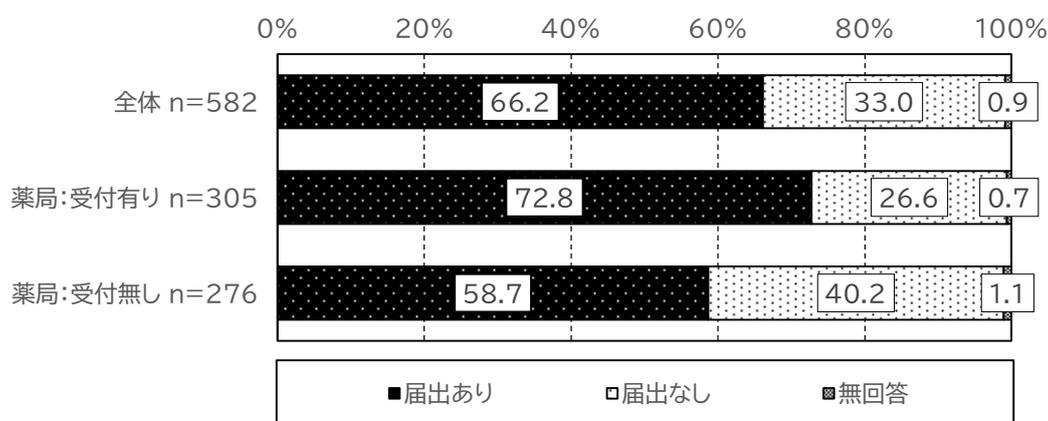


2) 届出の状況

(1) かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料の施設基準等の届出の状況

かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料の施設基準等の届出の状況は、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では「届出あり」が72.8%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では「届出あり」が58.7%であった。

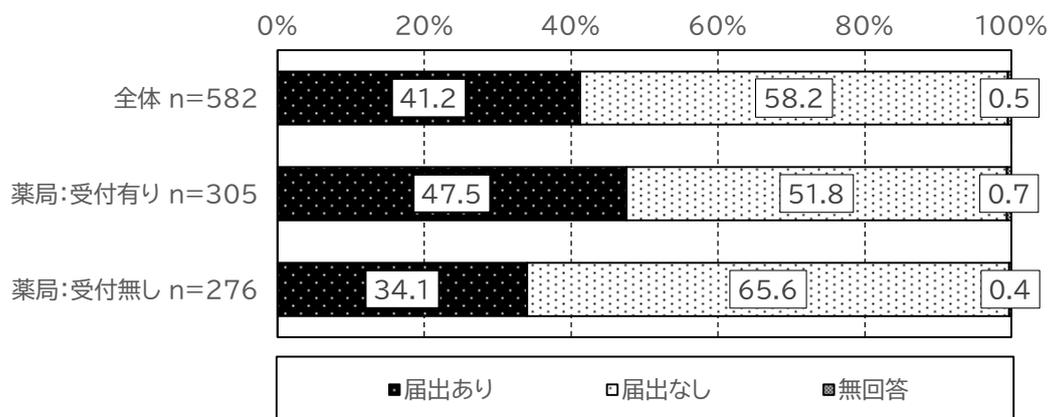
図表 4-18 かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料の施設基準等の届出の状況
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



(2) 地域支援体制加算の届出の状況

地域支援体制加算の届出の状況はリフィル処方箋の受付実績が有る薬局では「届出あり」が47.5%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では「届出あり」が34.1%であった。

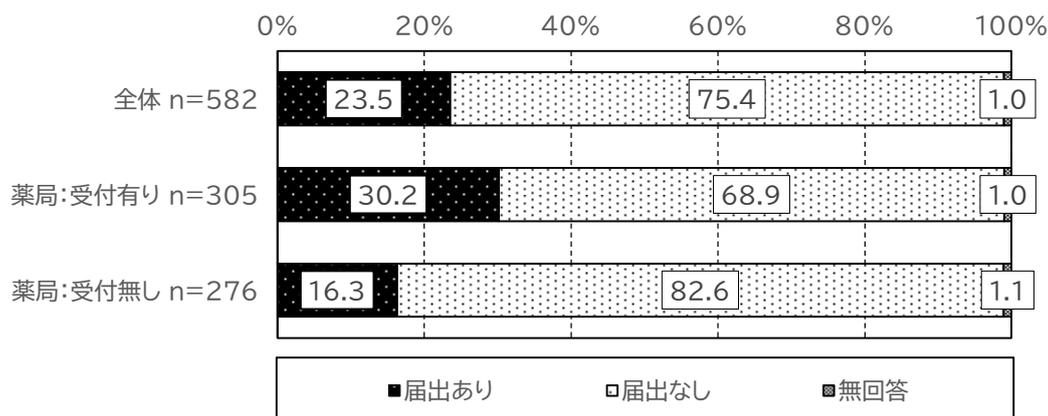
図表 4-19 地域支援体制加算の届出の状況
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



(3) 連携強化加算の届出の状況

連携強化加算の届出の状況はリフィル処方箋の受付実績が有る薬局では「届出あり」が30.2%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では「届出あり」が16.3%であった。

図表 4-20 連携強化加算の届出の状況
(リフィル処方箋の受付実績有無別)

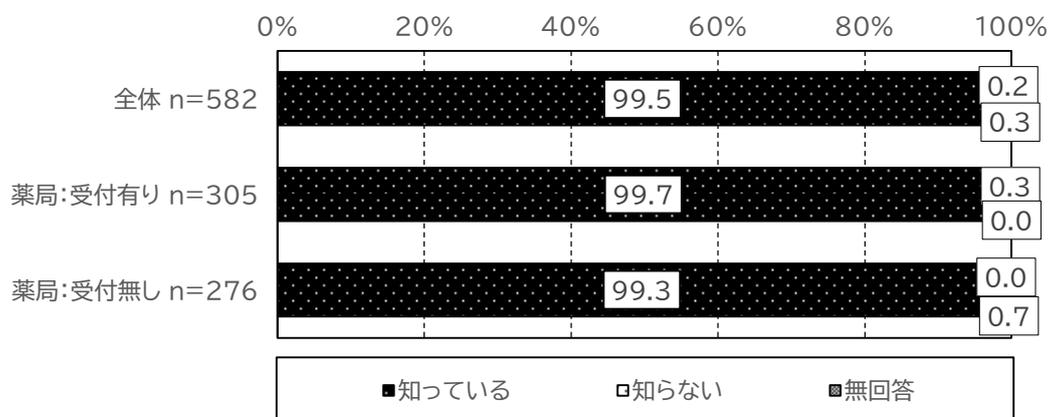


3) リフィル処方箋の対応状況

(1) リフィル処方箋の仕組みについての認知状況

リフィル処方箋の仕組みについての認知状況は、「知っている」がリフィル処方箋の受付実績が有る薬局では99.7%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では99.3%であった。

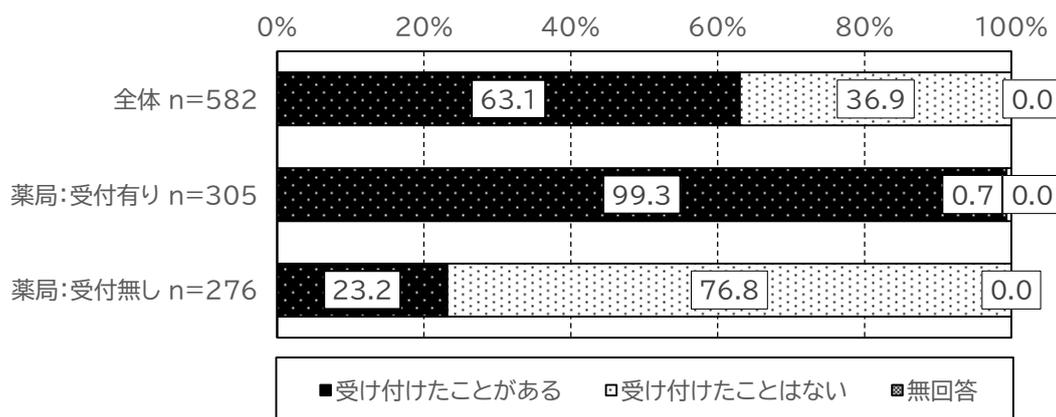
図表 4-21 リフィル処方箋の仕組みについての認知状況
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



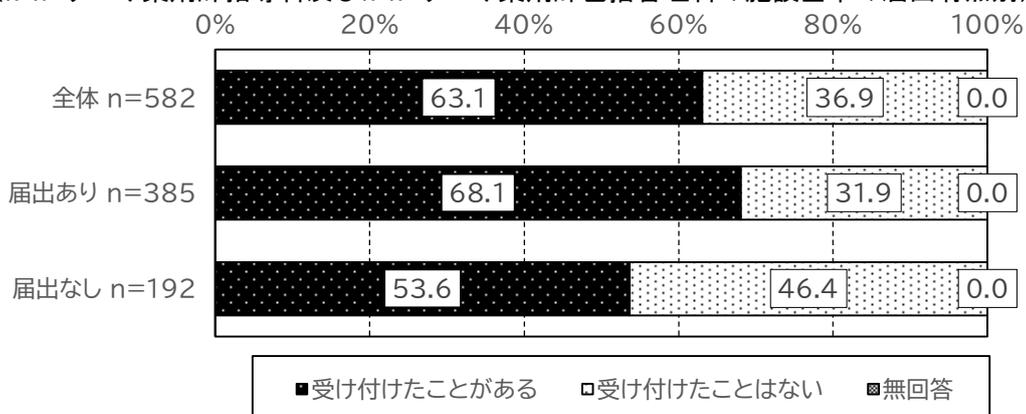
(2) リフィル処方箋の受付経験

リフィル処方箋の受付経験は、かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料の施設基準の届出がある薬局では「受け付けたことがある」が68.1%、届出がない薬局では「受け付けたことがある」が53.6%、であった。

図表 4-22 リフィル処方箋の受付経験
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



図表 4-23 リフィル処方箋の受付経験
(かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料の施設基準の届出有無別)



※「リフィル処方箋の受付実績が有る」とは、令和4年10月～12月の期間に5件以上、NDB上でのリフィル処方箋の受付実績が有ることを指します。

(3) 受け付けたリフィル処方箋を発行した医療機関数（リフィル処方箋を受け付けたことがあると回答した施設のみ）

受け付けたリフィル処方箋を発行した医療機関数について、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では平均で2.1箇所、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では1.1箇所であった。

図表 4-24 受け付けたリフィル処方箋を発行した医療機関数
（リフィル処方箋を受け付けたことがあると回答した施設のみ）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）

（単位：箇所）

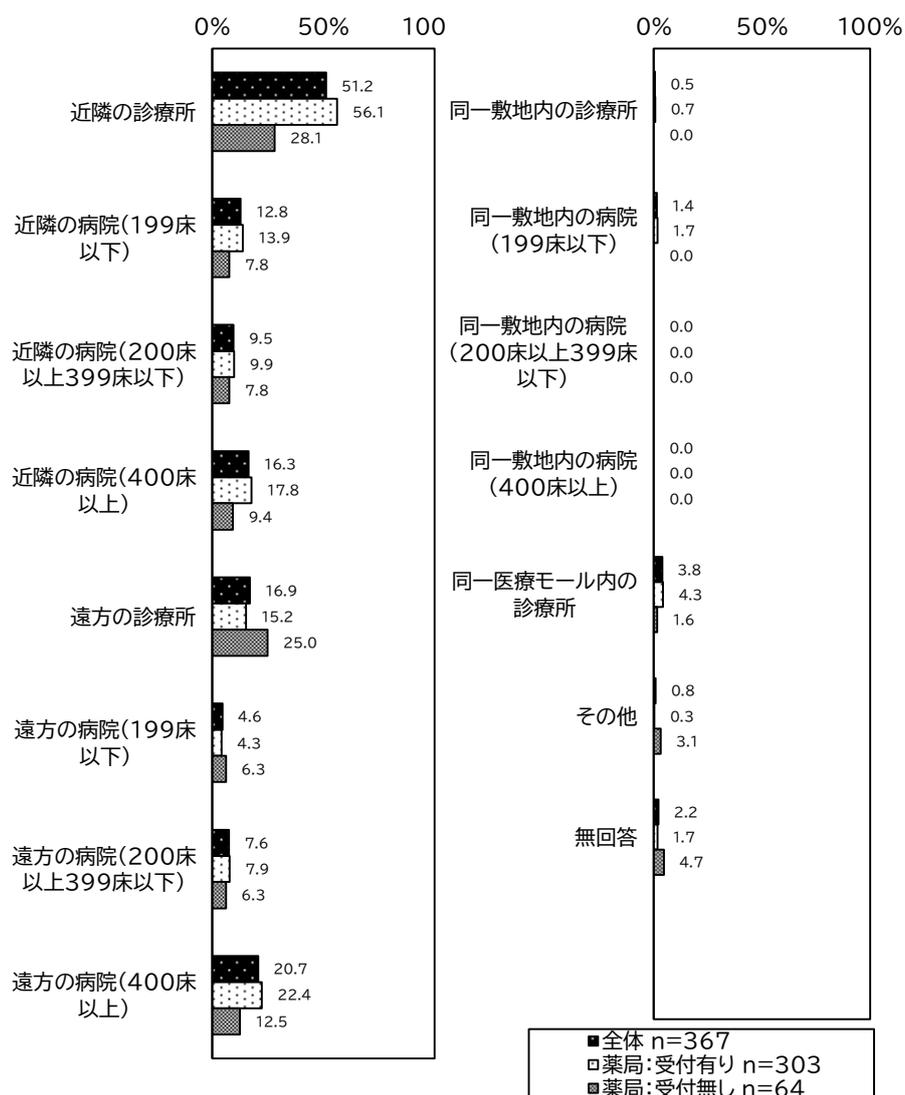
	回答 施設数	平均値	標準偏差	中央値
全体	357	2.0	2.0	1.0
受付実績有り	295	2.1	2.2	2.0
受付実績無し	62	1.1	0.5	1.0

※「リフィル処方箋の受付実績が有る」とは、令和4年10月～12月の期間に5件以上、NDB上でのリフィル処方箋の受付実績が有ることを指します。

(4) どのような関係の医療機関からリフィル処方箋を受けたか（リフィル処方箋を受け付けたことがあると回答した施設のみ）

どのような関係の医療機関からリフィル処方箋を受け付けたかは、「近隣の診療所」が最も多く、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では56.1%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では28.1%であった。

図表 4-25 どのような関係の医療機関からリフィル処方箋を受けたか（複数回答）
（リフィル処方箋を受け付けたことがあると回答した施設のみ）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



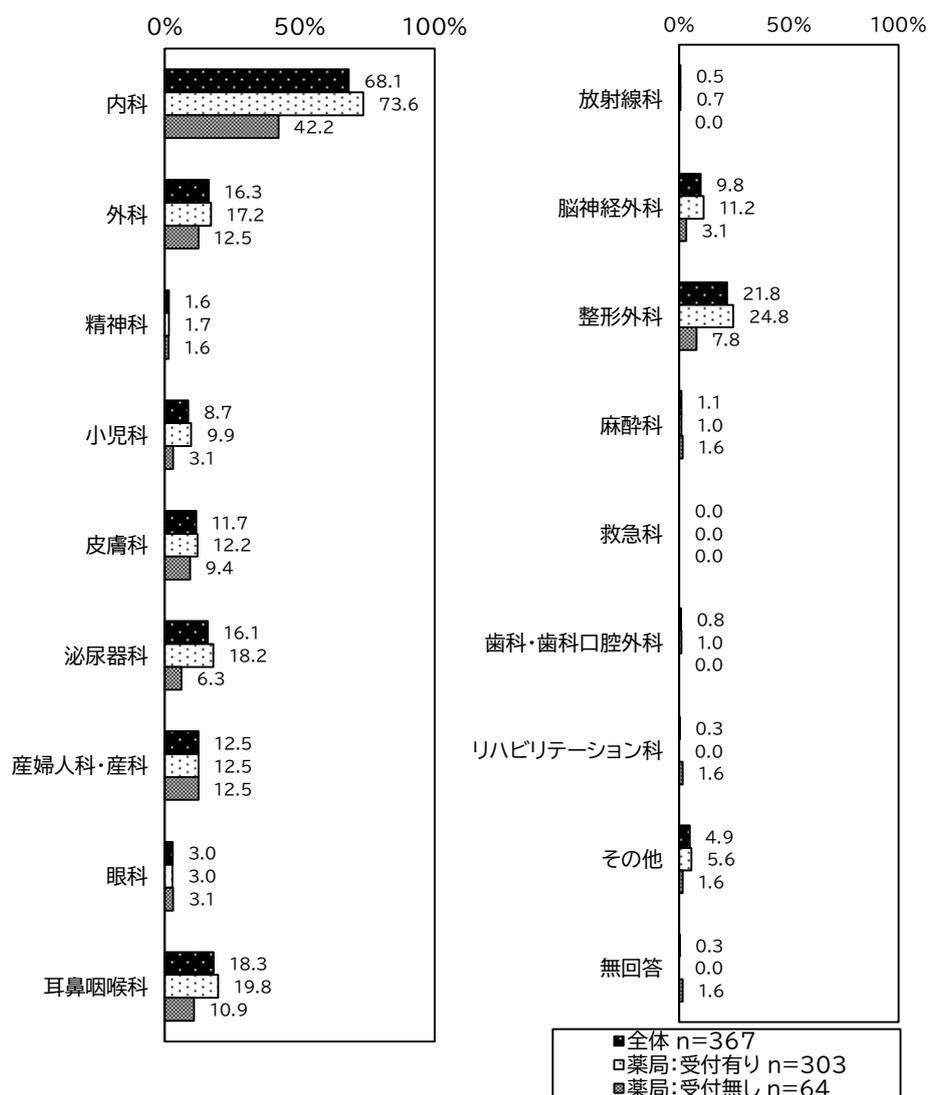
【その他（自由記載）の具体的な内容】
・市内のクリニック など

※「リフィル処方箋の受付実績が有る」とは、令和4年10月～12月の期間に5件以上、NDB上でのリフィル処方箋の受付実績が有ることを指します。

(5) どの診療科のリフィル処方箋を受け付けたか（リフィル処方箋を受け付けたことがあると回答した施設のみ）

どの診療科のリフィル処方箋を受け付けたかは「内科」が最も多く、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では73.6%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では42.2%であった。

図表 4-26 どの診療科のリフィル処方箋を受け付けたか（複数回答）
（リフィル処方箋を受け付けたことがあると回答した施設のみ）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

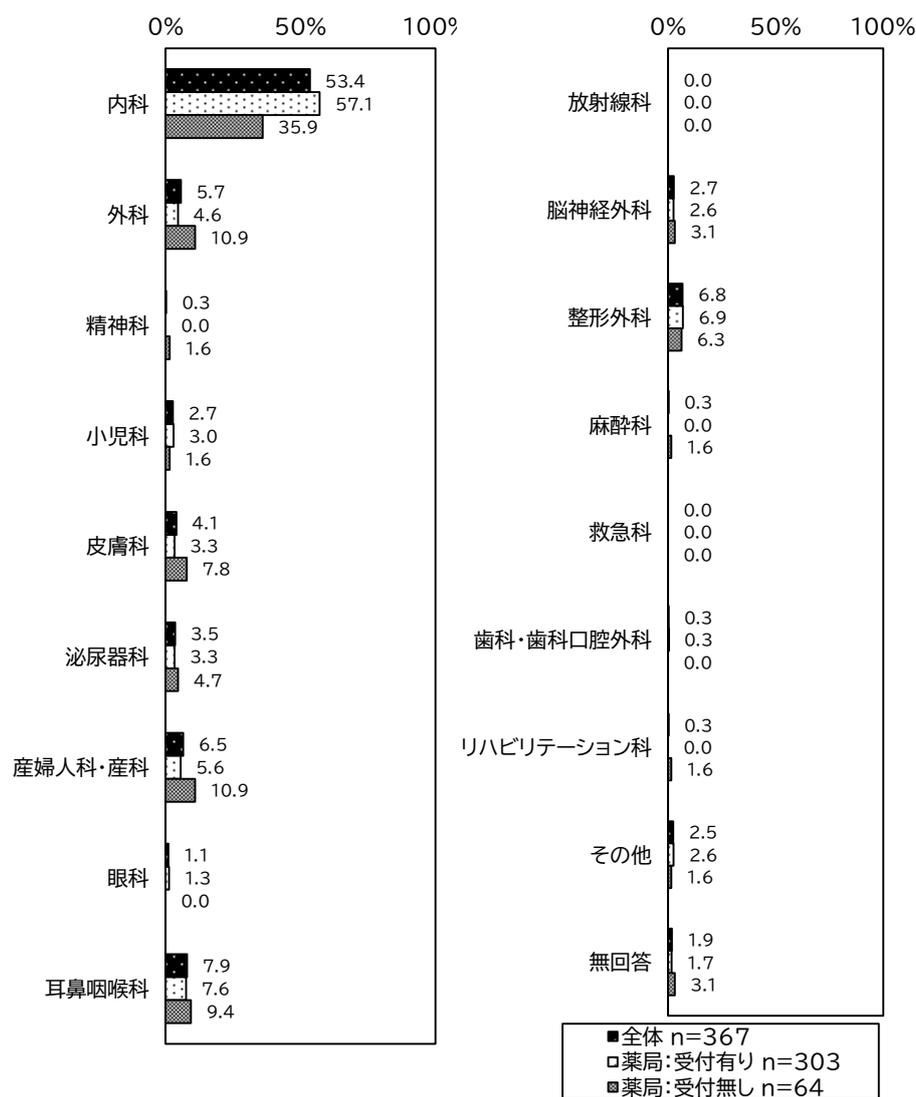
- ・形成外科 ・ペインクリニック ・循環器科 など

※「リフィル処方箋の受付実績が有る」とは、令和4年10月～12月の期間に5件以上、NDB上でのリフィル処方箋の受付実績が有ることを指します。

① 最も多くリフィル処方箋を受け付けた診療科（リフィル処方箋を受け付けたことがあると回答した施設のみ）

最もリフィル処方箋を最も多く受け付けた診療科は「内科」が最も多く、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では57.1%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では35.9%あった。

図表 4-27 (5)で選択した中で最も多くリフィル処方箋を受け付けた診療科（リフィル処方箋を受け付けたことがあると回答した施設のみ）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



※「リフィル処方箋の受付実績が有る」とは、令和4年10月～12月の期間に5件以上、NDB上でのリフィル処方箋の受付実績が有ることを指します。

(6) リフィル処方箋の受付件数 (令和5年4月～6月の合計) (リフィル処方箋を受け付けたことがあると回答した施設のみ)

リフィル処方箋の受付件数 (令和5年4月～6月の合計)については、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では平均で41.8回、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では平均で1.8回であった。

図表 4-28 リフィル処方箋の受付件数 (令和5年4月～6月の合計)
(リフィル処方箋を受け付けたことがあると回答した施設のみ)
(リフィル処方箋の受付実績有無別)

(単位：回)

	回答 施設数	平均値	標準 偏差	中央値
全体	346	34.5	126.8	10.0
受付実績有り	283	41.8	139.2	13.0
受付実績無し	63	1.8	1.9	1.0

※「リフィル処方箋の受付実績が有る」とは、令和4年10月～12月の期間に5件以上、NDB上でのリフィル処方箋の受付実績が有ることを指します。

(7) リフィル処方箋の総使用件数の調剤が終わった枚数(令和5年4月～6月の合計)

令和5年4月～6月にリフィル処方箋の総使用件数の調剤が終わった枚数(自局で調剤済みの処方箋を保管している枚数)は、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では平均で25.7枚、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では平均で1.1枚であった。

図表 4-29 リフィル処方箋の総使用件数の調剤が終わった枚数(令和5年4月～6月の合計)
(リフィル処方箋を受け付けたことがあると回答した施設のみ)
(リフィル処方箋の受付実績有無別)

(単位：枚)

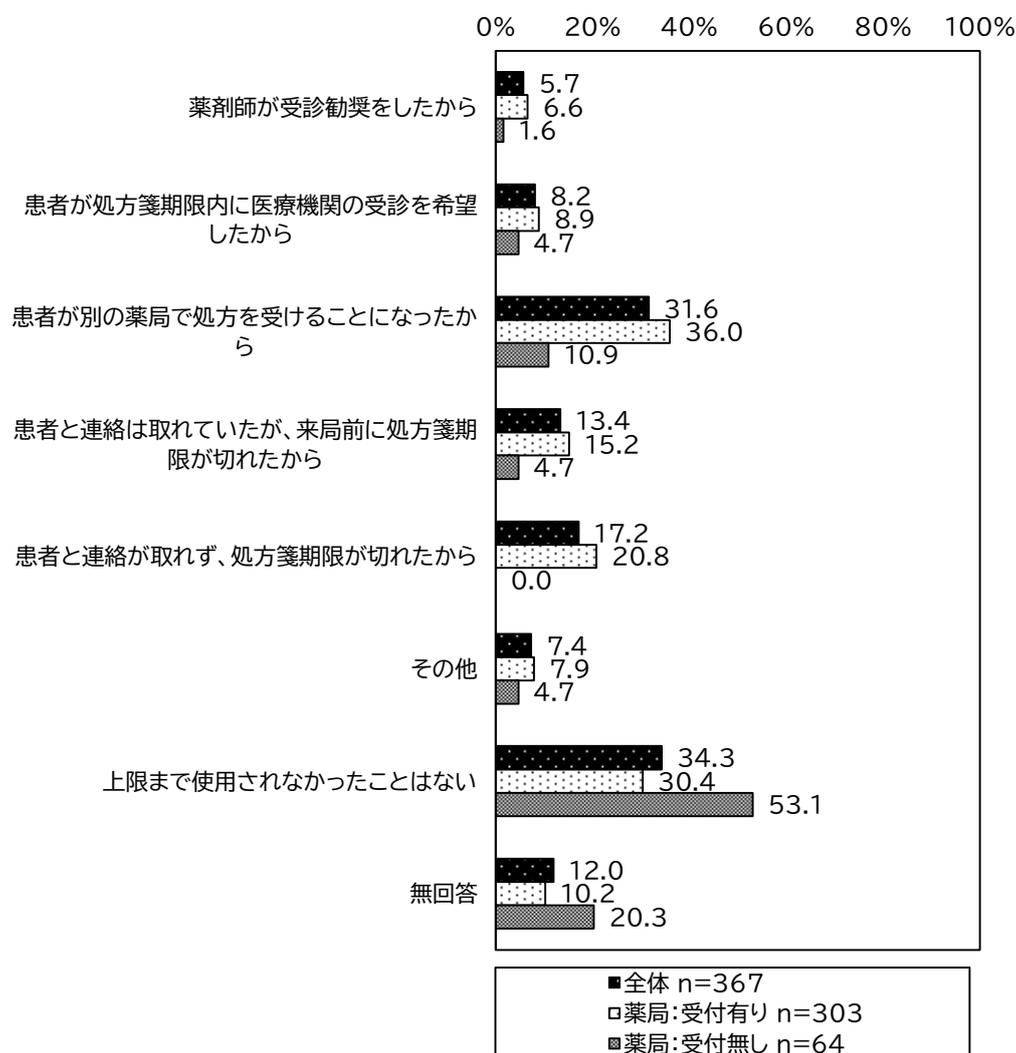
	回答 施設数	平均値	標準 偏差	中央値
全体	317	21.4	81.9	5.0
受付実績有り	261	25.7	89.7	7.0
受付実績無し	56	1.1	0.9	1.0

※「リフィル処方箋の受付実績が有る」とは、令和4年10月～12月の期間に5件以上、NDB上でのリフィル処方箋の受付実績が有ることを指します。

(8) リフィルの上限まで使用されなかった理由（リフィル処方箋を受け付けたことがあると回答した施設のみ）

リフィル処方箋がリフィルの上限まで使用されなかった理由は、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では「患者が別の薬局で処方を受けることになったから」が最も多く36.0%であった。リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では上限まで使用されなかったことはない」が最も多く53.1%であった。

図表 4-30 リフィルの上限まで使用されなかった理由（複数回答）
（リフィル処方箋を受け付けたことがあると回答した施設のみ）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・入院となったため
- ・ほかの薬が必要になったため
- ・リフィル処方であることを患者が失念し、次回受診したため

※「リフィル処方箋の受付実績が有る」とは、令和4年10月～12月の期間に5件以上、NDB上でのリフィル処方箋の受付実績が有ることを指します。

① 薬剤師が受診勧奨をした回数（令和5年4月～6月）（リフィル上限まで使われなかった理由として、受診勧奨をしたと回答した施設）

薬剤師が受診勧奨をした回数は、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では平均で22.5件であった。

図表 4-31 <全体>薬剤師が受診勧奨をした回数（令和5年4月～6月）
（リフィル上限まで使われなかった理由として、受診勧奨をしたと回答した施設）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）

（単位：件）

	回答 施設数	平均値	標準 偏差	中央値
全体	16	21.2	40.4	3.0
受付実績有り	15	22.5	41.5	4.0

図表 4-32 <リフィル調剤時>薬剤師が受診勧奨をした回数（令和5年4月～6月）
（リフィル上限まで使われなかった理由として、受診勧奨をしたと回答した施設）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）

（単位：件）

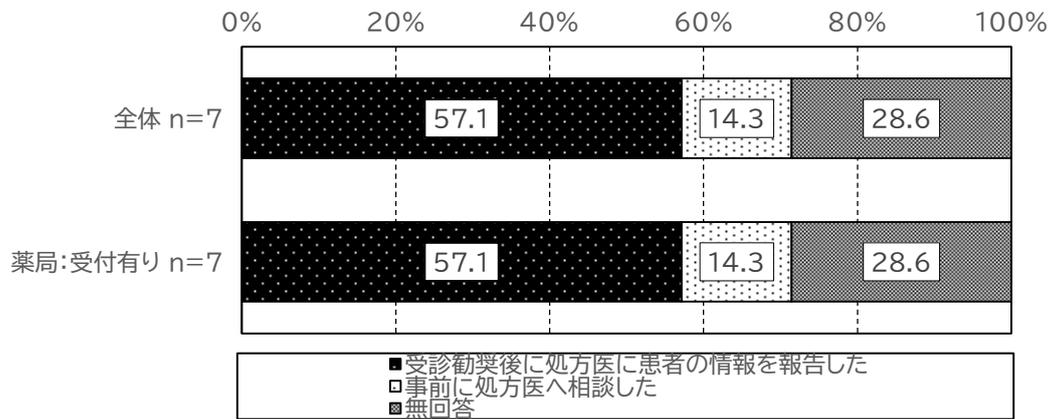
	回答 施設数	平均値	標準 偏差	中央値
全体	16	1.8	3.9	1.0
受付実績有り	15	1.9	4.0	1.0

図表 4-33 <フォローアップ>薬剤師が受診勧奨をした回数（令和5年4月～6月）
（リフィル上限まで使われなかった理由として、受診勧奨をしたと回答した施設）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）

（単位：件）

	回答 施設数	平均値	標準 偏差	中央値
全体	16	1.7	3.8	0.0
受付実績有り	15	1.8	3.9	0.0

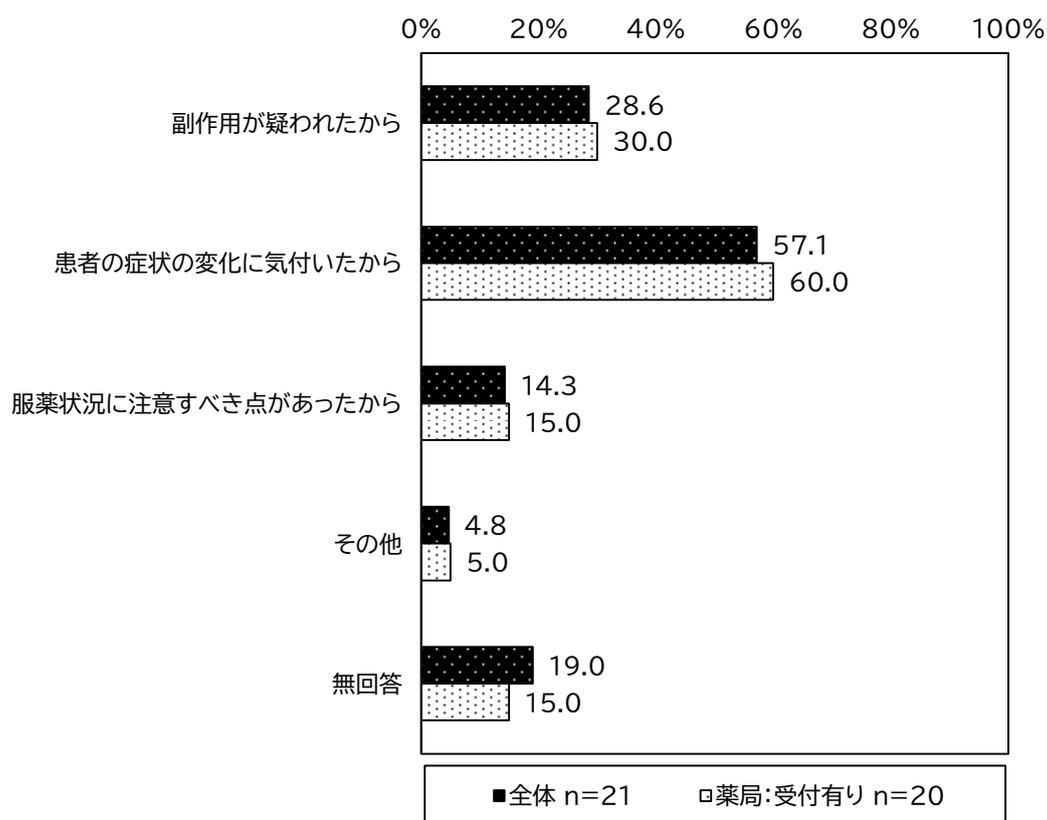
図表 4-34 受診勧奨を判断し、説明する際の処方医への相談状況
 (フォローアップ中の受診勧奨回数が1回以上の施設のみ)
 (リフィル処方箋の受付実績有無別)



② 薬剤師が受診勧奨をした理由（リフィル上限まで使われなかった理由として、受診勧奨をしたと回答した施設）

薬剤師が受診勧奨をした理由は「患者の症状の変化に気付いたから」が最も多く、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局で60.0%であった。

図表 4-35 薬剤師が受診勧奨をした理由（複数回答）
 （リフィル上限まで使われなかった理由として、受診勧奨をしたと回答した施設）
 （リフィル処方箋の受付実績有無別）



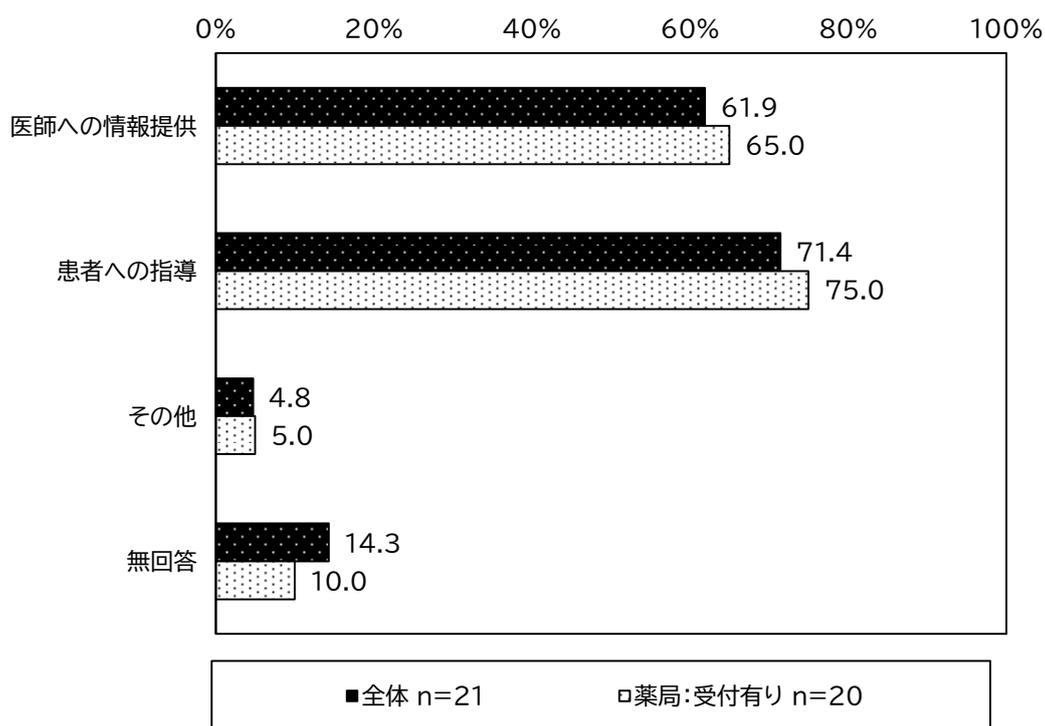
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・他の病院から重複処方があったため

③ 受診勧奨の際に行ったこと（リフィル上限まで使われなかった理由として、受診勧奨をしたと回答した施設）

薬剤師が受診勧奨の際に行ったことは「患者への指導」が最も多く、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では75.0%であった。

図表 4-36 受診勧奨の際に行ったこと（複数回答）
（リフィル上限まで使われなかった理由として、受診勧奨をしたと回答した施設）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）

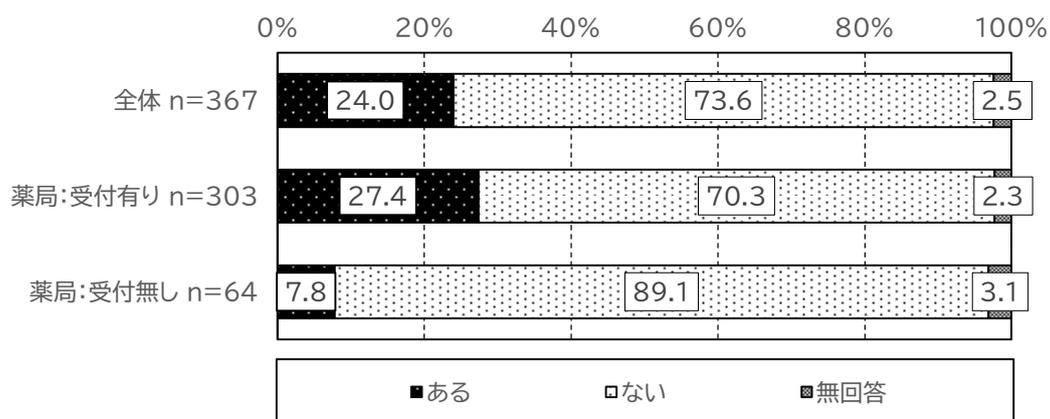


【その他（自由記載）の具体的な内容】
※具体的な記載なし

(9) リフィル処方箋による調剤の可／否の判断に困った経験の有無（リフィル処方箋を受け付けたことがあると回答した施設のみ）

リフィル処方箋による調剤の可／否の判断に困った経験は、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では「ある」が27.4%、「ない」が70.3%であった。リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では「ある」が7.8%、「ない」が89.1%であった。

図表 4-37 リフィル処方箋による調剤の可／否の判断に困った経験の有無
（リフィル処方箋を受け付けたことがあると回答した施設のみ）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）

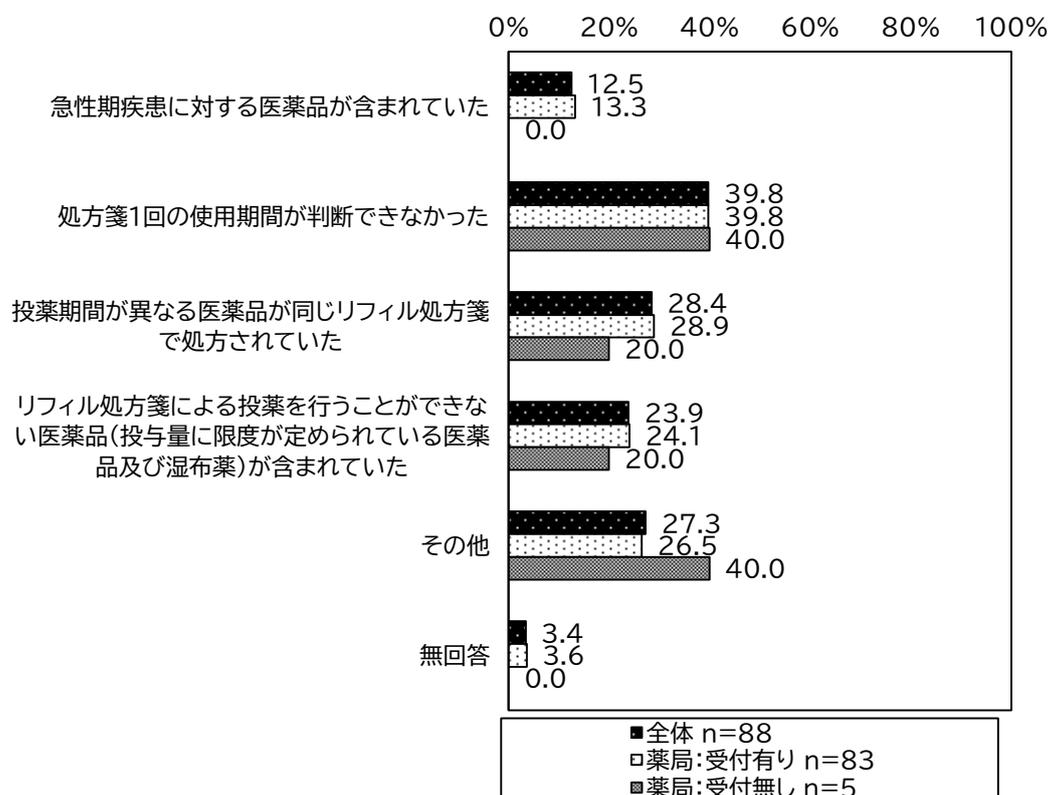


※「リフィル処方箋の受付実績が有る」とは、令和4年10月～12月の期間に5件以上、NDB上でのリフィル処方箋の受付実績が有ることを指します。

(10) リフィル処方箋による調剤の可／否の判断に困った際に行った疑義照会の内容（リフィル処方箋による調剤の可／否の判断に困った施設のみ）

リフィル処方箋による調剤の可／否の判断に困った際に行った疑義照会の内容は、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では「処方箋1回の使用期間が判断できなかった」が最も多く39.8%、次いで「投薬期間が異なる医薬品が同じリフィル処方箋で処方されていた」が多く28.9%であった。リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では、「処方箋1回の使用期間が判断できなかった」と「その他」が最も多く40.0%、次いで「投薬期間が異なる医薬品が同じリフィル処方箋で処方されていた」と「リフィル処方箋による投薬を行うことができない医薬品（投与量に限度が定められている医薬品および湿布薬）が含まれていた」が多く、20.0%であった。

図表 4-38 リフィル処方箋による調剤の可／否の判断に困った際に行った疑義照会の内容（複数回答）（リフィル処方箋による調剤の可／否の判断に困った施設のみ）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



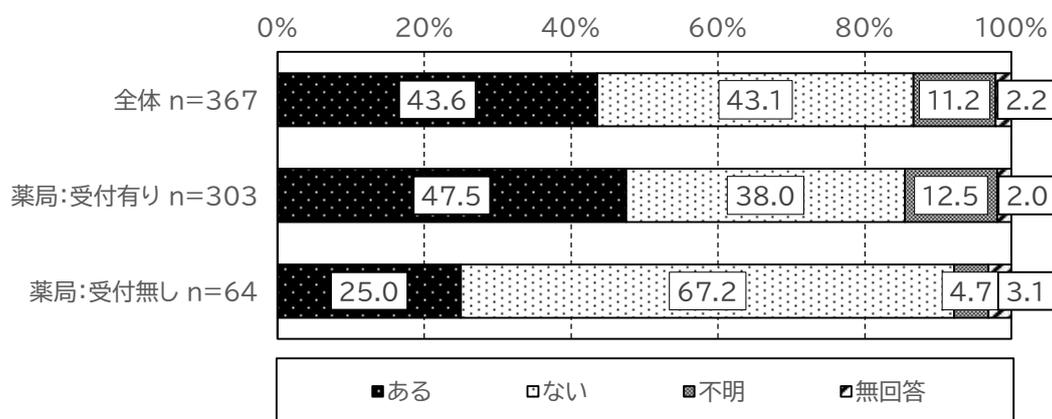
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・ 同一病院で他科から同じ薬の処方があった
- ・ 残薬調整を希望された
- ・ 休薬期間が必要な薬剤が含まれていた
- ・ 重複処方では院から服用中止の要請があった
- ・ 医師の記載ミスでリフィル処方にするつもりがない患者の処方箋にリフィル可のチェックが入っていた
- ・ 1品目だけ処方日数が少ない処方であった

(11) 1枚のリフィル処方箋の処方の途中で薬局が変わった経験（リフィル処方箋を受け付けたことがあると回答した施設のみ）

1枚のリフィル処方箋の処方の途中で薬局が変わった経験は、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では「ある」が47.5%、「ない」が38.0%、「不明」が12.5%であった。リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では「ある」が25.0%、「ない」が67.2%、「不明」が4.7%であった。

図表 4-39 1枚のリフィル処方箋の処方の途中で薬局が変わった経験
（リフィル処方箋を受け付けたことがあると回答した施設のみ）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



※「リフィル処方箋の受付実績が有る」とは、令和4年10月～12月の期間に5件以上、NDB上でのリフィル処方箋の受付実績が有ることを指します。

① リフィル処方途中で患者が薬局を変えた場合の内訳（1枚のリフィル処方箋の処方途中で薬局が変わった経験がある施設のみ）

【自薬局から他薬局へ】

リフィル処方途中で患者が薬局を変えた場合のうち、自薬局から他薬局へ変えた場合の処方箋枚数については、以下のとおりであった。

図表 4-40 【自薬局から他薬局へ】リフィル処方途中で患者が薬局を変えた場合の内訳（1枚のリフィル処方箋の処方途中で薬局が変わった経験がある施設のみ）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）

（単位：枚）

			回答施設数	平均値	標準偏差	中央値
全体	上限3回の処方箋	2回目から他薬局	141	0.8	2.2	0.0
		3回目から他薬局	139	0.2	0.7	0.0
	上限2回の処方箋	2回目から他薬局	141	2.2	14.6	0.0
リフィル処方箋の受付有り	上限3回の処方箋	2回目から他薬局	125	0.9	2.3	0.0
		3回目から他薬局	123	0.2	0.7	0.0
	上限2回の処方箋	2回目から他薬局	125	2.5	15.5	0.0
リフィル処方箋の受付有り	上限3回の処方箋	2回目から他薬局	16	0.2	0.4	0.0
		3回目から他薬局	16	0.1	0.3	0.0
	上限2回の処方箋	2回目から他薬局	16	0.1	0.5	0.0

【他薬局から自薬局へ】

リフィル処方途中で患者が薬局を変えた場合のうち、他薬局から自薬局へ変えた場合の処方箋枚数については、以下のとおりであった。

図表 4-41 【他薬局から自薬局へ】リフィル処方途中で患者が薬局を変えた場合の内訳
 (1枚のリフィル処方箋の処方の途中で薬局が変わった経験がある施設のみ)
 (リフィル処方箋の受付実績有無別)

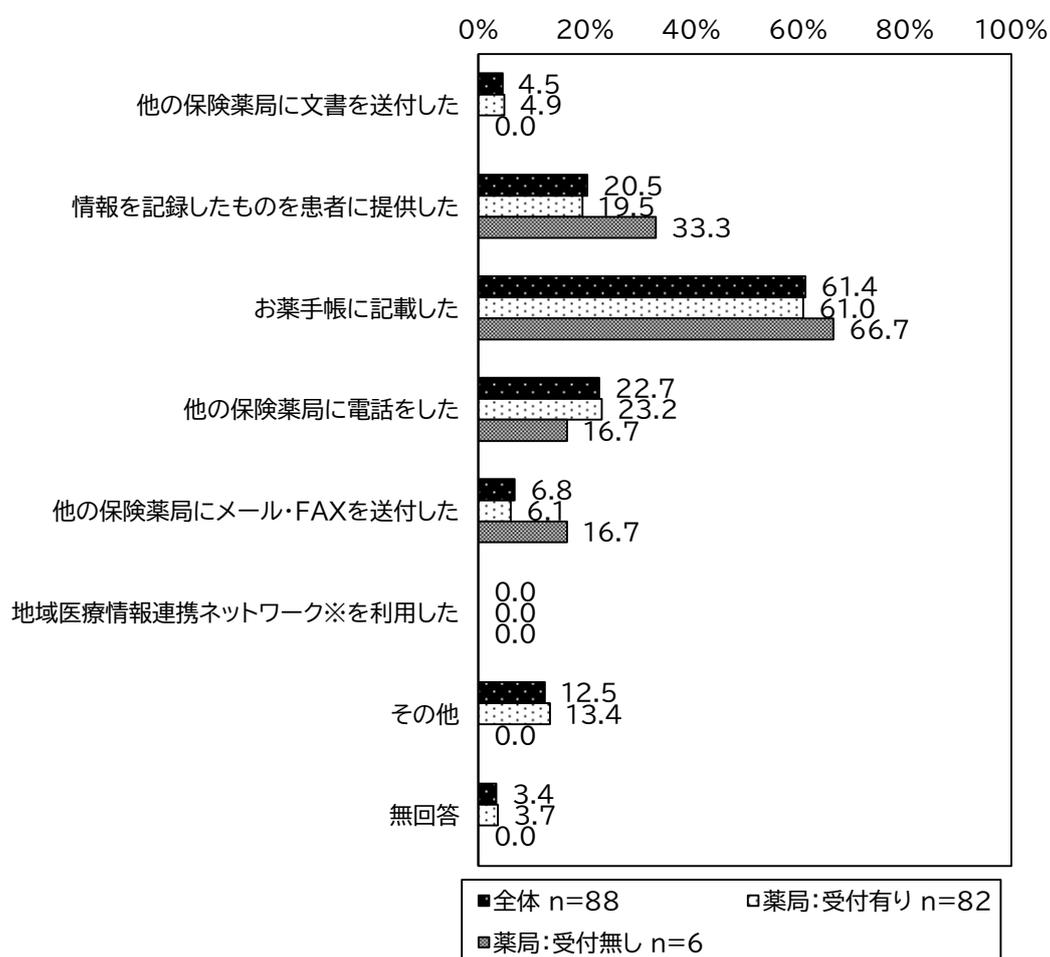
(単位：枚)

			回答施設数	平均値	標準偏差	中央値
全体	上限3回の処方箋	2回目から他薬局	140	0.5	1.1	0.0
		3回目から他薬局	138	0.1	0.4	0.0
	上限2回の処方箋	2回目から他薬局	139	0.6	1.7	0.0
リフィル処方箋の受付有り	上限3回の処方箋	2回目から他薬局	124	0.5	1.2	0.0
		3回目から他薬局	122	0.1	0.4	0.0
	上限2回の処方箋	2回目から他薬局	123	0.7	1.8	0.0
リフィル処方箋の受付有り	上限3回の処方箋	2回目から他薬局	16	0.5	0.5	0.5
		3回目から他薬局	16	0.2	0.4	0.0
	上限2回の処方箋	2回目から他薬局	16	0.1	0.3	0.0

② 他薬局へ情報提供を行った方法（「自薬局から他薬局へ」が1枚以上と回答した施設のみ）

他薬局へ情報提供を行った方法は「お薬手帳に記載した」が最も多く、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では61.0%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では66.7%であった。次いで多いのはリフィル処方箋の受付実績が有る薬局では「ほかの保険薬局に電話をした」で23.2%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では「情報を記録したものを患者に提供した」で33.3%であった。

図表 4-42 他薬局へ情報提供を行った方法（複数回答）
（「自薬局から他薬局へ」が1枚以上と回答した施設のみ）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



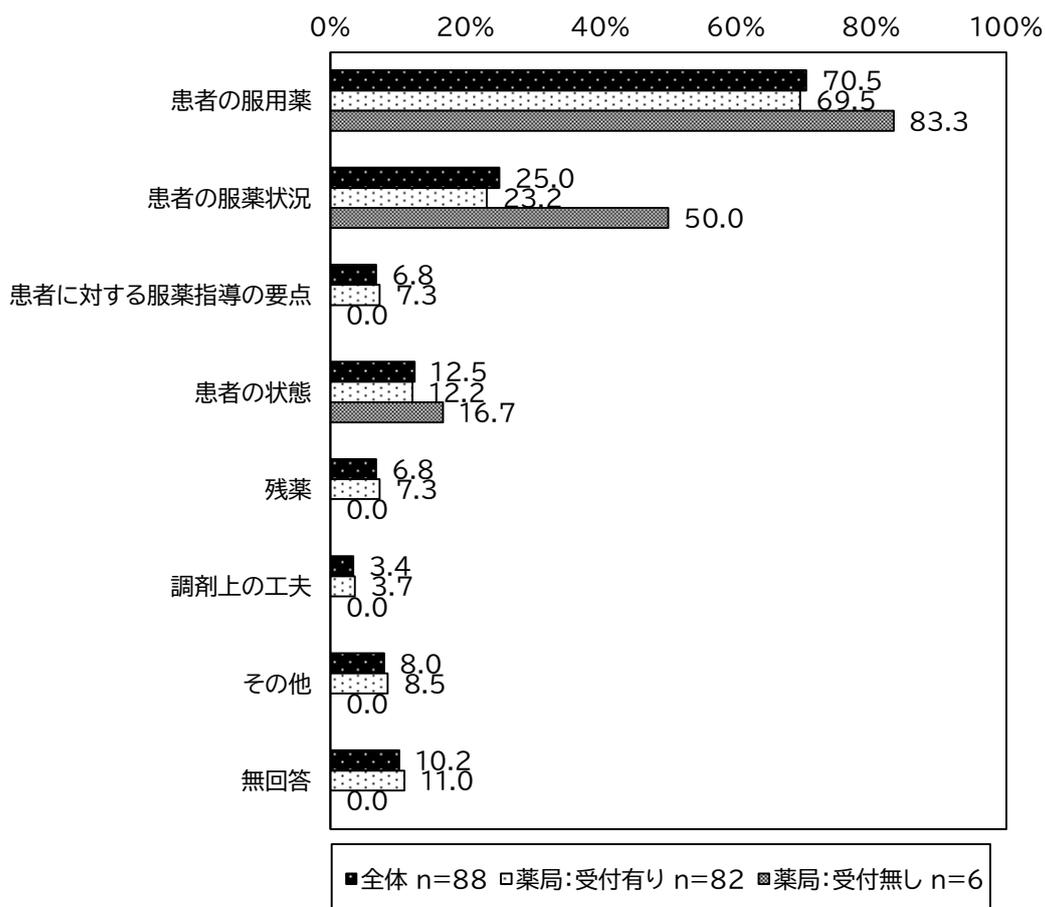
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・処方箋の備考欄に疾患名等を記入
- ・系列店であったため、薬歴を一部共有できた
- ・患者本人に薬局から連絡してもらうように伝えた など

③ 情報提供した内容（「自薬局から他薬局へ」が1枚以上と回答した施設のみ）

他薬局へ情報提供した内容は「患者の服用薬」が最も多く、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では69.5%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では83.3%であった。

図表 4-43 情報提供した内容（複数回答）
（「自薬局から他薬局へ」が1枚以上と回答した施設のみ）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



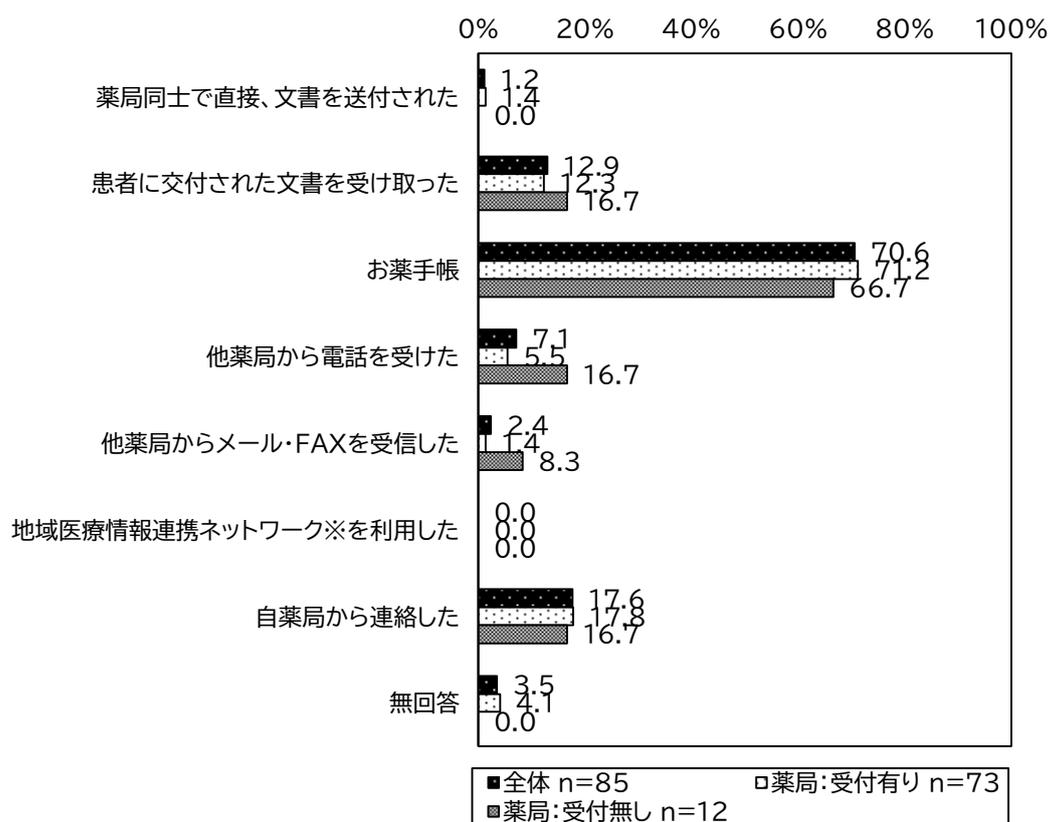
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・他の薬局で処方を受ける理由（出張で期間中に他県へ行くなど）
- ・出荷調整の薬が含まれていたため、在庫確認と対応可否の確認 など

④ 他薬局から情報提供を受けた方法（「他薬局から自薬局へ」が1枚以上と回答した施設のみ）

他薬局から情報提供を受けた方法は「お薬手帳」が最も多く、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では71.2%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では66.7%であった。

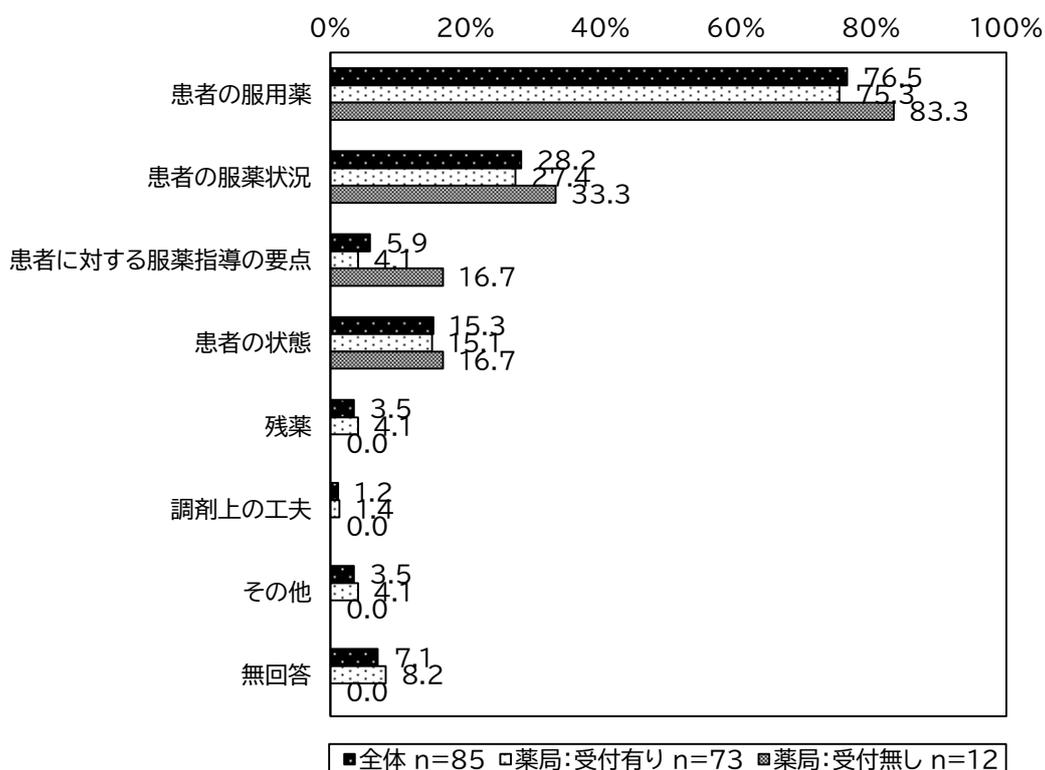
図表 4-44 他薬局から情報提供を受けた方法（複数回答）
（「他薬局から自薬局へ」が1枚以上と回答した施設のみ）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



⑤ 情報提供を受けた内容（「他薬局から自薬局へ」が1枚以上と回答した施設のみ）

他薬局から情報提供を受けた内容は「患者の服用薬」が最も多く、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では75.3%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では83.3%であった。

図表 4-45 情報提供された内容（複数回答）
（「他薬局から自薬局へ」が1枚以上と回答した施設のみ）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



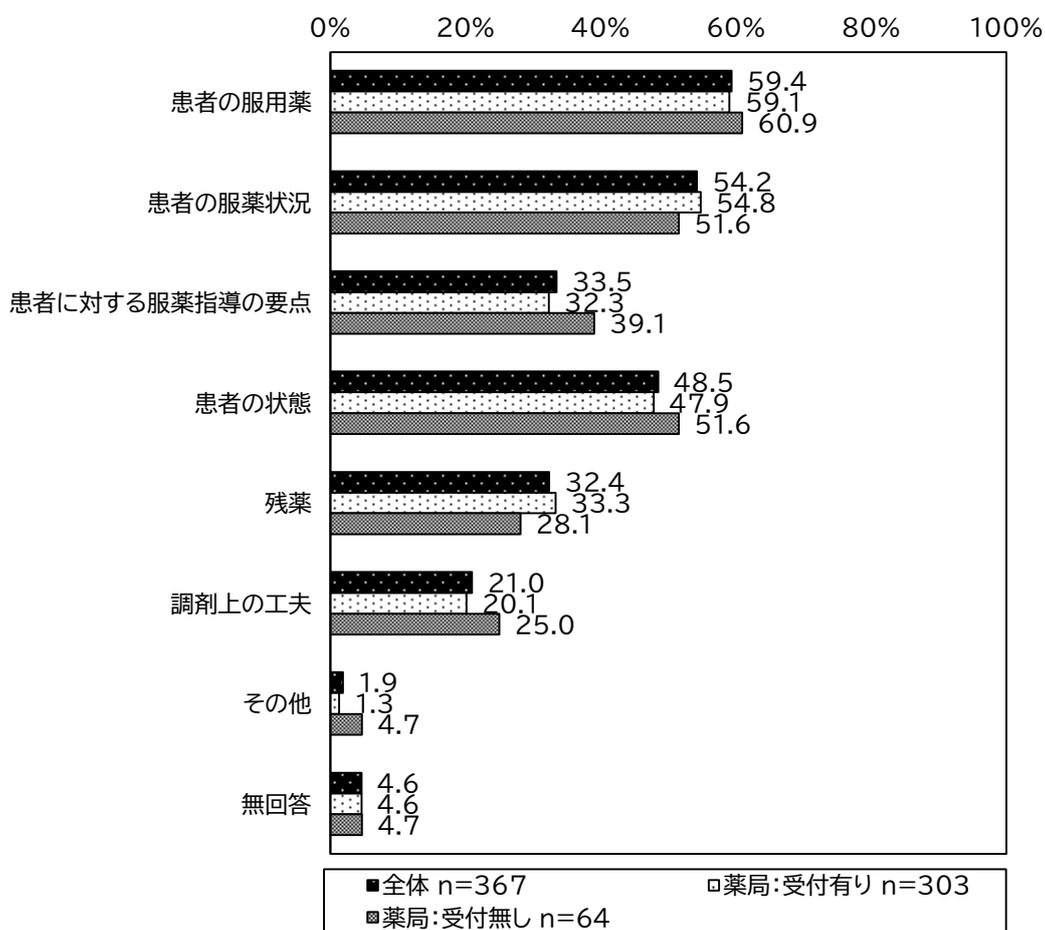
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・情報提供がなかった
- ・来局の事実のみ など

(12) リフィル処方箋に関する情報提供を受ける際、提供してほしい情報（リフィル処方箋を受け付けたことがあると回答した施設のみ）

リフィル処方箋に関する情報提供を受ける際に提供してほしい情報は、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では「患者の服用薬」が最も多く 59.1%、次いで「患者の服薬状況」が 54.8%であった。リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では「患者の服薬状況」が最も多く 60.9%、次いで「患者の服薬状況」と「患者の状態」が 51.6%であった。

図表 4-46 リフィル処方箋に関する情報提供を受ける際、提供してほしい情報（複数回答）
（リフィル処方箋を受け付けたことがあると回答した施設のみ）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



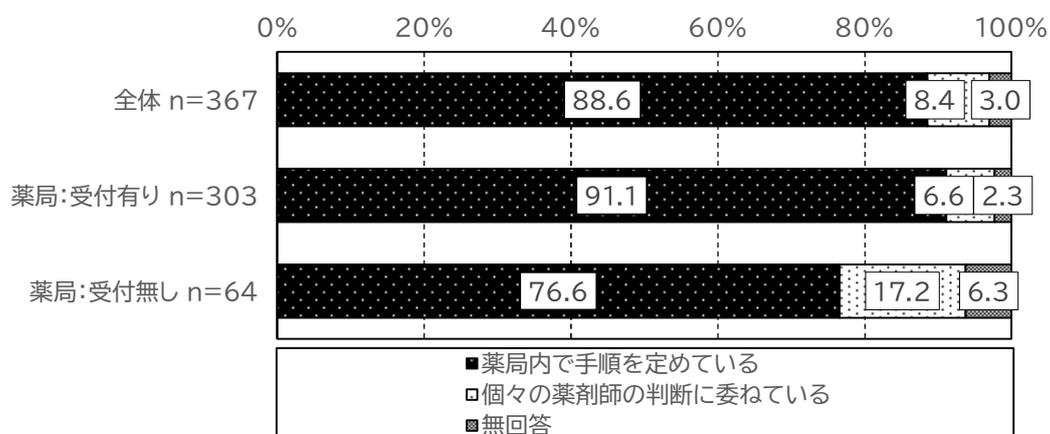
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・病歴の情報
- ・アレルギーの情報 など

(13) リフィル処方箋の対応方法について薬局内の手順書の状況（リフィル処方箋を受け付けたことがあると回答した施設のみ）

リフィル処方箋の対応方法について薬局内の手順書の状況は、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では「薬局内で手順を定めている」が91.1%、「個々の薬剤師の判断に委ねている」が6.6%であった。リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では「薬局内で手順を定めている」が76.6%、「個々の薬剤師の判断に委ねている」が17.2%であった。

図表 4-47 リフィル処方箋の対応方法について薬局内の手順書の状況
（リフィル処方箋を受け付けたことがあると回答した施設のみ）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）

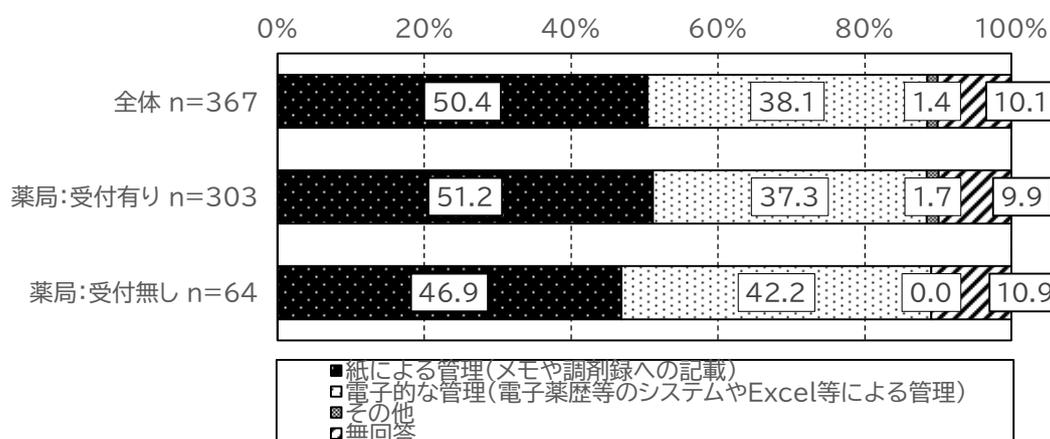


※「リフィル処方箋の受付実績が有る」とは、令和4年10月～12月の期間に5件以上、NDB上でのリフィル処方箋の受付実績が有ることを指します。

(14) リフィル処方箋の次回調剤日の管理方法（リフィル処方箋を受け付けたことがあると回答した施設のみ）

リフィル処方箋の次回調剤日の管理方法は、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では「紙による管理（メモや調剤録への記載）」が51.2%、「電子的な管理（電子薬歴等のシステムやExcel等による管理）」が37.3%、「その他」が1.7%であった。リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では「紙による管理（メモや調剤録への記載）」が46.9%、「電子的な管理（電子薬歴等のシステムやExcel等による管理）」が42.2%、「その他」が0.0%であった。

図表 4-48 リフィル処方箋の次回調剤日の管理方法
（リフィル処方箋を受け付けたことがあると回答した施設のみ）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

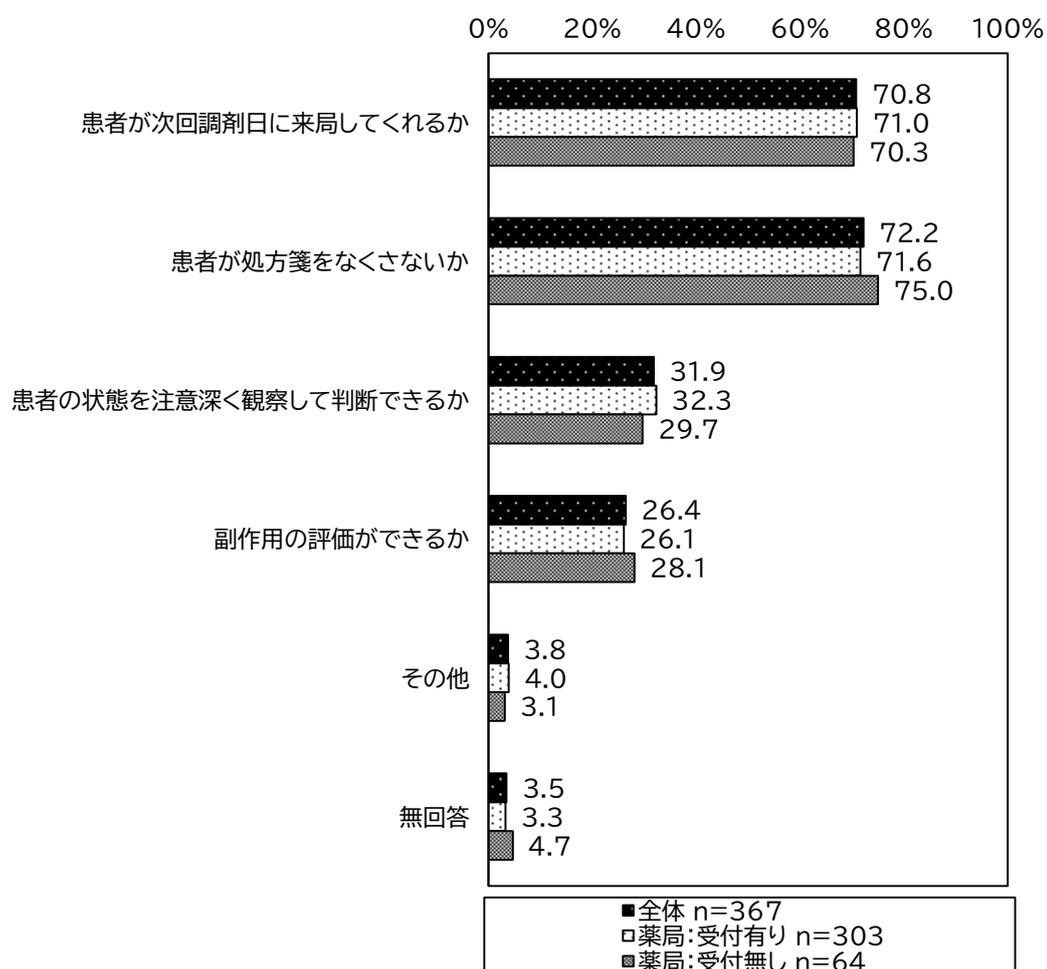
- ・カレンダーに次回調剤予定日を記入
- ・ホワイトボードに記載 など

※「リフィル処方箋の受付実績が有る」とは、令和4年10月～12月の期間に5件以上、NDB上でのリフィル処方箋の受付実績が有ることを指します。

(15) 薬局でリフィル処方箋を受けるにあたって課題と感ずること（リフィル処方箋を受け付けたことがあると回答した施設のみ）

リフィル処方箋を受けるにあたって課題と感ずることは、「患者が処方箋をなくさないか」が最も多く、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では71.6%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では70.3%であった。次いで多いのは「患者が次回調剤日に来局してくれるか」がリフィル処方箋の受付実績が有る薬局では71.0%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では70.3%であった。

図表 4-49 リフィル処方箋を受けるにあたって課題と感ずること（複数回答）
（リフィル処方箋を受け付けたことがあると回答した施設のみ）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・患者本人が平日営業時間内に来局できない
- ・患者がリフィル処方箋制度を理解できていない
- ・リフィル処方であることを忘れ、次回に診察を受け、同じ薬剤を処方される
- ・服薬アドヒアランスは良好か など

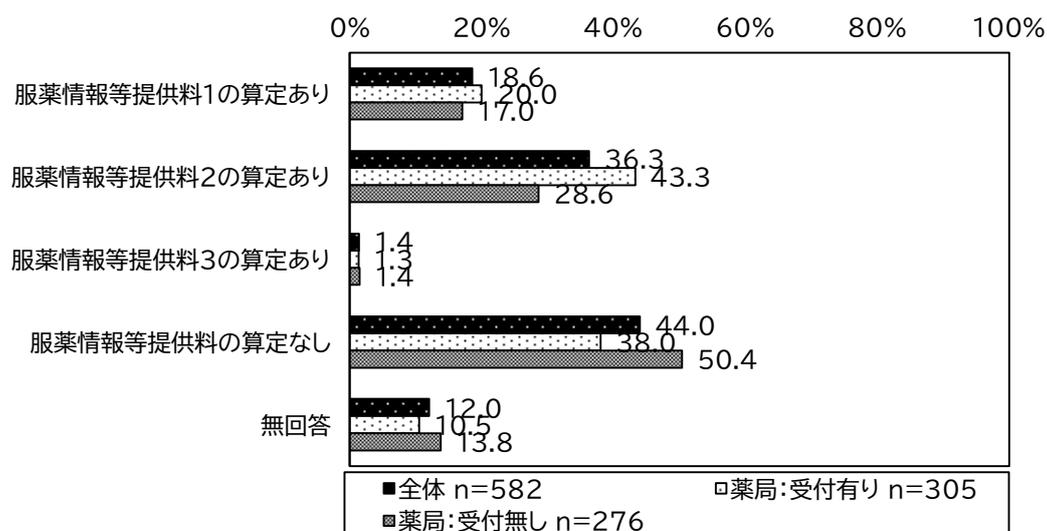
※「リフィル処方箋の受付実績が有る」とは、令和4年10月～12月の期間に5件以上、NDB上でのリフィル処方箋の受付実績が有ることを指します。

4) 医療機関等との連携について

(1) 服薬情報等提供料の算定の有無

服薬情報等提供料の算定有無についてはリフィル処方箋の受付実績が有る薬局では「服薬情報等提供料2の算定あり」が最も多く43.3%であった。リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では「服薬情報等提供料の算定なし」が最も多く50.4%であった。

図表 4-50 服薬情報等提供料の算定の有無（複数回答）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



図表 4-51 服薬情報等提供料 1 の算定回数
(服薬情報等提供料 1 の算定ありの施設のみ)
(リフィル処方箋の受付実績有無別)

(単位：回)

	回答 施設数	平均値	標準 偏差	中央値
全体	108	100.9	535.9	3.0
受付実績有り	61	23.1	44.8	4.0
受付実績無し	47	201.8	804.4	2.0

図表 4-52 服薬情報等提供料 1 の算定回数のうち、リフィル処方箋の回数
(服薬情報等提供料 1 の算定ありの施設のみ)
(リフィル処方箋の受付実績有無別)

(単位：回)

	回答 施設数	平均値	標準 偏差	中央値
全体	103	1.6	8.4	0.0
受付実績有り	59	2.8	10.9	0.0
受付実績無し	44	0.0	0.0	0.0

図表 4-53 服薬情報等提供料 2 の算定回数
(服薬情報等提供料 2 の算定ありの施設のみ)
(リフィル処方箋の受付実績有無別)

(単位：回)

	回答 施設数	平均値	標準 偏差	中央値
全体	205	15.1	18.9	9.0
受付実績有り	128	16.4	17.9	9.5
受付実績無し	77	12.9	20.4	6.0

図表 4-54 服薬情報等提供料 2 の算定回数のうち、リフィル処方箋の回数
(服薬情報等提供料 2 の算定ありの施設のみ)
(リフィル処方箋の受付実績有無別)

(単位：回)

	回答 施設数	平均値	標準 偏差	中央値
全体	201	1.4	7.0	0.0
受付実績有り	127	2.1	8.7	0.0
受付実績無し	74	0.1	0.4	0.0

図表 4-55 服薬情報等提供料3の算定回数
 (服薬情報等提供料3の算定ありの施設のみ)
 (リフィル処方箋の受付実績有無別)

(単位：回)

	回答 施設数	平均値	標準 偏差	中央値
全体	8	1.4	0.9	1.0
受付実績有り	4	1.0	0.8	1.0
受付実績無し	4	1.8	1.0	1.5

図表 4-56 服薬情報等提供料3の算定回数のうち、リフィル処方箋の回数
 (服薬情報等提供料3の算定ありの施設のみ)
 (リフィル処方箋の受付実績有無別)

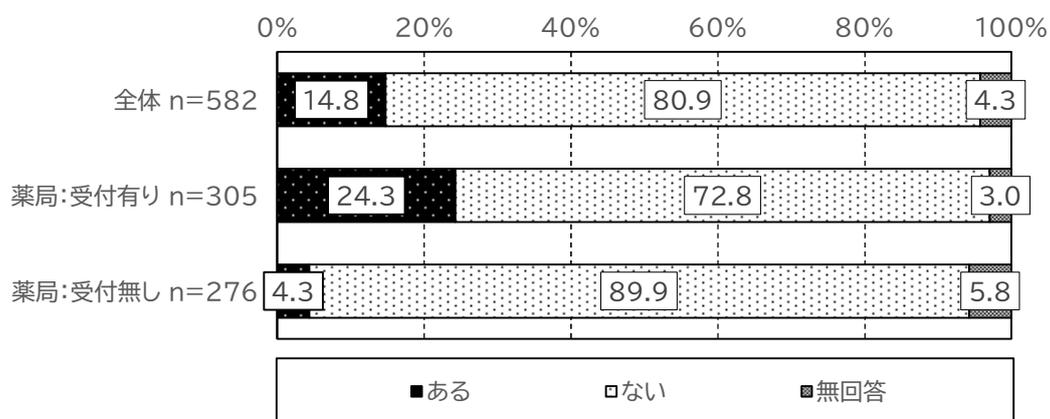
(単位：回)

	回答 施設数	平均値	標準 偏差	中央値
全体	8	0.0	0.0	0.0
受付実績有り	4	0.0	0.0	0.0
受付実績無し	4	0.0	0.0	0.0

(2) リフィル処方箋の患者に関して医療機関に服薬指導提供書（トレーシングレポート）を提供した経験

リフィル処方箋の患者に関して医療機関に服薬指導提供書（トレーシングレポート）を提供した経験については、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では「ある」が24.3%、「ない」が72.8%であった。リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では「ある」が4.3%、「ない」が89.9%であった。

図表 4-57 リフィル処方箋の患者に関して医療機関に服薬指導提供書（トレーシングレポート）を提供した経験（リフィル処方箋の受付実績有無別）

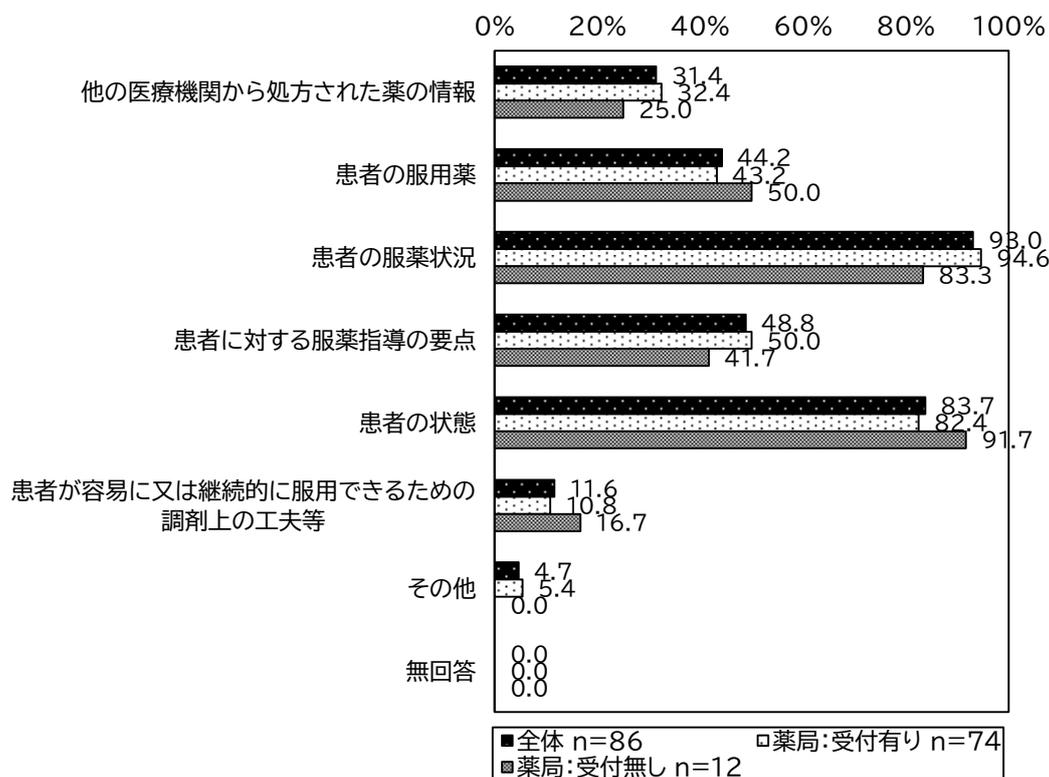


① リフィル処方箋の患者に関して医師に服薬指導提供書（トレーシングレポート）で提供した情報の内容（トレーシングレポートを提供した経験のある施設のみ対象）

リフィル処方箋の患者に関して医師に服薬指導提供書（トレーシングレポート）で提供した情報の内容については、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では「患者の服薬状況」が最も多く 94.6%であった。リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では「患者の状態」が最も多く 91.7%であった。

提供した情報として最も多いものについては、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では「患者の服薬状況」が最も多く 67.6%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では「患者の状態」が最も多く 41.7%であった。

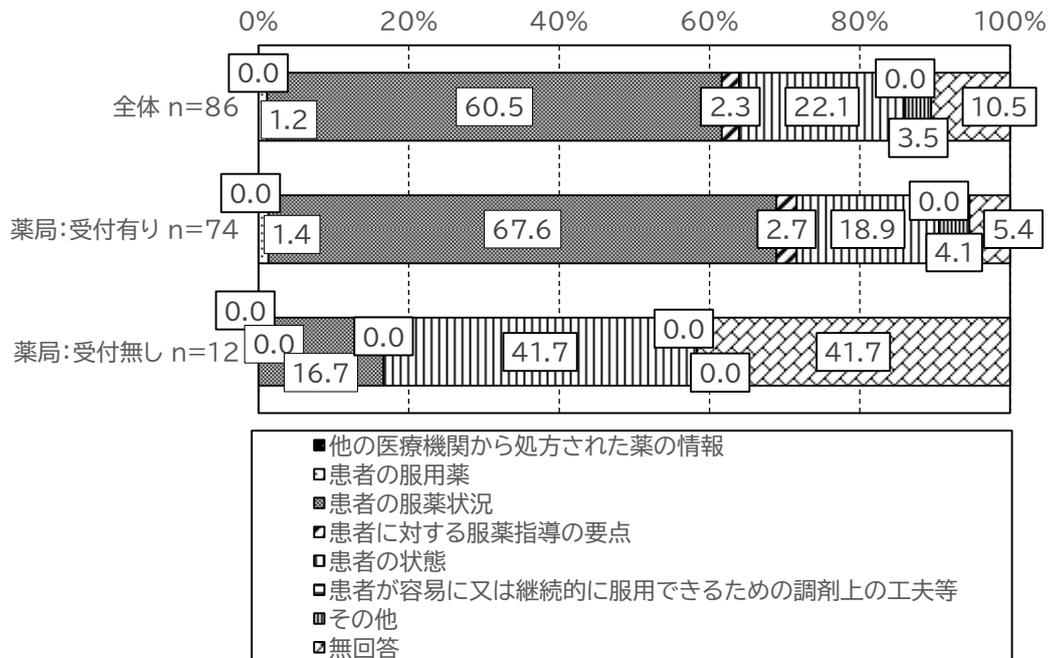
図表 4-58 リフィル処方箋の患者に関して医師に服薬指導提供書（トレーシングレポート）で提供した情報の内容（複数回答）
（トレーシングレポートを提供した経験のある施設のみ対象）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・ 残薬
- ・ 副作用
- ・ 患者が医師に相談できなかったこと
- ・ 重複により中止指示があったこと など

図表 4-59 リフィル処方箋の患者に関して医師に服薬指導提供書
 (トレーシングレポート) で提供した情報の内容 (最も多いもの一つ)
 (トレーシングレポートを提供した経験のある施設のみ対象)
 (リフィル処方箋の受付実績有無別)

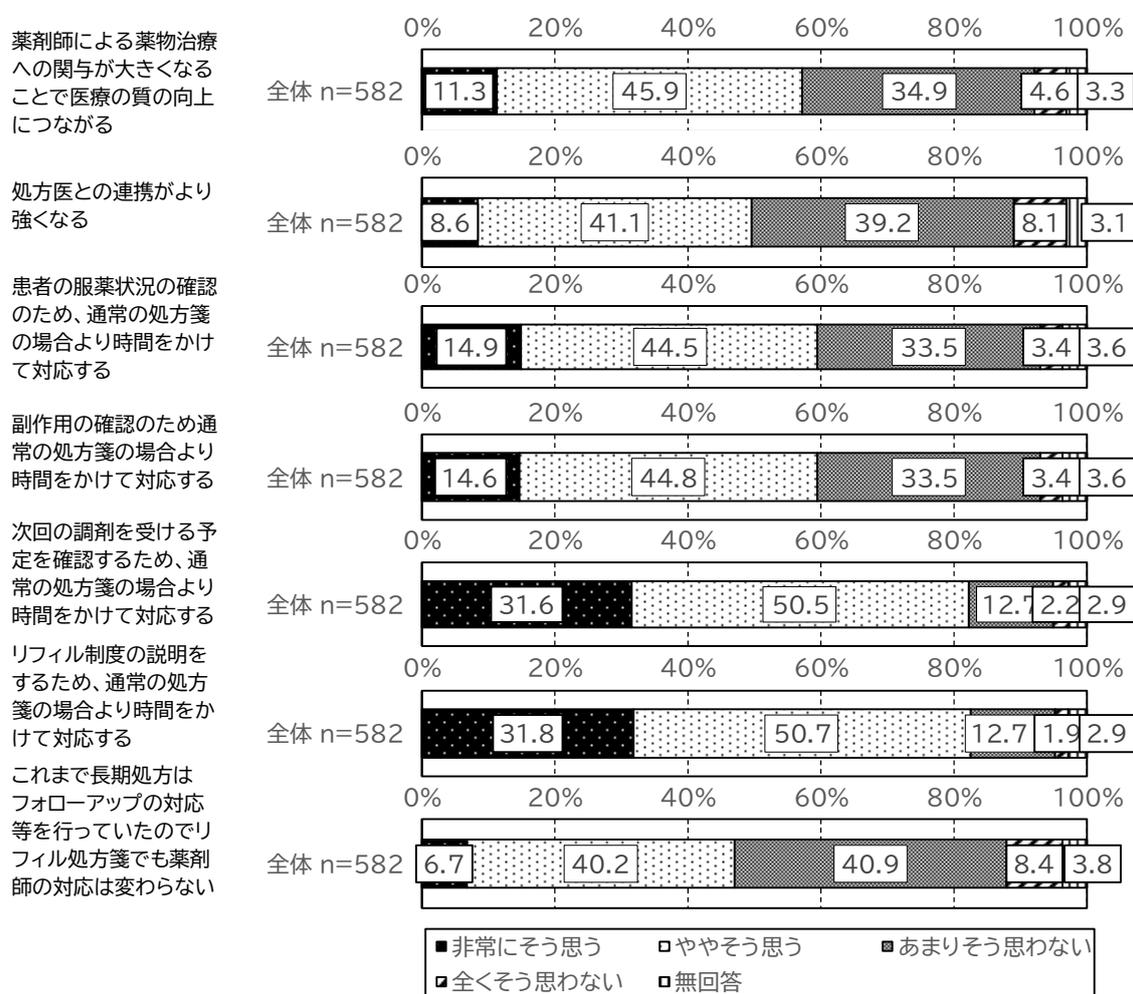


5) リフィル処方箋に関する薬局・薬剤師への影響等

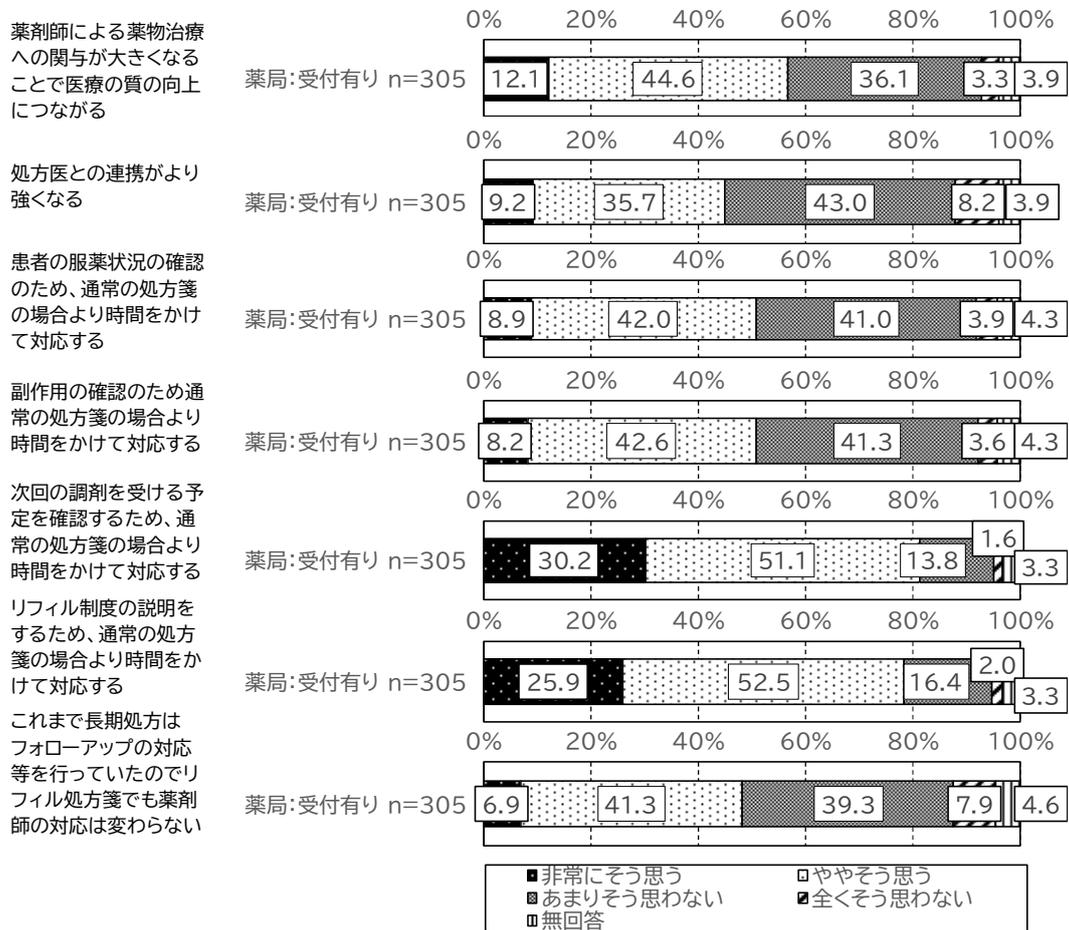
(1) リフィル処方箋導入による薬局・薬剤師業務等への影響

リフィル処方箋導入による薬局・薬剤師業務等への影響について、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局において「非常にそう思う」が最も多かったのは、「次回の調剤を受ける予定を確認するため、通常の処方箋の場合より時間をかけて対応する」で30.2%であった。リフィル処方箋の受付実績が無い薬局において「非常にそう思う」が最も多かったのは、「リフィル制度の説明をするため、通常の処方箋の場合より時間をかけて対応する」で38.0%であった。

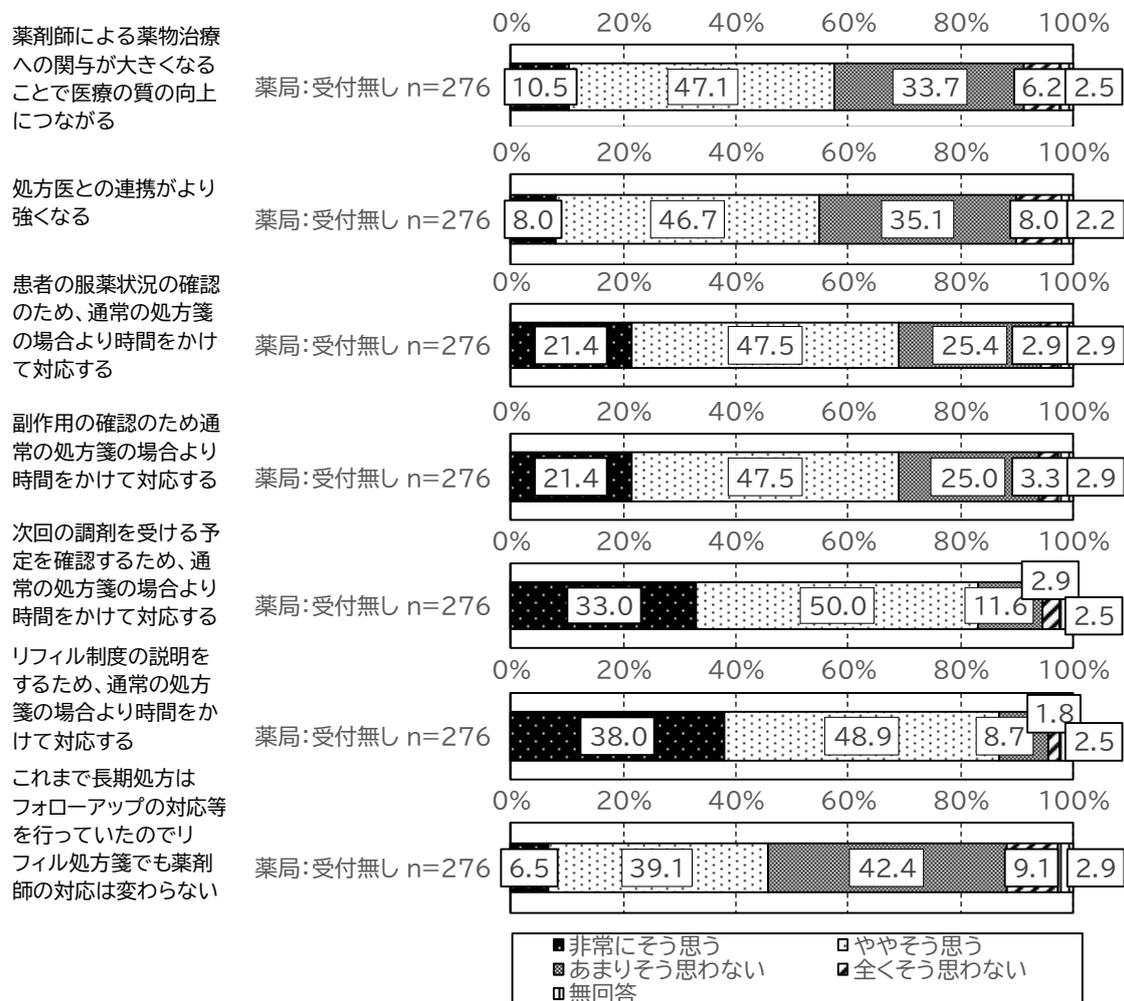
図表 4-60 リフィル処方箋導入による薬局・薬剤師業務等への影響
(全体)



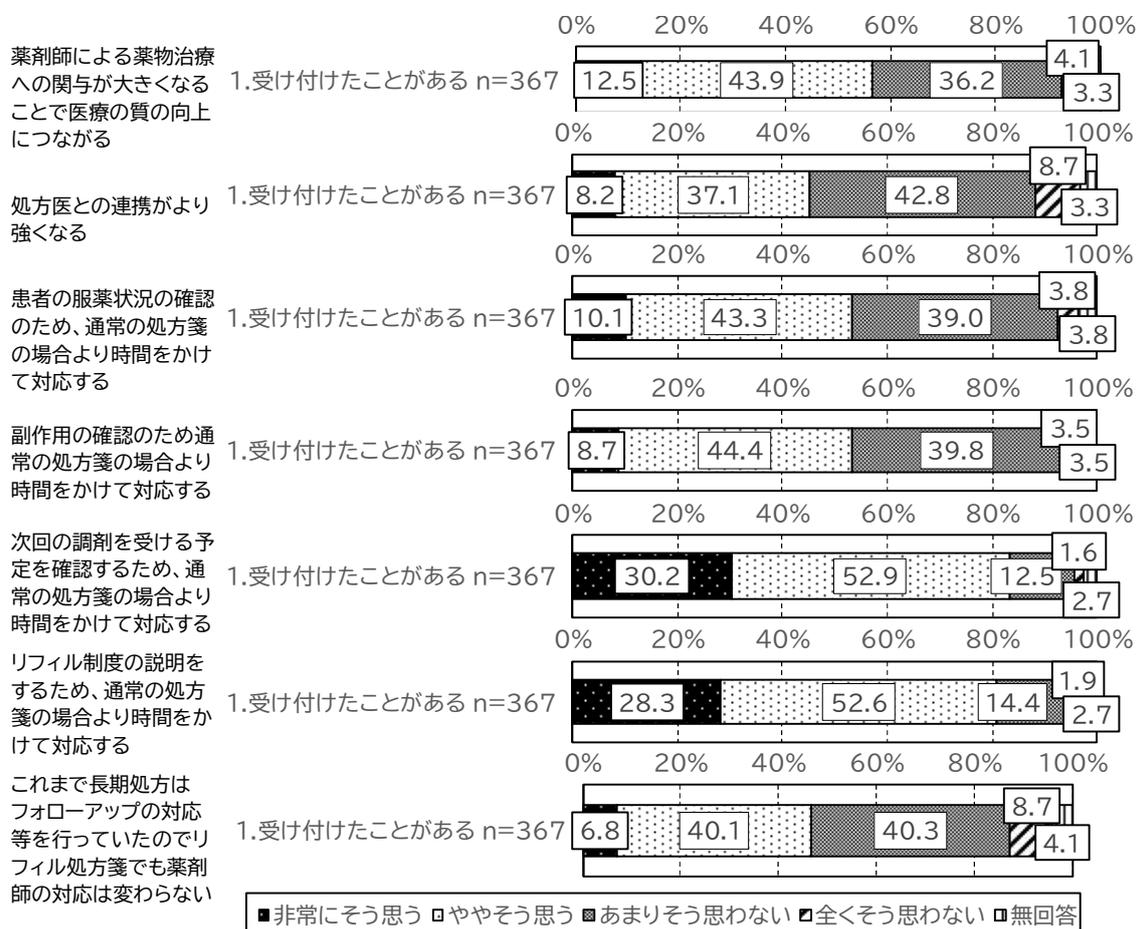
図表 4-61 リフィル処方箋導入による薬局・薬剤師業務等への影響
(リフィル処方箋の受付実績有り)



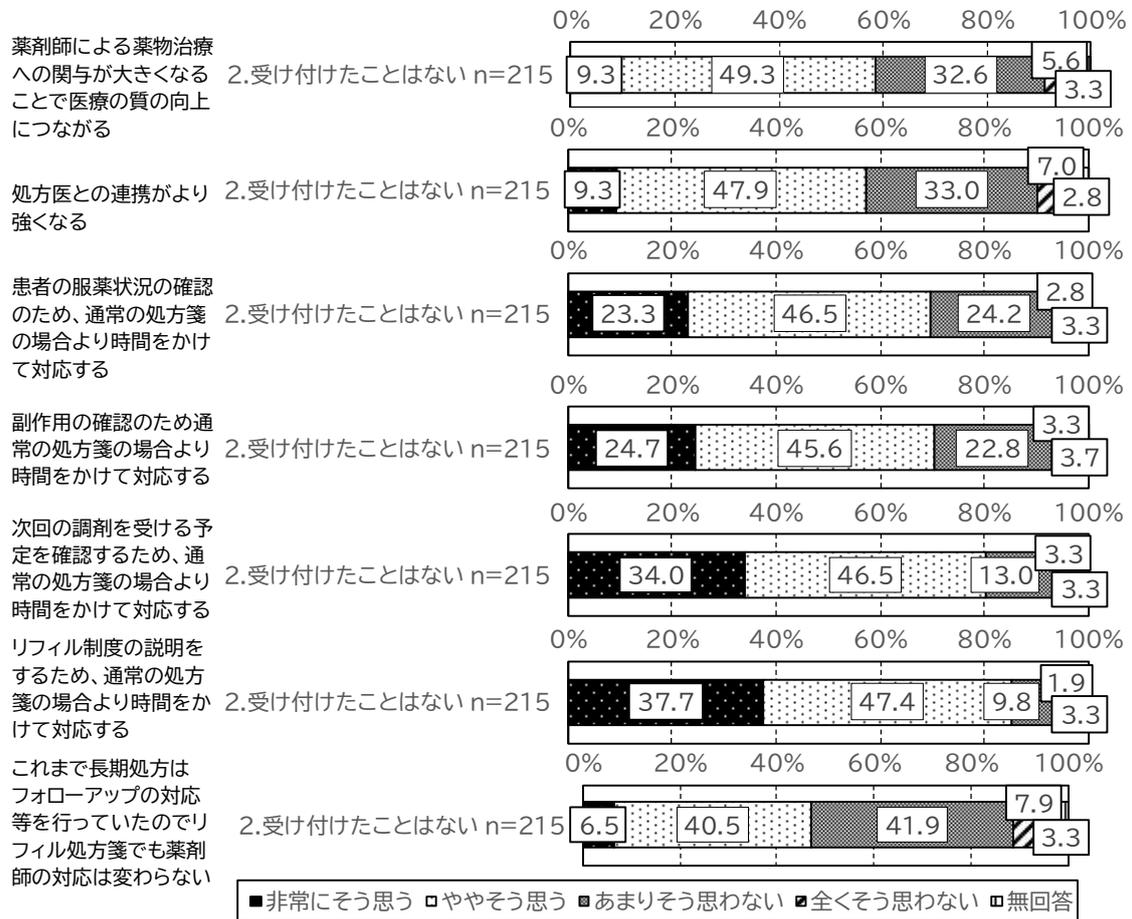
図表 4-62 リフィル処方箋導入による薬局・薬剤師業務等への影響
(リフィル処方箋の受付実績無し)



図表 4-63 リフィル処方箋導入による薬局・薬剤師業務等への影響
(調査票上でリフィル処方箋を「受け付けたことがある」と回答した薬局)



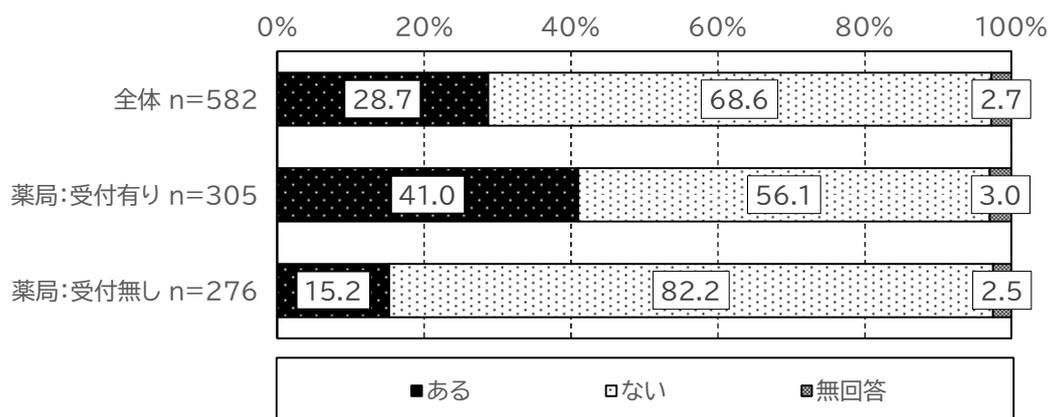
図表 4-64 リフィル処方箋導入による薬局・薬剤師業務等への影響
 (調査票上でリフィル処方箋を「受け付けたことはない」と回答した薬局)



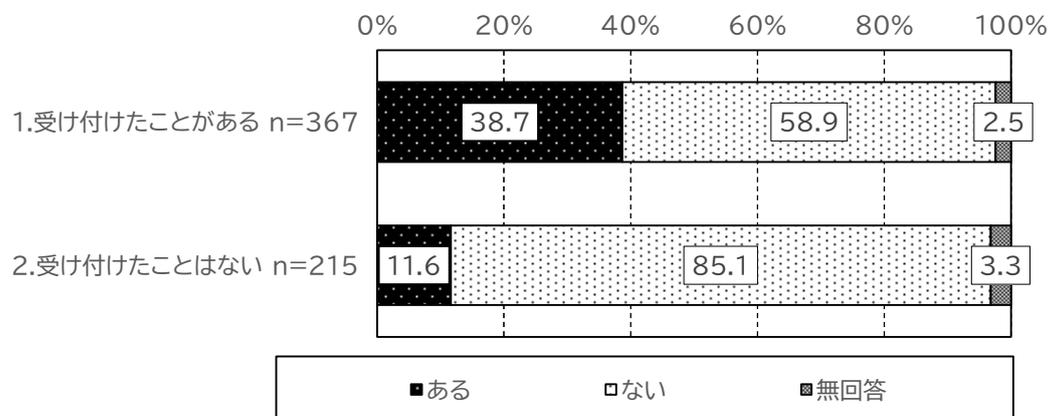
(2) 患者からのリフィル処方箋に関する相談を受けた経験

患者からのリフィル処方箋に関する相談を受けた経験について、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では「ある」が41.0%、「ない」が56.1%であった。リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では「あり」が15.2%、「ない」が82.2%であった。

図表 4-65 患者からのリフィル処方箋に関する相談を受けた経験
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



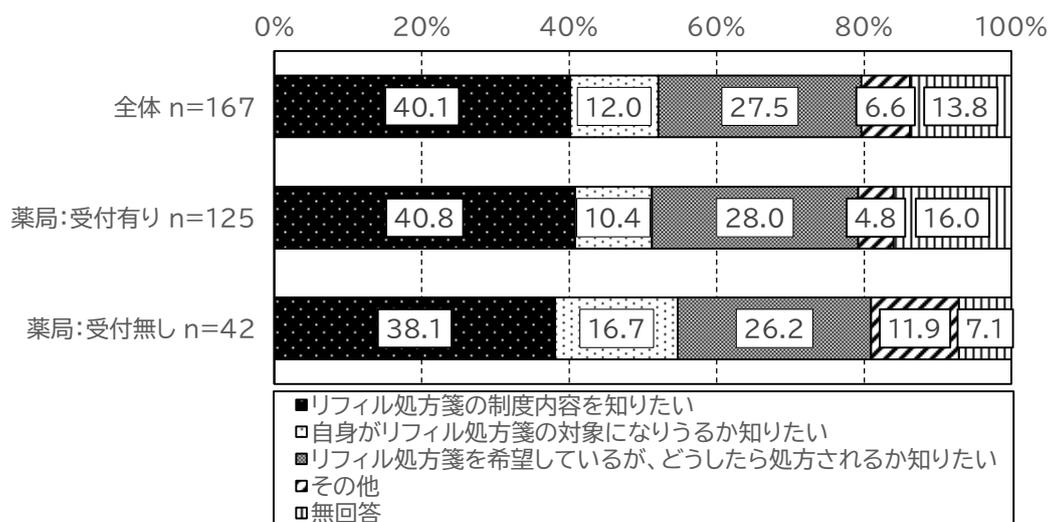
図表 4-66 患者からのリフィル処方箋に関する相談を受けた経験
(調査票上のリフィル処方箋を受け付けたことがあるかについての回答別)



① 受けた相談の内容（患者からのリフィル処方箋に関する相談を受けた経験がある施設のみ対象）

患者からのリフィル処方箋に関する相談を受けた内容について、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では「リフィル処方箋の制度内容を知りたい」が最も多く40.8%、リフィル処方箋の受付実績が無い薬局でも同項目が最も多く38.1%であった。

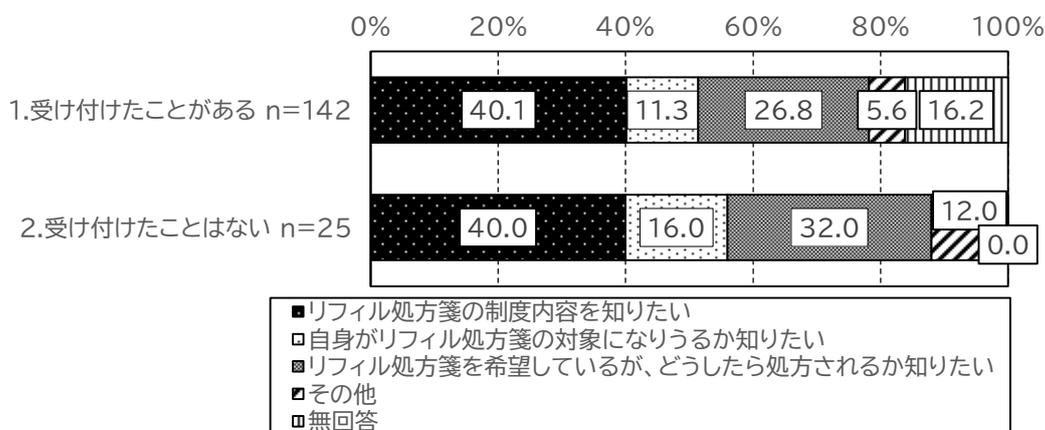
図表 4-67 最も多く受けた相談の内容
（患者からのリフィル処方箋に関する相談を受けた経験がある施設のみ対象）
（リフィル処方箋の受付実績有無別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・ 1回処方されたことがある薬は処方箋無しで良いのか（誤った認識）
- ・ なぜリフィルにしてくれないのかというクレーム
- ・ 次回期限内の受け取りが難しい場合の対応策 など

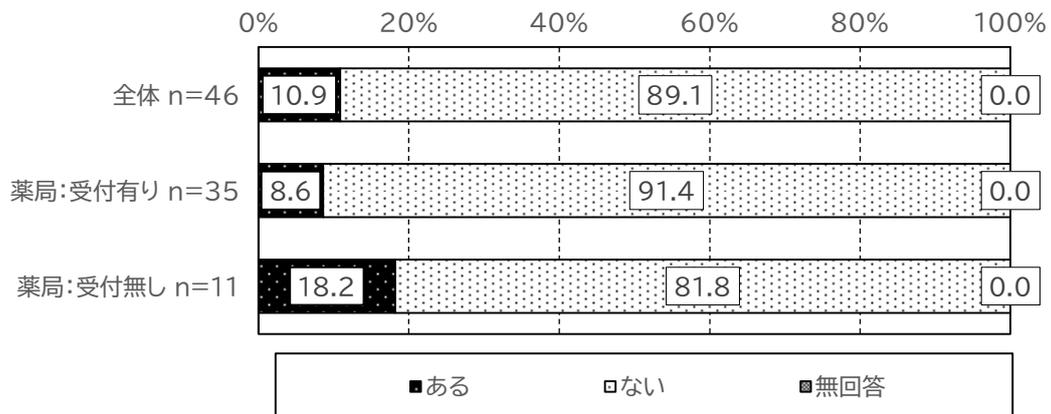
図表 4-68 最も多く受けた相談の内容
（患者からのリフィル処方箋に関する相談を受けた経験がある施設のみ対象）
（調査票上のリフィル処方箋を受け付けたことがあるかについての回答別）



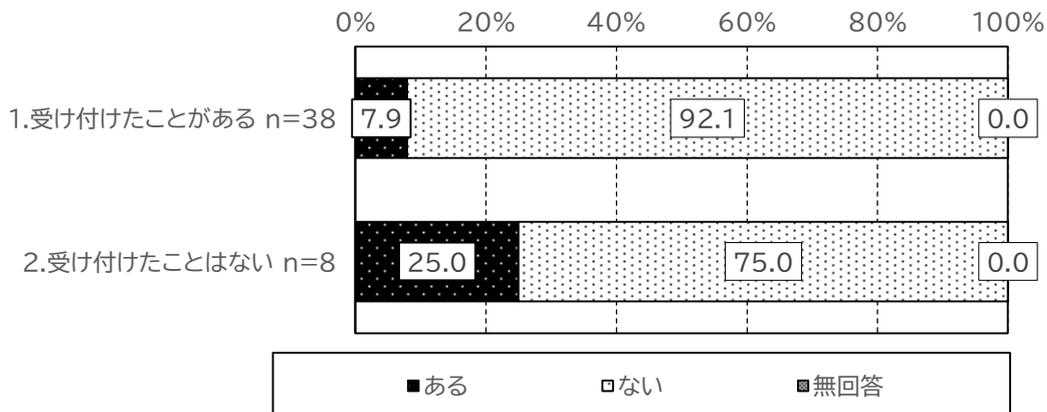
② 患者の希望を処方医に連絡した経験（リフィル処方箋を希望しているが、どうしたら処方されるか知りたいと相談を受けた施設のみ対象）

患者の希望を処方医に連絡した経験について、リフィル処方箋の受付実績が有る薬局では「ある」は8.6%、「ない」は91.4%であった。リフィル処方箋の受付実績が無い薬局では「ある」は18.2%、「ない」は81.8%であった。

図表 4-69 患者の希望を処方医に連絡したことの有無
(リフィル処方箋の受付実績有無別)



図表 4-70 患者の希望を処方医に連絡したことの有無
(調査票上のリフィル処方箋を受け付けたことがあるかについての回答別)



5. 患者調査（郵送調査）

【調査対象等】

○調査票 患者票

調査対象：病院・診療所調査の対象施設の調査日に外来受診した患者、並びに、保険薬局調査の対象施設の調査日に来局した患者を調査対象とした。1施設につき2名を本調査の対象とした。

回答数：1,119人

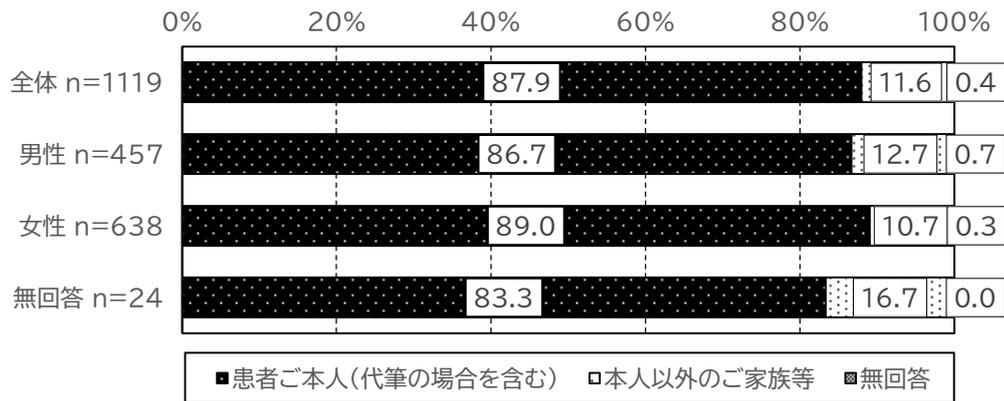
回答者：患者本人もしくは家族

1) この調査票のご記入者

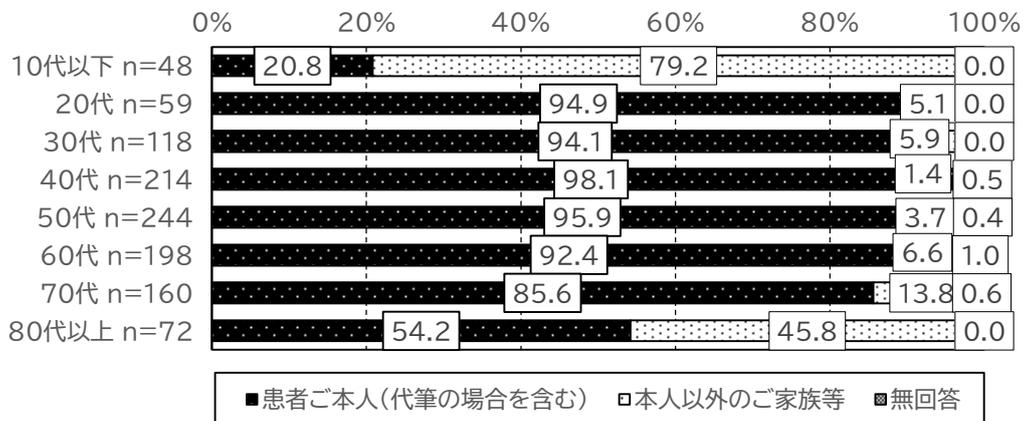
(1) ご記入者は患者さんご本人か

調査票の記入者は患者本人かについては「患者ご本人」が87.9%、「本人以外のご家族等」が11.6%であった。

図表 5-1 調査票の記入者
(性別)



図表 5-2 調査票の記入者
(年代別)

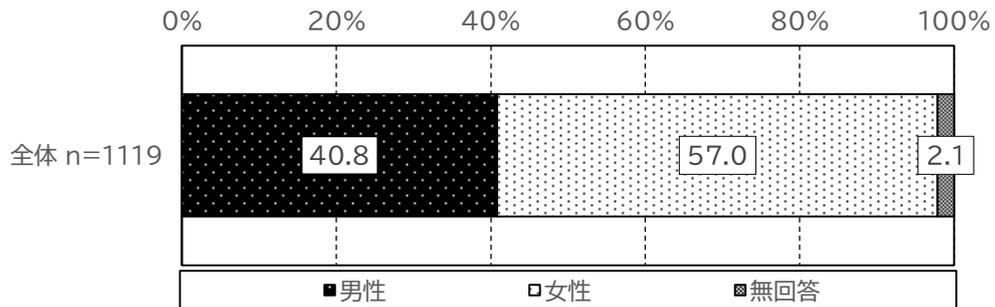


2) 患者さんご自身のことについて

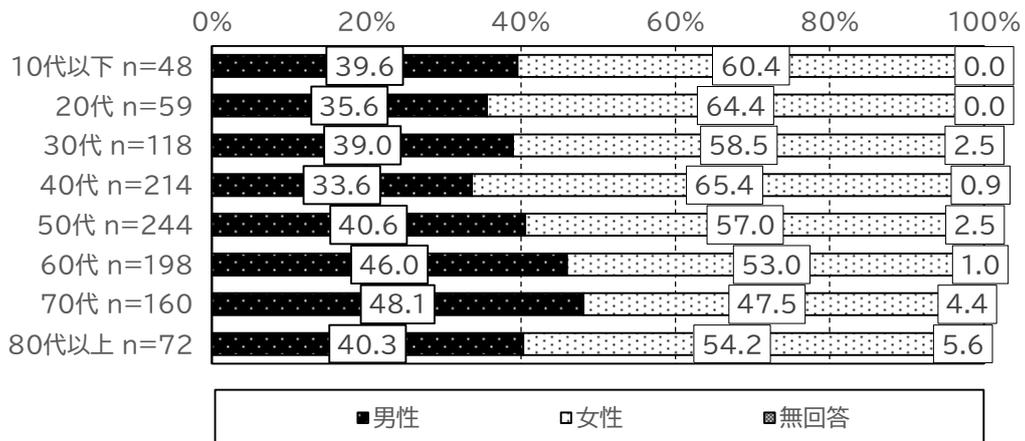
(1) 性別

性別については「男性」が40.8%、「女性」が57.0%であった。

図表 5-3 性別



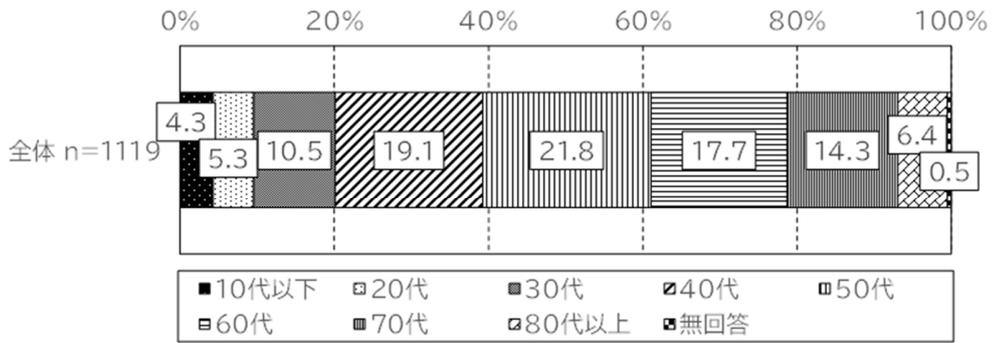
図表 5-4 性別
(年代別)



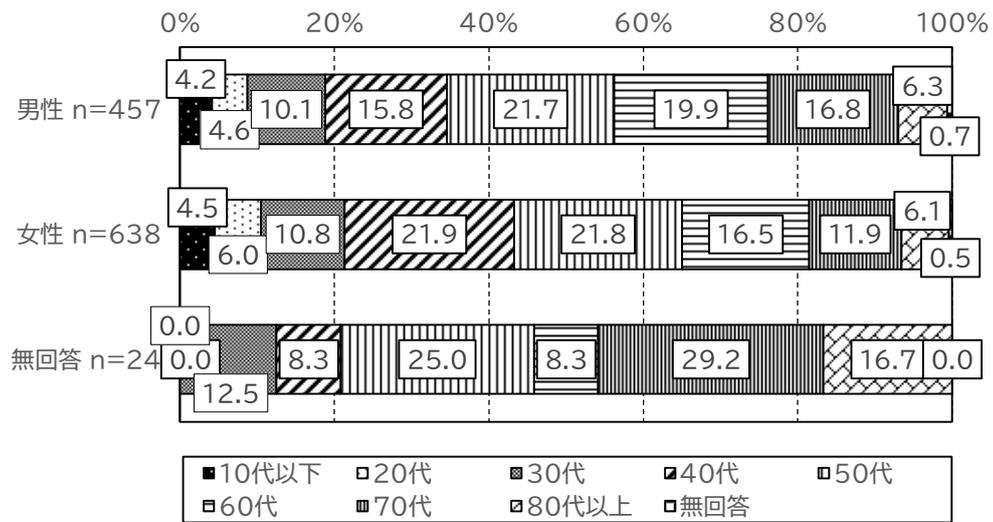
(2) 年齢

年齢については「50代」が最も多く21.8%、次いで「40代」が19.1%であった。

図表 5-5 年齢
(性別)



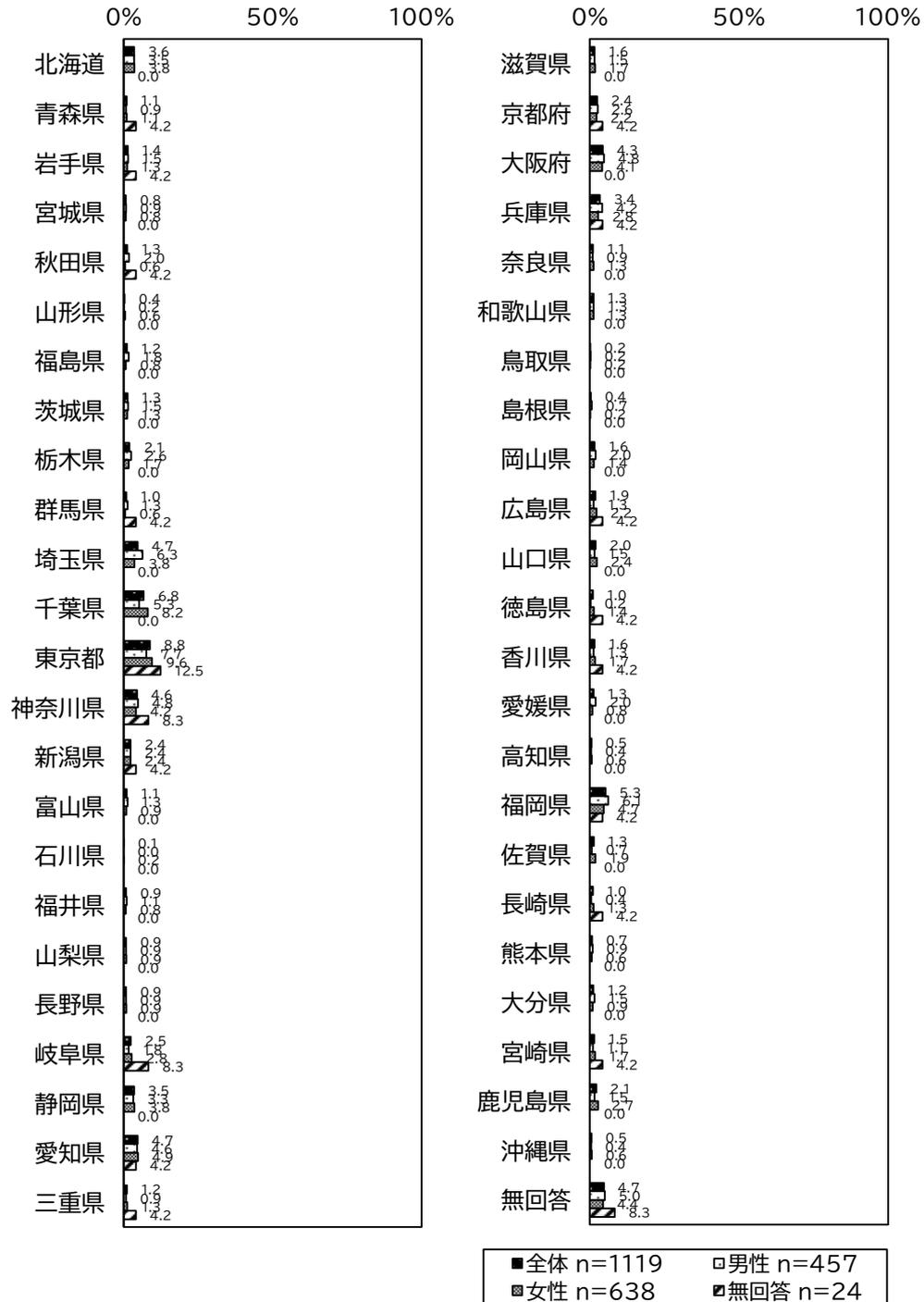
図表 5-6 年齢
(年代別)



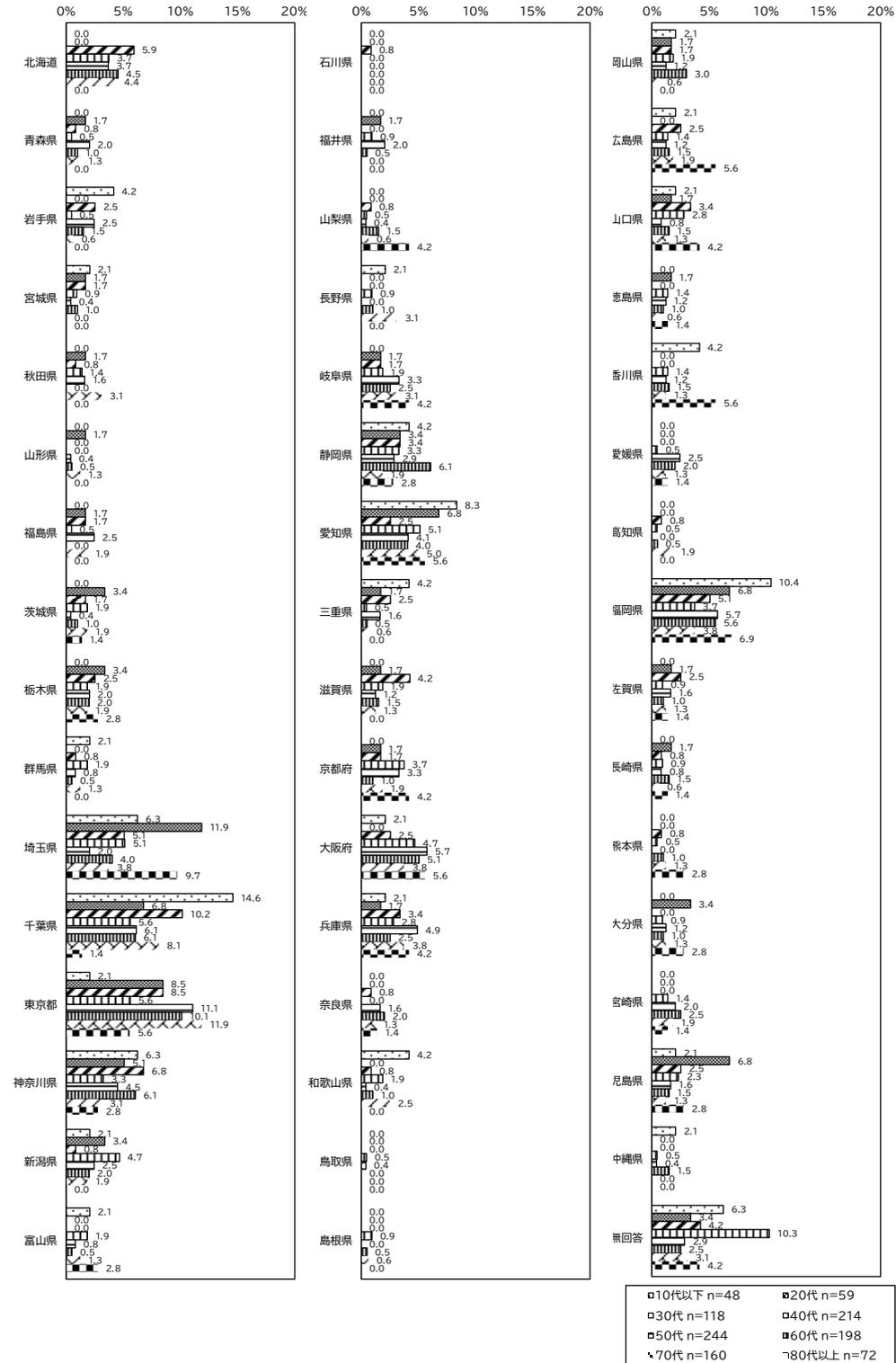
(3) お住まい

お住まいについては「東京都」が最も多く8.8%であった。

図表 5-7 お住まい
(性別)



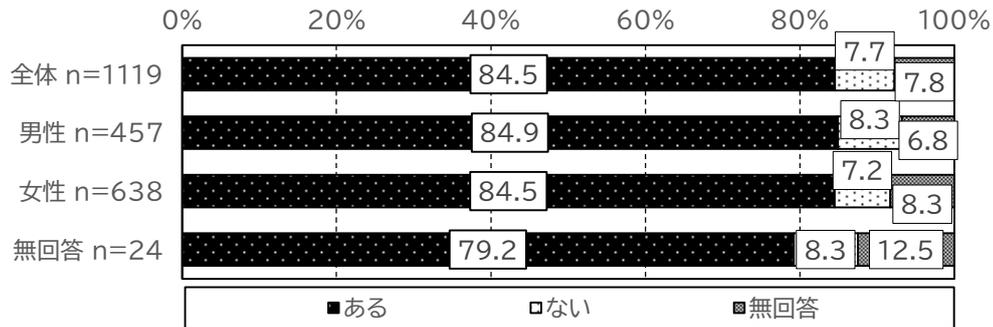
図表 5-8 お住まい
(年代別)



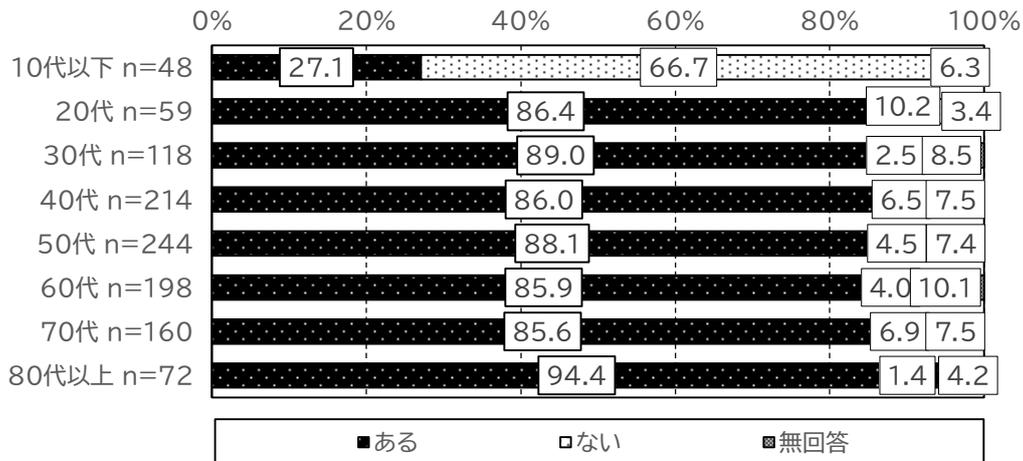
(4) 薬局の窓口で支払うお金の有無

薬局の窓口で支払うお金（お薬の容器代は含まない）については、「ある」が84.5%、「ない」が7.7%であった。

図表 5-9 薬局の窓口で支払うお金の有無
(性別)



図表 5-10 薬局の窓口で支払うお金の有無
(年代別)



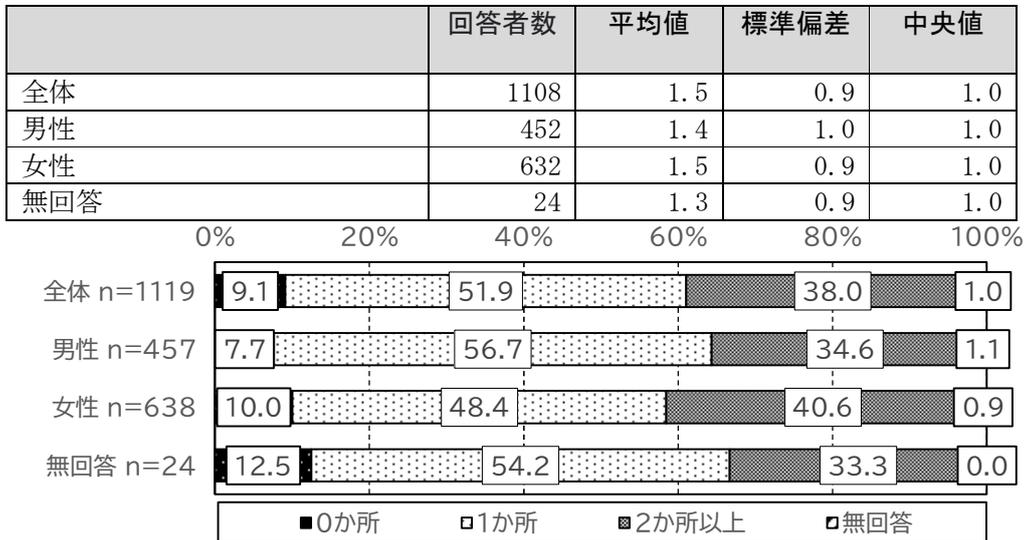
3) 医療機関や保険薬局の利用状況等について

(1) 定期的を受診している医療機関（病院・診療所）、診療科の数

定期的（180日間で複数回）に受診している医療機関（病院・診療所）の数については平均で1.5件であった。

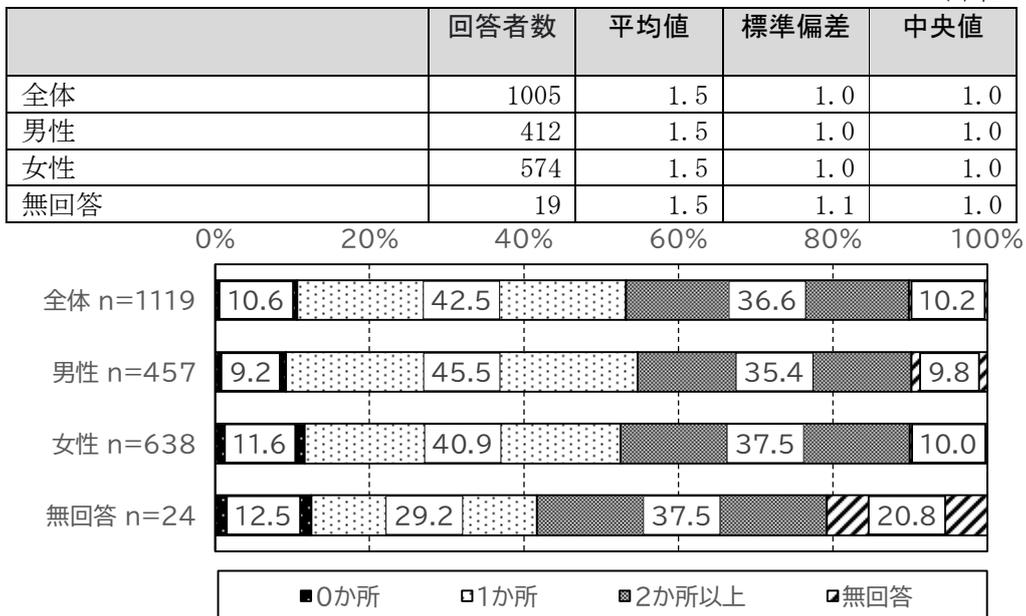
図表 5-11 定期的に受診している医療機関（病院・診療所）の数
（性別）

（単位：件）



図表 5-12 定期的に受診している診療科の数
（性別）

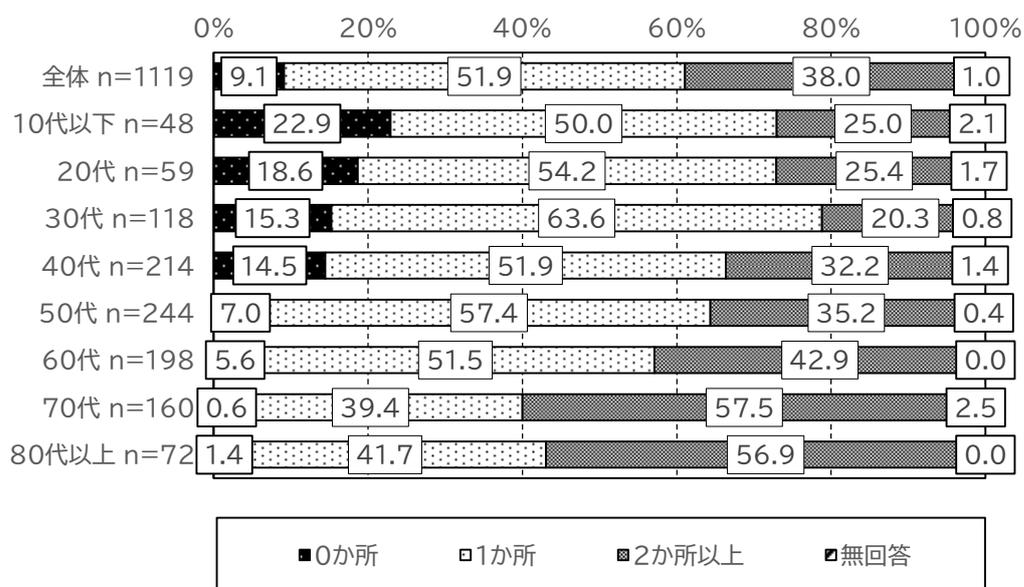
（単位：件）



図表 5-13 定期的に受診している医療機関（病院・診療所）の数
（年代別）

（単位：件）

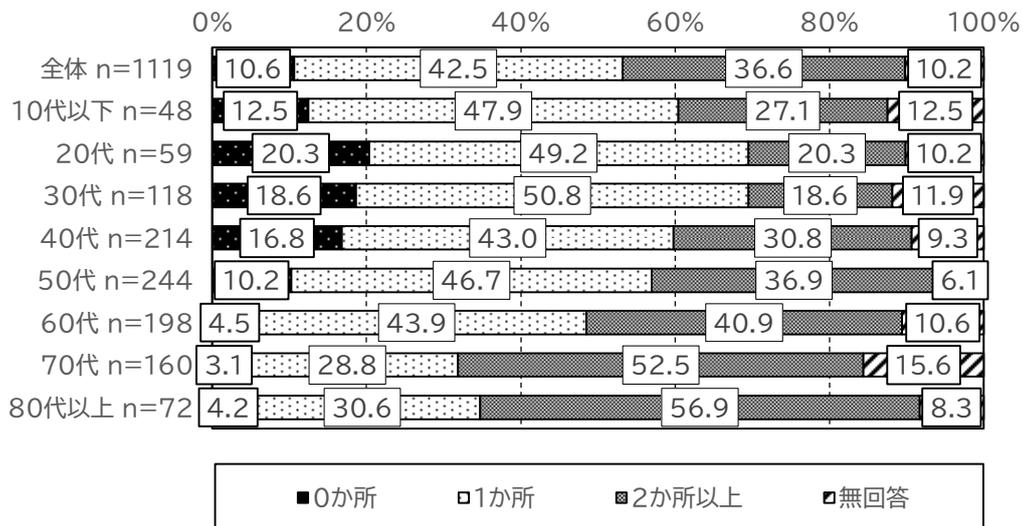
	回答者数	平均値	標準偏差	中央値
全体	1108	1.5	0.9	1.0
10代以下	47	1.1	0.9	1.0
20代	58	1.1	0.8	1.0
30代	117	1.1	0.8	1.0
40代	211	1.3	0.9	1.0
50代	243	1.4	1.0	1.0
60代	198	1.6	0.9	1.0
70代	156	1.9	1.0	2.0
80代以上	72	1.8	0.9	2.0



図表 5-14 定期的に受診している診療科の数
（年代別）

（単位：件）

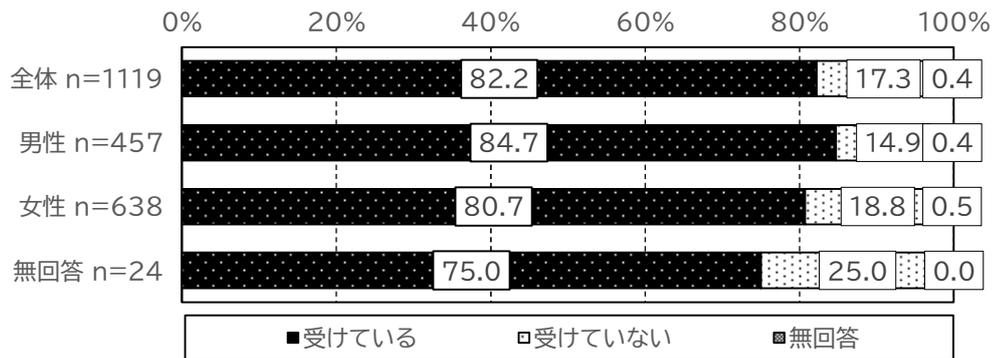
	回答者数	平均値	標準偏差	中央値
全体	1005	1.5	1.0	1.0
10代以下	42	1.3	0.9	1.0
20代	53	1.1	0.8	1.0
30代	104	1.1	0.8	1.0
40代	194	1.3	1.1	1.0
50代	229	1.4	0.9	1.0
60代	177	1.7	1.0	1.0
70代	135	2.0	1.2	2.0
80代以上	66	1.8	0.9	2.0



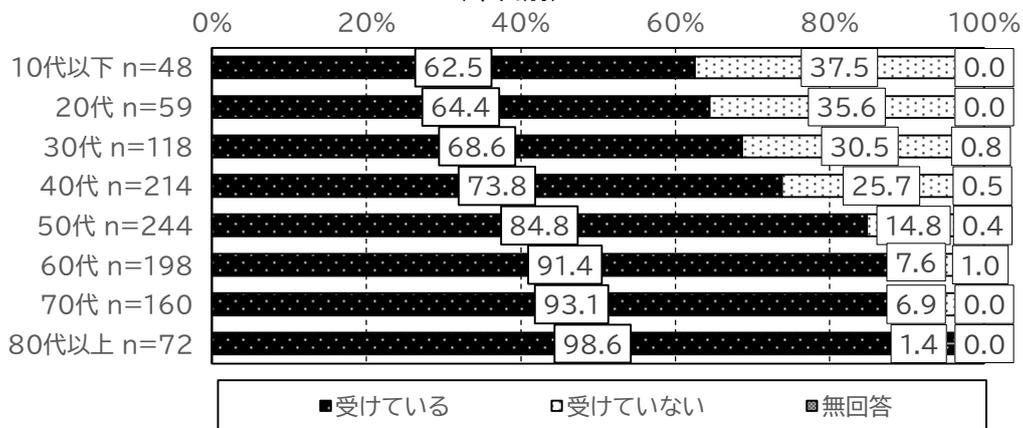
(2) 定期的に決まった薬の処方を受けているか

定期的に決まった薬の処方を受けているかについては、「受けている」が82.2%、「受けていない」が17.3%であった。

図表 5-15 定期的に決まった薬の処方を受けているか
(性別)



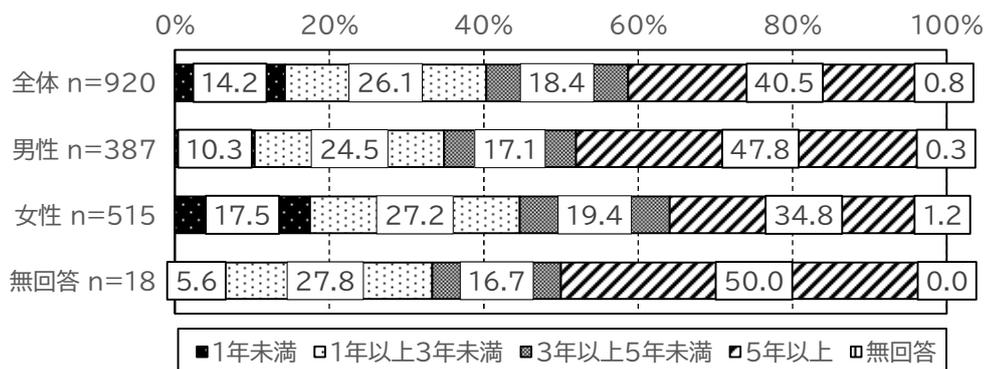
図表 5-16 定期的に決まった薬の処方を受けているか
(年代別)



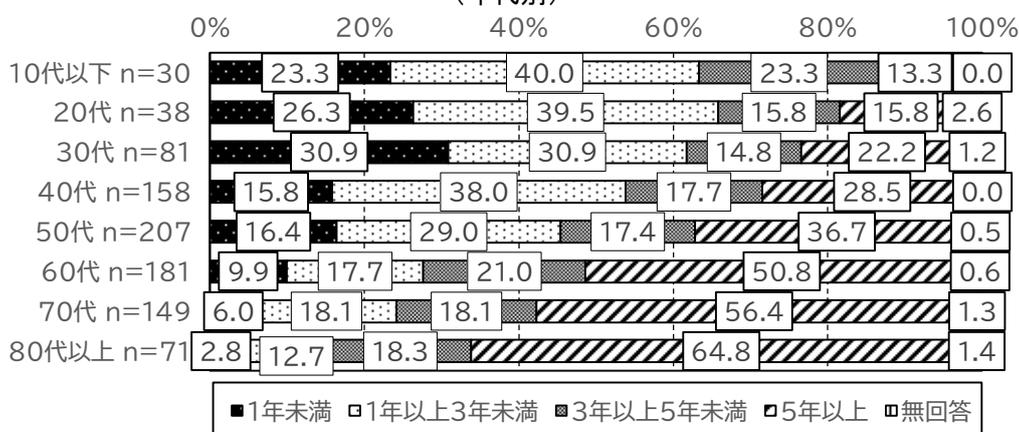
① 定期的な処方を受けている期間

定期的な処方を受けている期間については、「5年以上」が最も多く40.5%、次いで「1年以上3年未満」が多く26.1%であった。

図表 5-17 定期的な処方を受けている期間
(性別)



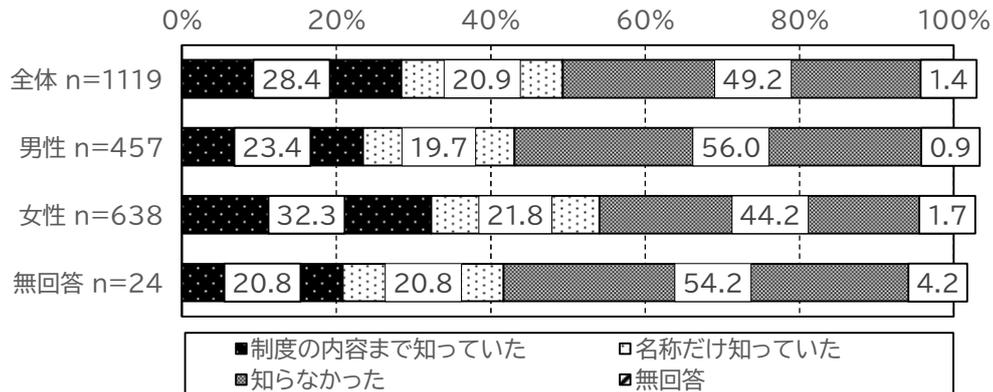
図表 5-18 定期的な処方を受けている期間
(年代別)



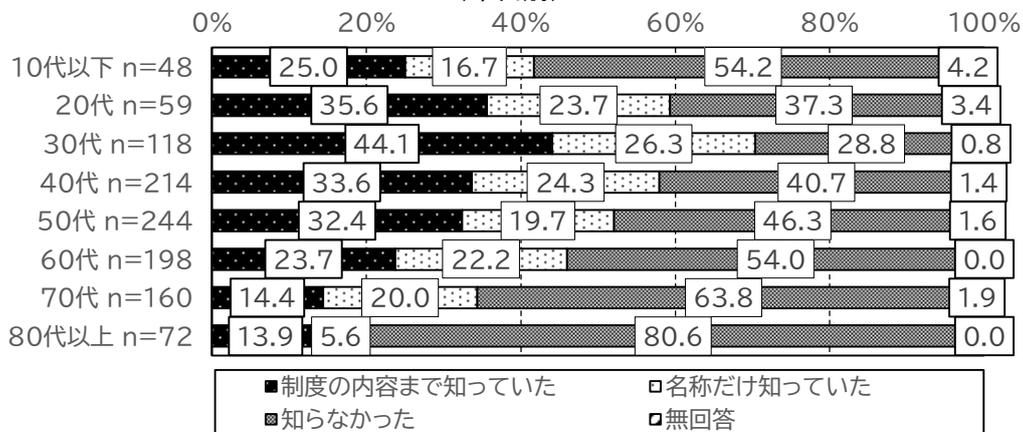
(3) リフィル処方箋の認知度

リフィル処方箋を知っているかについては、「制度の内容まで知っていた」が28.4%、「名称だけ知っていた」が20.9%、「知らなかった」が49.2%であった。

図表 5-19 リフィル処方箋の認知度
(性別)



図表 5-20 リフィル処方箋の認知度
(年代別)

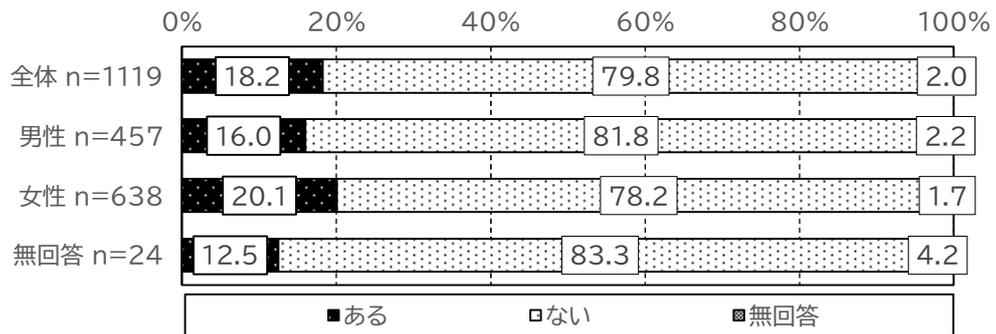


4) これまでにリフィル処方箋を交付された経験

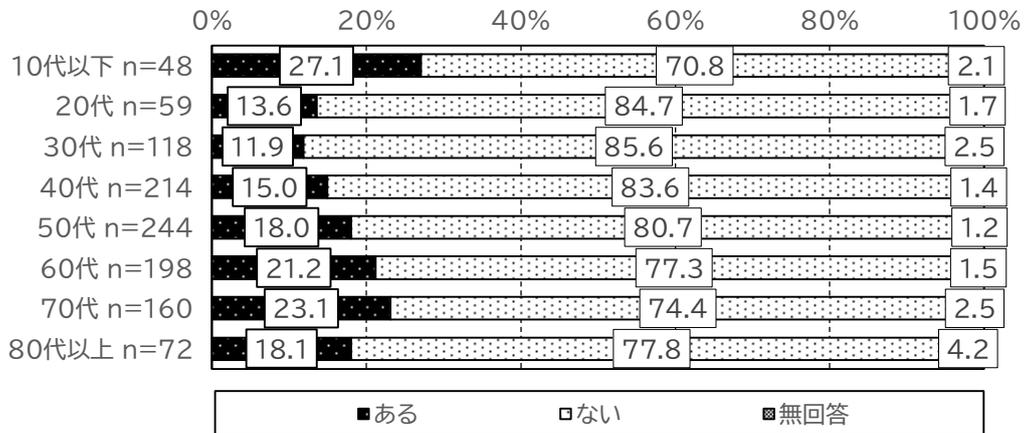
(1) リフィル処方箋について医師から説明

リフィル処方箋について医師から説明を受けたことがあるかについては、「ある」が18.2%、「ない」が79.8%であった。

図表 5-21 リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験
(性別)



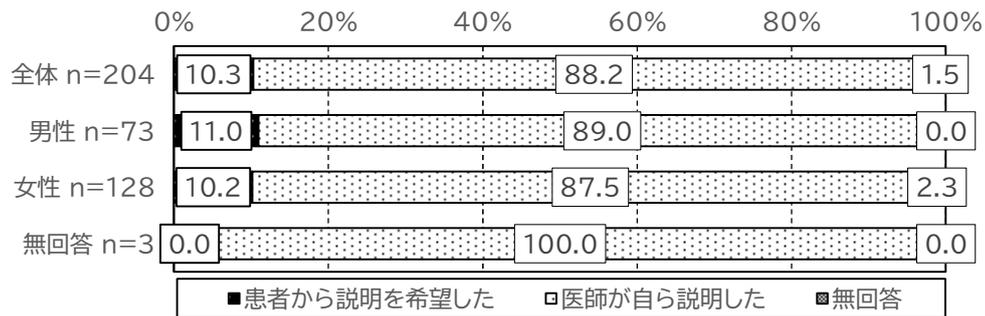
図表 5-22 リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験
(年代別)



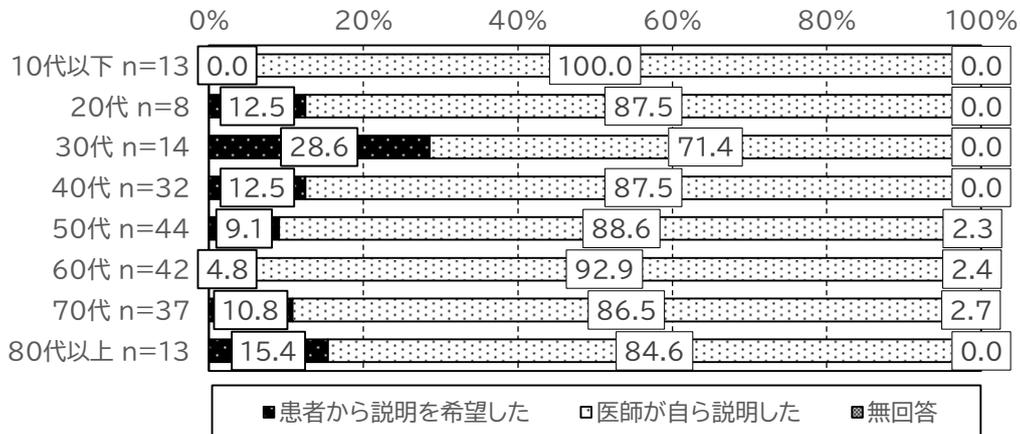
① リフィル処方箋についての説明はどのように行われたか（リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験がある患者のみ）

リフィル処方箋について医師から説明はどのように行われたかについては、「患者から説明を希望した」が10.3%、「医師が自ら説明した」が88.2%であった。

図表 5-23 リフィル処方箋についての説明はどのように行われたか
（リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験がある患者のみ）
（性別）



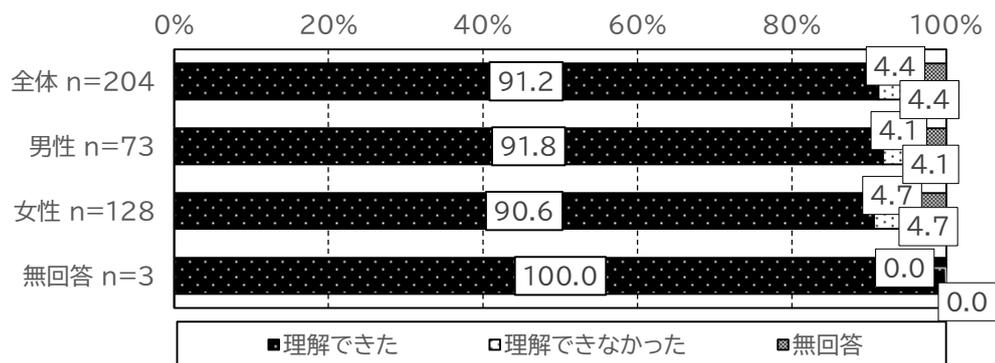
図表 5-24 リフィル処方箋についての説明はどのように行われたか
（リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験がある患者のみ）
（年代別）



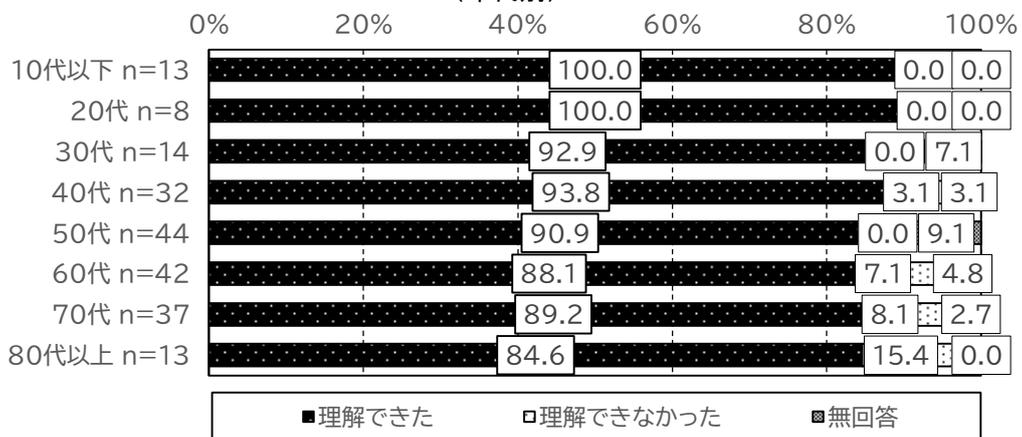
② リフィル処方箋についての説明は理解できたか（リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験がある患者のみ）

リフィル処方箋についての説明は理解できたかについては、「理解できた」が91.2%、「理解できなかった」が4.4%であった。

図表 5-25 リフィル処方箋についての説明は理解できたか
（リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験がある患者のみ）
（性別）



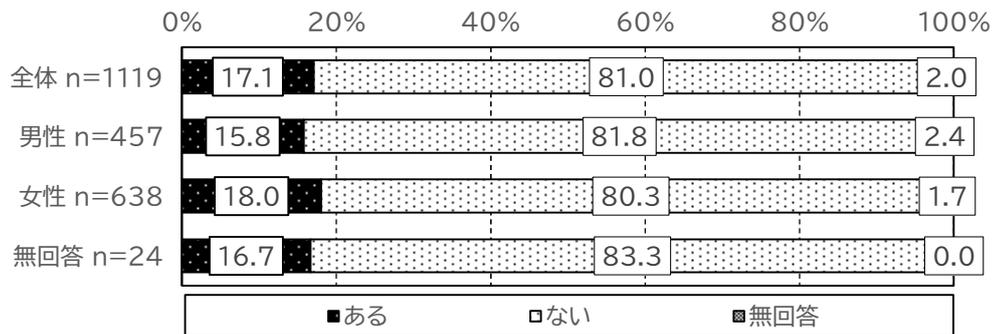
図表 5-26 リフィル処方箋についての説明は理解できたか
（リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験がある患者のみ）
（年代別）



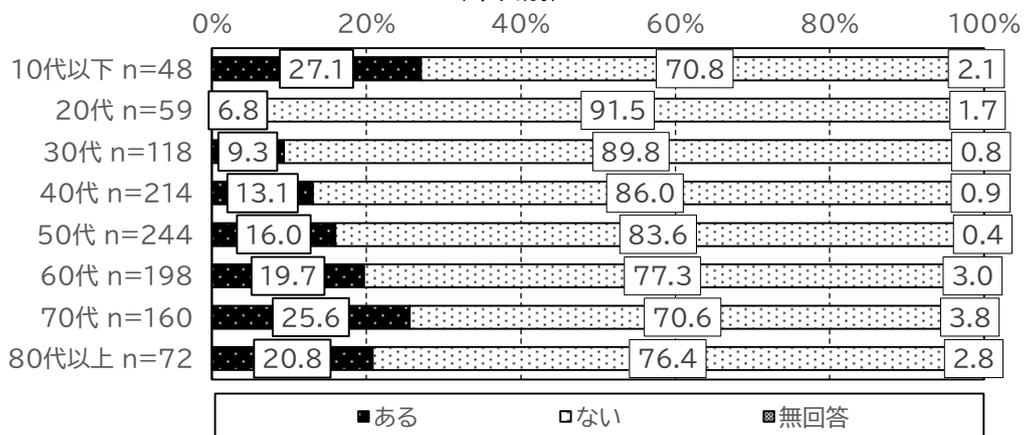
(2) リフィル処方箋を交付された経験

リフィル処方箋を交付された経験については、「ある」が17.1%、「ない」が81.0%であった。

図表 5-27 リフィル処方箋を交付された経験
(性別)



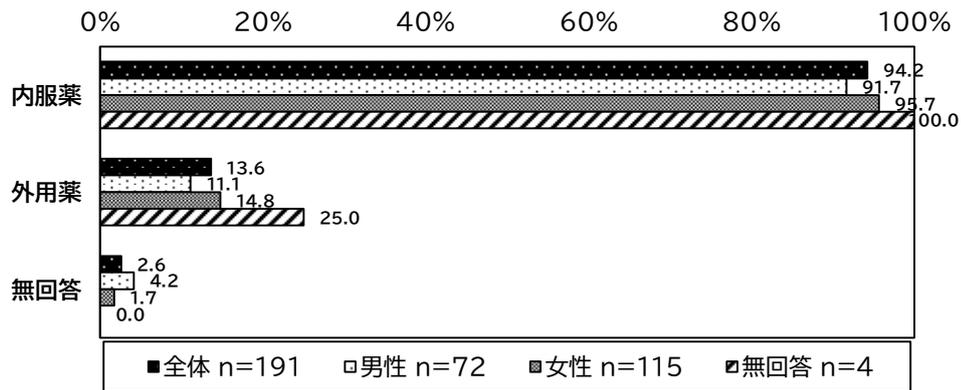
図表 5-28 リフィル処方箋を交付された経験
(年代別)



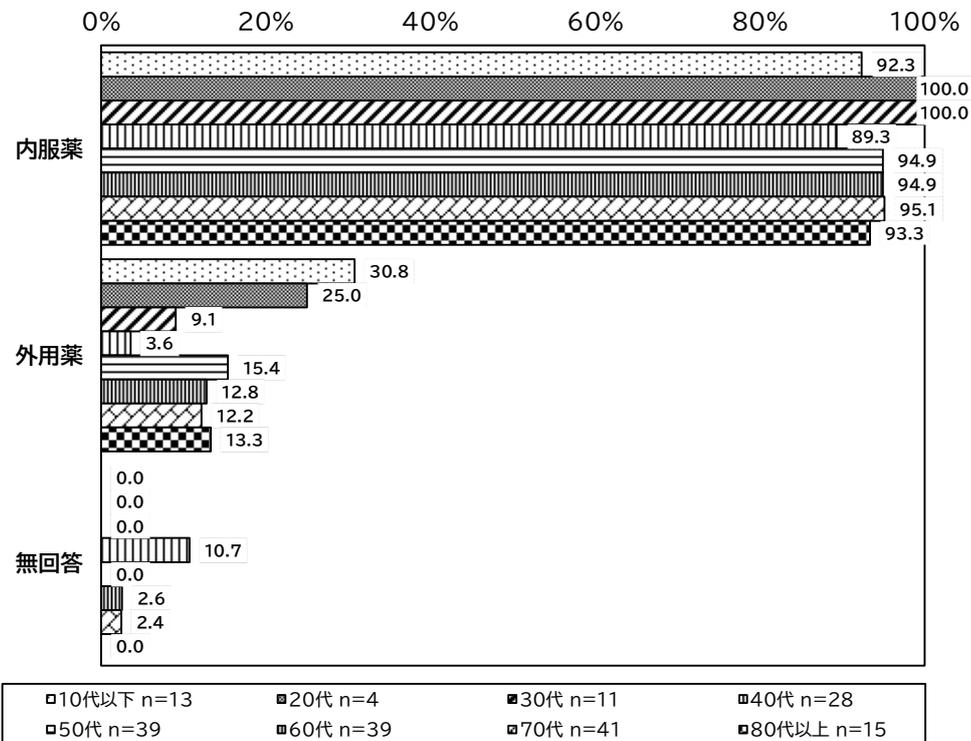
(3) リフィル処方箋を交付されたのはどのような薬か（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）

リフィル処方箋を交付されたのはどのような薬かについては、「内服薬」が最も多く94.2%、次いで「外用薬」が13.6%であった。

図表 5-29 リフィル処方箋を交付されたのはどのような薬か（複数回答）
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
（性別）



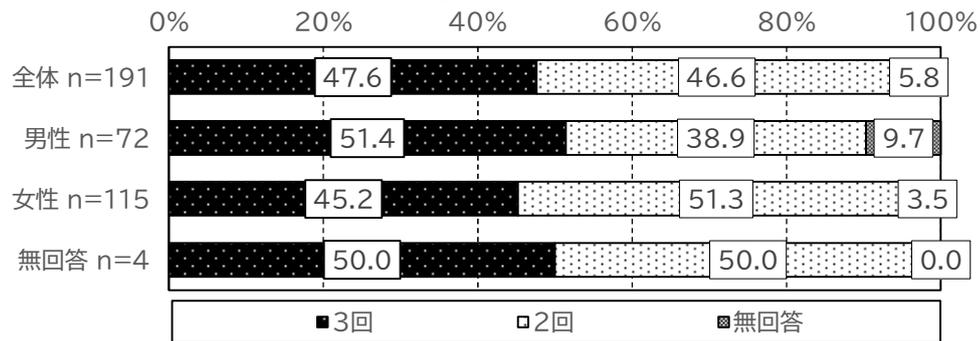
図表 5-30 リフィル処方箋を交付されたのはどのような薬か（複数回答）
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
（年代別）



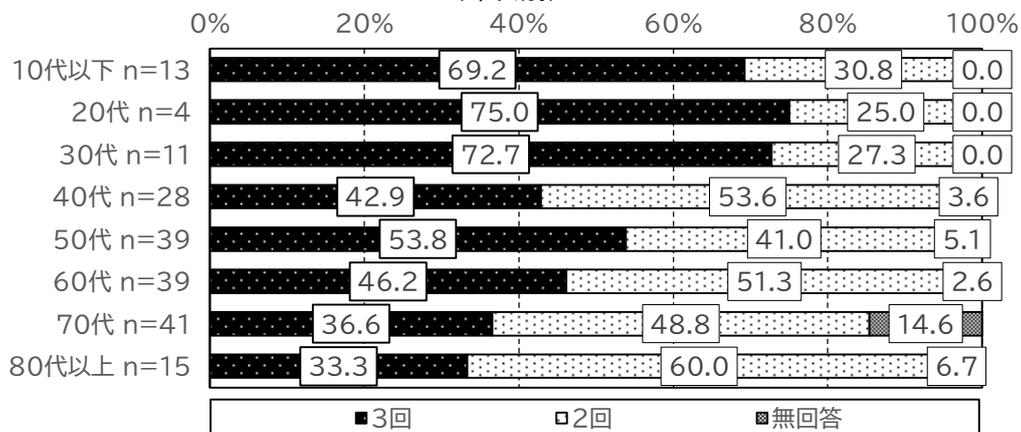
(4) 直近のリフィル処方箋は、何回反復利用できる処方箋か（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）

直近のリフィル処方箋は何回反復利用できる処方箋かについては、「3回」が47.6%、「2回」が46.6%であった。

図表 5-31 直近のリフィル処方箋は、何回反復利用できる処方箋か
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
（性別）



図表 5-32 直近のリフィル処方箋は、何回反復利用できる処方箋か
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
（年代別）



(5) 直近のリフィル処方箋は、1回あたり何日分のお薬の処方だったか（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）

1回目の処方は何日分かについては、1回目は平均で37.6日分、2回目は平均で37.0日分、3回目は平均で33.3日分であった。

図表 5-33 直近のリフィル処方箋は、1回あたり何日分の処方だったか 1回目
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
（性別）

（単位：日）

	回答者数	平均値	標準偏差	中央値	最小値	第1四分位数	第3四分位数	最大値
全体	186	37.6	20.1	30.0	7.0	28.0	30.0	90.0
男性	68	37.9	18.8	30.0	28.0	29.5	30.0	90.0
女性	114	37.7	21.2	30.0	7.0	28.0	30.0	90.0
無回答	4	29.5	1.0	30.0	28.0	29.5	30.0	30.0

図表 5-34 直近のリフィル処方箋は、1回あたり何日分の処方だったか 1回目
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
（年代別）

（単位：日）

	回答者数	平均値	標準偏差	中央値	最小値	第1四分位数	第3四分位数	最大値
全体	186	37.6	20.1	30.0	7.0	28.0	30.0	90.0
10代以下	13	41.5	27.3	30.0	7.0	30.0	31.0	90.0
20代	4	29.3	1.0	29.5	28.0	28.8	30.0	30.0
30代	11	28.2	4.8	30.0	14.0	29.0	30.0	30.0
40代	27	41.8	25.0	30.0	14.0	28.0	43.5	90.0
50代	38	38.9	20.7	30.0	12.0	28.0	30.0	90.0
60代	39	35.4	17.1	30.0	21.0	28.0	30.0	90.0
70代	39	38.8	20.8	30.0	14.0	29.0	30.0	90.0
80代以上	14	35.1	16.3	30.0	28.0	28.0	30.0	84.0

図表 5-35 直近のリフィル処方箋は、1回あたり何日分の処方だったか 2回目
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
（性別）

（単位：日）

	回答者数	平均値	標準偏差	中央値	最小値	第1四分位数	第3四分位数	最大値
全体	157	37.0	20.3	30.0	7.0	28.0	30.0	90.0
男性	59	37.1	19.2	30.0	28.0	28.0	30.0	90.0
女性	95	37.1	21.4	30.0	7.0	28.0	30.0	90.0
無回答	3	29.3	1.0	30.0	28.0	29.0	30.0	30.0

図表 5-36 直近のリフィル処方箋は、1回あたり何日分の処方だったか 2回目
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
（年代別）

（単位：日）

	回答者数	平均値	標準偏差	中央値	最小値	第1四分位数	第3四分位数	最大値
全体	157	37.0	20.3	30.0	7.0	28.0	30.0	90.0
10代以下	11	38.1	25.2	30.0	7.0	30.0	30.0	90.0
20代	4	29.3	1.0	29.5	28.0	28.8	30.0	30.0
30代	10	28.0	5.0	30.0	14.0	28.5	30.0	30.0
40代	23	42.7	26.6	30.0	14.0	28.0	45.5	90.0
50代	32	38.9	21.8	30.0	12.0	28.0	30.0	90.0
60代	34	33.6	14.9	30.0	21.0	28.0	30.0	90.0
70代	31	38.2	22.1	30.0	14.0	28.0	30.0	90.0
80代以上	11	36.9	18.2	30.0	28.0	28.0	30.0	84.0

図表 5-37 直近のリフィル処方箋は、1回あたり何日分の処方だったか 3回目
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者・3回処方の場合のみ）
（性別）

（単位：日）

	回答者数	平均値	標準偏差	中央値	最小値	第1四分位数	第3四分位数	最大値
全体	82	33.3	15.5	30.0	7.0	28.0	30.0	90.0
男性	35	33.6	15.0	30.0	28.0	28.0	30.0	90.0
女性	46	33.0	16.1	30.0	7.0	28.0	30.0	90.0
無回答	1	30.0	—	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0

図表 5-38 直近のリフィル処方箋は、1回あたり何日分の処方だったか 3回目
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者・3回処方の場合のみ）
（年代別）

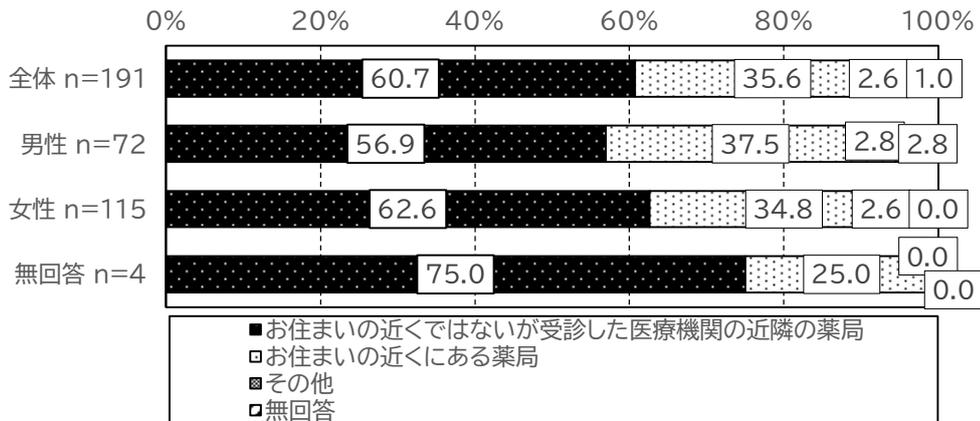
（単位：日）

	回答者数	平均値	標準偏差	中央値	最小値	第1四分位数	第3四分位数	最大値
全体	82	33.3	15.5	30.0	7.0	28.0	30.0	90.0
10代以下	9	33.4	20.4	30.0	7.0	30.0	30.0	84.0
20代	3	29.0	1.0	29.0	28.0	28.5	29.5	30.0
30代	8	27.5	5.5	30.0	14.0	28.0	30.0	30.0
40代	11	35.9	21.0	28.0	14.0	28.0	30.5	90.0
50代	19	33.8	15.0	30.0	28.0	28.0	30.0	90.0
60代	16	29.3	1.0	30.0	28.0	28.0	30.0	30.0
70代	12	36.8	19.0	30.0	28.0	28.0	30.0	90.0
80代以上	4	43.0	27.3	30.0	28.0	29.5	43.5	84.0

(6) リフィル処方箋の1回目の調剤で、どこの薬局に行ったか（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）

リフィル処方箋の1回目の処方箋でどこの薬局に行ったかについては、「お住まいの近くではないが受診した医療機関の近隣の薬局」が60.7%、「お住まいの近くにある薬局」が35.6%、「その他」が2.6%であった。

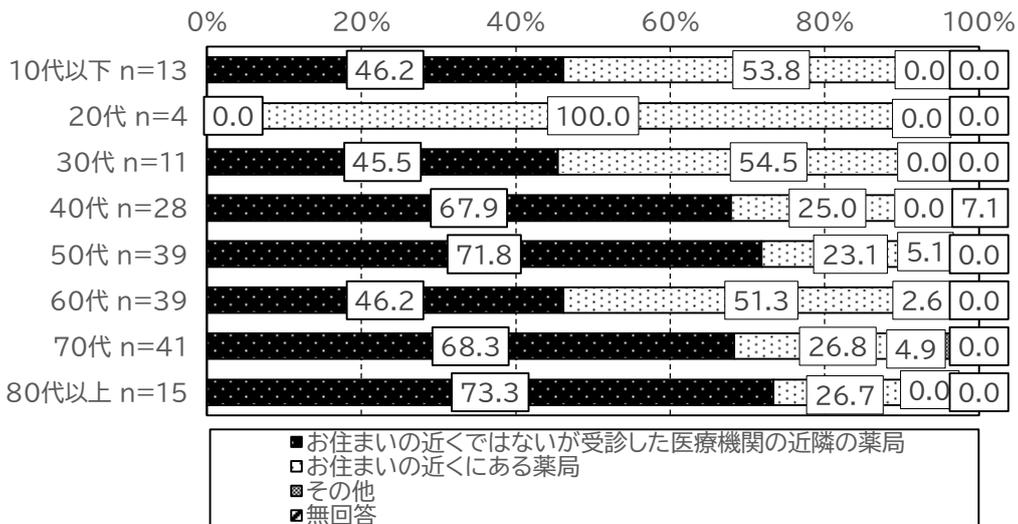
図表 5-39 リフィル処方箋の1回目の調剤で、どこの薬局に行ったか
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
（性別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・ 住まいと医療機関の双方に近い薬局
- ・ 職場の近くの薬局
- ・ かかりつけ薬局 など

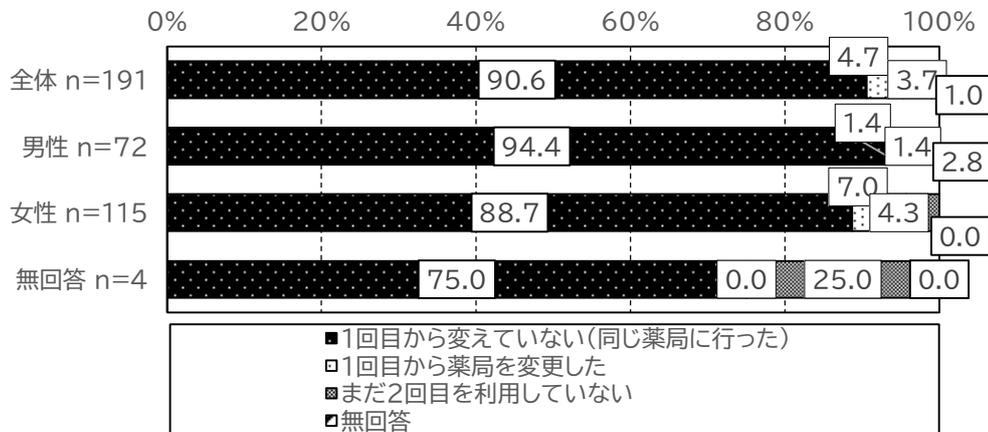
図表 5-40 リフィル処方箋の1回目の調剤で、どこの薬局に行ったか
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
（年代別）



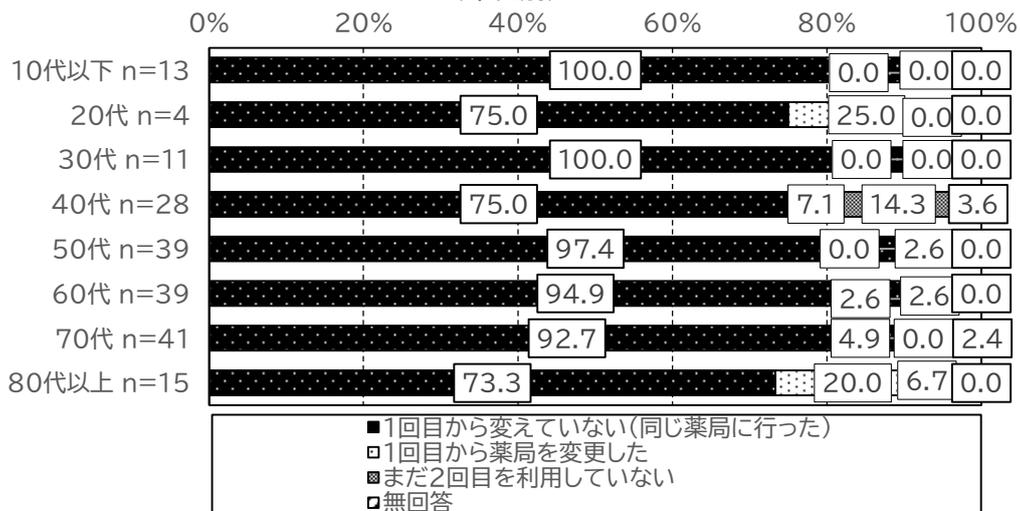
(7) リフィル処方箋の2回目以降の調剤で薬局を変えたか（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）

リフィル処方箋の2回目以降の処方で薬局を変えたかについては、「1回目から変えていない（同じ薬局に行った）」が90.6%、「1回目から薬局を変更した」が4.7%、「まだ2回目を利用していない」が3.7%であった。

図表 5-41 リフィル処方箋の2回目以降の調剤で、薬局を変えたか
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
（性別）



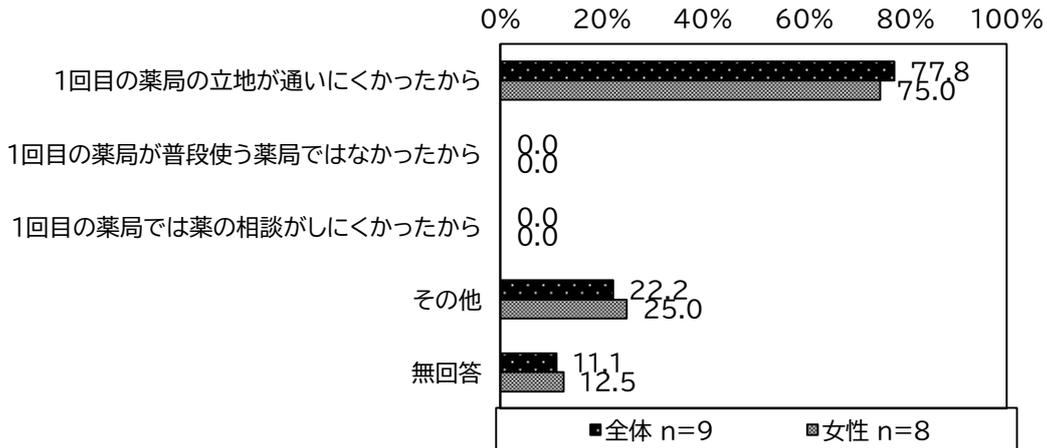
図表 5-42 リフィル処方箋の2回目以降の調剤で、薬局を変えたか
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
（年代別）



① 薬局を変更した理由（1回目から薬局を変更した患者のみ）

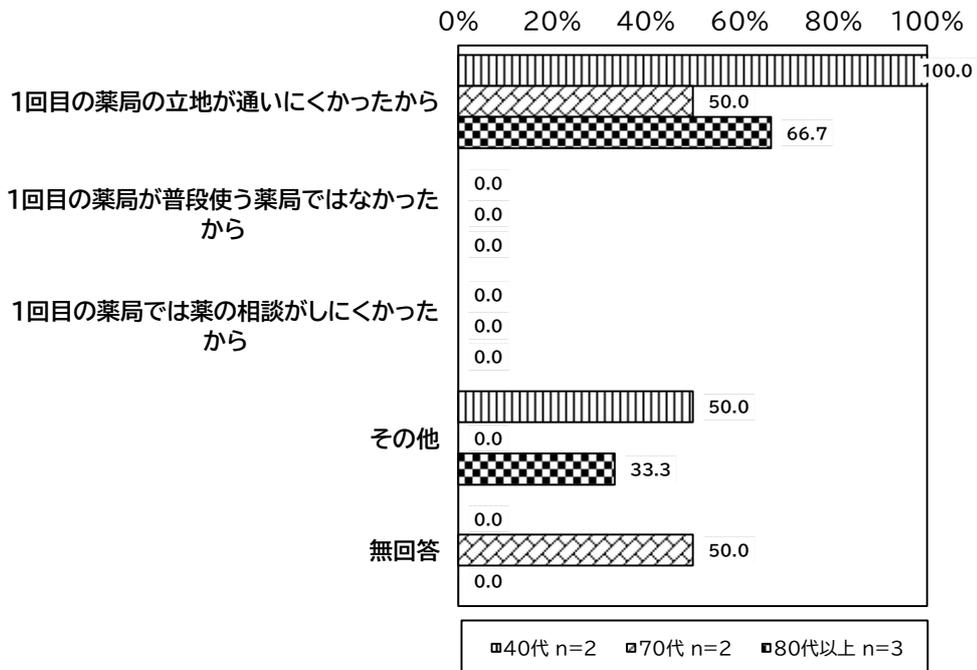
薬局を変更した理由については、「1回目の薬局の立地が通いにくかったから」が最も多く77.8%、次いで「その他」が多く22.2%であった。

図表 5-43 薬局を変更した理由（複数回答）
（1回目から薬局を変更した患者のみ）（性別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】
・ネット予約ができる薬局であったから など

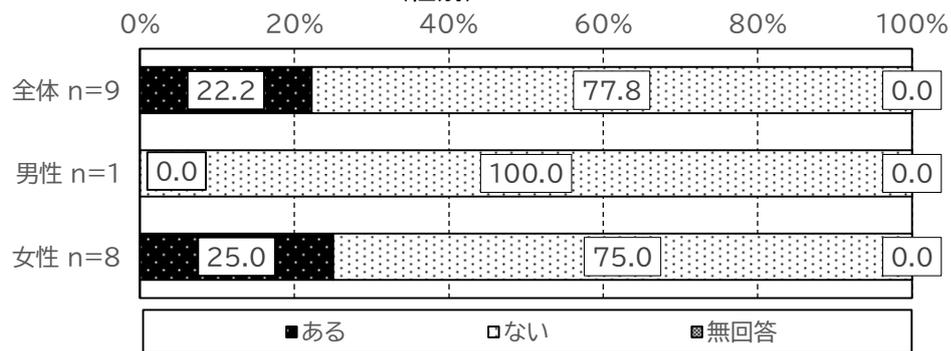
図表 5-44 薬局を変更した理由（複数回答）
（1回目から薬局を変更した患者のみ）
（年代別）



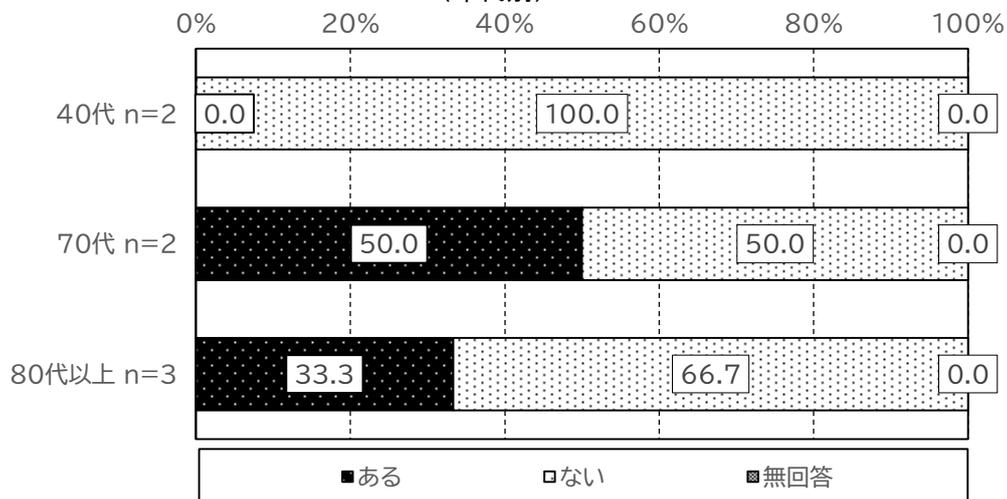
② 2回目以降のリフィル時に、薬剤師から受診が必要と言われた経験（1回目から薬局を変更した患者のみ）

2回目以降のリフィル時に薬剤師から受診が必要と言われた経験については、「ある」が22.2%、「ない」が77.8%であった。

図表 5-45 2回目以降のリフィル時に、薬剤師から受診が必要と言われた経験（1回目から薬局を変更した患者のみ）
（性別）



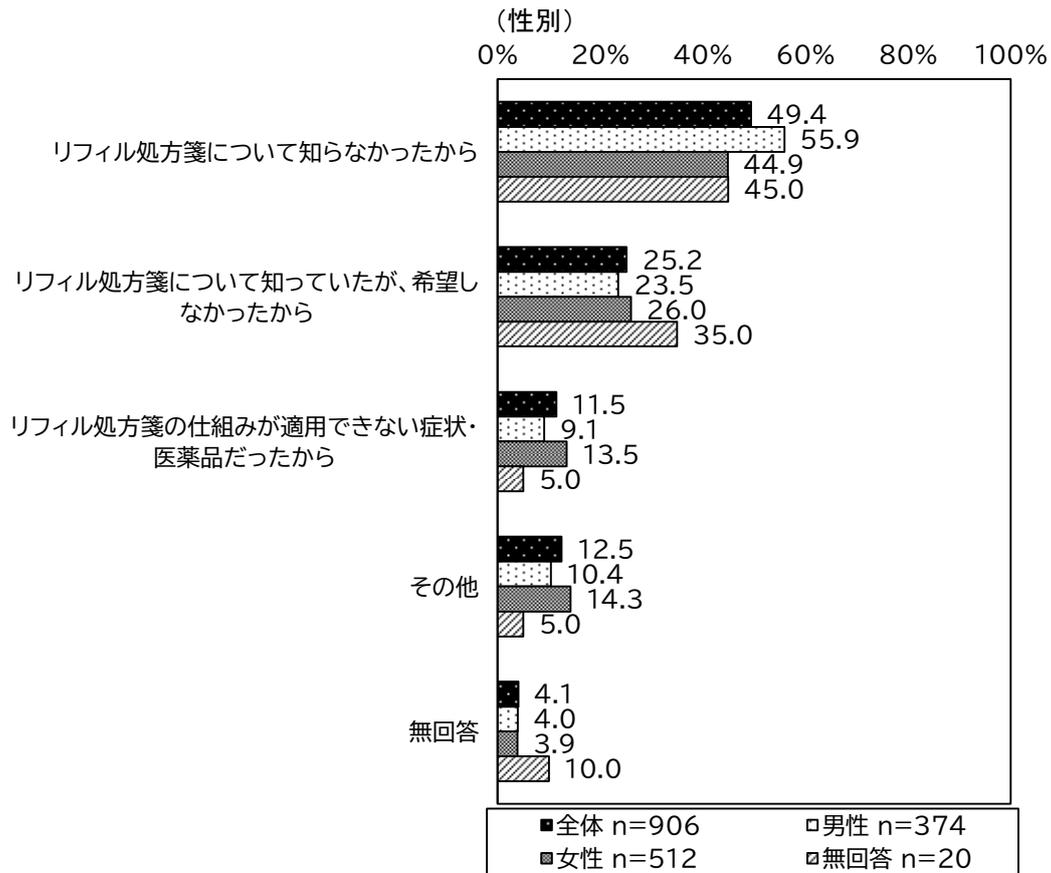
図表 5-46 2回目以降のリフィル時に、薬剤師から受診が必要と言われた経験（1回目から薬局を変更した患者のみ）
（年代別）



(8) リフィル処方箋が交付されていない理由（リフィル処方箋を交付されたことがない患者のみ）

リフィル処方箋が交付されていない理由については、「リフィル処方箋について知らなかったから」が最も多く49.4%、次いで「リフィル処方箋について知っていたが、希望しなかったから」が多く25.2%であった。

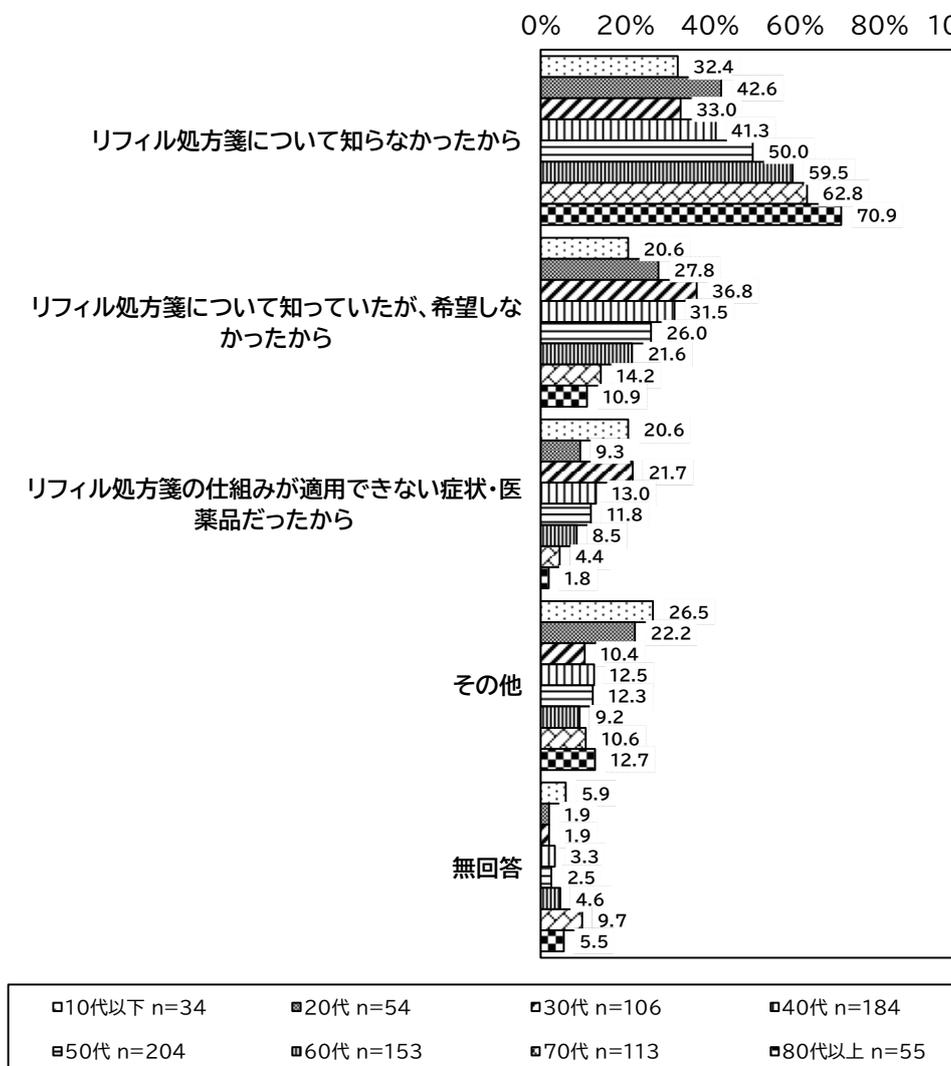
図表 5-47 リフィル処方箋が交付されていない理由（複数回答）
（リフィル処方箋を交付されたことがない患者のみ）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・医師がリフィル処方箋はしないという意向だから
- ・医療機関のシステムが対応していないらしいから
- ・定期的に医師と話しがしたいから
- ・院内処方の医療機関だから
- ・自分が処方箋を紛失しそうだから
- ・定期的に処方を受けておらず、リフィル処方の必要が無い
- ・わからない など

図表 5-48 リフィル処方箋が交付されていない理由（複数回答）
 （リフィル処方箋を交付されたことがない患者のみ）
 （年代別）



5) これからのリフィル処方箋の利用意向

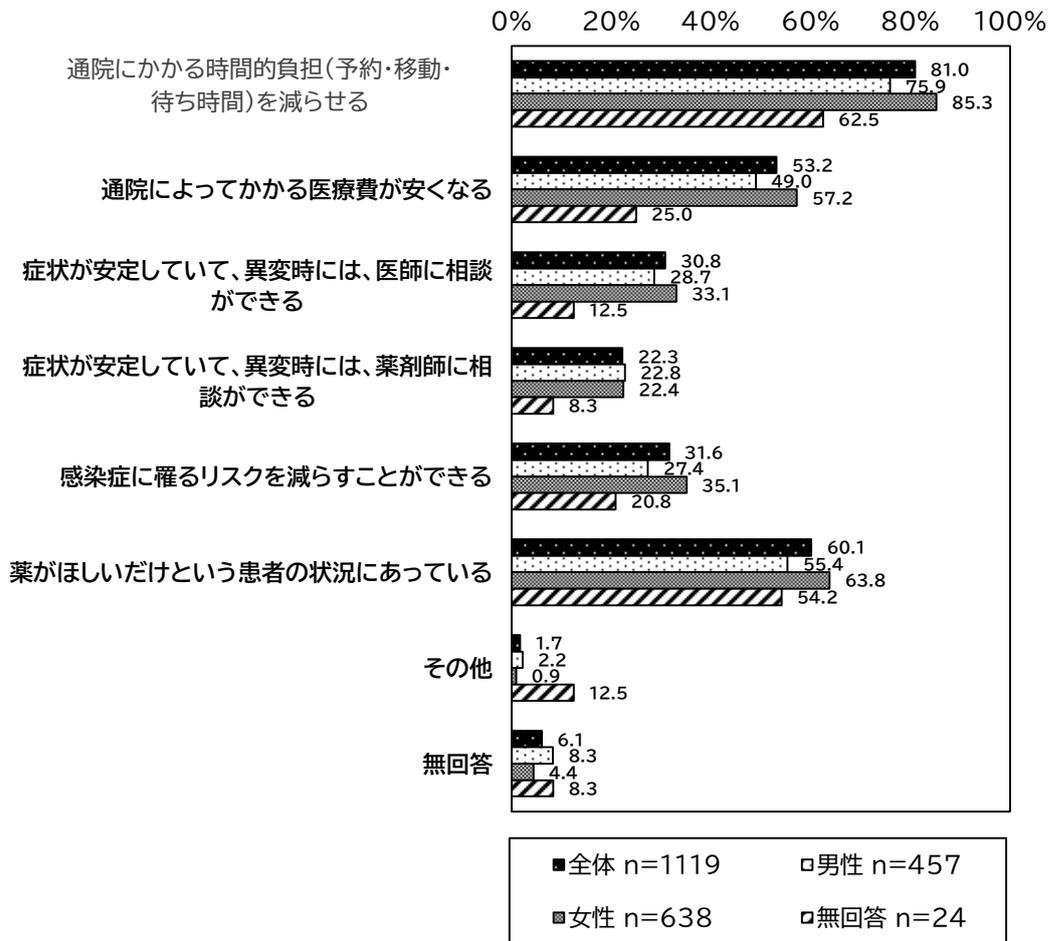
(1) リフィル処方箋のメリット・デメリットと、それらを踏まえた今後の利用意向

① リフィル処方箋を使用することについて、メリットになると感じるもの

リフィル処方箋を使用するメリットについては、複数回答では「通院にかかる時間的負担（予約・移動・待ち時間）を減らせる」が最も多く81.0%、次いで「薬がほしいだけという患者の状況にあっている」が多く60.1%であった。

最もメリットを感じるものを一つ回答では、「通院にかかる時間的負担（予約・移動・待ち時間）を減らせる」が最も多く51.0%、次いで「薬がほしいだけという患者の状況にあっている」が多く15.9%であった。

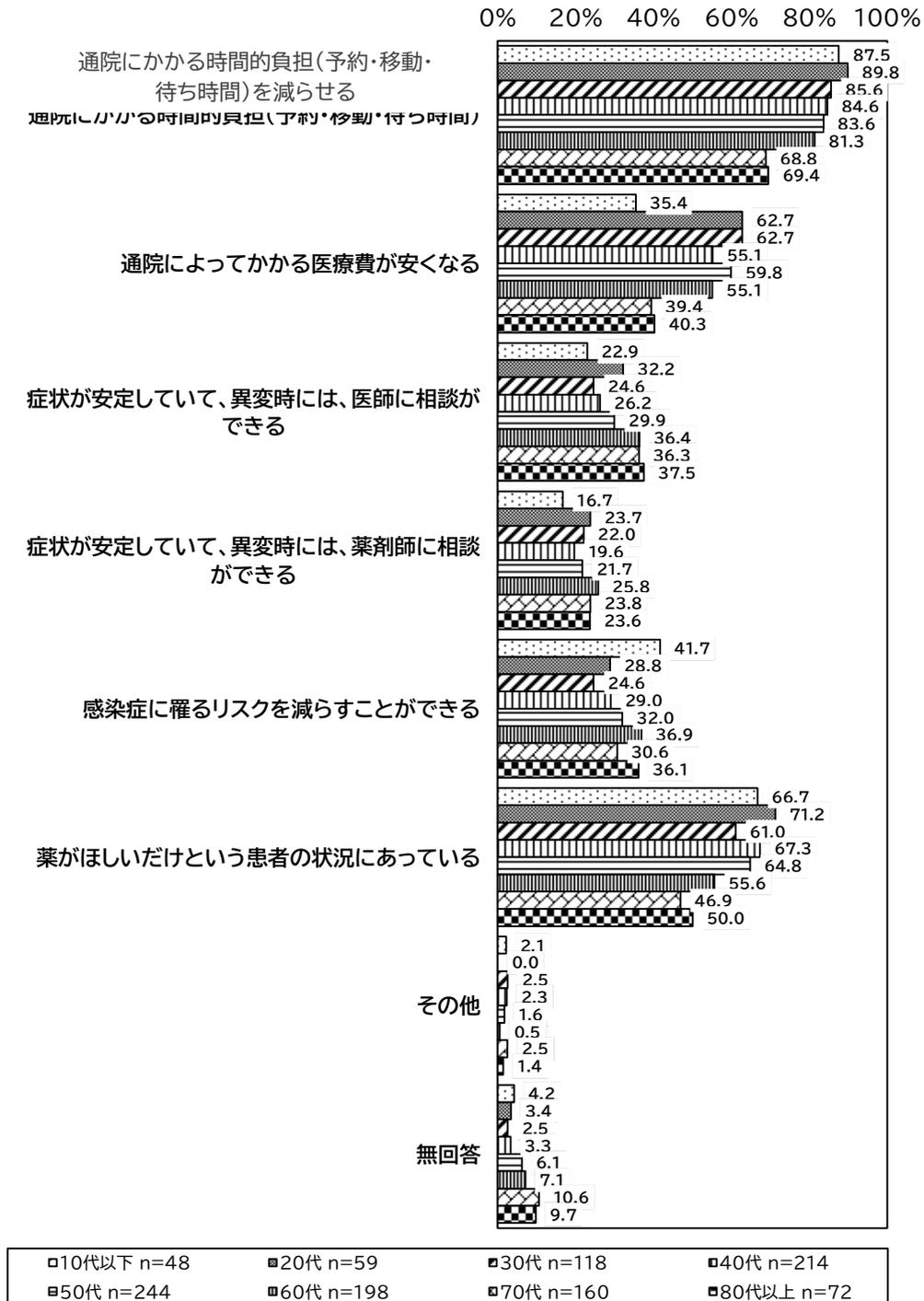
図表 5-49 リフィル処方箋を使用することについて、メリットになると感じるもの（複数回答）（性別）



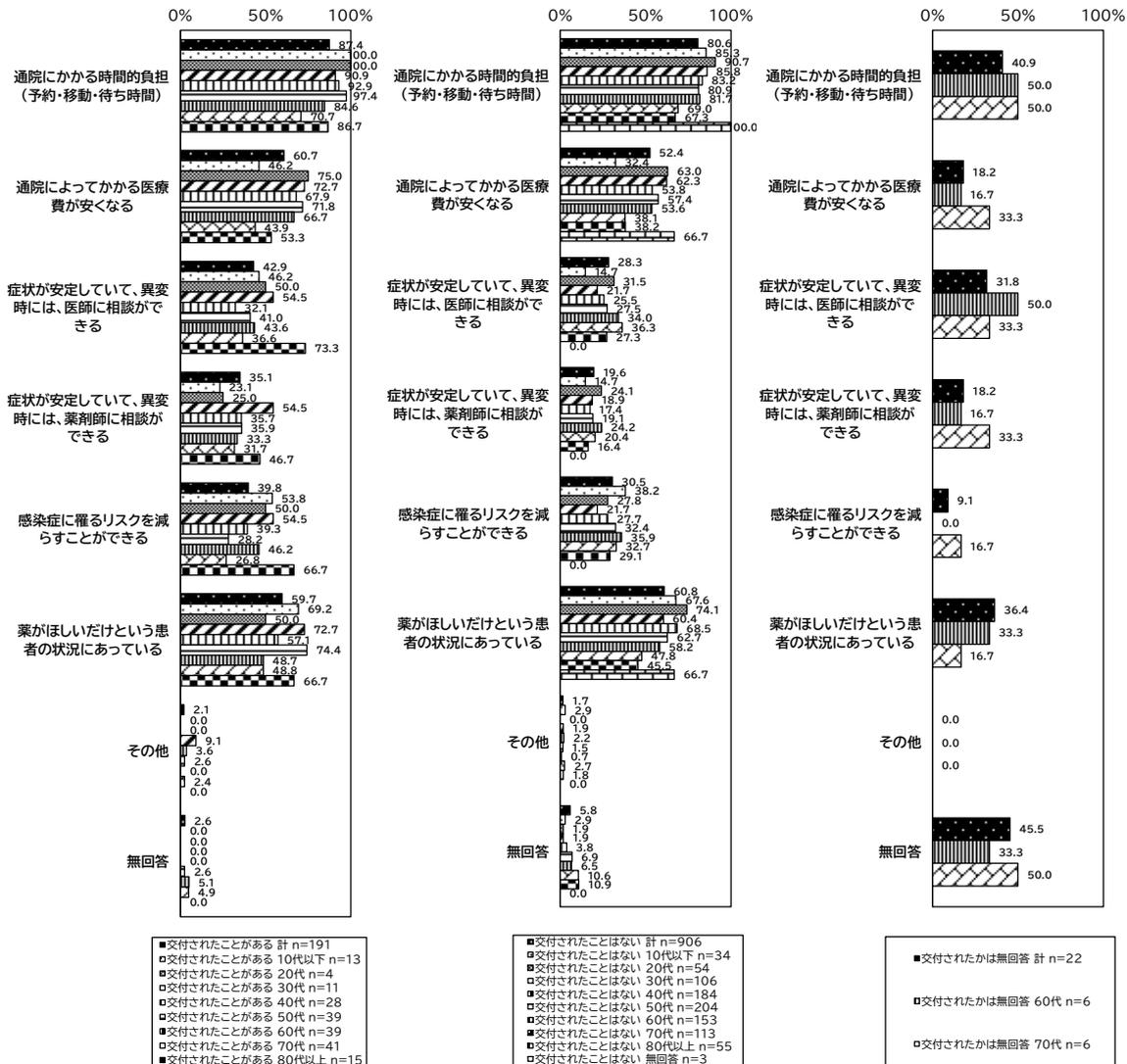
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・メリットがよくわからない
- ・とくにメリットを感じない
- ・医師や薬剤師の負担が減る
- など

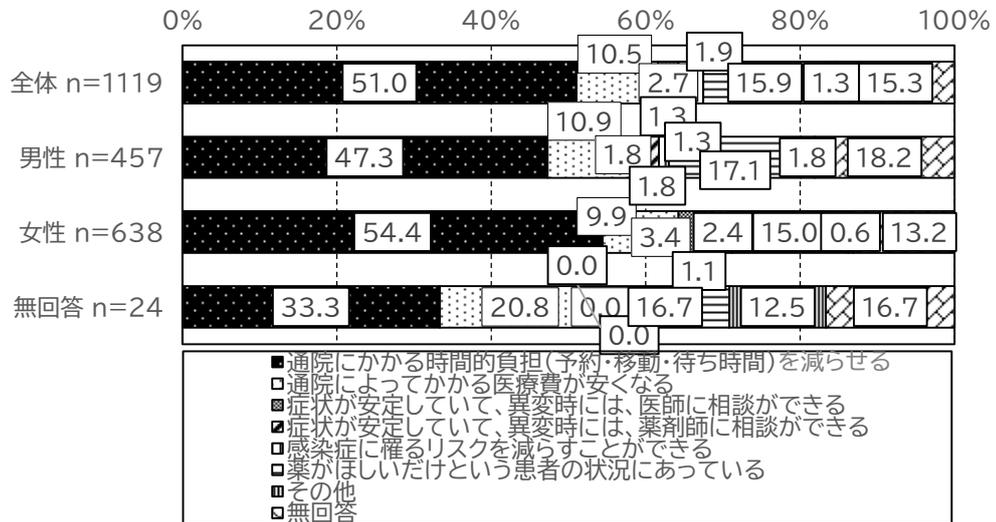
図表 5-50 リフィル処方箋を使用することについて、メリットになると感じるもの（複数回答）（年代別）



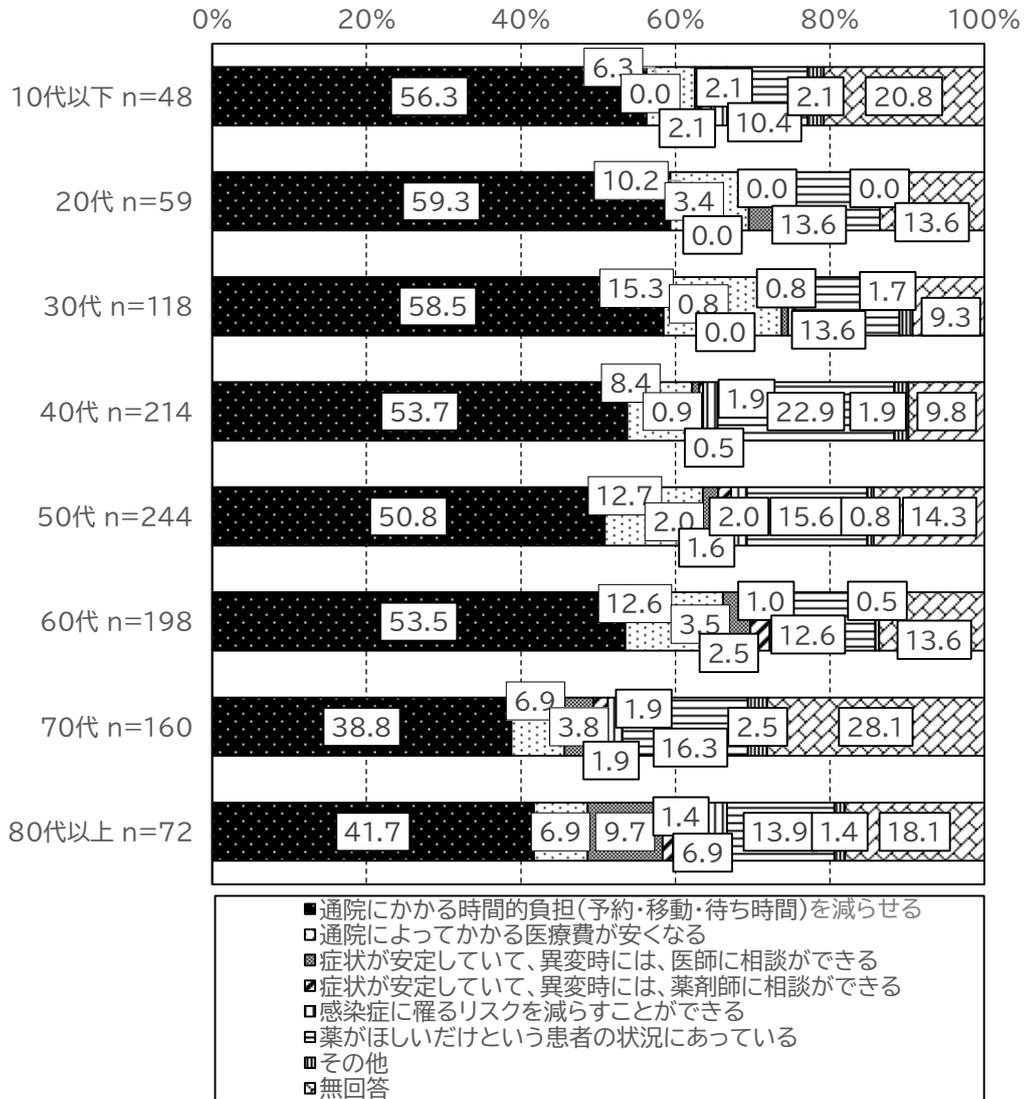
図表 5-51 リフィル処方箋を使用することについて、メリットになると感じるもの（複数回答）（リフィル処方箋を交付された経験別・年代別）



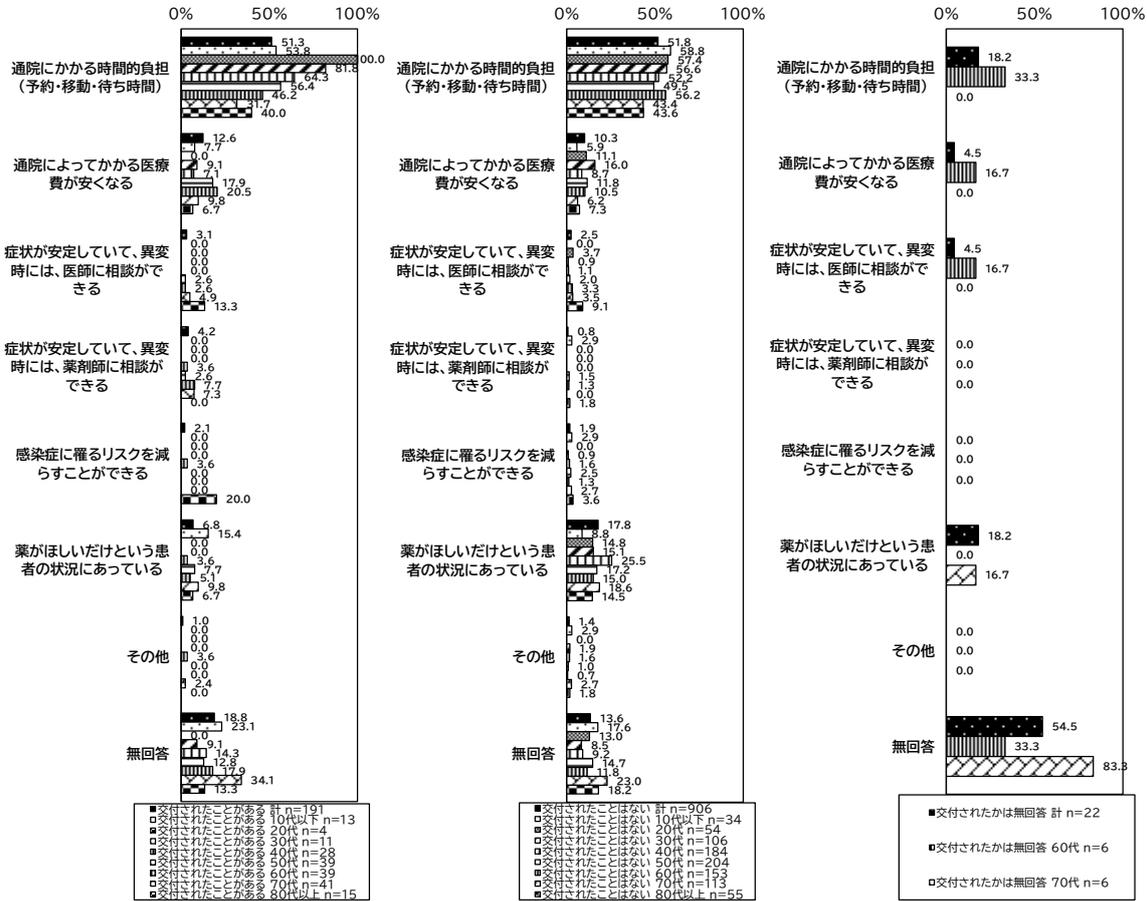
図表 5-52 リフィル処方箋を使用することについて、最もメリットになると感じるもの（性別）



図表 5-53 リフィル処方箋を使用することについて、最もメリットになると感じるもの（年代別）



図表 5-54 リフィル処方箋を使用することについて、最もメリットになると感じるもの（リフィル処方箋を交付された経験別・年代別）

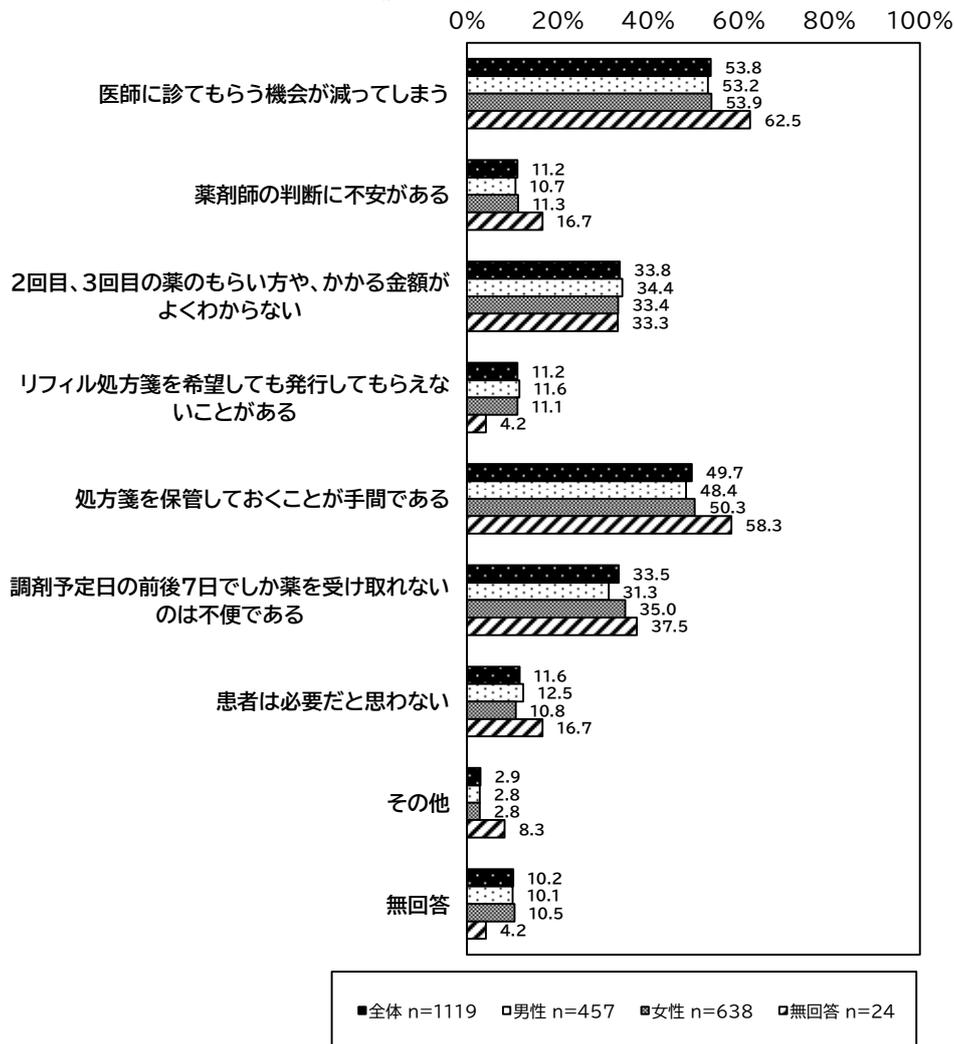


② リフィル処方箋を使用することについて、デメリットになると感じるもの

リフィル処方箋を利用することについてデメリットになると感じるものについては、複数回答では「医師に診てもらえる機会が減ってしまう」が最も多く 53.8%、次いで「処方箋を保管しておくことが手間である」が多く 49.7%であった。

最もデメリットと感じるものを一つ選択では、「医師に診てもらえる機会が減ってしまう」が最も多く 34.1%、次いで「処方箋を保管しておくことが手間である」が多く 19.5%であった。

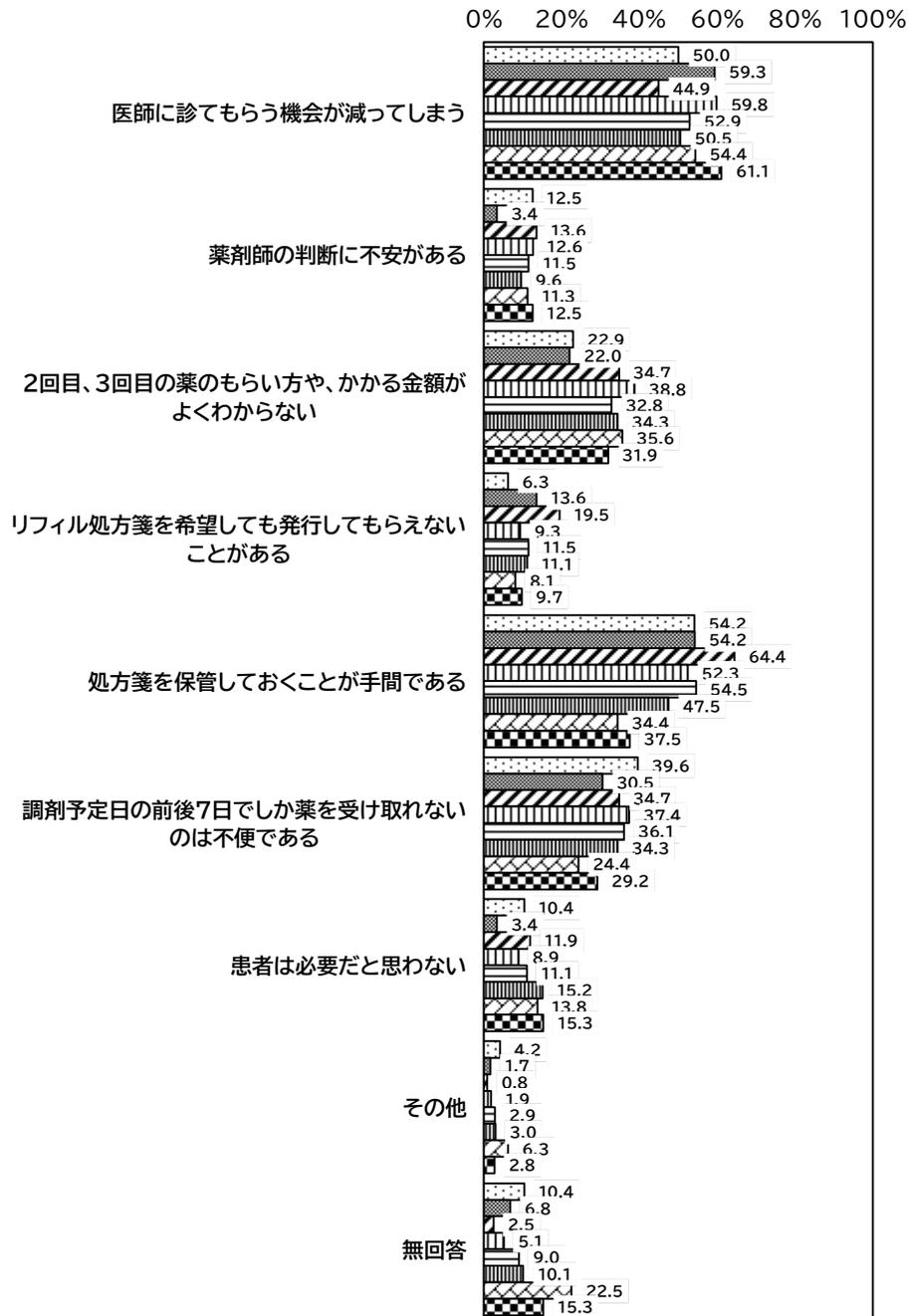
図表 5-55 リフィル処方箋を使用することについて、デメリットになると感じるもの
（複数回答）（性別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

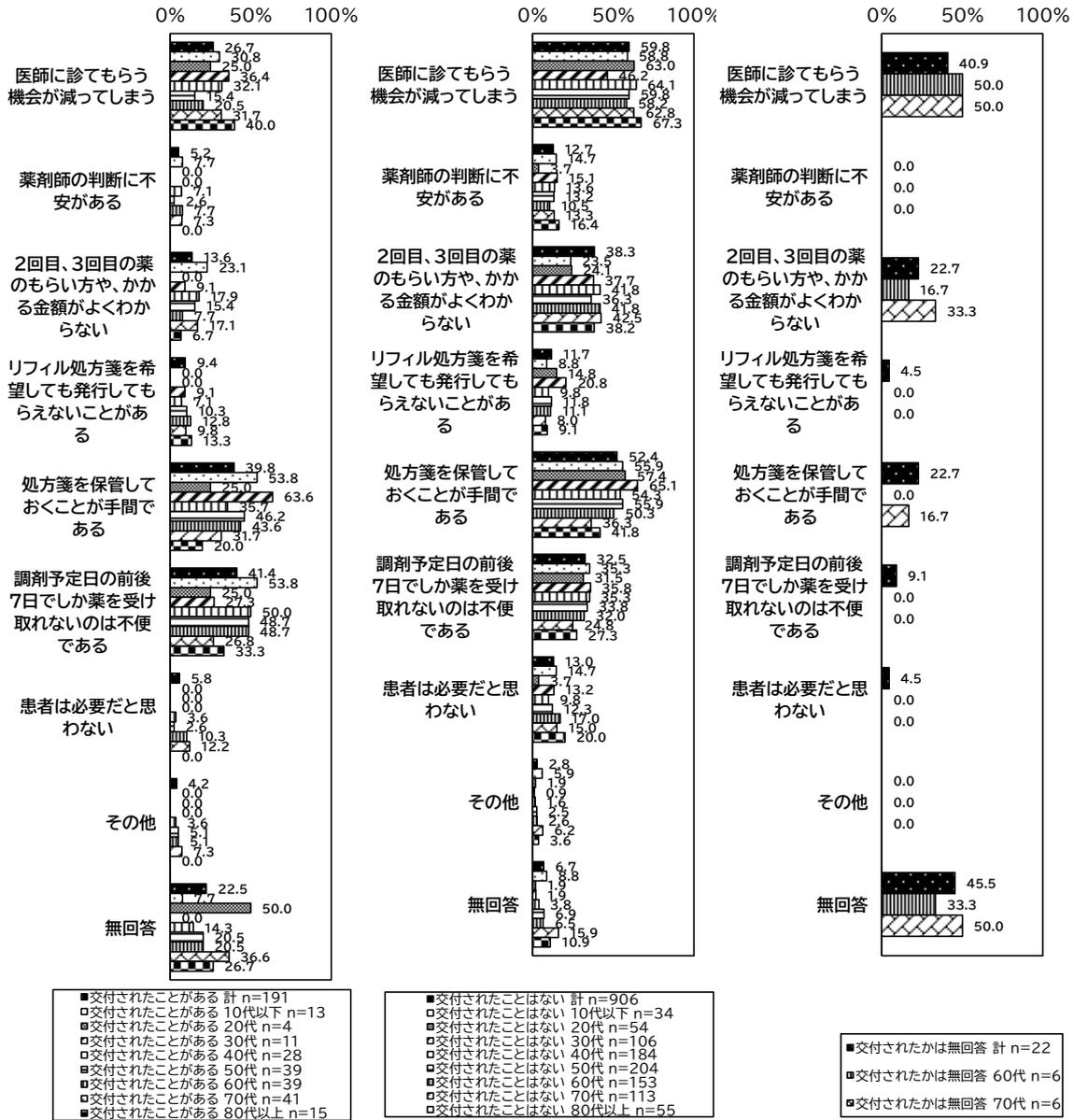
- ・医師に診てもらえる際に再度予約するのが面倒
- ・薬をもらいに行くのを忘れる
- ・これまで90日で1回でよかったのに、来局が増えて面倒
- ・デメリットがよくわからない
- ・とくにデメリットはない
- ・認知症が進んでしまったときが不安 など

図表 5-56 リフィル処方箋を使用することについて、デメリットになると感じるもの（複数回答）（年代別）

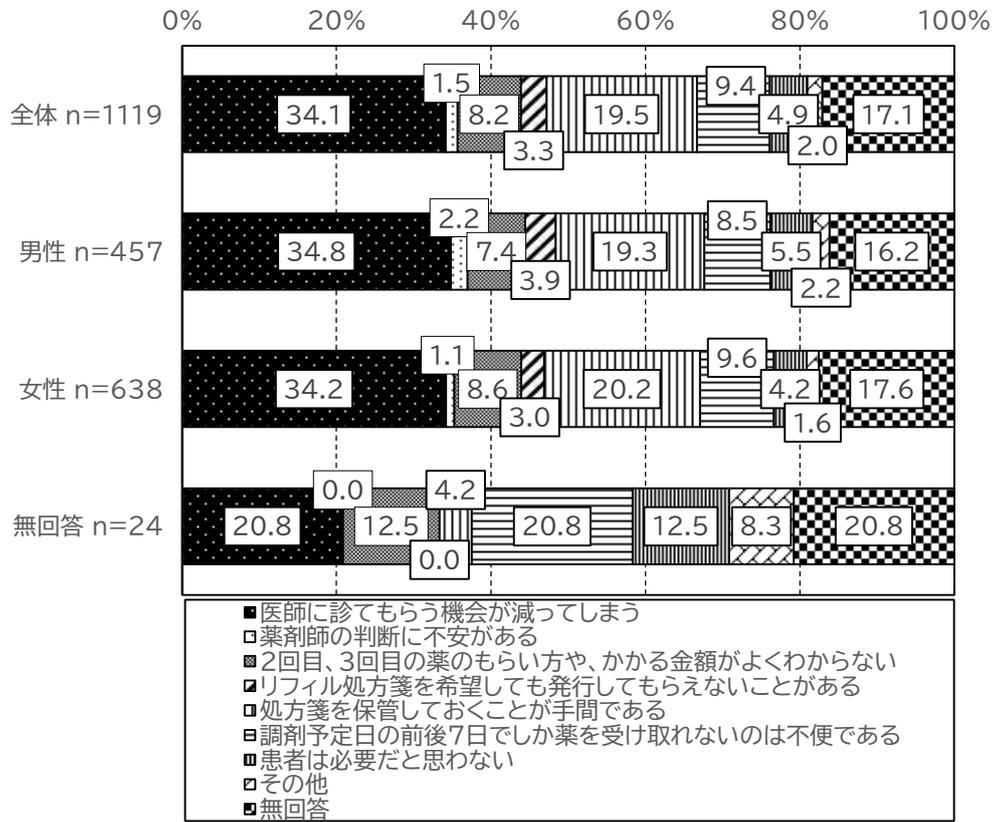


□10代以下 n=48	■20代 n=59	□30代 n=118	□40代 n=214
□50代 n=244	■60代 n=198	□70代 n=160	□80代以上 n=72

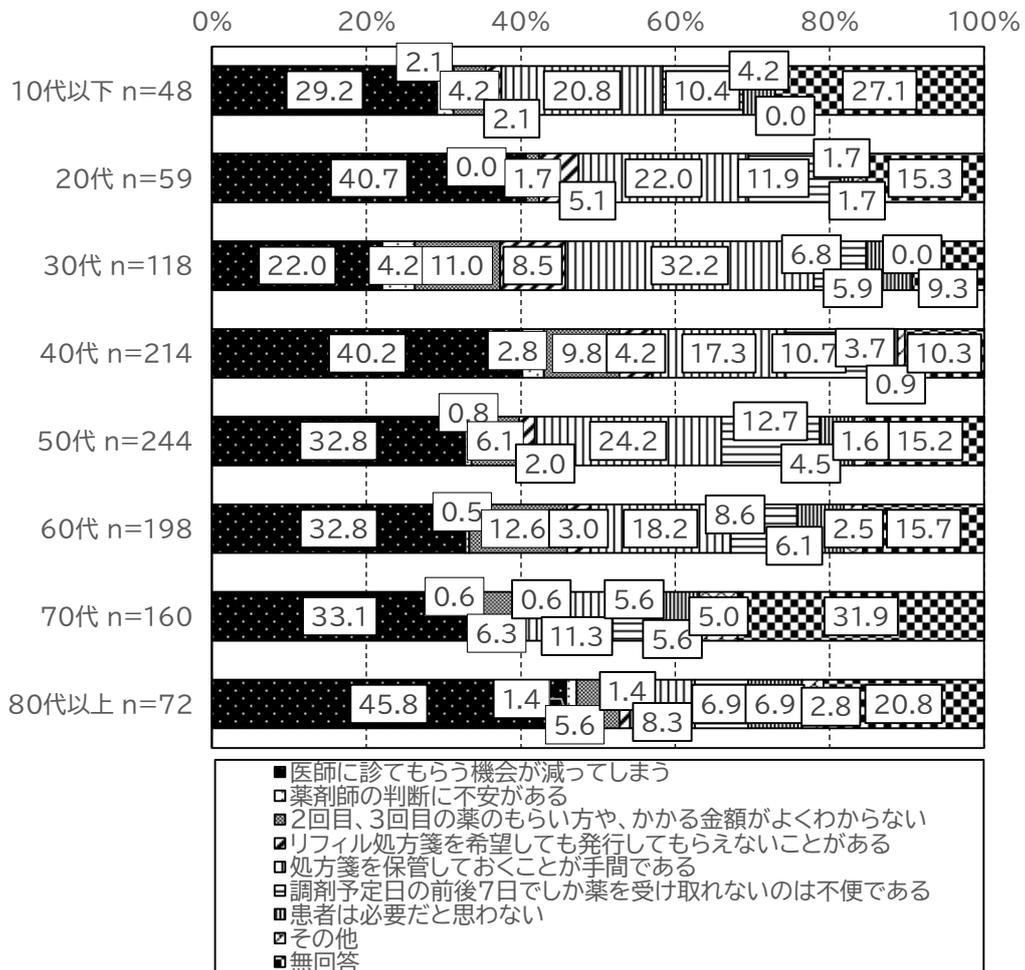
図表 5-57 リフィル処方箋を使用することについて、デメリットになると感じるもの（複数回答）（リフィル処方箋を交付された経験別・年代別）



図表 5-58 リフィル処方箋を使用することについて、最もデメリットになると感じるもの（性別）



図表 5-59 リフィル処方箋を使用することについて、最もデメリットになると感じるもの（年代別）



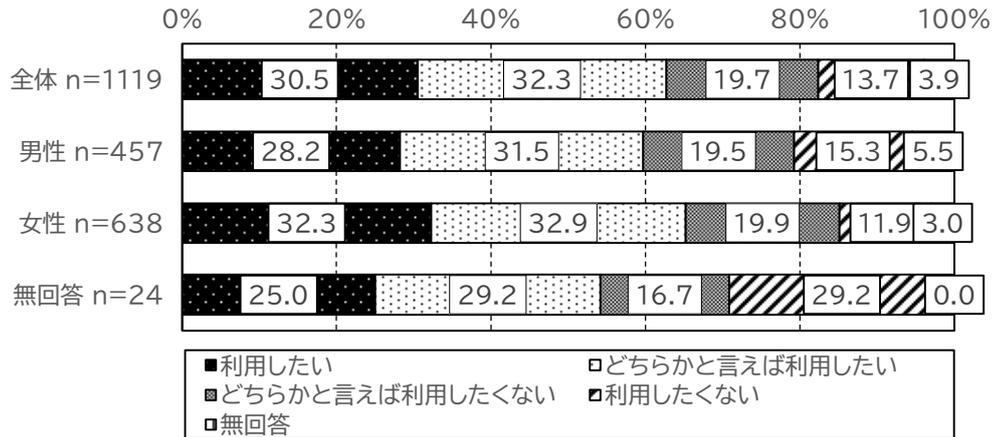
図表 5-60 リフィル処方箋を使用することについて、最もデメリットになると感じるもの（リフィル処方箋を交付された経験別・年代別）



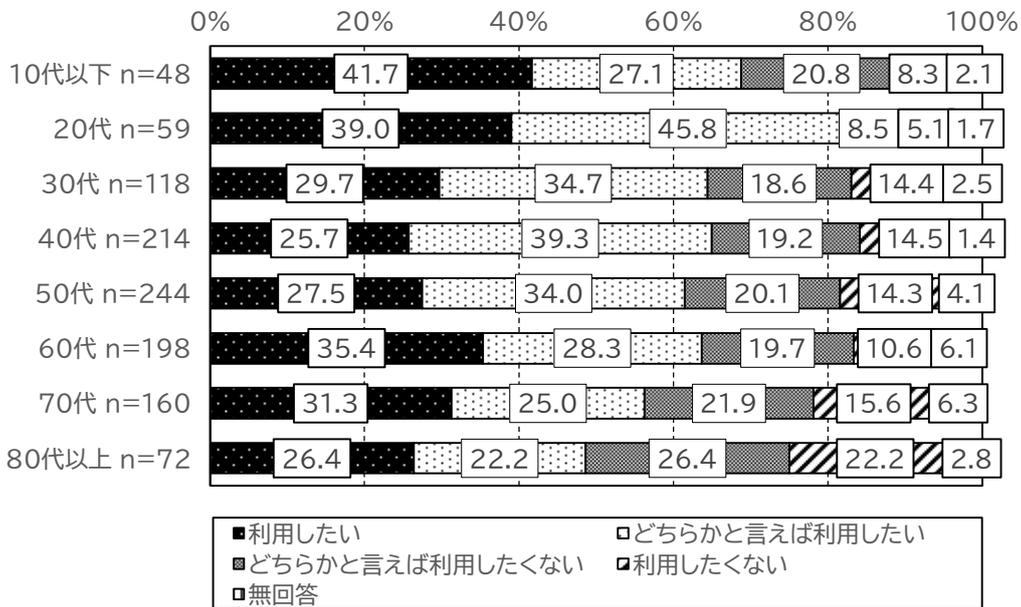
③ 今後、病状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいか

今後、症状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいかについては、「利用したい」が30.5%、「どちらかと言えば利用したい」が32.3%、「どちらかと言えば利用したくない」が19.7%、「利用したくない」が13.7%であった。

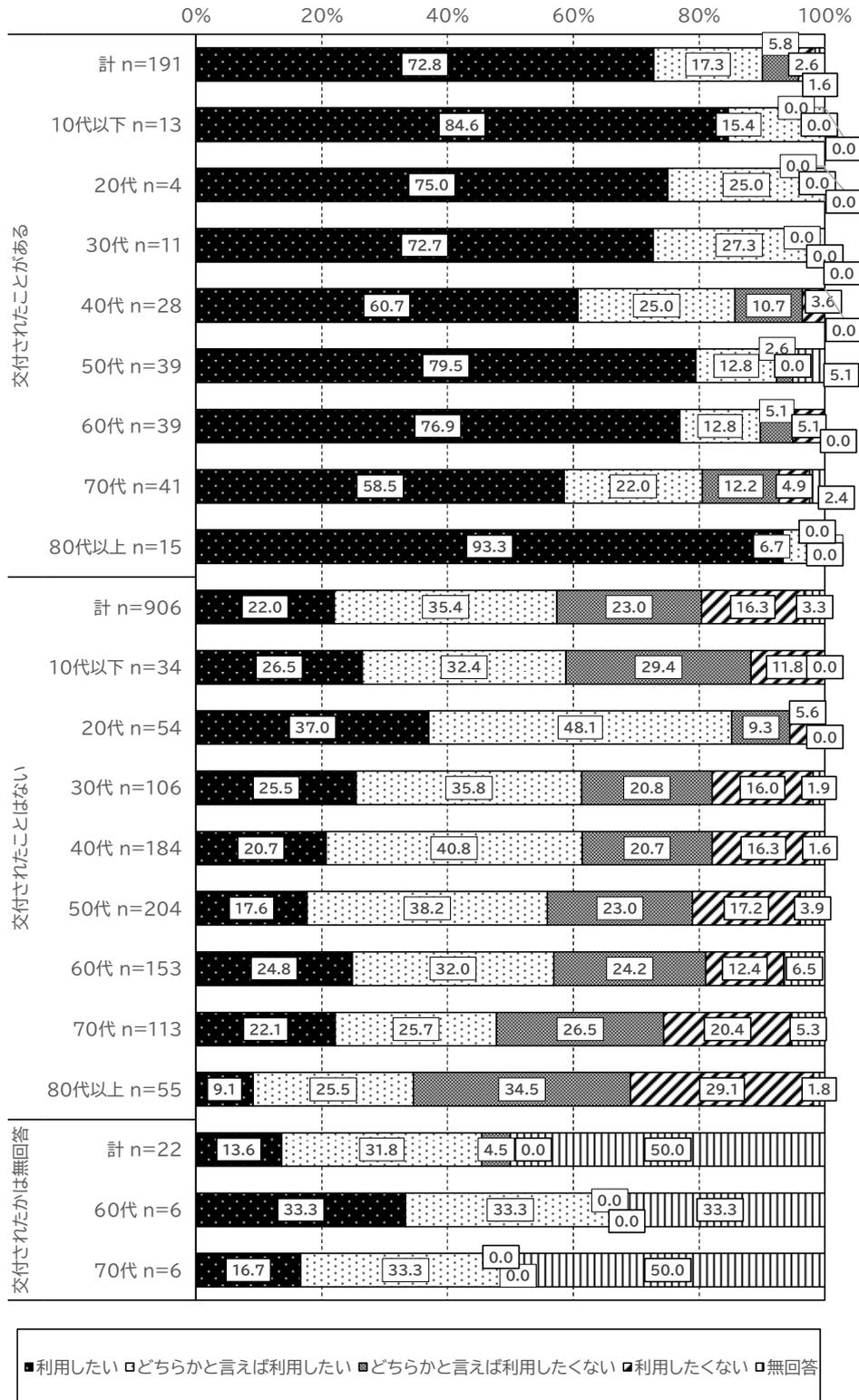
図表 5-61 今後、病状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいと思うか
(性別)



図表 5-62 今後、病状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいと思うか
(年代別)



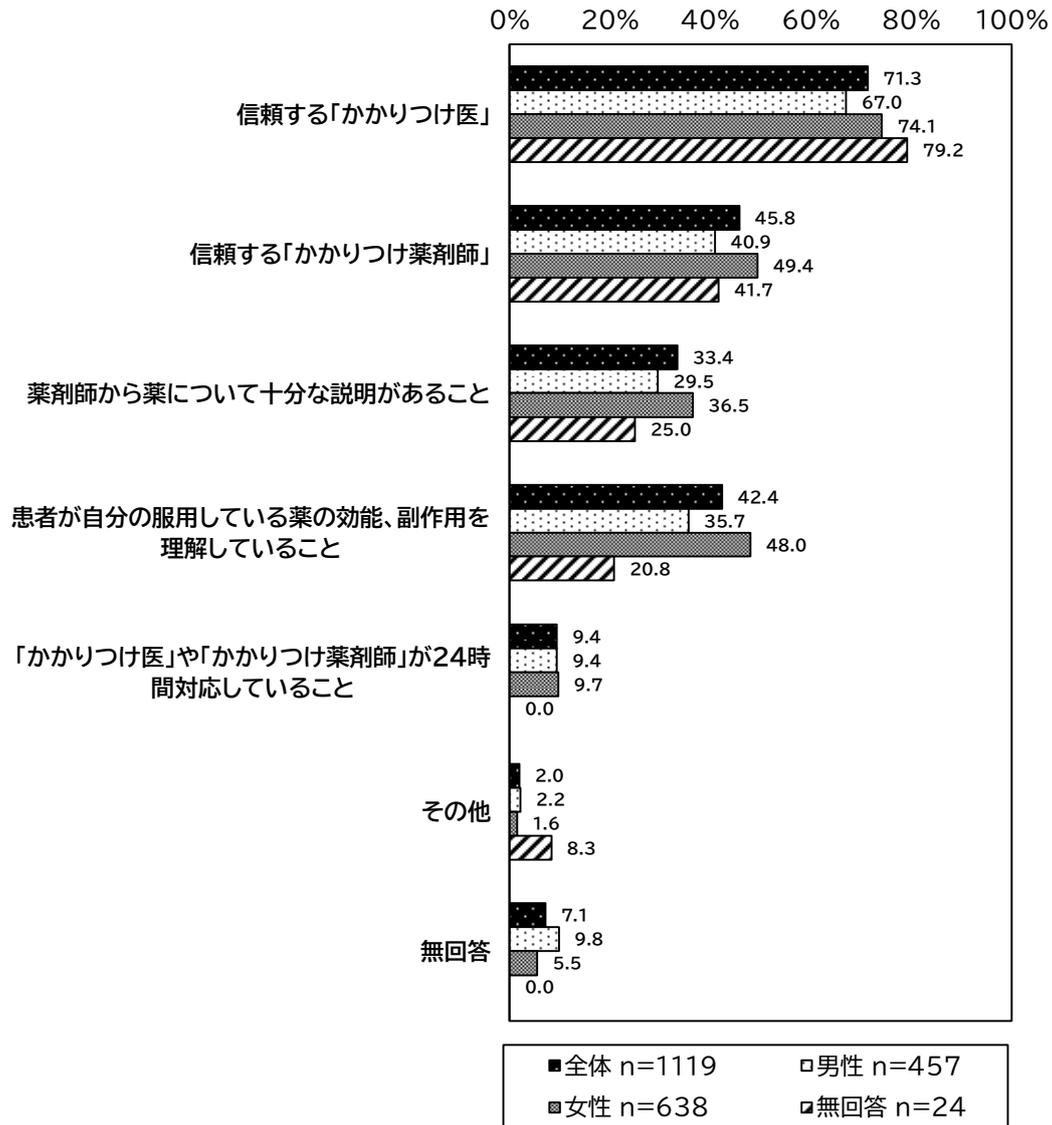
図表 5-63 今後、病状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいと思うか
（リフィル処方箋を交付された経験別・年代別）



(2) リフィル処方を利用するにあたり必要だと感じること

リフィル処方箋を利用するにあたり必要だと感じることについては、「信頼する「かかりつけ医」がいること」が最も多く71.3%、次いで「信頼する「かかりつけ薬剤師」がいること」が多く45.8%であった。

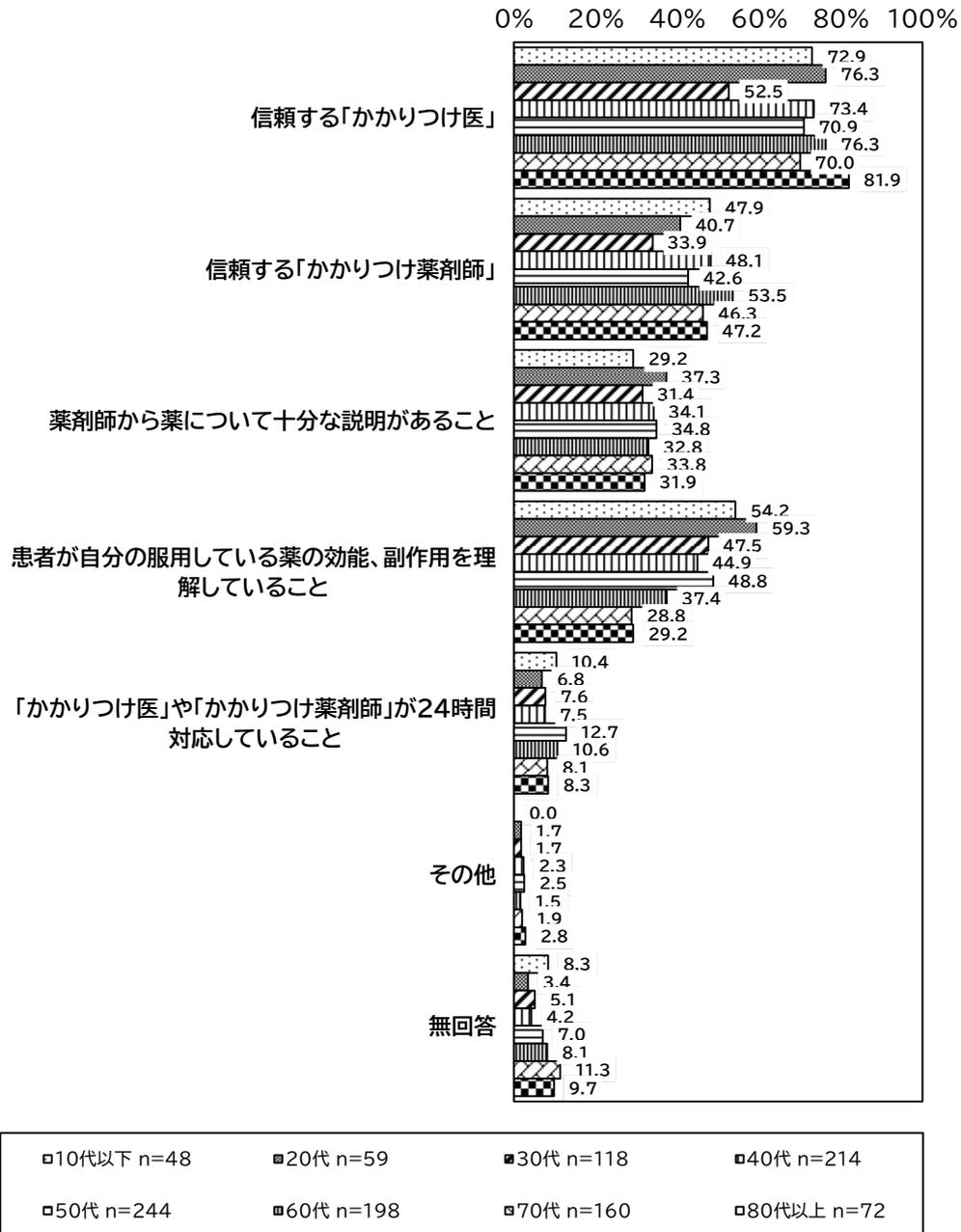
図表 5-64 リフィル処方を利用するにあたり必要だと感じることは何か（複数回答）
（性別）



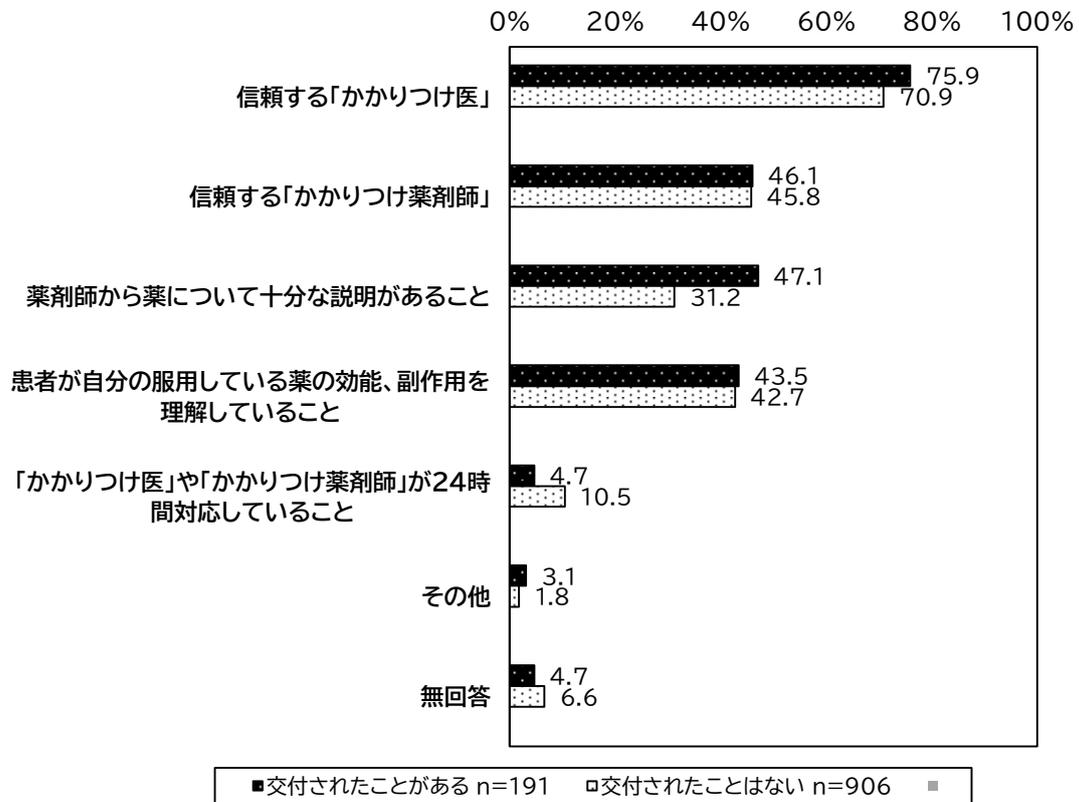
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・残っている薬に合わせて処方を変えてもらうこと
- ・もっと説明をわかりやすくしてほしい
- ・お薬手帳、アプリがもっとしっかりしていること
- ・不安なときにすぐ対応してもらえること
- ・24時間対応のチャット窓口などがあること など

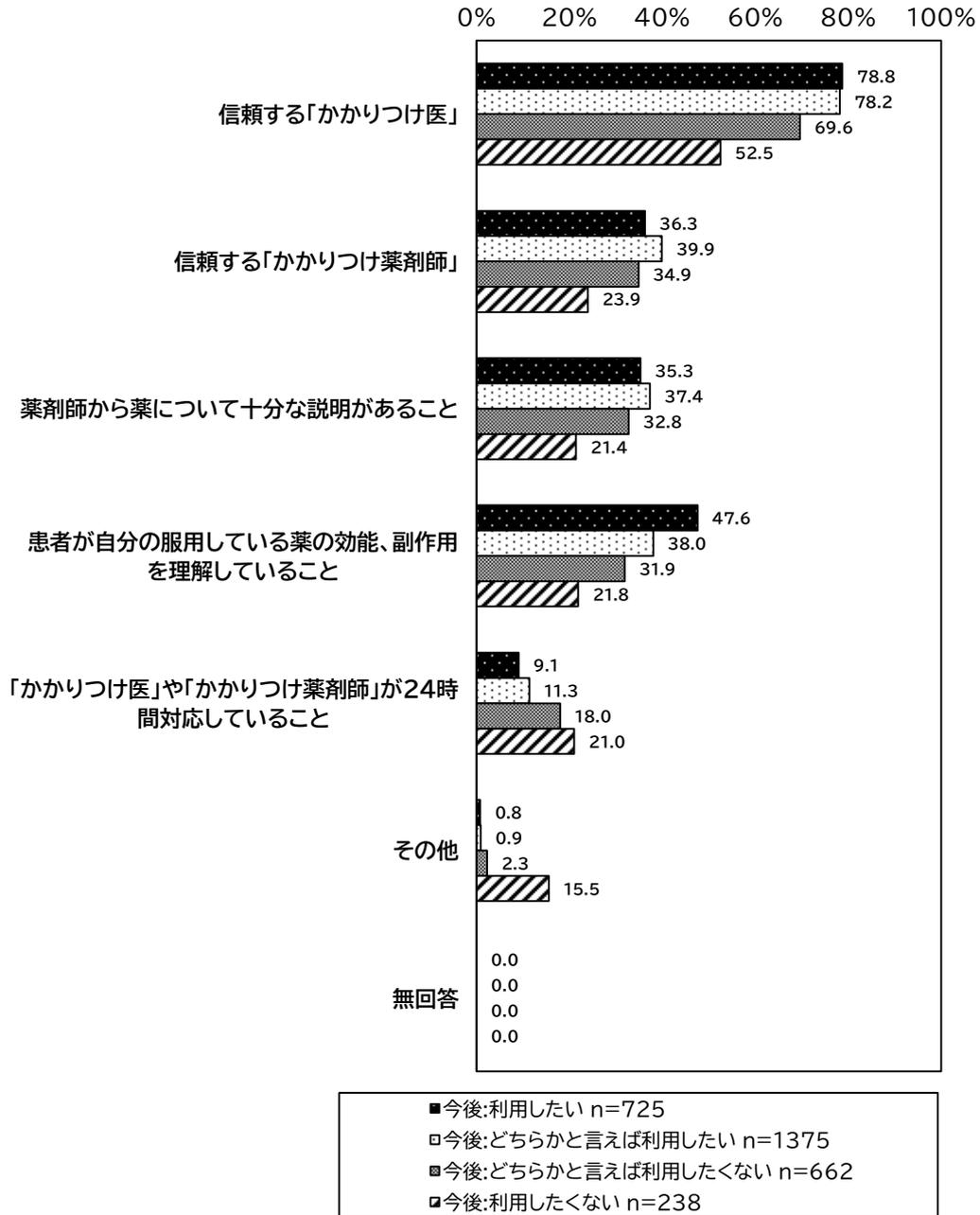
図表 5-65 リフィル処方を利用するにあたり必要だと感じることは何か（複数回答）
（年代別）



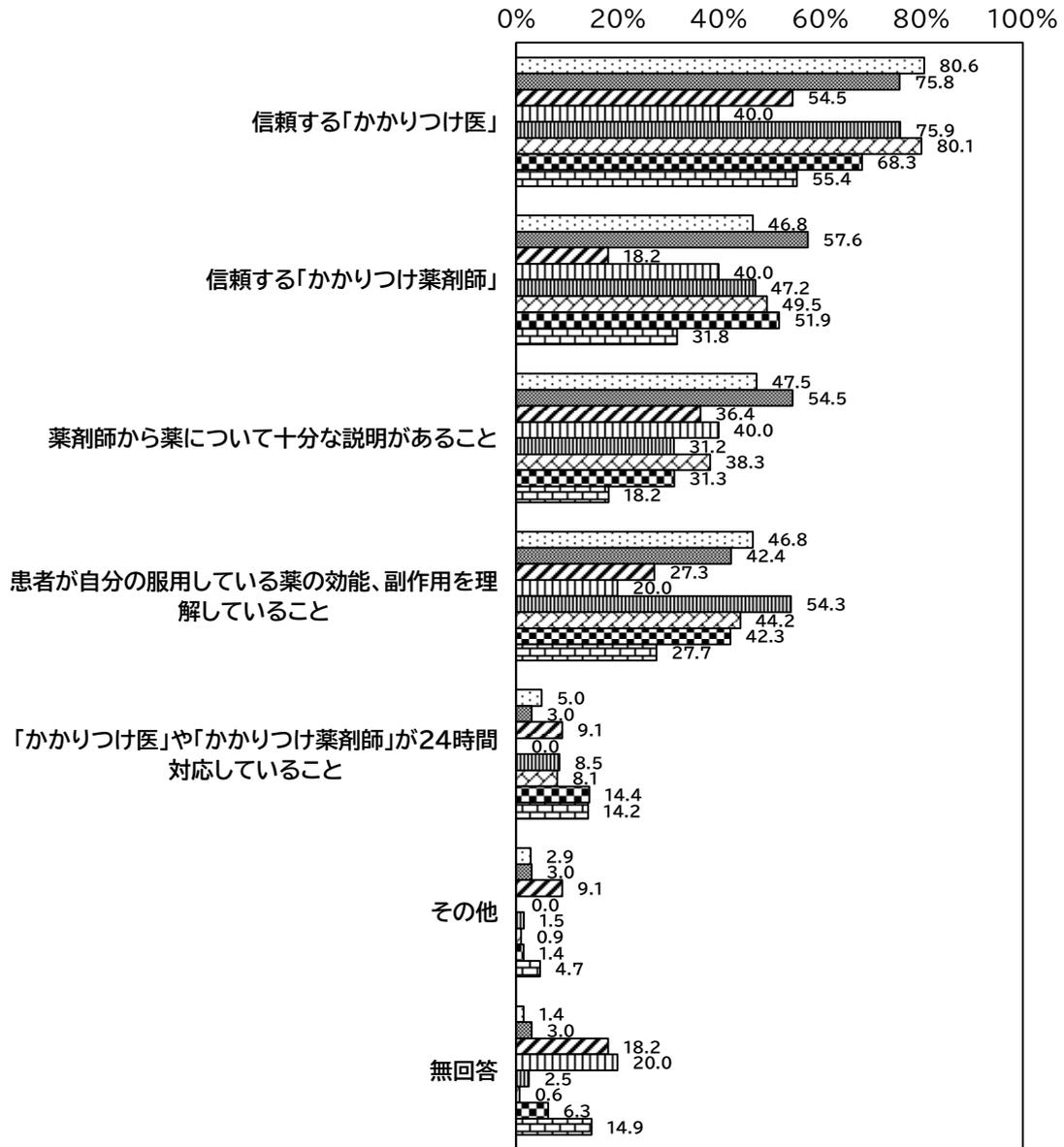
図表 5-66 リフィル処方を利用するにあたり必要だと感じることは何か（複数回答）
（リフィル処方箋を交付された経験別）



図表 5-67 リフィル処方を利用するにあたり必要だと感じることは何か（複数回答）
（今後、症状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいか別）



図表 5-68 リフィル処方を利用するにあたり必要だと感じることは何か（複数回答）
 （リフィル処方箋を交付された経験・今後、症状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいか別）



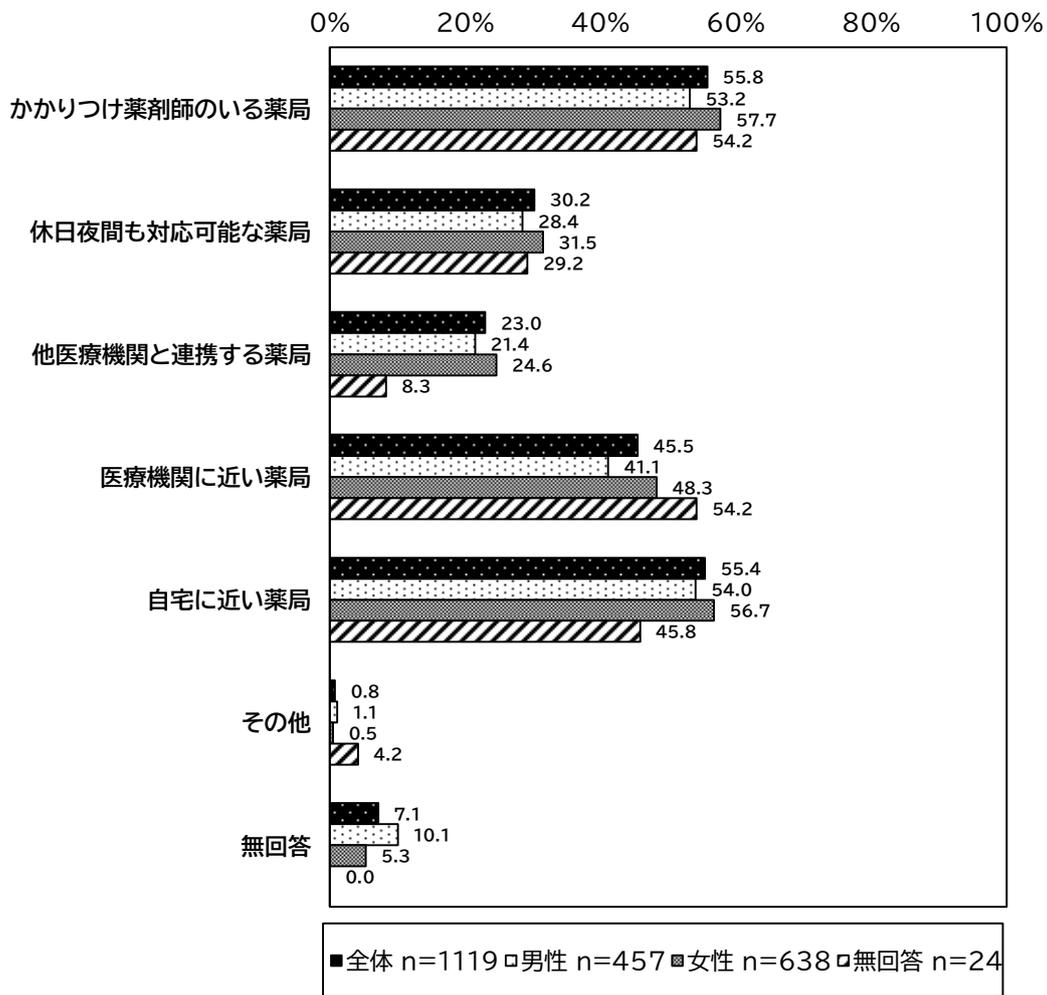
交付されたことがある 今後:利用したい n=139
 交付されたことがある 今後:どちらかと言えば利用したい n=33
 交付されたことがある 今後:どちらかと言えば利用したくない n=11
 交付されたことがある 今後:利用したくない n=5
 交付されたことはない 今後:利用したい n=199
 交付されたことはない 今後:どちらかと言えば利用したい n=321
 交付されたことはない 今後:どちらかと言えば利用したくない n=208
 交付されたことはない 今後:利用したくない n=148

(3) リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか

リフィル処方箋はどのような薬局で調剤を受けたいかについては、1回目処方（複数回答）では、「かかりつけ薬剤師がいる薬局」が最も多く55.8%、1回目処方（最重要視するもの1つ選択）でも、「かかりつけ薬剤師がいる薬局」が最も多く30.8%であった。

一方で2回目以降処方（複数回答）では、「自宅に近い薬局」が最も多く56.9%、2回目以降処方（最重要視するもの1つ選択）でも、「自宅に近い薬局」が最も多く32.7%であった。

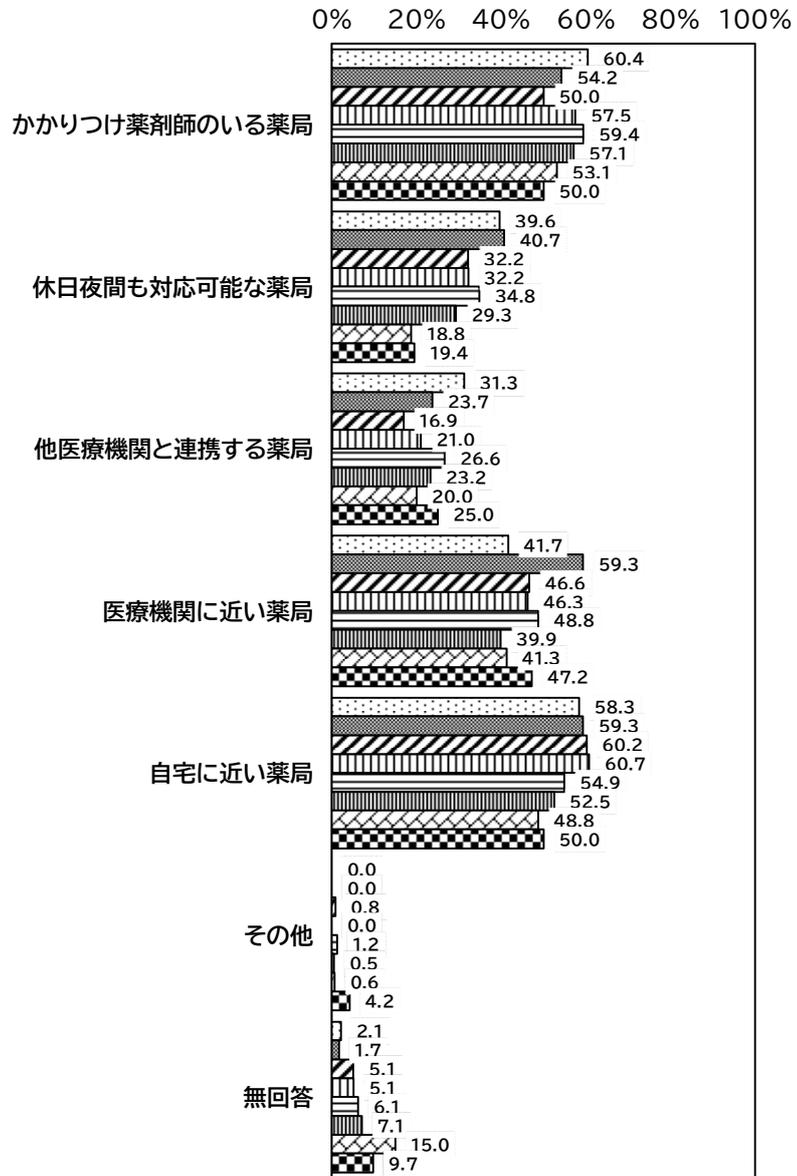
図表 5-69 1回目リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（複数回答）
（性別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

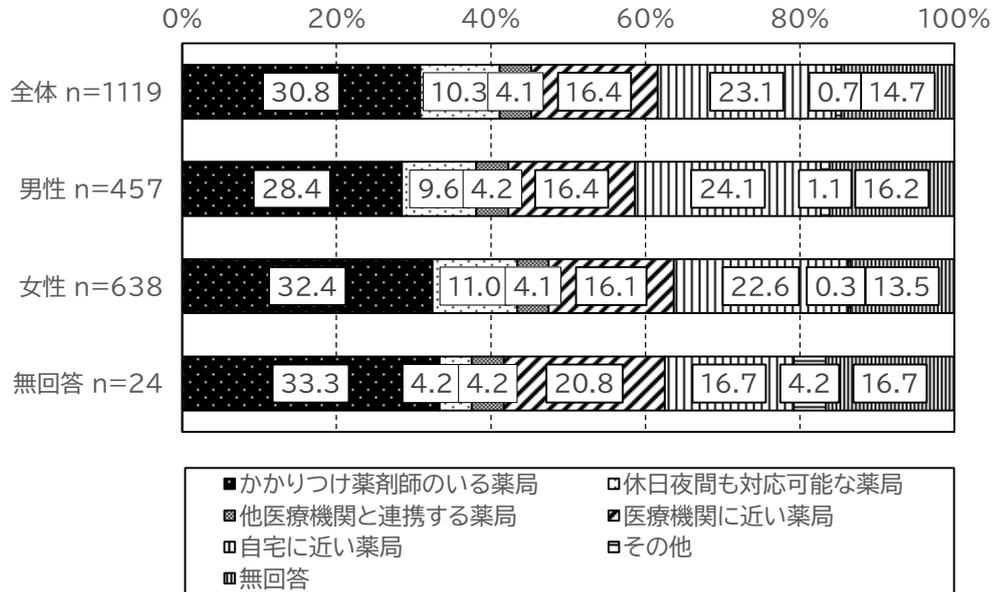
- ・自宅まで届けてくれる薬局
- ・職場に近い薬局
- ・どこでもよい など

図表 5-70 1回目リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（複数回答）
（年代別）

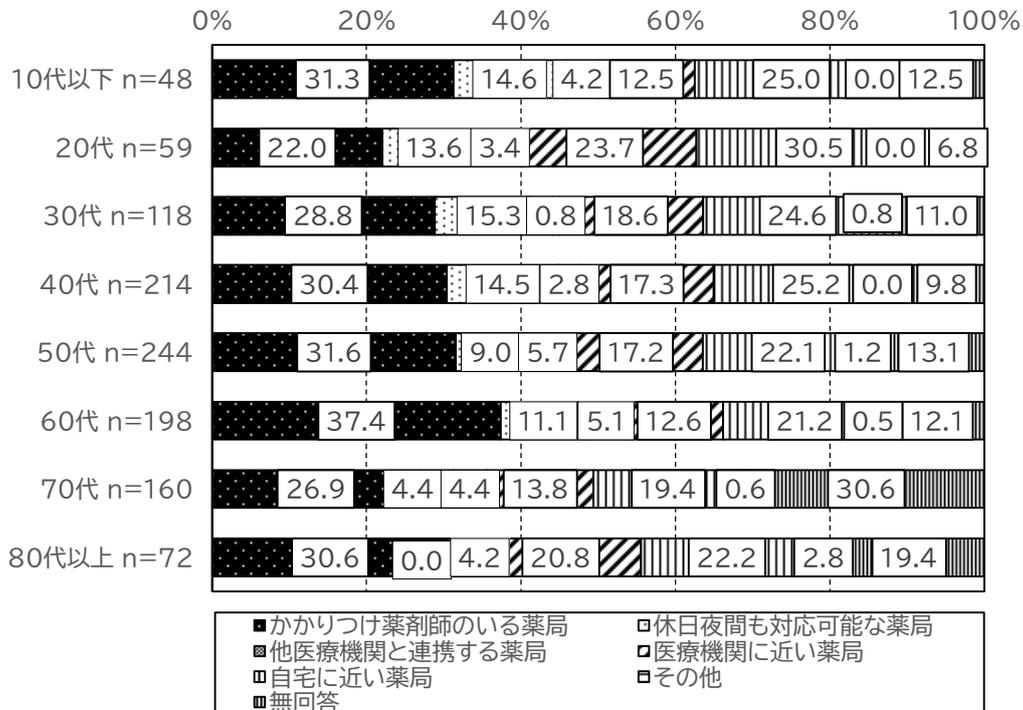


□10代以下 n=48	■20代 n=59	□30代 n=118	■40代 n=214
■50代 n=244	■60代 n=198	■70代 n=160	■80代以上 n=72

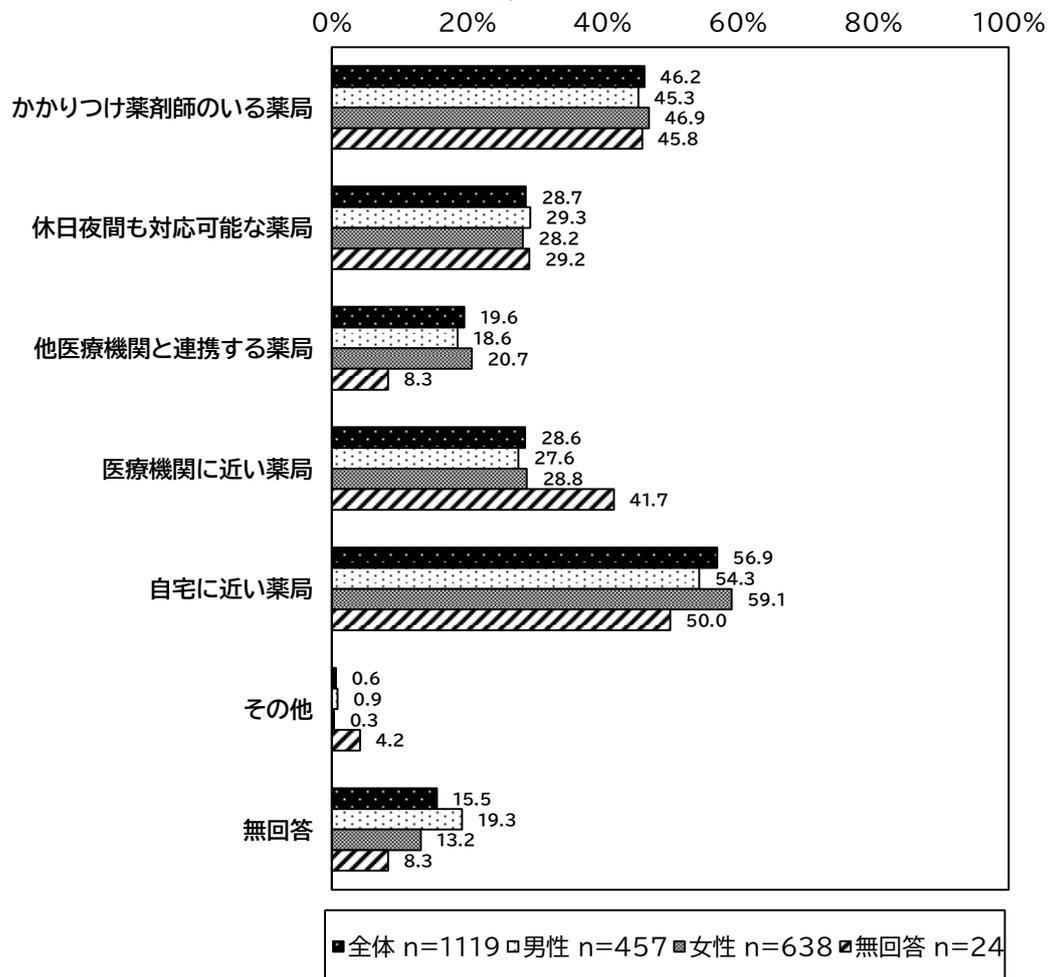
図表 5-71 1回目リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか
（最重視するもの）（性別）



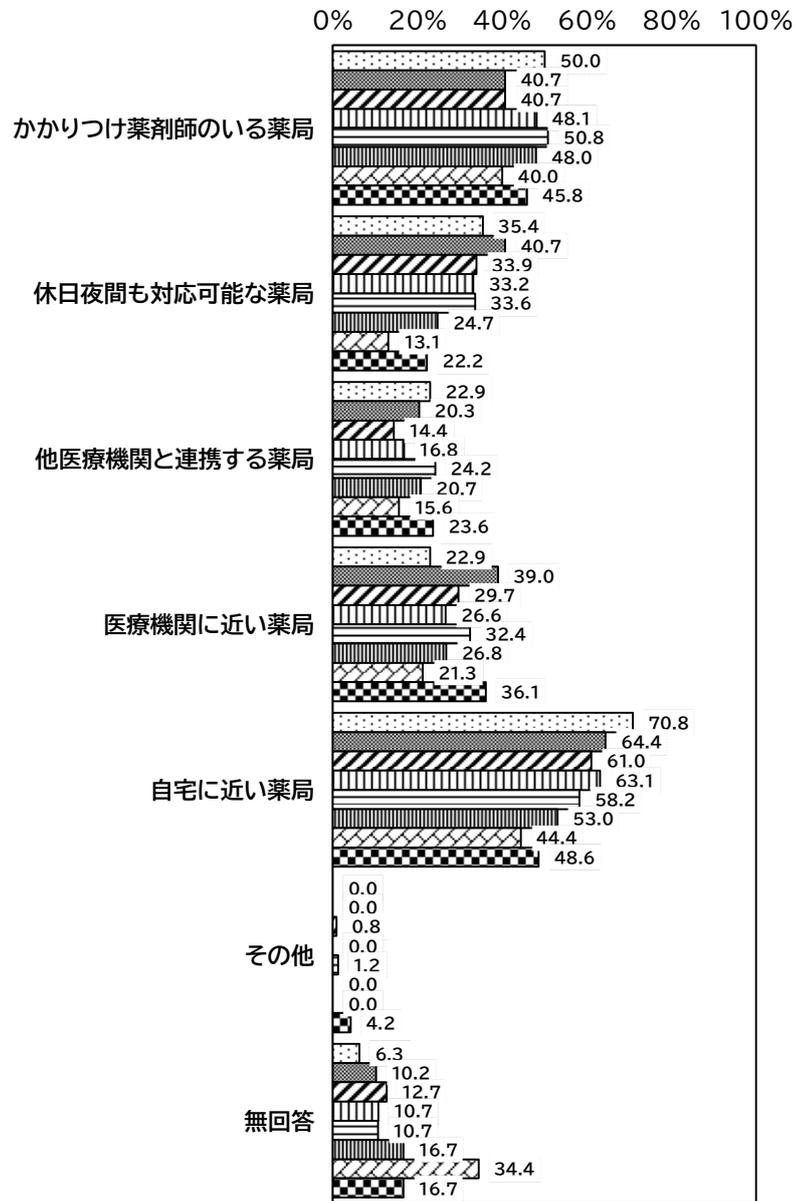
図表 5-72 1回目リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか
（最重視するもの）（年代別）



図表 5-73 2回目以降リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（複数回答）
（性別）

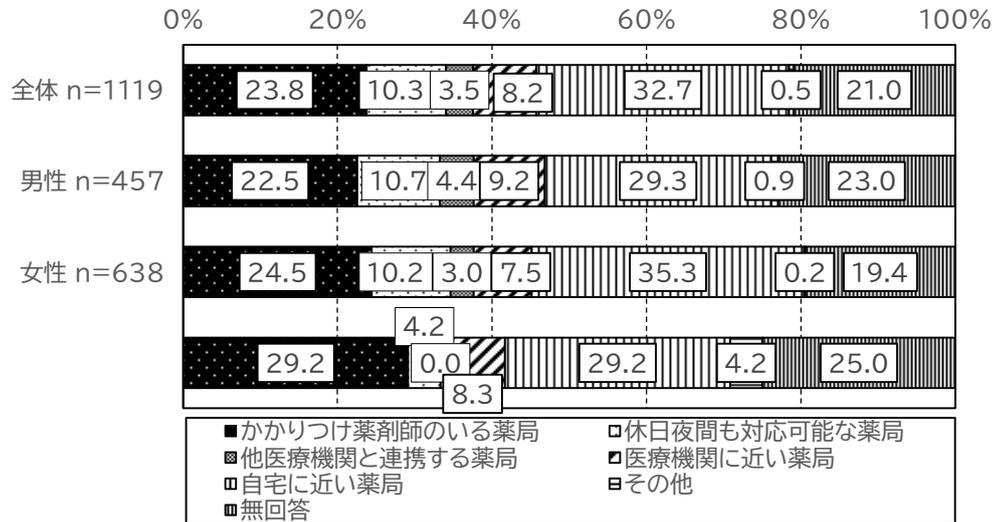


図表 5-74 2回目以降リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（複数回答）
（年代別）

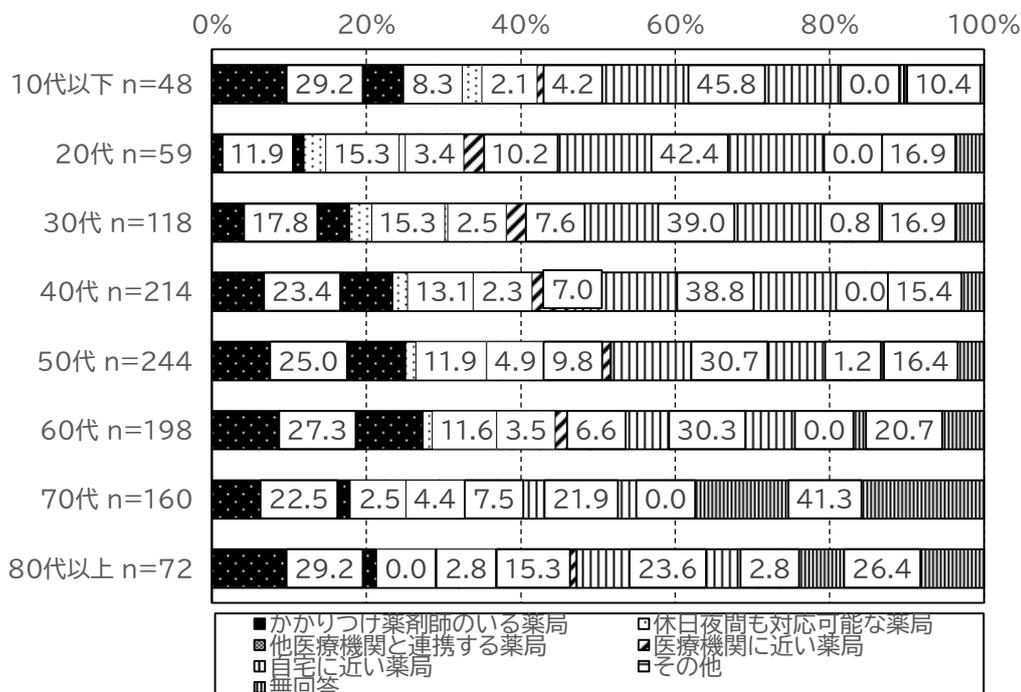


□10代以下 n=48	■20代 n=59	□30代 n=118	■40代 n=214
□50代 n=244	■60代 n=198	□70代 n=160	■80代以上 n=72

図表 5-75 2回目以降リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか
（最重視するもの）（性別）



図表 5-76 2回目以降リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（最重視するもの）（年代別）



6) リフィル処方箋に関するご意見・ご要望等

【ご意見・ご要望（自由記載）の具体的な内容】

- ・忙しい患者にとって非常によい制度で助かっている
- ・症状が安定している場合は3回超のリフィルを認めてほしい
- ・子供が医療機関の受診を嫌がる場合があるので、制度はありがたい
- ・処方を受けることが可能な期間を延ばしてほしい
- ・一般の人に知られていないので、もっと広報するべき
- ・意義やメリットを感じない
- ・医師に診てもら回数が減るのは不安
- ・処方箋を自身で保管することが手間に感じる
- ・リフィルを希望しても医療機関によっては断られることに納得がいかない
- ・90日処方と何が違うのかわからない
- ・自分から医師へおねがいはハードルが高い
- ・医療費が安くなるのであれば使いたい
- ・薬のもらい忘れがおきそうで不安である など

6. 患者調査（インターネット調査）

【調査対象等】

○調査票 患者票

調査対象：直近3か月間で、保険薬局に処方箋を持って来局した患者を調査対象とした

回答数：3,000人

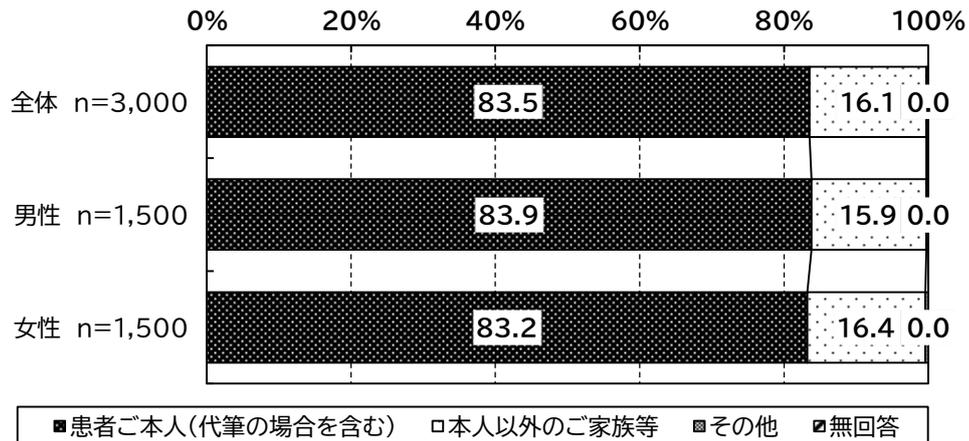
回答者：患者本人もしくは家族

1) この調査票のご記入者

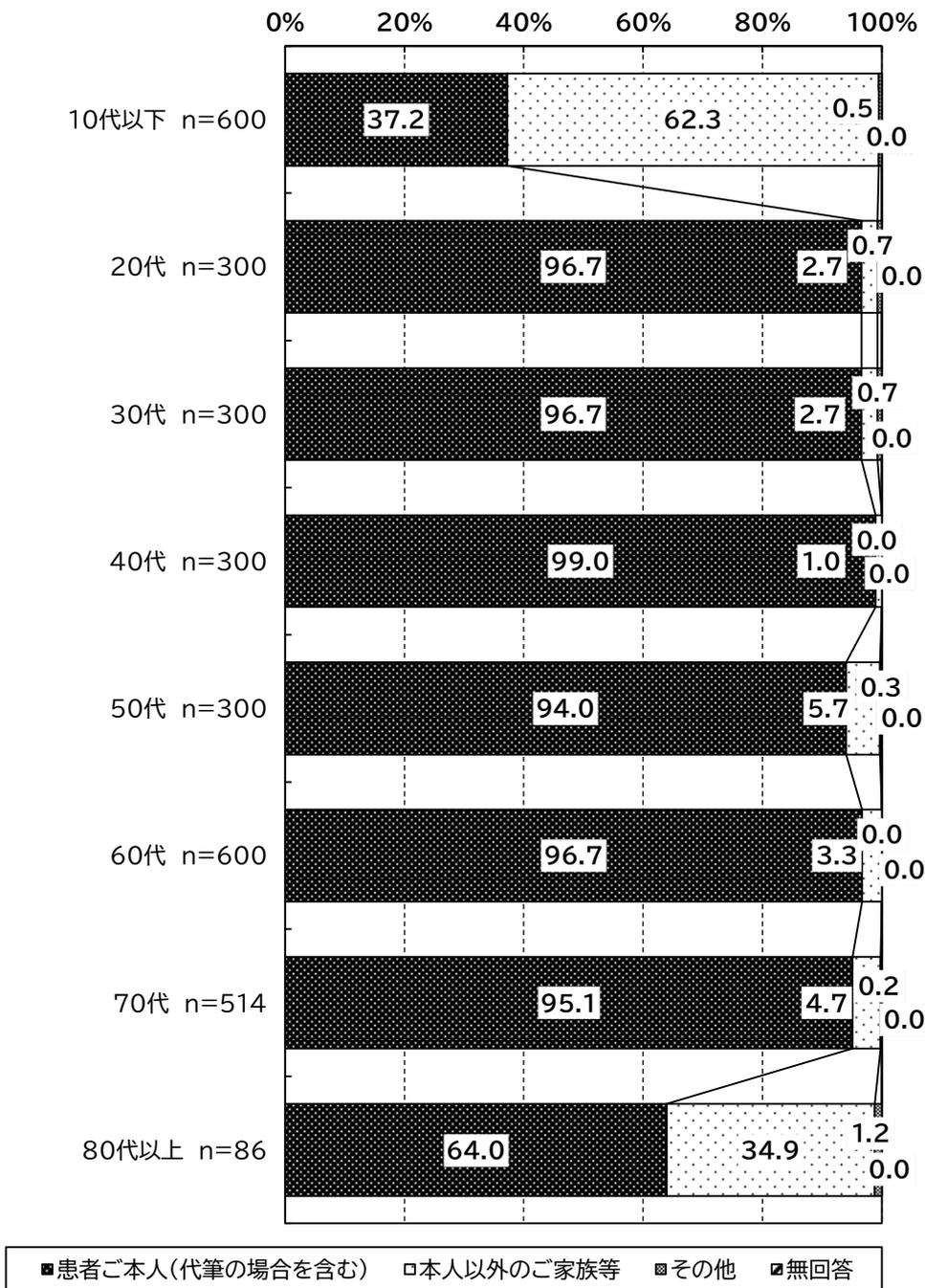
(1) ご記入者は患者さんご本人か

調査票の記入者は患者本人かについては「患者ご本人」が83.5%、「本人以外のご家族等」が16.1%であった。

図表 6-1 調査票の記入者
(性別)



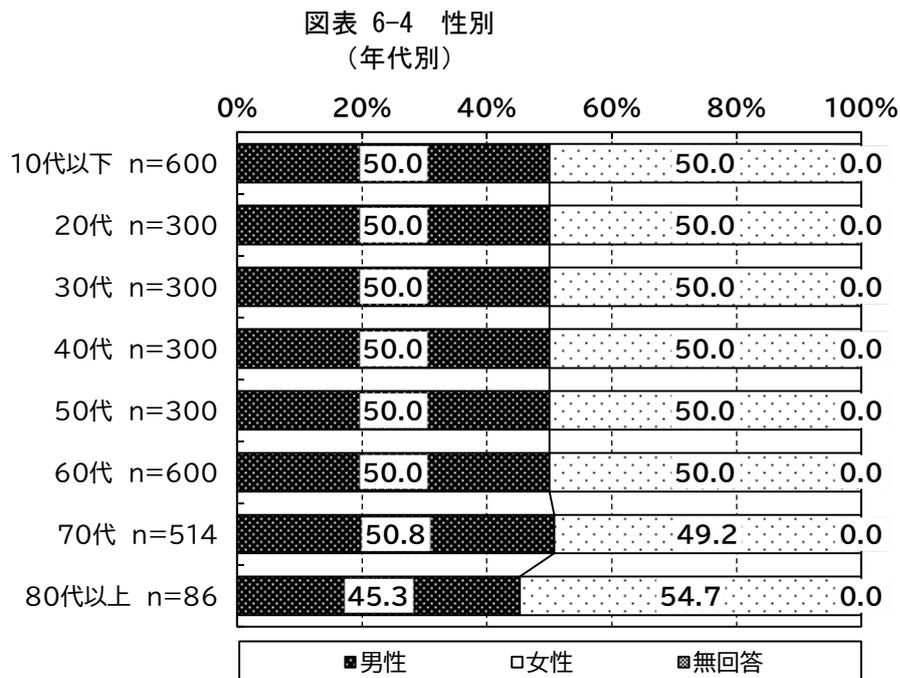
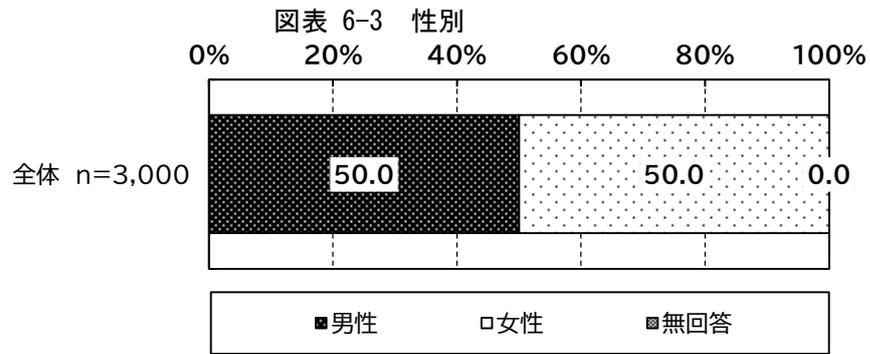
図表 6-2 調査票の記入者
(年代別)



2) 患者さんご自身のことについて

(1) 性別

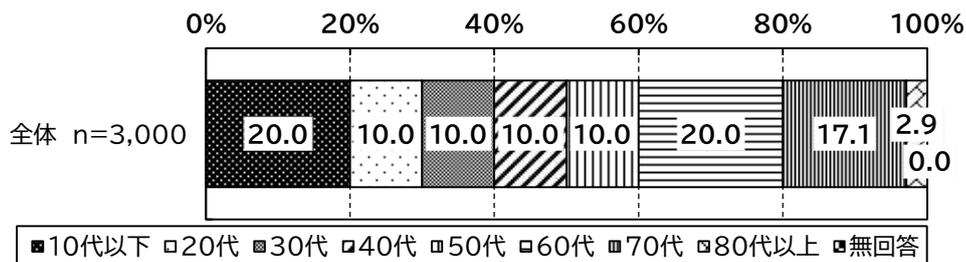
性別については「男性」・「女性」が50.0%ずつとなるよう割付を行った。



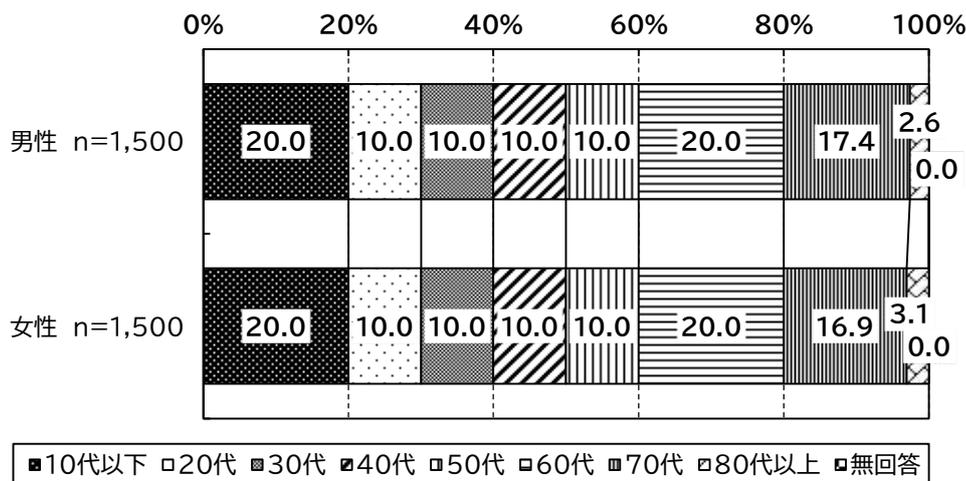
(2) 年齢

年齢については、9歳以下・10代・20代・30代・40代・50代・60～64歳・65～69歳・70～74歳・75歳以上の各年代の回答者数が300名ずつとなるよう割付を行った。なお、本報告書の年代別集計は郵送調査の患者調査と平仄をあわせ、「10代以下」「20代」「30代」「40代」「50代」「60代」「70代」「80代以上」のラベル付けとする。

図表 6-5 年齢



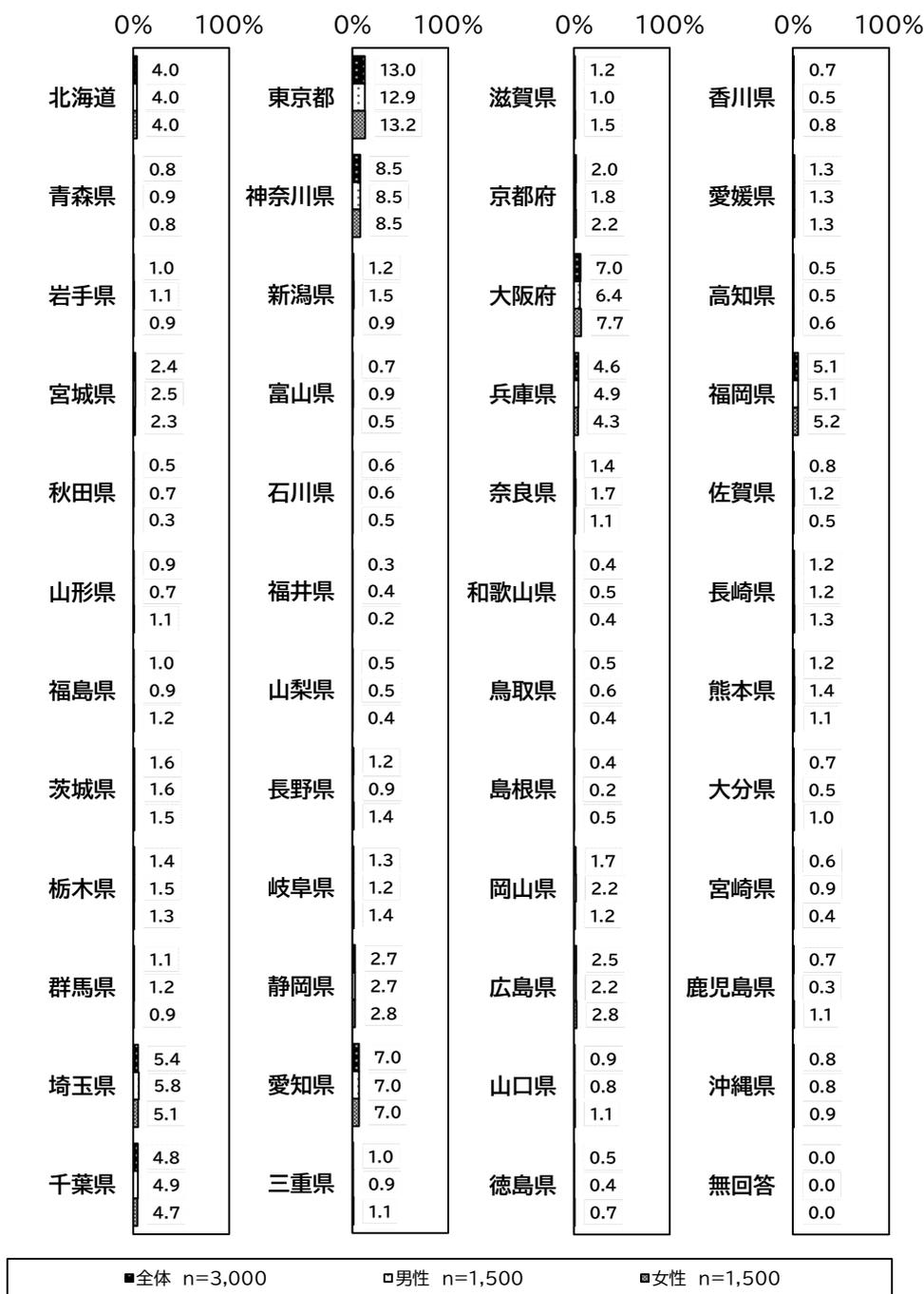
図表 6-6 年齢
(性別)



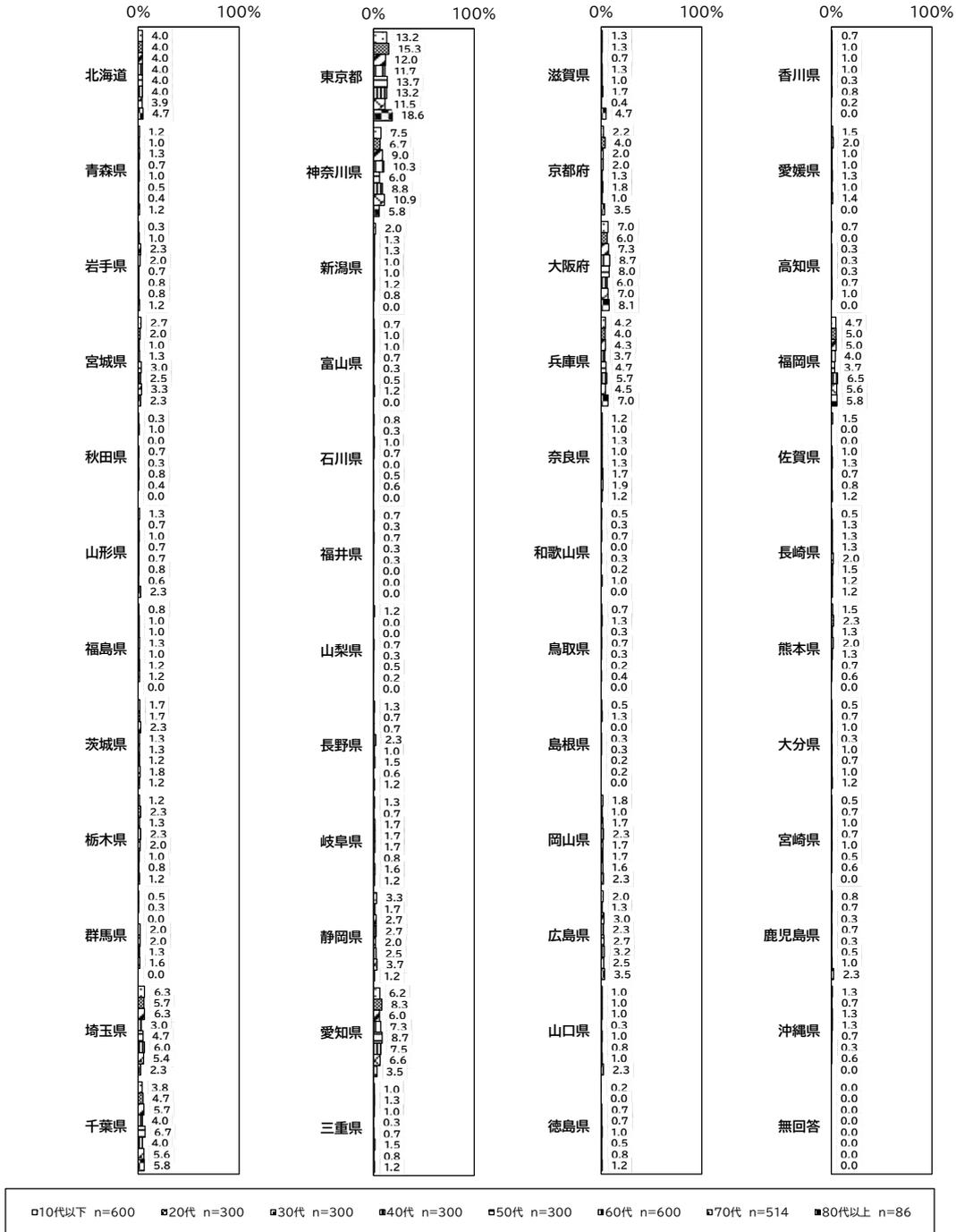
(3) お住まい

お住まいについては「東京都」が最も多く 13.0%であった。

図表 6-7 お住まい
(性別)

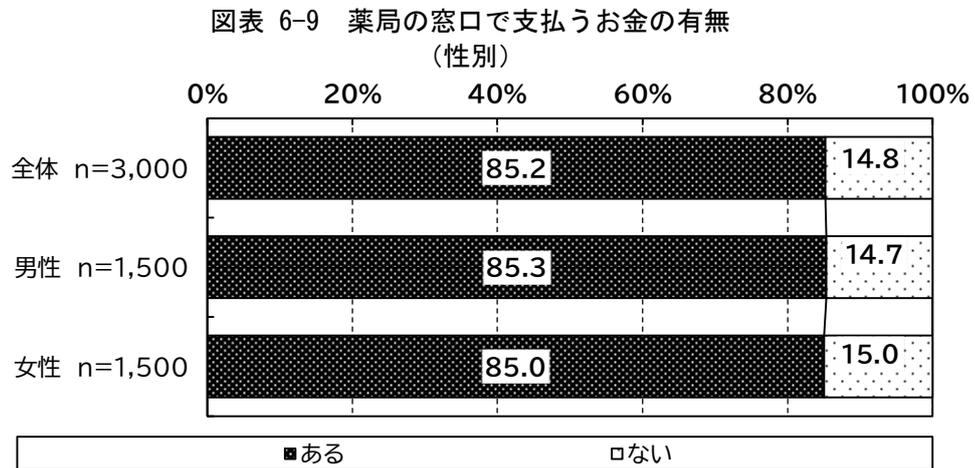


図表 6-8 お住まい
（年代別）

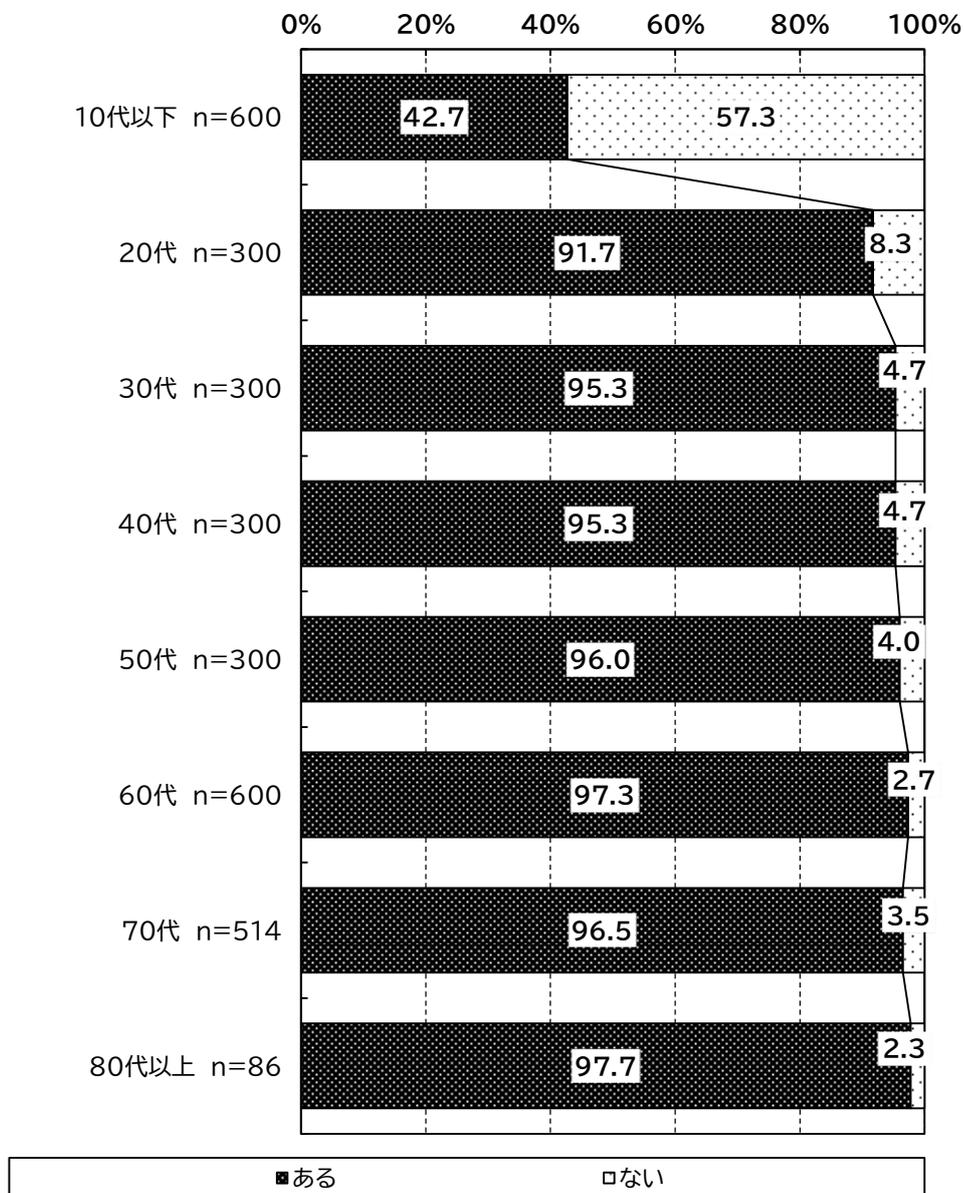


(4) 薬局の窓口で支払うお金の有無

薬局の窓口で支払うお金（お薬の容器代は含まない）については、「ある」が85.2%、「ない」が14.8%であった。



図表 6-10 薬局の窓口で支払うお金の有無
（年代別）



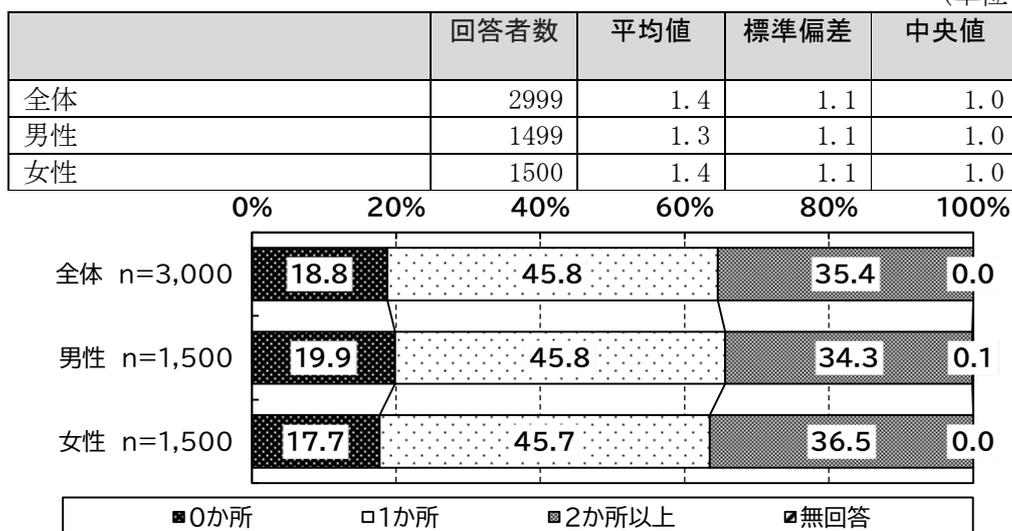
3) 医療機関や保険薬局の利用状況等について

(1) 定期的に受診している医療機関（病院・診療所）、診療科の数

定期的（180日間で複数回）に受診している医療機関（病院・診療所）の数については平均で1.4件であった。

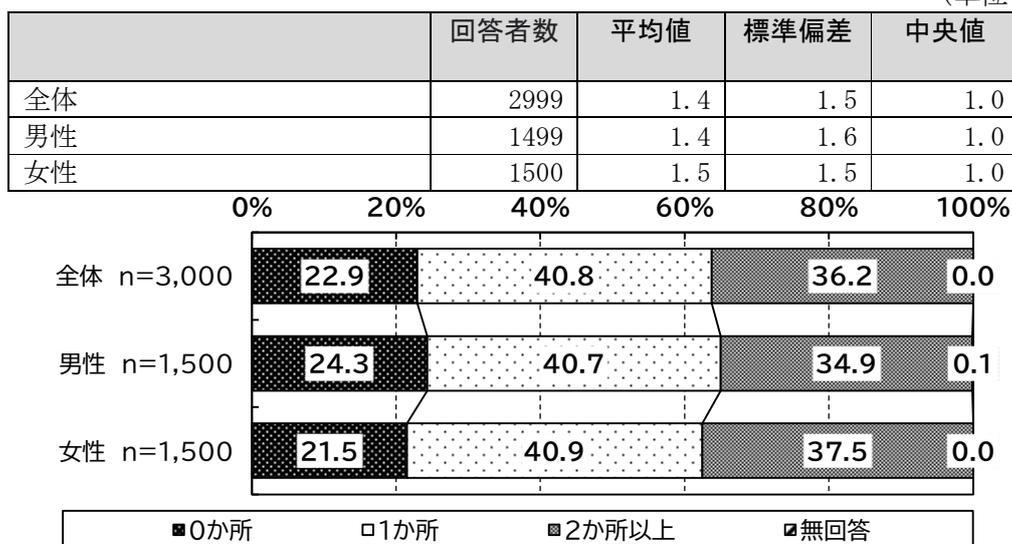
図表 6-11 定期的に受診している医療機関（病院・診療所）の数
（性別）

（単位：件）



図表 6-12 定期的に受診している診療科の数
（性別）

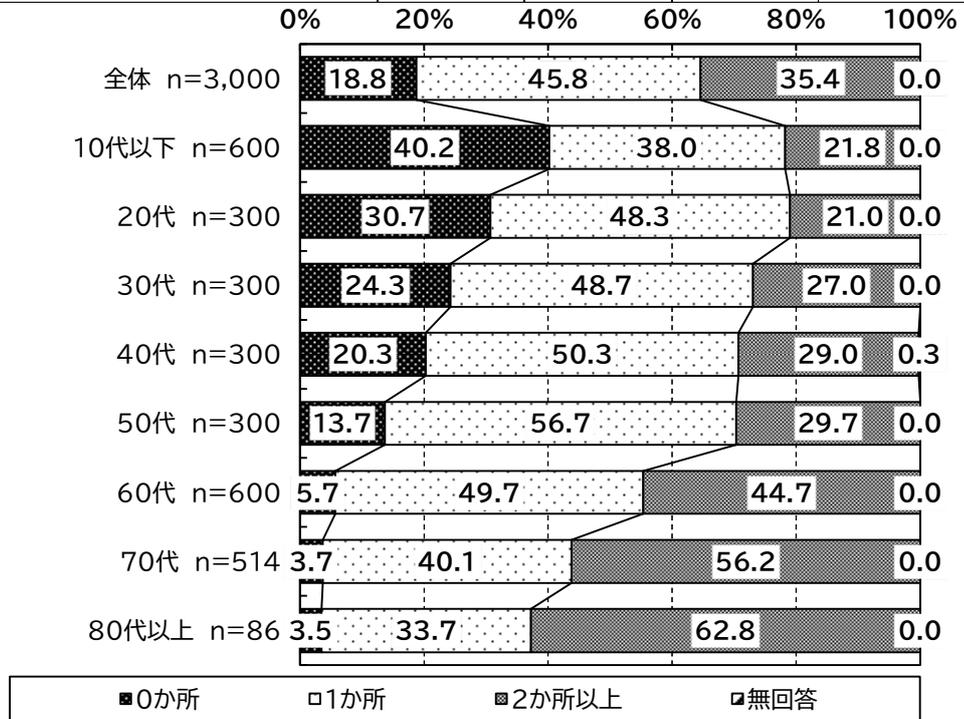
（単位：件）



図表 6-13 定期的に受診している医療機関（病院・診療所）の数
（年代別）

（単位：件）

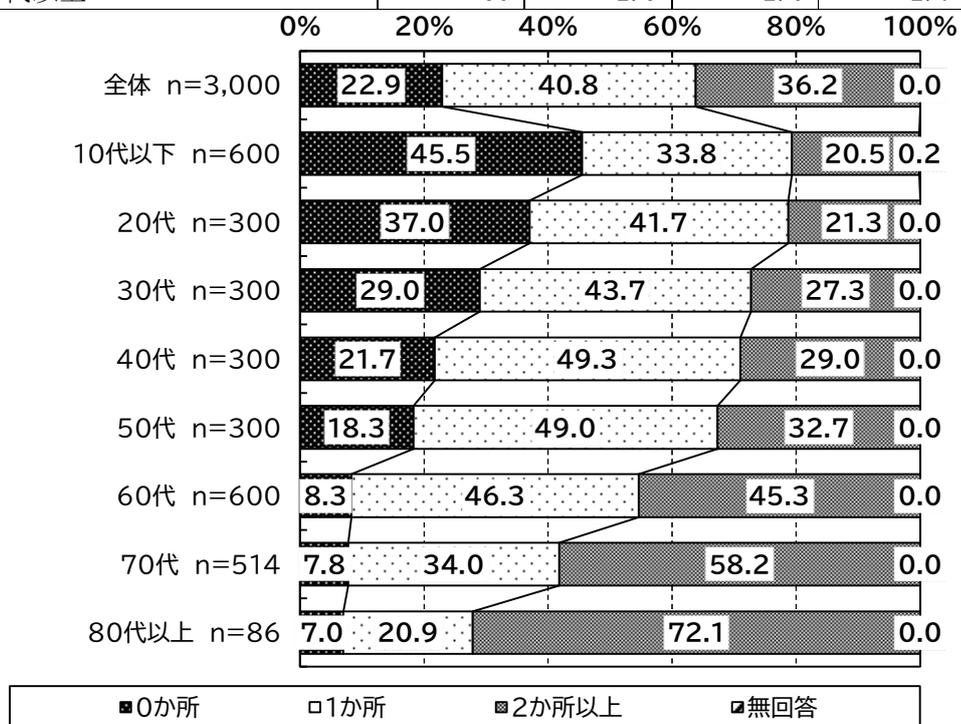
	回答者数	平均値	標準偏差	中央値
全体	2999	1.4	1.1	1.0
10代以下	600	0.9	1.0	1.0
20代	300	1.0	1.0	1.0
30代	300	1.2	1.0	1.0
40代	299	1.3	1.3	1.0
50代	300	1.3	0.9	1.0
60代	600	1.6	0.9	1.0
70代	514	1.9	1.2	2.0
80代以上	86	2.0	1.1	2.0



図表 6-14 定期的に受診している診療科の数
（年代別）

（単位：件）

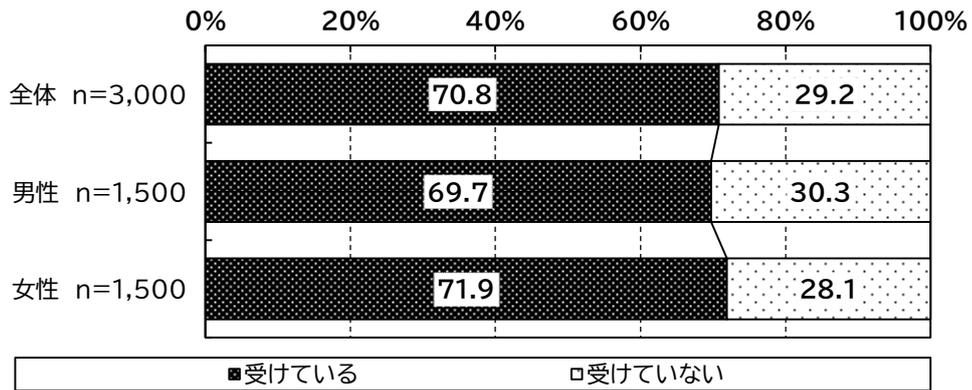
	回答者数	平均値	標準偏差	中央値
全体	2999	1.4	1.5	1.0
10代以下	599	0.9	1.3	1.0
20代	300	1.1	1.7	1.0
30代	300	1.3	1.6	1.0
40代	300	1.4	1.4	1.0
50代	300	1.4	1.6	1.0
60代	600	1.7	1.2	1.0
70代	514	2.0	1.5	2.0
80代以上	86	2.5	2.6	2.0



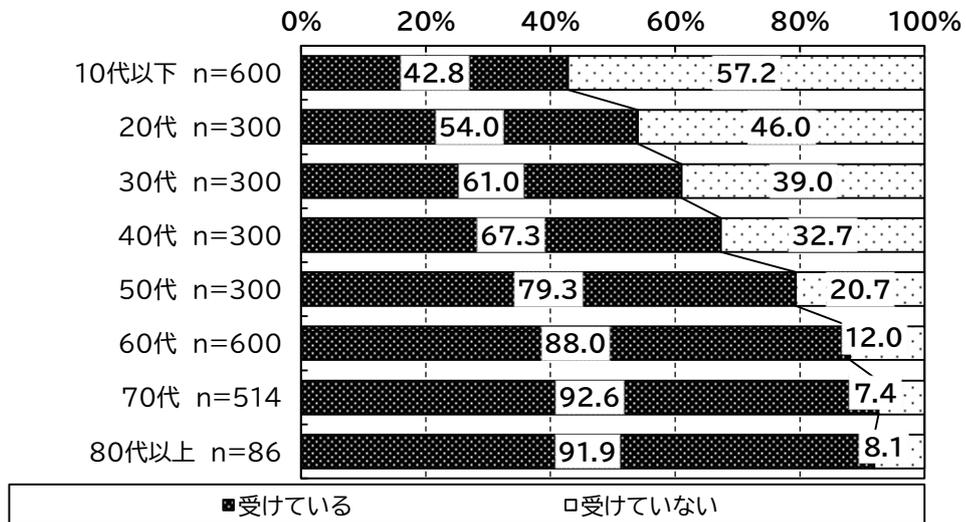
(2) 定期的に決まった薬の処方を受けているか

定期的に決まった薬の処方を受けているかについては、「受けている」が70.8%、「受けていない」が29.2%であった。

図表 6-15 定期的に決まった薬の処方を受けているか
(性別)



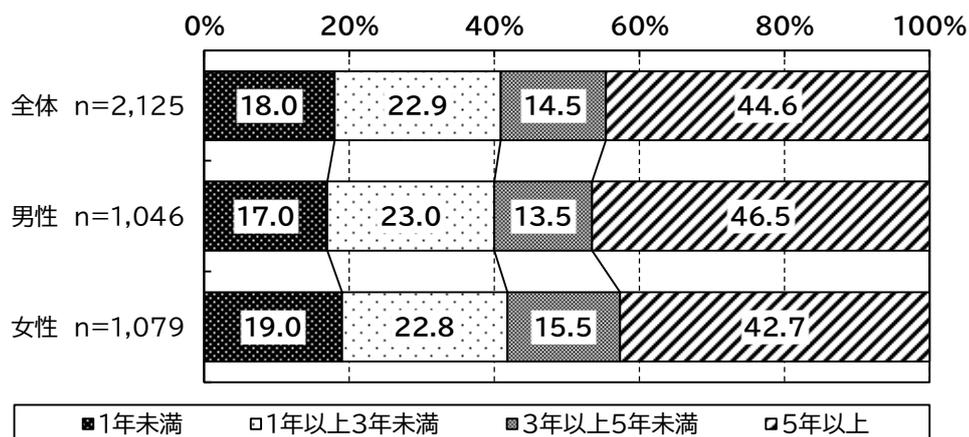
図表 6-16 定期的に決まった薬の処方を受けているか
(年代別)



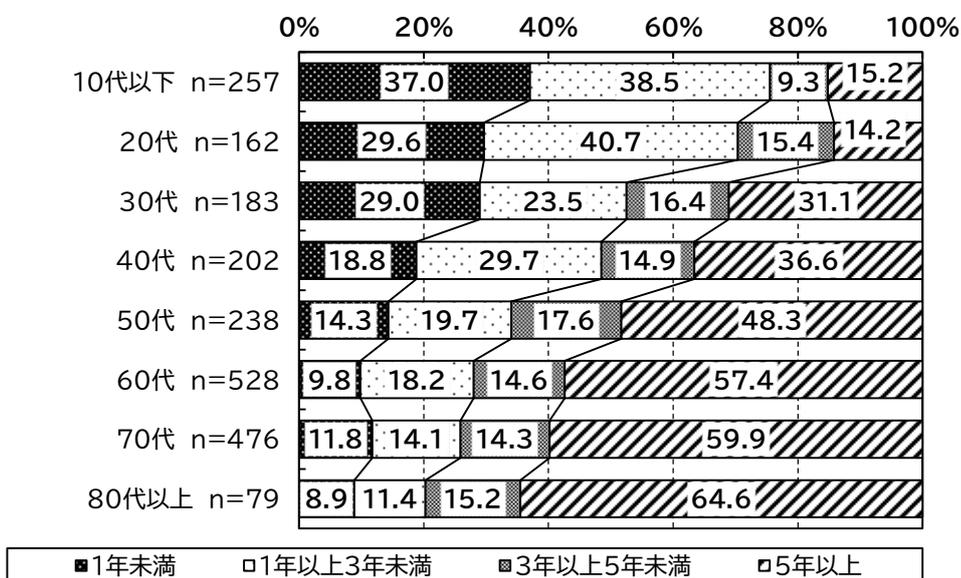
① 定期的な処方を受けている期間

定期的な処方を受けている期間については、「5年以上」が最も多く 44.6%、次いで「1年以上3年未満」が多く 22.9%であった。

図表 6-17 定期的な処方を受けている期間
(性別)



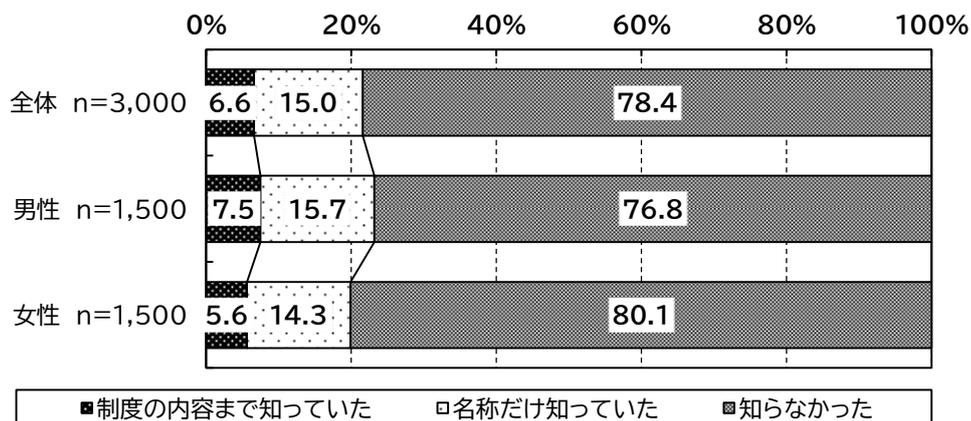
図表 6-18 定期的な処方を受けている期間
(年代別)



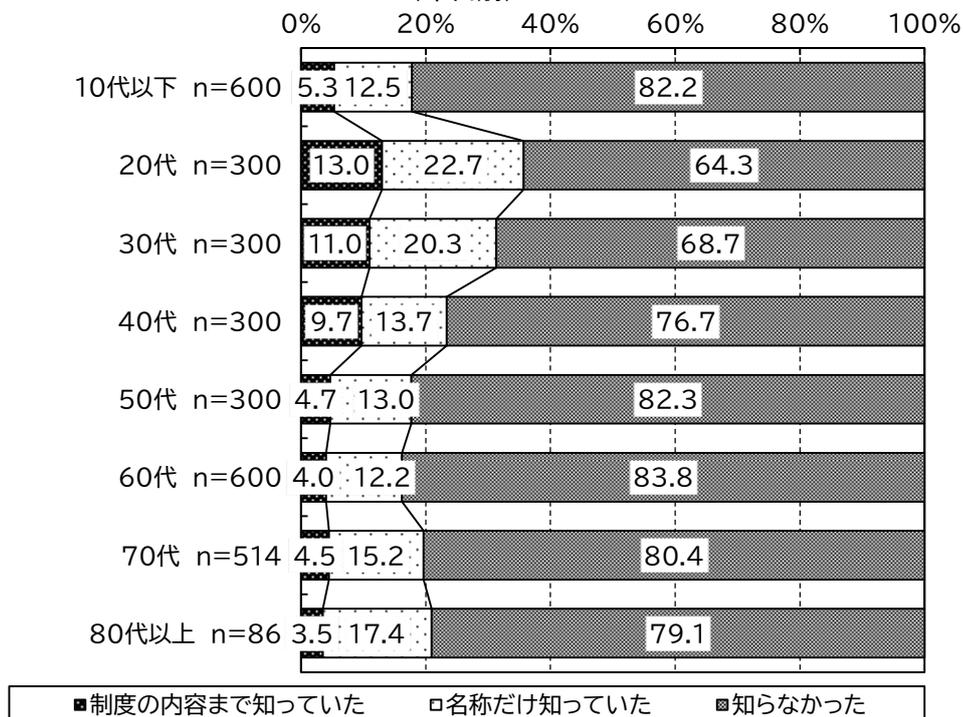
(3) リフィル処方箋の認知度

リフィル処方箋を知っているかについては、「制度の内容まで知っていた」が6.6%、「名称だけ知っていた」が15.0%、「知らなかった」が78.4%であった。

図表 6-19 リフィル処方箋の認知度
(性別)



図表 6-20 リフィル処方箋の認知度
(年代別)

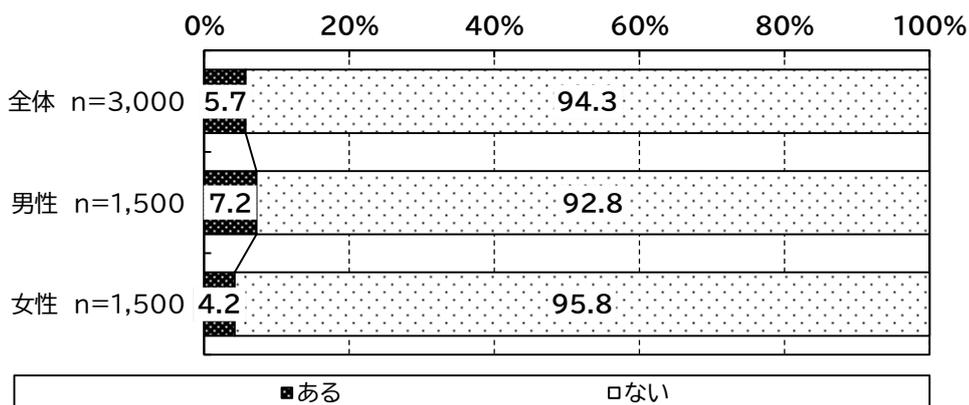


4) これまでリフィル処方箋を交付された経験

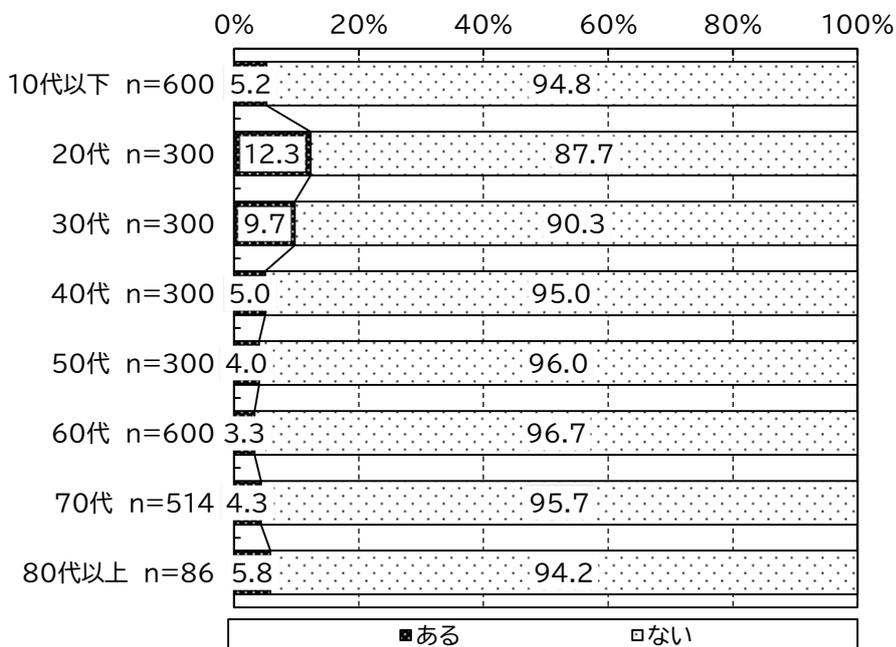
(1) リフィル処方箋について医師から説明

リフィル処方箋について医師から説明を受けたことがあるかについては、「ある」が5.7%、「ない」が94.3%であった。

図表 6-21 リフィル処方箋について医師から説明
(性別)



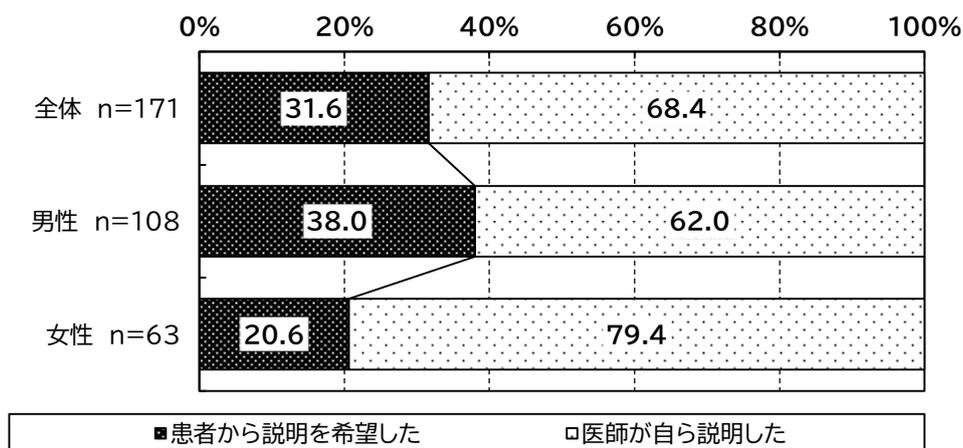
図表 6-22 リフィル処方箋について医師から説明
(年代別)



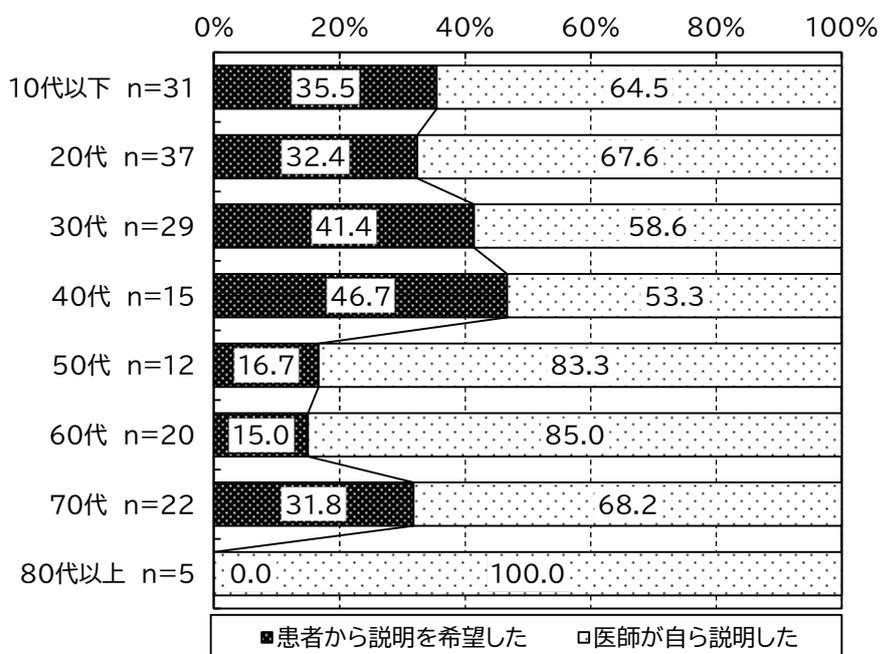
① リフィル処方箋についての説明はどのように行われたか（リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験がある患者のみ）

リフィル処方箋について医師から説明はどのように行われたかについては、「患者から説明を希望した」が31.6%、「医師が自ら説明した」が68.4%であった。

図表 6-23 リフィル処方箋についての説明はどのように行われたか
（リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験がある患者のみ）
（性別）



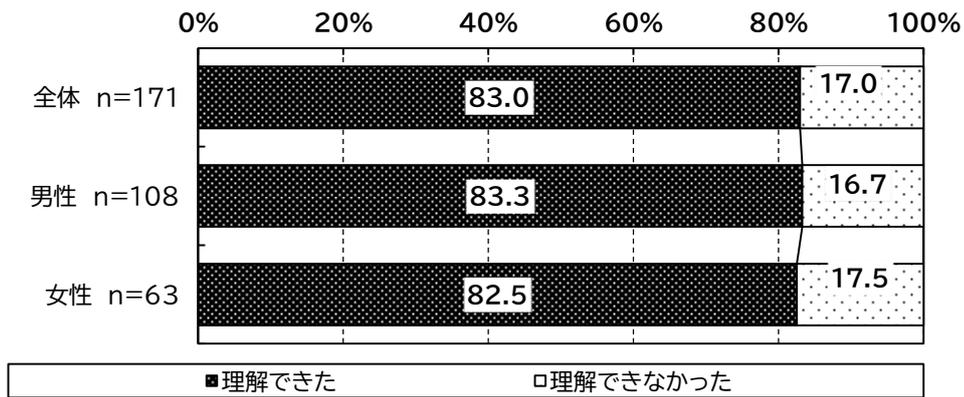
図表 6-24 リフィル処方箋についての説明はどのように行われたか
（リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験がある患者のみ）
（年代別）



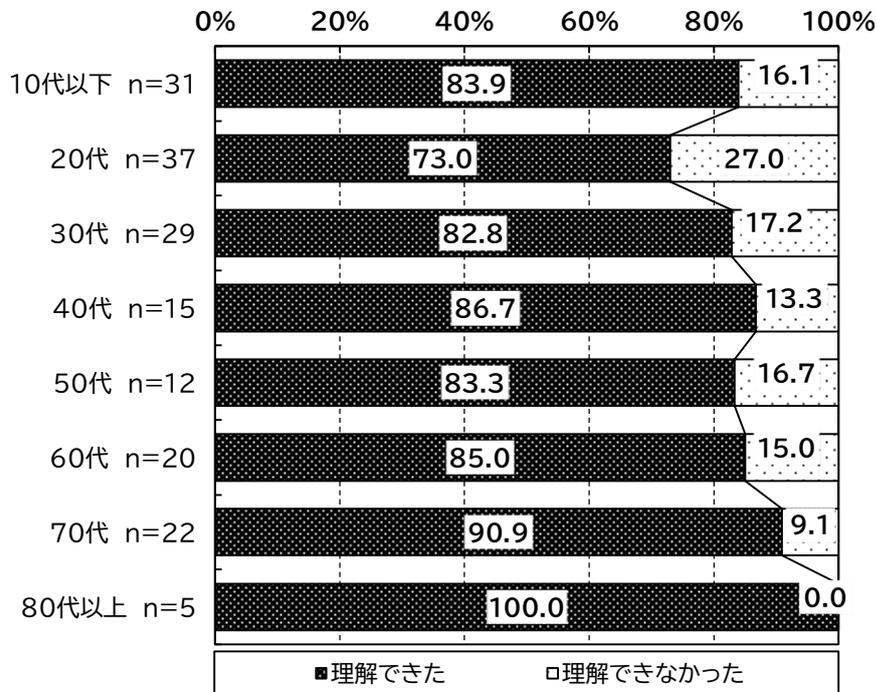
② リフィル処方箋についての説明は理解できたか（リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験がある患者のみ）

リフィル処方箋についての説明は理解できたかについては、「理解できた」が83.0%、「理解できなかった」が17.0%であった。

図表 6-25 リフィル処方箋についての説明は理解できたか
（リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験がある患者のみ）
（性別）



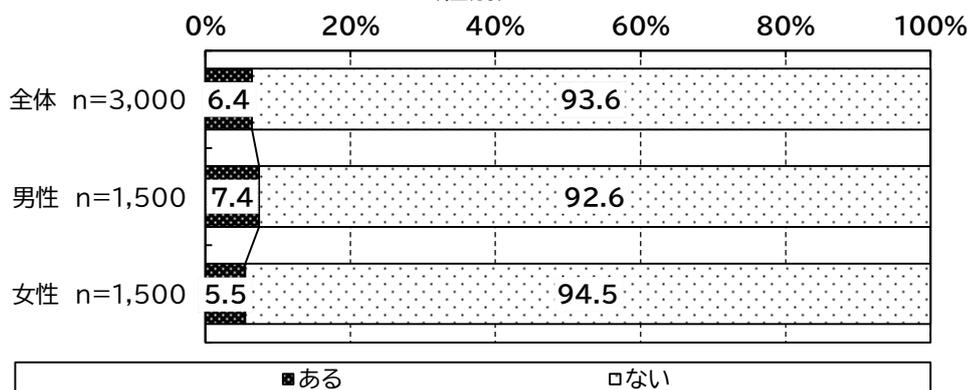
図表 6-26 リフィル処方箋についての説明は理解できたか
（リフィル処方箋について医師から説明を受けた経験がある患者のみ）
（年代別）



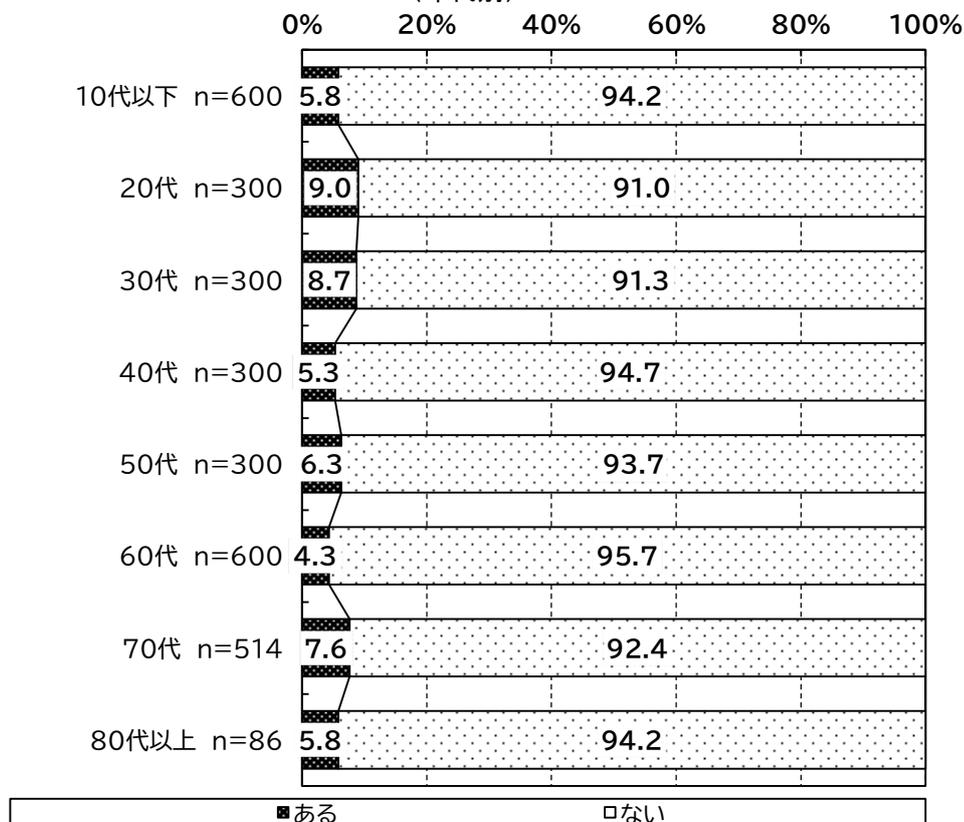
(2) リフィル処方箋を交付された経験

リフィル処方箋を交付された経験については、「ある」が6.4%、「ない」が93.6%であった。

図表 6-27 リフィル処方箋を交付された経験
(性別)



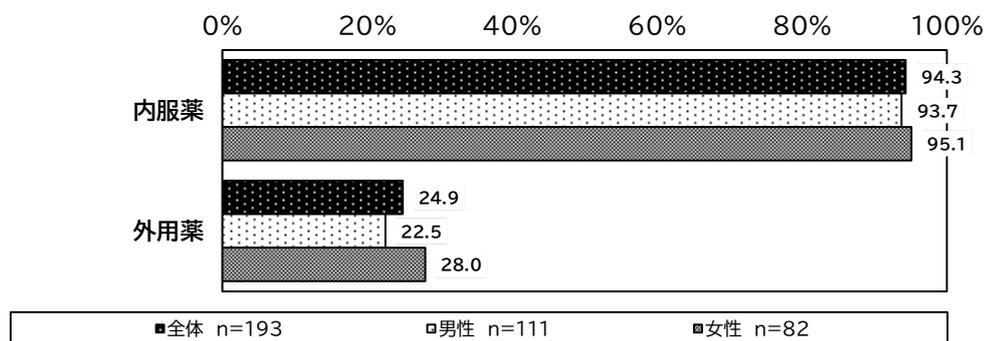
図表 6-28 リフィル処方箋を交付された経験
(年代別)



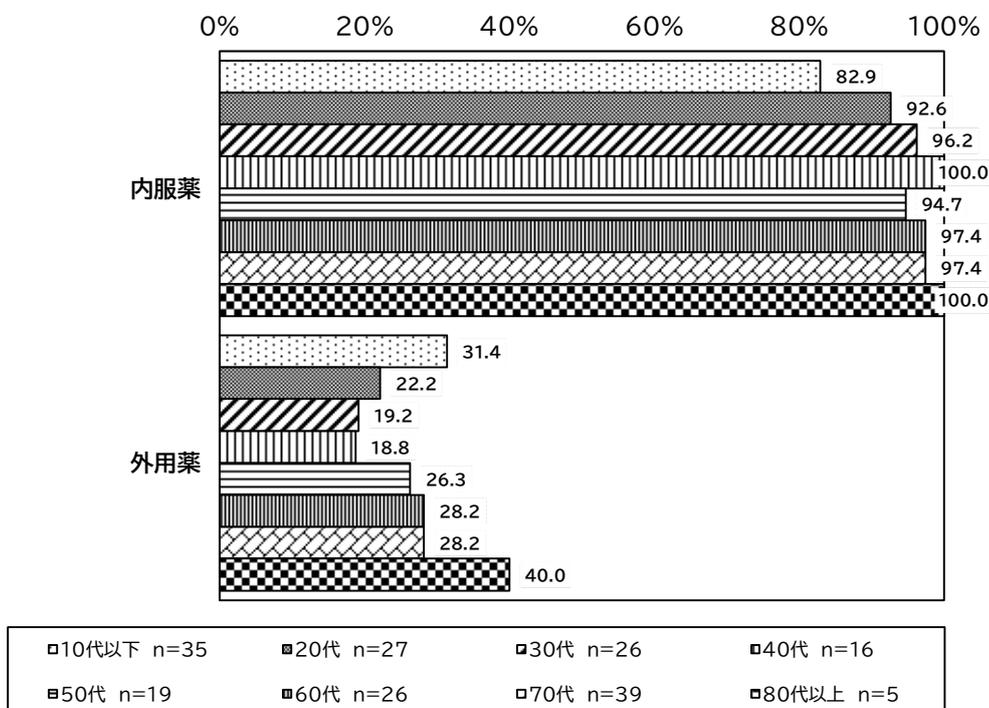
(3) リフィル処方箋を交付されたのはどのような薬か（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）

リフィル処方箋を交付されたのはどのような薬かについては、「内服薬」が最も多く94.3%、次いで「外用薬」が24.9%であった。

図表 6-29 リフィル処方箋を交付されたのはどのような薬か（複数回答）
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
（性別）



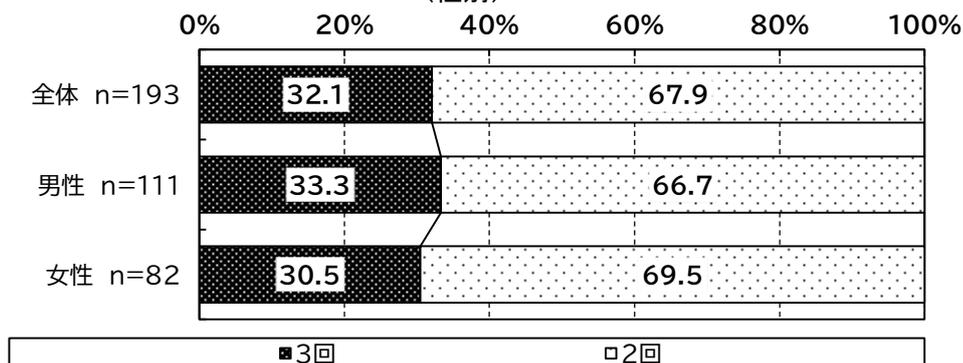
図表 6-30 リフィル処方箋を交付されたのはどのような薬か（複数回答）
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
（年代別）



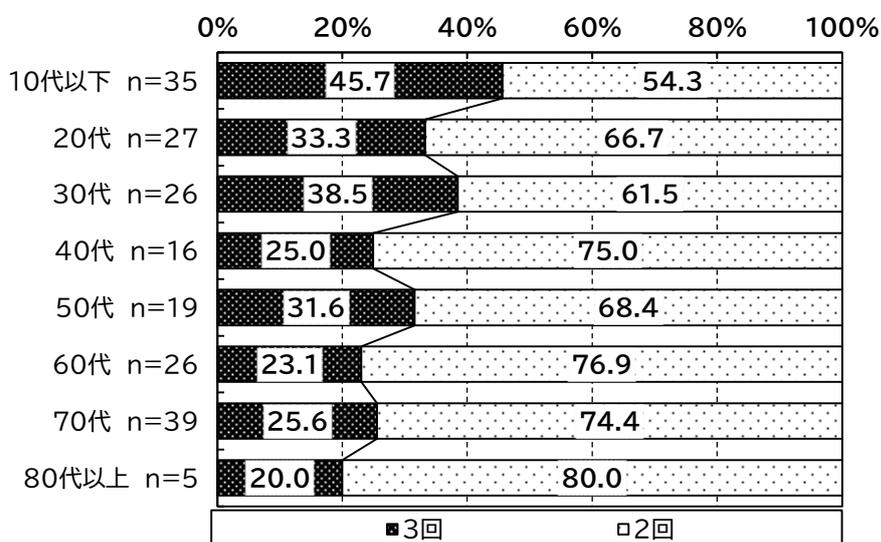
(4) 直近のリフィル処方箋は、何回反復利用できる処方箋か（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）

直近のリフィル処方箋は何回反復利用できる処方箋かについては、「3回」が32.1%、「2回」が67.9%であった。

図表 6-31 直近のリフィル処方箋は、何回反復利用できる処方箋か（性別）



図表 6-32 直近のリフィル処方箋は、何回反復利用できる処方箋か（年代別）



(5) 直近のリフィル処方箋は、1回あたり何日分のお薬の処方だったか（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）

1回目の処方は何日分かについては、1回目は平均で21.0日分、2回目は平均で20.1日分、3回目は平均で22.4日分であった。

図表 6-33 直近のリフィル処方箋は、1回あたり何日分の処方だったか 1回目
(性別)

(単位：日)

	回答者数	平均値	標準偏差	中央値	最小値	第1四分位数	第3四分位数	最大値
全体	166	21.0	21.1	14.0	1.0	7.0	30.0	99.0
男性	99	18.9	22.4	7.0	1.0	5.0	28.0	99.0
女性	67	24.0	18.6	28.0	1.0	7.0	30.0	84.0

図表 6-34 直近のリフィル処方箋は、1回あたり何日分の処方だったか 1回目
(年代別)

(単位：日)

	回答者数	平均値	標準偏差	中央値	最小値	第1四分位数	第3四分位数	最大値
全体	166	21.0	21.1	14.0	1.0	7.0	30.0	99.0
10代以下	27	11.7	12.8	7.0	1.0	5.5	14.0	60.0
20代	26	10.4	11.2	5.0	1.0	1.0	19.3	30.0
30代	23	10.2	8.4	7.0	3.0	5.0	14.0	30.0
40代	15	13.3	13.8	7.0	1.0	7.0	14.0	56.0
50代	19	23.9	16.5	28.0	1.0	7.0	30.0	60.0
60代	20	32.8	21.6	30.0	3.0	19.3	36.5	90.0
70代	33	37.7	27.0	30.0	1.0	28.0	56.0	99.0
80代以上	3	35.0	22.7	40.0	5.0	22.5	50.0	60.0

図表 6-35 直近のリフィル処方箋は、1回あたり何日分の処方だったか 2回目
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
（性別）

(単位：日)

	回答者数	平均値	標準偏差	中央値	最小値	第1四分位数	第3四分位数	最大値
全体	150	20.1	19.4	14.0	1.0	5.0	30.0	90.0
男性	91	18.3	20.1	7.0	1.0	4.5	30.0	90.0
女性	59	23.0	17.9	28.0	1.0	7.0	30.0	84.0

図表 6-36 直近のリフィル処方箋は、1回あたり何日分の処方だったか 2回目
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
（年代別）

(単位：日)

	回答者数	平均値	標準偏差	中央値	最小値	第1四分位数	第3四分位数	最大値
全体	150	20.1	19.4	14.0	1.0	5.0	30.0	90.0
10代以下	25	12.3	12.8	7.0	1.0	7.0	14.0	60.0
20代	26	11.7	14.4	5.0	1.0	2.0	19.3	60.0
30代	23	12.0	10.1	7.0	2.0	4.5	14.0	31.0
40代	13	17.5	21.5	7.0	1.0	7.0	28.0	84.0
50代	16	24.9	17.1	29.0	1.0	7.0	30.0	60.0
60代	17	28.8	19.0	30.0	3.0	14.0	30.0	60.0
70代	27	33.9	22.8	30.0	1.0	28.0	32.5	90.0
80代以上	3	34.3	23.6	40.0	3.0	21.5	50.0	60.0

図表 6-37 直近のリフィル処方箋は、1回あたり何日分の処方だったか 3回目
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者・3回処方の場合のみ）
（性別）

（単位：日）

	回答者数	平均値	標準偏差	中央値	最小値	第1四分位数	第3四分位数	最大値
全体	48	22.4	22.0	24.5	1.0	3.8	30.0	90.0
男性	31	22.9	25.9	7.0	1.0	3.5	30.0	90.0
女性	17	21.4	11.8	28.0	1.0	14.0	30.0	35.0

図表 6-38 直近のリフィル処方箋は、1回あたり何日分の処方だったか 3回目
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者・3回処方の場合のみ）
（年代別）

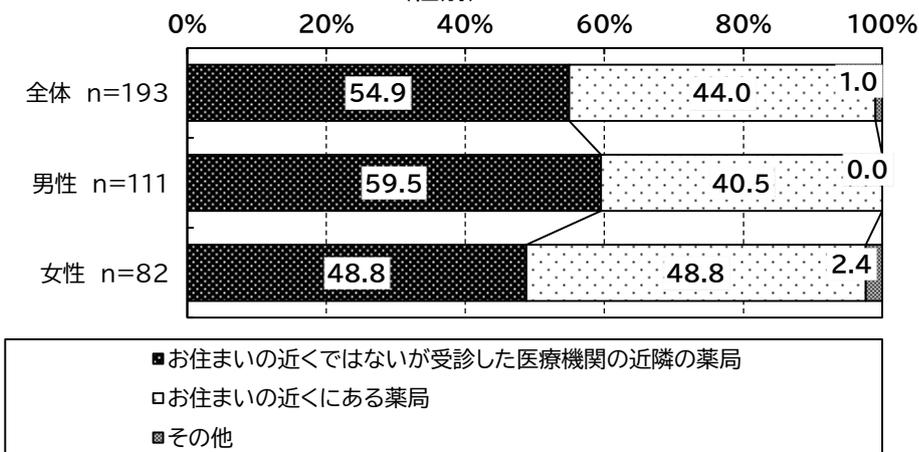
（単位：日）

	回答者数	平均値	標準偏差	中央値	最小値	第1四分位数	第3四分位数	最大値
全体	48	22.4	22.0	24.5	1.0	3.8	30.0	90.0
10代以下	11	11.6	17.1	7.0	1.0	2.5	7.0	60.0
20代	9	13.0	13.0	3.0	1.0	1.0	28.0	30.0
30代	8	15.1	12.2	9.5	2.0	4.8	30.0	31.0
40代	3	12.0	11.6	7.0	1.0	4.0	17.5	28.0
50代	5	41.6	15.0	30.0	28.0	30.0	60.0	60.0
60代	6	31.0	14.3	30.0	7.0	28.5	33.8	56.0
70代	6	46.3	31.3	28.0	14.0	28.0	74.5	90.0
80代以上	0	-	-	-	-	-	-	-

(6) リフィル処方箋の1回目の調剤で、どこの薬局に行ったか（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）

リフィル処方箋の1回目の処方箋でどこの薬局に行ったかについては、「お住まいの近くではないが受診した医療機関の近隣の薬局」が54.9%、「お住まいの近くにある薬局」が44.0%、「その他」が1.0%であった。

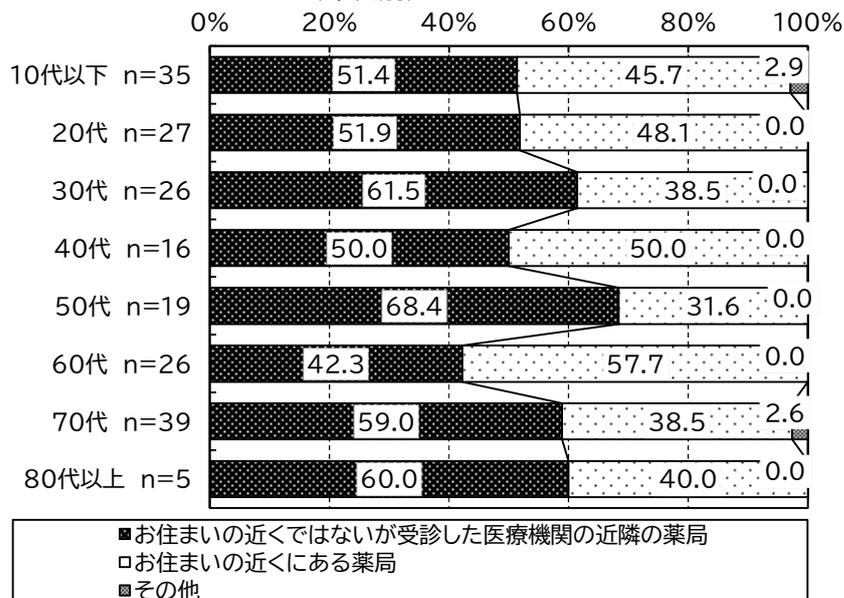
図表 6-39 リフィル処方箋の1回目の調剤で、どこの薬局に行ったか
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
（性別）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

・院内処方 など

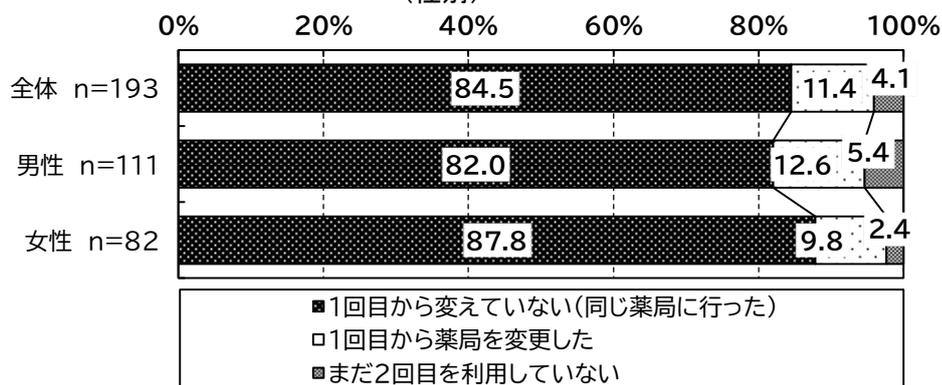
図表 6-40 リフィル処方箋の1回目の調剤で、どこの薬局に行ったか
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
（年代別）



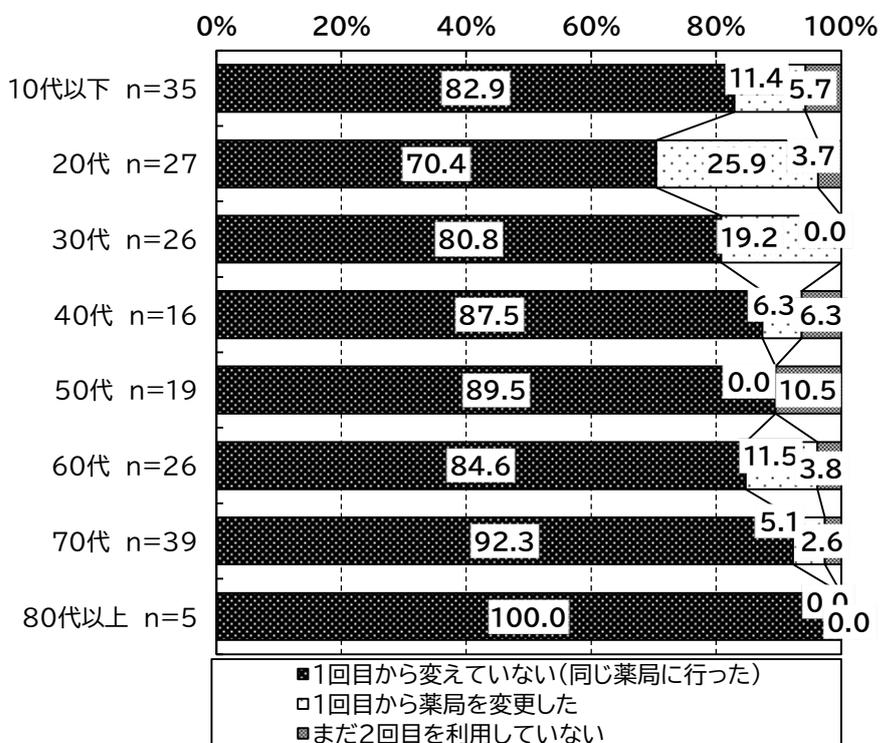
(7) リフィル処方箋の2回目以降の調剤で、薬局を変えたか（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）

リフィル処方箋の2回目以降の処方箋で薬局を変えたかについては、「1回目から変えていない（同じ薬局に行った）」が84.5%、「1回目から薬局を変更した」が11.4%、「まだ2回目を利用していない」が4.1%であった。

図表 6-41 リフィル処方箋の2回目以降の調剤で、薬局を変えたか
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
（性別）



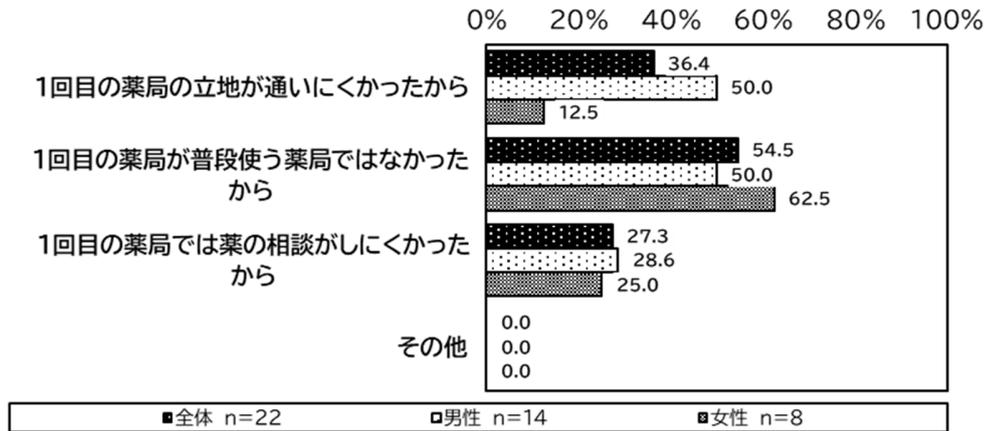
図表 6-42 リフィル処方箋の2回目以降の調剤で、薬局を変えたか
（リフィル処方箋を交付されたことがある患者のみ）
（年代別）



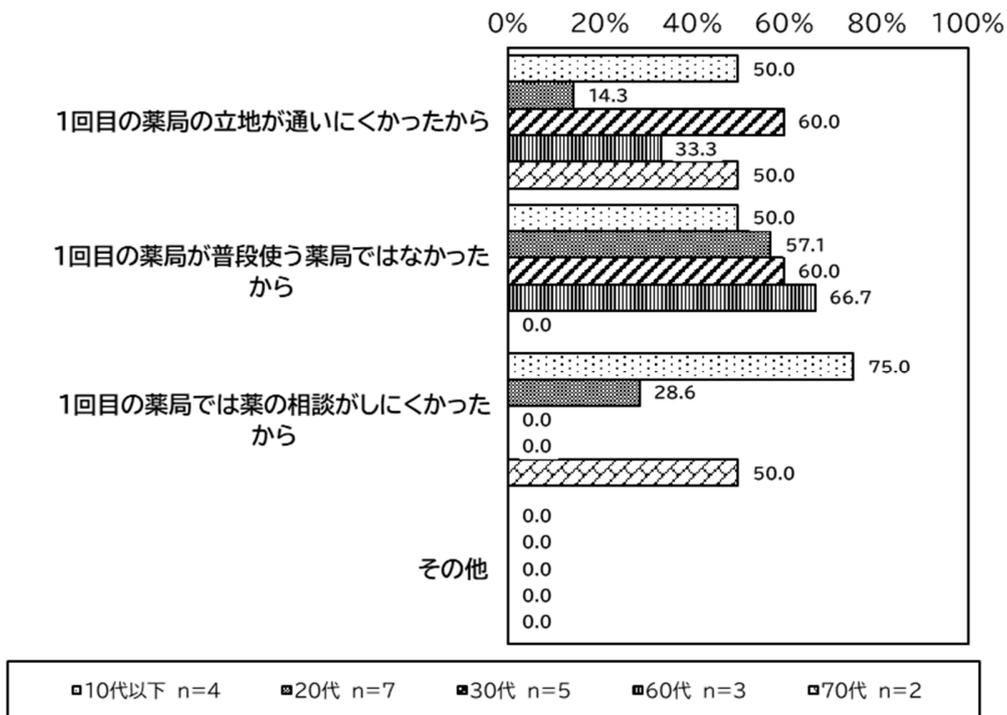
① 薬局を変更した理由（1回目から薬局を変更した患者のみ）

薬局を変更した理由については、「1回目の薬局が普段使う薬局ではなかったから」が最も多く54.5%、次いで「1回目の薬局の立地が通いにくかったから」が多く36.4%であった。

図表 6-43 薬局を変更した理由（複数回答）
（1回目から薬局を変更した患者のみ）
（性別）



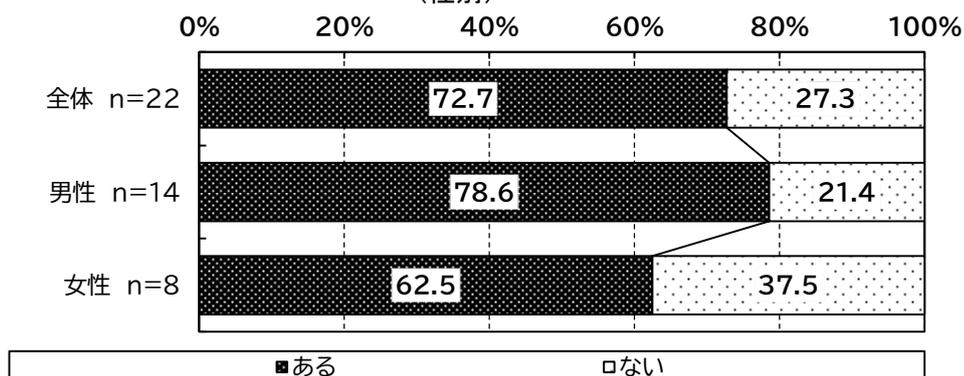
図表 6-44 薬局を変更した理由（複数回答）
（1回目から薬局を変更した患者のみ）
（年代別）



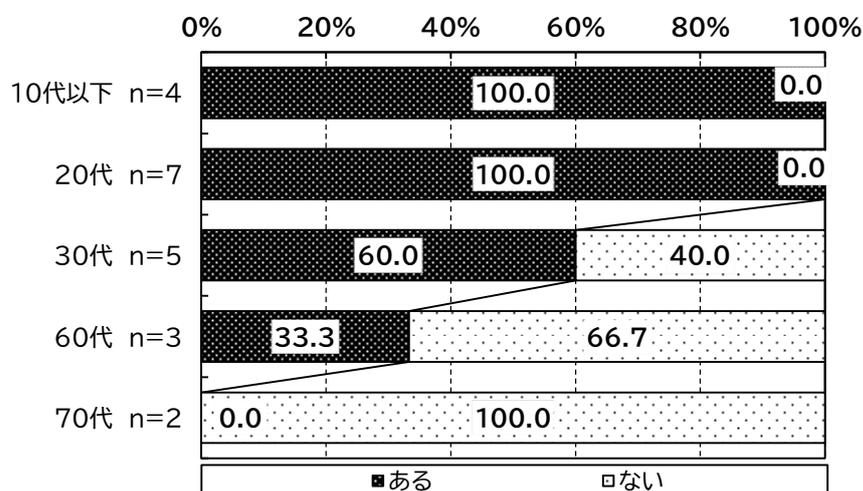
② 2回目以降のリフィル時に、薬剤師から受診が必要と言われた経験（1回目から薬局を変更した患者のみ）

2回目以降のリフィル時に薬剤師から受診が必要と言われた経験については、「ある」が72.7%、「ない」が27.3%であった。

図表 6-45 2回目以降のリフィル時に、薬剤師から受診が必要と言われた経験（1回目から薬局を変更した患者のみ）
（性別）



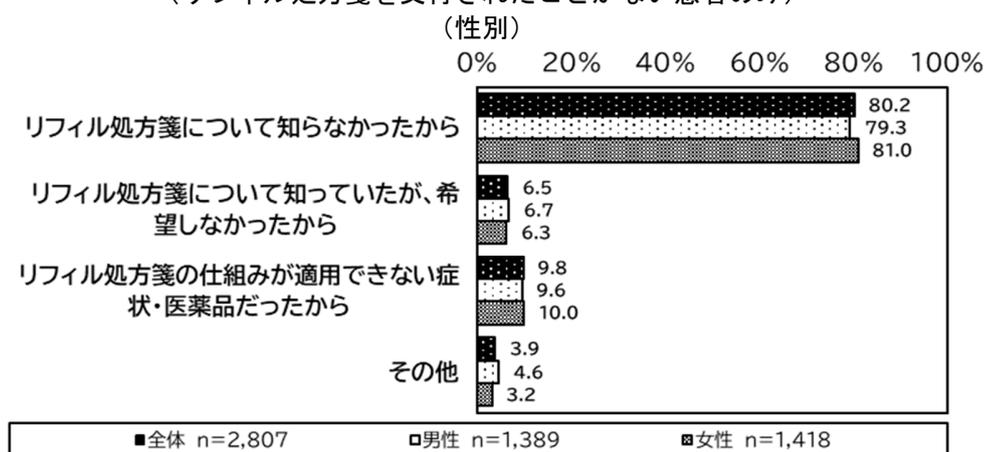
図表 6-46 2回目以降のリフィル時に、薬剤師から受診が必要と言われた経験（1回目から薬局を変更した患者のみ）
（年代別）



(8) リフィル処方箋が交付されていない理由（リフィル処方箋を交付されたことがない患者のみ）

リフィル処方箋が交付されていない理由については、「リフィル処方箋について知らなかったから」が最も多く80.2%、次いで「リフィル処方箋の仕組みが適用できない症状・医薬品だったから」が多く9.8%であった。

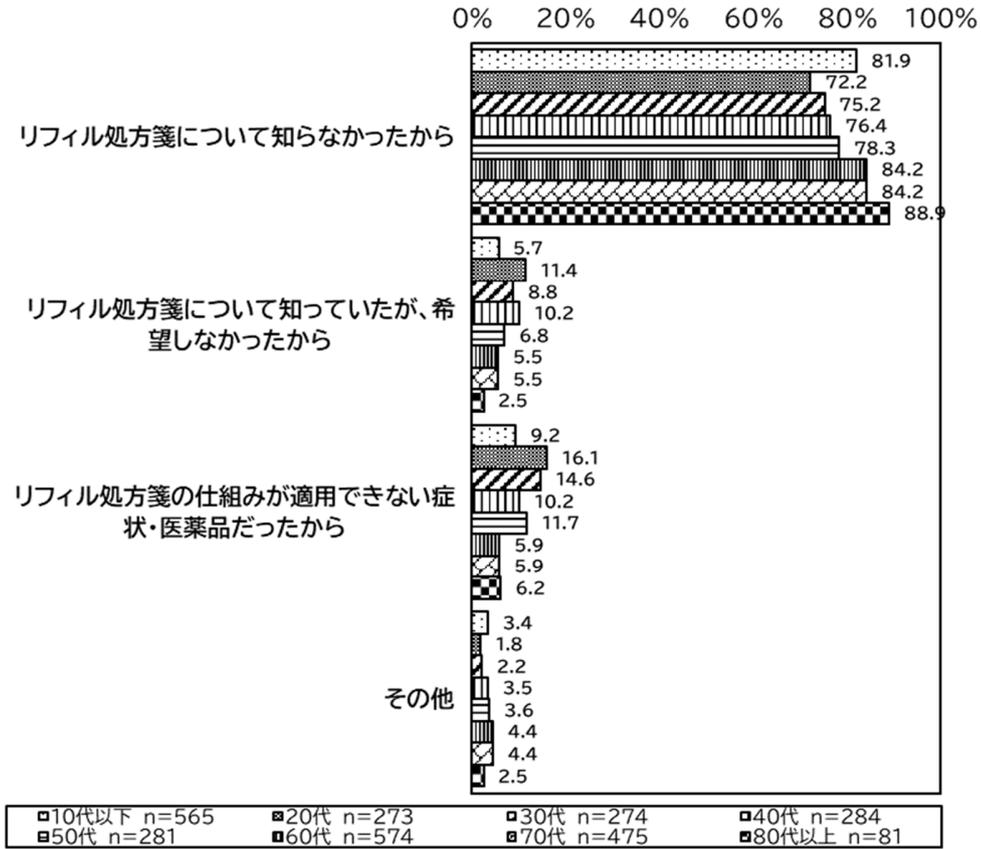
図表 6-47 リフィル処方箋が交付されていない理由（複数回答）
（リフィル処方箋を交付されたことがない患者のみ）



【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・定期的な受診、服薬ではないから
- ・当医院ではやっていない、対応していないと断られた
- ・交付されているかどうかわからない
- ・理由はわからない など

図表 6-48 リフィル処方箋が交付されていない理由（複数回答）
（年代別）



5) これからのリフィル処方箋の利用意向

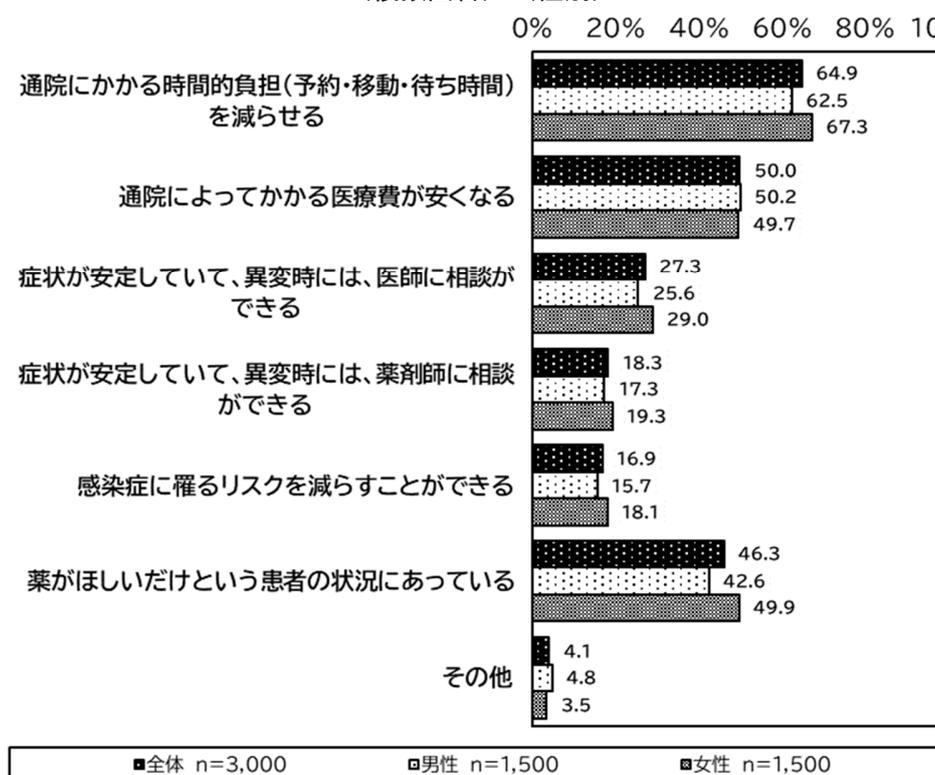
(1) リフィル処方箋のメリット・デメリットと、それらを踏まえた今後の利用意向

① リフィル処方箋を使用することについて、メリットになると感じるもの

リフィル処方箋を使用するメリットについては、複数回答では「通院にかかる時間的負担（予約・移動・待ち時間）を減らせる」が最も多く64.9%、次いで「通院によってかかる医療費が安くなる」が多く50.0%であった。

最もメリットに感じるものを一つ回答では、「通院にかかる時間的負担（予約・移動・待ち時間）を減らせる」が最も多く40.9%、次いで「薬がほしだけという患者の状況にあっている」が多く23.1%であった。

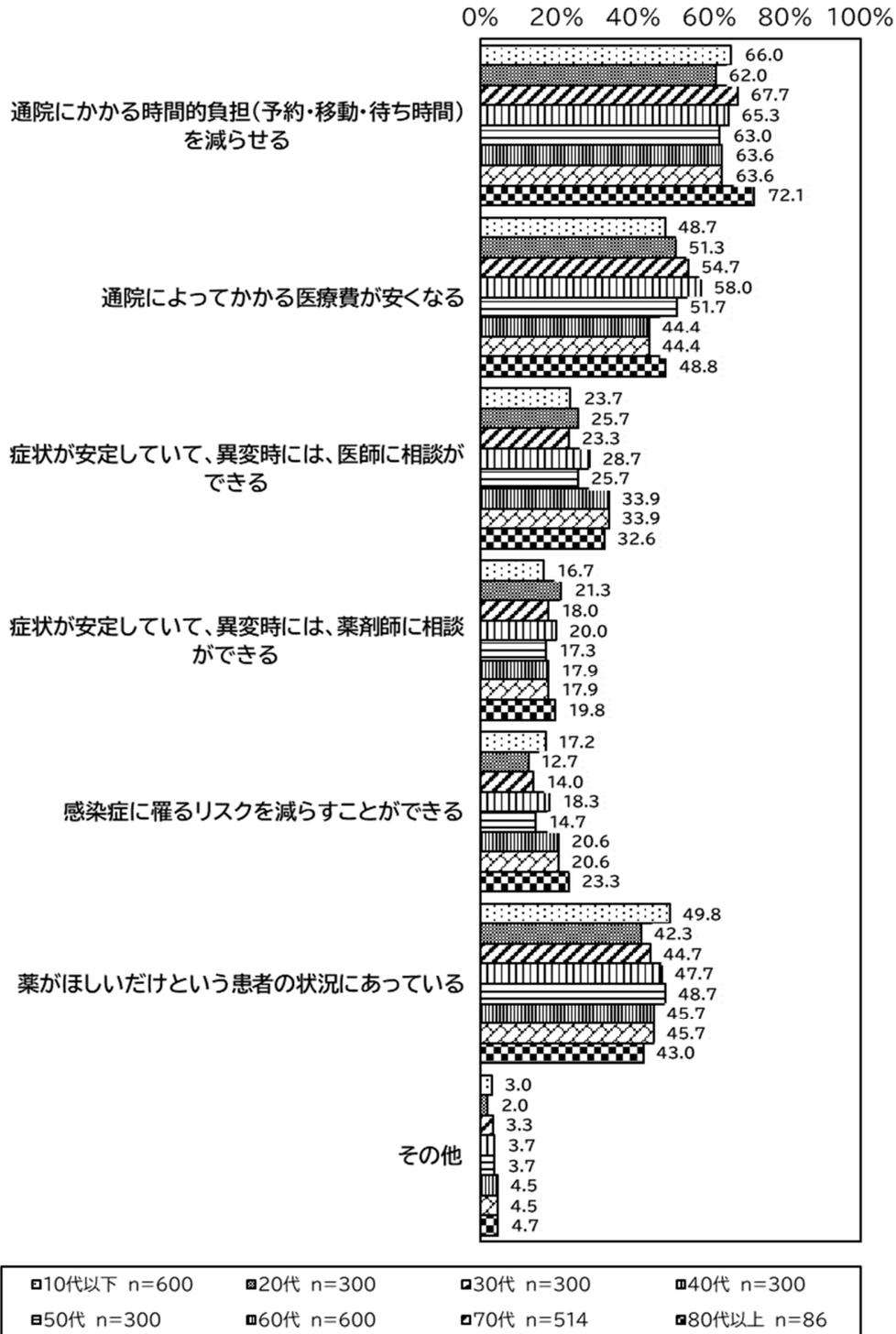
図表 6-49 リフィル処方箋を使用することについて、メリットになると感じるもの（複数回答）（性別）



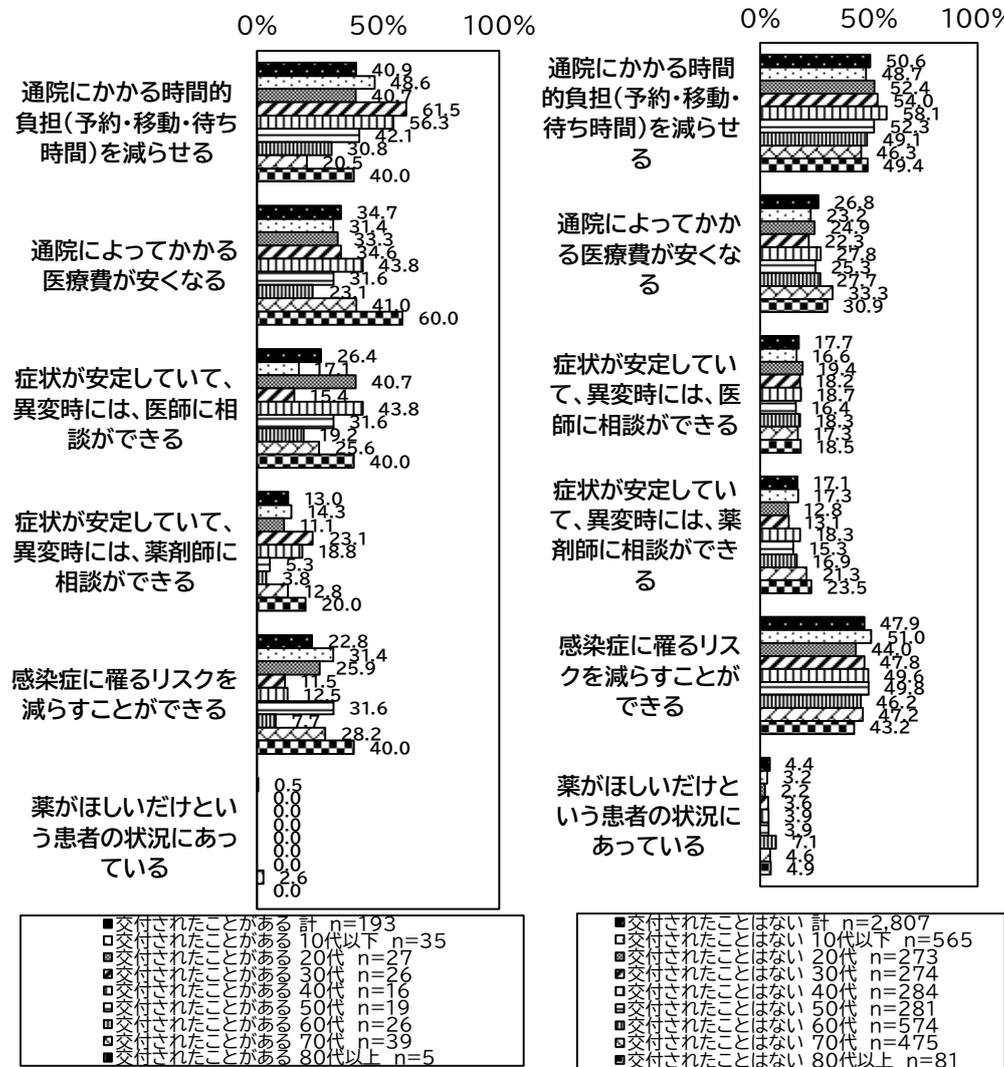
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・メリットはわからない
- ・リフィル処方箋の制度について知らない
- ・特にメリットとを感じるものはない など

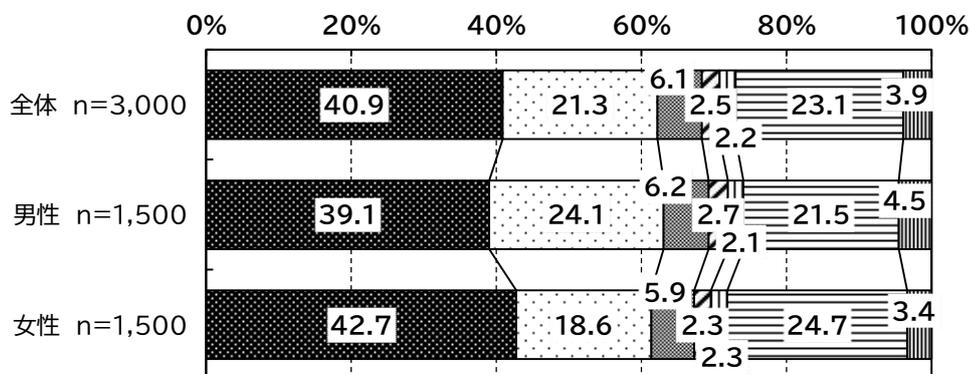
図表 6-50 リフィル処方箋を使用することについて、メリットになると感じるもの（複数回答）（年代別）



図表 6-51 リフィル処方箋を使用することについて、メリットになると感じるもの（複数回答）（リフィル処方箋を交付された経験別・年代別）

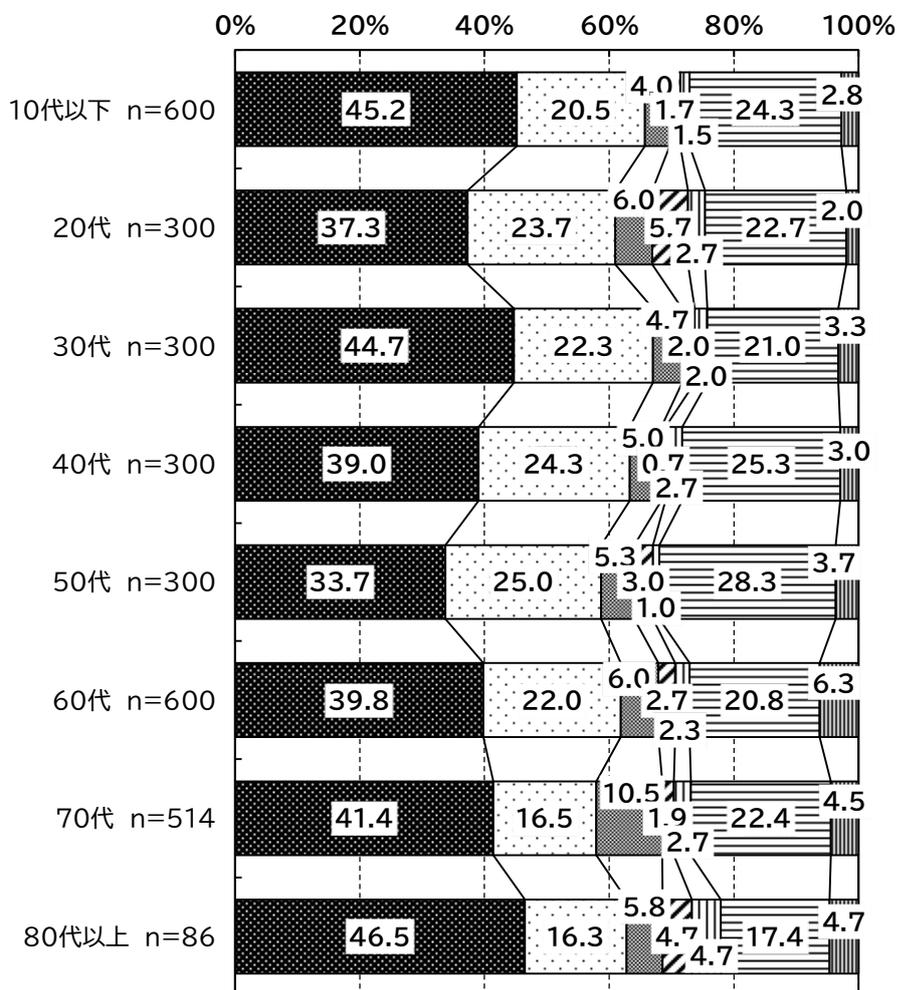


図表 6-52 リフィル処方箋を使用することについて、最もメリットになると感じるもの
（性別）



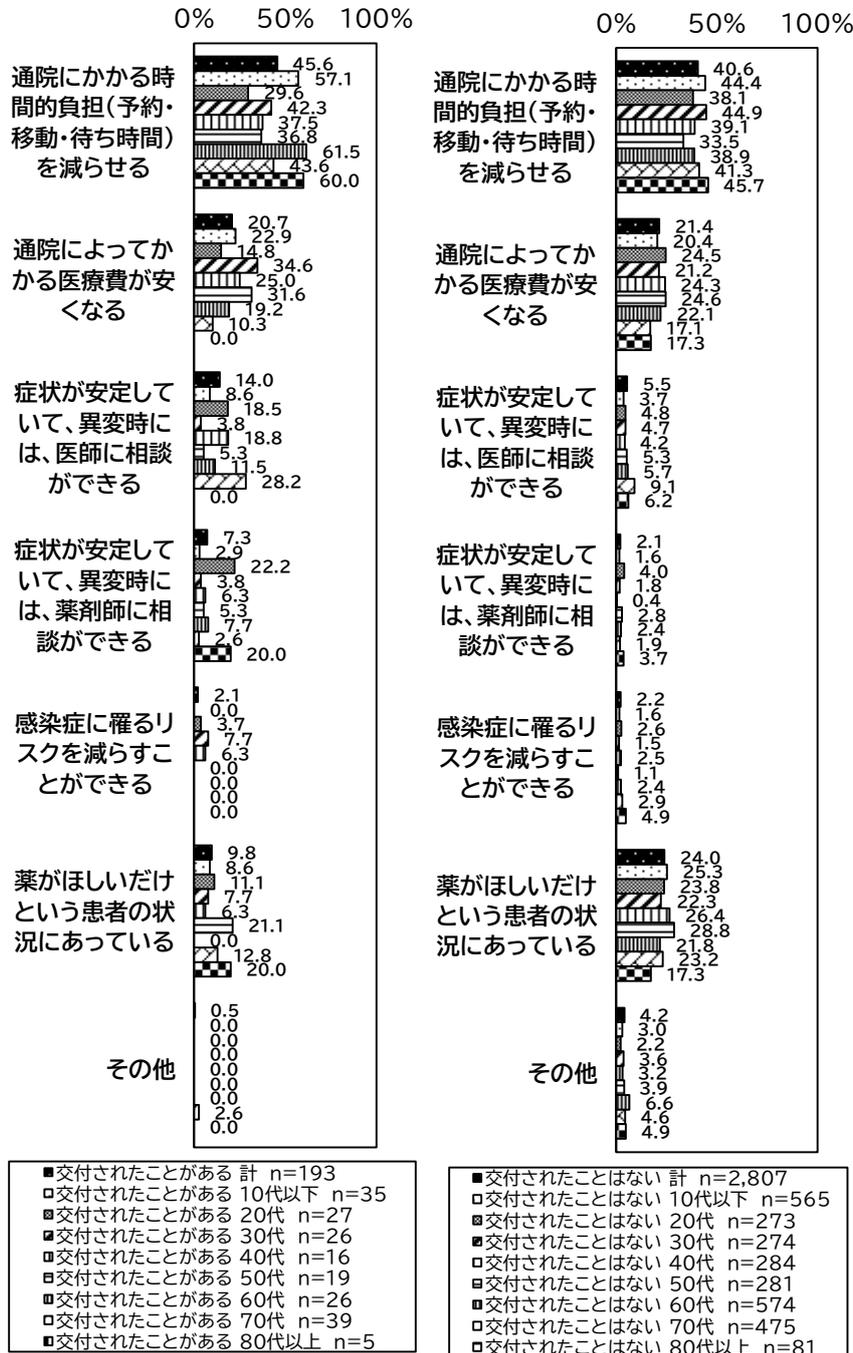
- 通院にかかる時間的負担(予約・移動・待ち時間)を減らせる
- 通院によってかかる医療費が安くなる
- 症状が安定していて、異変時には、医師に相談ができる
- 症状が安定していて、異変時には、薬剤師に相談ができる
- 感染症に罹るリスクを減らすことができる
- 薬がほしいだけという患者の状況にあっている
- その他

図表 6-53 リフィル処方箋を使用することについて、最もメリットになると感じるもの（年代別）



- 通院にかかる時間的負担(予約・移動・待ち時間)を減らせる
- 通院によってかかる医療費が安くなる
- 症状が安定していて、異変時には、医師に相談ができる
- 症状が安定していて、異変時には、薬剤師に相談ができる
- 感染症に罹るリスクを減らすことができる
- 薬がほしいだけという患者の状況にあっている
- その他

図表 6-54 リフィル処方箋を使用することについて、最もメリットになると感じるもの（年代別）（リフィル処方箋を交付された経験別・年代別）

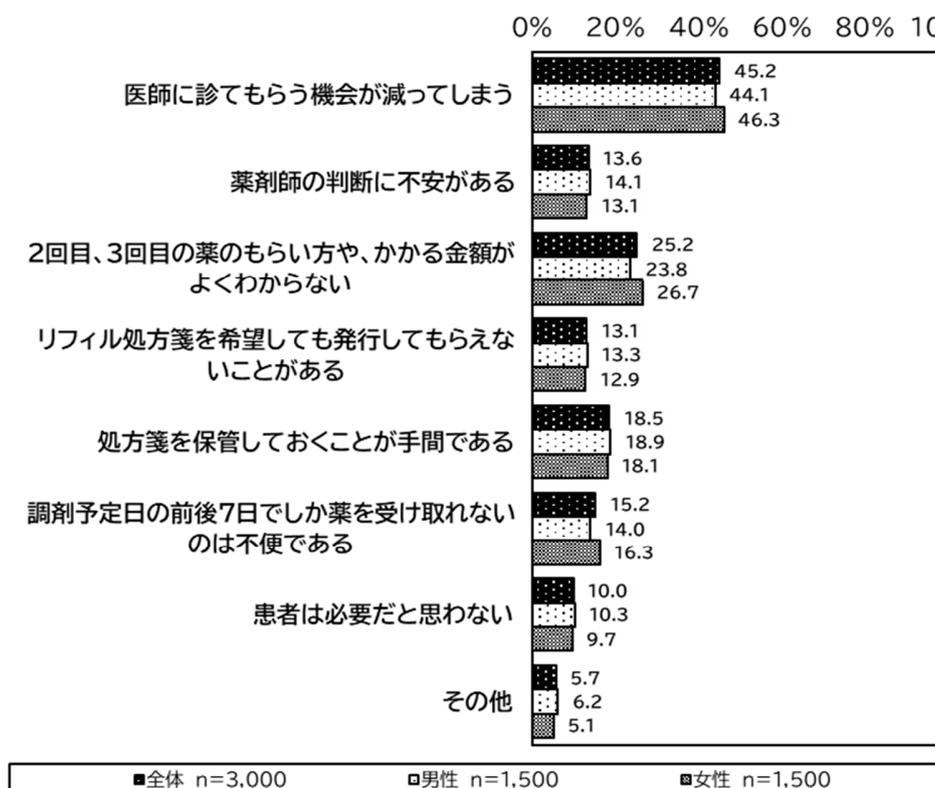


② リフィル処方箋を使用することについて、デメリットになると感じるもの

リフィル処方箋を利用することについてデメリットになると感じるものについては、複数回答では「医師に診てもらえる機会が減ってしまう」が最も多く45.2%、次いで「2回目、3回目の薬のもらい方や、かかる金額がよくわからない」が多く25.2%であった。

最もデメリットと感じるものを一つ選択では、「医師に診てもらえる機会が減ってしまう」が最も多く39.1%、次いで「2回目、3回目の薬のもらい方や、かかる金額がよくわからない」が多く14.9%であった。

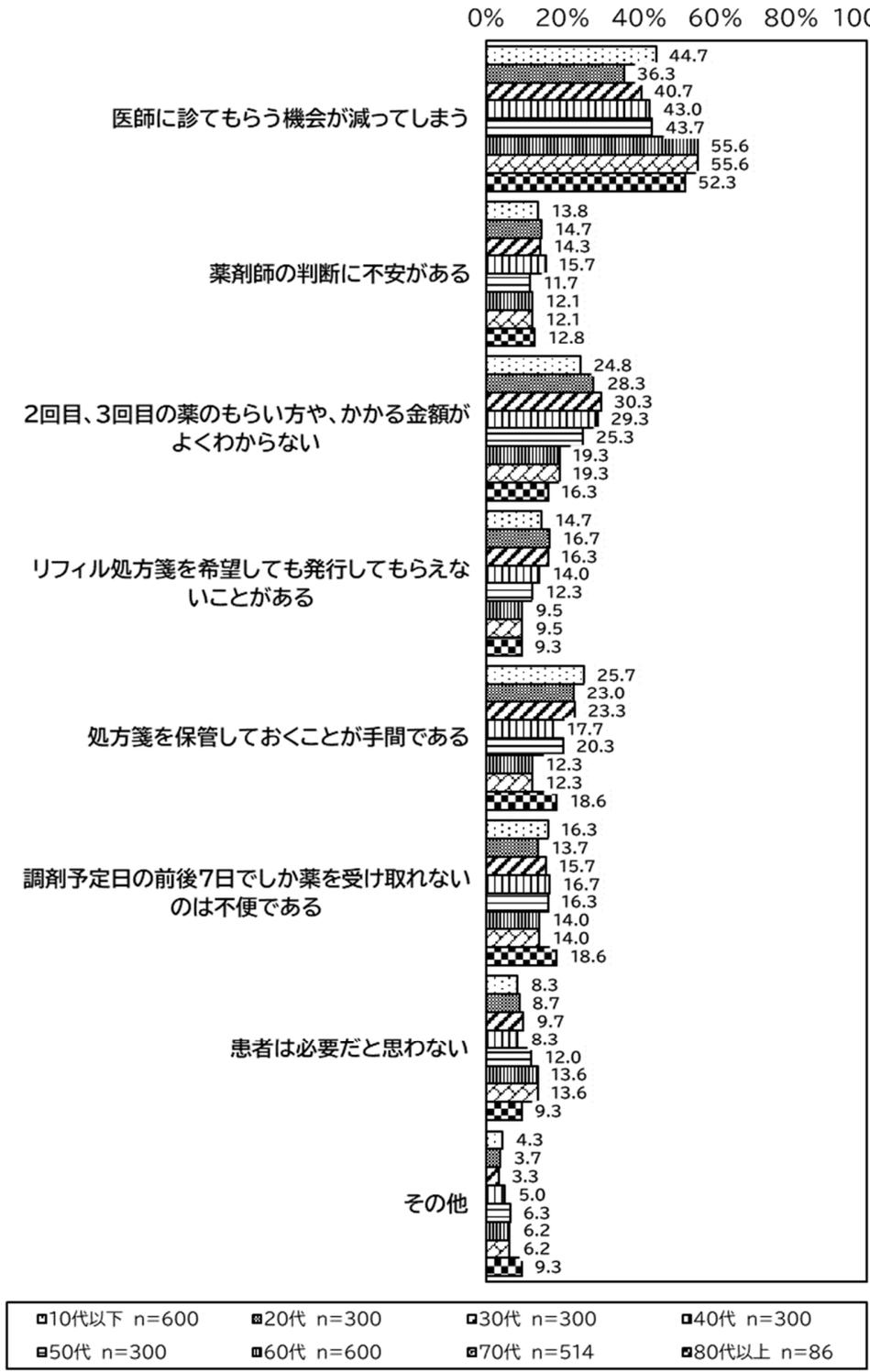
図表 6-55 リフィル処方箋を使用することについて、デメリットになると感じるもの（複数回答）（性別）



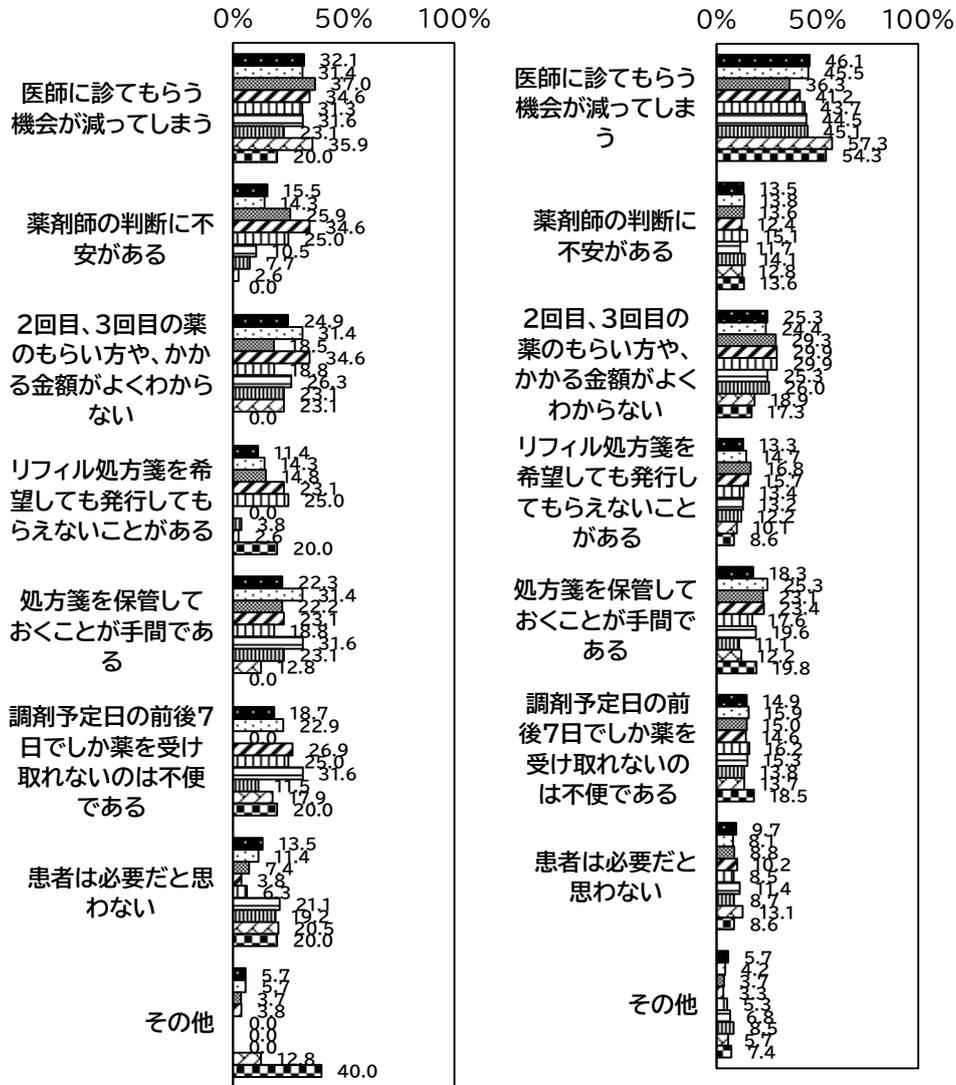
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・デメリットはとくに感じない
- ・デメリットはわからない
- ・医師にリフィル処方箋を依頼しにくい
- ・リフィル処方箋の制度がよくわからない など

図表 6-56 リフィル処方箋を使用することについて、デメリットになると感じるもの（複数回答）（年代別）



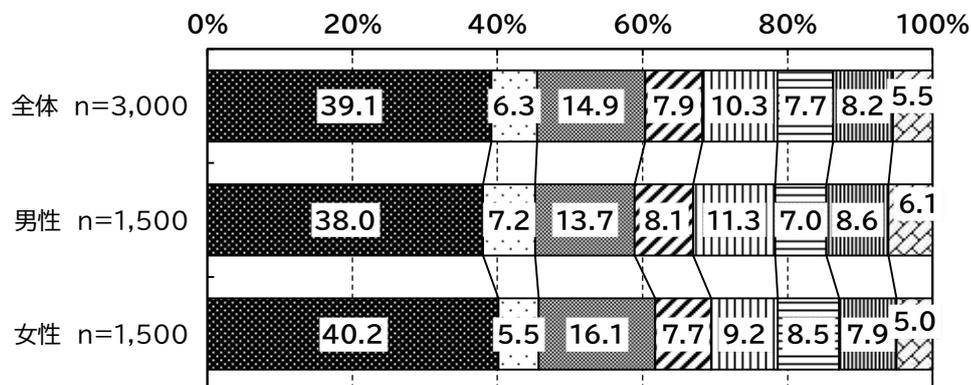
図表 6-57 リフィル処方箋を使用することについて、デメリットになると感じるもの（複数回答）（リフィル処方箋を交付された経験別・年代別）



交付されたことがある 計 n=193
 交付されたことがある 10代以下 n=35
 交付されたことがある 20代 n=27
 交付されたことがある 30代 n=26
 交付されたことがある 40代 n=16
 交付されたことがある 50代 n=19
 交付されたことがある 60代 n=26
 交付されたことがある 70代 n=39
 交付されたことがある 80代以上 n=5

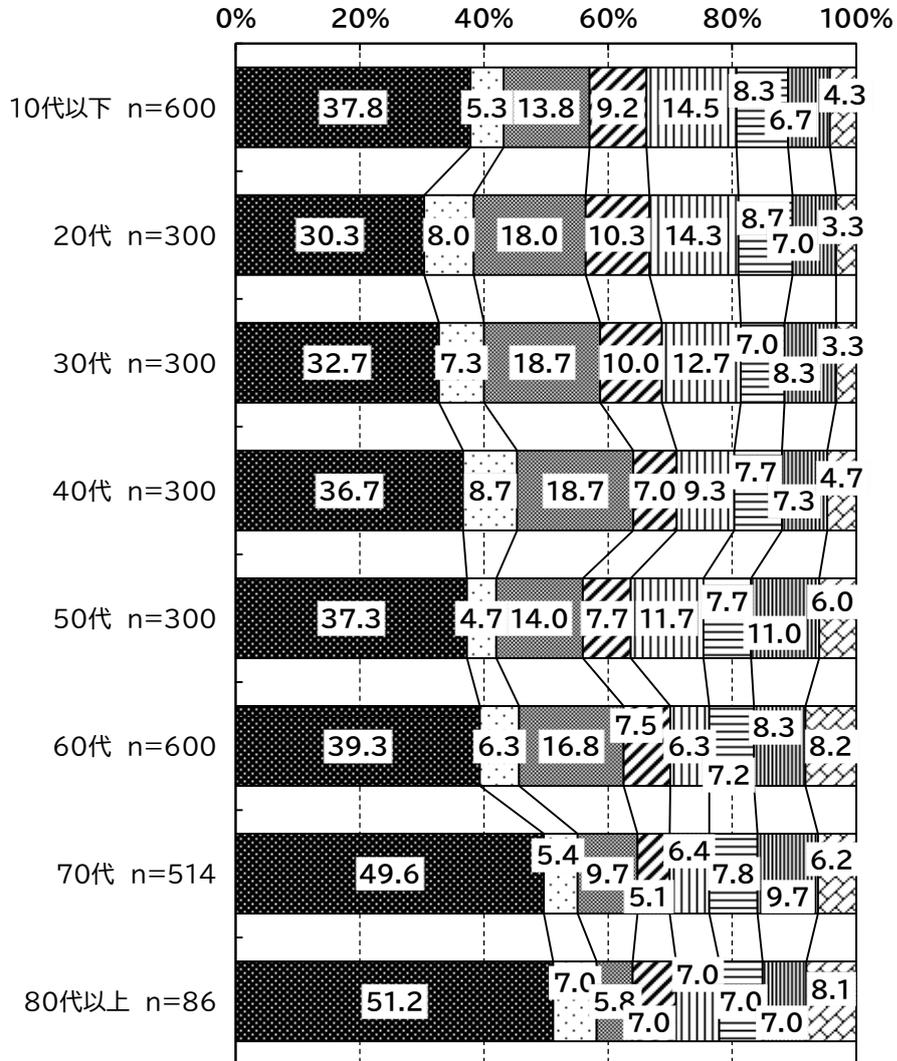
交付されたことはない 計 n=2,807
 交付されたことはない 10代以下 n=565
 交付されたことはない 20代 n=273
 交付されたことはない 30代 n=274
 交付されたことはない 40代 n=284
 交付されたことはない 50代 n=281
 交付されたことはない 60代 n=574
 交付されたことはない 70代 n=475
 交付されたことはない 80代以上 n=81

図表 6-58 リフィル処方箋を使用することについて、最もデメリットになると感じるもの（性別）



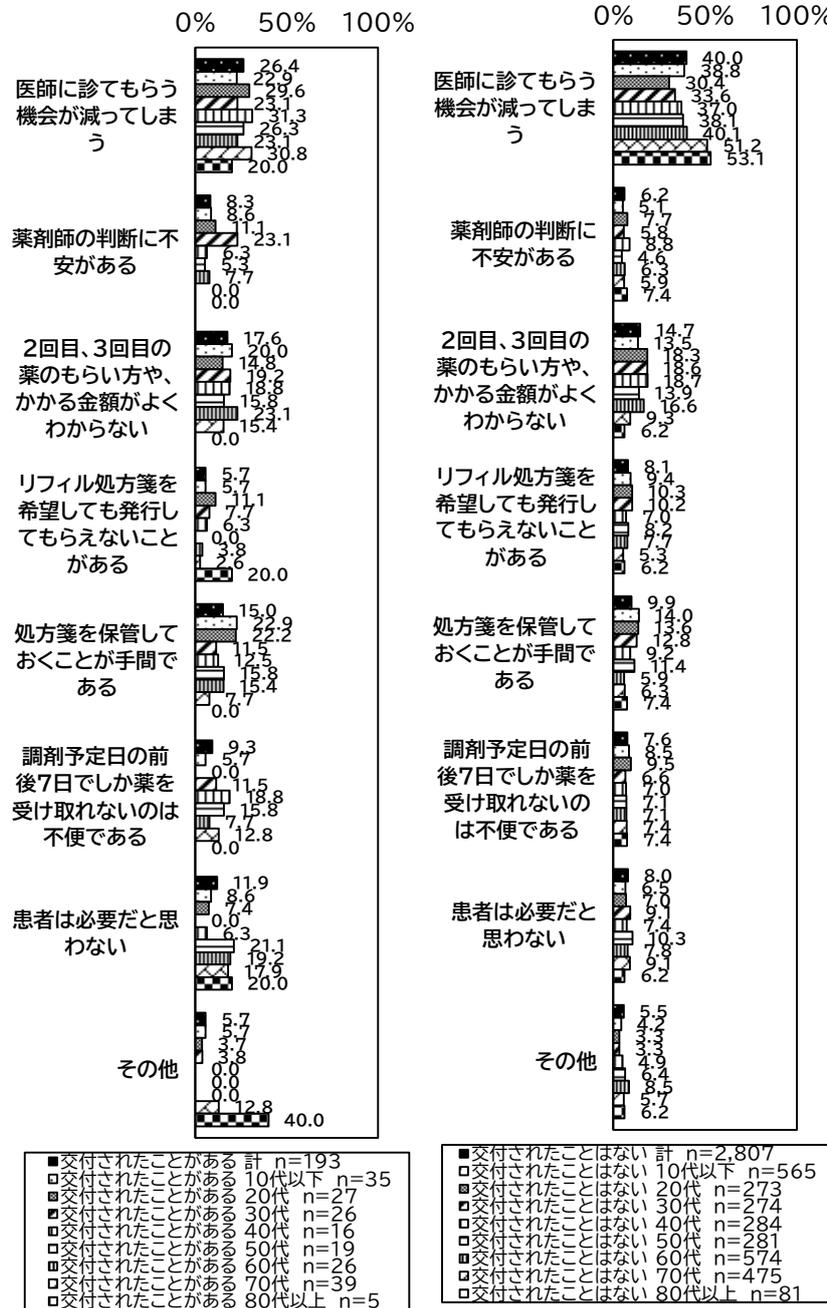
- 医師に診てもらえる機会が減ってしまう
- 薬剤師の判断に不安がある
- 2回目、3回目の薬のもらい方や、かかる金額がよくわからない
- リフィル処方箋を希望しても発行してもらえないことがある
- 処方箋を保管しておくことが手間である
- 調剤予定日の前後7日でしか薬を受け取れないのは不便である
- 患者は必要だと思わない
- その他

図表 6-59 リフィル処方箋を使用することについて、最もデメリットになると感じるもの（年代別）



- 医師に診てもらえる機会が減ってしまう
- 薬剤師の判断に不安がある
- 2回目、3回目の薬のもらい方や、かかる金額がよくわからない
- リフィル処方箋を希望しても発行してもらえないことがある
- 処方箋を保管しておくことが手間である
- 調剤予定日の前後7日でしか薬を受け取れないのは不便である
- 患者は必要だと思わない
- その他

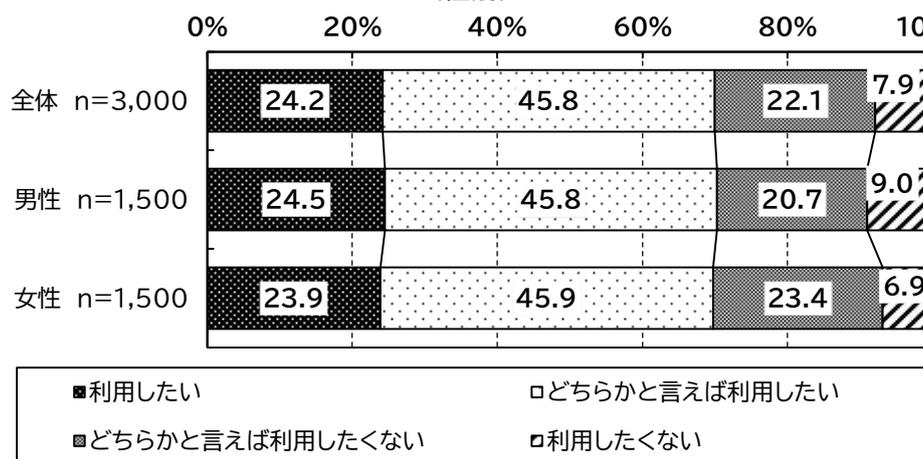
図表 6-60 リフィル処方箋を使用することについて、最もデメリットになると感じるもの（リフィル処方箋を交付された経験別・年代別）



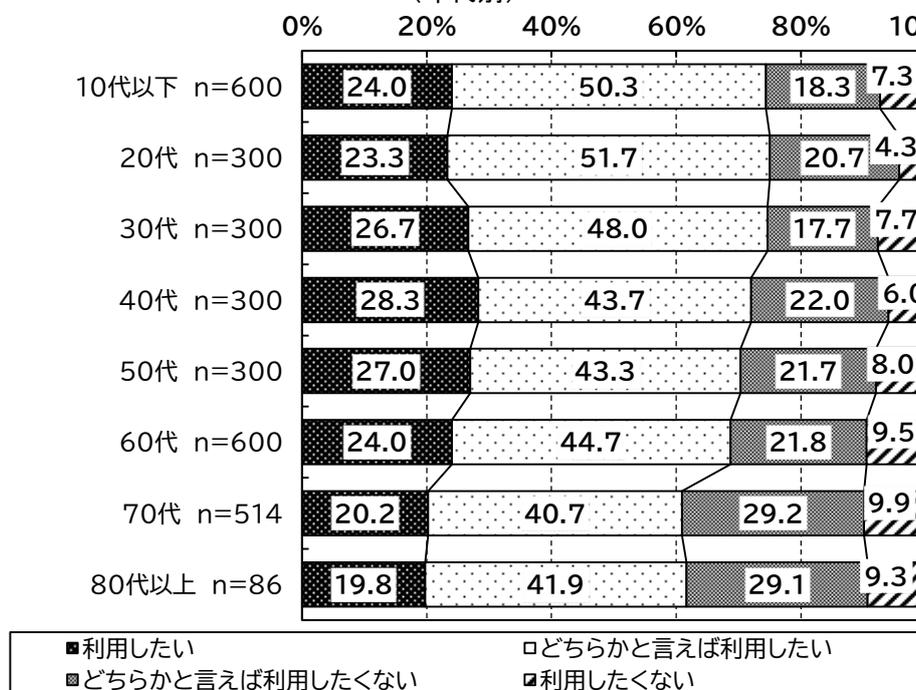
③ 今後、病状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいか

今後、症状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいかについては、「利用したい」が24.2%、「どちらかと言えば利用したい」が45.8%、「どちらかと言えば利用したくない」が22.1%、「利用したくない」が7.9%であった。

図表 6-61 今後、病状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいと思うか
(性別)



図表 6-62 今後、病状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいと思うか
(年代別)



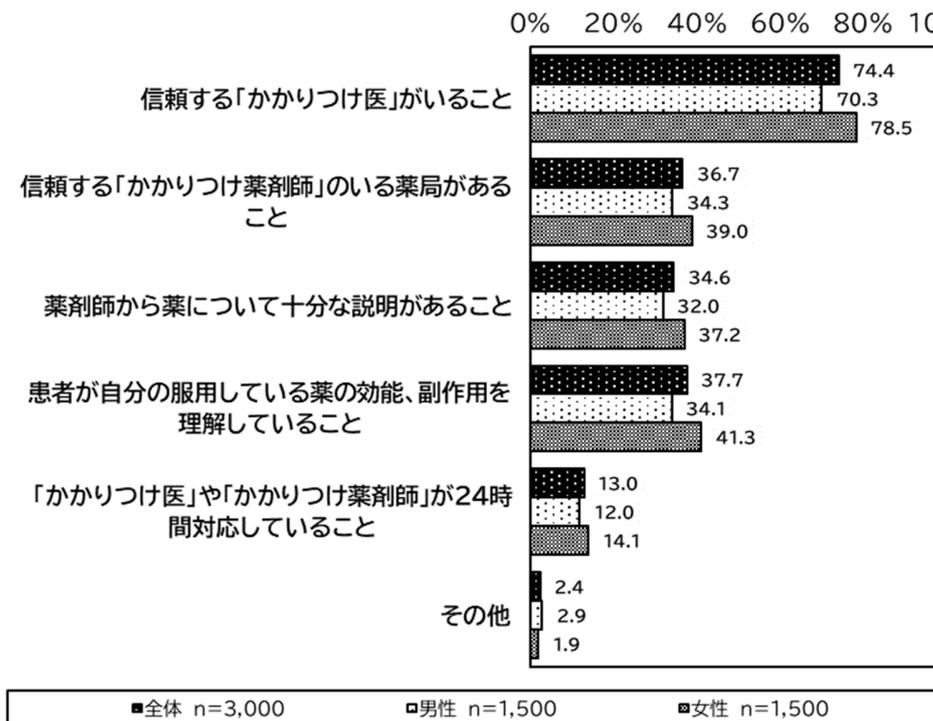
図表 6-63 今後、病状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいと思うか
（リフィル処方箋を交付された経験別・年代別）



(2) リフィル処方を利用するにあたり必要だと感じること

リフィル処方箋を利用するにあたり必要だと感じることについては、「信頼する「かかりつけ医」がいること」が最も多く74.4%、次いで「患者が自分の服用している薬の効能、副作用を理解していること」が多く37.7%であった。

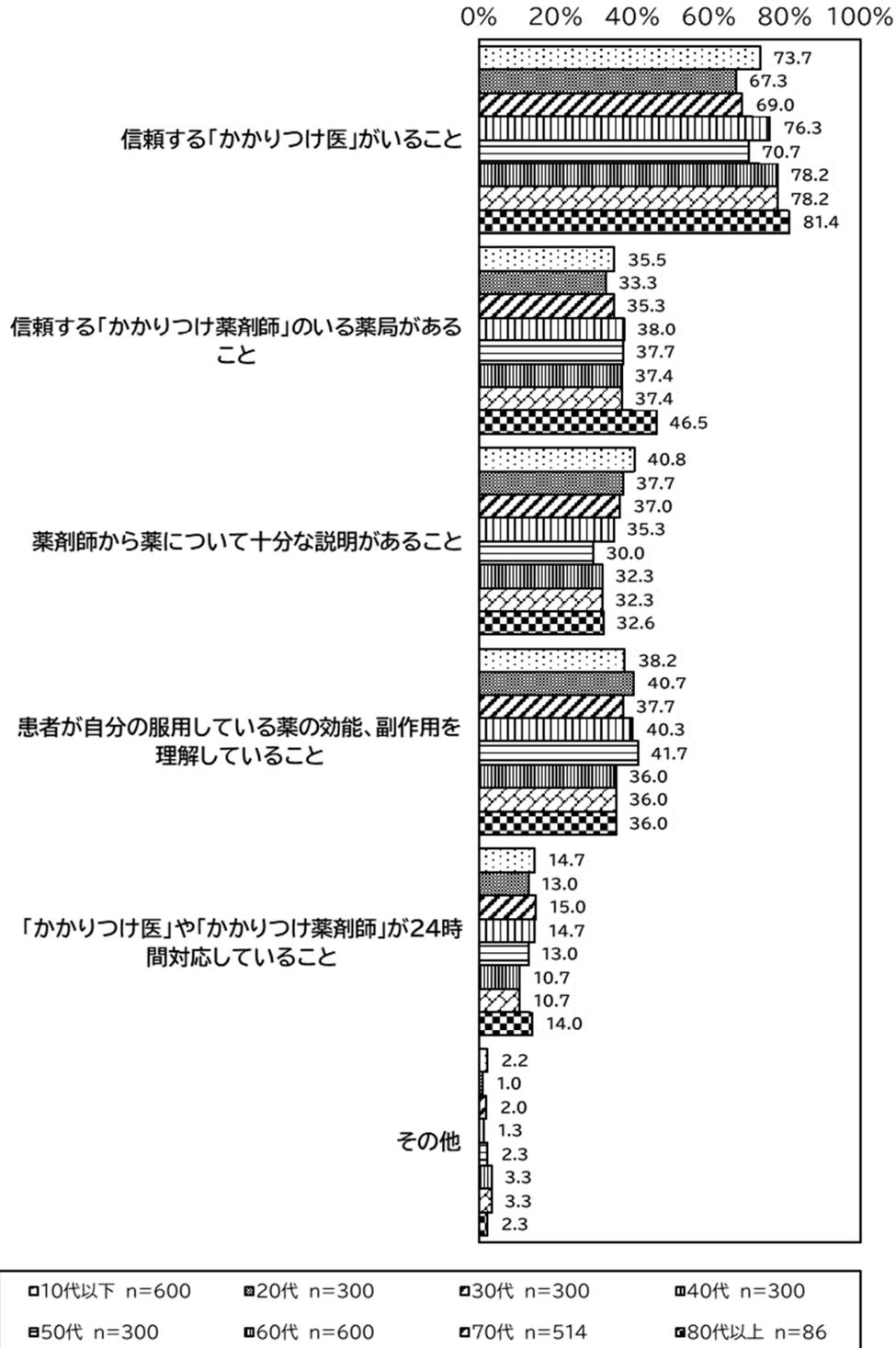
図表 6-64 リフィル処方を利用するにあたり必要だと感じることは何か（複数回答）
（性別）



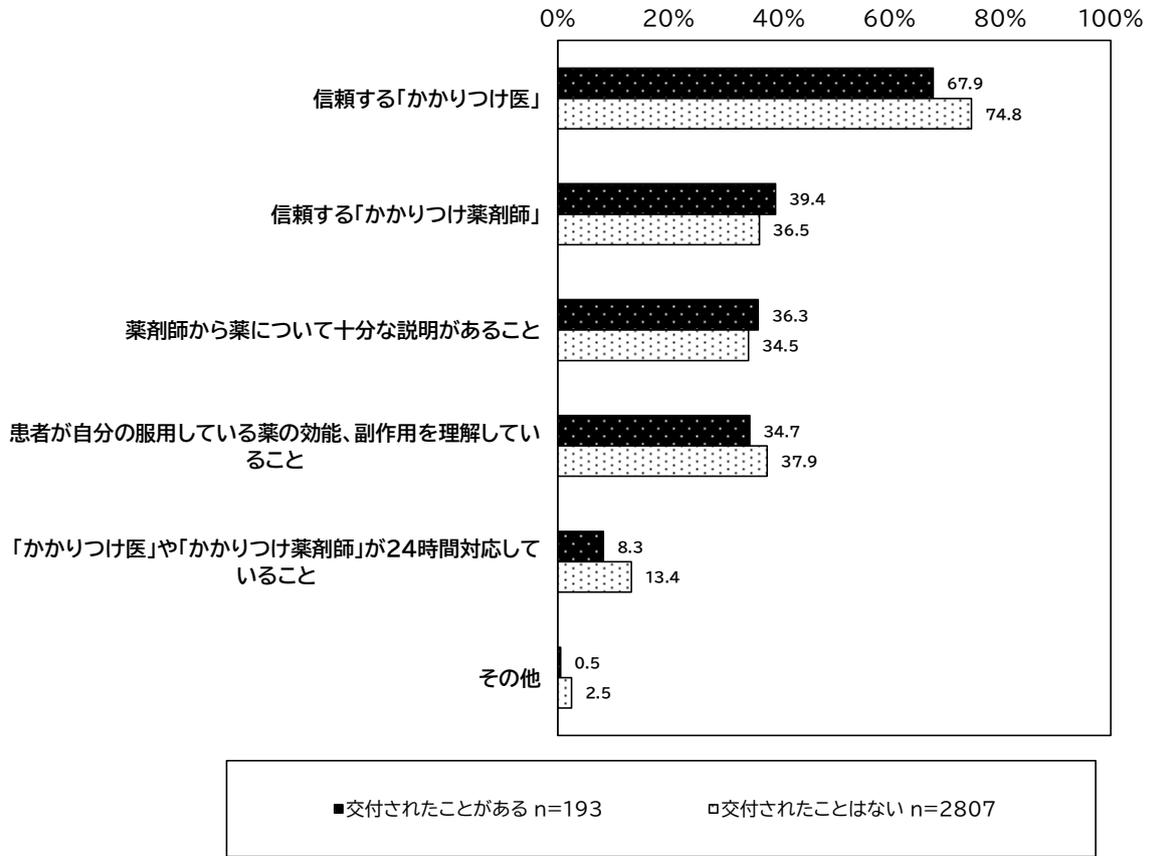
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・必要なことはわからない
- ・医師がリフィル処方箋に積極的になること
- ・患者本人が制度について理解する
- ・患者本人が処方箋を紛失しない
- ・制度について周知される
- ・そもそも必要性を感じない
- ・利用しない など

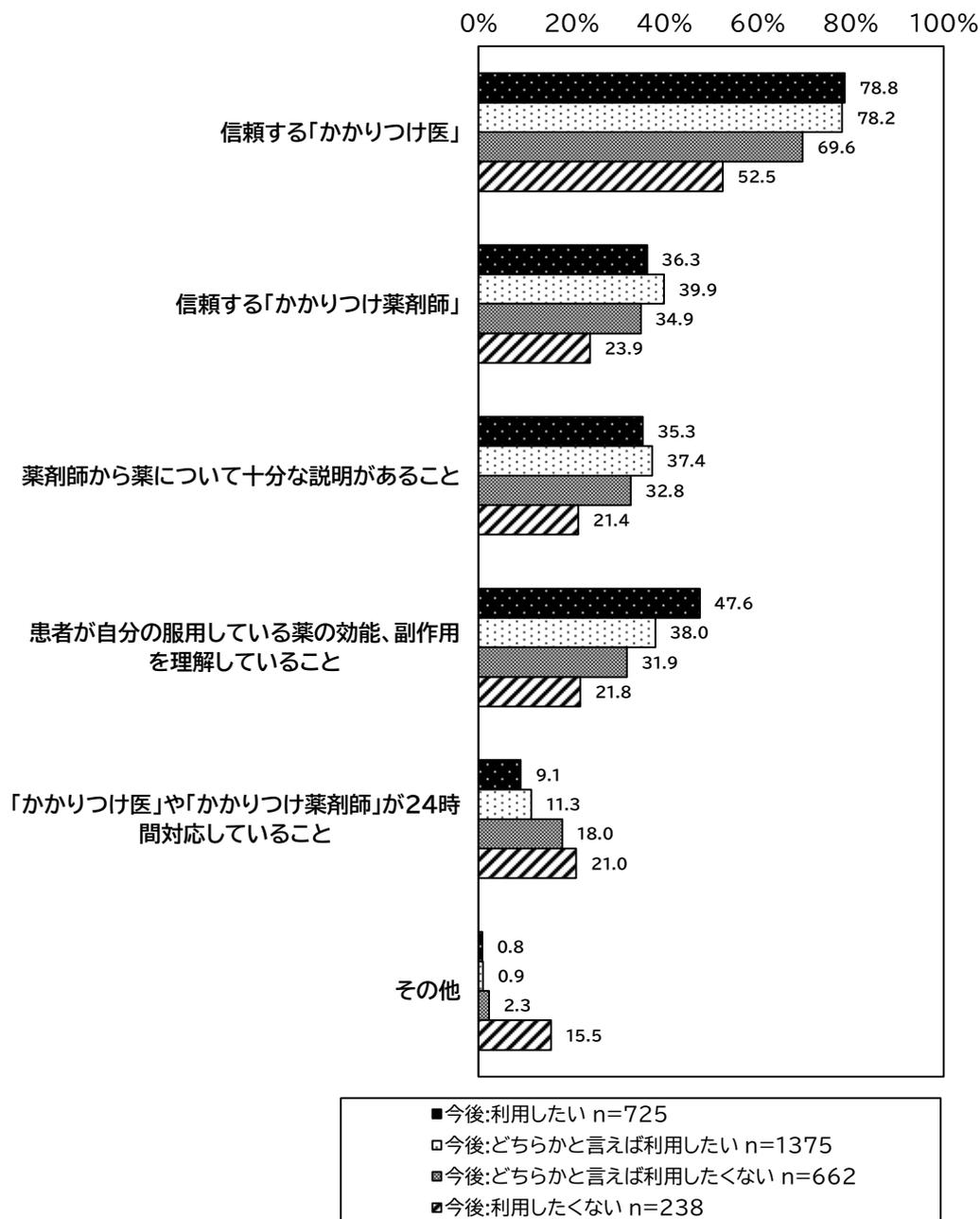
図表 6-65 リフィル処方を利用するにあたり必要だと感じることは何か（複数回答）
（年代別）



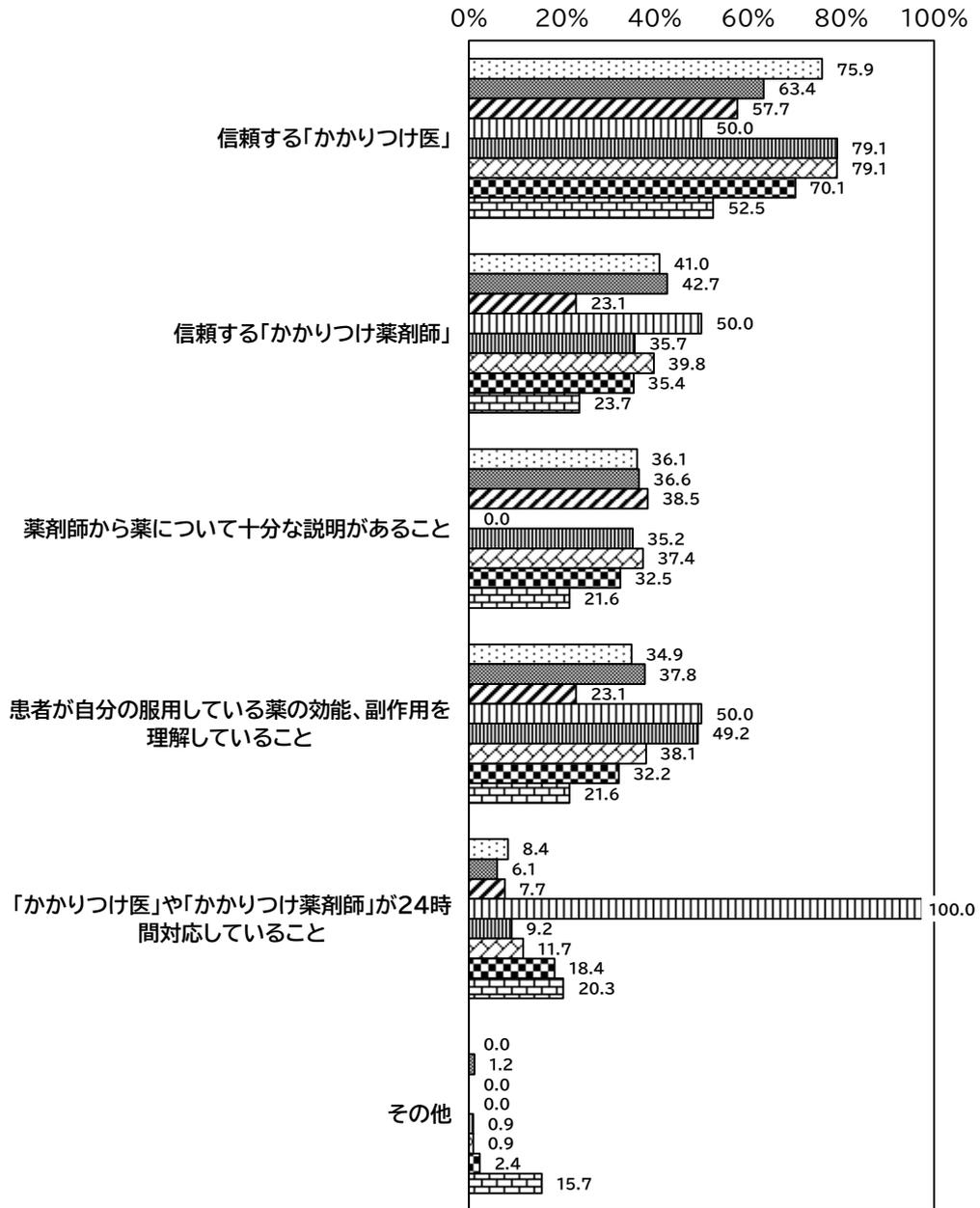
図表 6-66 リフィル処方を利用するにあたり必要だと感じることは何か（複数回答）
（リフィル処方箋を交付された経験別）



図表 6-67 リフィル処方を利用するにあたり必要だと感じることは何か（複数回答）
（今後、症状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいか別）



図表 6-68 リフィル処方を利用するにあたり必要だと感じることは何か（複数回答）
 （リフィル処方箋を交付された経験・今後、症状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいか別）



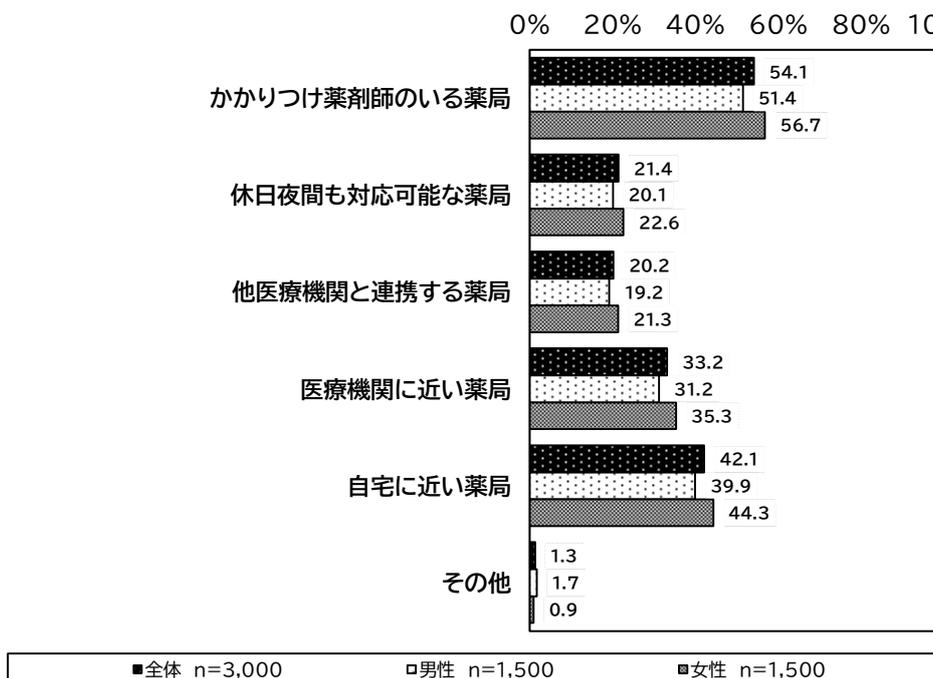
交付されたことがある 今後:利用したい n=83
 交付されたことがある 今後:どちらかと言えば利用したい n=82
 交付されたことがある 今後:どちらかと言えば利用したくない n=26
 交付されたことがある 今後:利用したくない n=2
 交付されたことはない 今後:利用したい n=642
 交付されたことはない 今後:どちらかと言えば利用したい n=1293
 交付されたことはない 今後:どちらかと言えば利用したくない n=636
 交付されたことはない 今後:利用したくない n=236

(3) リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか

リフィル処方箋はどのような薬局で調剤を受けたいかについては、1回目処方（複数回答）では、「かかりつけ薬剤師がいる薬局」が最も多く54.1%、1回目処方（最重要視するもの1つ選択）でも、「かかりつけ薬剤師がいる薬局」が最も多く40.2%であった。

一方で2回目以降処方（複数回答）では、「自宅に近い薬局」が最も多く46.1%、2回目以降処方（最重要視するもの1つ選択）でも、「自宅に近い薬局」が最も多く35.7%であった。

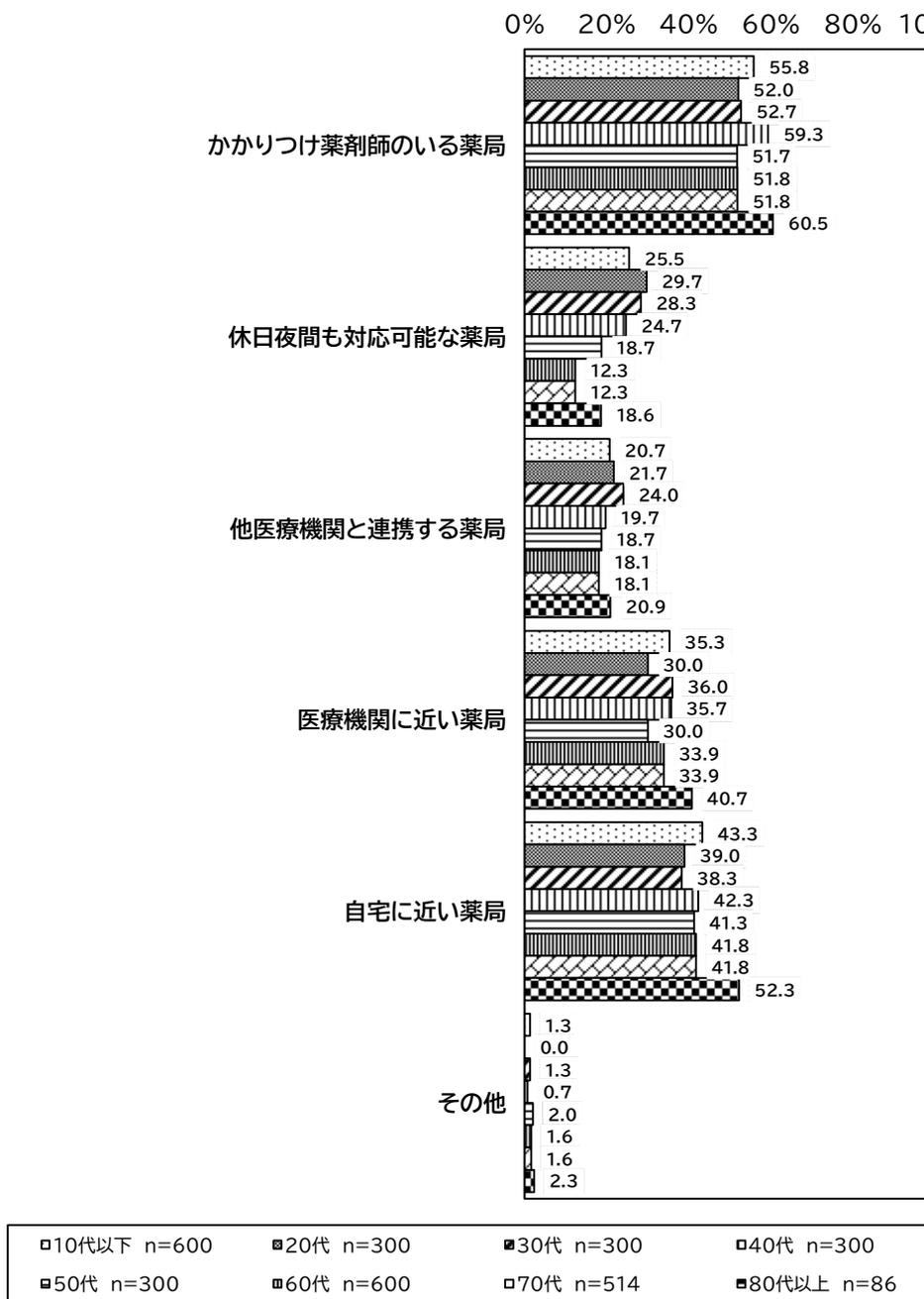
図表 6-69 1回目リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（複数回答）
（性別）



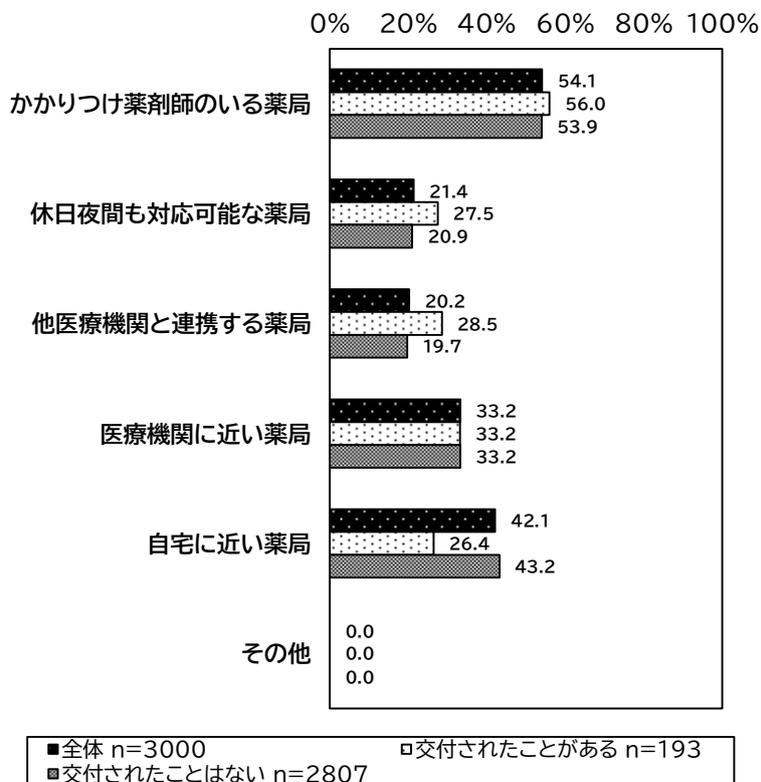
【その他（自由記載）の具体的な内容】

- ・どこかの薬局でも受け付けてもらえるようにしてほしい
- ・ネットで調剤の予約ができ、待ち時間が短い薬局
- ・職場に近い薬局 など

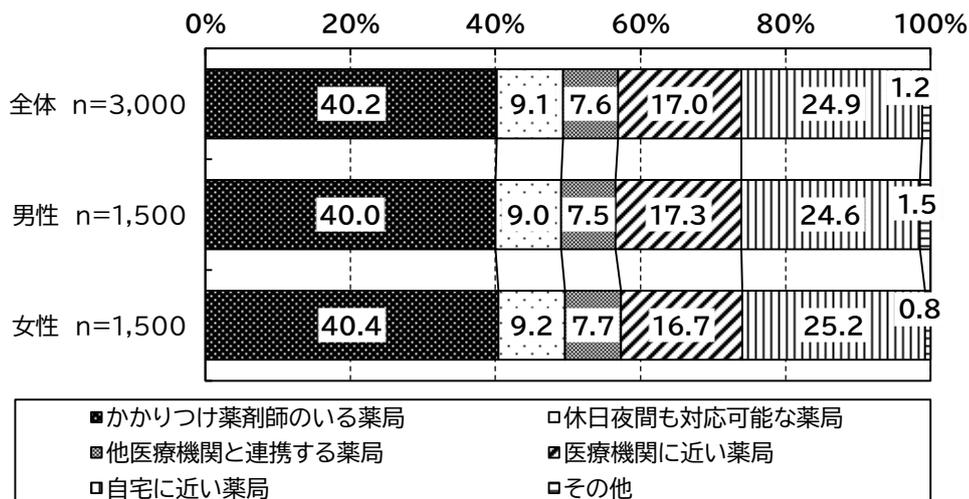
図表 6-70 1回目リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（複数回答）
（年代別）



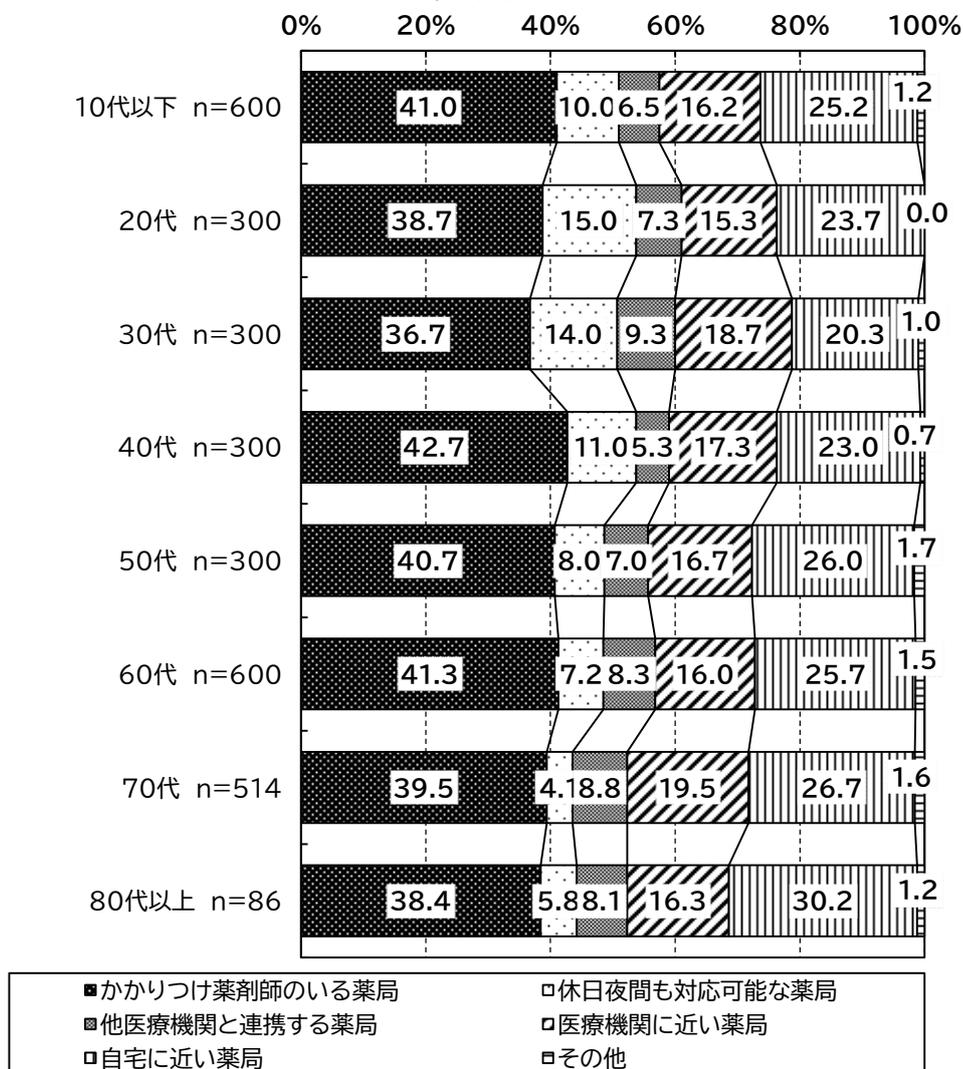
図表 6-71 1回目リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（複数回答）
（リフィル処方箋を交付された経験別）



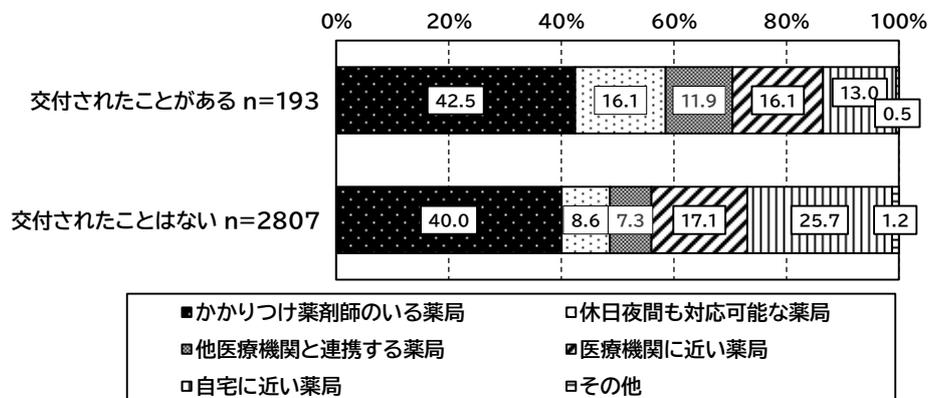
図表 6-72 1回目リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいかで最重視のもの
（性別）



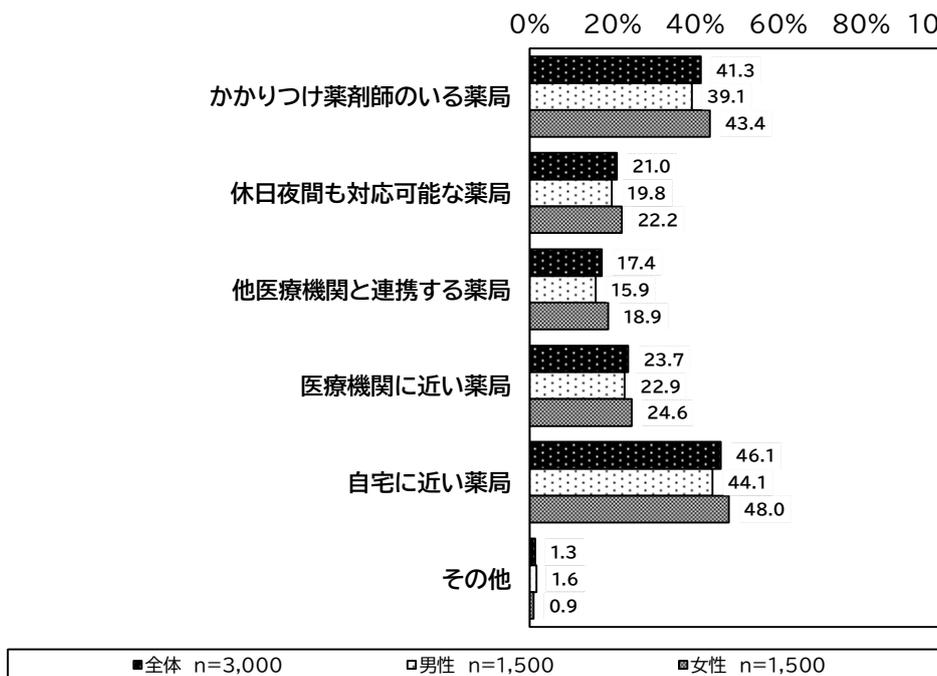
図表 6-73 1回目リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいかで最重視のもの（年代別）



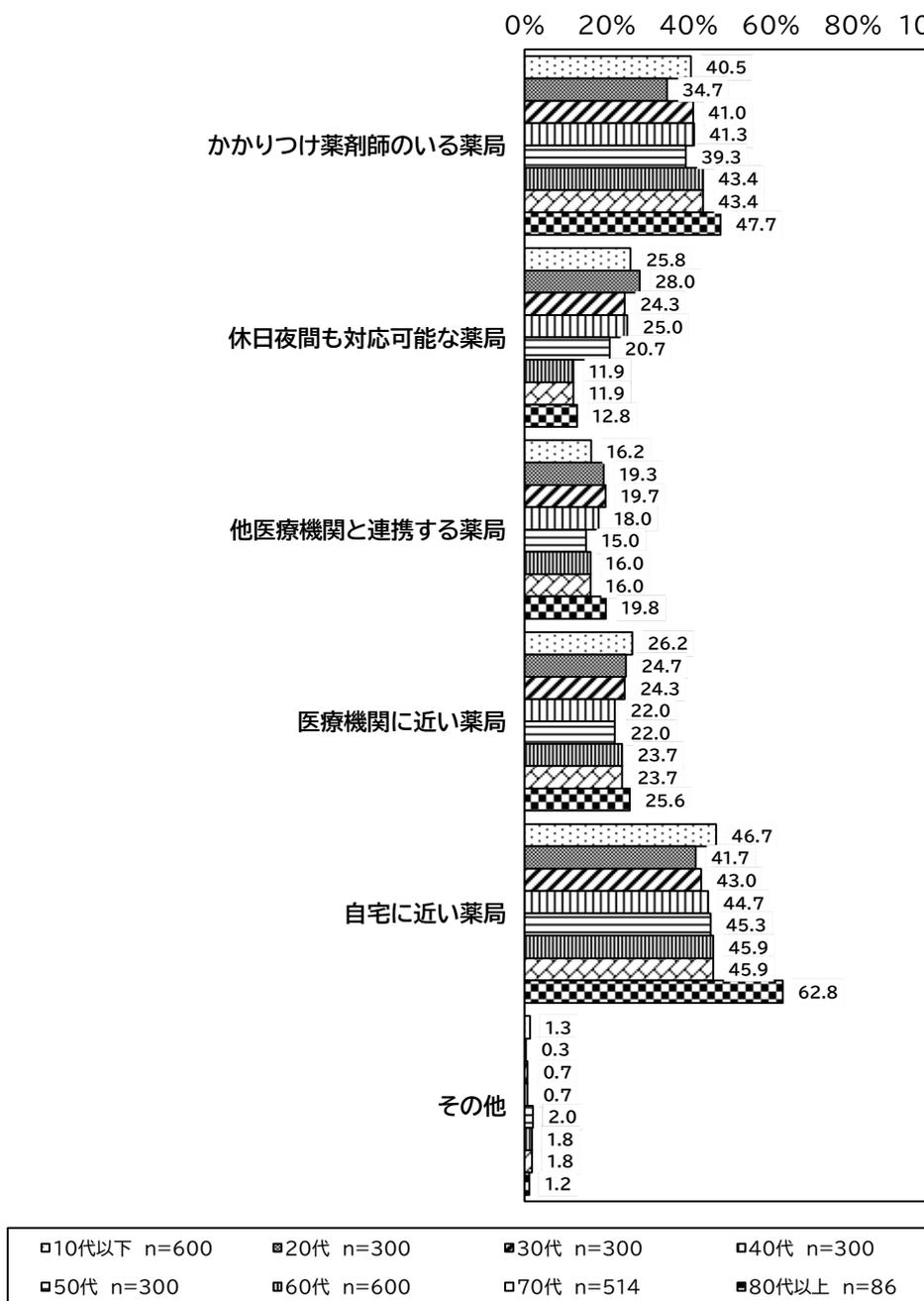
図表 6-74 1回目リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいかで最重視のもの（リフィル処方箋を交付された経験別）



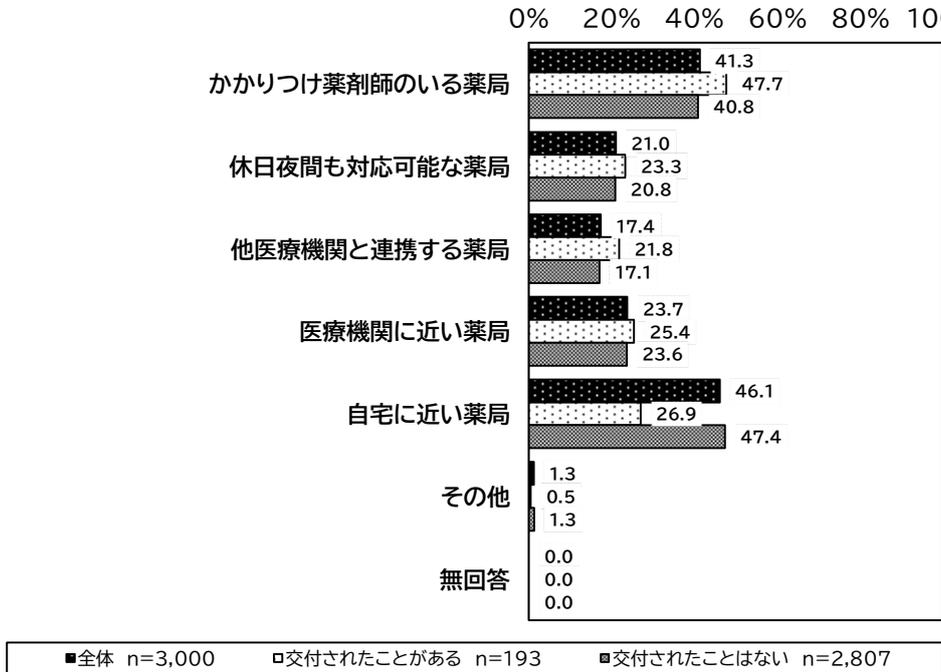
図表 6-75 2回目以降リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（複数回答）（性別）



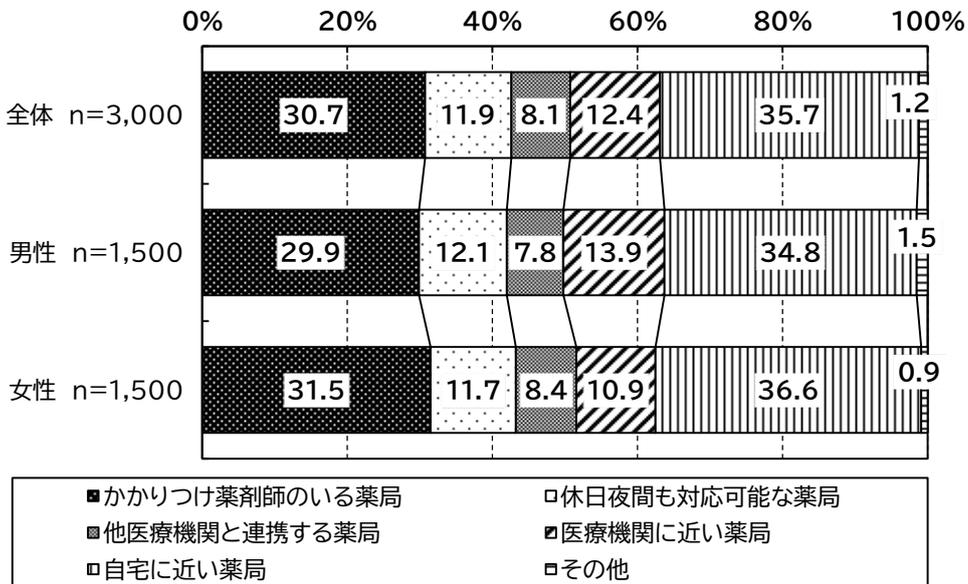
図表 6-76 2回目以降リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（複数回答）
（年代別）



図表 6-77 2回目以降リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいか（複数回答）
（リフィル処方箋を交付された経験別）



図表 6-78 2回目以降リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいかで
最重視のもの



別)

の（性

表 6-79 2回目以降リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいかで最重視のもの（年代別）

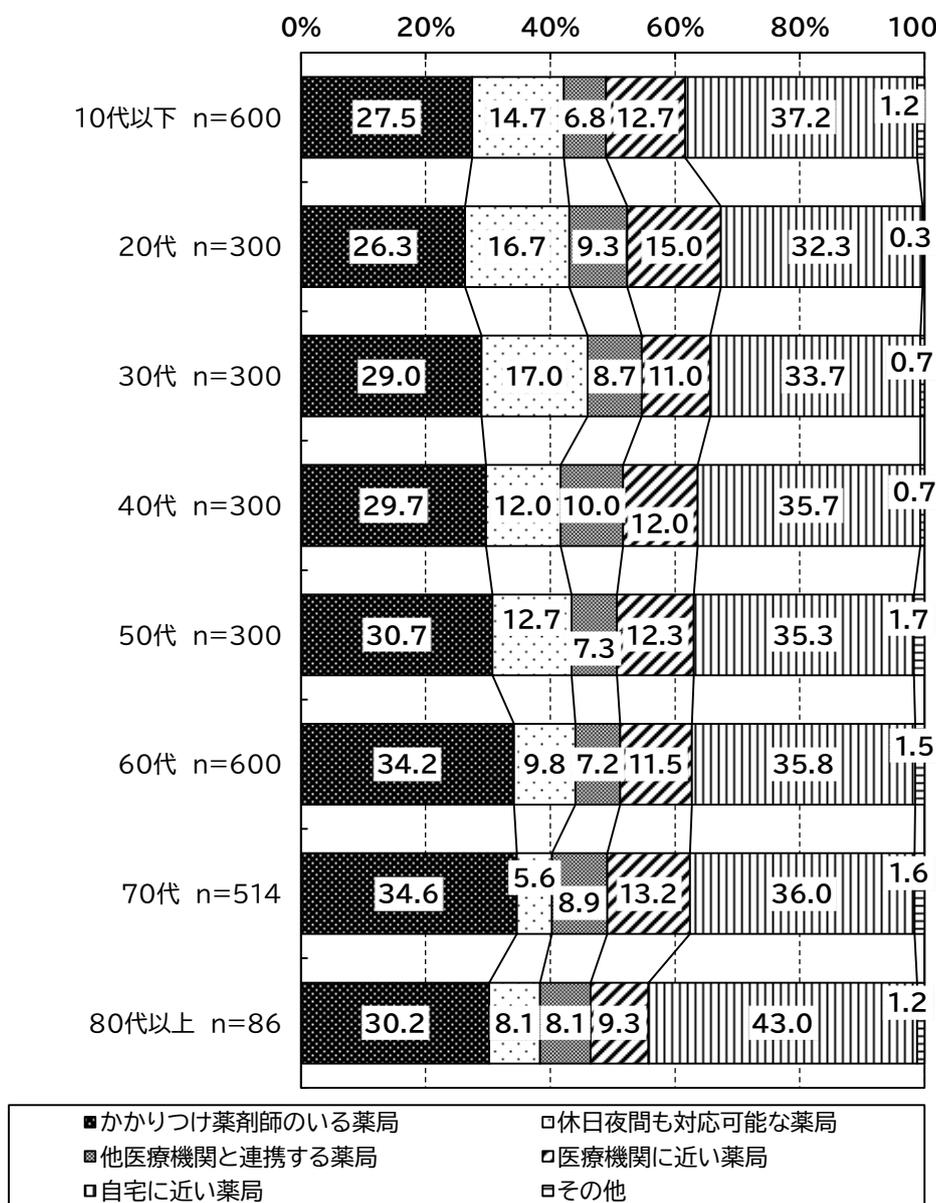
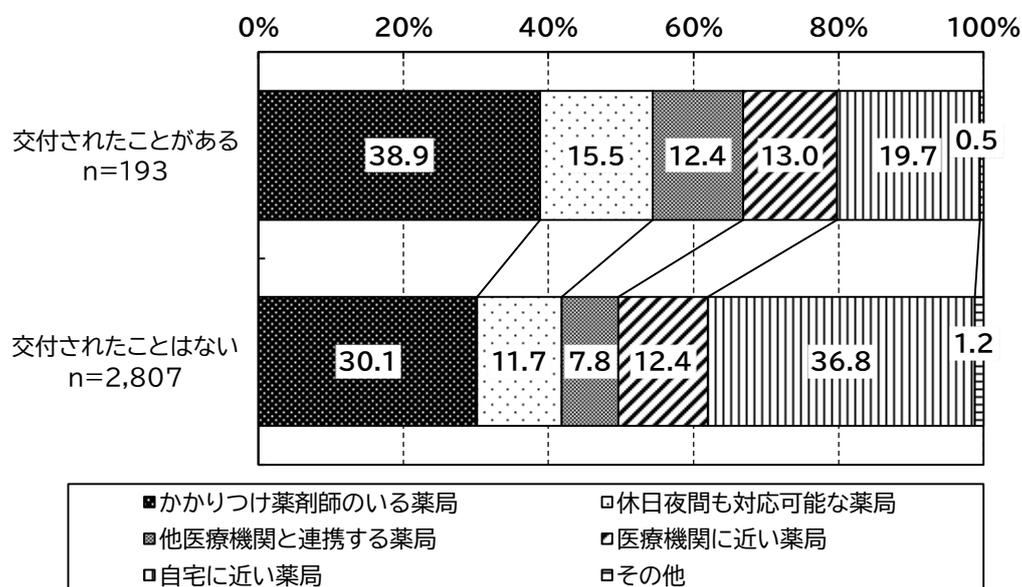


表 6-80 2回目以降リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいかで最重視のもの
(リフィル処方箋を交付された経験別)



6) リフィル処方箋に関するご意見・ご要望等

【ご意見・ご要望（自由記載）の具体的な内容】

- ・このような制度があることを知らなかった
- ・今のままで十分良い制度と思う
- ・あまり理解されていないのもっと広報・情報が欲しい
- ・「リフィル処方箋」という言葉や内容を患者はわからない場合が多いと思うので、医師や薬剤師からの紹介や説明がほしい
- ・医師側からリフィル処方箋を提案してほしい
- ・1日1回1錠の処方薬をもらうために毎月1回通院し、初診料もかかるのを負担に感じているのでリフィル処方箋制度はありがたい
- ・定期的に医師に診てもらいたいので、リフィル処方箋制度は自分には必要がない
- ・病状の悪化時に医師が対応しなければならないのであれば、通常診察で毎回発行したほうがよい
- ・受診の待ち時間が長く時間ももったいないと持っていたので、ありがたい
- ・金銭的、時間的にも1度の受診で長期間の薬がもらえるのはありがたい
- ・いつでも医師、薬剤師に相談できる仕組みがほしい
- ・かかりつけ医が対応してくれるのかどうか心配
- ・ジェネリック医薬品について安全性の問題などが気になるので、処方時に薬剤師の方から説明があると安心する
- ・湿布や軟膏はその時の使用頻度によって、次回まだ要らない場合が出て来るので調整可能にしてほしい
- ・一度に処方される薬の日数を選べるとよい
- ・価格が少しでも安くなるのであればそれがよい
- ・自己判断で診察を受ける機会をなくして病状の悪化に気が付けないことは心配 など

NDBを用いた集計（リフィル処方箋）

1. リフィル処方箋に係る処方箋料の算定状況（令和4年11月診療分）

	医療機関数	算定回数
病院	937	14,436
診療所	2,463	16,133
全体	3,400	30,569

2. リフィル処方箋の受付状況（令和4年11月診療分）

	薬局数	受付回数
リフィル処方箋 1／2回目	15,869	8,776
リフィル処方箋 2／2回目	12,547	6,316
リフィル処方箋 1／3回目	9,438	5,811
リフィル処方箋 2／3回目	8,517	7,743
リフィル処方箋 3／3回目	6,461	1,304

令和4年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(令和5年度調査) リフィル処方箋の実施状況調査 病院・診療所票

※この「病院・診療所票」は、病院・診療所の開設者・管理者の方に令和4年度診療報酬改定で変更された、症状が安定している患者について医師の処方により医師及び薬剤師の適切な連携の下、一定期間内に処方箋を反復利用できるリフィル処方箋の影響についてお伺いするものです。

＜ご回答方法＞

- ・あてはまる番号を○(マル)で囲んでください。
- ・「※一つだけ○」という質問については、あてはまる番号を一つだけ○で囲んでください。
- ・()内には具体的な数値、用語等をご記入ください。
- ・()内に数値を記入する設問で、該当なしは「0(ゼロ)」を、わからない場合は「-」をご記入ください。
- ・特に断りのない限り、令和5年7月1日現在の貴施設の状況についてお答えください。
- ・災害に被災した等の事情により回答が困難な場合には、事務局へご連絡くださいますようお願い申し上げます。

1. 貴施設の状況についてお伺いします(令和5年7月1日現在)。

①所在地(都道府県)	() 都・道・府・県				
②開設者 ^{注1} ※一つだけ○	1. 国	2. 公立	3. 公的	4. 社会保険関係団体	
	5. 医療法人(社会医療法人を除く)	6. 会社	7. その他の法人		
	8. 個人				
③医療機関の種別 ※一つだけ○	1. 病院 →質問④, ⑤, ⑥へ	2. 有床診療所 →質問④, ⑤, ⑥へ			
	3. 無床診療所 →質問⑥へ				
【③で「1. 病院」または「2. 有床診療所」と回答した場合、下記④～⑤にご回答ください】					
④許可病床数	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症 病床
	()床	()床	()床	()床	()床
⑤過去1年の病床数変更 ※一つだけ○	1. 変更あり	2. 変更なし			
【すべての方が⑥～⑩にご回答ください】					
⑥標榜診療科 ※当てはまるもの全て	1. 内科 ^{注2}	2. 外科 ^{注3}	3. 精神科	4. 小児科	5. 皮膚科
	6. 泌尿器科	7. 産婦人科・産科	8. 眼科	9. 耳鼻咽喉科	
	10. 放射線科	11. 脳神経外科	12. 整形外科	13. 麻酔科	
	14. 救急科	15. 歯科・歯科口腔外科	16. リハビリテーション科		
	17. その他(具体的に:)				
⑦貴施設の外来分離 ※一つだけ○	1. 外来分離をしている	2. 外来分離をしていない			
⑧地域医療情報連携ネットワークへの参加の有無 ※一つだけ○	1. 参加あり	2. 参加なし			
⑨外来を担う医師の人数 ※常勤換算は小数点第1位まで	a. 常勤医師 : ()人	b. 非常勤医師 : 実人数 ()人	常勤換算 ()人		
⑩外来の患者数 ※初診患者数+再診延べ患者数	4～6月の合計 : ()人				
⑪処方箋の発行枚数	4～6月の合計 : ()枚				

注1 国立(国、独立行政法人国立病院機構、国立大学法人、独立行政法人労働者健康安全機構、国立高度専門医療研究センター、独立行政法人地域医療機能推進機構)

公立(都道府県、市町村、地方独立行政法人)

公的(日赤、済生会、北海道社会事業協会、厚生連、国民健康保険団体連合会)

社会保険関係(健康保険組合及びその連合会、共済組合及びその連合会、国民健康保険組合)

医療法人(社会医療法人は含まない)

その他の法人(公益法人、学校法人、社会福祉法人、医療生協、会社、社会医療法人等、その他の法人)

注2 内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病内科、血液内科、感染症内科、アレルギー内科、リウマチ内科、心療内科、神経内科は、「1.内科」としてご回答ください。

注3 外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、気管食道外科、消化器外科、肛門外科、小児外科は、「2.外科」としてご回答ください。

2. リフィル処方箋についてお伺いします。

①リフィル処方箋の制度の認知 ※一つだけ○	1. 制度の内容まで知っている	2. 名称だけ知っている	3. 知らない
【①で「1.制度の内容まで知っている」又は「2.名称だけ知っている」と回答した場合、下記①-1にご回答ください】			
①-1 制度を知ったきっかけ ※一つだけ○	1. 新聞・雑誌のニュース等の報道	2. 医師会等の団体からの案内等	
	3. 薬局からの案内等	4. 保険者側からの案内等	
	5. 患者からの問い合わせ	6. 行政からの案内等	
	7. その他(具体的に:)		

【すべての方がご回答ください】

②貴院内でリフィル処方箋を発行したことの
ある医師を知っている、または自身で発行して
いるか ※一つだけ○

1. 知っているまたは自身で発行している → 質問②-1～②-7 へ
2. 知らない → 質問②-8 へ

【②で「1. 知っているまたは自身で発行している」と回答した方は全員、下記②-1～②-7をご回答ください】

②-1 貴院全体で発行したリフィル処方箋の枚数の把握状況(令和5年4～6月)

1. わかる
2. わからない → 質問②-4 へ

【わかる場合】

②-2 貴院が全体で発行したリフィル処方箋の発行枚数等 a.4～6月のリフィル処方箋発行枚数(合計) b.4～6月の分割調剤の指示回数(合計)	a. リフィル処方箋の発行枚数	() 枚		
	b. 分割調剤の指示回数	() 回		
②-3 貴院において外来を担当する常勤医師のうち、リフィル処方箋の発行枚数が多い順に上から5名の医師について、下記状況はどうか				
a. 該当する医師の有無 (例えばリフィル処方箋を発行したことの医師が1名の場合、2番目以降は「無」となる。)				
b. 該当医師個人での4～6月のリフィル処方箋発行枚数(合計)				
c. 該当医師個人での4～6月の全処方箋発行枚数(合計)				
d. 本調査の「医師票」を配布した医師 ※1名のみ○				
	a.該当医師の有無	b.リフィル処方箋発行枚数	c.全処方箋発行枚数	d.本調査医師票の配布先
リフィル処方が1番目に多い医師		()枚	()枚	配布した医師1名に○
リフィル処方が2番目に多い医師	有・無	()枚	()枚	
リフィル処方が3番目に多い医師	有・無	()枚	()枚	
リフィル処方が4番目に多い医師	有・無	()枚	()枚	
リフィル処方が5番目に多い医師	有・無	()枚	()枚	

②-4 どのような患者にリフィル処方箋を
発行しているか
※当てはまるもの全て○

1. 自施設にかかりつけの患者
2. 自施設と連携する薬局に「かかりつけ薬剤師」がいる患者
3. 自施設と連携する薬局以外の薬局に「かかりつけ薬剤師」がいる患者
4. その他 (具体的に_____)

②-5 リフィル処方箋に関する薬局からの服薬情報提供書
(トレーシングレポート)の有無 ※一つだけ○

1. あった
2. なかった

【②-5で「1. あった」と回答した場合、下記②-5-a～②-5-cをご回答ください】

②-5-a.リフィル処方箋の トレーシングレポート 受領頻度	症状が安定している患者の通常の処方箋と比較して、リフィル処方箋は、 トレーシングレポートの受領頻度が	1. 高い 2. 同程度 3. 低い
--------------------------------------	---	--------------------

リフィル処方に関するトレーシングレポートで②-5-b.提供された情報 ②-5-c.提供してほしい情報

	②-5-b.提供された情報		②-5-c.提供してほしい情報	
	該当するもの全て	最も多いもの一つ	該当するもの全て	最重要のもの一つ
1. 患者の服用薬(他の医療機関からの処方等も含む)				
2. 患者の服薬状況				
3. 患者に対する服薬指導の要点				
4. 患者の状態(バイタル・体重・食欲・浮腫の有無・便秘の有無等)				
5. 残薬				
6. 患者が容易に又は継続的に服用できるための技術的工夫等の調剤情報				
7. その他 (具体的に: _____)				

【②で「1. 知っているまたは自身で発行している」と回答した方は全員、下記②-6～②-7をご回答ください】

②-6 薬剤師の受診勧奨を受け受診した患者数
(わからない場合は「-」を記入)

() 人 ※令和5年4月～6月の合計

②-7 リフィル処方箋を発行した理由 ※当てはまるもの全て○	1. 症状が安定していたから 2. 患者に「かかりつけ薬剤師」がいたから 3. 患者が感染症に罹るリスクを減らすことができるから 4. 患者からの希望があったから 5. その他（具体的に：_____）
【②で「2.知らない」と回答した方は全員、下記②-8をご回答ください】	
②-8 貴院ではリフィル処方箋を発行したことはないですか ※一つだけ○ 発行したことがない場合、リフィル処方箋を発行しなかった理由 ※当てはまるもの全て○	1. 発行したことはない 2. 発行した 3. わからない 【理由】 1. 症状が安定している患者がいなかったから 2. 薬剤師と適切に連携して管理できる患者がいなかったから 3. 症状が安定し、薬剤師と連携して管理できるが、医師の判断が必須だったから 4. 長期処方に対応が可能だったから 5. 患者からの求めがないから 6. その他（具体的に：_____）
【すべての方がご回答ください】	
③リフィル処方箋の発行について患者からの希望の有無 ※一つだけ○	1. あった 2. なかった
④リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通し ※一つだけ○	1. 積極的に検討する → 質問⑤, ⑦へ ----- 2. 患者希望があれば検討する → 質問⑦へ ----- 3. 検討には消極的 → 質問⑥, ⑦へ -----
【④「1. 積極的に検討する」と回答した方は、以下の⑤をご回答ください】	
⑤「1. 積極的に検討する」と回答した理由 ※当てはまるもの全て○	1. 患者からの希望が多いから 2. 患者の待ち時間が減るから 3. 患者が感染症に罹るリスクを減らすことができるから 4. 医師の負担軽減につながるから 5. その他（具体的に：_____）
【④で「3. 検討には消極的」と回答した方は、以下の⑥をご回答ください】	
⑥「3. 検討には消極的」と回答した理由 ※当てはまるもの全て○	1. 医師が患者の症状の変化に気がつくにくくなるから 2. 薬を処方する際には医師の判断が毎回必須と考えるから 3. 患者にリフィル処方箋が必要とされていないから 4. 処方箋の不正利用が心配だから 5. リフィル処方箋の仕組みがよくわからないから 6. その他（具体的に：_____）
【すべての方がご回答ください】	
⑦このほか、リフィル処方箋の課題と考えられること ※当てはまるもの全て○	1. 患者への制度の周知 2. 医師への制度の周知 3. 薬剤師への制度の周知 4. かかりつけ薬剤師制度の普及 5. その他（具体的に：_____）

質問は以上です。ご協力頂き誠にありがとうございました。
 令和5年8月31日(木)までに返信用封筒をご使用の上投函ください(切手不要)。

令和4年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(令和5年度調査) リフィル処方箋の実施状況調査 医師票

※この「医師票」は、病院・診療所の開設者・管理者の方に令和4年度診療報酬改定で変更された、症状が安定している患者について医師の処方により医師及び薬剤師の適切な連携の下、一定期間内に処方箋を反復利用できるリフィル処方箋の影響についてお伺いするものです。

＜ご回答方法＞

- ・あてはまる番号を○(マル)で囲んでください。
- ・「※一つだけ○」という質問については、あてはまる番号を一つだけ○で囲んでください。
- ・()内には具体的な数値、用語等をご記入ください。
- ・()内に数値を記入する設問で、該当なしは「0(ゼロ)」を、わからない場合は「-」をご記入ください。
- ・特に断りのない限り、令和5年7月1日現在の貴施設の状況についてお答えください。
- ・災害に被災した等の事情により回答が困難な場合には、事務局へご連絡くださいますようお願い申し上げます。

1. 回答者ご自身についてお伺いします(令和5年7月1日現在)。

①性別 ※一つだけ○	1. 男性	2. 女性				
②年代 ※一つだけ○	1. 20代	2. 30代	3. 40代	4. 50代	5. 60代	6. 70代以上
③主たる担当診療科 ※一つだけ○	1. 内科 ^{注1} 2. 外科 ^{注2} 3. 精神科 4. 小児科 5. 皮膚科 6. 泌尿器科 7. 産婦人科・産科 8. 眼科 9. 耳鼻咽喉科 10. 放射線科 11. 脳神経外科 12. 整形外科 13. 麻酔科 14. 救急科 15. 歯科・歯科口腔外科 16. リハビリテーション科 17. その他 (具体的に：)					
④外来診察患者数 ※令和5年4月～6月の合計	() 人 ※調査票を受け取った施設の患者のみ					

注1 内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病内科、血液内科、感染症内科、アレルギー内科、リウマチ内科、心療内科、神経内科は、「1.内科」としてご回答ください。

注2 外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、気管食道外科、消化器外科、肛門外科、小児外科は、「2.外科」としてご回答ください。

2. リフィル処方箋についてお伺いします。

①リフィル処方箋の制度の認知 ※一つだけ○	1. 制度の内容まで知っている 2. 名称だけ知っている 3. 知らない
【①で「1.制度の内容まで知っている」又は「2.名称だけ知っている」と回答した場合、下記①-1をご回答ください】	
①-1リフィル処方箋の制度を知ったきっかけ ※当てはまるもの全て○	1. 新聞・雑誌のニュース等の報道 2. 医師会等の団体からの案内等 3. 薬局からの案内等 4. 保険者側からの案内等 5. 患者からの問い合わせ 6. 行政からの案内等 7. その他 (具体的に：)
【すべての方がご回答ください】	
②リフィル処方箋の発行有無 ※一つだけ○	1. 発行したことがある →③へ 2. 発行したことはない →p.2⑤へ
【②で「1.発行したことがある」と回答した場合、下記③～④をご回答ください】	
③どのような患者にリフィル処方箋を発行しているか ※当てはまるもの全て○	1. 自施設のかかりつけの患者 2. 自施設と連携する薬局に「かかりつけ薬剤師」がいる患者 3. 自施設と連携する薬局以外の薬局に「かかりつけ薬剤師」がいる患者 4. その他 (具体的に：)
④あなたがリフィル処方箋を発行した理由 ※当てはまるもの全て○	1. 症状が安定していたから 2. 患者に「かかりつけ薬剤師」がいたから 3. 患者が感染症に罹るリスクを減らすことができるから 4. 患者からの希望があったから 5. その他 (具体的に：)

【②で「2.発行したことはない」と回答した場合、下記⑤をご回答ください】	
⑤あなたがリフィル処方箋を発行しなかった理由 ※当てはまるもの全て○	1. 症状が安定している患者がいなかったから 2. 薬剤師と適切に連携して管理できる患者がいなかったから 3. 症状が安定し、薬剤師と連携して管理できるが、医師の判断が必須だったから 4. 長期処方での対応が可能だったから 5. 患者からの求めがないから 6. その他（具体的に：_____）
【すべての方がご回答ください】	
⑥リフィル処方箋の発行について患者からの希望の有無 ※一つだけ○	1. あった 2. なかった
⑦リフィル処方箋の発行に係る検討についての今後の見通し ※一つだけ○	1. 積極的に検討する → ⑧へ 2. 患者希望があれば検討する → ⑩へ 3. 検討には消極的 → ⑨へ
【⑦で「1.積極的に検討する」と回答した方は、以下の⑧をご回答ください】	
⑧「1.積極的に検討する」と回答した理由 ※当てはまるもの全て○	1. 患者からの希望が多いから 2. 患者の待ち時間が減るから 3. 患者が感染症に罹るリスクを減らすことができるから 4. 医師の負担軽減につながるから 5. その他（具体的に：_____）
【⑦で「3.検討には消極的」と回答した方は、以下の⑨をご回答ください】	
⑨「3.検討には消極的」と回答した理由 ※当てはまるもの全て○	1. 医師が患者の症状の変化に気付きにくくなるから 2. 薬を処方するには医師の判断が毎回必須と考えるから 3. 患者にリフィル処方箋が必要とされていないから 4. 処方箋の不正利用が心配だから 5. リフィル処方箋の仕組みがよくわからないから 6. その他（具体的に：_____）
【すべての方がご回答ください】	
⑩このほか、リフィル処方箋の課題と考えられること ※当てはまるもの全て○	1. 患者への制度の周知 2. 医師への制度の周知 3. 薬剤師への制度の周知 4. かかりつけ薬剤師制度の普及 5. その他（具体的に：_____）

質問は以上です。ご協力頂き誠にありがとうございました。
 令和5年8月31日(木)までに返信用封筒をご使用の上投函ください(切手不要)。

令和4年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(令和5年度調査)

リフィル処方箋の実施状況調査 保険薬局票

※この「保険薬局票」は、保険薬局の開設者・管理者の方に、令和4年度診療報酬改定で変更された、症状が安定している患者について医師の処方により医師及び薬剤師の適切な連携の下、一定期間内に処方箋を反復利用できるリフィル処方箋の影響についてお伺いするものです。

<ご回答方法>

- ・あてはまる番号を○(マル)で囲んでください。
- ・「※一つだけ○」という質問については、あてはまる番号を一つだけ○で囲んでください。
- ・()内には具体的な数値、用語等をご記入ください。
- ・()内に数値を記入する設問で、該当なしは「0(ゼロ)」を、わからない場合は「-」をご記入ください。
- ・特に断りのない限り、令和5年7月1日現在の貴薬局の状況についてお答えください。
- ・災害に被災した等の事情により回答が困難な場合には、事務局へご連絡くださいますようお願い申し上げます。

1. 貴薬局の状況についてお伺いします。(令和5年7月1日現在)

① 所在地(都道府県)	() 都・道・府・県	
② 開設者 ※法人の場合は、法人の形態等にも○をつけてください。	1. 法人 ⇒ (11. 株式会社 12. 有限会社 13. 合資会社 14. 合名会社 15. その他) ⇒ (16. 純粋持株会社 ^{※1} 17. 事業持株会社 ^{※2} 18. 持株会社以外 ^{※3}) 2. 個人 3. その他(具体的に:) ※1 自ら製造や販売といった事業は行わず、株式を所有することで、他の会社の事業活動を支配することのみを事業目的とする持株会社のこと。 ※2 グループ各社の株式を持つことで子会社を支配しながら、自らも生産活動などの事業を営む持株会社のこと。 ※3 持株会社以外(会社の総資産に対する子会社の株式の取得価額の合計が50%以下の会社)のこと。	
③ 同一グループ(財務上又は営業上若しくは事業上、緊密な関係にある範囲の保険薬局をいう)等 [※] による薬局店舗数 ※ 同一グループは次の基準により判断する(調剤基本料の施設基準における同一グループの考え方と同様) 1. 保険薬局の事業者の最終親会社 2. 保険薬局の事業者の最終親会社の子会社 3. 保険薬局の事業者の最終親会社の関連会社 4. 1から3までに掲げる者と保険薬局の運営に関するフランチャイズ契約を締結している者	() 店舗 ※ 当該店舗を含めてお答えください。	
④ 開設年 ※当該店舗の開設年をお答えください。	西暦()年	
⑤ 貴薬局は、チェーン薬局(同一経営者が20店舗以上を所有する薬局の店舗)ですか。 ※一つだけ○	1. はい 2. いいえ	
⑥ 貴薬局はどのような場所に立地していますか。 ※一つだけ○	1. 住宅街にある 2. 駅前にある 3. 商店街にある 4. オフィス街にある 5. 大型商業施設(スーパー・デパート)の中にある 6. その他(具体的に:)	
⑦ 応需医療機関数(令和5年4月～6月の月平均値)	() 施設	
⑧ 最も多く処方箋を受け付けた医療機関からの処方箋枚数割合(期間:令和5年4月～6月, %:4月～6月の月平均値)	() %	
⑧-1 上記⑧の集中度が最も高い医療機関の情報		
1) 診療所・病院の別 ※一つだけ○	1. 診療所 2. 病院	
2) 最も多く処方箋を受け付けた医療機関と貴薬局との位置関係 ※一つだけ○	1. 貴薬局の近隣に医療機関はない 2. 当該医療機関や医療機関の駐車場と同一の敷地内にある 3. 当該医療機関や医療機関の駐車場と隣接し公道を介さずに往来できる 4. 当該医療機関の近隣にある 5. 複数の医療機関が所在する建物(いわゆる医療モール等)と同一の建物・敷地内にある 6. 上記1～5以外の状況	
3) 診療科 ※あてはまる番号すべてに○		
1. 内科 ^{注1} 2. 外科 ^{注2} 3. 精神科 4. 小児科 5. 皮膚科 6. 泌尿器科 7. 産婦人科・産科 8. 眼科 9. 耳鼻咽喉科 10. 放射線科 11. 脳神経外科 12. 整形外科 13. 麻酔科 14. 救急科 15. 歯科・歯科口腔外科 16. リハビリテーション科 17. その他(具体的に:)		
注1 内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病内科、血液内科、感染症内科、アレルギー内科、リウマチ内科、心療内科、神経内科は、「1.内科」として回答		
注2 外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、気管食道外科、消化器外科、肛門外科、小児外科は、「2.外科」として回答		

⑨ 貴薬局の売上高に占める保険調剤 売上の割合 ※令和4年度決算		約 () % ※OTC医薬品等の販売がなく、保険調剤収入のみ である場合は 100%とご記入ください。	
⑩ 令和5年度の調剤基本料 の届出状況 ※一つだけ○		1. 調剤基本料 1	2. 調剤基本料 2
		3. 調剤基本料 3 イ	4. 調剤基本料 3 ロ
		5. 調剤基本料 3 ハ	6. 特別調剤基本料
⑩-1 全処方箋の受付回数(令和5年4月～6月の合計)		() 回	
⑪ 職員数 ※該当者がい ない場合は 「0」とご記入 ください。	職種		非常勤職員
			実人数
	常勤職員 ^{注2}		常勤換算 ^{注3}
	1) 薬剤師		() 人
(うち)かかりつけ薬剤師指導料等 ^{注1} における「かかりつけ薬剤師」		() 人	() 人
2) その他(事務職員等)		() 人	() 人
⑫ 貴薬局の認定等の状況 ※あてはまるもの全てに○		1. 地域連携薬局	2. 専門医療機関連携薬局
		3. 健康サポート薬局	4. 該当なし

注1 かかりつけ薬剤師指導料、かかりつけ薬剤師包括管理料を指します。

注2 常勤職員数(常勤薬剤師数)には、貴薬局における実労働時間が週 32 時間以上である職員(保険薬剤師)の実人数を計上します。常勤薬剤師数については、届出前3月間の勤務状況に基づき算出します。

注3 非常勤職員(非常勤薬剤師)は、貴薬局における実労働時間が週 32 時間に満たない職員(保険薬剤師)をいい、常勤換算数は、以下により算出します(小数点第二位を四捨五入して小数点第一位まで求める)。非常勤薬剤師数については、届出前3月間の勤務状況に基づき算出します。

非常勤薬剤師数(常勤換算) = $\frac{\text{当該保険薬局における週 32 時間に満たない保険薬剤師の実労働時間の合計(時間/3月)}}{32(\text{時間/週}) \times 13(\text{週/3月})}$

2. 届出の状況についてお伺いします。(令和5年7月1日現在)

① 貴薬局における、かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料の施設基準等の届出をしていますか。 ※一つだけ○	
1. 届出あり	2. 届出なし
② 地域支援体制加算の届出をしていますか。 ※一つだけ○	
1. 届出あり	2. 届出なし
③ 連携強化加算の届出をしていますか。 ※一つだけ○	
1. 届出あり	2. 届出なし

3. リフィル処方箋の対応状況についてお伺いします。(令和5年4月～6月末日)

① リフィル処方箋の仕組みについて知っていますか ※一つだけ○	1. 知っている	2. 知らない
② リフィル処方箋の受付経験 ※一つだけ○	1. 受け付けたことがある → ③へ 2. 受け付けたことはない → p.5「4. 医療機関等との連携について」へ	
【②でリフィル処方箋について「1.受け付けたことがある」と回答した場合、下記③～⑮を回答】		
③ 受け付けたリフィル処方箋を発行した医療機関数	() か所 ※令和4年4月～10月末日の合計数	
④ どのような関係の医療機関からリフィル処方箋を受け付けましたか ※あてはまる番号すべてに○		
1. 近隣の診療所	2. 近隣の病院 (199 床以下)	3. 近隣の病院 (200 床以上 399 床以下)
4. 近隣の病院 (400 床以上)	5. 遠方の診療所	6. 遠方の病院 (199 床以下)
7. 遠方の病院 (200 床以上 399 床以下)		8. 遠方の病院 (400 床以上)
9. 同一敷地内の診療所	10. 同一敷地内の病院 (199 床以下)	11. 同一敷地内の病院 (200 床以上 399 床以下)
12. 同一敷地内の病院 (400 床以上)		13. 同一医療モール内の診療所
14. その他 (具体的に: _____)		

【②でリフィル処方箋について「1.受け付けたことがある」と回答した場合、下記⑤～⑮を回答】	
⑤どの診療科のリフィル処方箋を受け付けましたか ※あてはまる番号すべてに○	1. 内科 ^{注1} 2. 外科 ^{注2} 3. 精神科 4. 小児科 5. 皮膚科 6. 泌尿器科 7. 産婦人科・産科 8. 眼科 9. 耳鼻咽喉科 10. 放射線科 11. 脳神経外科 12. 整形外科 13. 麻酔科 14. 救急科 15. 歯科・歯科口腔外科 16. リハビリテーション科 17. その他（具体的に： ） ※1 内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病内科、血液内科、感染症内科、アレルギー内科、リウマチ内科、心療内科、神経内科は、「1.内科」としてご回答ください。 ※2 外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、気管食道外科、消化器外科、肛門外科、小児科は、「2.外科」としてご回答ください。
⑤-1 ⑤で選択した中で最も多くリフィル処方箋を受け付けた診療科	() ※⑤の選択肢番号を記入
⑥リフィル処方箋の受付件数（令和5年4月～6月の合計）	() 回
⑦リフィル処方箋の総使用件数の調剤が終わった枚数（自局で調剤済みの処方箋を保管している枚数）(令和5年4月～6月の合計)	() 枚
⑧リフィルの上限まで使用されなかった理由 ※あてはまる番号すべてに○	-1. 薬剤師が受診勧奨をしたから → ⑧-1へ 2. 患者が処方箋期限内に医療機関の受診を希望したから 3. 患者が別の薬局で処方を受けることになったから 4. 患者と連絡は取れていたが、来局前に処方箋期限が切れたから 5. 患者と連絡が取れず、処方箋期限が切れたから 6. その他（具体的に： ） 7. 上限まで使用されなかったことはない 「1」を選択しなかった場合 → ⑨へ

【⑧で「1.薬剤師が受診勧奨をしたから」を選択した場合、下記⑧-1～⑧-3を回答】			
⑧-1 薬剤師が受診勧奨をした回数（令和5年4月～6月）	全体	うち、リフィル処方箋の調剤時	うち、フォローアップ中
	()回	()回	()回
1回以上の場合			
	受診勧奨を判断し、説明する際の処方医への相談状況 ※一つだけ○ <ul style="list-style-type: none"> 1. 受診勧奨後に処方医に患者の情報を報告した 2. 事前に処方医へ相談した 		
⑧-2 薬剤師が受診勧奨をした理由 ※あてはまる番号すべてに○	1. 副作用が疑われたから 2. 患者の症状の変化に気付いたから 3. 服薬状況に注意すべき点があったから 4. その他（具体的に： ）		
⑧-3 受診勧奨の際に行ったこと ※あてはまる番号すべてに○	1. 医師への情報提供 2. 患者への指導 3. その他（具体的に： ）		

【②でリフィル処方箋について「1.受け付けたことがある」と回答した場合、下記⑨～⑮を回答】	
⑨リフィル処方箋による調剤の可／否の判断に困った経験の有無 ※一つだけ○	1. ある → ⑩へ 2. ない → ⑪へ
【⑨で「1.ある」と回答した場合、下記⑩を回答】	
⑩リフィル処方箋による調剤の可／否の判断に困った際に行った疑義照会の内容 ※あてはまる番号すべてに○	1. 急性期疾患に対する医薬品が含まれていた 2. 処方箋1回の使用期間が判断できなかった 3. 投薬期間が異なる医薬品が同じリフィル処方箋で処方されていた 4. リフィル処方箋による投薬を行うことができない医薬品（投与量に限度が定められている医薬品及び湿布薬）が含まれていた 5. その他（具体的に： ）

【②でリフィル処方箋について「1.受け付けたことがある」と回答した場合、下記⑪～⑮を回答】	
⑪1枚のリフィル処方箋の処方途中で薬局が変わった経験 ※一つだけ○	1. ある → ⑪-1へ 2. ない → ⑫へ 3. 不明 → ⑫へ

【⑪で「1.ある」と回答した場合、下記⑪-1を回答】					
⑪-1リフィル処方の途中で患者が薬局を変えた場合の内訳		自薬局から他薬局へ		他薬局から自薬局へ	
		2回目から他薬局	3回目から他薬局	2回目から自薬局	3回目から自薬局
	a. 上限3回の処方箋	() 枚	() 枚	() 枚	() 枚
	b. 上限2回の処方箋	() 枚		() 枚	

【⑪-1で「自薬局から他薬局へ」が1枚以上と回答した場合、下記⑪-2～⑪-3を回答】	
⑪-2 どのような方法で他薬局へ情報提供を行いましたか ※あてはまる番号すべてに○	1. 他の保険薬局に文書を送付した 2. 情報を記録したものを患者に提供した 3. お薬手帳に記載した 4. 他の保険薬局に電話をした 5. 他の保険薬局にメール・FAXを送付した 6. 地域医療情報連携ネットワーク*を利用した 7. その他（具体的に：_____） ※ ICT(情報通信技術)を活用して住民に質の高い医療介護サービスを提供するため、患者の同意を得た上で、病院、診療所(医科・歯科)、薬局、訪問看護事業者、訪問介護事業者等の各関係機関において、その患者の医療介護情報を電子的に共有・閲覧できる仕組み
⑪-3 どのような内容を情報提供しましたか ※あてはまる番号すべてに○	1. 患者の服用薬 2. 患者の服薬状況 3. 患者に対する服薬指導の要点 4. 患者の状態 5. 残薬 6. 調剤上の工夫 7. その他（具体的に：_____）

【⑪-1で「他薬局から自薬局へ」が1枚以上と回答した場合、下記⑪-4～⑪-5を回答】	
⑪-4 どのような方法で他薬局から情報提供を受けましたか ※あてはまる番号すべてに○	1. 薬局同士で直接、文書を送付された 2. 患者に交付された文書を受け取った 3. お薬手帳 4. 他薬局から電話を受けた 5. 他薬局からメール・FAXを受信した 6. 地域医療情報連携ネットワーク*を利用した 7. 自薬局から連絡した ※ ICT(情報通信技術)を活用して住民に質の高い医療介護サービスを提供するため、患者の同意を得た上で、病院、診療所(医科・歯科)、薬局、訪問看護事業者、訪問介護事業者等の各関係機関において、その患者の医療介護情報を電子的に共有・閲覧できる仕組み
⑪-5 どのような内容を情報提供されましたか ※あてはまる番号すべてに○	1. 患者の服用薬 2. 患者の服薬状況 3. 患者に対する服薬指導の要点 4. 患者の状態 5. 残薬 6. 患者が容易に又は継続的に服用できるための調剤上の工夫等 7. その他（具体的に：_____）

【②でリフィル処方箋について「1.受け付けたことがある」と回答した場合、下記⑫～⑮を回答】	
⑫リフィル処方箋に関する情報提供を受ける際、提供してほしい情報 ※あてはまる番号すべてに○	1. 患者の服用薬 2. 患者の服薬状況 3. 患者に対する服薬指導の要点 4. 患者の状態 5. 残薬 6. 患者が容易に又は継続的に服用できるための調剤上の工夫等 7. その他（具体的に：_____）
⑬リフィル処方箋の対応方法について薬局内の手順書の状況 ※一つだけ○	1. 薬局内で手順を定めている 2. 個々の薬剤師の判断に委ねている
⑭リフィル処方箋の次回調剤日の管理方法 ※主たるものを一つだけ○	1. 紙による管理（メモや調剤録への記載） 2. 電子的な管理（電子薬歴等のシステムやExcel等による管理） 3. その他（具体的に：_____）

⑮ 薬局でリフィル処方箋を受けるにあたって課題と感ずること ※あてはまる番号すべてに○	1. 患者が次回調剤日に来局してくれるか 2. 患者が処方箋をなくさないか 3. 患者の状態を注意深く観察して判断できるか 4. 副作用の評価ができるか 5. その他（具体的に：_____）
--	---

4. 医療機関等との連携についてお伺いします。

① 服薬情報等提供料の算定の有無をご回答ください ※あてはまる番号すべてに○	1. 服薬情報等提供料1の算定あり → 令和5年4月～6月の算定回数 () 回 → うちリフィル処方箋 () 回 2. 服薬情報等提供料2の算定あり → 令和5年4月～6月の算定回数 () 回 → うちリフィル処方箋 () 回 3. 服薬情報等提供料3の算定あり → 令和5年4月～6月の算定回数 () 回 → うちリフィル処方箋 () 回 4. 服薬情報等提供料の算定なし																								
②リフィル処方箋の患者に関して医療機関に服薬指導提供書(トレーシングレポート)を提供した経験 ※一つだけ○	1. ある → ②-1へ 2. ない → 「5. リフィル処方箋に関する薬局薬剤師への影響等」へ																								
【②で「1. ある」を選択した場合、下記②-1を回答】																									
②-1リフィル処方箋の患者に関して医師に服薬指導提供書(トレーシングレポート)で提供した情報の内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当するもの全て</th> <th>最も多いもの一つ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 他の医療機関から処方された薬の情報</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2. 患者の服用薬</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. 患者の服薬状況</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. 患者に対する服薬指導の要点</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. 患者の状態</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. 患者が容易に又は継続的に服用できるための調剤上の工夫等</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. その他(具体的に: _____)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当するもの全て	最も多いもの一つ	1. 他の医療機関から処方された薬の情報			2. 患者の服用薬			3. 患者の服薬状況			4. 患者に対する服薬指導の要点			5. 患者の状態			6. 患者が容易に又は継続的に服用できるための調剤上の工夫等			7. その他(具体的に: _____)		
	該当するもの全て	最も多いもの一つ																							
1. 他の医療機関から処方された薬の情報																									
2. 患者の服用薬																									
3. 患者の服薬状況																									
4. 患者に対する服薬指導の要点																									
5. 患者の状態																									
6. 患者が容易に又は継続的に服用できるための調剤上の工夫等																									
7. その他(具体的に: _____)																									

5. リフィル処方箋に関する薬局・薬剤師への影響等についてお伺いします。

①リフィル処方箋導入による薬局・薬剤師業務等への影響 a: 非常にそう思う b: ややそう思う c: あまりそう思わない d: 全くそう思わない ※各項目であてはまるもの一つずつ	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>a 非常に そう思う</th> <th>b やや そう思う</th> <th>c あまり そう思 わない</th> <th>d 全く そう思 わない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 薬剤師による薬物治療への関与が大きくなることで医療の質の向上につながる</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2. 処方医との連携がより強くなる</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. 患者の服薬状況の確認のため、通常の処方箋の場合より時間をかけて対応する</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. 副作用の確認のため、通常の処方箋の場合より時間をかけて対応する</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. 次回の調剤を受ける予定を確認するため、通常の処方箋の場合より時間をかけて対応する</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. リフィル制度の説明をするため、通常の処方箋の場合より時間をかけて対応する</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. これまで長期処方フォローアップの対応等を行っていたのでリフィル処方箋でも薬剤師の対応は変わらない</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		a 非常に そう思う	b やや そう思う	c あまり そう思 わない	d 全く そう思 わない	1. 薬剤師による薬物治療への関与が大きくなることで医療の質の向上につながる					2. 処方医との連携がより強くなる					3. 患者の服薬状況の確認のため、通常の処方箋の場合より時間をかけて対応する					4. 副作用の確認のため、通常の処方箋の場合より時間をかけて対応する					5. 次回の調剤を受ける予定を確認するため、通常の処方箋の場合より時間をかけて対応する					6. リフィル制度の説明をするため、通常の処方箋の場合より時間をかけて対応する					7. これまで長期処方フォローアップの対応等を行っていたのでリフィル処方箋でも薬剤師の対応は変わらない				
	a 非常に そう思う	b やや そう思う	c あまり そう思 わない	d 全く そう思 わない																																					
1. 薬剤師による薬物治療への関与が大きくなることで医療の質の向上につながる																																									
2. 処方医との連携がより強くなる																																									
3. 患者の服薬状況の確認のため、通常の処方箋の場合より時間をかけて対応する																																									
4. 副作用の確認のため、通常の処方箋の場合より時間をかけて対応する																																									
5. 次回の調剤を受ける予定を確認するため、通常の処方箋の場合より時間をかけて対応する																																									
6. リフィル制度の説明をするため、通常の処方箋の場合より時間をかけて対応する																																									
7. これまで長期処方フォローアップの対応等を行っていたのでリフィル処方箋でも薬剤師の対応は変わらない																																									
②患者からのリフィル処方箋に関する相談を受けた経験 ※一つだけ○	1. ある → ②-1へ 2. ない → アンケート調査は終了です																																								
【②で「1.ある」と回答した場合、下記②-1を回答】																																									
②-1 受けた相談の内容 ※最も多いものを一つだけ○	1. リフィル処方箋の制度内容を知りたい 2. 自身がリフィル処方箋の対象になりうるか知りたい 3. リフィル処方箋を希望しているが、どうしたら処方されるか知りたい 4. その他(具体的に: _____)																																								
【②-1で「3.リフィル処方箋を希望しているが、どうしたら処方されるか知りたい」と回答した場合、下記②-2を回答】																																									
②-2 患者の希望を処方医に連絡したことがありますか ※一つだけ○	1. ある 2. ない																																								

質問は以上です。ご協力頂き誠にありがとうございました。令和5年8月31日(木)までに返信用封筒をご使用の上投函ください(切手不要)。

令和4年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(令和5年度調査)

リフィル処方箋の実施状況調査 患者票

※この調査票は、患者さんに、医療機関や薬局の利用状況やお考えなどをお伺いするものです。

※調査結果は、診療報酬の見直しなどについて検討するための資料となります。

※本調査のご回答内容は統計的に処理しますので、個人が特定されることはありません。また、医師や薬剤師に個人の回答内容をお知らせすることもありません。

※本調査票にご回答頂けない場合も、患者さんに不利益はございません。

※回答はあてはまる番号を○(マル)で囲んでください。また、()内には具体的な数字や内容・理由などをご記入ください。

1. この調査票のご記入者についてお伺いします。

①ご記入者は患者さんご本人か ※一つだけ○	1. 患者ご本人 (代筆の場合を含む)	2. 本人以外のご家族等
-----------------------	---------------------	--------------

2. 患者さんご自身のことについてお伺いします。

①性別 ※一つだけ○	1. 男性	2. 女性		
②年齢 ※一つだけ○	1. 10代以下	2. 20代	3. 30代	4. 40代
	5. 50代	6. 60代	7. 70代	8. 80代以上
③お住まい	() 都・道・府・県			
④薬局の窓口で支払うお金※がありますか ※お薬の容器代等は含まれません	1. ある	2. ない		

以降の設問についても、全て患者さんのことにお答えください (ご記入者が患者ご本人でない場合も、患者さんについてご回答ください)

3. 医療機関や保険薬局の利用状況等についてお伺いします。

①あなたご自身が、定期的 ^{注1} に受診している医療機関(病院・診療所)、診療科はいくつありますか。	医療機関数：() 件	診療科数：() 件 ※定期的な受診がない場合「0」と記入	
②同じ内容の薬の処方を定期的に受けていますか ※一つだけ○	1. 受けている	2. 受けていない	
【②で「1.受けている」と回答した場合、下記②-1をご回答ください】			
②-1 定期的な処方を受けている期間 ※一つだけ○	1. 1年未満	2. 1年以上3年未満	
	3. 3年以上5年未満	4. 5年以上	
【すべての方がご回答ください】			
③リフィル処方箋 ^{注2} を知っていましたか ※一つだけ○	1. 制度の内容まで知っていた	2. 名称だけ知っていた	3. 知らなかった

注1 定期的：180日間で複数回
注2 リフィル処方箋：症状が安定している患者について、医師の処方により医師及び薬剤師の適切な連携の下、一定期間内に処方箋を反復利用できる

4. これまでリフィル処方箋を交付された経験についてお伺いします。

①リフィル処方箋について医師から説明を受けたことがありますか	1. ある →①-1へ	2. ない →②へ
【①で「1.ある」と回答した場合、下記①-1～①-2をご回答ください】		
①-1リフィル処方箋についての説明はどのように行われましたか ※一つだけ○	1. 患者から説明を希望した	2. 医師が自ら説明した
①-2リフィル処方箋についての説明は理解できましたか ※一つだけ○	1. 理解できた	2. 理解できなかった
【すべての方がご回答ください】		
②リフィル処方箋を交付されたことがありますか ※一つだけ○	1. ある →③へ	2. ない →⑧へ
【②で「1.ある」と回答した場合、下記③～⑦をご回答ください】		
③リフィル処方箋を交付されたのはどのような薬ですか ※当てはまるもの全てに○	1. 内服薬	2. 外用薬
④直近のリフィル処方箋は、何回反復利用できる処方箋ですか ※一つだけ○	1. 3回	2. 2回
⑤直近のリフィル処方箋は、1回あたり何日分のお薬が調剤されましたか	a. 1回目の調剤	() 日分
	b. 2回目の調剤	() 日分
	c. 3回目の調剤	() 日分 ※3回処方の場合のみ
⑥リフィル処方箋の1回目の調剤で、どこの薬局に行きましたか ※最も多く行ったものを一つだけ○	1. お住まいの近くではないが受診した医療機関の近隣の薬局 2. お住まいの近くにある薬局 3. その他 ()	
⑦リフィル処方箋の2回目以降の調剤で、薬局を変えましたか ※一つだけ○	1. 1回目から変えていない (同じ薬局に行った) 2. 1回目から薬局を変更した → ⑦-1へ 3. まだ2回目を利用していない	
【⑦で「2. 1回目から薬局を変更した」と回答した場合、下記⑦-1～⑦-2をご回答ください】		
⑦-1 薬局を変更した理由は何ですか ※あてはまるもの全てに○	1. 1回目の薬局の立地が通いにくかったから 2. 1回目の薬局が普段使う薬局ではなかったから 3. 1回目の薬局では薬の相談がしにくかったから 4. その他 (具体的に：)	

⑦-2 2回目以降のリフィル時に、薬剤師から受診が必要と言われたことがありますか。 ※一つだけ○	1. ある	2. ない
--	-------	-------

【②で「2.ない」と回答した場合、下記⑧をご回答ください】	
⑧リフィル処方箋が交付されていない理由はなんですか。 ※当てはまるもの全てに○	1. リフィル処方箋について知らなかったから 2. リフィル処方箋について知っていたが、希望しなかったから 3. リフィル処方箋の仕組みが適用できない症状・医薬品だったから 4. その他（具体的に：_____）

5. これからのリフィル処方箋の利用意向についてお伺いします。

①リフィル処方箋のメリット・デメリットと、それらを踏まえた今後の利用意向について、お考えを教えてください。			
①-1リフィル処方箋を使用することについて、メリットになると感じるものを教えてください。		該当するもの全て	最大のもの一つ
	1. 通院にかかる時間的負担(予約・移動・待ち時間)を減らせる		
	2. 通院によってかかる医療費が安くなる		
	3. 症状が安定していて、異変時には、医師に相談ができる		
	4. 症状が安定していて、異変時には、薬剤師に相談ができる		
	5. 感染症に罹るリスクを減らすことができる		
	6. 薬がほしだけという患者の状況にあっている		
	7. その他(具体的に：_____)		
①-2リフィル処方箋を使用することについて、デメリットになると感じるものを教えてください。		該当するもの全て	最大のもの一つ
	1. 医師に診てもらえる機会が減ってしまう		
	2. 薬剤師の判断に不安がある		
	3. 2回目、3回目の薬のもらい方や、かかる金額がよくわからない		
	4. リフィル処方箋を希望しても発行してもらえないことがある		
	5. 処方箋を保管しておくことが手間である		
	6. 調剤予定日の前後7日でしか薬を受け取れないのは不便である		
	7. 患者は必要だと思わない		
8. その他(具体的に：_____)			
①-3今後、病状が安定している場合にリフィル処方箋を利用したいと思いますか ※一つだけ○	1. 利用したい	2. どちらかと言えば利用したい	
	3. どちらかと言えば利用したくない	4. 利用したくない	

②リフィル処方箋を利用するにあたり必要だと感じることは何ですか ※あてはまるもの全てに○	1. 信頼する「かかりつけ医」 ^{注1} がいること 2. 信頼する「かかりつけ薬剤師」 ^{注2} のいる薬局があること 3. 薬剤師から薬について十分な説明があること 4. 患者が自分の服用している薬の効能、副作用を理解していること 5. 「かかりつけ医」や「かかりつけ薬剤師」が24時間対応していること 6. その他（具体的に：_____）				注1：健康に関することを何でも相談でき、必要な時は専門医療機関を紹介してくれる身近にいて頼りになる医師のこと 注2：日頃から患者と継続的に関わることで信頼関係を構築し、薬に関していつでも気軽に相談できる薬剤師のこと
	③リフィル処方箋は、どのような薬局で調剤を受けたいですか		1回目	2回目以降	
		該当するもの全て	最重視の一つ	該当するもの全て	最重視の一つ
1. かかりつけ薬剤師のいる薬局					
2. 休日夜間も対応可能な薬局					
3. 他医療機関と連携する薬局					
4. 医療機関に近い薬局					
5. 自宅に近い薬局					
6. その他(_____)					

6. リフィル処方箋に関するご意見・ご要望等をお伺いします。

①リフィル処方箋に関して、あなたのご意見・ご要望について自由に記載してください。	
--	--

質問は以上です。ご協力頂き誠にありがとうございました。
令和5年8月31日(木)までに返信用封筒をご使用の上投函ください(切手不要)。

外来医療の強化・機能分化

1. 外来の機能分化の推進
2. リフィル処方 of 仕組み
3. 電子的保健医療情報活用の評価

処方箋等の見直し

処方箋様式の見直しについて

- 症状が安定している患者について、医師の処方により医師及び薬剤師の適切な連携の下、一定期間内に処方箋を反復利用できるリフィル処方箋の仕組みを設け、処方箋の様式を見直す。

The image shows the original, more complex layout of a Japanese prescription form (処方箋) with multiple sections and fields.



The revised prescription form layout is shown with several key changes highlighted by red dashed boxes:

- リフィル可** (回)
- 「変更不可」欄に「レ」又は「×」を記載した場合は、署名又は記名・押印すること。
- 保険薬局が調剤時に残薬を確認した場合の対応(特に指示がある場合は「レ」又は「×」を記載すること。)
 保険医療機関へ疑義照会した上で調剤 保険医療機関へ情報提供
- 調剤実施回数 (調剤回数に応じて、□に「レ」又は「×」を記載するとともに、調剤日及び次回調剤予定日を記載すること。)
 1回目調剤日 (年 月 日) 2回目調剤日 (年 月 日) 3回目調剤日 (年 月 日)
 次回調剤予定日 (年 月 日) 次回調剤予定日 (年 月 日)

リフィル処方箋を使用した場合の処方箋料

- リフィル処方箋により、当該処方箋の1回の使用による投与期間が29日以内の投薬を行った場合は、処方箋料における長期投薬に係る減算規定を適用しないこととする。

現行

【処方箋料】
[算定要件]

注2
区分番号A000に掲げる初診料の注2又は注3、区分番号A002に掲げる外来診療料の注2又は注3を算定する保険医療機関において、別に厚生労働大臣が定める薬剤を除き、1処方につき投与期間が30日以上の場合には、所定点数の100分の40に相当する点数により算定する。

改定後

【処方箋料】
[算定要件]

注2 区分番号A000に掲げる初診料の注2又は注3、区分番号A002に掲げる外来診療料の注2又は注3を算定する保険医療機関において、別に厚生労働大臣が定める薬剤を除き、1処方につき投与期間が30日以上の場合 **(処方箋の複数回(3回までに限る。)の使用を可能とする場合であって、当該処方箋の1回の使用による投与期間が29日以内の投薬を行った場合を除く。)** には、所定点数の100分の40に相当する点数により算定する。

処方箋料について（概要）

F400 処方箋料

1 向精神薬多剤投与を行った場合	28点
2 1以外の場合の多剤投与又は向精神薬長期処方を行った場合	40点
3 1及び2以外の場合	68点

➤ 保険薬局において調剤を受けるために処方箋を交付した場合に、交付1回につき算定

〔算定要件〕（抜粋）

○ 処方箋料1

1回の処方において、抗不安薬を3種類以上、睡眠薬を3種類以上、抗うつ薬を3種類以上、抗精神病薬を3種類以上又は抗不安薬と睡眠薬を合わせて4種類以上投与した場合に算定

○ 処方箋料2

1以外の場合であって、7種類以上の内服薬の投薬（※1）を行った場合又は不安若しくは不眠の症状を有する患者に対して1年以上継続して別に厚生労働大臣が定める薬剤の投薬（※2）を行った場合

注2 区分番号A000に掲げる初診料の注2又は注3、区分番号A002に掲げる外来診療料の注2又は注3を算定する保険医療機関において、別に厚生労働大臣が定める薬剤を除き、1処方につき投与期間が30日以上投薬を行った場合（**処方箋の複数回（3回までに限る。）の使用を可能とする場合であつて、当該処方箋の1回の使用による投与期間が29日以内の投薬を行った場合を除く。**）には、所定点数の100分の40に相当する点数により算定

リフィル処方箋の仕組み

リフィル処方箋の仕組み

- 症状が安定している患者について、医師の処方により医師及び薬剤師の適切な連携の下、一定期間内に処方箋を反復利用できるリフィル処方箋の仕組みを設ける。

[留意事項]

- (1) 保険医療機関の保険医がリフィルによる処方が可能と判断した場合には、処方箋の「リフィル可」欄にレ点を記入する。
- (2) リフィル処方箋の総使用回数の上限は3回までとする。また、1回当たり投薬期間及び総投薬期間については、医師が、患者の病状等を踏まえ、個別に医学的に適切と判断した期間とする。
- (3) 保険医療機関及び保険医療養担当規則において、投薬量に限度が定められている医薬品及び湿布薬については、リフィル処方箋による投薬を行うことはできない。
- (4) リフィル処方箋による1回目の調剤を行うことが可能な期間については、通常の場合と同様とする。2回目以降の調剤については、原則として、前回の調剤日を起点とし、当該調剤に係る投薬期間を経過する日を次回調剤予定日とし、その前後7日以内とする。
- (5) 保険薬局は、1回目又は2回目（3回可の場合）に調剤を行った場合、リフィル処方箋に調剤日及び次回調剤予定日を記載するとともに、調剤を実施した保険薬局の名称及び保険薬剤師の氏名を余白又は裏面に記載の上、当該リフィル処方箋の写しを保管すること。また、当該リフィル処方箋の総使用回数の調剤が終わった場合、調剤済処方箋として保管すること。
- (6) 保険薬局の保険薬剤師は、リフィル処方箋により調剤するに当たって、患者の服薬状況等の確認を行い、リフィル処方箋により調剤することが不適切と判断した場合には、調剤を行わず、受診勧奨を行うとともに、処方医に速やかに情報提供を行うこと。また、リフィル処方箋により調剤した場合は、調剤した内容、患者の服薬状況等について必要に応じ処方医へ情報提供を行うこと。
- (7) 保険薬局の保険薬剤師は、リフィル処方箋の交付を受けた患者に対して、継続的な薬学的管理指導のため、同一の保険薬局で調剤を受けるべきであることを説明すること。
- (8) 保険薬局の保険薬剤師は、患者の次回の調剤を受ける予定を確認すること。予定される時期に患者が来局しない場合は、電話等により調剤の状況を確認すること。患者が他の保険薬局において調剤を受けることを申し出ている場合は、当該他の保険薬局に調剤の状況とともに必要な情報をあらかじめ提供すること。

歯科医療機関における院内感染防止対策の 評価等に関する実施状況調査(案) ＜概要＞

調査の概要①

1 調査の目的

- 令和4年度診療報酬改定において、歯科医療機関における院内感染防止対策を推進する観点から、歯科初診料及び歯科再診料の引上げを行うとともに、院内感染防止対策に関する施設基準についての見直しを行った。
- また、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所について地域における連携体制の確保のため施設基準の見直しを行うとともに、歯科疾患の重症化予防に関する評価の見直しを行った。
- これらを踏まえ、本調査では、歯科医療機関における院内感染防止対策等について調査・検証を行った。
- 調査実施時期は、令和5年7月26日から令和5年9月15日までであった。

2 調査の対象

- 本調査では、「施設調査」、「患者調査」の2つの調査を実施した。各調査の対象(抽出方法)は、次のとおり。

調査の種類	調査対象		
	条件	調査件数	抽出方法
施設調査	かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の届出を行っている歯科診療所	2,000施設	無作為
	かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の届出を行っていない歯科診療所	2,000施設	
患者調査	かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の届出を行っている歯科診療所の受診患者で歯科疾患管理料を算定した患者	(最大)4,000人	上記施設から2人
	かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の届出を行っていない歯科診療所の受診患者で歯科疾患管理料を算定した患者	(最大)4,000人	

調査の概要②

3 調査方法

- 本調査は、郵送発送による自記式アンケート調査方式により実施した。
- 施設調査の回答は、紙媒体(IDを印字した調査票)に記入後、郵送返送する方法と、専用ホームページより電子調査票をダウンロードし、入力の上、メールへの添付により返送する方法から選択できるようにした。
- 患者調査は、施設調査の対象となった歯科診療所より対象患者に調査票を手渡し、自記にて記入を求める形式とし、回答後の調査票は、直接郵送返送する方法とした。

4 回収の状況

- 各調査票の回収結果は以下のとおりであった。

	発送数	有効回答数	有効回答率
施設調査	4,000件	1,931件	48.3%
A.かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の届出あり	2,000件	1,042件	52.1%
B.かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の届出なし	2,000件	858件	42.9%
患者調査	—	2,666件	—

施設調査の結果①

＜職員数＞（報告書p17）

○職員数は、「歯科医師」は常勤が平均 1.5 人、非常勤が平均 0.6人であり、「歯科衛生士」は常勤が平均 2.4 人、非常勤が 1.1 人であり、「歯科技工士」は常勤が0.3人、非常勤が0.1人であった。

図表 2-8 職員数

（単位：人）

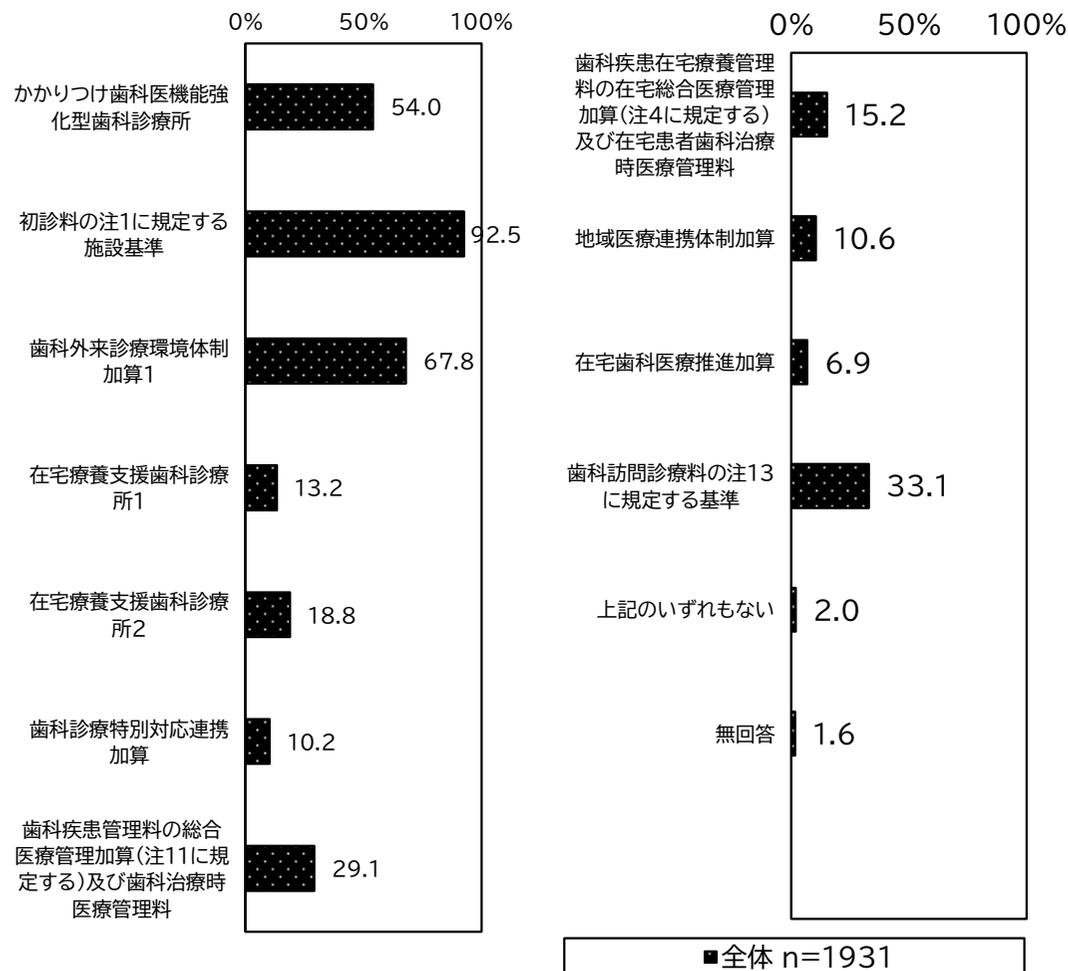
	常勤				非常勤			
	回答施設数	平均値	標準偏差	中央値	回答施設数	平均値	標準偏差	中央値
1) 歯科医師	1925	1.5	1.9	1.0	1188	0.6	1.1	0.2
2) 歯科衛生士	1701	2.4	2.5	2.0	1398	1.1	1.4	0.8
3) 歯科技工士	1407	0.3	0.6	0.0	1055	0.1	0.3	0.0

施設調査の結果②

＜施設基準＞（報告書p22）

○施設基準（届出のあるもの）をみると、「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」が54.0%、「初診料の注1に規定する施設基準」92.5%、「歯科外来診療環境体制加算1」が67.8%であった。

図表 2-15 施設基準（複数回答）

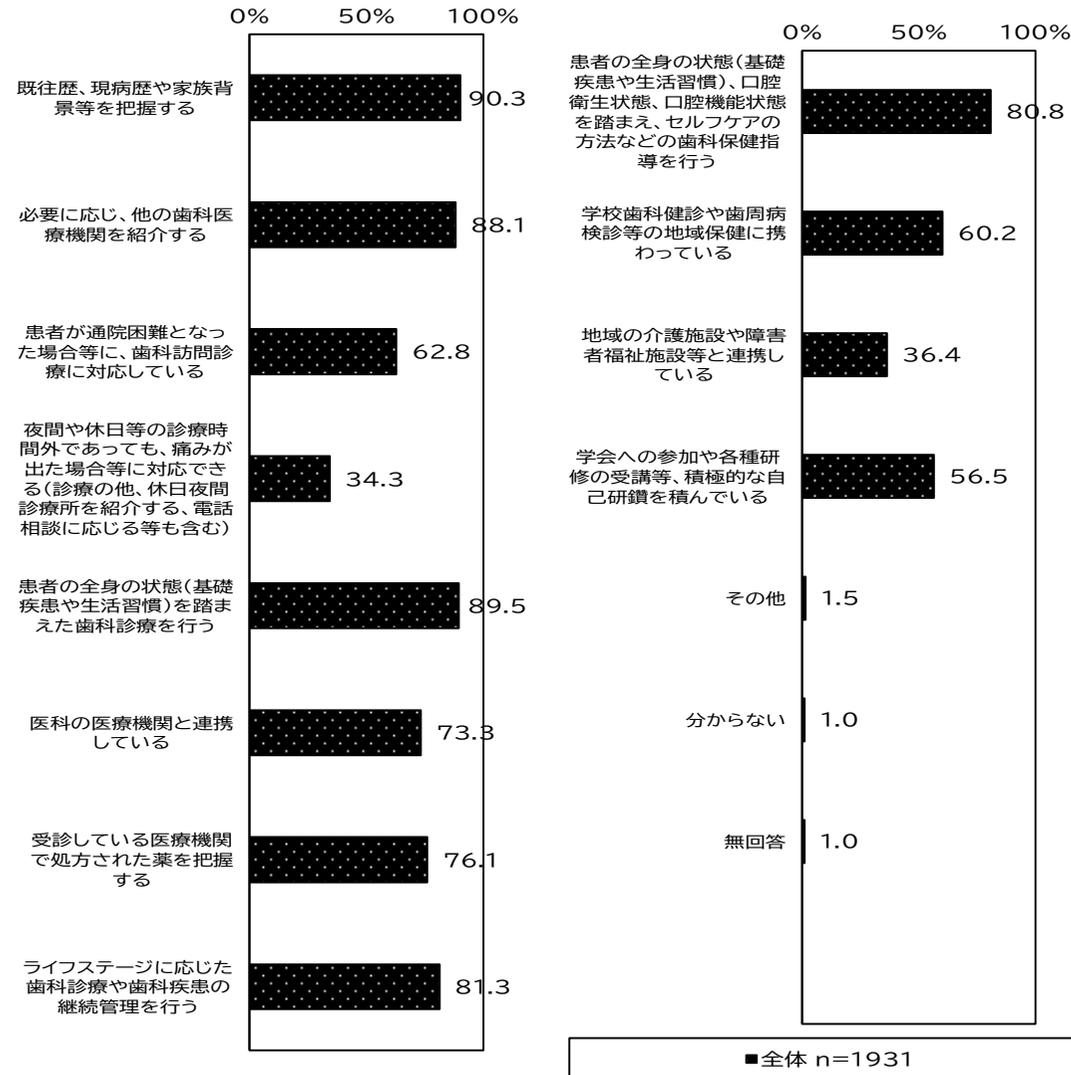


施設調査の結果③

＜「かかりつけ歯科医」が担うべき役割＞（報告書p24）

○「かかりつけ歯科医」が担うべき役割について尋ねたところ、「既往歴、現病歴や家族背景等を把握する」が90.3%であった。

図表 2-17 かかりつけ歯科医の役割（複数回答）

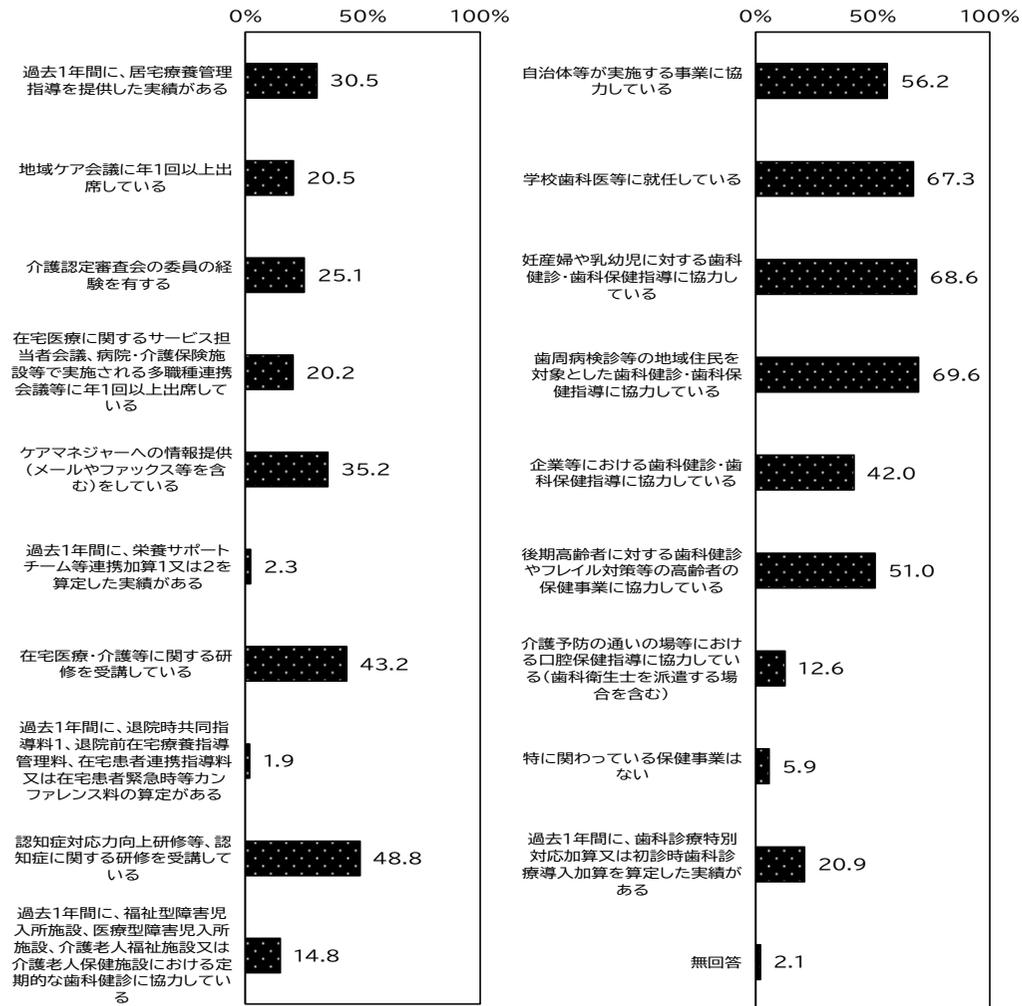


施設調査の結果④

＜施設が関わっている保健事業や地域連携に関する会議への参加実績＞（報告書p26）

○保健事業や地域連携会議の参加実績は「歯周病検診等の地域住民を対象とした歯科健診・歯科保健指導に協力している」が69.6%であった。

図表 2-19 会議への参加実績（複数回答）



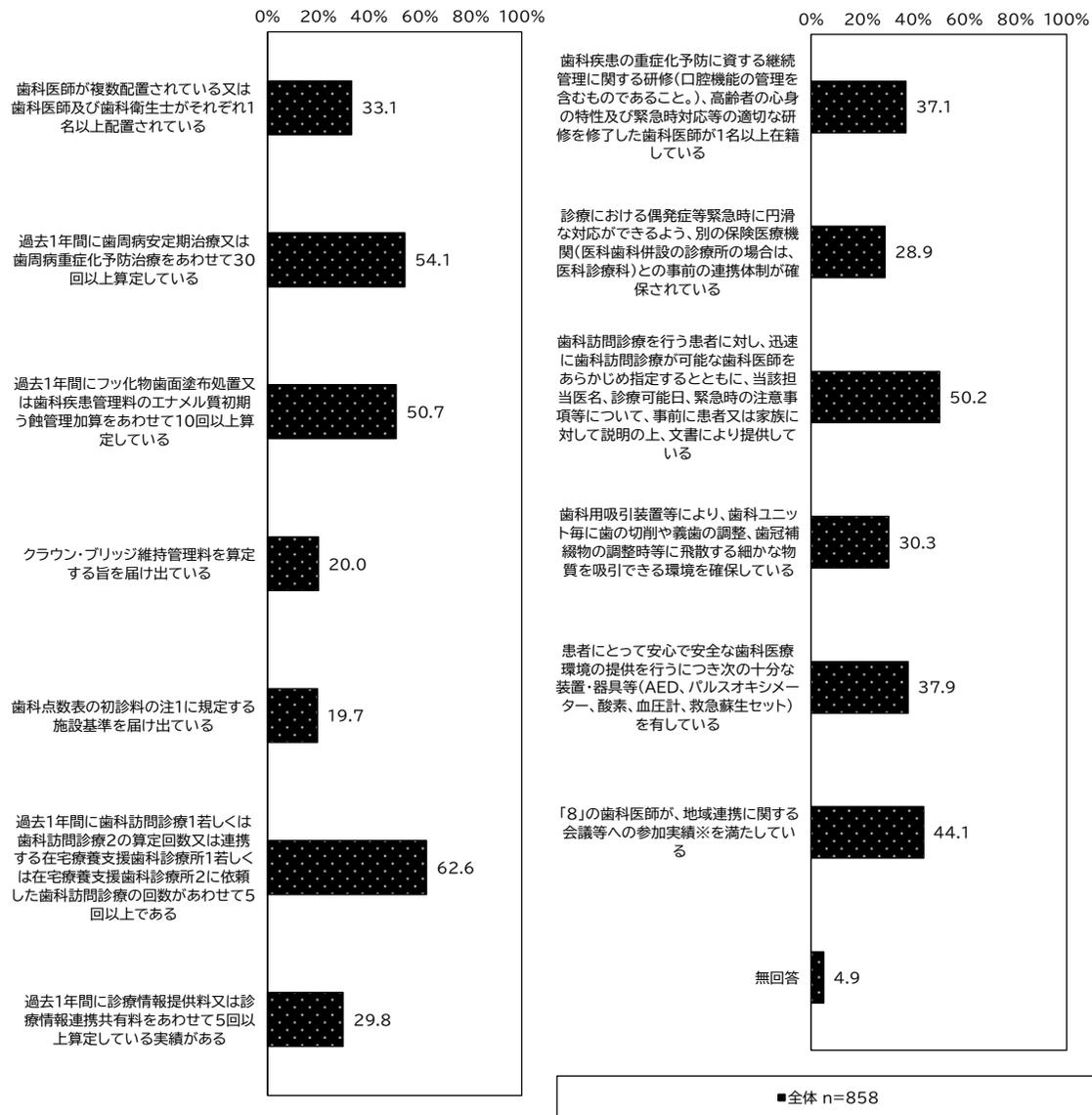
■全体 n=1931

施設調査の結果⑤

＜「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」の施設基準について、現時点で満たしていない要件としてあてはまる項目＞（報告書p28）

図表 2-21 満たしていない要件としてあてはまる項目（複数回答）
（かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所）を届出していない診療所

○「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」を届出していない診療所に対して、「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」の施設基準について、現時点で満たしていない要件としてあてはまる項目は「過去1年間に歯科訪問診療1若しくは歯科訪問診療2の算定回数又は連携する在宅療養支援歯科診療所1若しくは在宅療養支援歯科診療所2に依頼した歯科訪問診療の回数があわせて5回以上である」が62.6%であった。



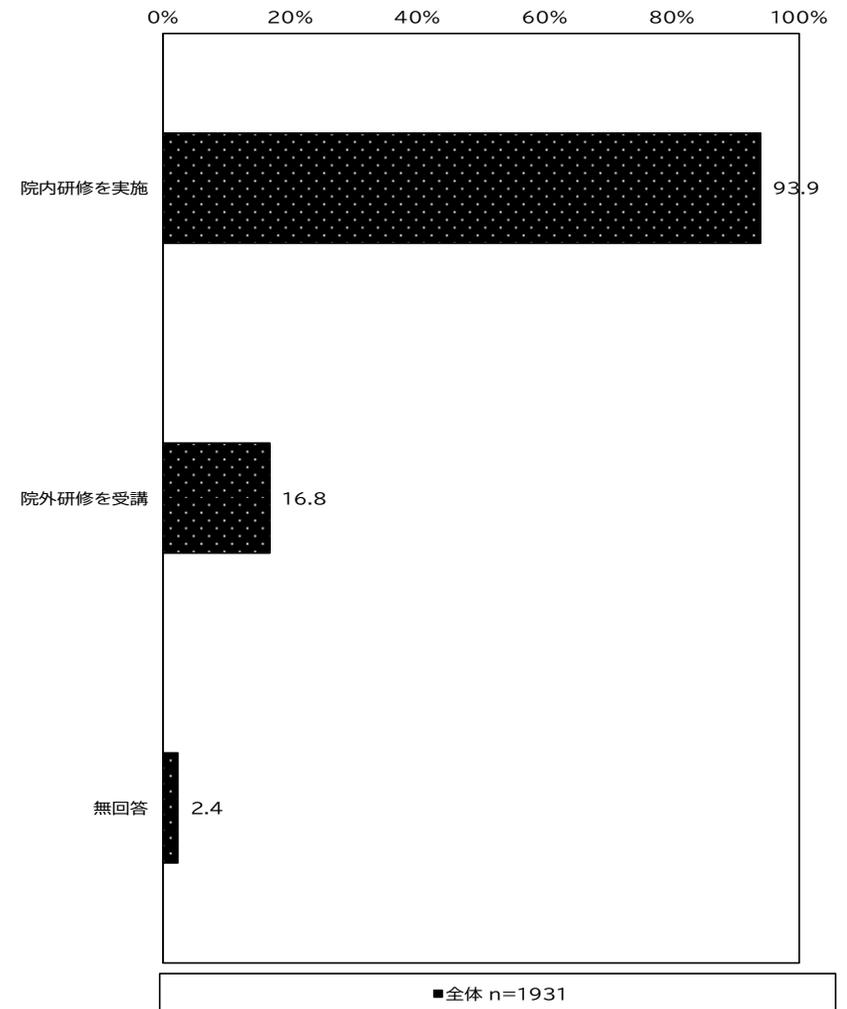
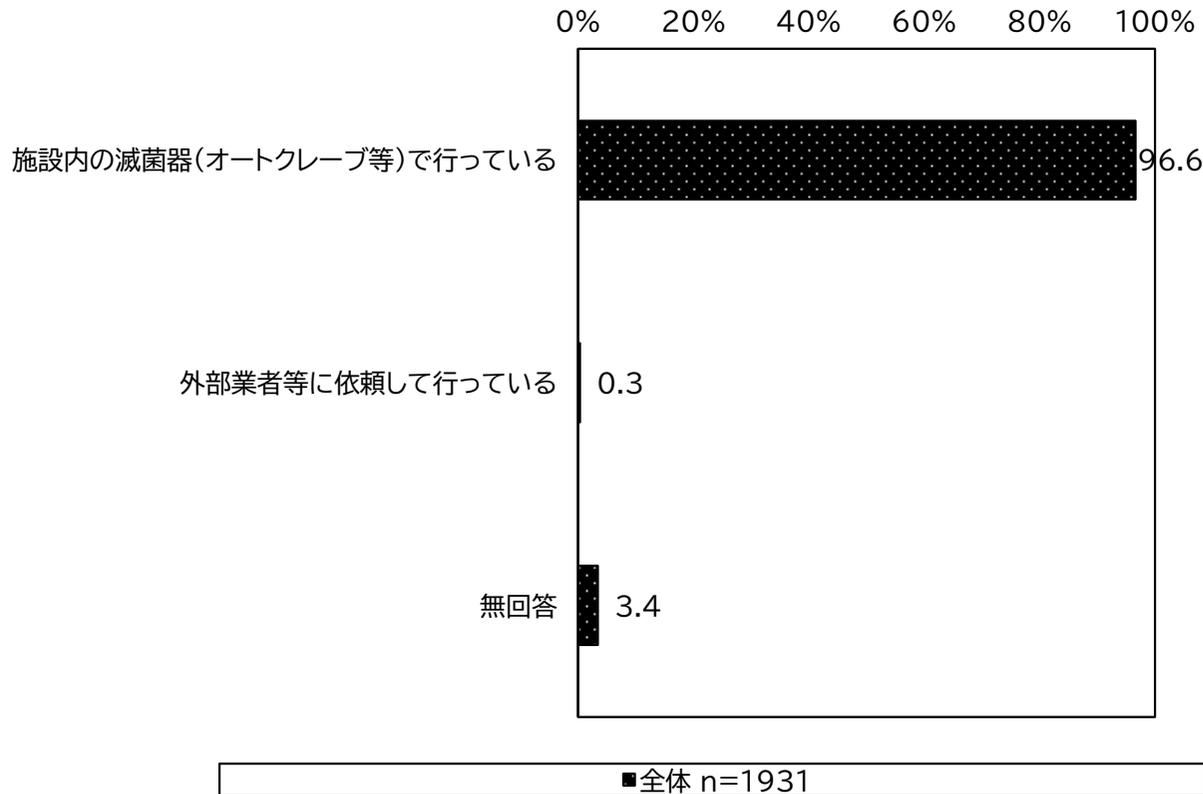
施設調査の結果⑥

＜機器等の滅菌の体制、研修の実施方法＞（報告書p31,33）

○機器等の滅菌の体制は「施設内の滅菌機(オートクレーブ等)で行っている」が96.6%であった。
○研修の実施方法は「院内研修を実施」が93.9%、「院外研修を受講」が16.8%であった。

図表 2-24 滅菌をどのような体制で行っているか(複数回答)

図表 2-27 院内研修の実施方法(複数回答)



施設調査の結果⑦

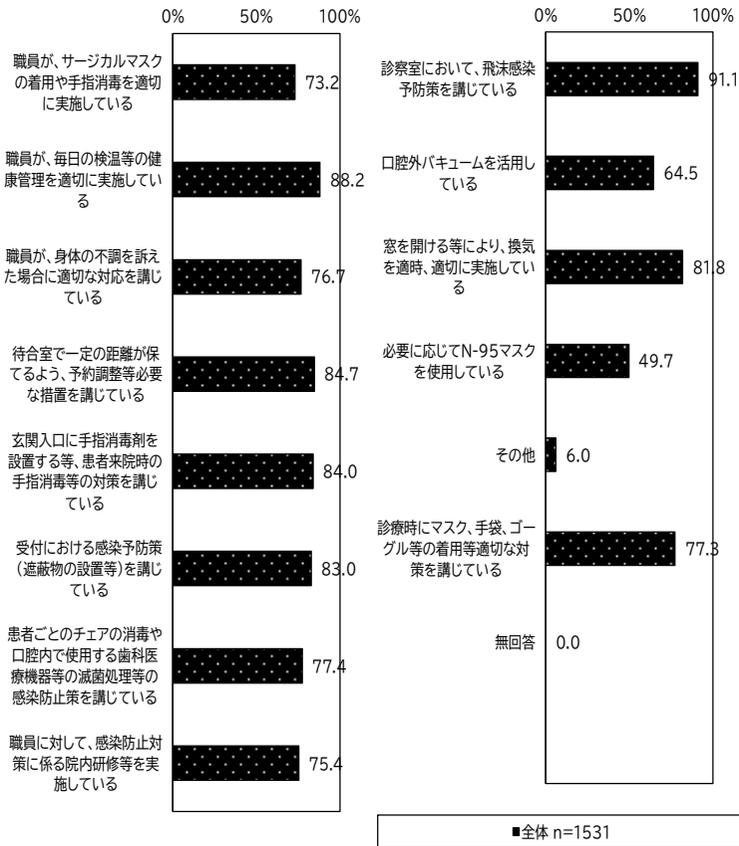
＜院内感染防止対策として、新型コロナウイルス感染症が流行する以前から取り組んでいた対策等＞（報告書p36～39）

○院内感染防止対策として、新型コロナウイルス感染症が流行する以前から取り組んでいた対策、新型コロナウイルス感染症が流行している期間に取り組んでいた対策を、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後（令和5年5月8日以降）も取り組んでいる対策について、新型コロナウイルス感染症の流行以降、施設に関する感染対策に加え、診療内での感染対策である「必要に応じてN-95マスクを使用している」が増加していた。

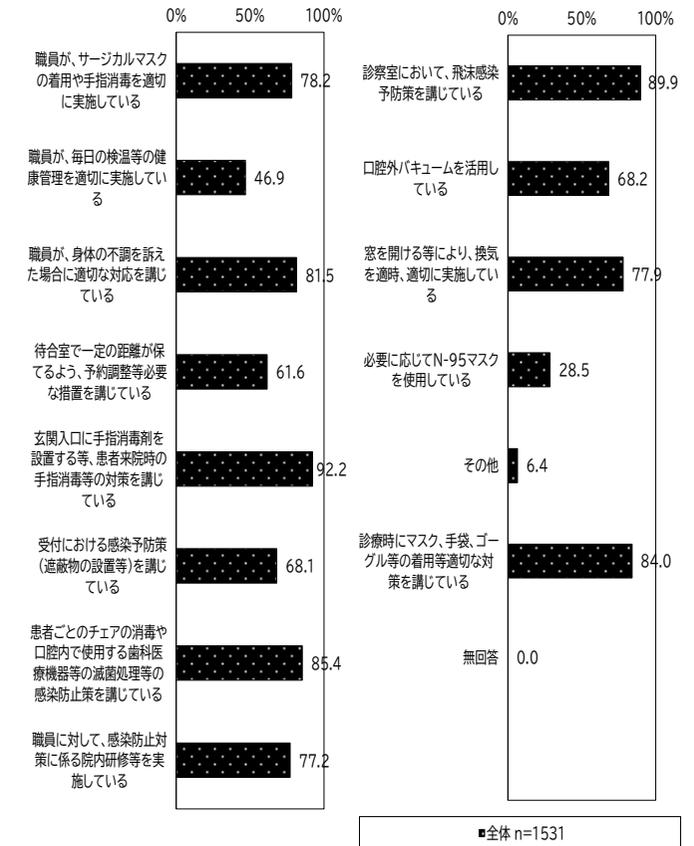
図表2-30 新型コロナウイルス感染症が流行する以前から取り組んでいた対策（複数回答）



図表 2-31 新型コロナウイルス感染症が流行している期間に取り組んでいた対策（複数回答）



図表 2-32 新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後（複数回答）



※「新型コロナウイルス感染症が流行する以前から取り組んでいた対策」、「新型コロナウイルス感染症が流行している期間に取り組んでいた対策」、「新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後（令和5年5月8日以降）も取り組んでいる対策」のすべてに回答している施設を対象に集計している。

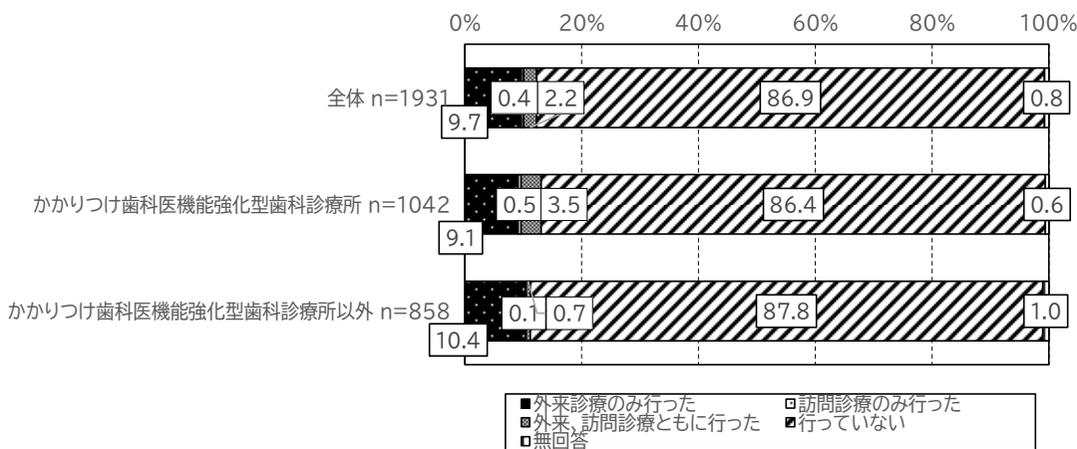
施設調査の結果⑧

＜新型コロナウイルス感染症患者への歯科診療、行った場合の治療内容＞（報告書p46,47）

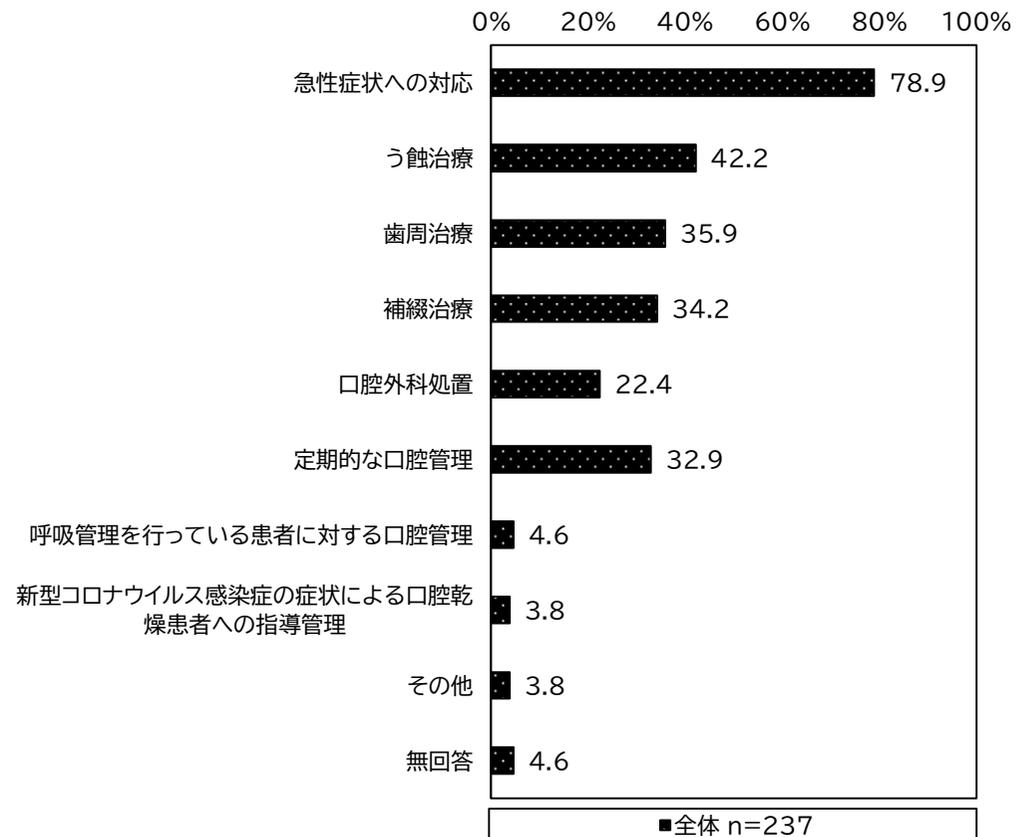
○これまでの新型コロナウイルス感染症患者に対する歯科診療を行ったかについて尋ねたところ、「行っていない」が86.9%であった。

○新型コロナウイルス感染症患者に対する歯科診療について「外来診療のみ行った」、「訪問診療のみ行った」、「外来、訪問診療ともに行った」と回答した場合、治療内容を尋ねたところ、「急性症状への対応」が78.9%であった。

図表 2-39 新型コロナウイルス感染症患者に対する歯科診療を行ったか



図表 2-41 新型コロナウイルス感染症患者に対する歯科診療を行った場合の治療内容（複数回答）



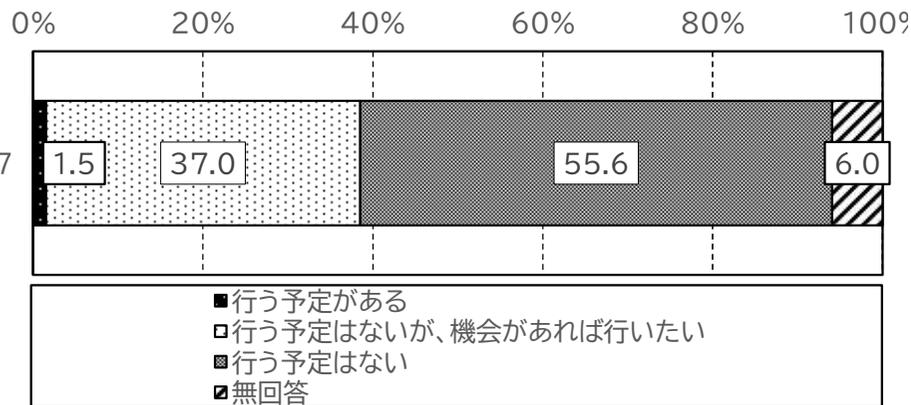
施設調査の結果⑨

＜電話や情報通信機器を用いた歯科診療を今後行う予定があるか、電話や情報通信機器を用いた診療を活用したい場面＞（報告書p50）

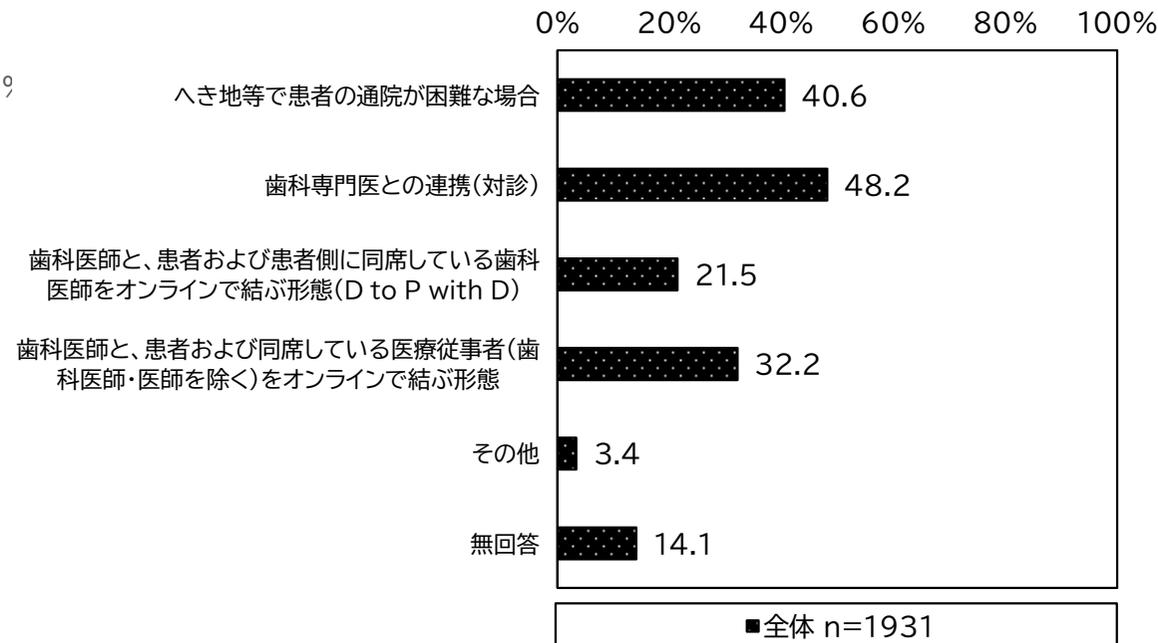
○電話や情報通信機器を用いた歯科診療を「行っていない」と回答した場合、電話や情報通信機器を用いた歯科診療を今後行う予定について尋ねたところ、「行う予定はない」が55.6%であった。

○電話や情報通信機器を用いた診療を活用したい場面について尋ねたところ、「歯科専門医との連携(対診)」が48.2%であった。

図表 2-44 電話や情報通信機器を用いた歯科診療を行う予定



図表 2-45 電話や情報通信機器を用いた歯科診療を行う予定（複数回答）

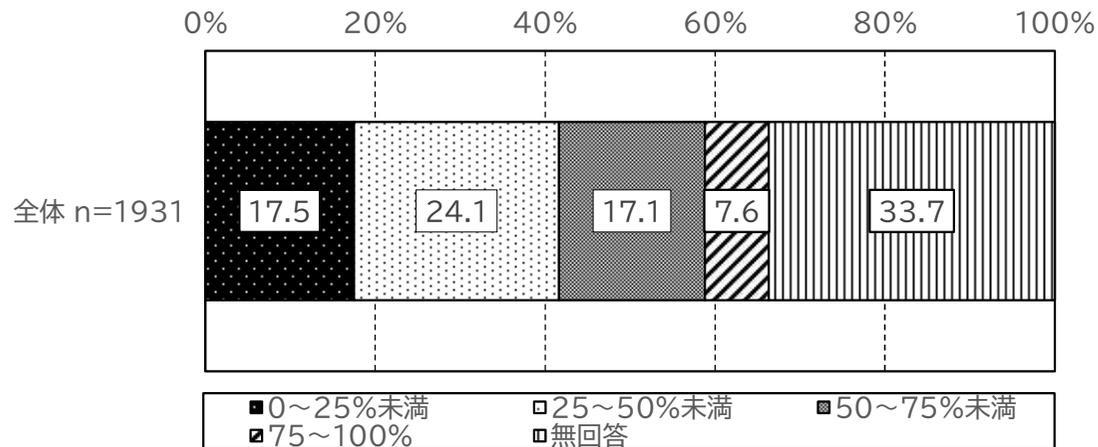


施設調査の結果⑩

＜定期的な管理の実施状況について、全体の患者に占める割合＞（報告書p64）

○定期的な管理の実施状況について、全体の患者に占める割合は「0～25%未満」が17.5%、「25～50%未満」が24.1%、「50～75%未満」が17.1%、「75%～100%」が7.6%であった。

図表 2-62 定期的な管理の実施状況



※ここでいう定期的な管理とは、継続的な管理を必要とする歯科疾患を有する患者に対し、歯科疾患の再発防止及び重症化予防を目的として行う、口腔の定期的な管理を指す。

施設調査の結果⑪

＜歯科疾患管理料等の算定状況＞（報告書p65）

○歯科疾患管理料等の算定状況は歯科疾患管理料の算定患者数(実人数)(人)が平均330.9回、フッ化物洗口指導加算(13歳未満)(回)が平均1.0回、フッ化物洗口指導加算の算定回数(13歳以上15歳未満)(回)が平均42.3回、エナメル質初期う蝕管理加算の算定回数(回)が平均42.3回、総合医療管理加算の算定回数(回)が平均3.3回、歯科疾患管理料長期管理加算の算定回数(回)が平均170.8回であった。

図表 2-64 歯科疾患管理料等の算定状況

	回答施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準偏差
歯科疾患管理料の算定患者数(実人数)(人)	1672	3691.0	0.0	249.0	330.9	317.3
フッ化物洗口指導加算(13歳未満)(回)	1582	200.0	0.0	0.0	1.0	10.1
フッ化物洗口指導加算の算定回数(13歳以上15歳未満)(回)	1572	319.0	0.0	0.0	0.6	9.3
エナメル質初期う蝕管理加算の算定回数(回)	1618	1906.0	0.0	0.0	42.3	127.7
総合医療管理加算の算定回数(回)	1586	250.0	0.0	0.0	3.3	16.5
歯科疾患管理料 長期管理加算の算定回数(回)	1542	2236.0	0.0	94.0	170.8	225.1

施設調査の結果⑫

＜歯周病安定期治療の算定患者数(実人数)＞(報告書p67,68)

○歯周病安定期治療の算定患者数(実人数)の平均人数は、1歯以上10歯未満は6.2人、10歯以上20歯未満は15.9人、20歯以上が58.9人であった。

図表 2-66 歯周病安定期治療の算定患者数 (実人数) (単位:人)

	回答施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準偏差
1歯以上10歯未満	1519	464.0	0.0	1.0	6.2	17.7
10歯以上20歯未満	1544	1061.0	0.0	3.0	15.9	39.6
20歯以上	1552	1739.0	0.0	10.0	58.9	114.7

図表 2-67 歯周病安定期治療の算定患者数 (実人数) (か強診・か強診以外)

		回答施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準偏差
1歯以上10歯未満	かかりつけ歯科医機能強化型 歯科診療所	847	464.0	0.0	5.0	10.4	22.5
	かかりつけ歯科医機能強化型 歯科診療所以外	654	31.0	0.0	0.0	0.7	2.9
10歯以上20歯未満	かかりつけ歯科医機能強化型 歯科診療所	865	1061.0	0.0	15.0	26.3	49.7
	かかりつけ歯科医機能強化型 歯科診療所以外	661	130.0	0.0	0.0	2.3	9.0
20歯以上	かかりつけ歯科医機能強化型 歯科診療所	870	1739.0	0.0	50.0	98.0	138.4
	かかりつけ歯科医機能強化型 歯科診療所以外	664	386.0	0.0	0.0	7.9	28.7

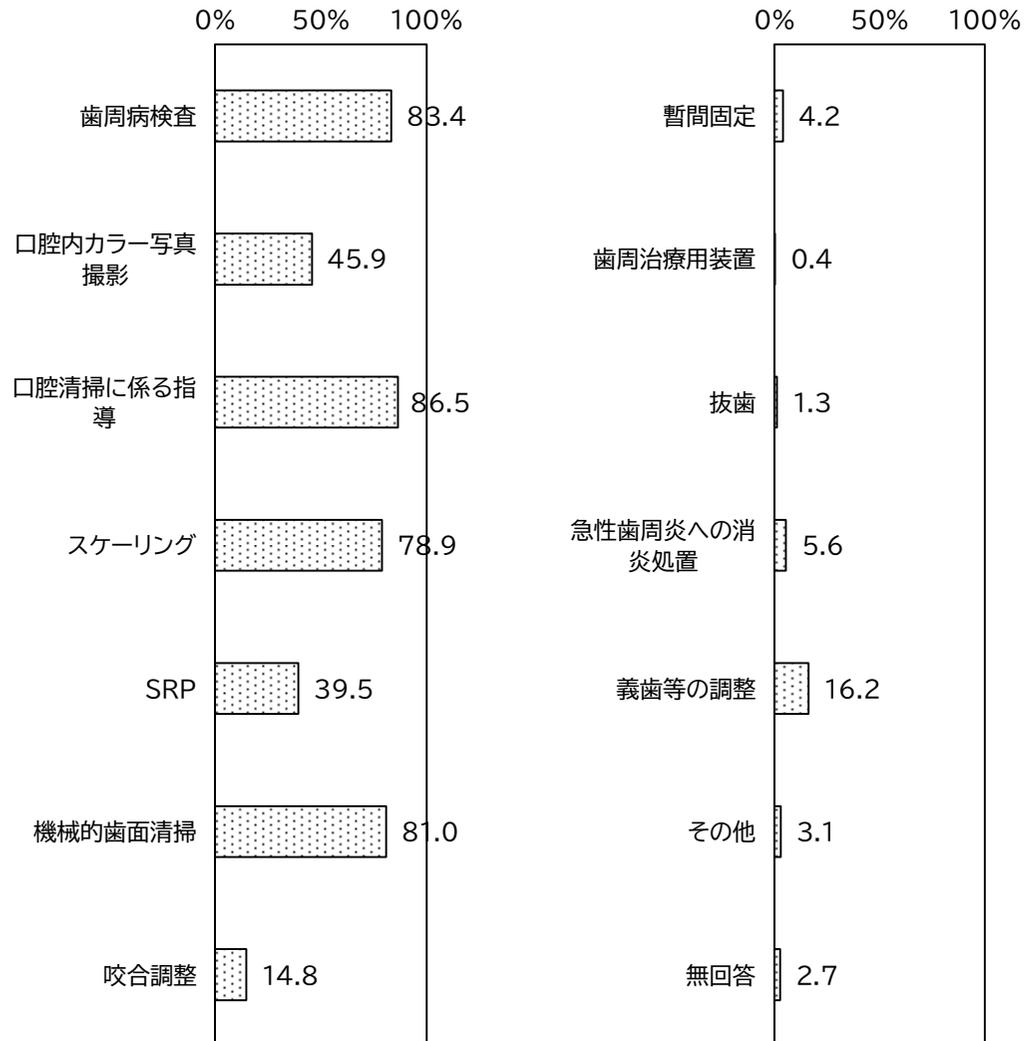
* 図表2-73において施設基準の質問が無回答の診療所は、「か強診」か「か強診以外」か分類できないため集計から除外した

施設調査の結果⑬

＜SPTの算定項目の算定日に行った、診療内容＞（報告書p84）

○SPTの算定項目の算定日に行った診療内容は「口腔清掃に係る指導」が86.5%であった。

図表 2-88 SPTの算定項目の算定日に行った診療内容（複数回答）



□歯周病安定期治療(SPT) n=1719

施設調査の結果⑭

＜歯周病重症化予防治療の算定患者数(実人数)＞(報告書p72)

○歯周病重症化予防治療の算定患者数(実人数)の平均は1歯以上10歯未満が0.7人、10歯以上20歯未満は2.3人、20歯以上が11.4人であった。

図表 2-72 歯周病重症化予防治療の算定患者数 (実人数) (単位:人)

	回答施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準偏差
1歯以上10歯未満	1466	108.0	0.0	0.0	0.7	4.9
10歯以上20歯未満	1482	689.0	0.0	0.0	2.3	20.2
20歯以上	1526	1619.0	0.0	0.0	11.4	53.8

図表 2-73 歯周病重症化予防治療の算定患者数 (実人数) (か強診・か強診以外)

		回答施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準偏差
1歯以上10歯未満	かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所	808	108.0	0.0	0.0	1.0	6.2
	かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所以外	641	52.0	0.0	0.0	0.3	2.4
10歯以上20歯未満	かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所	821	689.0	0.0	0.0	3.5	26.8
	かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所以外	644	64.0	0.0	0.0	0.9	4.6
20歯以上	かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所	857	1619.0	0.0	1.0	17.0	69.8
	かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所以外	652	200.0	0.0	0.0	4.1	17.0

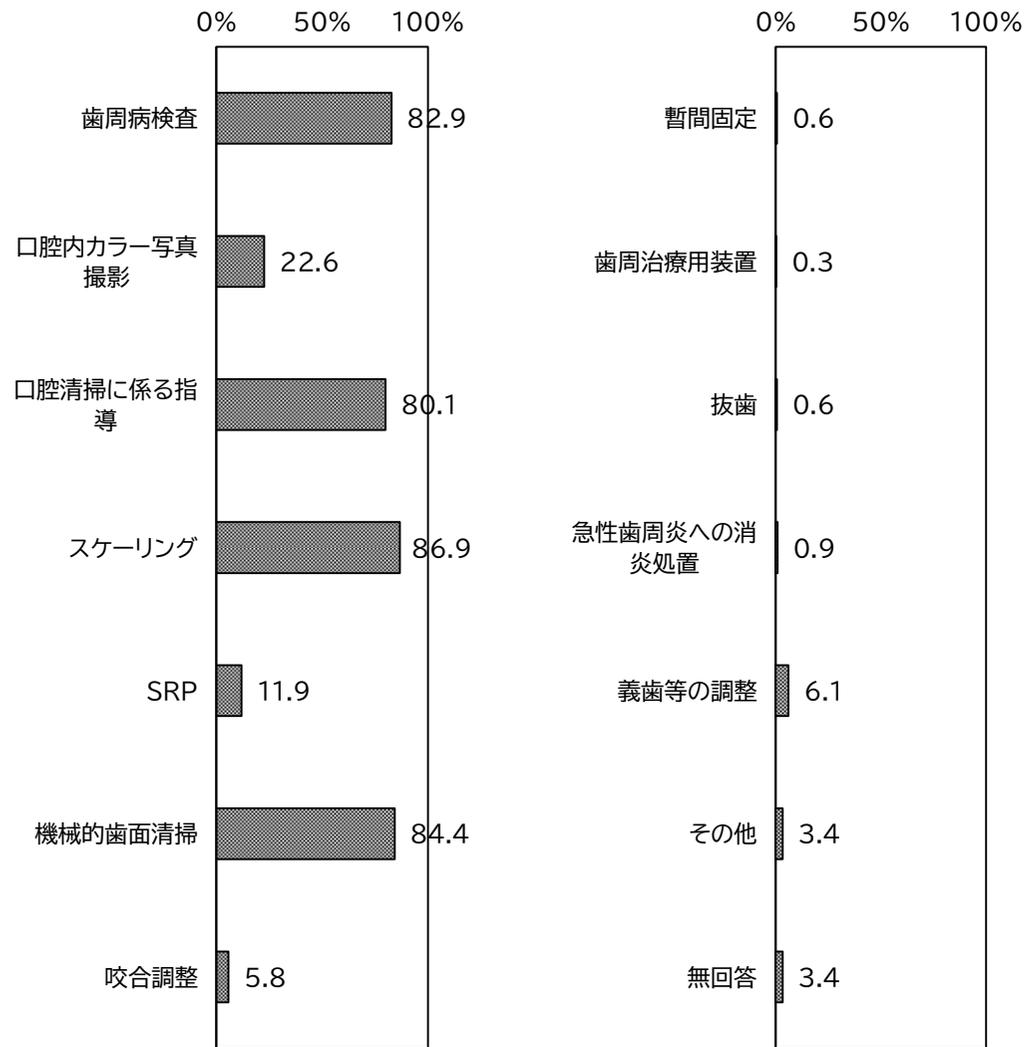
* 図表2-73において施設基準の質問が無回答の診療所は、「か強診」か「か強診以外」か分類できないため集計から除外した

施設調査の結果⑮

＜P重防の算定項目の算定日に行った、診療内容＞（報告書p97）

○P重防の算定項目の算定日に行った診療内容は「スケーリング」が86.9%であった。

図表 2-102 SPT又はP重防の算定項目の算定日に行った診療内容（複数回答）



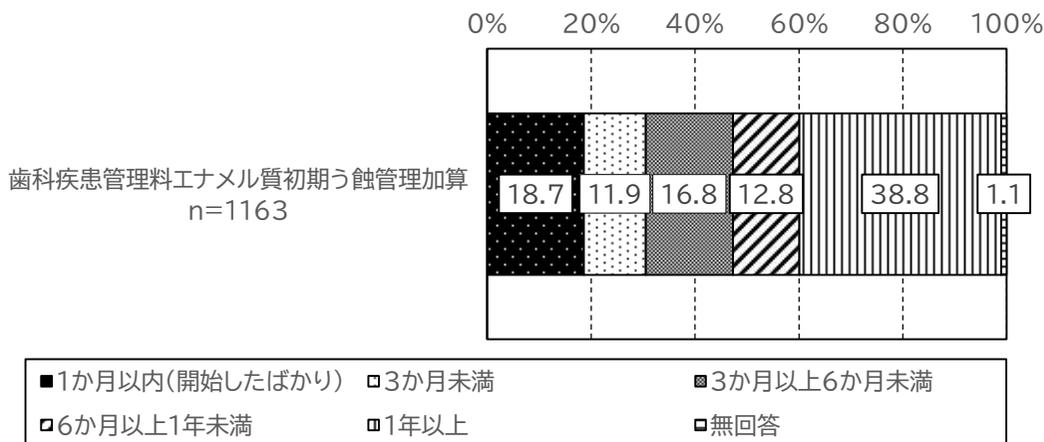
■歯周病重症化予防治療(P重防) n=327

施設調査の結果⑬

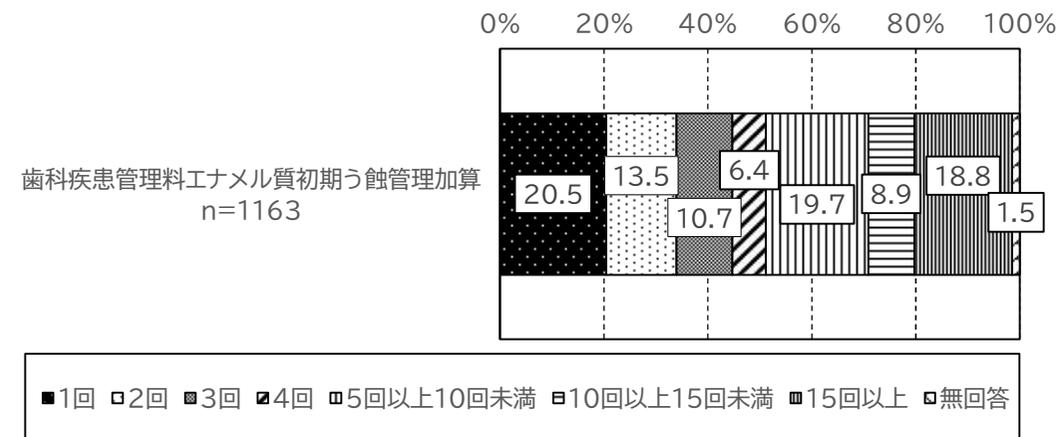
＜初診から現在までのエナメル質初期う蝕の指導管理の継続状況、実施回数＞（報告書p101,102）

- 初診から現在までのエナメル質初期う蝕の指導管理の継続状況は、「1年以上」が38.8%であった。
- 初診から現在までのエナメル質初期う蝕の指導管理の実施回数は、「1回」が20.5%であった。

図表 2-106 初診から現在まで、どのくらいの期間継続してエナメル質初期う蝕の指導管理を行っているか



図表 2-107 初診から現在までのエナメル質初期う蝕の指導管理の実施回数

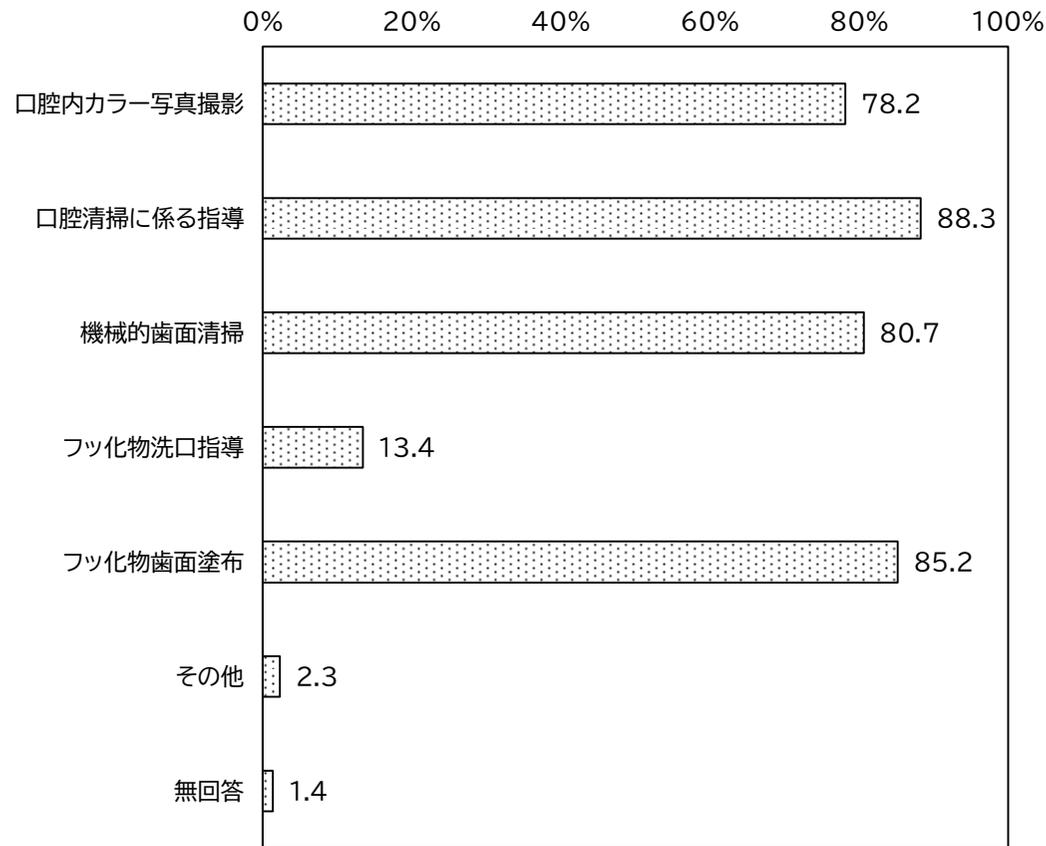


施設調査の結果⑰

＜エナメル質初期う蝕の指導管理に際する項目の算定日に行った、う蝕の指導管理に係る診療内容＞（報告書p103）

○エナメル質初期う蝕の指導管理に際する項目の算定日に行った、う蝕の指導管理に係る診療内容は「口腔清掃に係る指導」が88.3%であった。

図表 2-109 エナメル質初期う蝕の指導管理に際する項目の算定日に行った、う蝕の指導管理に係る診療内容（複数回答）



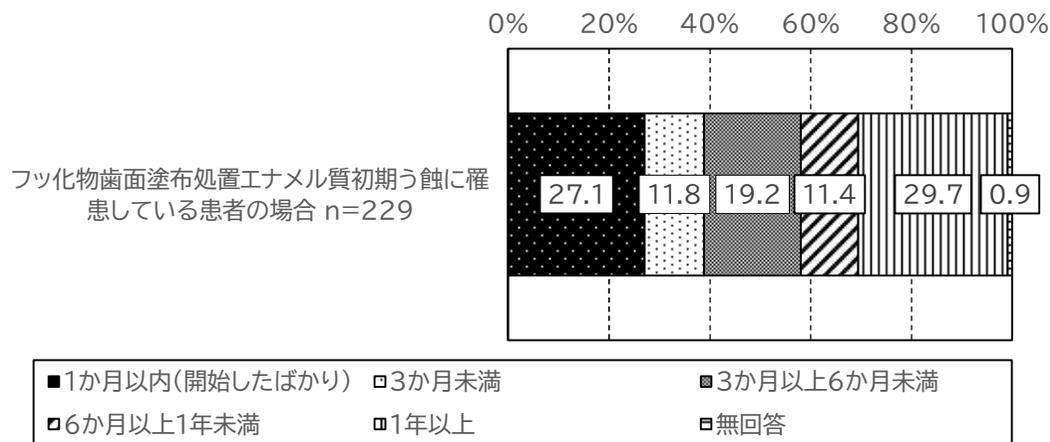
□歯科疾患管理料エナメル質初期う蝕管理加算 n=1163

施設調査の結果⑱

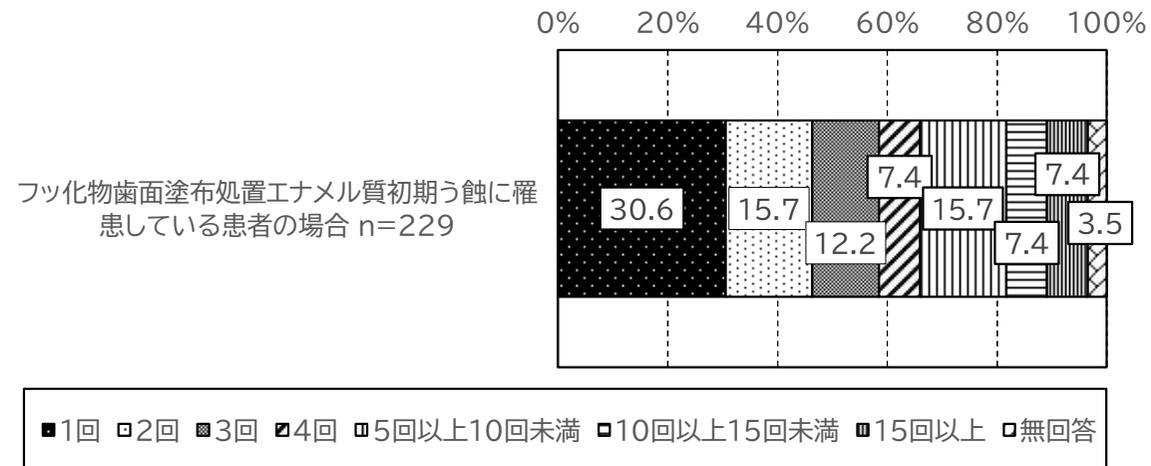
＜初診から現在までのエナメル質初期う蝕の指導管理の継続状況、実施回数＞（報告書p107,108）

- 初診から現在までのエナメル質初期う蝕の指導管理の継続状況は、「1年以上」が29.7%であった。
- 初診から現在までのエナメル質初期う蝕の指導管理の実施回数は、「1回」が30.6%であった。

図表 2-113 初診から現在まで、どのくらいの期間継続してエナメル質初期う蝕の指導管理を行っているか



図表 2-114 初診から現在までのエナメル質初期う蝕の指導管理の実施回数

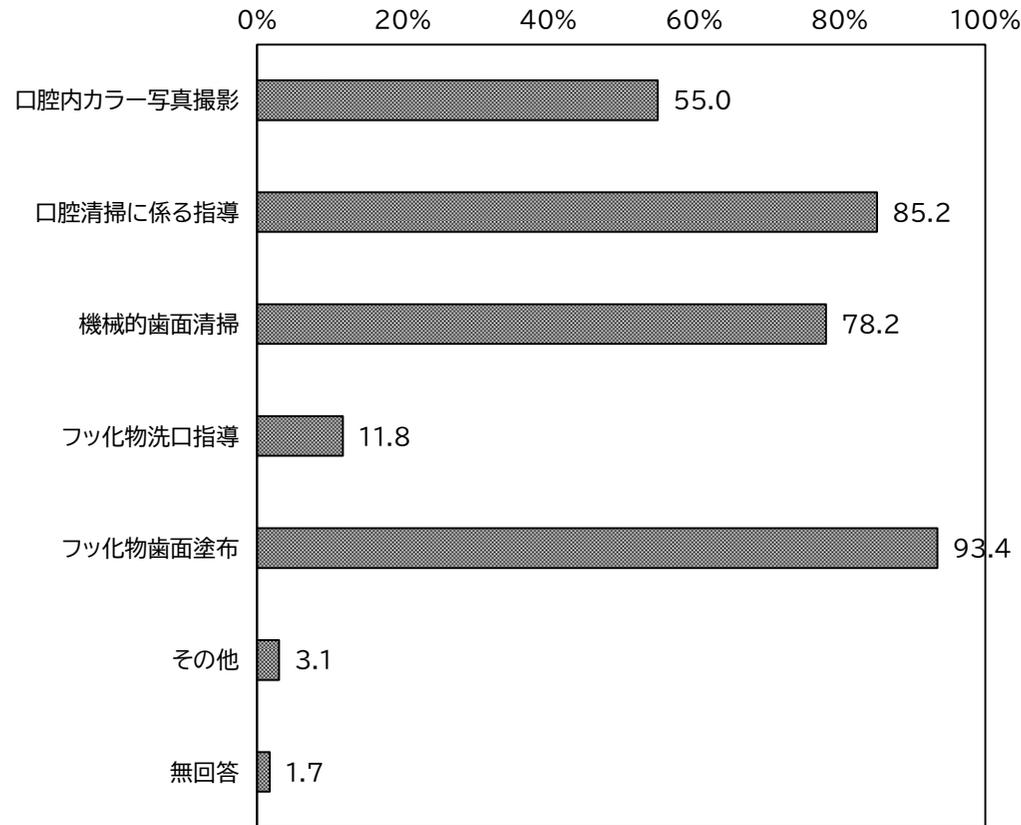


施設調査の結果⑬

＜エナメル質初期う蝕の指導管理に際する項目の算定日に行った、う蝕の指導管理に係る診療内容＞（報告書p109）

○エナメル質初期う蝕の指導管理に際する項目の算定日に行った、う蝕の指導管理に係る診療内容は「フッ化物歯面塗布」が93.4%であった。

図表 2-116 エナメル質初期う蝕の指導管理に際する項目の算定日に行った、う蝕の指導管理に係る診療内容（複数回答）



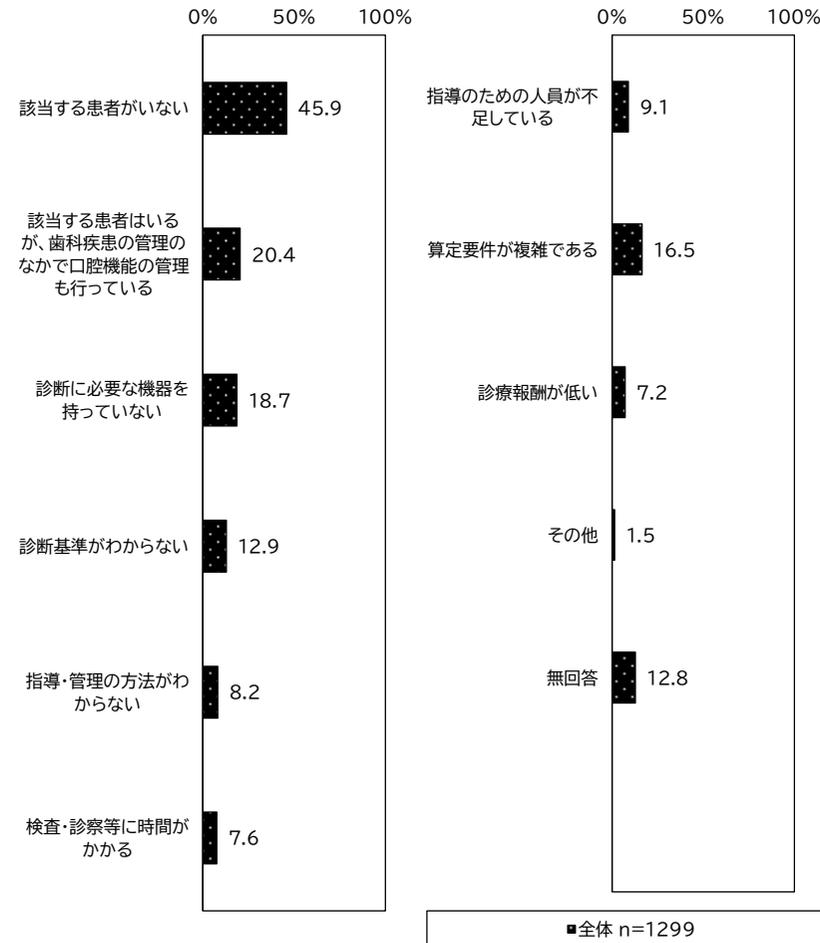
■フッ化物歯面塗布処置エナメル質初期う蝕に罹患している患者の場合 n=229

施設調査の結果⑳

＜小児口腔機能管理料の算定回数が0回の場合に算定していない理由＞（報告書p111）

○小児口腔機能管理料の算定回数が0回の場合に算定していない理由を尋ねたところ、「該当する患者がない」が45.9%であった。

図表 2-118 小児口腔機能管理料の算定回数が0回の場合算定していない理由（複数回答）

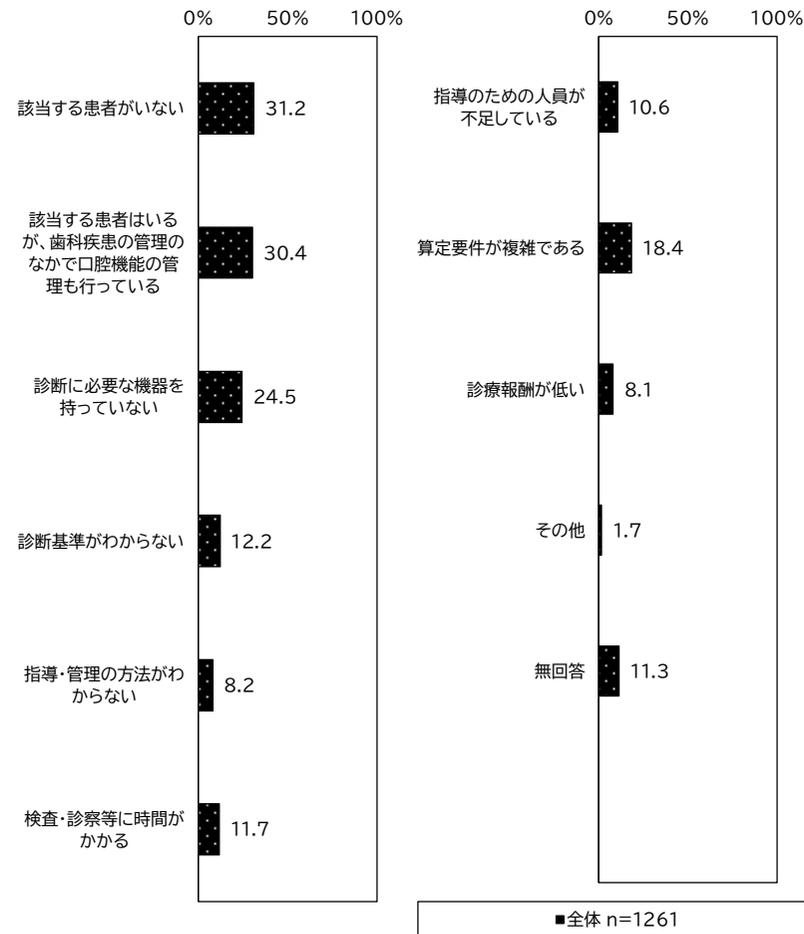


施設調査の結果②①

＜口腔機能管理料の算定回数が0回の場合に算定していない理由＞（報告書p113）

○口腔機能管理料の算定回数が0回の場合に算定していない理由を尋ねたところ、「該当する患者がない」が31.2%であった。

図表 2-120 （口腔機能管理料の算定回数が0回の場合）算定していない理由（複数回答）



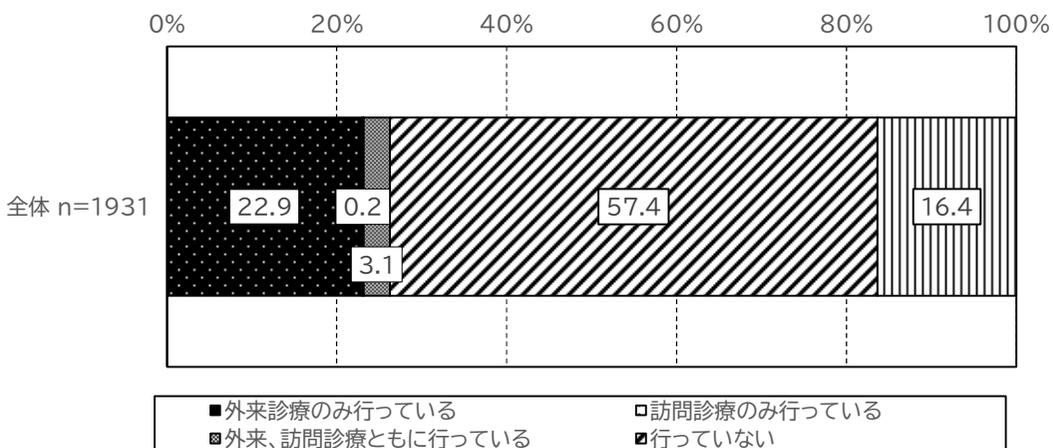
施設調査の結果②

＜周術期等口腔機能管理の実施状況、算定していない理由＞（報告書p114,116）

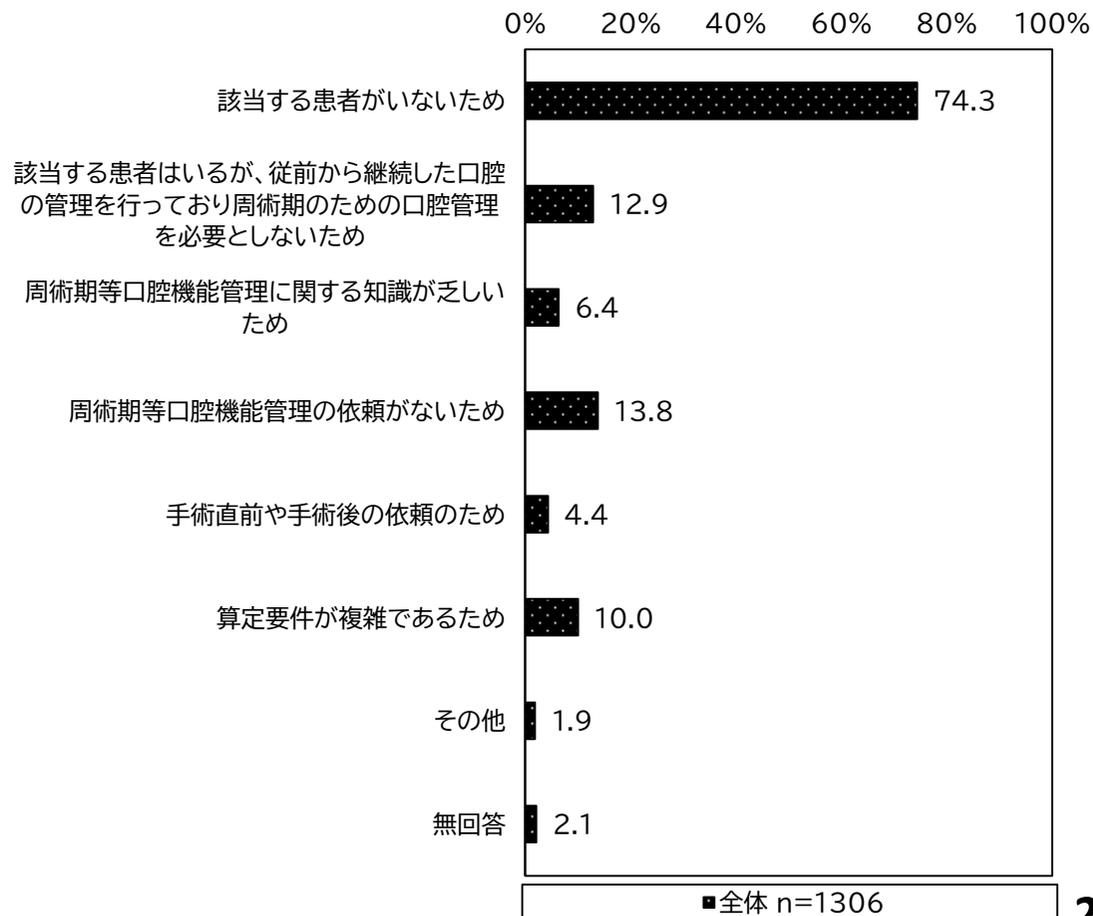
○周術期等口腔機能管理の実施状況は「外来診療のみ行っている」が22.9%、「訪問診療のみ行っている」が0.2%、「外来、訪問診療ともに行っている」が3.1%、「行っていない」が57.4%であった。

○周術期等口腔機能管理を「算定していない」を選んだ場合、その理由を尋ねたところ、「該当する患者がないため」が74.3%であった。

図表 2-121 周術期等口腔機能管理の実施状況



図表 2-123 周術期等口腔機能管理を算定していない理由（複数回答）



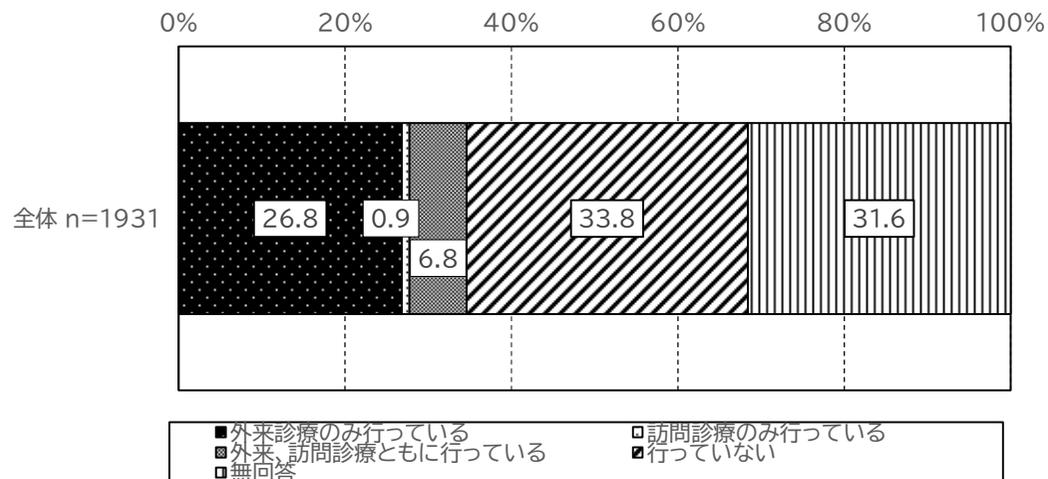
施設調査の結果⑳

＜障害児者に対する歯科診療の実施状況、医療的ケア児に対する歯科診療の実施状況＞
 (報告書p120)

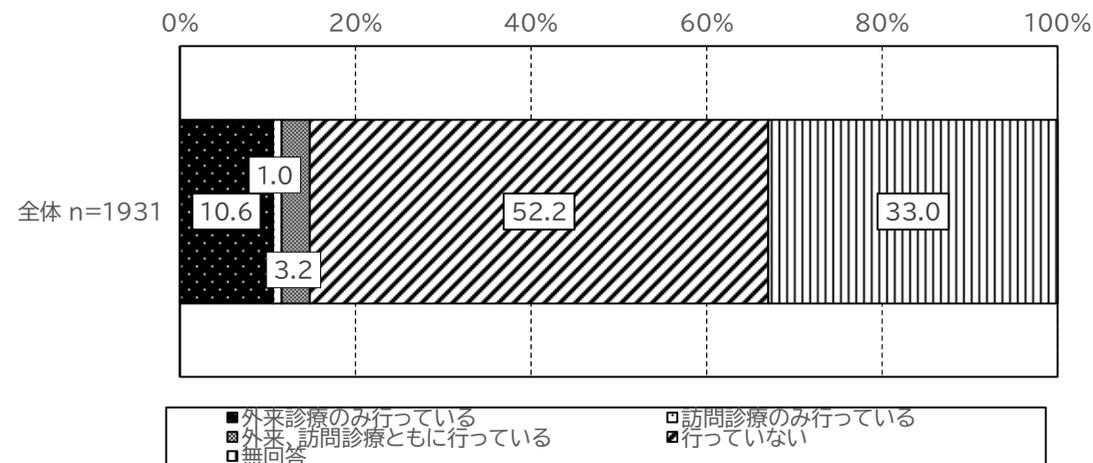
○障害児者に対する歯科診療の実施状況は「外来診療のみ行っている」が26.8%、「訪問診療のみ行っている」が0.9%、「外来、訪問診療ともに行っている」が6.8%、「行っていない」が33.8%であった。

○医療的ケア児に対する歯科診療の実施状況は「外来診療のみ行っている」が10.6%、「訪問診療のみ行っている」が1.0%、「外来、訪問診療ともに行っている」が3.2%、「行っていない」が52.2%であった。

図表 2-127 障害児者に対する歯科診療の実施状況



図表 2-128 医療的ケア児に対する歯科診療の実施状況

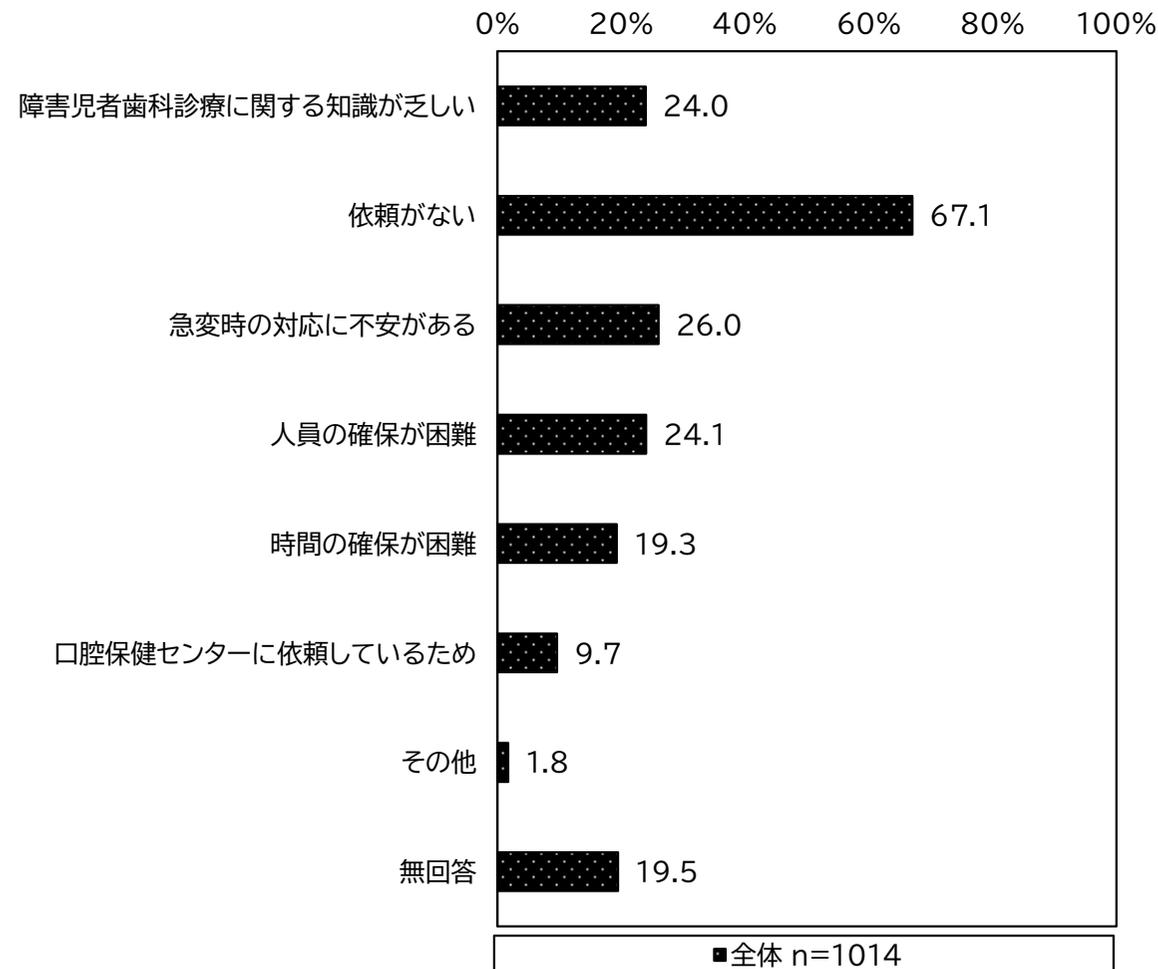


施設調査の結果②④

＜障害児者や医療的ケア児への歯科診療を実施していない理由＞（報告書p128）

○障害児者または医療的ケア児に対する歯科診療の実施状況について「行っていない」と回答した場合、その理由を尋ねたところ、「依頼がない」が67.1%であった。

図表 2-132 障害児者や医療的ケア児への歯科診療を実施していない理由（複数回答）

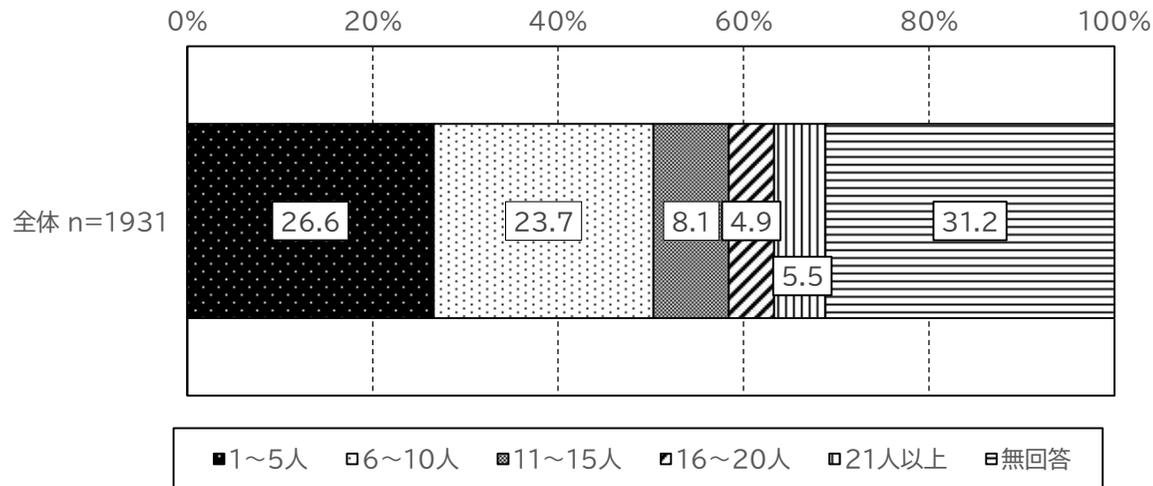


施設調査の結果②⑤

＜平均的な1日あたりの歯科衛生実地指導の患者数(令和5年6月1か月間)＞(報告書p135)

○令和5年6月1か月間における、平均的な1日あたりの歯科衛生実地指導の患者数は、「1～5人」が26.6%、「6～10人」が23.7%であった。

図表 2-138 令和5年6月1か月間における、平均的な1日あたりの歯科衛生実地指導の患者数

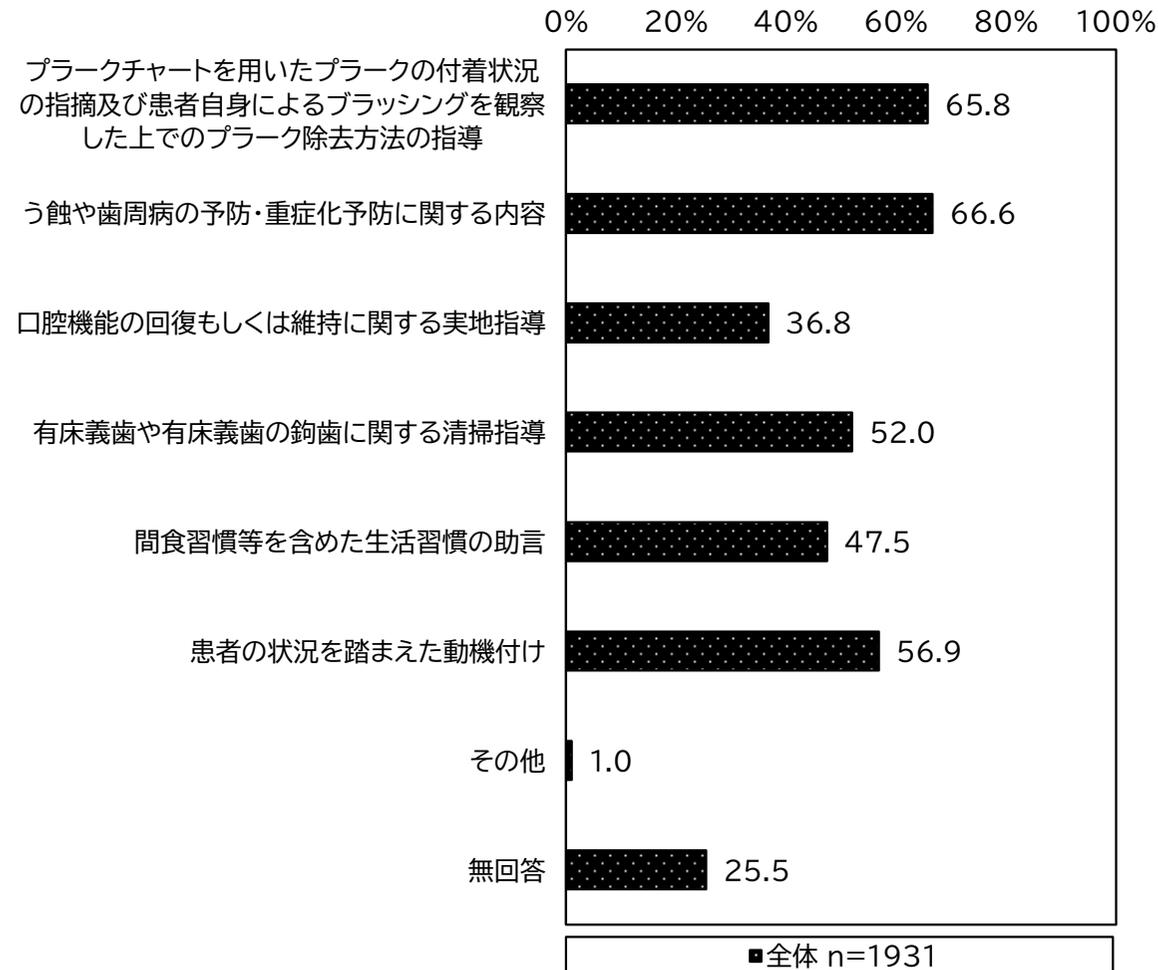


施設調査の結果②⑥

＜歯科衛生実地指導の内容＞（報告書p137）

○令和5年6月の1か月間に実施した歯科衛生実地指導の内容は、「う蝕や歯周病の予防・重症化予防に関する内容」66.6%、「プラークチャートを用いたプラークの付着状況の指摘及び患者自身によるブラッシングを観察した上でのプラーク除去方法の指導」が65.8%であった。

図表 2-140 令和5年6月の1か月間に実施した歯科衛生実地指導の内容（複数回答）



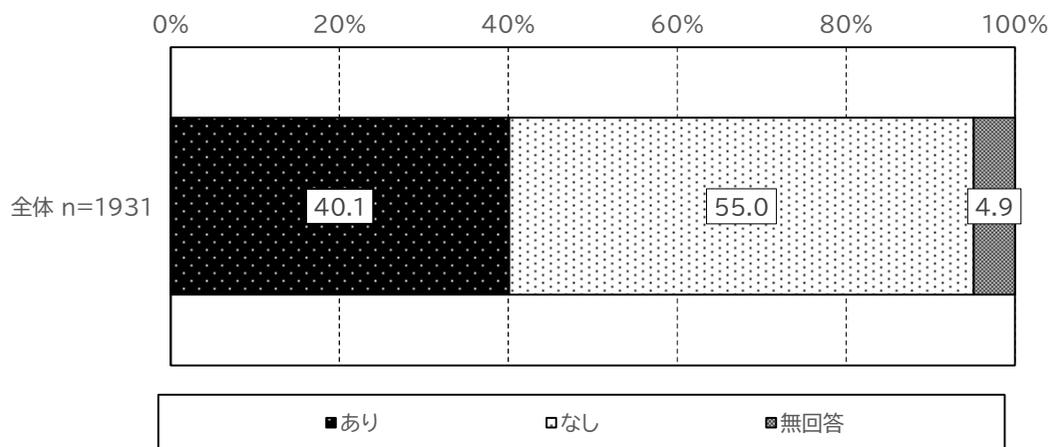
施設調査の結果②⑦

＜医科医療機関からの診療情報提供や共有の依頼の有無、依頼内容＞（報告書p145,146）

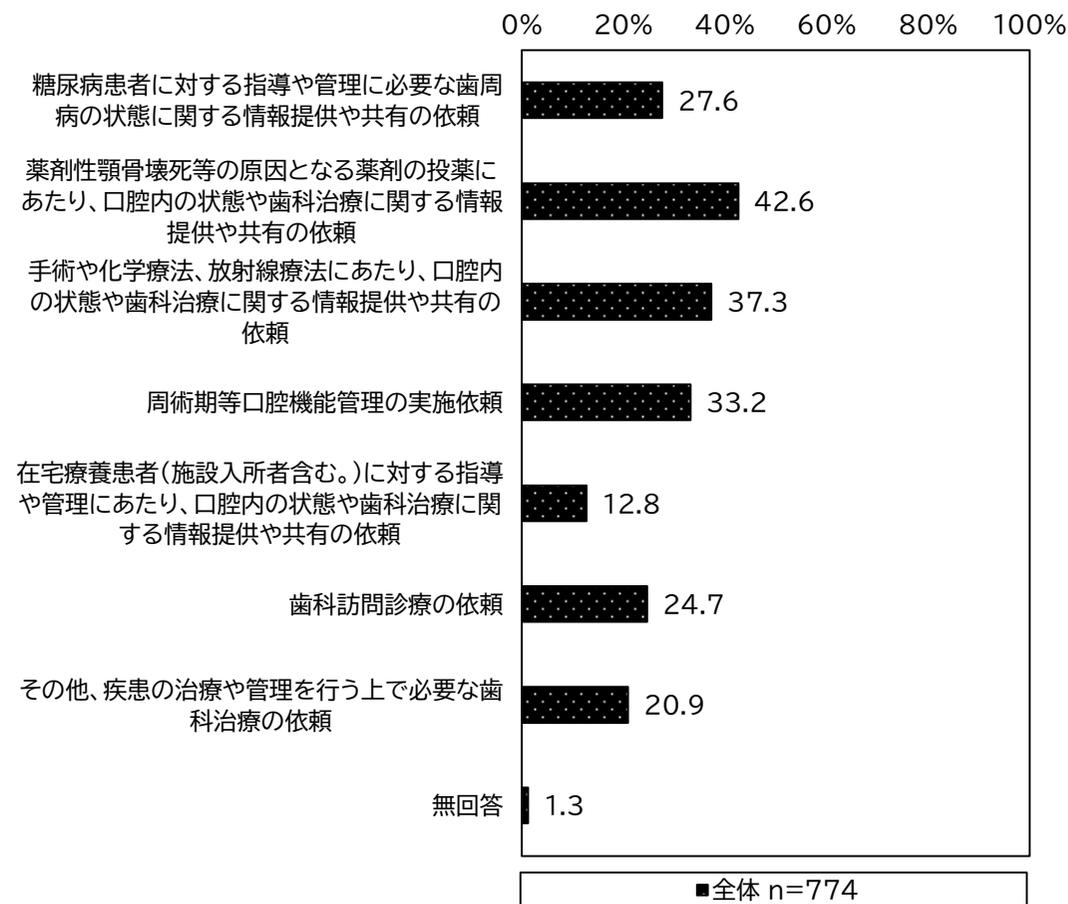
○医科医療機関からの診療情報提供や共有の依頼の有無については「あり」が40.1%、「なし」が55.0%であった。

○医科医療機関からの診療情報提供や共有の依頼で「あり」を選択した場合、依頼内容について尋ねたところ、「薬剤性顎骨壊死等の原因となる薬剤の投薬にあたり、口腔内の状態や歯科治療に関する情報提供や共有の依頼」が42.6%であった。

図表 2-149 診療情報提供や共有の依頼



図表 2-150 ①医科医療機関から、診療情報提供や共有の依頼で「あり」を選択した場合の依頼内容（複数回答）



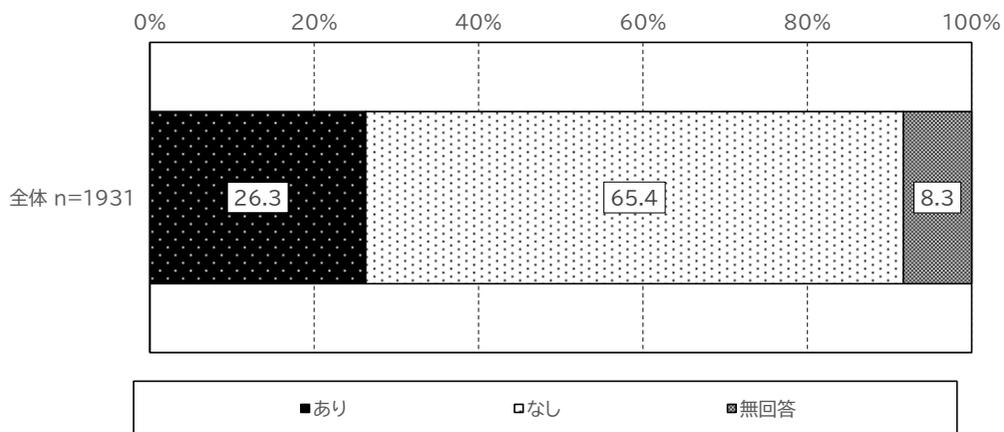
施設調査の結果⑳

＜歯科医療機関からの文書による診療情報提供の有無、歯科医療機関からの文書による診療情報提供の内容＞（報告書p147,148）

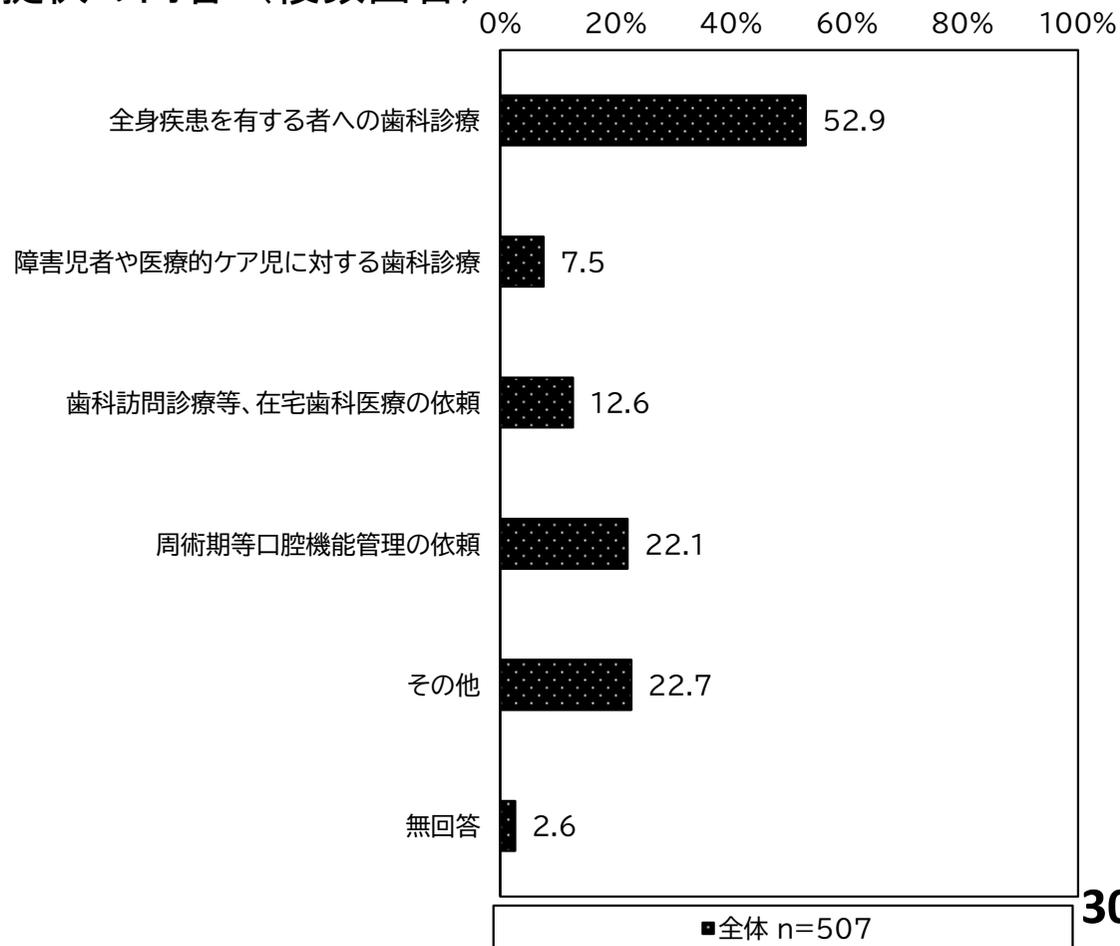
○歯科医療機関からの文書による診療情報提供の有無については「あり」が26.3%、「なし」が65.4%であった。

○歯科医療機関からの文書による診療情報提供の有無で「あり」を選択した場合、診療情報提供の内容について尋ねたところ、「全身疾患を有する者への歯科診療」が52.9%であった。

図表 2-151 歯科医療機関からの文書による診療情報提供はあったか



図表 2-152 歯科医療機関からの文書による診療情報提供の内容（複数回答）

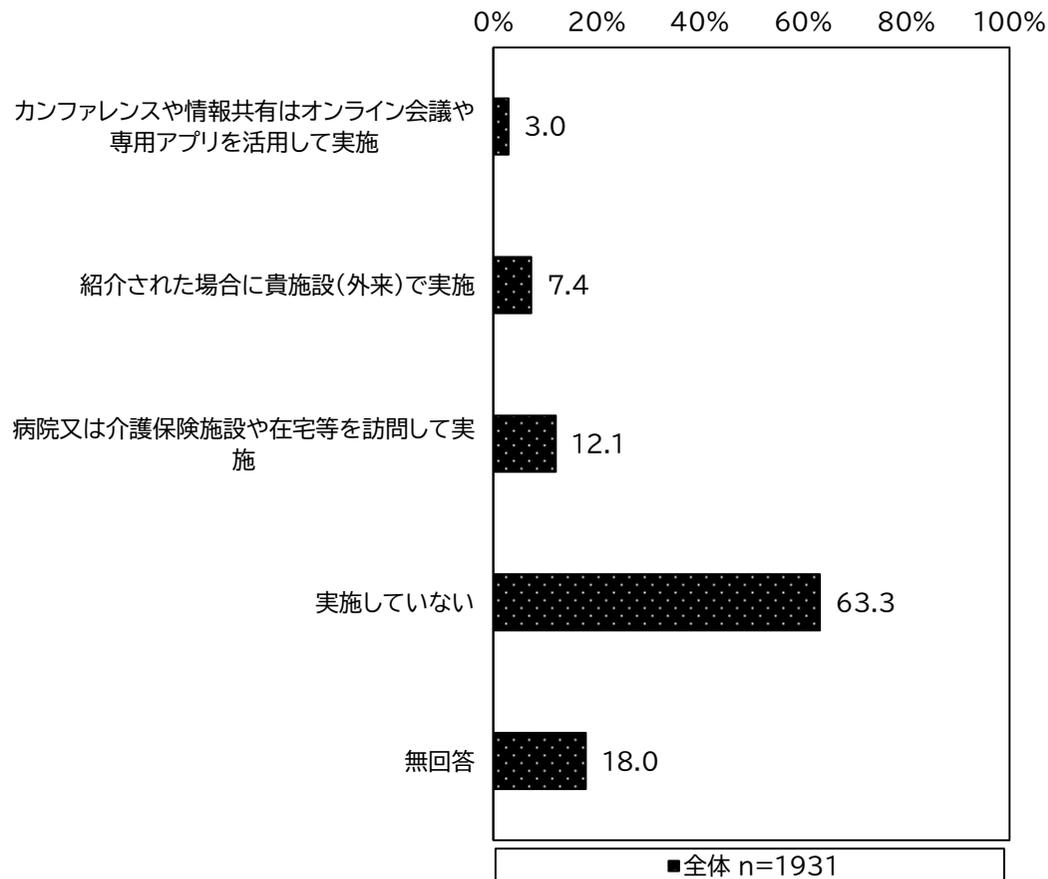


施設調査の結果②

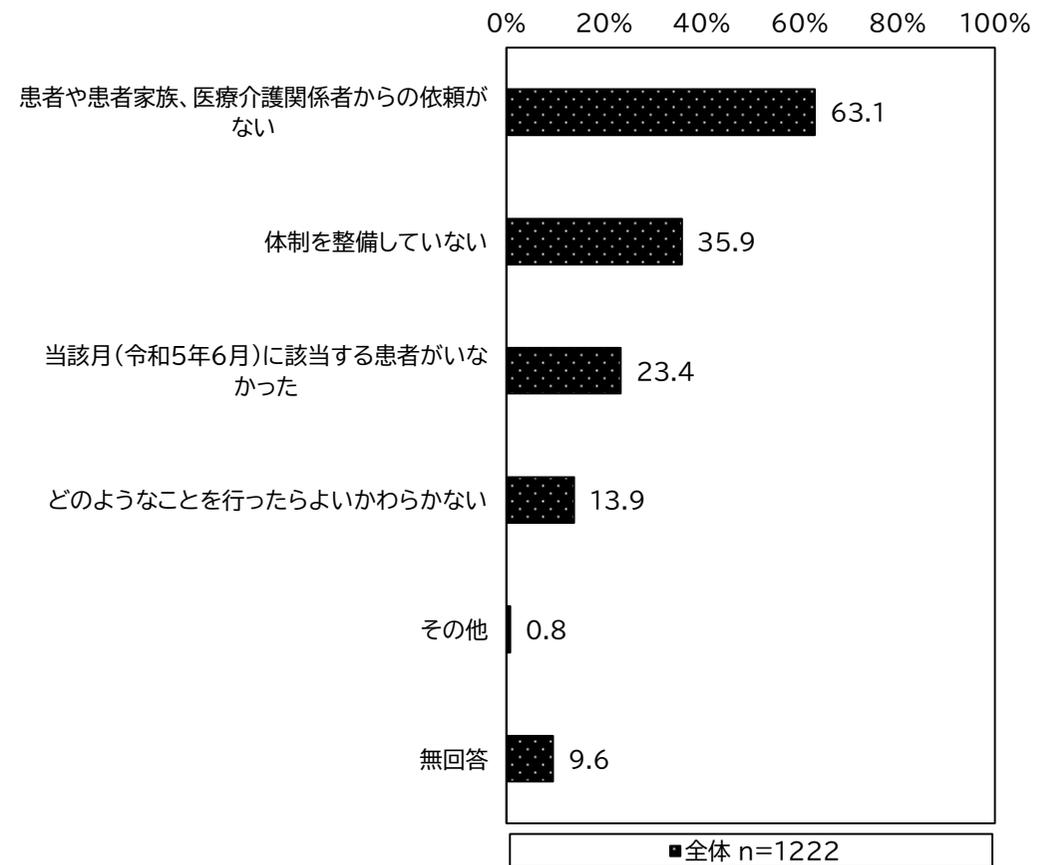
＜多職種連携の取組方法、多職種連携の取組を実施していない理由＞（報告書p151、154）

○多職種連携の取組方法については、「実施していない」が63.3%、「病院又は介護保険施設や在宅等を訪問して実施」が12.1%であった。
 ○多職種連携の取組をどのように行っているかについて「実施していない」を選択した場合、その理由を尋ねたところ、「患者や患者家族、医療介護関係者からの依頼がない」が63.1%であった。

図表 2-155 多職種連携の取組方法をどのように行っているか（複数回答）



図表 2-158 多職種連携の取組を実施していない理由（複数回答）

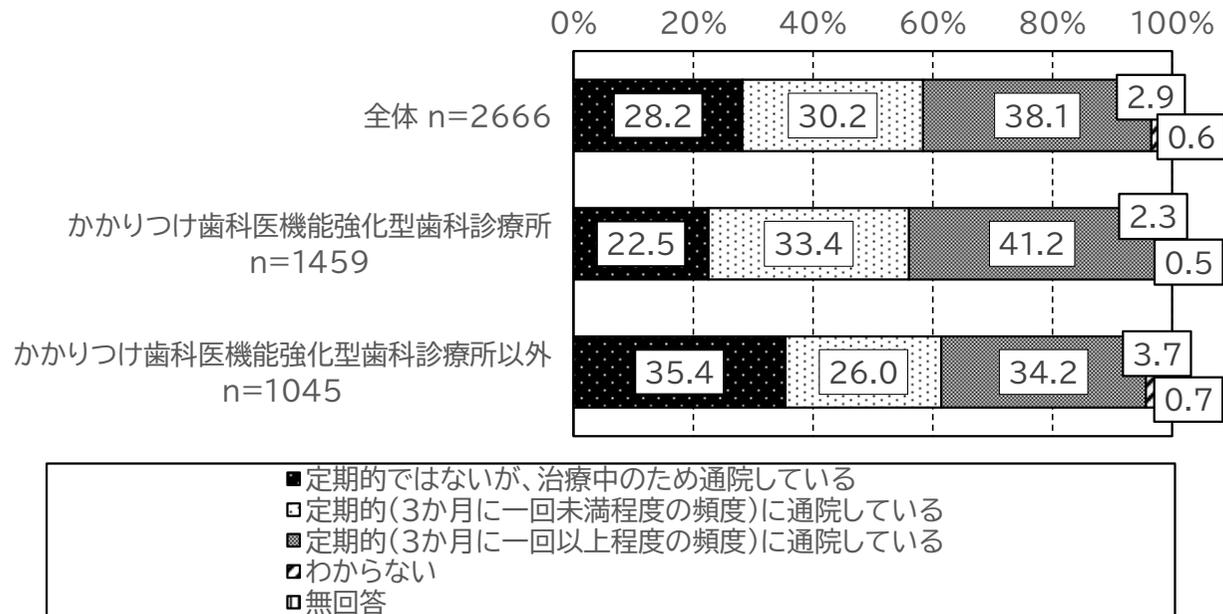


患者調査の結果①

＜本日受診している歯科診療所への通院頻度＞（報告書p159）

○本日受診している歯科診療所への通院頻度は「定期的ではないが、治療中のため通院している」28.2%、「定期的(3か月に一回未満程度の頻度)に通院している」30.2%、「定期的(3か月に一回以上程度の頻度)に通院している」38.1%であった。

図表 3-5 通院頻度

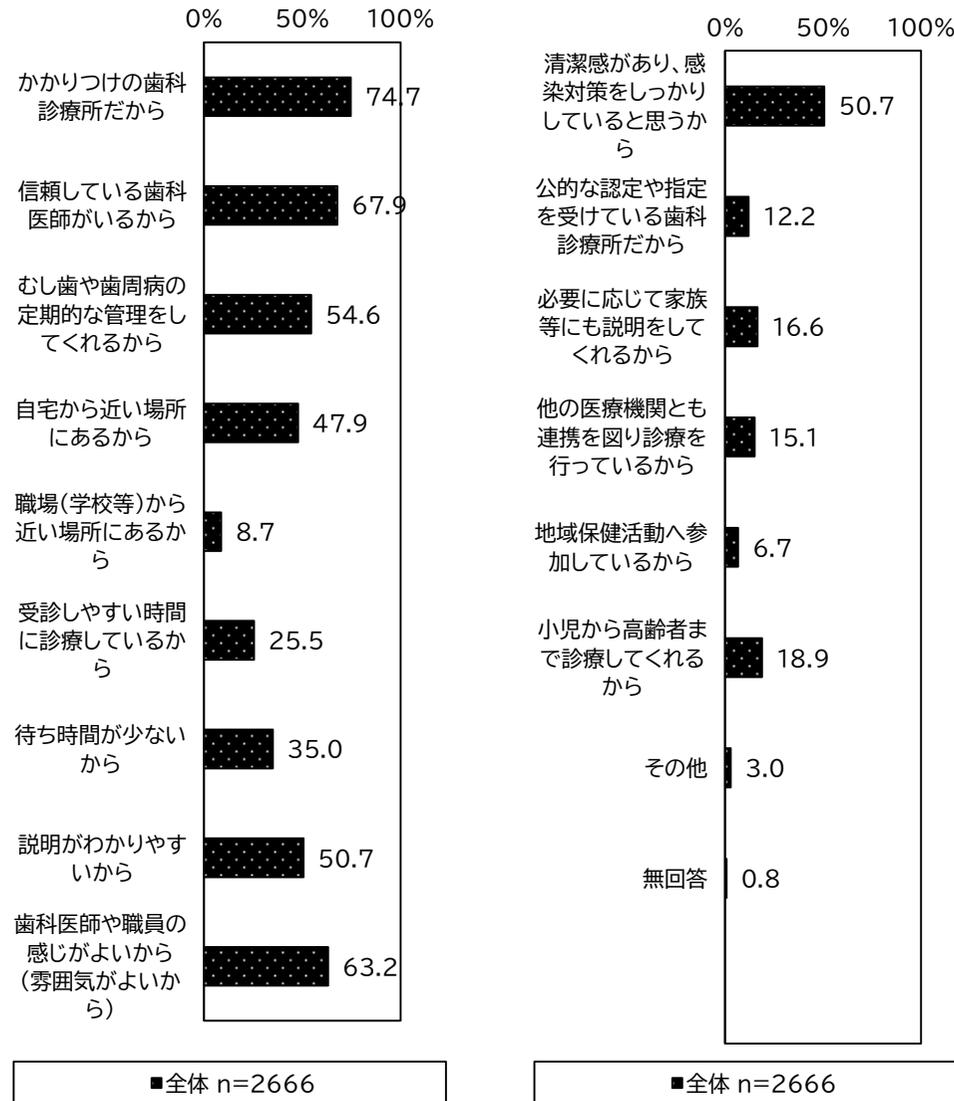


患者調査の結果②

＜本日受診した歯科診療所を選んだ理由＞（報告書p166）

○本日受診した歯科診療所を選んだ理由は「かかりつけの歯科診療所だから」74.7%、「信頼している歯科医師がいるから」67.9%、「歯科医師や職員の感じがよいから（雰囲気がいから）」63.2%であった。

図表 3-13 本日受診した歯科診療所を選んだ理由（複数回答）

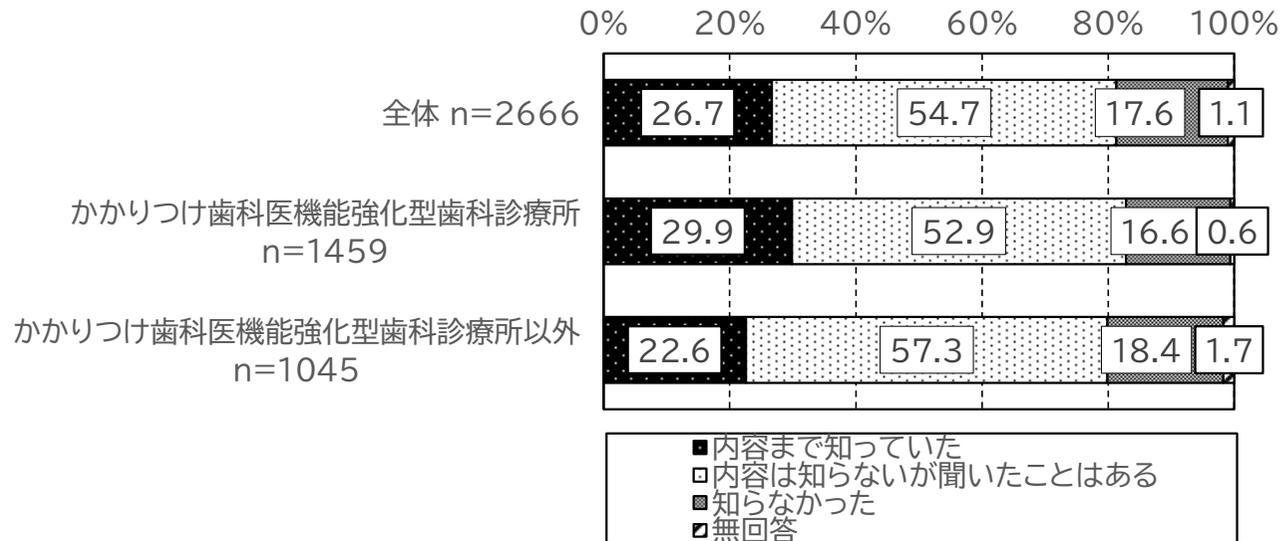


患者調査の結果③

<かかりつけ歯科医> (報告書p170)

○「かかりつけ歯科医」という言葉を知っているかについては「内容まで知っていた」26.7%、「内容は知らないが聞いたことはある」54.7%、「知らなかった」17.6%であった。

図表 3-17 「かかりつけ歯科医」の認知度
(か強診・か強診以外)



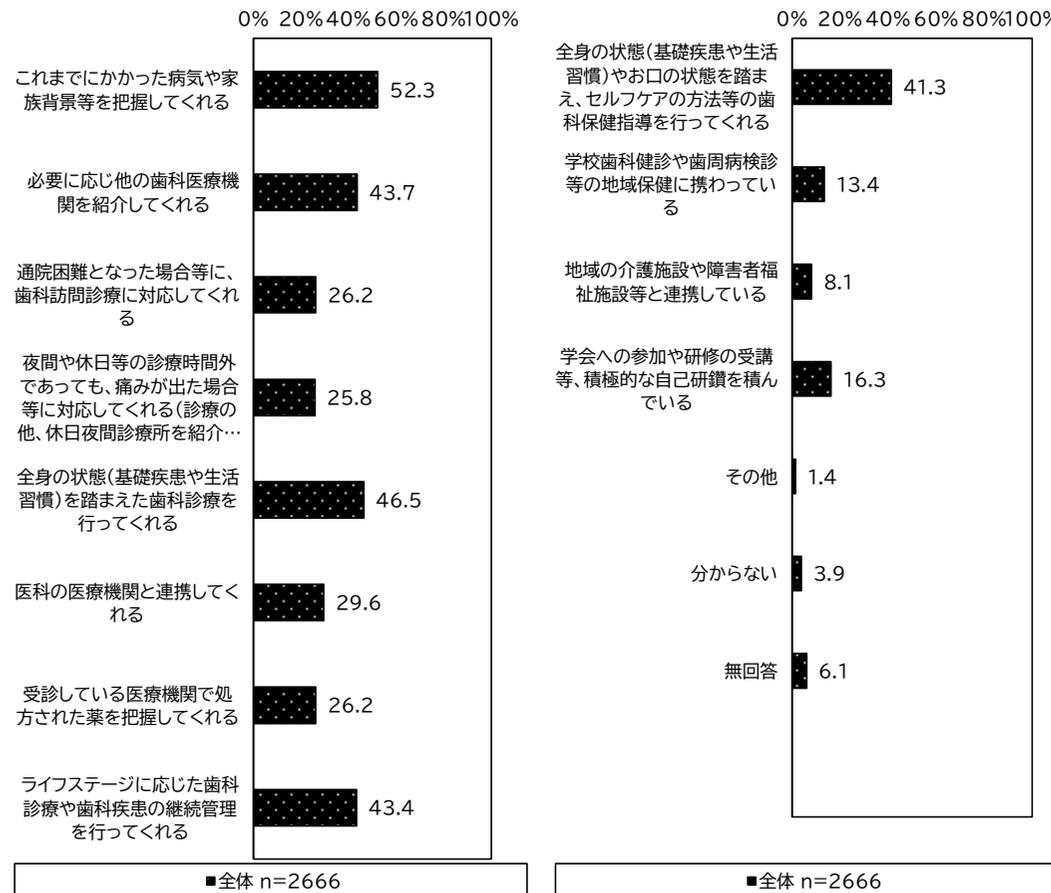
※かかりつけ歯科医とは、安全・安心な歯科医療の提供のみならず医療・介護に係る幅広い知識と見識を備え、地域住民の生涯に亘る口腔機能の維持・向上をめざし、地域医療の一翼を担う者としてその責任を果たすことができる歯科医師のことを言います。

患者調査の結果④

＜「かかりつけ歯科医」に求めるものは何か＞（報告書p174）

○ 「かかりつけ歯科医」に求めるものについては「これまでにかかった病気や家族背景等を把握してくれる」52.3%、「全身の状態（基礎疾患や生活習慣）を踏まえた歯科診療を行ってくれる」46.5%、「必要に応じ他の歯科医療機関を紹介してくれる」43.7%、「ライフステージに応じた歯科診療や歯科疾患の継続管理を行ってくれる」43.4%、「全身の状態（基礎疾患や生活習慣）やお口の状態を踏まえ、セルフケアの方法等の歯科保健指導を行ってくれる」41.3%であった。

図表 3-24 「かかりつけ歯科医」に求めるものは何か（複数回答）



令和4年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和5年度調査）の
報告案について

○ 歯科医療機関における院内感染防止対策の評価等に関する実施状況調査（右下頁）

・報告書（案）	1 頁
・NDBデータ	180 頁
・調査票	184 頁

令和4年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和5年度調査）

歯科医療機関における院内感染防止対策の評価等に関する

実施状況調査 報告書（案）

◆◆目次◆◆

I. 調査の概要	1
1. 目的	1
2. 調査対象	2
3. 調査方法	3
4. 調査項目	4
5. 調査検討委員会	9
II. 調査の結果	10
1. 回収結果	10
2. 施設調査	12
1) 施設の概要（令和5年7月1日現在）	13
2) 歯科診療の実施体制および院内感染防止対策の実施状況等について	31
3) 貴施設における、歯科診療の内容及び管理料の算定状況等	51
4) 貴施設における、多職種連携に関する取組等について	145
3. 患者調査	155
1) 患者さん（本日診療を受けた方）について	156
2) かかりつけ歯科医	170

I. 調査の概要

1. 目的

令和4年度診療報酬改定において、歯科医療機関における院内感染防止対策を推進する観点から、歯科初診料及び歯科再診料の引上げを行うとともに、院内感染防止対策に関する施設基準についての見直しを行った。また、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所について地域における連携体制の確保のため施設基準の見直しを行うとともに、歯科疾患の重症化予防に関する評価の見直しを行った。これらを踏まえ、本調査では、歯科医療機関における院内感染防止対策等について調査・検証を行った。

2. 調査対象

本調査では、「(1)施設調査」「(2)患者調査」の2つの調査を実施した。各調査の対象は、次の通りである。

(1) 施設調査

保険医療機関の中から、①かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の届出を行っている歯科診療所 2,000 施設、②かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の届出を行っていない歯科診療所 2,000 施設の計 4,000 施設を無作為で抽出した。

(2) 患者調査

前記(1)歯科診療所調査の対象施設を受診した患者のうち、各施設で「歯科疾患管理料」を算定した再診患者 2 人を調査対象とした。調査客体数は最大で 4,000 人 (2 人 × 2,000 施設 = 4,000 人) とした。

3. 調査方法

本調査の「(1)施設調査」は、郵送発送による自記式アンケート調査方式により実施した。回答は、紙媒体（IDを印字した調査票）に記入後、郵送返送する方法と、専用ホームページより電子調査票をダウンロードし、入力の上、メールへの添付により返送する方法から選択できるようにした。

「(2)患者調査」については、自記式調査票（患者票）の配布は上記(1)の対象施設を通じて行い、回収は事務局宛の専用返信封筒により患者から直接郵送で行った。

調査実施時期は、令和5年7月26日から令和5年9月15日であった。

4. 調査項目

各調査の調査票（「(1)施設調査」「(2)患者調査」）の調査項目は以下の通りである。

(1) 施設調査

設問種類	設問項目	
1. 施設概要	①開設主体	
	②標榜診療科	
	③管理者の年齢	
	④開設時期	
	⑤医科の医療機関の併設状況	
	⑥職員数	
	⑦医療機器等の保有台数、保有の有無	
	⑧情報共有・連携を行うための ICT の活用 (情報共有・連携を行うための ICT の活用している場合) 活用している ICT	
	⑨施設基準	
	⑩-1 かかりつけ歯科医の役割	
	⑩-2 保健事業や地域連携会議の参加実績	
	⑩-3 (か強診の届出がない場合) 施設基準について現時点で満たしていない要件	
	⑪ (初診料の注1に規定する施設基準の届出がない場合) 施設基準について現時点で満たしていない要件	
	⑫ (歯科外来診療環境体制加算 1 の届出がない場合) 施設基準について現時点で満たしていない要件	
2. 歯科診療の実施体制および診療患者	①機器等の滅菌体制 (機器等の滅菌体制で、施設内の滅菌器で行っている場合) 滅菌の回数 (機器等の滅菌体制で、施設内の滅菌器で行っている場合) 実施する時間帯	
	②-1 院内感染防止対策の研修方法	
	②-2 院内感染防止対策の研修内容	
	②-3 院内感染防止対策の研修頻度	
	③院内感染防止のための取り組み内容 (新型コロナウイルス感染症流行以前、流行中、5類移行後)	
	④-1 新型コロナウイルス感染症患者への歯科診療を行ったか (新型コロナウイルス感染症患者への歯科診療を行った場合) 初診か再診か (新型コロナウイルス感染症患者への歯科診療を行った場合) どのような治療を行ったか	
	⑤-1 令和2年4月以降、電話や情報通信機器を用いた歯科診療を行ったか (令和2年4月以降、電話や情報通信機器を用いた歯科診療を行った場合) どのような治療を行ったか (令和2年4月以降、電話や情報通信機器を用いた歯科診療を行っていない場合) 今後行う予定はあるか 電話や情報通信機器を用いた診療について、どのような場面で活用したいか	
	3. 歯科診療の内容及び管理料の算定状況等	①-①初診料を算定した患者数 (実人数)
		①-② (初診料を算定した患者数 (実人数)) のうち再初診の患者数 (実人数)

設問種類	設問項目
	①-③再診料を算定した患者数（実人数）
	①-④訪問歯科診療を実施した患者数（実人数）
	②-①15歳未満の患者の割合
	②-②15歳～65歳未満の患者の割合
	②-③65歳～75歳未満の患者の割合
	②-④75歳以上の患者の割合
	③-①歯科訪問診療回数
	③-②連携する在宅療養支援歯科診療所1・2に依頼した歯科訪問診療の回数
	③-③診療情報提供料合計回数
	③-④診療情報連携共有料回数
	③-⑤歯科衛生実地指導料1回数
	③-⑥歯科衛生実地指導料2回数
	③-⑦訪問歯科衛生指導料回数
	③-⑧フッ化物歯面塗布処置で、う蝕多発傾向者の場合の回数
	③-⑧フッ化物歯面塗布処置で、初期の根面う蝕に罹患している患者の場合の回数
	③-⑧フッ化物歯面塗布処置で、エナメル質初期う蝕に罹患している患者の場合の回数
	③-⑧フッ化物歯面塗布処置の主な実施者
	③-⑨フッ化物洗口指導加算回数、主な実施者
	③-⑩機械的歯面清掃処置回数、主な実施者
	③-⑪非経口摂取患者口腔粘膜処置回数、主な実施者
	③-⑫周術期等専門的口腔衛生処置回数、主な実施者
	④定期的な管理の実施状況について全体の患者に占める割合
	⑤-①歯科疾患管理料の算定人数（実人数）
	⑤-②フッ化物洗口指導加算の算定回数（13歳未満、13歳以上15歳未満）
	⑤-③エナメル質初期う蝕管理加算の算定回数
	⑤-④総合医療管理加算の算定回数
	⑤-⑤（総合医療管理加算の算定回数）のうち、対象患者の疾患
	⑤-⑥歯科疾患管理料 長期管理加算の算定回数
	⑥-①歯周病安定期治療の算定人数（実人数）
	⑥-②歯周病重症化予防治療から歯周病安定期治療に移行した患者の有無
	⑥-③3か月以内の歯周病安定期治療を算定した場合、算定した患者ではまるもの
	⑥-④歯周病安定期治療の対象になる可能性があるが、歯周病安定期治療を算定しなかった患者の有無
	⑥-④（歯周病安定期治療の対象になる可能性があるが、歯周病安定期治療を算定しなかった患者がいた場合） 算定しなかった理由
	⑦-①歯周病重症化予防治療の算定患者数（実人数）
	⑦-②歯周病安定期治療から歯周病重症化予防治療に移行した患者の有無
	⑦-③歯周病重症化予防治療の対象になる可能性があるが、歯周病重症化予防治療を算定しなかった患者の有無
	⑦-④（歯周病重症化予防治療の対象になる可能性があるが、歯周病重症化予防治療を算定しなかった患者がいた場合） 算定しなかった理由
	⑧-①算定している項目
	⑧-②（算定している項目のうち）算定月
	⑧-③患者の年齢

設問種類	設問項目
	⑧-④患者の初診月
	⑧-⑤SPT 又は P 重防の初回の算定月
	⑧-⑥直近の半年間の SPT 又は P 重防の実施頻度であてはまるもの
	⑧-⑦SPT 又は P 重防の初回の算定月時点の歯の本数
	⑧-⑧SPT 又は P 重防の初回の算定月の前又は後に、歯周病により抜歯したことの有無と、抜歯の時期、本数
	⑧-⑨SPT 又は P 重防の初回の算定月時点の 4mm 以上の歯周ポケットを有する歯の本数
	⑧-⑩算定日に行った、診療内容
	⑧-⑪ (算定している項目で SPT を選んだ場合) 患者に対し、SPT を開始して以降、前回の算定から 3 月以内の SPT を算定したことの有無
	⑧-⑫ (算定している項目で SPT を選び、患者に対し、SPT を開始して以降、前回の算定から 3 月以内の SPT を算定したことがある場合) その理由
	⑨-①算定している項目
	⑨-②算定している項目の算定月
	⑨-③患者の年齢
	⑨-④患者の初診月
	⑨-⑤エナメル質う蝕の指導管理をどれくらいの期間継続して行ったか
	⑨-⑥初診から現在までのエナメル質初期う蝕の指導管理の実施回数
	⑨-⑦エナメル質初期う蝕の指導管理に係る治療の実施頻度
	⑨-⑧う蝕の指導管理に係る診療内容
	⑩-①算定回数 (15 歳未満、15 歳以上 18 歳未満)
	⑩-②算定していない理由
	⑪-①算定回数 (50 歳以上 65 歳未満、65 歳以上)
	⑪-②算定していない理由
	⑫-①実施状況
	⑫-②周術期等口腔機能管理に関する診療報酬の算定の有無
	⑫-③ (診療報酬を算定していない場合) 算定していない理由
	⑫-④ (診療報酬を算定していない場合) 周術期等口腔機能管理料以外の点数を算定している場合、算定している項目
	⑬-①歯科診療特別対応加算の算定回数
	⑬-②-1 特別対応加算を算定した患者の状態
	⑬-②-2 特別対応加算を算定した患者で、対応に苦慮した場合、その状態
	⑬-③障害児者に対する歯科診療の実施状況
	⑬-④医療的ケア児に対する歯科診療の実施状況
	⑬-⑤ (障害児者、医療的ケア児に対する歯科診療の実施している場合) 診療する場合の体制
	⑬-⑥ (障害児者、医療的ケア児に対する歯科診療の実施している場合) 診療したことのある医療的ケア児の患者像
	⑬-⑦保育所等又は幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、高等専門学校若しくは専修学校への文書による診療情報提供を行ったことの有無
	⑬-⑧ (障害児者や医療的ケア児に対する歯科診療を行っていない場合) 実施していない理由
	⑭-①歯科衛生士の勤務形態

設問種類	設問項目
	⑭-② 歯科衛生士の勤務時間
	⑮-① 歯科衛生実地指導を実施した人数
	⑮-② 平均的な1日あたりの歯科衛生実地指導の患者数
	⑮-③ 歯科衛生実地指導の実施時間
	⑮-④ 歯科衛生実地指導の実施内容
	⑮-⑤ 歯科衛生実地指導の実施時間内で、十分な指導ができているか
	⑮-⑥ (歯科衛生実地指導の実施時間内で、十分な指導ができていない場合) その理由
	⑯-① 令和5年6月の1か月間における訪問歯科衛生指導の患者数(実人数)
	⑯-② 令和5年6月1か月間における、平均的な1日あたりの訪問歯科衛生指導の患者
	⑯-③ 1回の訪問歯科衛生指導にかかるおおよその時間
	⑯-④ 令和5年6月の1か月間に実施した訪問歯科衛生指導の内容
	⑯-⑤ 1回の訪問歯科衛生指導にかかるおおよその時間内に、十分な指導ができているか
	⑯-⑥ (1回の訪問歯科衛生指導にかかるおおよその時間内に、十分な指導ができていない場合) その理由
4. 多職種連携	①-① 医科医療機関からの診療情報提供の有無
	①-② (医科医療機関からの診療情報提供が有った場合) その依頼内容
	①-③ 歯科医療機関からの文書による診療情報提供の有無
	①-④ (歯科医療機関からの文書による診療情報提供が有った場合) その内容
	①-⑤ 歯科医療機関への文書による診療情報提供の有無
	①-⑥ (歯科医療機関への文書による診療情報提供が有った場合) その内容
	②-① 多職種連携の取組をどのように行っているか
	②-② (多職種連携の取組で「カンファレンスや情報共有はオンライン会議や専用アプリを活用して実施」を選んだ場合) 実施した内容
	②-③ (多職種連携の取組で「実施していない」を選んだ場合) 実施していない理由

(2) 患者調査

設問種類	設問項目
1. 基本属性	①性別
	②年齢
	③お住まい
2. 受診状況	④通院のきっかけ
	⑤受診の頻度
	⑥本日受診している歯科診療所へいつ頃から受診しているか
	⑦次回受診予定の日時
	⑧治療内容（過去、当日）
	⑨-①定期的な管理は重要と思うか
	⑨-②定期的な管理を実施する職種
	⑨-③定期的な管理の満足度
	⑩歯科診療所を選んだ理由
	3. かかりつけ歯科医
②「かかりつけ歯科医」を決めているか	
②-①（「かかりつけ歯科医」を決めている場合） 本調査票をお渡しした歯科診療所の歯科医師は、あなたにとってのかかりつけ歯科医か	
②-②（「かかりつけ歯科医」を決めていない場合） 決めていない理由	
③かかりつけ歯科医に求めること	
④かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の認知度	
⑤受診した診療所がかかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所かどうかの認識	

5. 調査検討委員会

本調査を実施するにあたり、調査設計、調査票の作成、調査の実施、集計・分析、報告書案等の検討を行うため、以下の通り、調査検討委員会を設置・計2回開催した。

【委員】（○は委員長、五十音順、敬称略）

秋山 美紀	慶應義塾大学環境情報学部 教授（第1回まで委員長）
蛭名 勝之	公益社団法人日本歯科医師会 地域保健委員会 委員
大杉 和司	公益社団法人日本歯科医師会 常務理事
小林 隆太郎	日本歯科医学会 副会長
濱 昌代	公益社団法人日本歯科医師会 医療管理委員会 委員
○本田 文子	一橋大学大学院経済学研究科・社会科学高等研究院 教授
吉野 耕司	公益社団法人日本歯科医師会 社会保険委員会 委員

【オブザーバー】（敬称略）

永瀬 伸子	お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系 教授
-------	-----------------------

※所属は報告書取りまとめ時のもの

II. 調査の結果

1. 回収結果

施設調査の有効回答数（施設数）は1,931件、有効回答率は48.3%であった。
患者調査の有効回答数は、郵送調査が2,666件であった。

図表 1-1 今年度の回収の状況

	発送数	有効回答数	有効回答率
施設調査	4,000件	1,931件	48.3%
A. かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の届出あり	2,000件	1,042件	52.1%
B. かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の届出なし	2,000件	858件	42.9%
患者調査	-	2,666件	-

※歯科医療機関調査は、施設種別が不明な調査票があったため合計数が一致しない。

※患者調査（郵送調査）については、施設から何部配布されたかが把握できない方法で調査を行っていることから、発送数と有効回答率の表記を行っていない。

＜参考＞令和3年度調査（前回調査）での回収状況

令和3年度調査の回収状況は有効回答数1,549件、回答率は50.4%であった。

図表 1-2 令和3年度調査（前回調査）での回収状況

	発送数	有効回答数	有効回答率
施設調査	3,000件	1,549件	50.4%
A. かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の届出あり	2,000件	1,100件	54.0%
B. かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の届出なし	1,000件	449件	43.3%
患者調査	-	2,154件	-

※患者調査（郵送調査）については、施設から何部配布されたかが把握できない方法で調査を行っていることから、発送数と有効回答率の表記を行っていない。

2. 施設調査

【調査対象等】

○施設調査

調査対象：下記(1)(2)の計4,000施設

(1) かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の届出を行っている歯科診療所
2,000施設

(2) かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の届出を行っていない歯科診療
所2,000施設

回答数：1,931施設

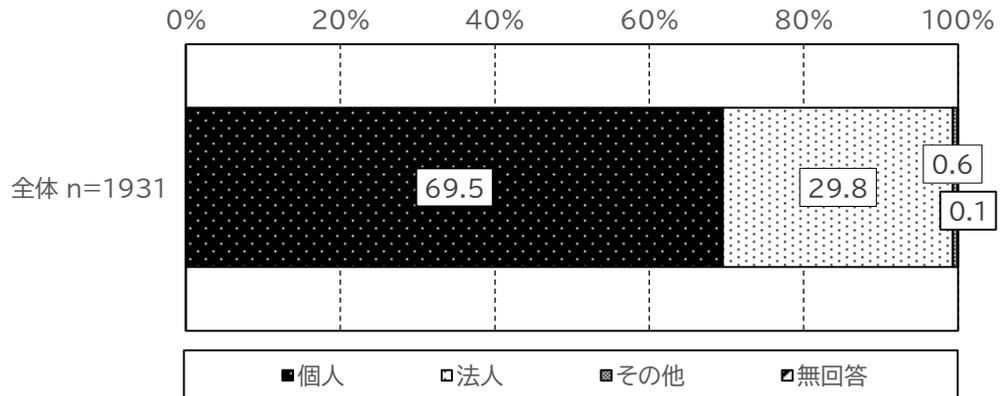
回答者：開設者・管理者

1) 施設の概要（令和5年7月1日現在）

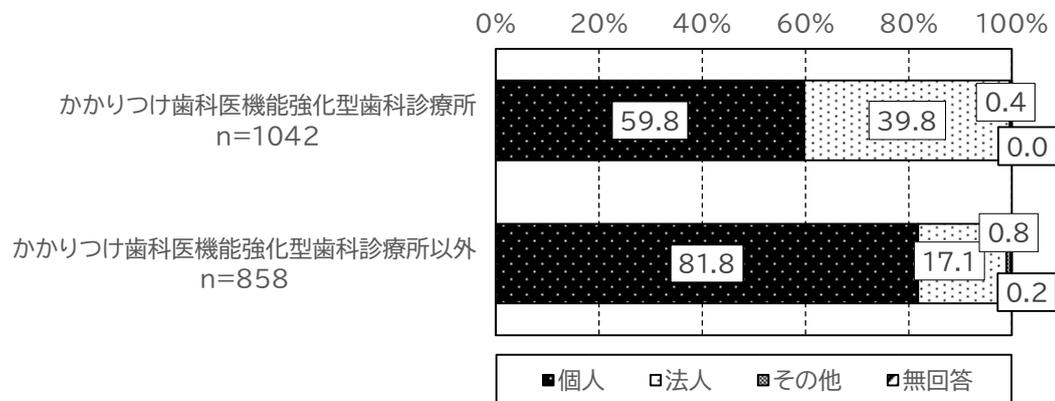
(1) 開設主体

開設主体は、「個人」が69.5%、「法人」が29.8%、「その他」0.6%であった。

図表 2-1 開設主体

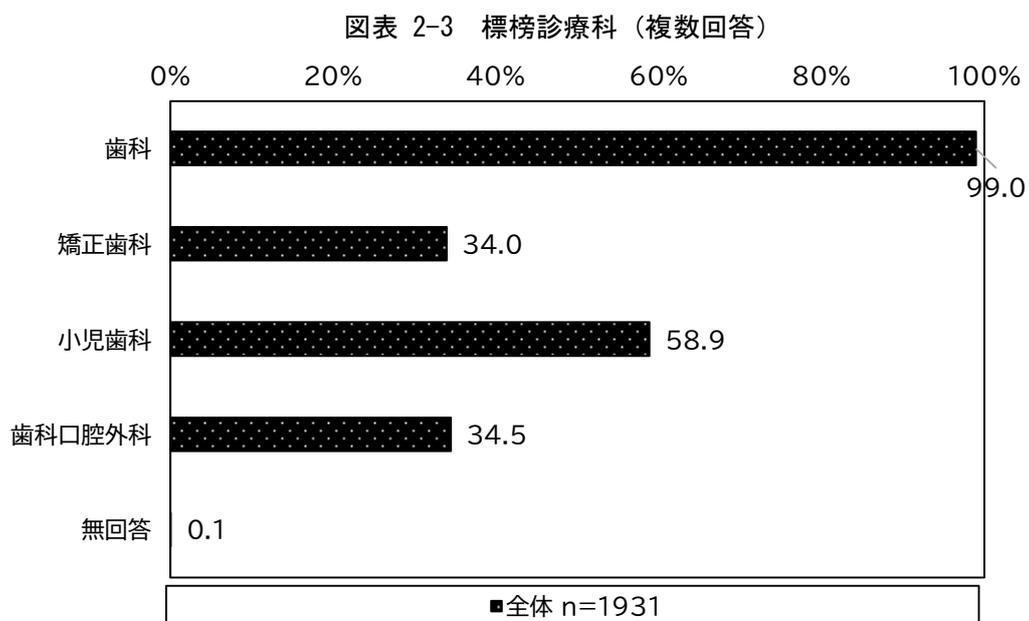


図表 2-2 開設主体（か強診・か強診以外）



(2) 標榜診療科

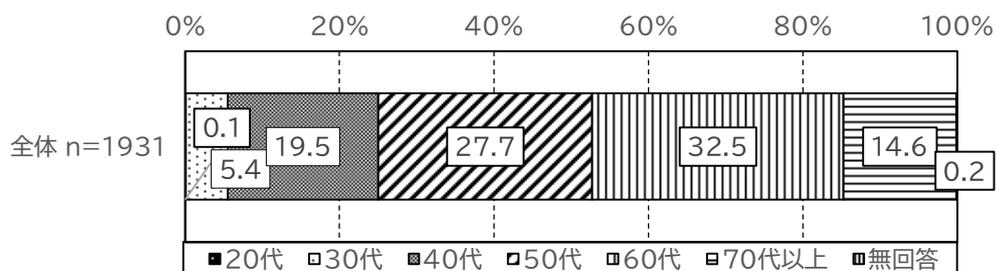
標榜診療科は「歯科」が99.0%で最も多く、次いで「小児歯科」が58.9%、「歯科口腔外科」が34.5%、「矯正歯科」が34.0%であった。



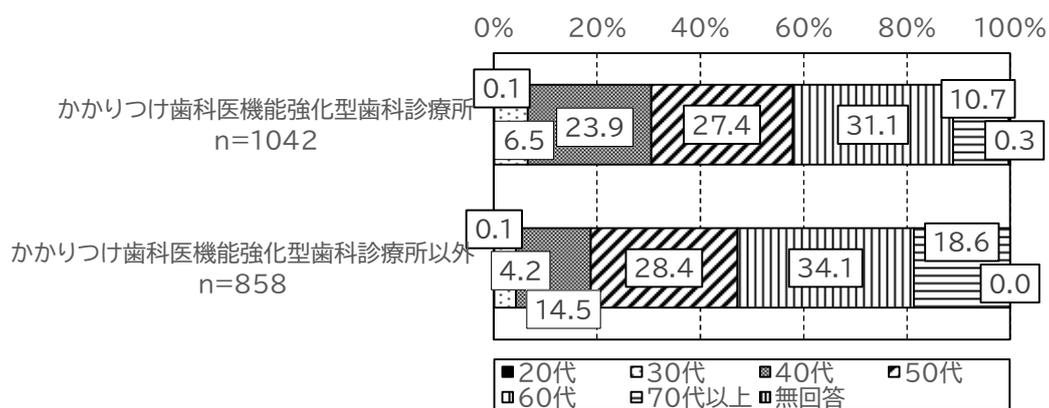
(3) 回答施設の管理者の年齢

管理者の年齢は、「60代」が最も多く 32.5%であり、次いで「50代」が 27.7%であった。

図表 2-4 管理者の年齢



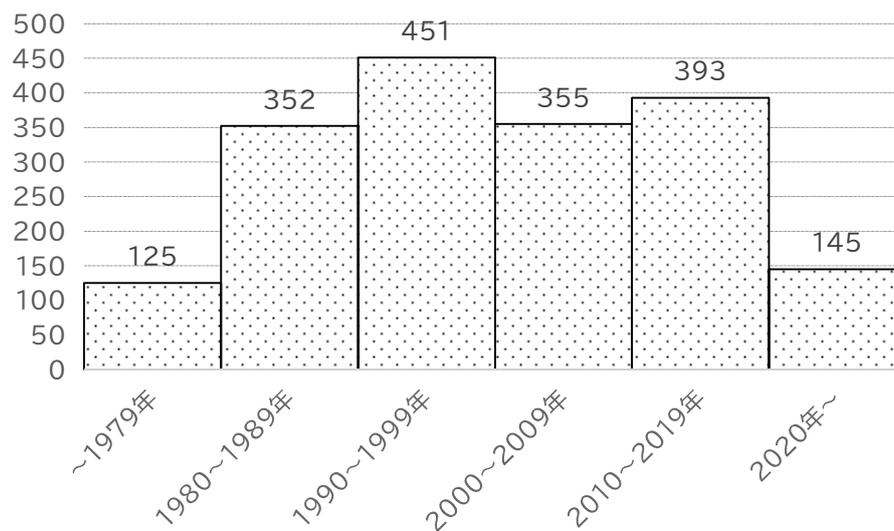
図表 2-5 管理者の年齢（か強診・か強診以外）



(4) 回答施設の開設時期

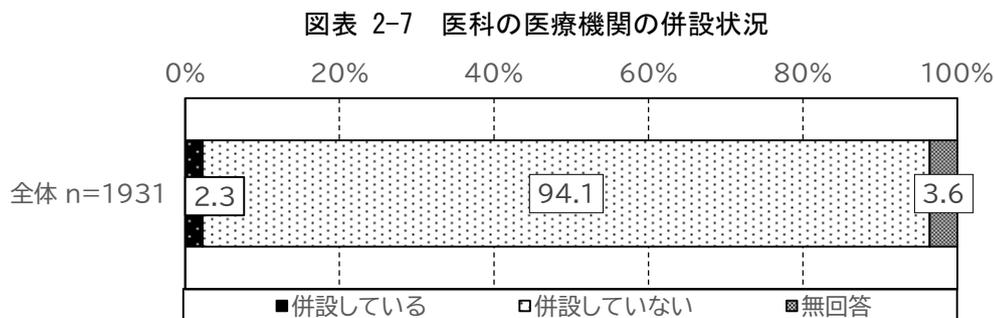
回答施設の開設時期は、「1990～1999年」が最も多く451施設であり、次いで「2010～2019年」が393施設であった。

図表 2-6 開設時期（年別）



(5) 医科の医療機関の併設状況

併設状況は「併設している」が2.3%、「併設していない」が94.1%であった。



(6) 職員数

職員数は、「歯科医師」は常勤が平均 1.5 人、非常勤が平均 0.6 人であり、「歯科衛生士」は常勤が平均 2.4 人、非常勤が 1.1 人であり、「歯科技工士」は常勤が 0.3 人、非常勤が 0.1 人であった。

図表 2-8 職員数

(単位：人)

	常勤				非常勤			
	回答施設数	平均値	標準偏差	中央値	回答施設数	平均値	標準偏差	中央値
1) 歯科医師	1925	1.5	1.9	1.0	1188	0.6	1.1	0.2
2) 歯科衛生士	1701	2.4	2.5	2.0	1398	1.1	1.4	0.8
3) 歯科技工士	1407	0.3	0.6	0.0	1055	0.1	0.3	0.0

図表 2-9 職員の勤務の有無

(単位：%)

	回答施設数	勤務している	勤務していない	無回答
4) 看護師・准看護師	1931	3.3	76.5	20.1
5) 管理栄養士・栄養士	1931	3.9	76.1	20.0
6) 言語聴覚士	1931	0.5	79.4	20.1
7) その他	1931	70.9	22.7	6.4

(7) 医療機器等の保有台数、保有の有無

医療機器等の保有台数は、「歯科用ユニット」が平均 4.2 台、「歯科用ハンドピース」が平均 30.8 本、「滅菌機（オートクレーブ等）」が平均 1.7 台、「手術用顕微鏡（マイクロスコープ）」が平均 0.3 台、「ポータブルユニット」が平均 0.4 台、「ポータブルエンジン（携帯用マイクロモーター）」が平均 1.0 台、「ポータブルエックス線撮影装置」が平均 0.3 台、「歯科用吸引装置（口腔外バキューム）」が平均 2.1 台であった。

図表 2-10 医療機器保有台数

(単位：台)

	有 ^{※2} (%)	回答 施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準偏差
1) 歯科用ユニット	99.8	1929	25.0	0.0	4.0	4.2	2.4
2) 歯科用ハンドピース ^{※1}	96.5	1864	220.0	1.0	25.0	30.8	22.8
3) 滅菌器（オートクレーブ等）	99.3	1917	8.0	1.0	2.0	1.7	0.9
4) 手術用顕微鏡（マイクロスコープ）	21.1	1697	7.0	0.0	0.0	0.3	0.7
5) ポータブルユニット	27.0	1720	9.0	0.0	0.0	0.4	0.7
6) ポータブルエンジン（携帯用マイクロモーター）	68.7	1792	11.0	0.0	1.0	1.0	0.9
7) ポータブルエックス線撮影装置	24.4	1712	4.0	0.0	0.0	0.3	0.5
8) 歯科用吸引装置（口腔外バキューム）	83.8	1854	21.0	0.0	1.0	2.1	2.1

※1 歯科用ガス圧式ハンドピース、歯科用電動式ハンドピース、ストレート・ギアードアングルハンドピース、歯科用空気駆動式ハンドピースを指す。

※2 有無は全施設における割合を示す。最大値、最小値等は、回答のあった施設で算出している。

図表 2-11 医療機器保有有無

(単位：%)

	回答施設数	有	無	無回答
9) レーザー機器	1931	48.9	48.8	2.3
10) 歯科パノラマ断層撮影装置(アナログ)	1931	17.4	76.0	6.6
11) 歯科パノラマ断層撮影装置(デジタル)	1931	80.2	17.6	2.2
12) 歯科用3次元エックス線断層撮影装置	1931	43.7	53.7	2.6
13) 咀嚼能率測定用のグルコース分析装置	1931	19.3	76.7	4.0
14) 舌圧測定器	1931	24.2	72.0	3.8
15) 歯科用咬合力計	1931	9.7	86.3	4.0
16) 口腔細菌定量分析装置	1931	6.8	89.1	4.1
17) 光学式う蝕検出装置	1931	21.4	74.6	4.0
18) 自動体外式除細動器(AED)	1931	76.8	21.3	1.9
19) 経皮的酸素飽和度測定器(パルスオキシメーター)	1931	88.3	10.4	1.2
20) 酸素供給装置	1931	83.9	14.6	1.5
21) 血圧計	1931	95.6	3.6	0.7
22) 救急蘇生キット	1931	83.1	15.1	1.8

図表 2-12 医療機器保有有無（か強診・か強診以外）

(単位：%)

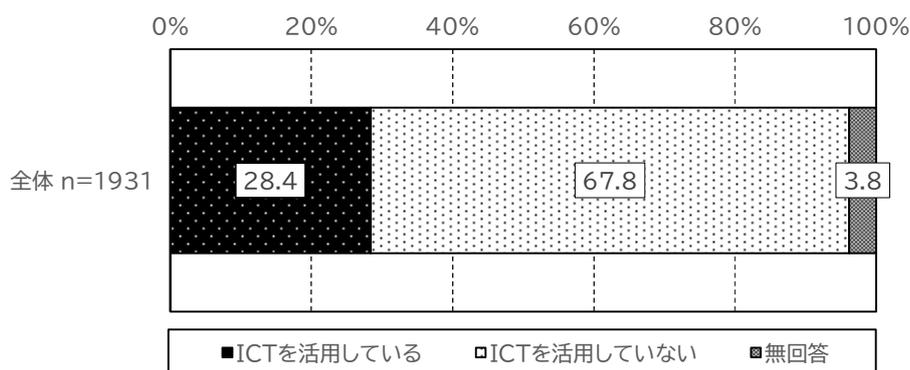
		回答施設数	有	無	無回答
9) レーザー機器	か強診	1042	58.3	40.7	1.1
	か強診以外	858	37.6	58.6	3.7
10) 歯科パノラマ断層撮影装置(アナログ)	か強診	1042	9.4	83.3	7.3
	か強診以外	858	27.0	67.6	5.4
11) 歯科パノラマ断層撮影装置(デジタル)	か強診	1042	90.3	8.3	1.3
	か強診以外	858	68.3	28.7	3.0
12) 歯科用3次元エックス線断層撮影装置	か強診	1042	59.1	39.3	1.6
	か強診以外	858	24.9	71.4	3.6
13) 咀嚼能率測定用のグルコース分析装置	か強診	1042	29.5	67.1	3.5
	か強診以外	858	7.0	88.7	4.3
14) 舌圧測定器	か強診	1042	37.5	59.5	3.0
	か強診以外	858	8.2	87.4	4.4
15) 歯科用咬合力計	か強診	1042	14.2	82.3	3.5
	か強診以外	858	4.0	91.6	4.4
16) 口腔細菌定量分析装置	か強診	1042	9.5	87.2	3.3
	か強診以外	858	3.5	91.7	4.8
17) 光学式う蝕検出装置	か強診	1042	32.2	64.5	3.3
	か強診以外	858	8.2	87.2	4.7
18) 自動体外式除細動器(AED)	か強診	1042	95.5	3.6	0.9
	か強診以外	858	54.8	42.3	2.9
19) 経皮的酸素飽和度測定器(パルスオキシメーター)	か強診	1042	97.4	1.8	0.8
	か強診以外	858	77.6	20.6	1.7
20) 酸素供給装置	か強診	1042	94.5	4.0	1.4
	か強診以外	858	71.7	26.8	1.5
21) 血圧計	か強診	1042	99.0	0.5	0.5
	か強診以外	858	91.7	7.2	1.0
22) 救急蘇生キット	か強診	1042	94.3	4.6	1.1
	か強診以外	858	69.9	27.5	2.6

(8) 他の医療機関や訪問看護ステーション、薬局、居宅介護支援事業者等の関係機関の職員と情報共有・連携を行うために、ICT（情報通信技術）を活用しているか

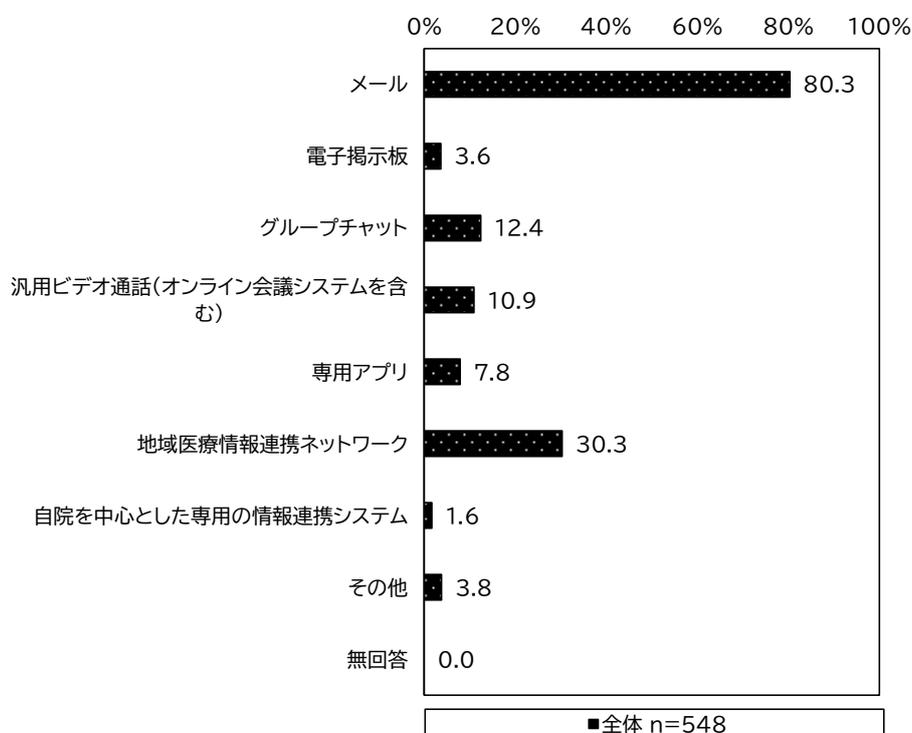
他の医療機関や訪問看護ステーション、薬局、居宅介護支援事業者等の関係機関の職員と情報共有・連携を行うためのICT活用の有無について、「ICTを活用している」が28.4%、「ICTを活用していない」が67.8%であった。

ICTを活用している場合、その種類を尋ねたところ、「メール」が80.3%、次いで「地域医療情報連携ネットワーク」が30.3%であった、

図表 2-13 他の医療機関等と情報共有・連携を行うためのICTの活用有無



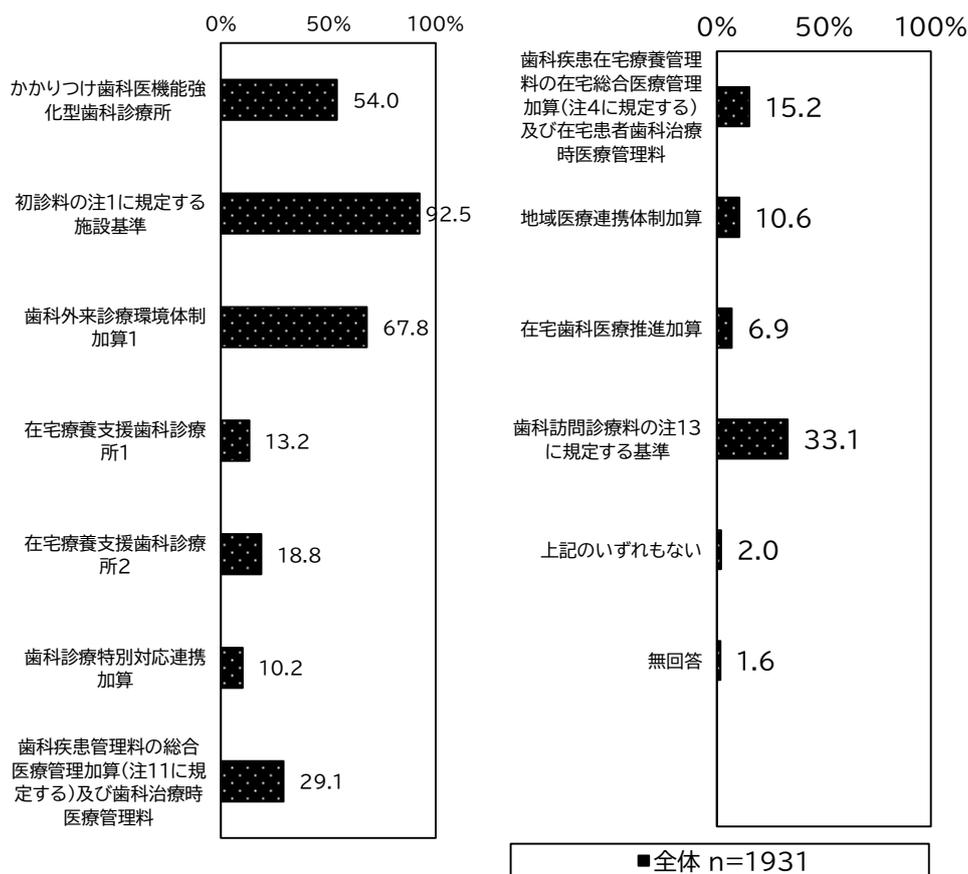
図表 2-14 活用しているICTの種類（複数回答）



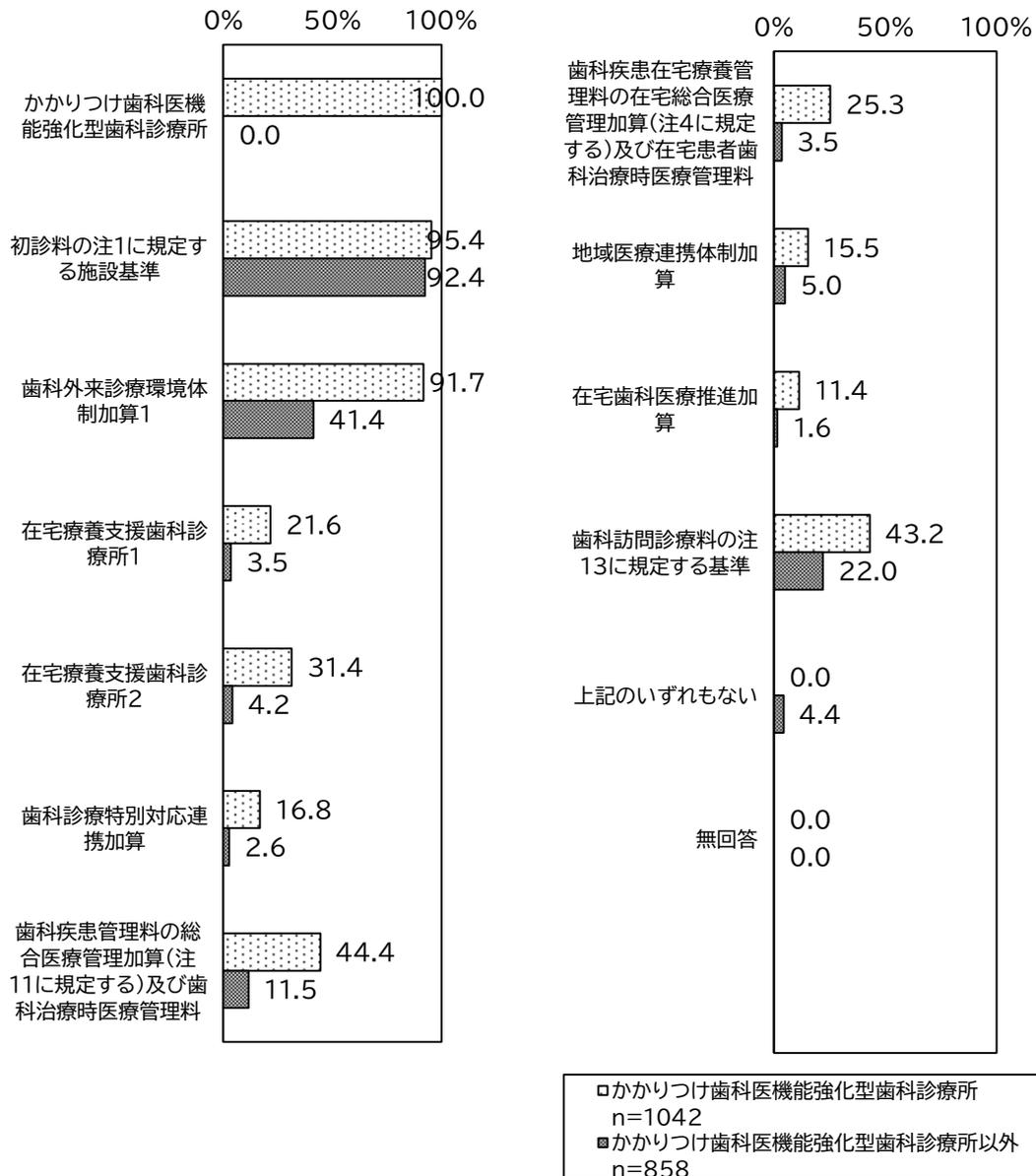
(9) 施設基準

施設基準（届出のあるもの）をみると、「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」が54.0%、「初診料の注1に規定する施設基準」92.5%、「歯科外来診療環境体制加算1」が67.8%であった。

図表 2-15 施設基準（複数回答）



図表 2-16 施設基準（複数回答）（か強診・か強診以外）

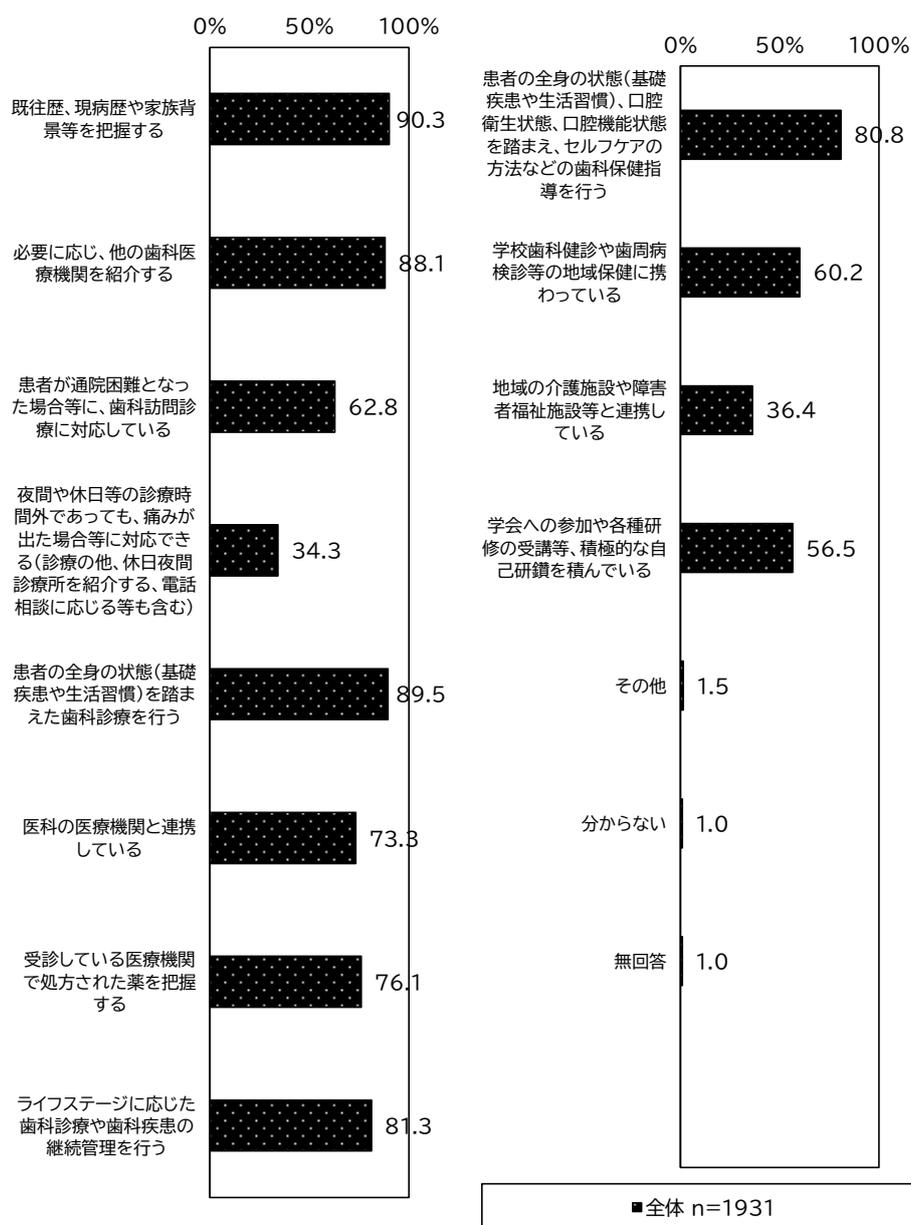


(10) かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所について

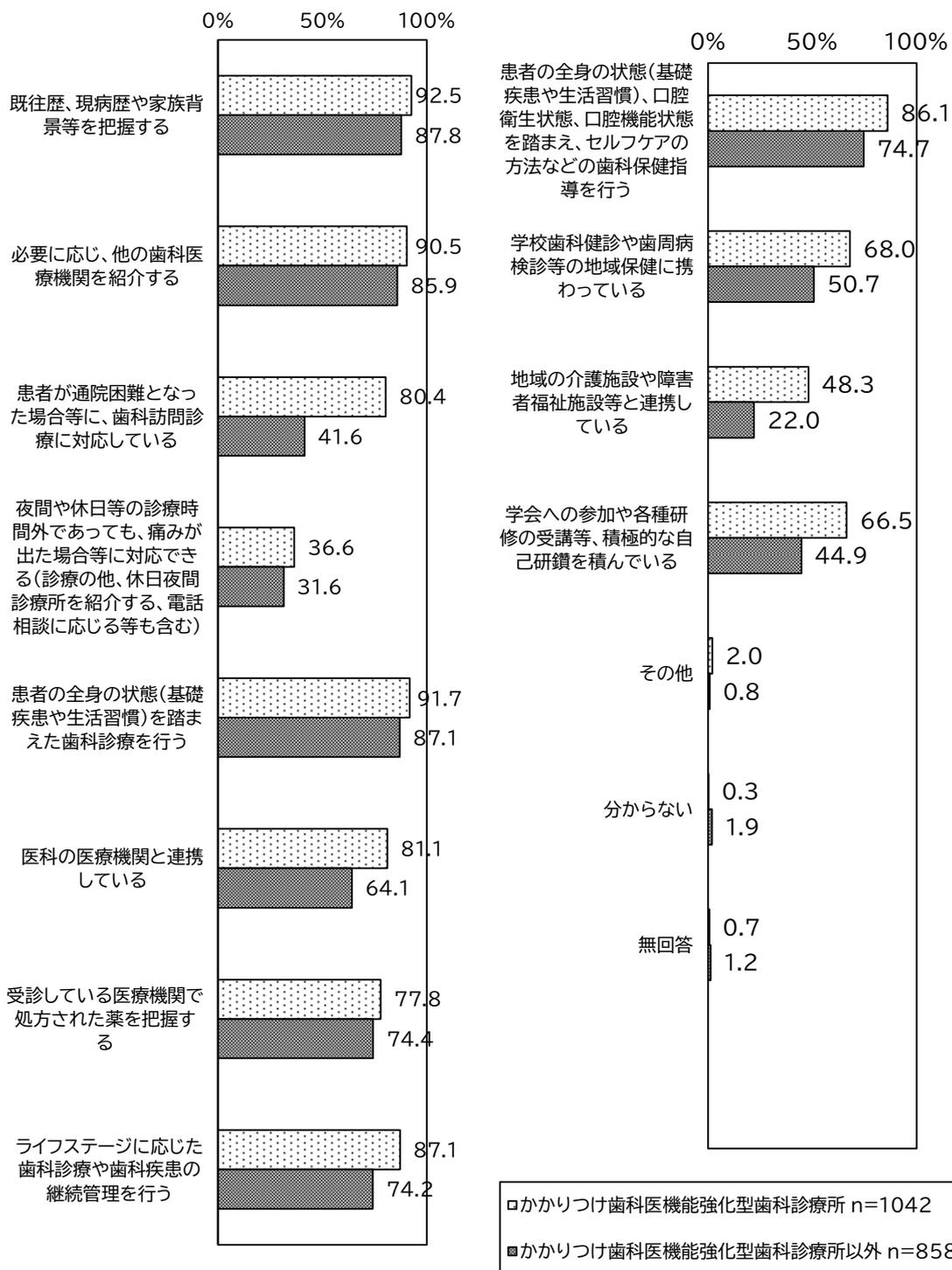
① 「かかりつけ歯科医」が担うべき役割

「かかりつけ歯科医」が担うべき役割について尋ねたところ、「既往歴、現病歴や家族背景等を把握する」が90.3%であった。

図表 2-17 かかりつけ歯科医の役割（複数回答）



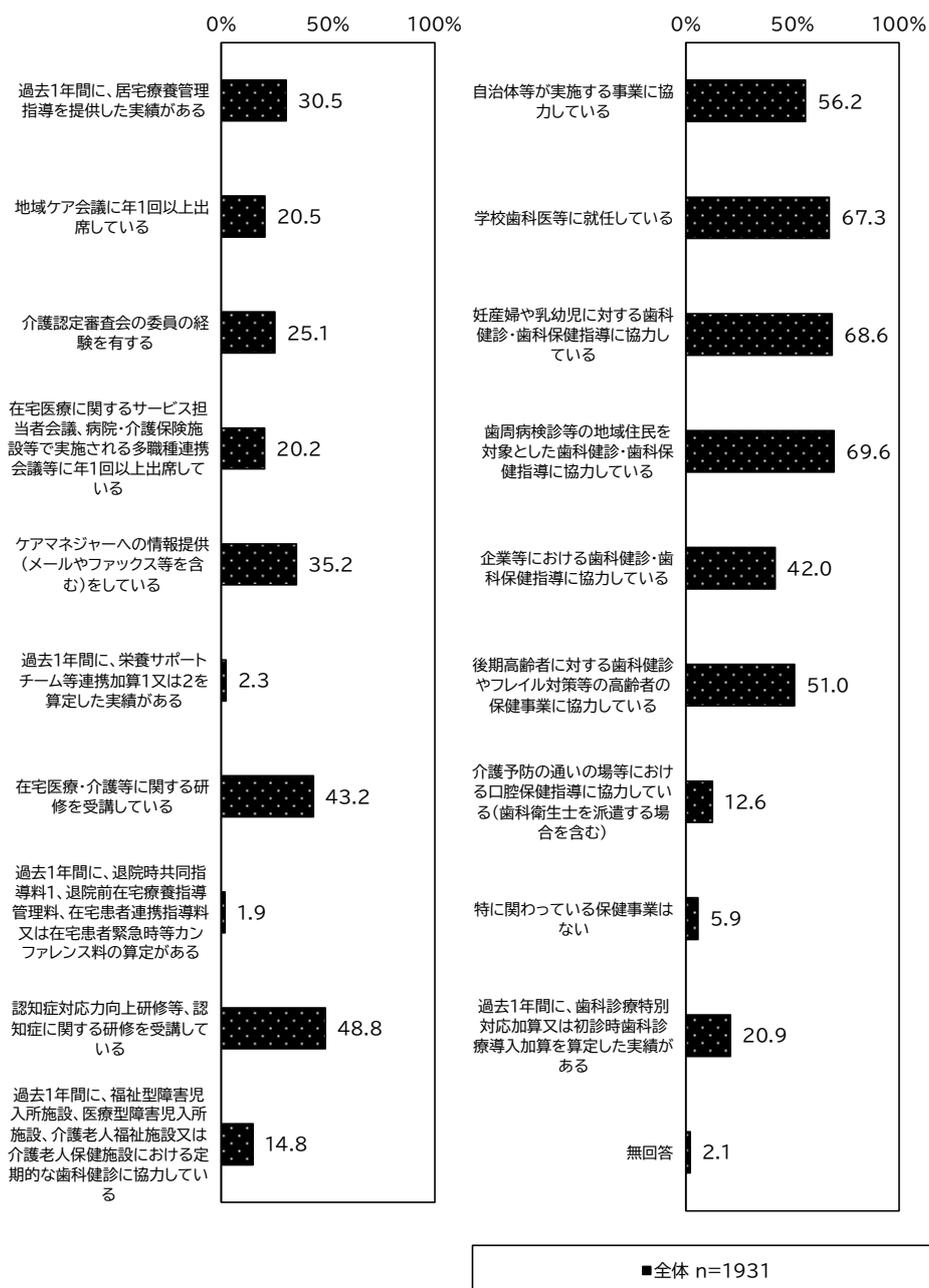
図表 2-18 かかりつけ歯科医の役割（複数回答）（か強診・か強診以外）



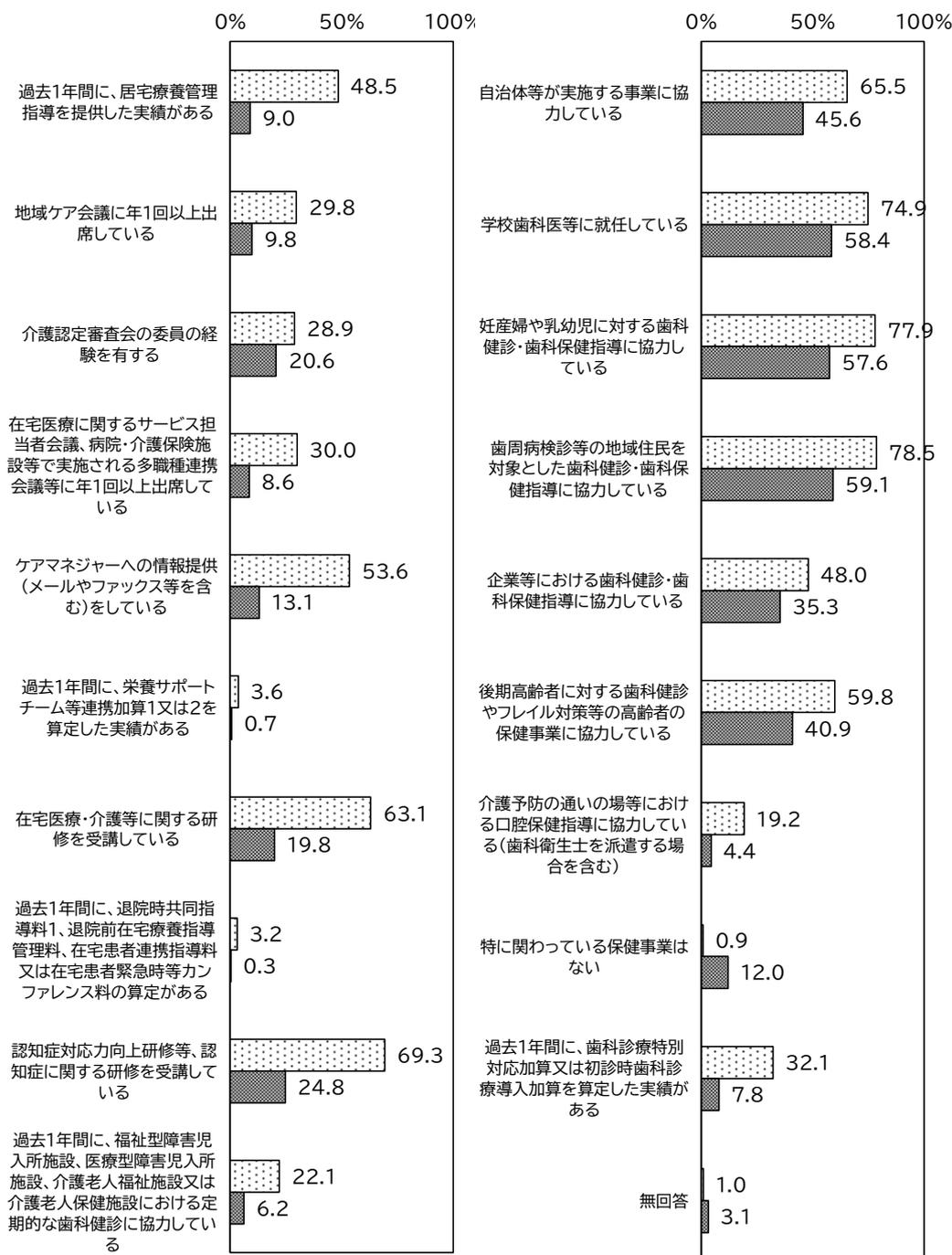
② 施設が関わっている保健事業や地域連携に関する会議への参加実績

保健事業や地域連携会議の参加実績は「歯周病検診等の地域住民を対象とした歯科健診・歯科保健指導に協力している」が69.6%であった。

図表 2-19 会議への参加実績（複数回答）



図表 2-20 会議への参加実績（複数回答）（か強診・か強診以外）

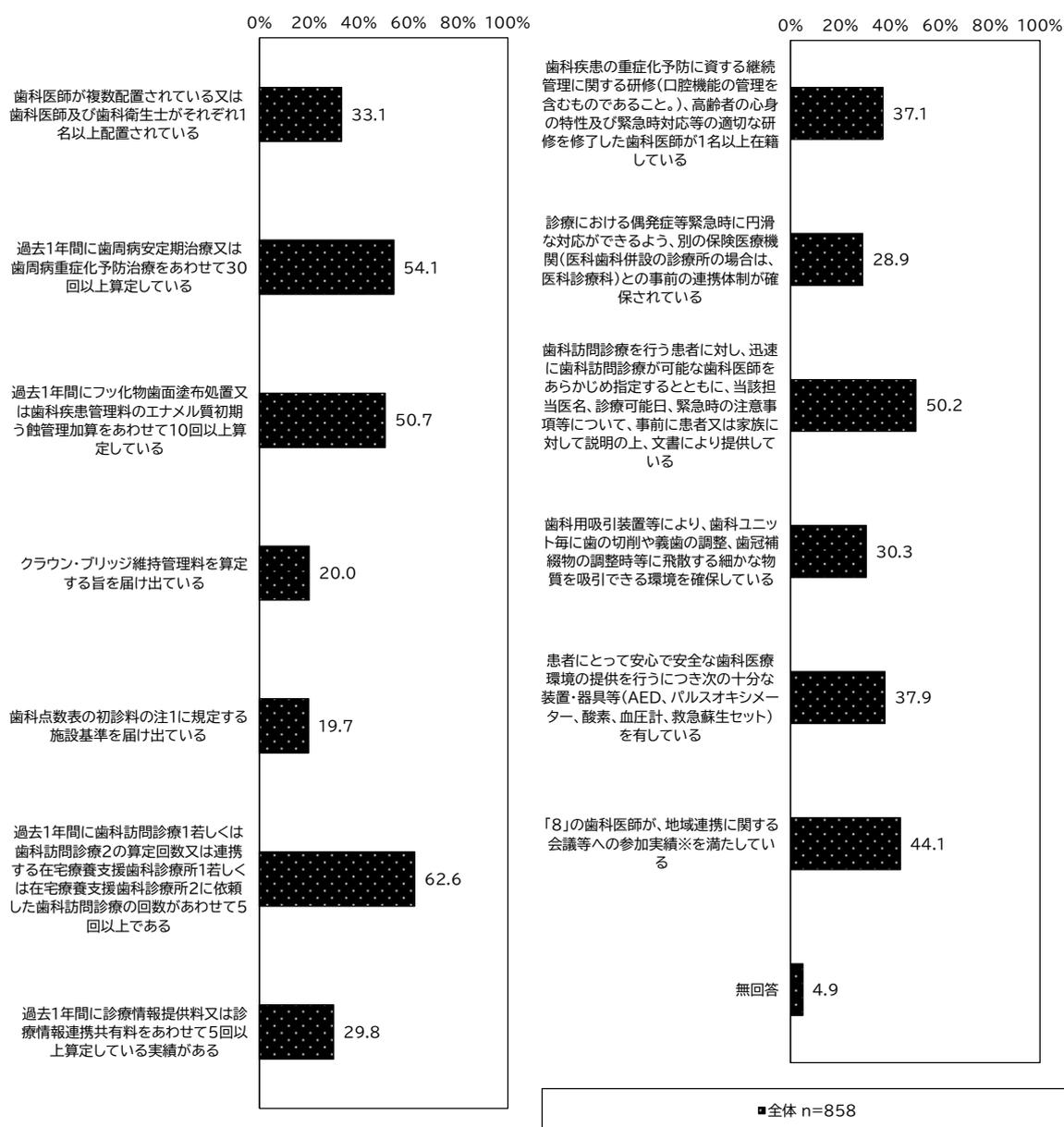


□かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所 n=1042
 ■かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所以外 n=858

③ 「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」の施設基準について、現時点で満たしていない要件としてあてはまる項目

「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」を届出していない診療所に対して、「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」の施設基準について、現時点で満たしていない要件としてあてはまる項目は「過去1年間に歯科訪問診療1若しくは歯科訪問診療2の算定回数又は連携する在宅療養支援歯科診療所1若しくは在宅療養支援歯科診療所2に依頼した歯科訪問診療の回数があわせて5回以上である」が62.6%であった。

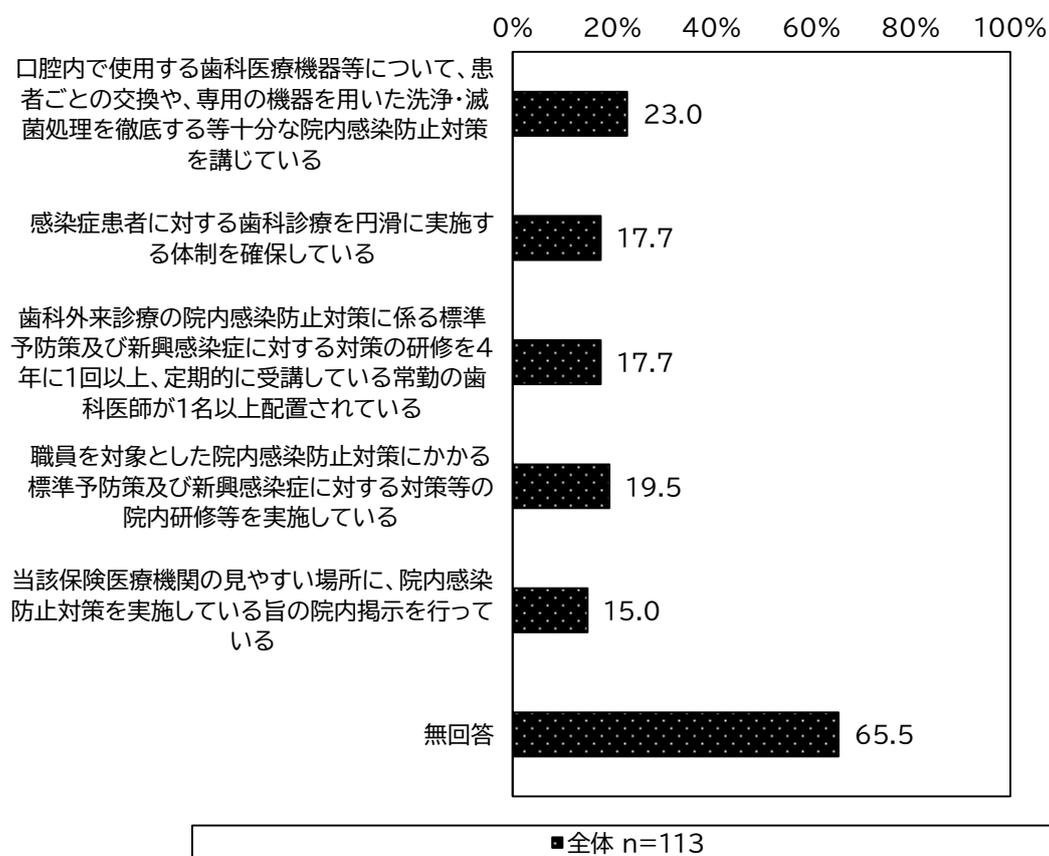
図表 2-21 満たしていない要件としてあてはまる項目（複数回答）
（かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所）を届出していない診療所）



(11) 「初診料の注1に規定する施設基準」を届出していない診療所の場合、現時点で満たしていない要件

「初診料の注1に規定する施設基準」を届出していない診療所の場合、現時点で満たしていない項目は「口腔内で使用する歯科医療機器等について、患者ごとの交換や、専用の機器を用いた洗浄・滅菌処理を徹底する等十分な院内感染防止対策を講じている」が23.0%であった。

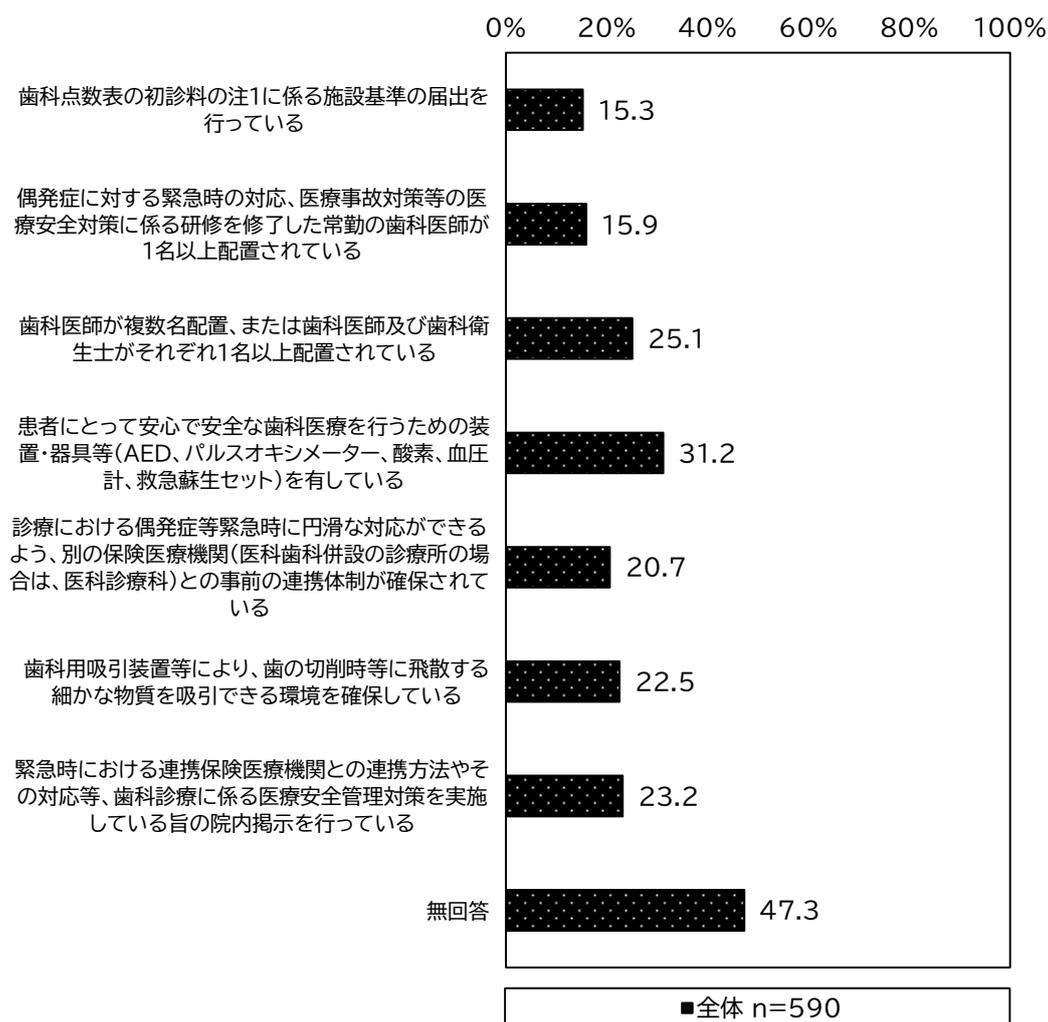
図表 2-22 「初診料の注1に規定する施設基準」について現時点で満たしていない要件 (複数回答)



(12) 「歯科外来診療環境体制加算 1」を届出していない診療所の場合、現時点で満たしていない要件

「歯科外来診療環境体制加算 1」を届出していない診療所の場合、現時点で満たしていない項目について、「患者にとって安心して安全な歯科医療を行うための装置・器具等（AED、パルスオキシメーター、酸素、血圧計、救急蘇生セット）を有している」が 31.2%であった。

図表 2-23 「歯科外来診療環境体制加算 1」の施設基準について
現時点で満たしていない要件（複数回答）



2) 歯科診療の実施体制および院内感染防止対策の実施状況等について

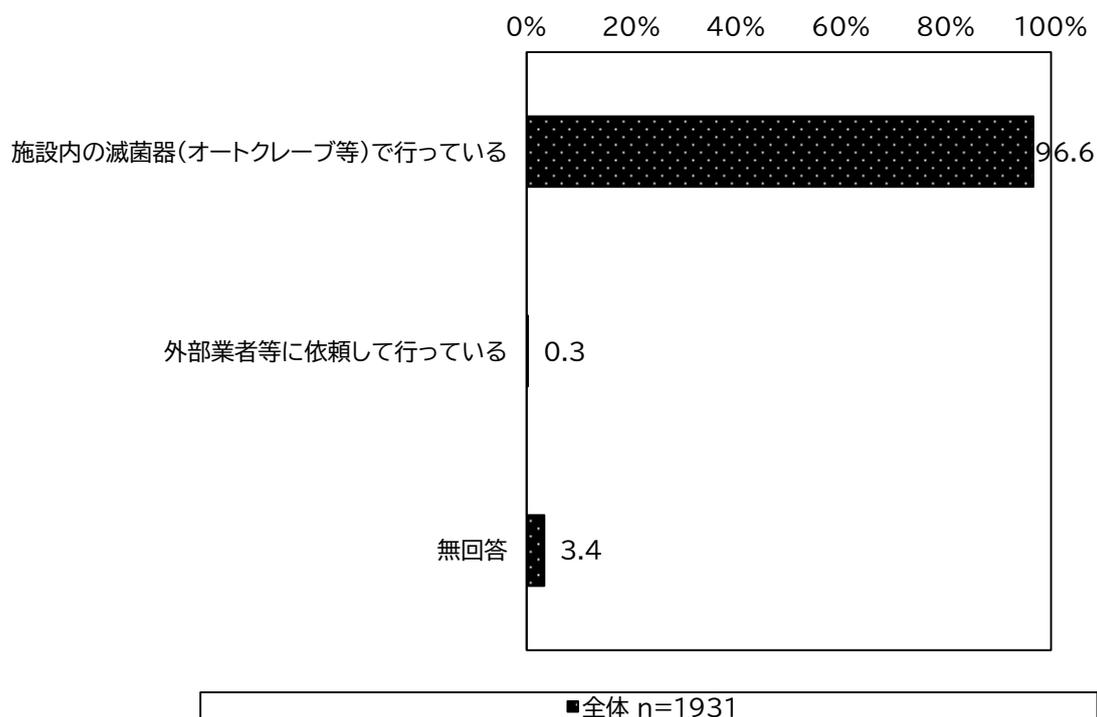
(1) 機器等の滅菌の体制

機器等の滅菌の体制は「施設内の滅菌機（オートクレーブ等）で行っている」が96.6%であった。

また、施設内の滅菌機（オートクレーブ等）で行っている」場合の実施回数は4.6回であった。

実施時間帯は「特に決めておらず随時行う」が67.2%であった。

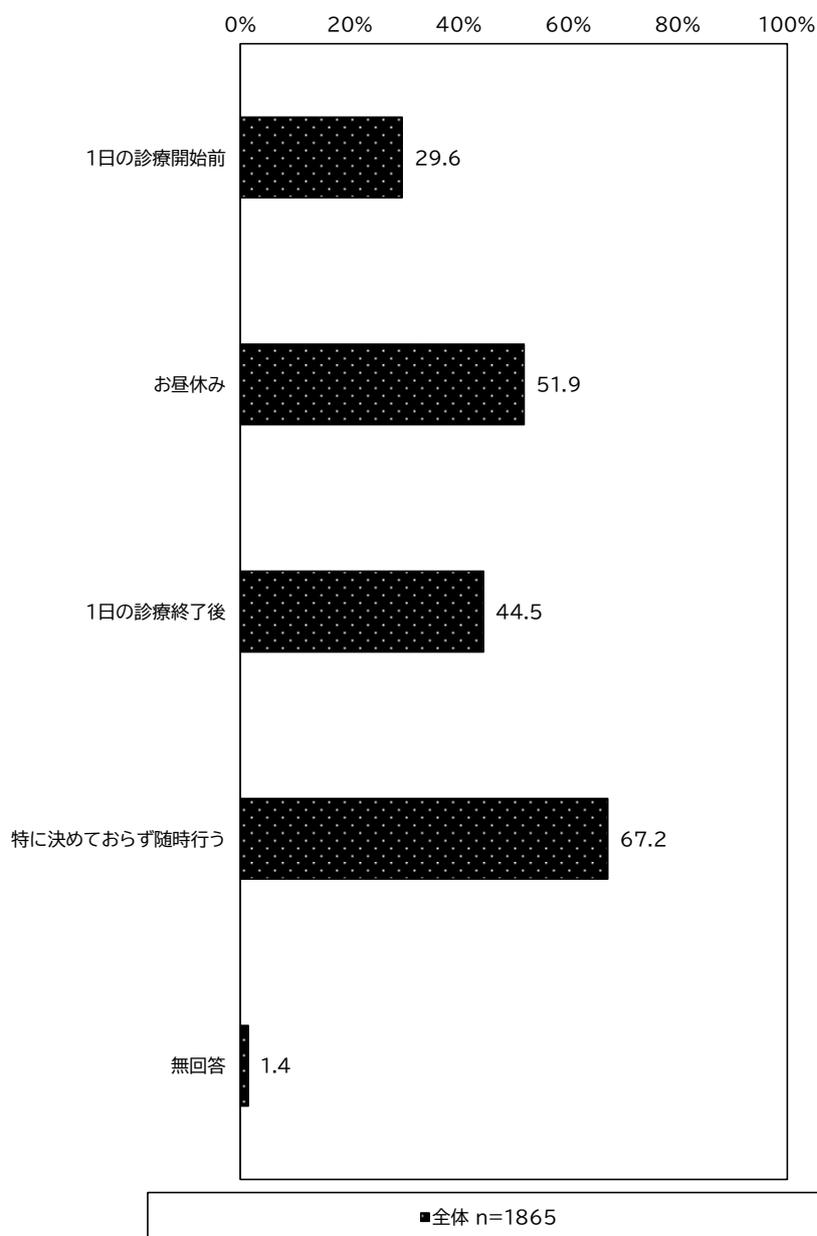
図表 2-24 滅菌をどのような体制で行っているか（複数回答）



図表 2-25 「施設内の滅菌器（オートクレーブ等）で行っている」場合は、1日当たりの滅菌の実施回数

	回答 施設数	最大値	最小値	中央値	平均	標準偏差
全体	1640	40.0	0.3	4.0	4.6	3.7

図表 2-26 「施設内の滅菌器（オートクレーブ等）で行っている」場合の滅菌の時間帯（複数回答）

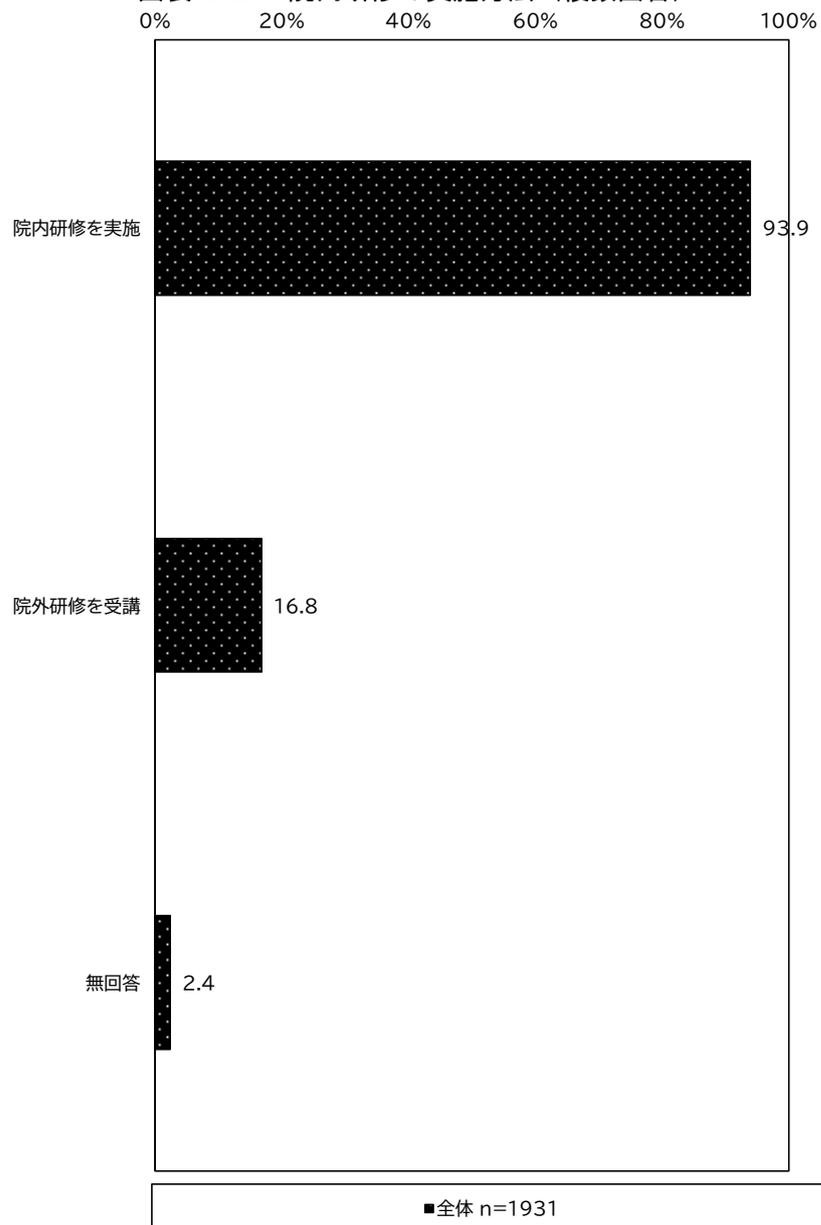


(2) 職員を対象とした院内感染防止対策にかかる標準予防策及び新興感染症に対する対策等の院内研修の実施方法について

① 研修の実施方法

研修の実施方法は「院内研修を実施」が93.9%、「院外研修を受講」が16.8%であった。

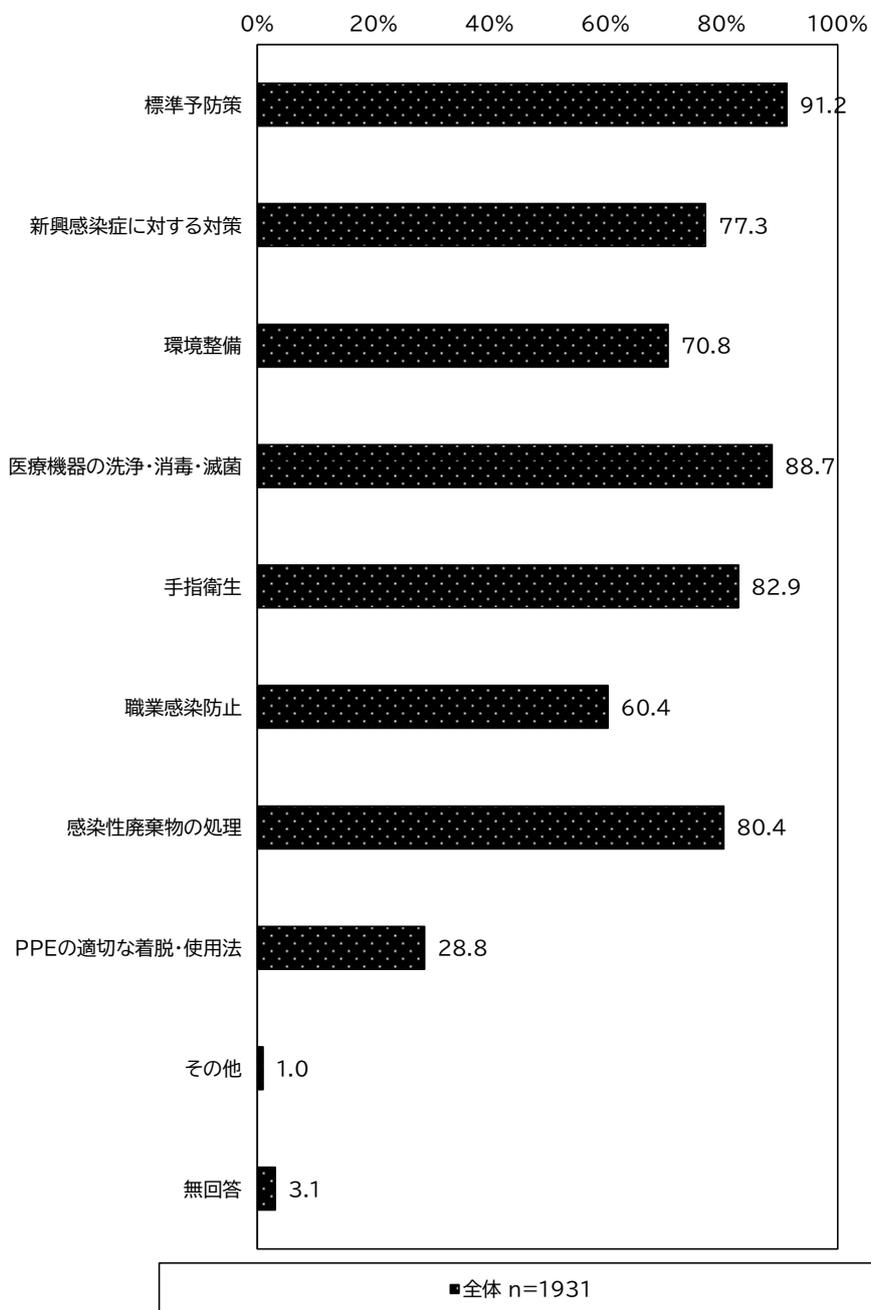
図表 2-27 院内研修の実施方法（複数回答）



② 研修の内容

研修の内容は「標準予防策」が91.2%であった。

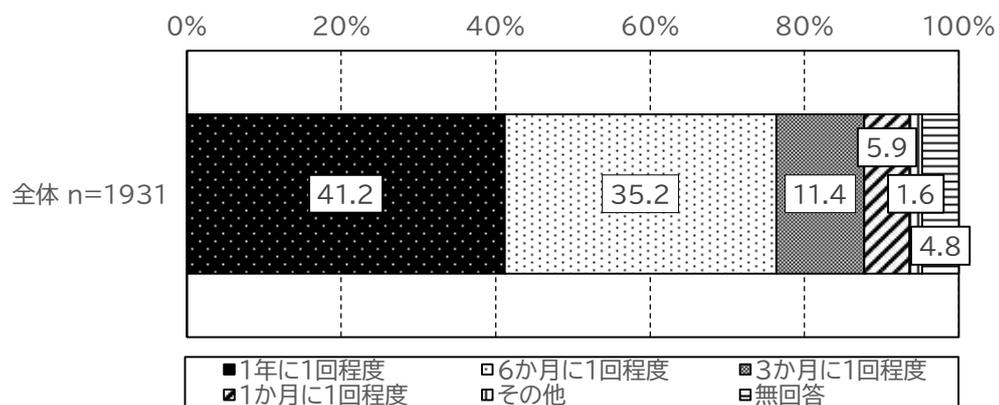
図表 2-28 研修内容（複数回答）



③ 研修の頻度

研修の頻度は「1年に1回程度」が41.2%であった。

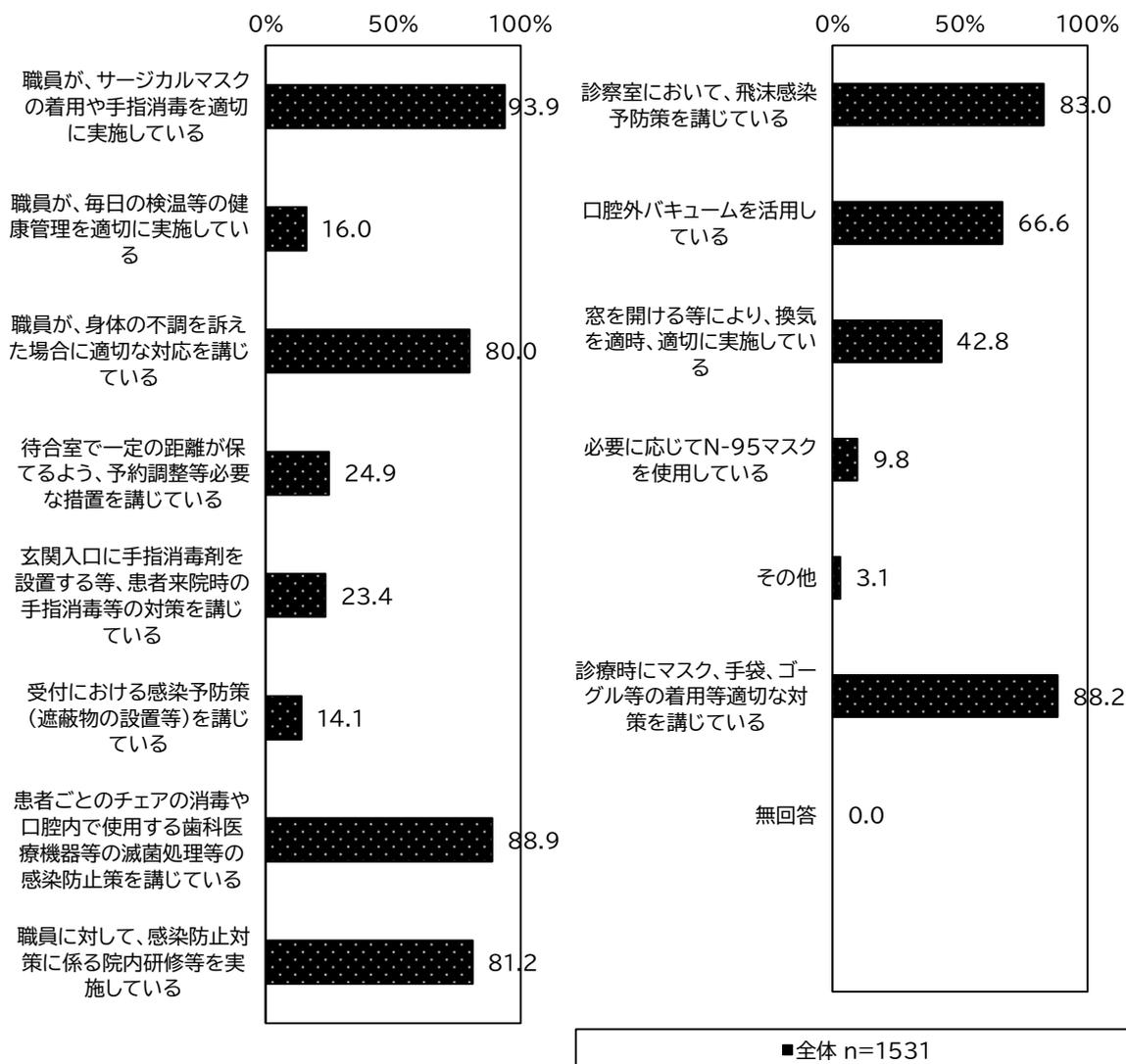
図表 2-29 研修の頻度



- (3) 院内感染防止対策として、「新型コロナウイルス感染症が流行する以前から取り組んでいた対策」、「新型コロナウイルス感染症が流行している期間に取り組んでいた対策」、「新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後（令和5年5月8日以降）も取り組んでいる対策」について

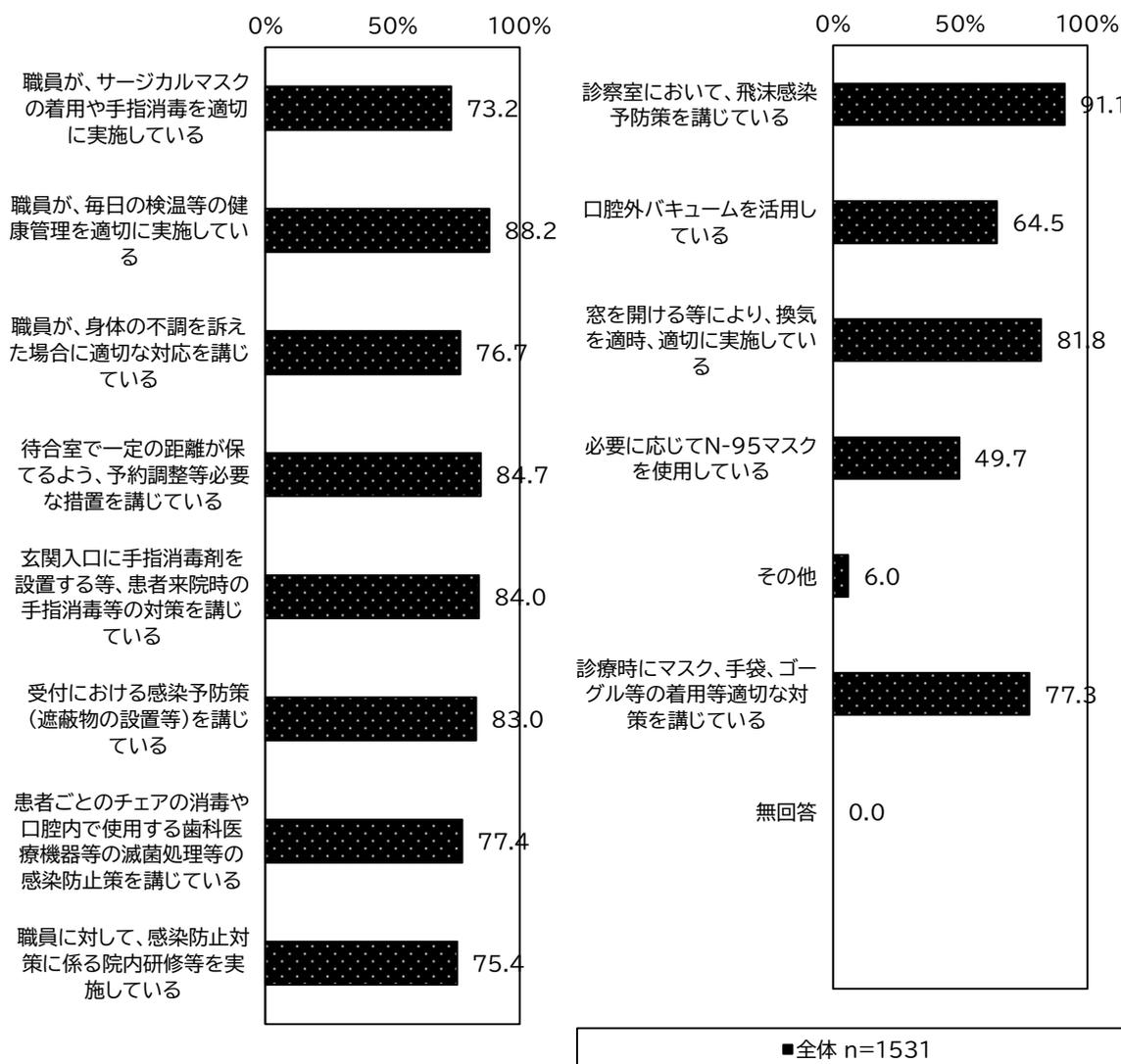
院内感染防止対策として、新型コロナウイルス感染症が流行する以前から取り組んでいた対策、新型コロナウイルス感染症が流行している期間に取り組んでいた対策を、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後（令和5年5月8日以降）も取り組んでいる対策について、新型コロナウイルス感染症の流行以降、施設に関する感染対策に加え診療内での感染対策である「必要に応じてN-95マスクを使用している」が増加していた。

図表 2-30 新型コロナウイルス感染症が流行する以前から取り組んでいた対策
(複数回答)



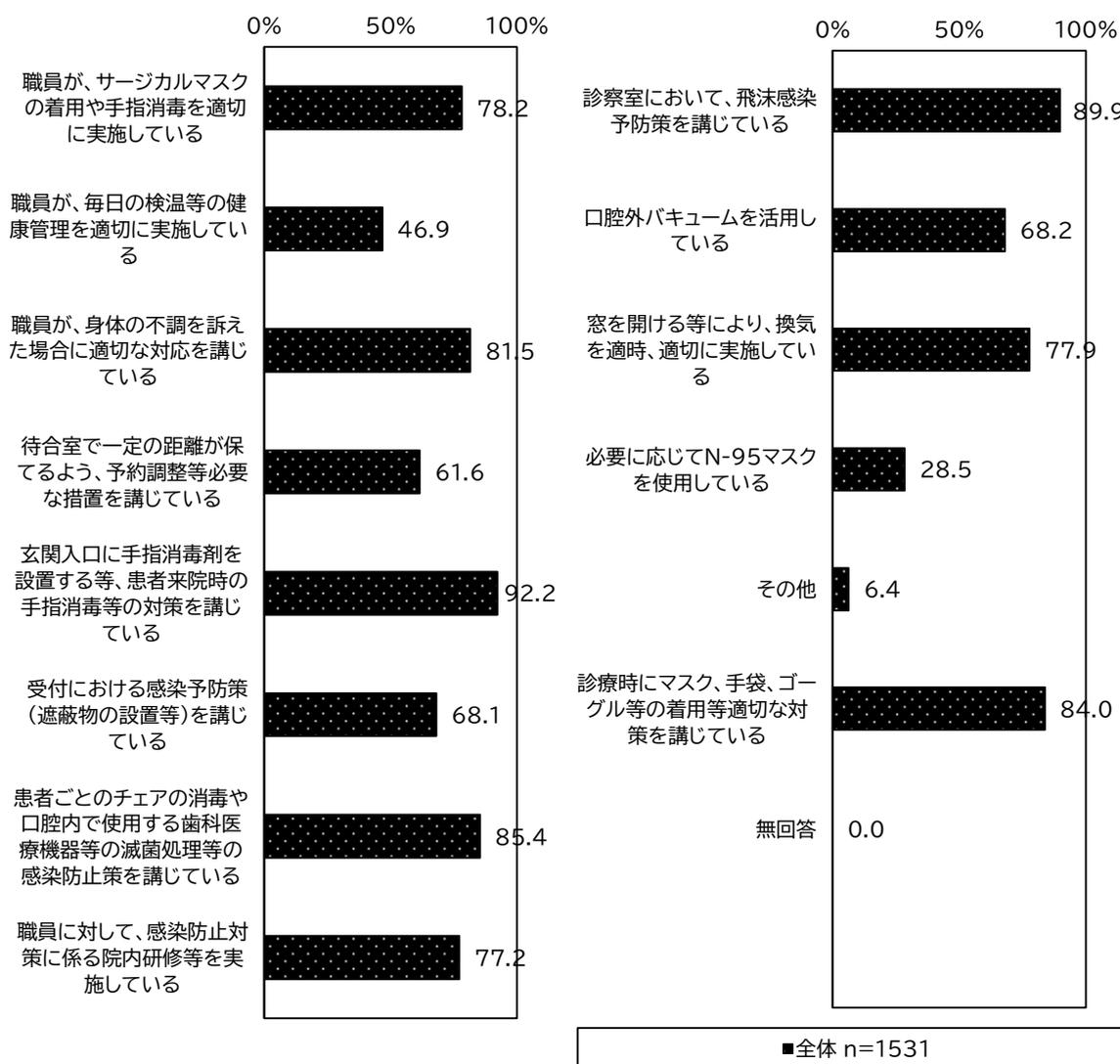
※「新型コロナウイルス感染症が流行する以前から取り組んでいた対策」、「新型コロナウイルス感染症が流行している期間に取り組んでいた対策」、「新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後（令和5年5月8日以降）も取り組んでいる対策」のすべてに回答している施設を対象に集計している。

図表 2-31 新型コロナウイルス感染症が流行している期間に取り組んでいた対策
(複数回答)



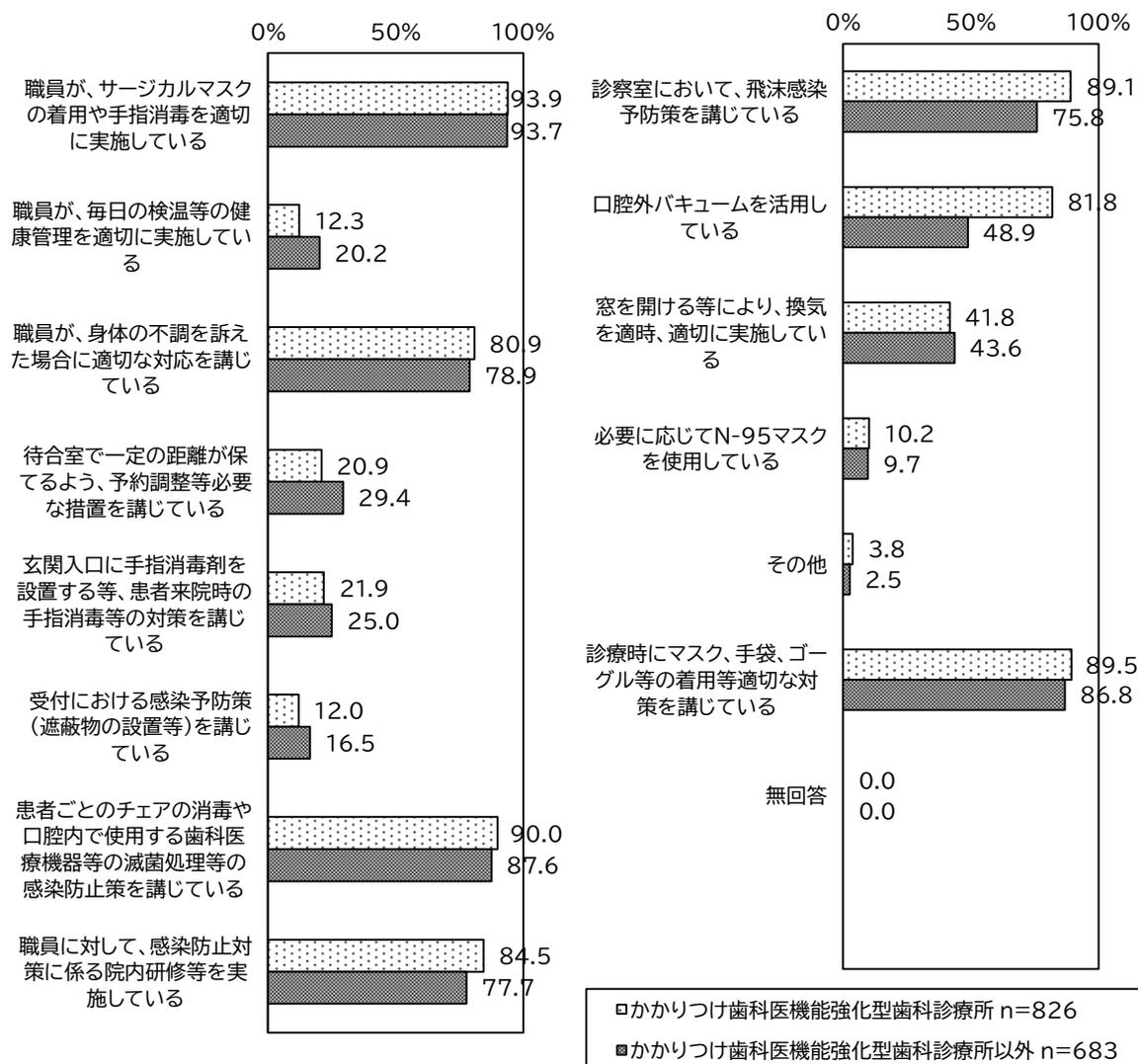
※「新型コロナウイルス感染症が流行する以前から取り組んでいた対策」、「新型コロナウイルス感染症が流行している期間に取り組んでいた対策」、「新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後（令和5年5月8日以降）も取り組んでいる対策」のすべてに回答している施設を対象に集計している。

図表 2-32 新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後
(複数回答)



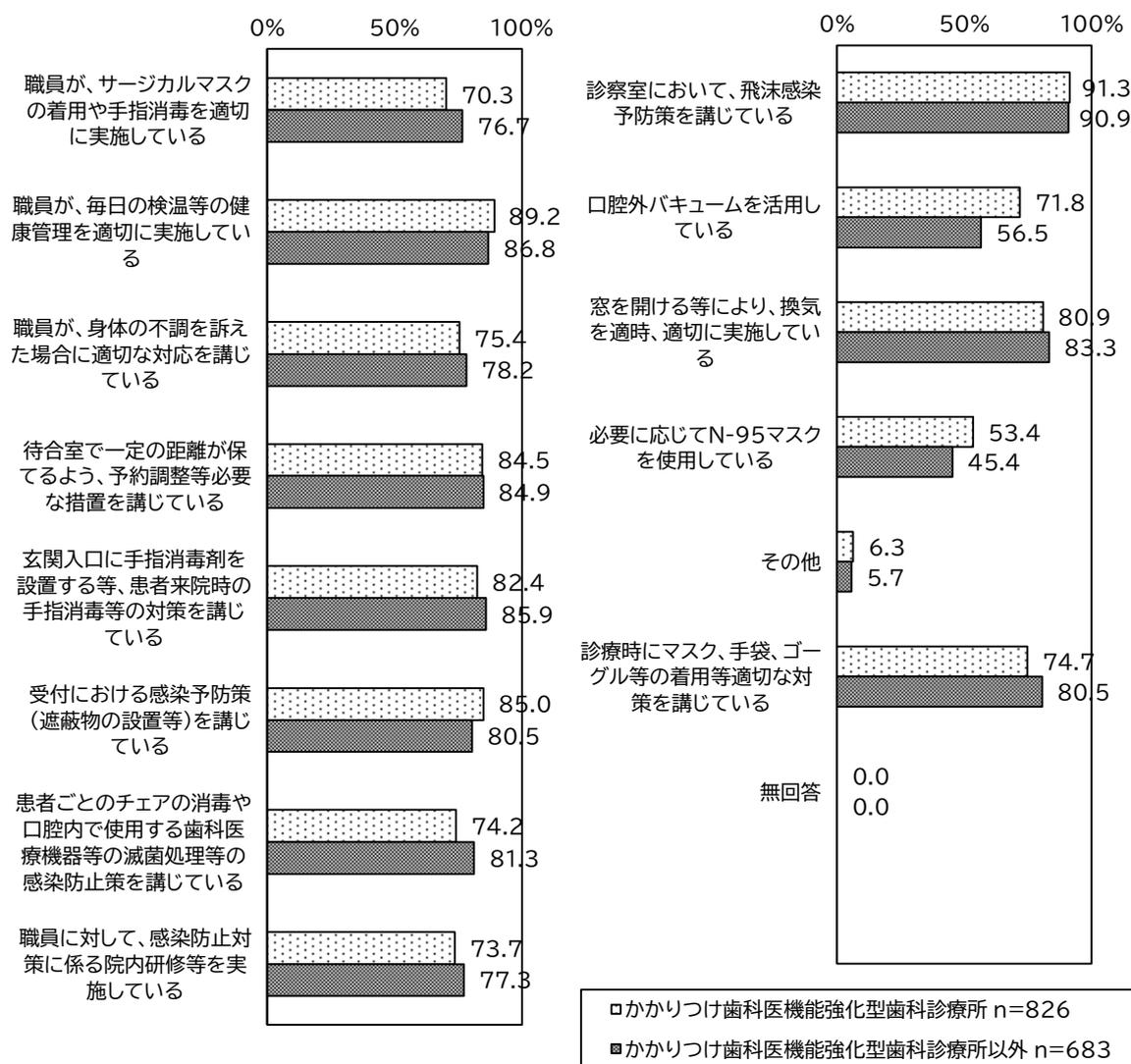
※「新型コロナウイルス感染症が流行する以前から取り組んでいた対策」、「新型コロナウイルス感染症が流行している期間に取り組んでいた対策」、「新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後（令和5年5月8日以降）も取り組んでいる対策」のすべてに回答している施設を対象に集計している。

図表 2-33 新型コロナウイルス感染症が流行する以前から取り組んでいた対策
(複数回答) (か強診・か強診以外)



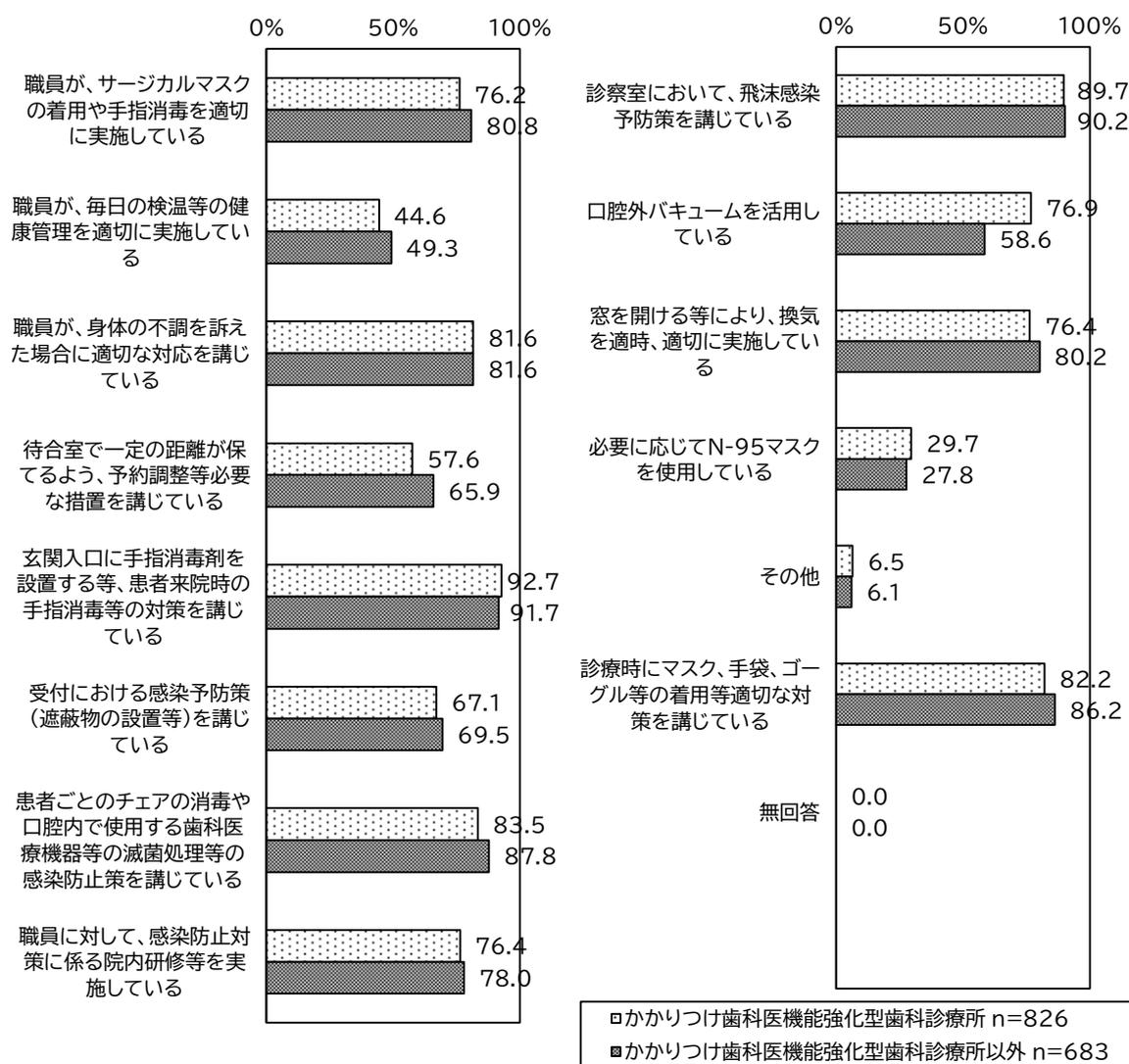
※「新型コロナウイルス感染症が流行する以前から取り組んでいた対策」、「新型コロナウイルス感染症が流行している期間に取り組んでいた対策」、「新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後(令和5年5月8日以降)も取り組んでいる対策」のすべてに回答している施設を対象に集計している。

図表 2-34 新型コロナウイルス感染症が流行している期間に取り組んでいた対策
(複数回答) (か強診・か強診以外)



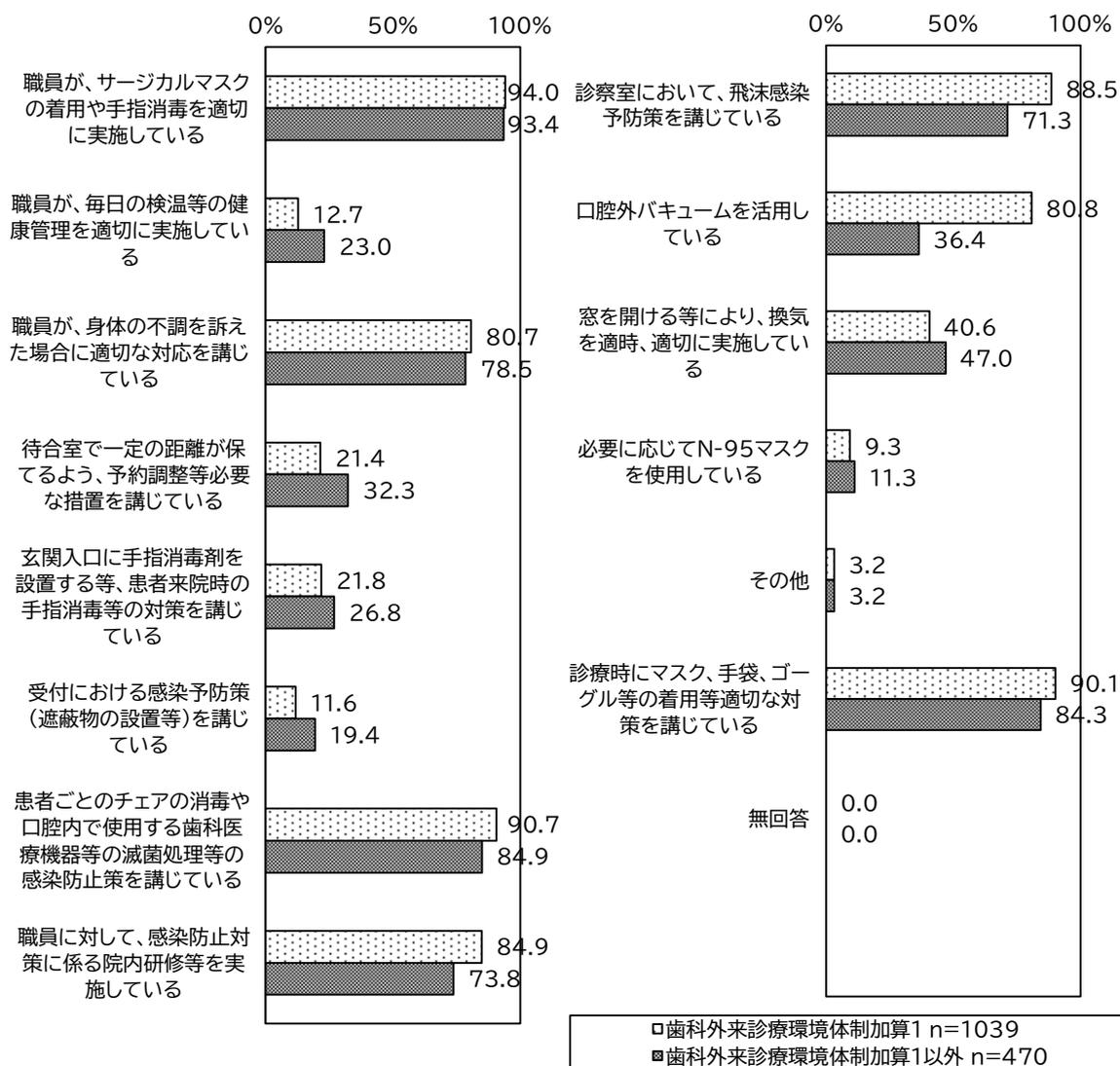
※「新型コロナウイルス感染症が流行する以前から取り組んでいた対策」、「新型コロナウイルス感染症が流行している期間に取り組んでいた対策」、「新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後(令和5年5月8日以降)も取り組んでいる対策」のすべてに回答している施設を対象に集計している。

図表 2-35 新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後
(複数回答) (か強診・か強診以外)



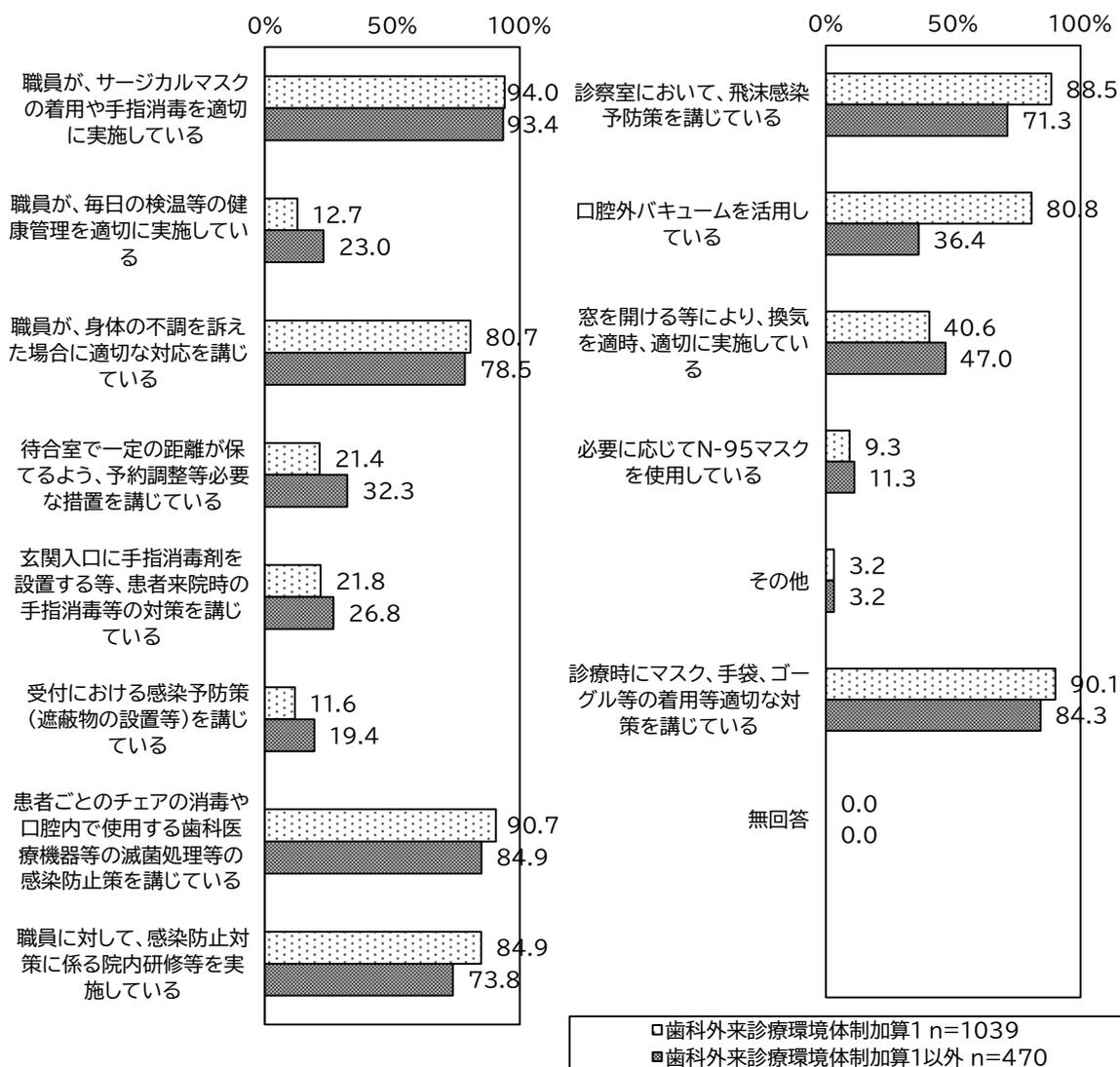
※「新型コロナウイルス感染症が流行する以前から取り組んでいた対策」、「新型コロナウイルス感染症が流行している期間に取り組んでいた対策」、「新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後(令和5年5月8日以降)も取り組んでいる対策」のすべてに回答している施設を対象に集計している。

図表 2-36 新型コロナウイルス感染症が流行する以前から取り組んでいた対策
(複数回答) (歯科外来診療環境体制加算の届出別)



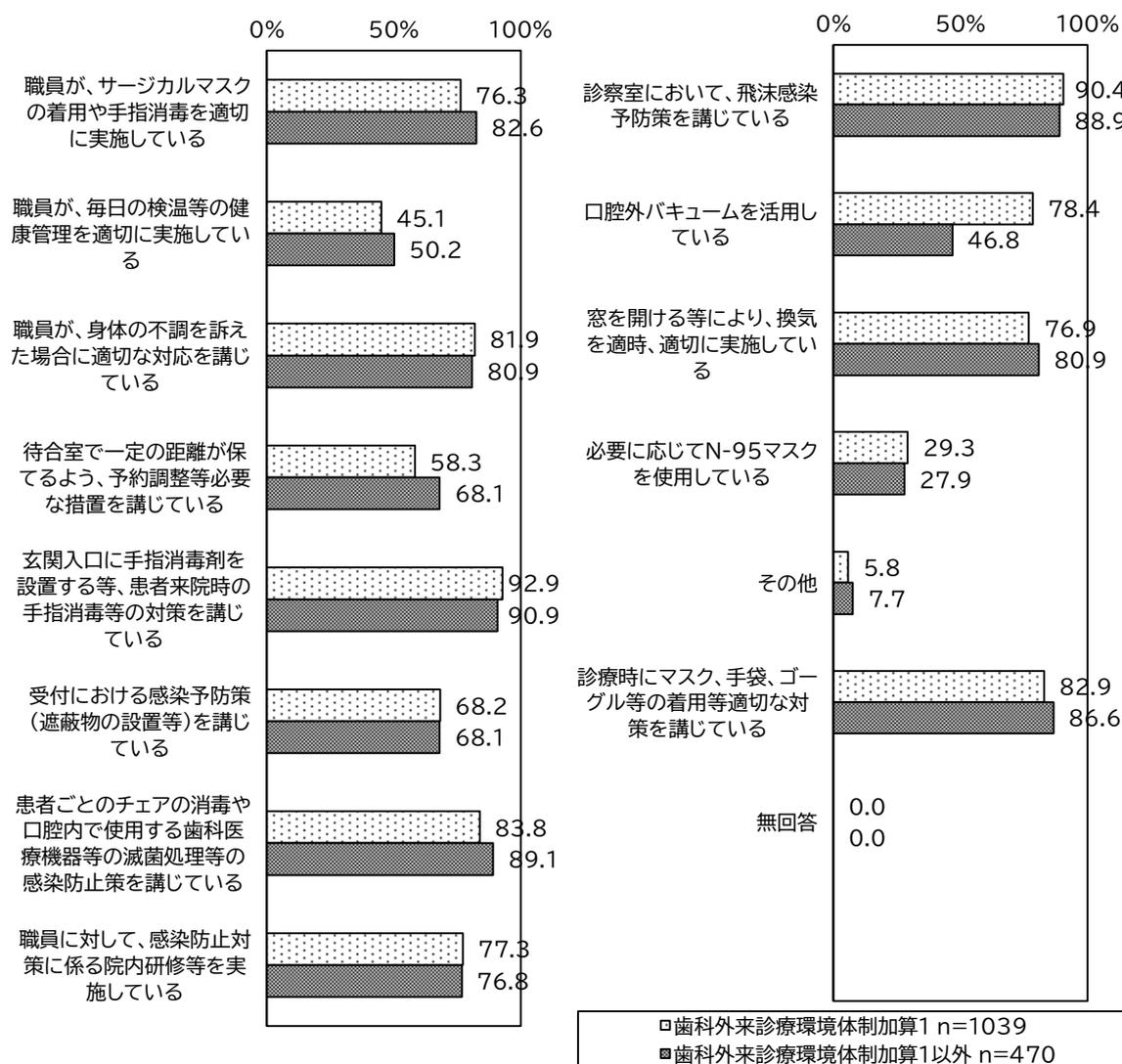
※「新型コロナウイルス感染症が流行する以前から取り組んでいた対策」、「新型コロナウイルス感染症が流行している期間に取り組んでいた対策」、「新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後(令和5年5月8日以降)も取り組んでいる対策」のすべてに回答している施設を対象に集計している。

図表 2-37 新型コロナウイルス感染症が流行している期間に取り組んでいた対策
(複数回答) (歯科外来診療環境体制加算の届出別)



※「新型コロナウイルス感染症が流行する以前から取り組んでいた対策」、「新型コロナウイルス感染症が流行している期間に取り組んでいた対策」、「新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後(令和5年5月8日以降)も取り組んでいる対策」のすべてに回答している施設を対象に集計している。

図表 2-38 新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後
(複数回答) (歯科外来診療環境体制加算の届出別)



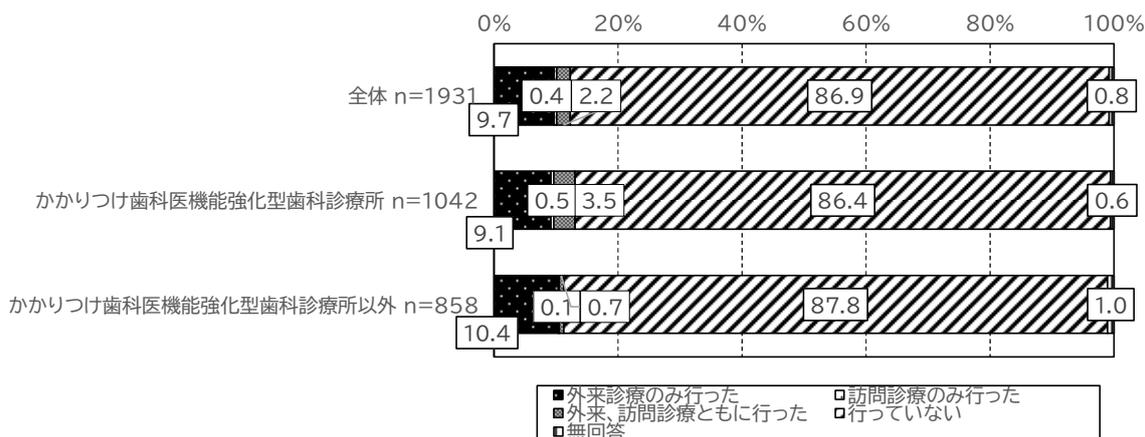
※「新型コロナウイルス感染症が流行する以前から取り組んでいた対策」、「新型コロナウイルス感染症が流行している期間に取り組んでいた対策」、「新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後(令和5年5月8日以降)も取り組んでいる対策」のすべてに回答している施設を対象に集計している。

(4) 新型コロナウイルス感染症患者への歯科診療に関して

① これまで、新型コロナウイルス感染症患者に対する歯科診療を行ったか

これまでの新型コロナウイルス感染症患者に対する歯科診療を行ったかについて尋ねたところ、「行っていない」が86.9%であった。

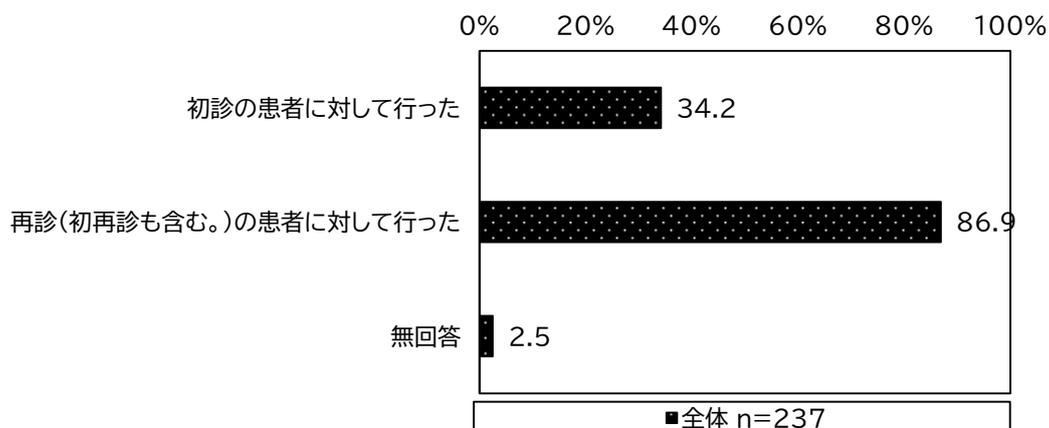
図表 2-39 新型コロナウイルス感染症患者に対する歯科診療を行ったか



② 新型コロナウイルス感染症患者に対する歯科診療を行った場合の初診・再診

新型コロナウイルス感染症患者に対する歯科診療について「外来診療のみ行った」、「訪問診療のみ行った」、「外来、訪問診療ともに行った」と回答した場合、患者の初診・再診について尋ねたところ、「再診（初再診も含む。）の患者に対して行った」が86.9%であった。

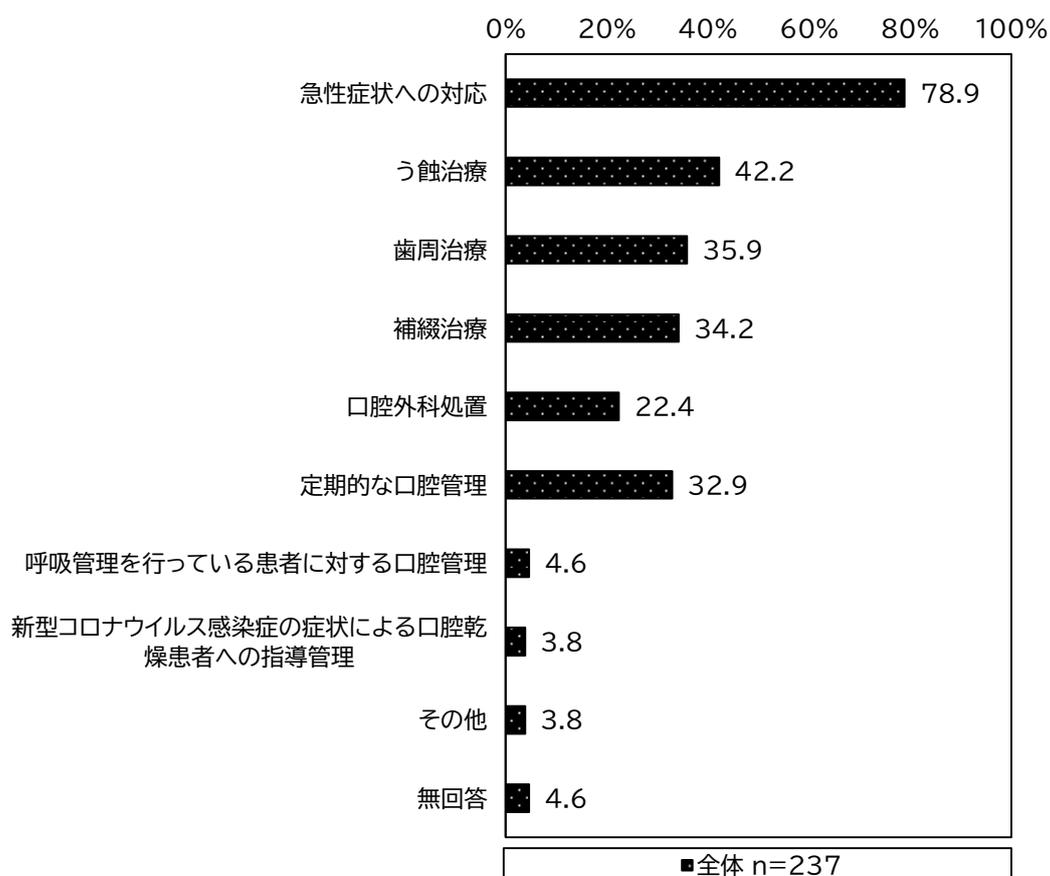
図表 2-40 新型コロナウイルス感染症患者に対する歯科診療を行った場合の初診・再診（複数回答）



③ 新型コロナウイルス感染症患者に対する歯科診療を行った場合の治療内容

新型コロナウイルス感染症患者に対する歯科診療について「外来診療のみ行った」、「訪問診療のみ行った」、「外来、訪問診療ともに行った」と回答した場合、治療内容を尋ねたところ、「急性症状への対応」が78.9%であった。

図表 2-41 新型コロナウイルス感染症患者に対する歯科診療を行った場合の治療内容
(複数回答)

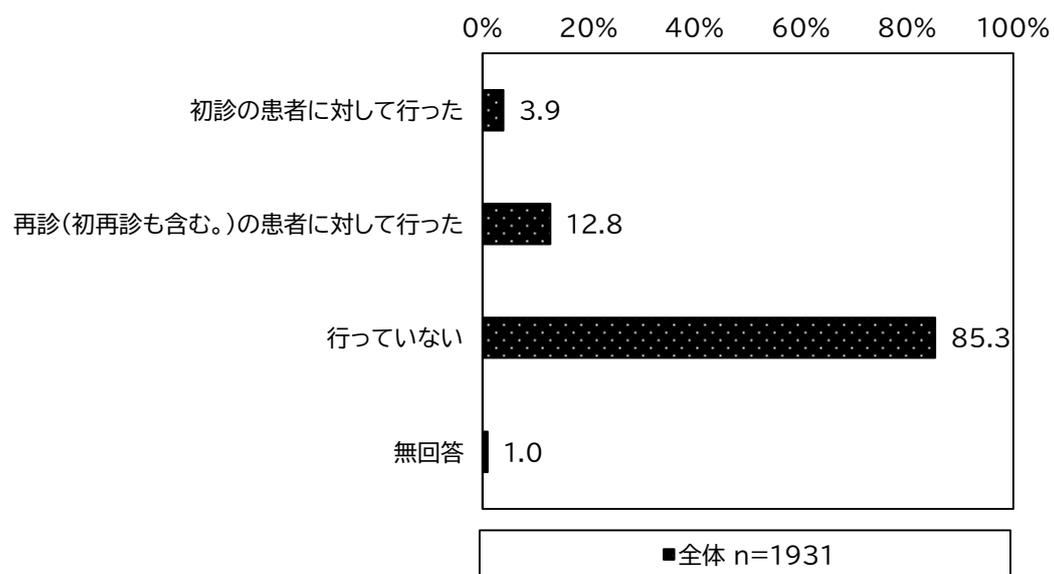


(5) 電話や情報通信機器を用いた歯科診療について

① 令和2年4月以降、電話や情報通信機器を用いた歯科診療の実施有無

令和2年4月以降において、電話や情報通信機器を用いた歯科診療の実施有無を尋ねたところ、「行っていない」が85.3%であった。

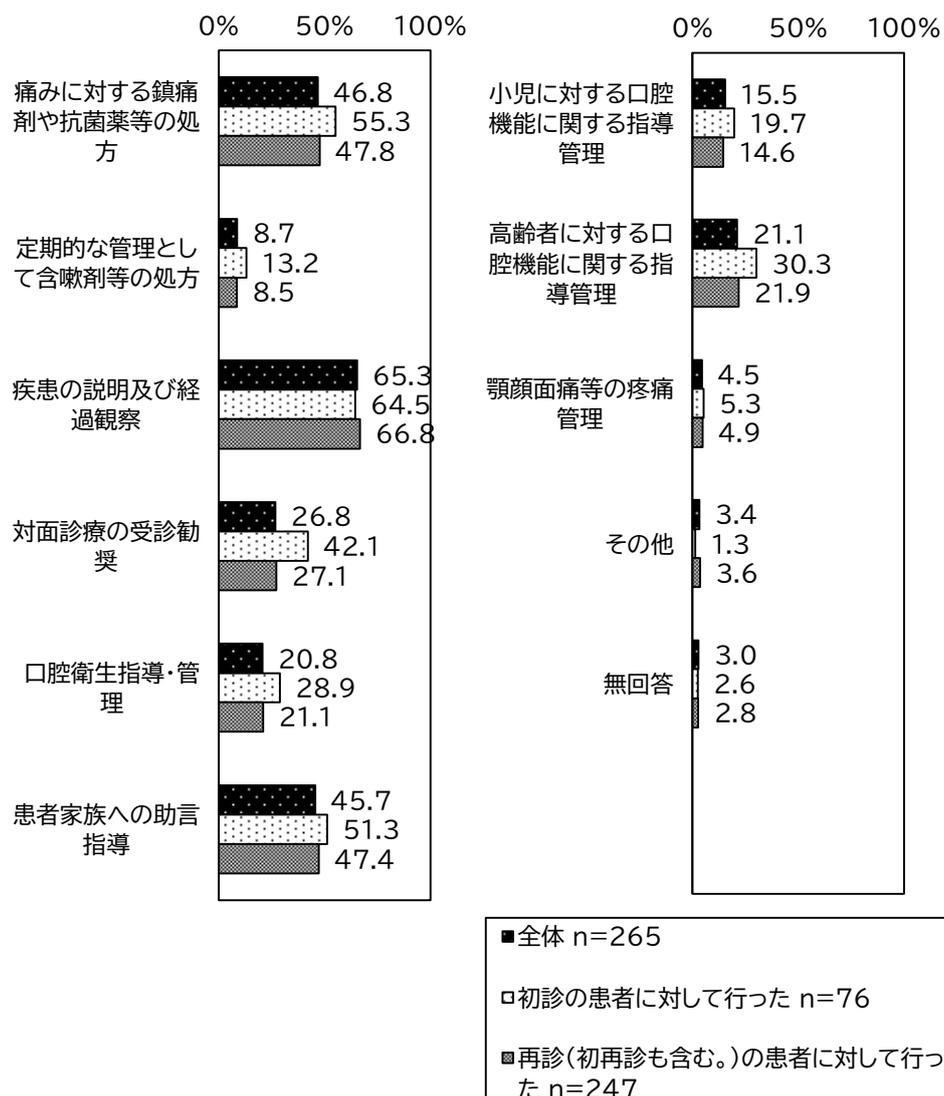
図表 2-42 電話や情報通信機器を用いた歯科診療について（複数回答）



② 電話や情報通信機器を用いて行った治療内容

電話や情報通信機器を用いた歯科診療を「初診の患者に対して行った」、「再診（初再診も含む。）の患者に対して行った」と回答した場合、治療内容を尋ねたところ、「疾患の説明及び経過観察」が65.3%であった。

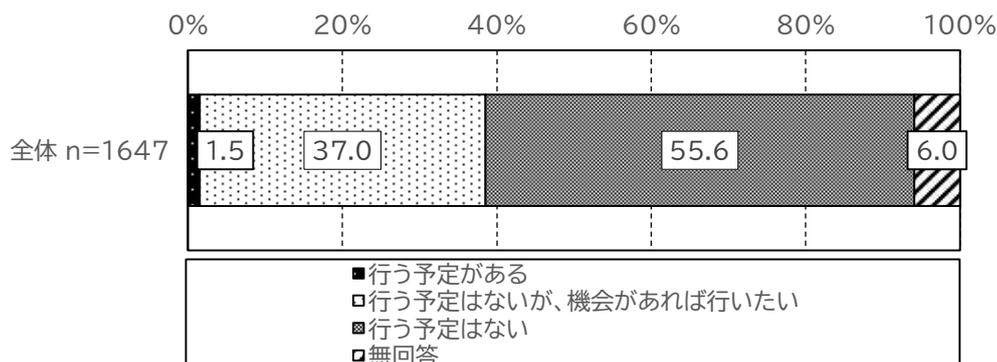
図表 2-43 電話や情報通信機器を用いて行った治療内容（複数回答）
（電話や情報通信機器を用いて行った治療の初診・再診の別）



③ 電話や情報通信機器を用いた歯科診療について、今後行う予定があるか

電話や情報通信機器を用いた歯科診療を「行っていない」と回答した場合、電話や情報通信機器を用いた歯科診療を今後行う予定について尋ねたところ、「行う予定はない」が55.6%であった。

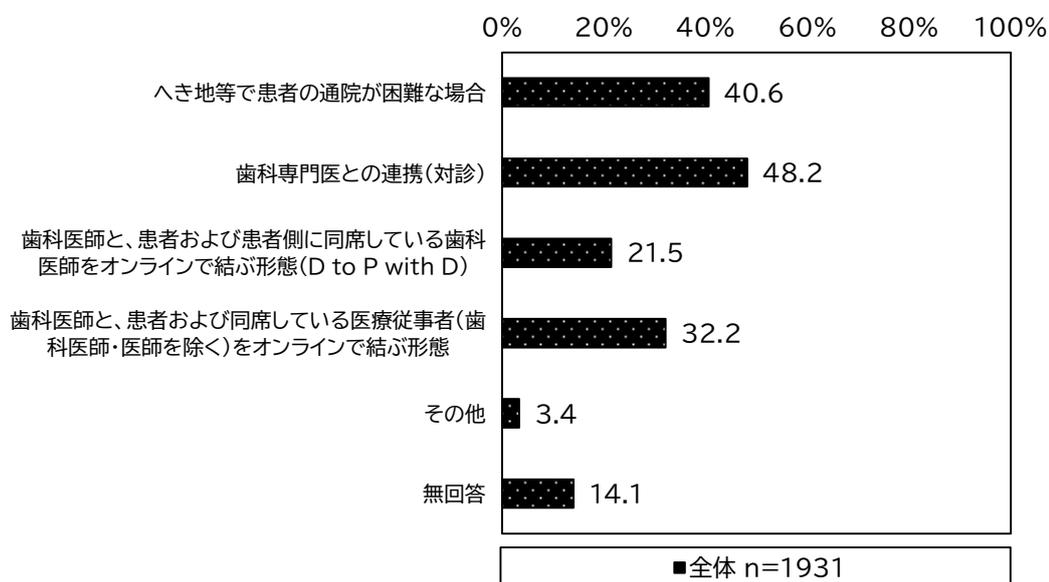
図表 2-44 電話や情報通信機器を用いた歯科診療を行う予定



④ 電話や情報通信機器を用いた診療を活用したい場面

電話や情報通信機器を用いた診療を活用したい場面について尋ねたところ、「歯科専門医との連携（対診）」が48.2%であった。

図表 2-45 電話や情報通信機器を用いた歯科診療を行う予定（複数回答）



3) 貴施設における、歯科診療の内容及び管理料の算定状況等

(1) 令和5年6月の1か月間における、初診料、再診料を算定した患者数、訪問歯科診療を実施した患者数（実人数）

初診料を算定した患者数は平均 97.2 人、再診料を算定した患者数は平均 386.7 人、訪問歯科を実施した患者数は平均 20.7 人であった。

図表 2-46 患者数

(単位：人)

	回答 施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準偏 差
1) 初診料を算定した患者数（実人数）	1756	1691.0	0.0	65.0	97.2	107.0
上記1)のうち、初診料算定以前に受診歴のある（再初診の）患者数（実人数）	1507	880.0	0.0	45.0	71.7	83.9
3) 再診料を算定した患者数（実人数）	1705	3390.0	0.0	300.0	386.7	351.7
4) 訪問歯科診療を実施した患者数（実人数）	1785	2224.0	0.0	0.0	20.7	102.9

(2) 令和5年6月の1か月間における、患者実人数の年齢別の割合

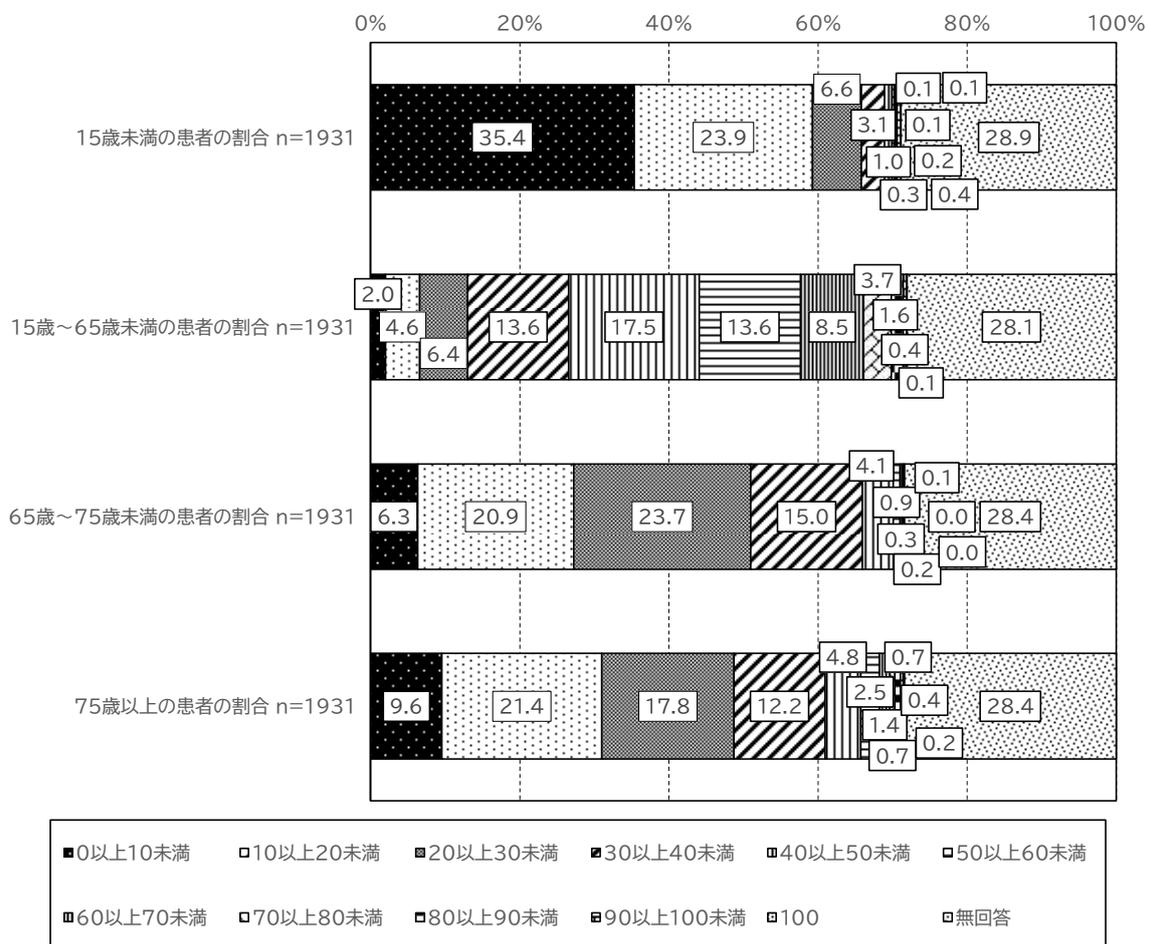
令和5年6月の1か月間における、患者実人数の年齢別の割合は、15歳未満の患者では「0%以上10%未満」が35.4%、15歳～65歳未満の患者では、「40%以上50%未満」が17.5%、65歳～75歳未満の患者では、「20%以上30%未満」が23.7%、75歳以上の患者では、「20%以上30%未満」が17.8%であった。

図表 2-47 令和5年6月の1か月間における、患者実人数の年齢別の割合

(単位：%)

	回答施設数	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	無回答
		以上 10 未満	以上 20 未満	以上 30 未満	以上 40 未満	以上 50 未満	以上 60 未満	以上 70 未満	以上 80 未満	以上 90 未満			
1) 15歳未満の患者の割合	1931	35.4	23.9	6.6	3.1	1.0	0.3	0.1	0.1	0.2	0.4	0.1	28.9
2) 15歳～65歳未満の患者の割合	1931	2.0	4.6	6.4	13.6	17.5	13.6	8.5	3.7	1.6	0.4	0.1	28.1
3) 65歳～75歳未満の患者の割合	1931	6.3	20.9	23.7	15.0	4.1	0.9	0.3	0.2	0.1	0.0	0.0	28.4
4) 75歳以上の患者の割合	1931	9.6	21.4	17.8	12.2	4.8	2.5	1.4	0.7	0.7	0.4	0.2	28.4

図表 2-48 令和5年6月の1か月間における、患者実人数の年齢別の割合



(3) 令和5年6月の1か月間における以下の算定回数

① 歯科訪問診療

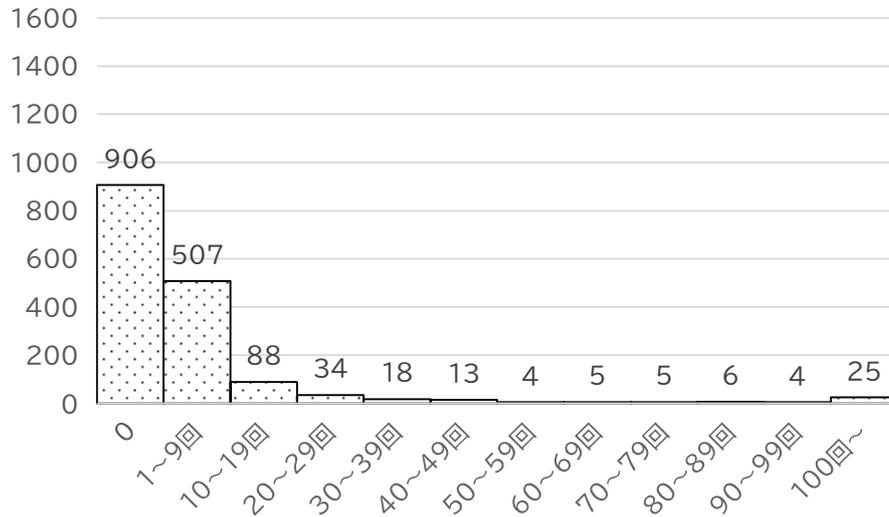
歯科訪問診療の算定回数は歯科訪問診療1では20分以上が平均8.6回、20分未満が平均1.0回、歯科訪問診療2では20分以上が平均10.1回、20分未満が平均4.7回、歯科訪問診療3では20分以上が平均5.3回、20分未満の平均は9.9回であった。

図表 2-49 歯科訪問診療について20分以上・20分未満の診療の算定回数

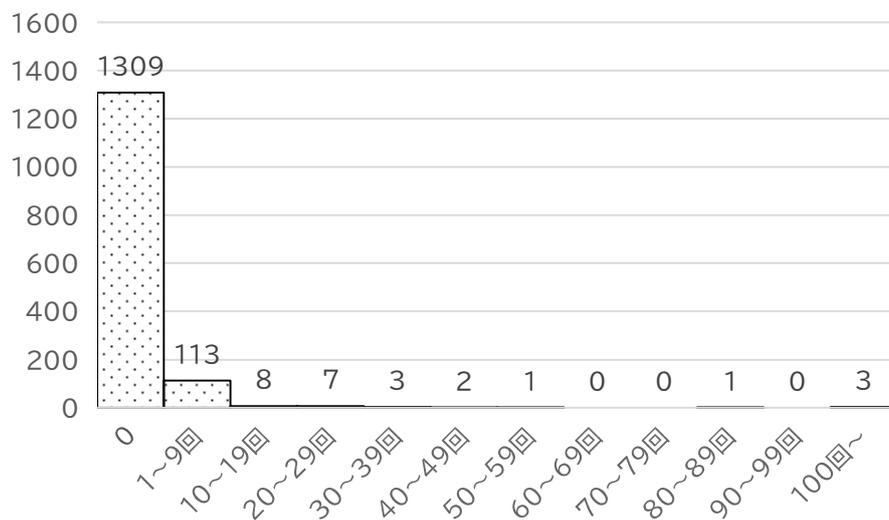
(単位：回)

		回答 施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準偏 差
歯科訪問診 療1	20分以 上	1615	1348.0	0.0	0.0	8.6	53.8
	20分未 満	1447	253.0	0.0	0.0	1.0	9.1
歯科訪問診 療2	20分以 上	1468	1451.0	0.0	0.0	10.1	54.5
	20分未 満	1421	606.0	0.0	0.0	4.7	29.8
歯科訪問診 療3	20分以 上	1413	1379.0	0.0	0.0	5.3	49.5
	20分未 満	1410	1269.0	0.0	0.0	9.9	85.1

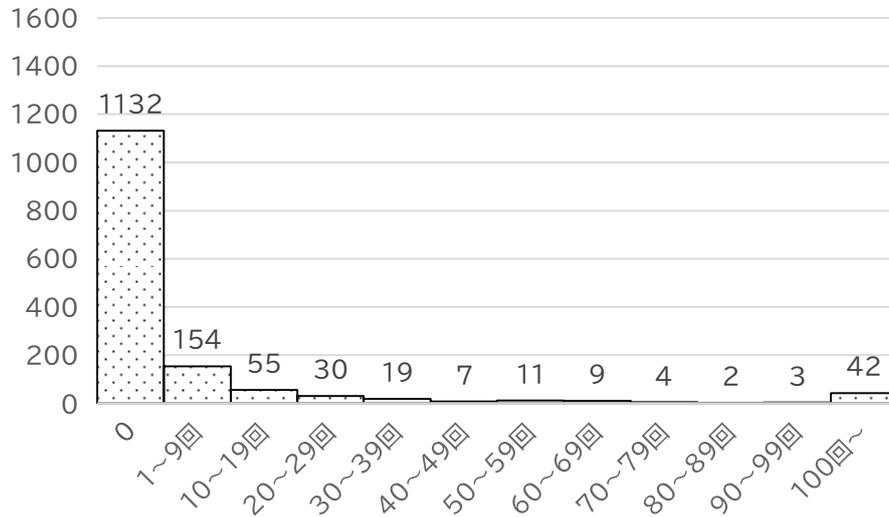
< 歯科訪問診療1 (20分以上) >



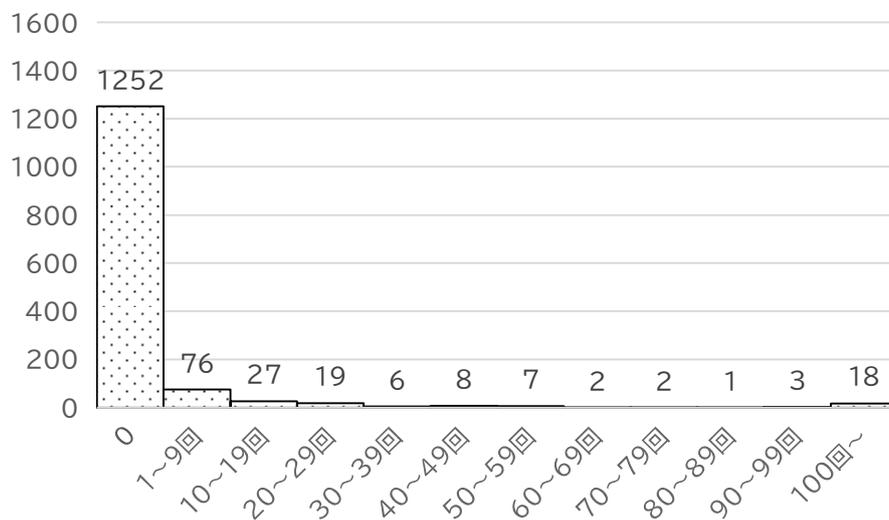
< 歯科訪問診療1 (20分未満) >



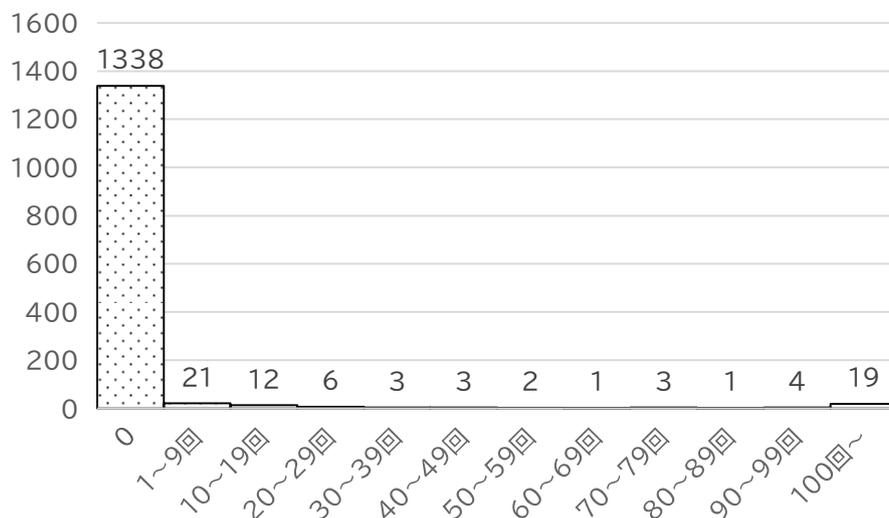
< 歯科訪問診療 2 (20分以上) >



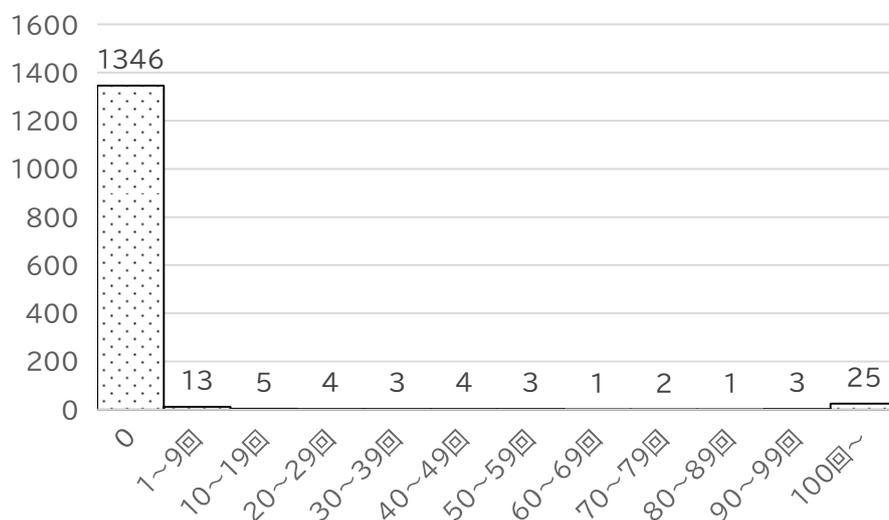
< 歯科訪問診療 2 (20分未満) >



< 歯科訪問診療3 (20分以上) >



< 歯科訪問診療3 (20分未満) >



② 連携する在宅療養支援歯科診療所1・2に依頼した歯科訪問診療の回数

連携する在宅療養支援歯科診療所1・2に依頼した歯科訪問診療の回数は全体が平均1.4回、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所が平均2.4回、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所以外が平均0.1回であった。

図表 2-50 連携する在宅療養支援歯科診療所1・2に依頼した歯科訪問診療の回数

(単位：回)

	回答 施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準偏 差
全体	1474	737.0	0.0	0.0	1.4	25.7
かかりつけ歯科医機能強化 型歯科診療所	801	737.0	0.0	0.0	2.4	34.8
かかりつけ歯科医機能強化 型歯科診療所以外	660	56.0	0.0	0.0	0.1	2.2

③ 診療情報提供料（Ⅰ）・（Ⅱ）・（Ⅲ）

診療情報提供料（Ⅰ）・（Ⅱ）・（Ⅲ）の合計回数は平均2.5回であった。

図表 2-51 診療情報提供料の合計回数

(単位：回)

	回答 施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準偏 差
診療情報提供料(Ⅰ)・(Ⅱ)・ (Ⅲ) (※合計)	1512	158.0	0.0	1.0	2.5	7.3

④ 診療情報連携共有料

診療情報連携共有料の算定回数は平均0.8回であった。

図表 2-52 診療情報連携共有料の算定回数

(単位：回)

	回答 施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準偏 差
診療情報連携共有料	1471	172.0	0.0	0.0	0.8	5.1

⑤ 歯科衛生実地指導料 1

歯科衛生実地指導料 1 の算定回数は平均 179.2 回であった。

図表 2-53 歯科衛生実地指導料 1 の算定回数

(単位：回)

	回答施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準偏差
歯科衛生実地指導料 1	1513	1999.0	0.0	32.0	179.2	268.3

⑥ 歯科衛生実地指導料 2

歯科衛生実地指導料 2 の算定回数は平均 1.5 回であった。

図表 2-54 歯科衛生実地指導料 2 の算定回数

(単位：回)

	回答施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準偏差
歯科衛生実地指導料 2	1428	442.0	0.0	0.0	1.5	18.8

⑦ 訪問歯科衛生指導料

訪問歯科衛生指導料の算定回数は「単一建物患者が 1 人」が平均 1.4 回、「単一建物患者が 2 人以上 9 人以下」が平均 3.8 回、「単一建物患者が 10 人以上」が平均 13.8%であった。

図表 2-55 訪問歯科衛生指導料の算定回数

(単位：回)

	回答施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準偏差
単一建物患者が 1 人	1523	360.0	0.0	0.0	1.4	12.0
単一建物患者が 2 人以上 9 人以下	1457	328.0	0.0	0.0	3.8	19.3
単一建物患者が 10 人以上	1424	2098.0	0.0	0.0	13.8	98.0

⑧ フッ化物歯面塗布処置等

フッ化物歯面塗布処置等の算定回数はフッ化物歯面塗布処置に対し、う蝕多発傾向者の場合の平均は2.1回、初期の根面う蝕に罹患している患者の場合の平均は6.3回、エナメル質初期う蝕に罹患している患者の場合の平均は19.9回であった。フッ化物洗口指導加算の平均は0.7回、機械的歯面清掃処置の平均は139.9回、非経口摂取患者口腔粘膜処置の平均は0.3回、周術期等専門的口腔衛生処置の平均は0.3回であった。

図表 2-56 フッ化物歯面塗布処置等

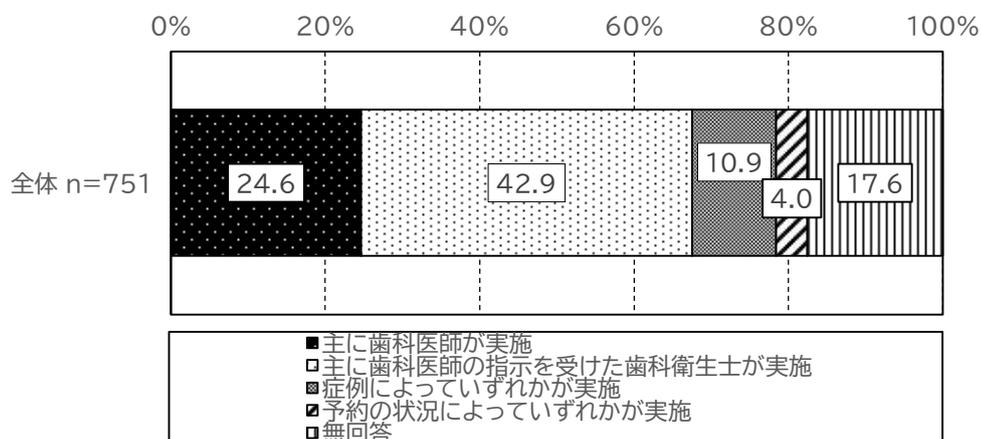
(単位：回)

		回答 施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準 偏差
フッ化物 歯面塗布 処置	う蝕多発傾向者の場合	1471	286.0	0.0	0.0	2.1	13.7
	初期の根面う蝕に罹患している患者の場合	1486	270.0	0.0	0.0	6.3	21.4
	エナメル質初期う蝕に罹患している患者の場合	1527	1078.0	0.0	0.0	19.9	75.4
フッ化物洗口指導加算		1546	200.0	0.0	0.0	0.7	7.8
機械的歯面清掃処置		1562	1400.0	0.0	94.5	139.9	157.1
非経口摂取患者口腔粘膜処置		1553	109.0	0.0	0.0	0.3	3.3
周術期等専門的口腔衛生処置		1553	279.0	0.0	0.0	0.3	7.1

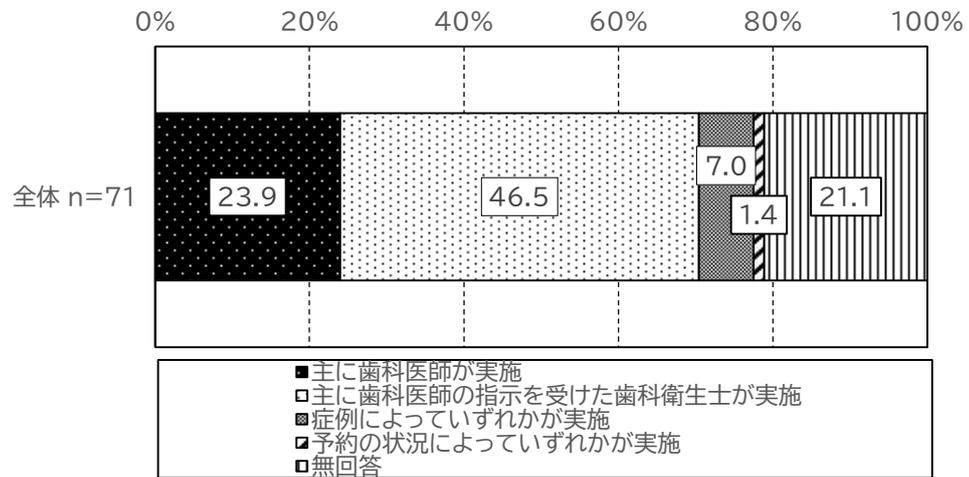
⑨ フッ化物歯面塗布処置等を主に実施している者

フッ化物歯面塗布処置を主に実施している者は「主に歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が実施」が42.9%で最も多かった。フッ化物洗口指導加算を主に実施している者は「主に歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が実施」が46.5%で最も多かった。機械的歯面清掃処置を主に実施している者は「主に歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が実施」が49.1%で最も多かった。非経口摂取患者口腔粘膜処置を主に実施している者は「主に歯科医師が実施」が31.9%で最も多かった。周術期等専門的口腔衛生処置を主に実施している者は「主に歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が実施」が51.7%で最も多かった。

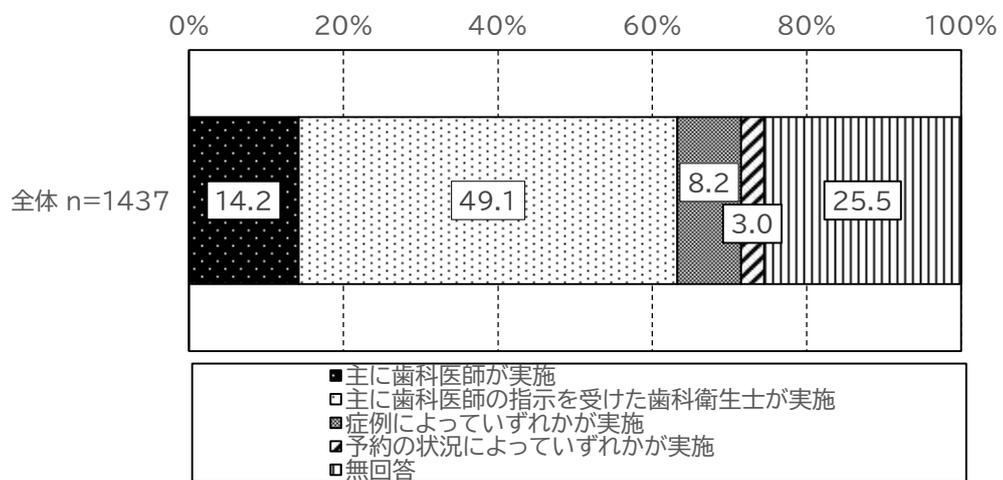
図表 2-57 フッ化物歯面塗布処置を主に実施している者



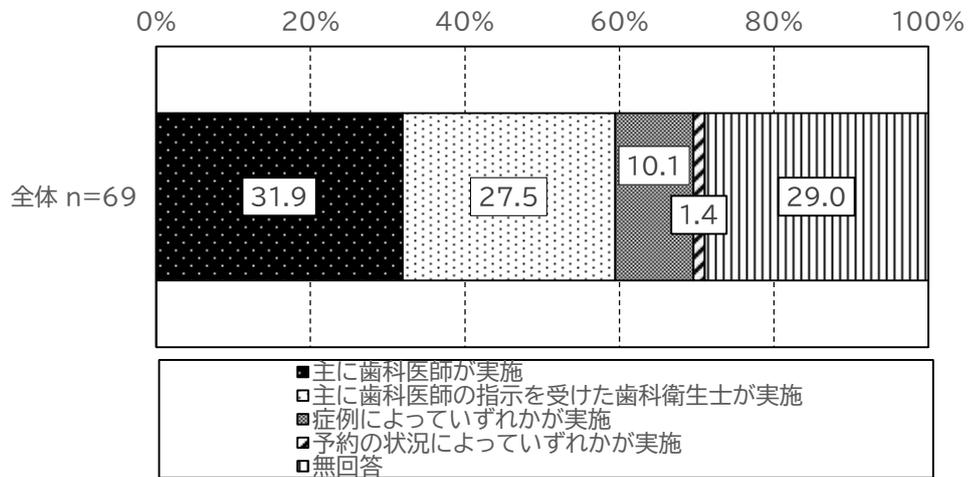
図表 2-58 フッ化物洗口指導加算を主に実施している者



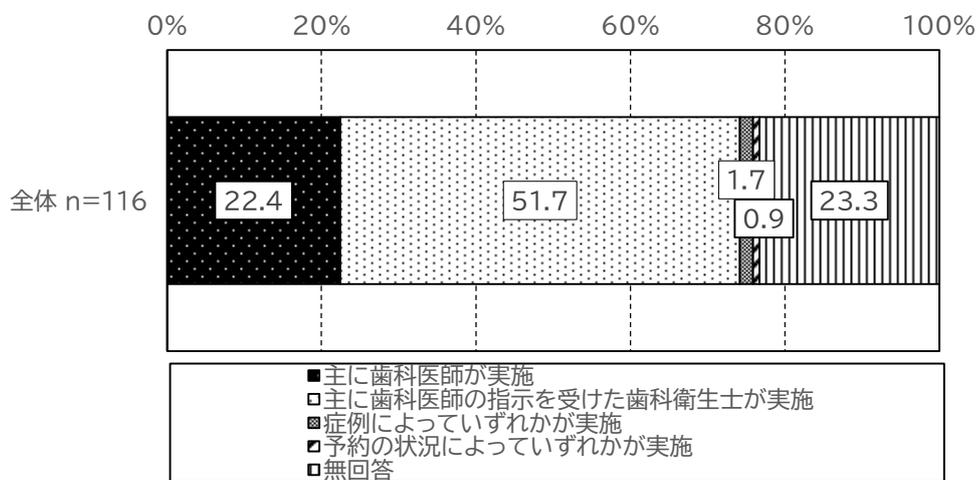
図表 2-59 機械的歯面清掃処置を主に実施している者



図表 2-60 非経口摂取患者口腔粘膜処置を主に実施している者



図表 2-61 周術期等専門的口腔衛生処置を主に実施している者

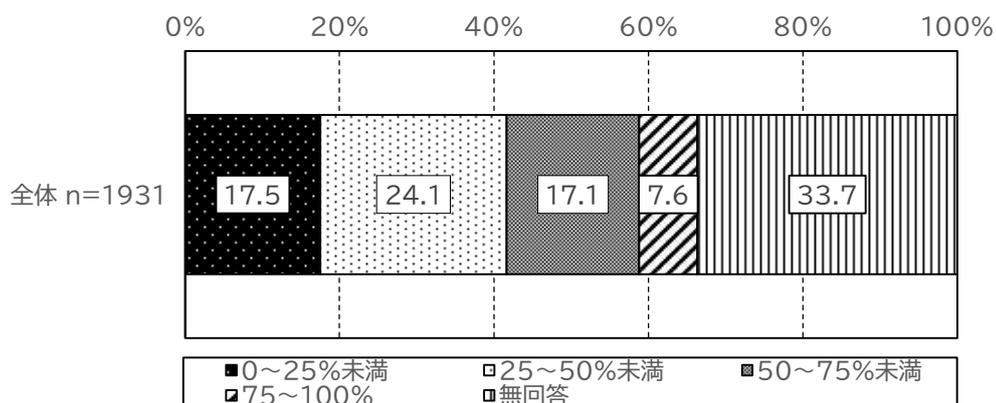


(4) 定期的な管理の実施状況について、全体の患者に占める割合

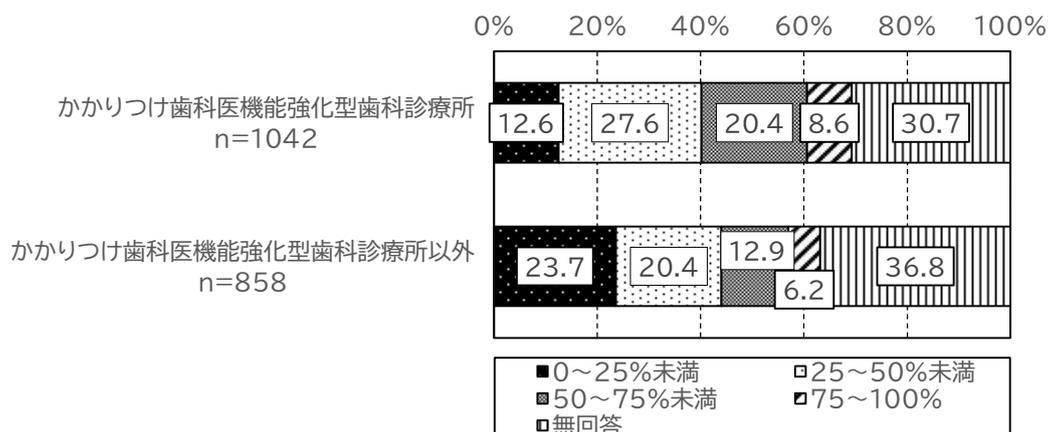
※ここでいう定期的な管理とは、継続的な管理を必要とする歯科疾患を有する患者に対し、歯科疾患の再発防止及び重症化予防を目的として行う、口腔の定期的な管理を指す

定期的な管理の実施状況について、全体の患者に占める割合は「0～25%未満」が17.5%、「25～50%未満」が24.1%、「50～75%未満」が17.1%、「75～100%」が7.6%であった。

図表 2-62 定期的な管理の実施状況



図表 2-63 定期的な管理の実施状況（か強診・か強診以外）



(5) 歯科疾患管理料等の算定状況（令和5年6月の1か月間）

① 歯科疾患管理料等の算定状況

歯科疾患管理料等の算定状況は歯科疾患管理料の算定患者数（実人数）（人）が平均330.9回、フッ化物洗口指導加算（13歳未満）（回）が平均1.0回、フッ化物洗口指導加算の算定回数（13歳以上15歳未満）（回）が平均42.3回、エナメル質初期う蝕管理加算の算定回数（回）が平均42.3回、総合医療管理加算の算定回数（回）が平均3.3回、歯科疾患管理料長期管理加算の算定回数（回）が平均170.8回であった。

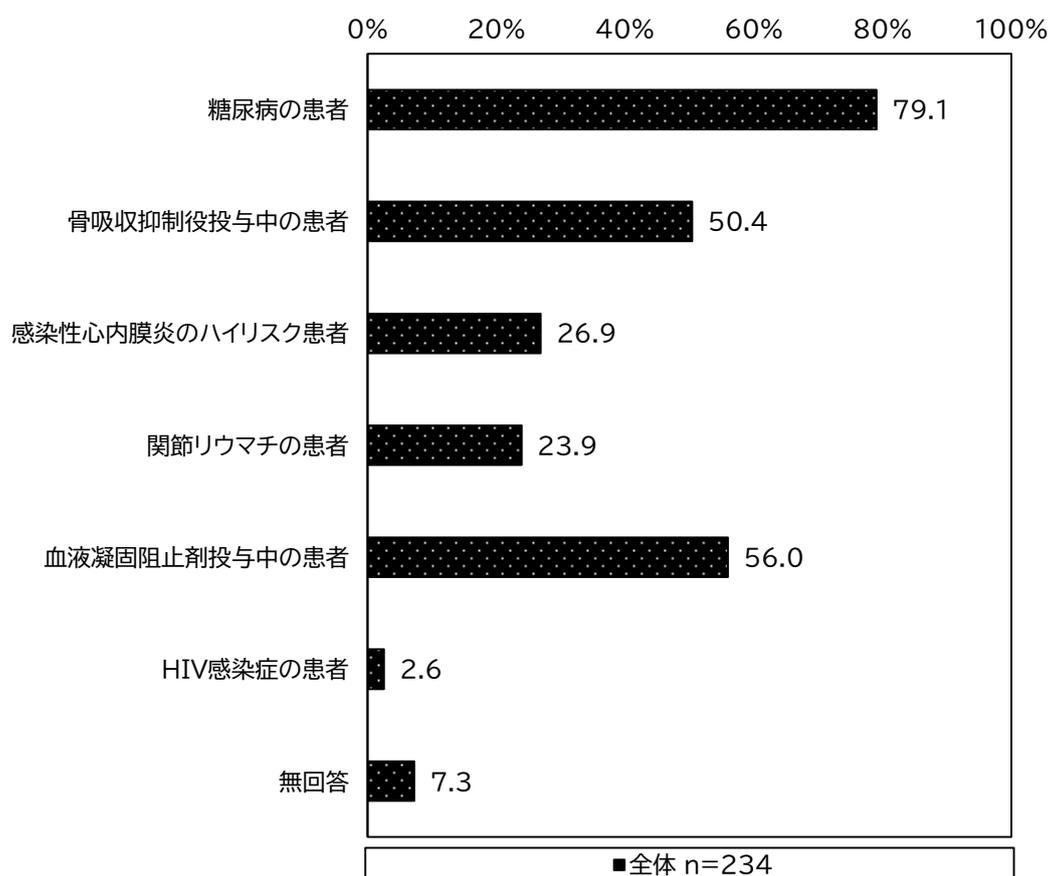
図表 2-64 歯科疾患管理料等の算定状況

	回答施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準偏差
歯科疾患管理料の算定患者数（実人数）（人）	1672	3691.0	0.0	249.0	330.9	317.3
フッ化物洗口指導加算（13歳未満）（回）	1582	200.0	0.0	0.0	1.0	10.1
フッ化物洗口指導加算の算定回数（13歳以上15歳未満）（回）	1572	319.0	0.0	0.0	0.6	9.3
エナメル質初期う蝕管理加算の算定回数（回）	1618	1906.0	0.0	0.0	42.3	127.7
総合医療管理加算の算定回数（回）	1586	250.0	0.0	0.0	3.3	16.5
歯科疾患管理料 長期管理加算の算定回数（回）	1542	2236.0	0.0	94.0	170.8	225.1

② 総合医療管理加算を算定した患者のうち、対象患者の疾患

総合医療管理加算を算定した患者のうち、対象患者の疾患は「糖尿病の患者」が79.1%であった。

図表 2-65 総合医療管理加算を算定した患者のうち、対象患者の疾患（複数回答）



(6) 歯周病安定期治療の算定状況（令和5年6月の1か月間）

① 歯周病安定期治療の算定患者数（実人数）

歯周病安定期治療の算定患者数（実人数）の平均人数は、1歯以上10歯未満は6.2人、10歯以上20歯未満は15.9人、20歯以上が58.9人であった。

図表 2-66 歯周病安定期治療の算定患者数（実人数）

(単位：人)

	回答 施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準 偏差
1歯以上10歯未満	1519	464.0	0.0	1.0	6.2	17.7
10歯以上20歯未満	1544	1061.0	0.0	3.0	15.9	39.6
20歯以上	1552	1739.0	0.0	10.0	58.9	114.7

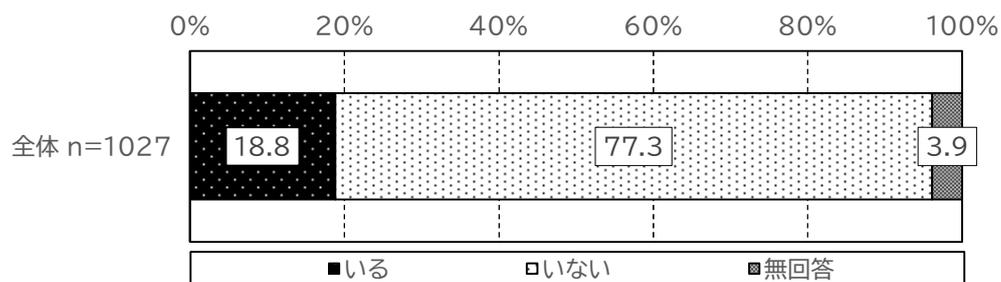
図表 2-67 歯周病安定期治療の算定患者数（実人数）（か強診・か強診以外）

		回答 施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準 偏差
1 歯以上 10 歯未満	かかりつけ歯科 医機能強化型歯 科診療所	847	464.0	0.0	5.0	10.4	22.5
	かかりつけ歯科 医機能強化型歯 科診療所以外	654	31.0	0.0	0.0	0.7	2.9
10 歯以上 20 歯未満	かかりつけ歯科 医機能強化型歯 科診療所	865	1061.0	0.0	15.0	26.3	49.7
	かかりつけ歯科 医機能強化型歯 科診療所以外	661	130.0	0.0	0.0	2.3	9.0
20 歯以上	かかりつけ歯科 医機能強化型歯 科診療所	870	1739.0	0.0	50.0	98.0	138.4
	かかりつけ歯科 医機能強化型歯 科診療所以外	664	386.0	0.0	0.0	7.9	28.7

② 歯周病重症化予防治療から歯周病安定期治療に移行した患者の有無

歯周病重症化予防治療から歯周病安定期治療に移行した患者について、「いる」が 18.8%、「いない」が 77.3%であった。

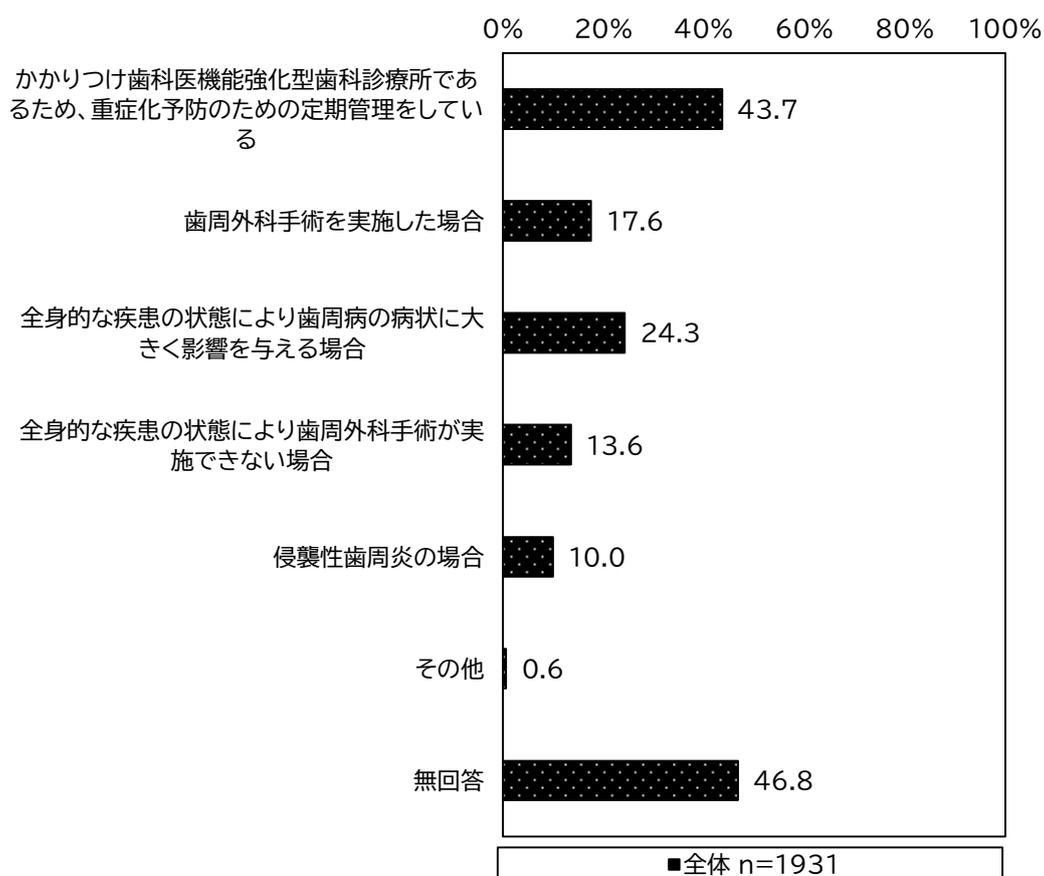
図表 2-68 歯周病重症化予防治療から歯周病安定期治療に移行した患者数



③ 3か月以内の歯周病安定期治療を算定した場合、算定した患者としてあてはまるもの

3か月以内の歯周病安定期治療を算定した場合、算定した患者としてあてはまるものについて尋ねたところ、「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所であるため、重症化予防のための定期管理をしている」が43.7%であった。

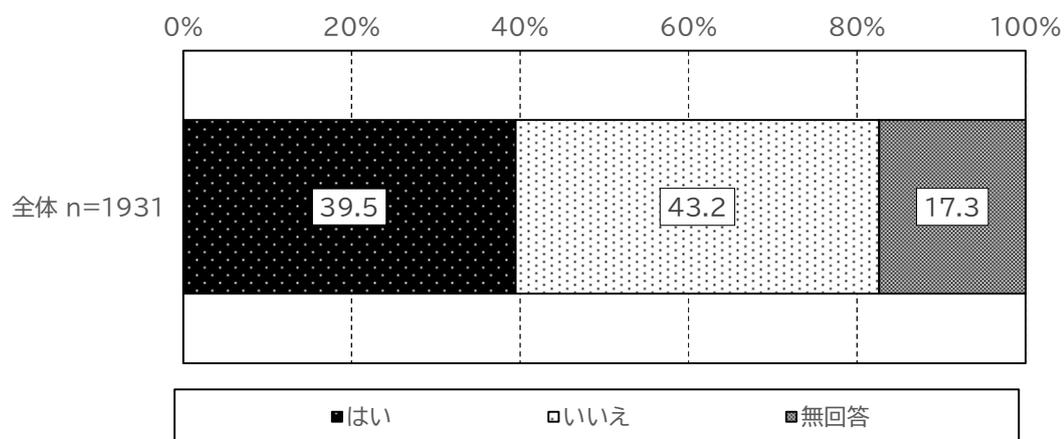
図表 2-69 3か月以内の歯周病安定期治療を算定した場合、算定した患者（複数回答）



④ 歯周病安定期治療の対象になる可能性があるが、歯周病安定期治療を算定しなかった患者の有無

歯周病安定期治療の対象になる可能性があるが、歯周病安定期治療を算定しなかった患者の有無について尋ねたところ、「はい」が39.5%、「いいえ」が43.2%であった。

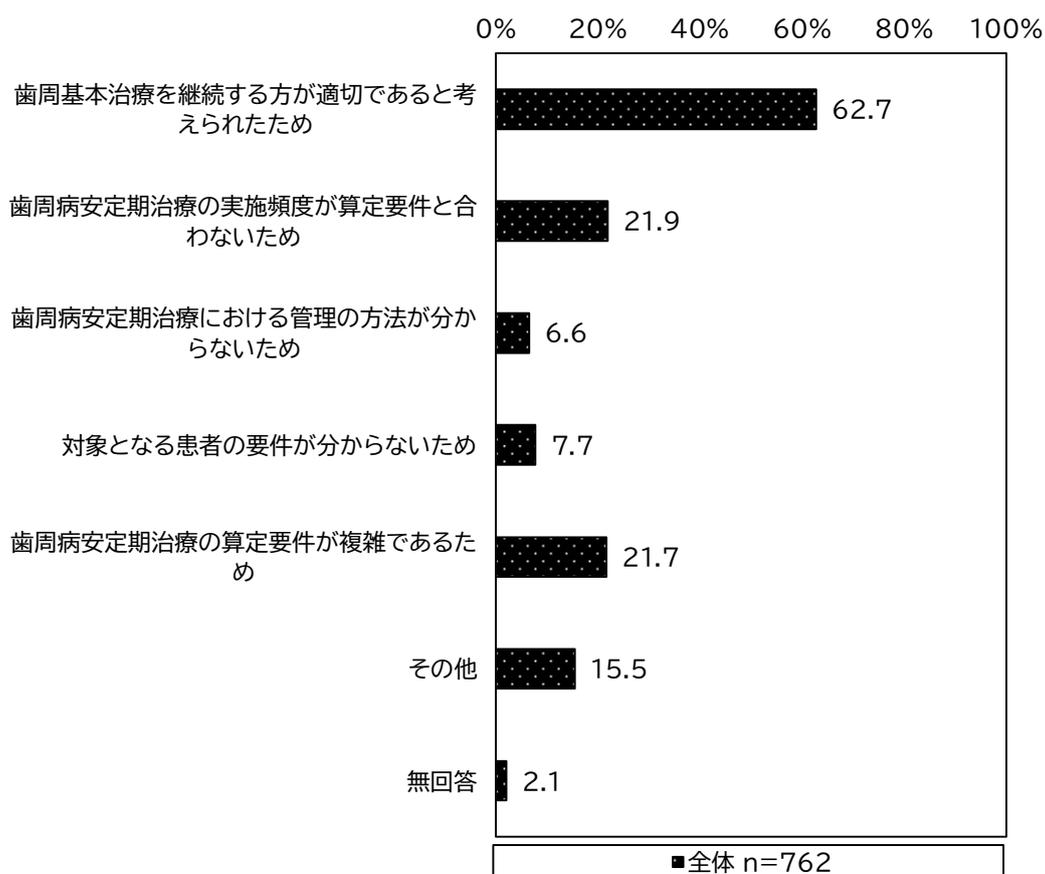
図表 2-70 歯周病安定期治療の対象になる可能性があるが、歯周病安定期治療を算定しなかった患者の有無



⑤ 歯周病安定期治療の対象になる可能性があるが、歯周病安定期治療を算定しなかった理由

歯周病安定期治療の対象になる可能性があるが、歯周病安定期治療を算定しなかった患者がいる場合、その理由を尋ねたところ、「歯周基本治療を継続する方が適切であると考えられたため」が62.7%であった。

図表 2-71 歯周病安定期治療の対象になる可能性があるが、歯周病安定期治療を算定しなかった理由（複数回答）



(7) 歯周病重症化予防治療の以下の算定状況（令和5年6月の1か月間）

① 歯周病重症化予防治療の算定患者数（実人数）

歯周病重症化予防治療の算定患者数（実人数）の平均は1歯以上10歯未満が0.7人、10歯以上20歯未満は2.3人、20歯以上が11.4人であった。

図表 2-72 歯周病重症化予防治療の算定患者数（実人数）

（単位：人）

	回答 施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準 偏差
1歯以上10歯未満	1466	108.0	0.0	0.0	0.7	4.9
10歯以上20歯未満	1482	689.0	0.0	0.0	2.3	20.2
20歯以上	1526	1619.0	0.0	0.0	11.4	53.8

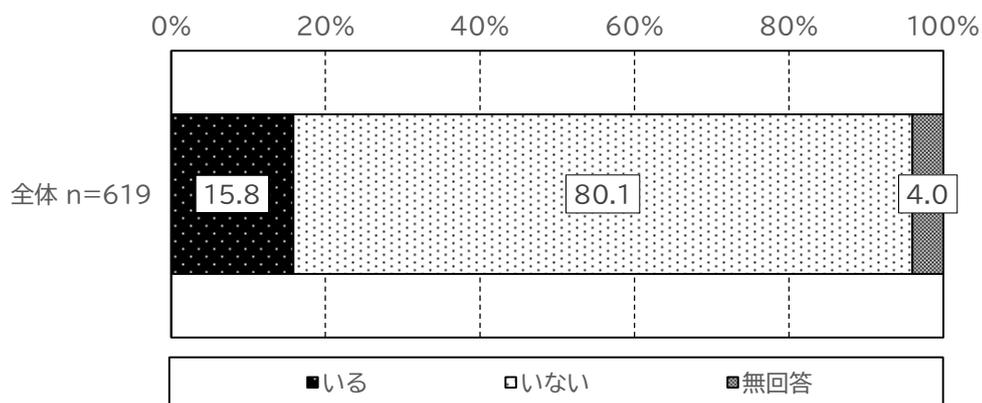
図表 2-73 歯周病重症化予防治療の算定患者数（実人数）（か強診・か強診以外）

		回答 施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準 偏差
1歯以上 10歯未満	かかりつけ歯科 医機能強化型歯 科診療所	808	108.0	0.0	0.0	1.0	6.2
	かかりつけ歯科 医機能強化型歯 科診療所以外	641	52.0	0.0	0.0	0.3	2.4
10歯以上 20歯未満	かかりつけ歯科 医機能強化型歯 科診療所	821	689.0	0.0	0.0	3.5	26.8
	かかりつけ歯科 医機能強化型歯 科診療所以外	644	64.0	0.0	0.0	0.9	4.6
20歯以上	かかりつけ歯科 医機能強化型歯 科診療所	857	1619.0	0.0	1.0	17.0	69.8
	かかりつけ歯科 医機能強化型歯 科診療所以外	652	200.0	0.0	0.0	4.1	17.0

② 歯周病安定期治療から歯周病重症化予防治療に移行した患者の有無

歯周病安定期治療から歯周病重症化予防治療に移行した患者の有無は、「いる」が15.8%、「いない」が80.1%であった。

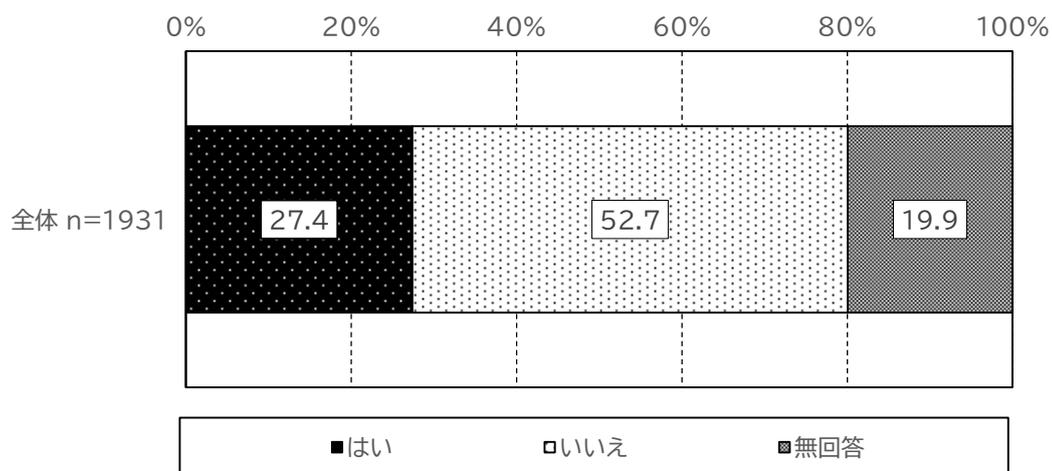
図表 2-74 歯周病安定期治療から歯周病重症化予防治療に移行した患者の有無



③ 歯周病重症化予防治療の対象になる可能性があるが、歯周病重症化予防治療を算定しなかった患者の有無

歯周病重症化予防治療の対象になる可能性があるが、歯周病重症化予防治療を算定しなかった患者の有無は「はい」が27.4%、「いいえ」が52.7%であった。

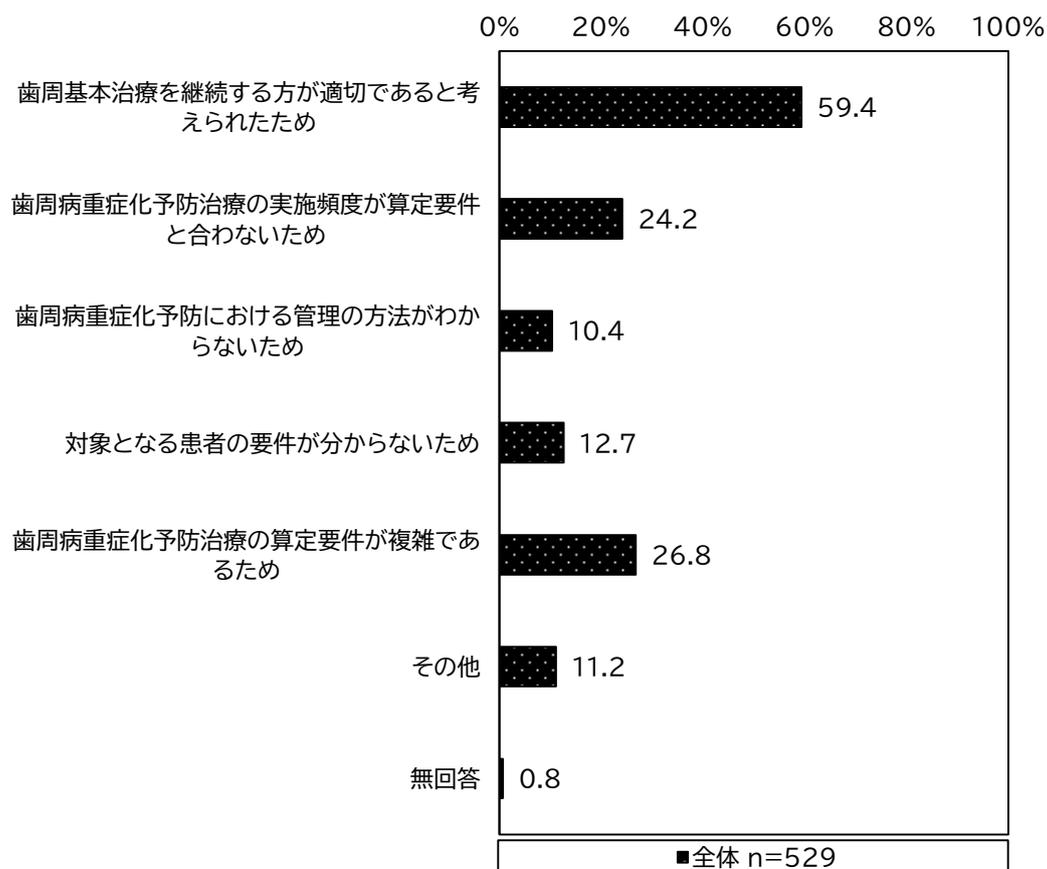
図表 2-75 歯周病重症化予防治療の対象になる可能性があるが、歯周病重症化予防治療を算定しなかった患者の有無



④ 歯周病重症化予防治療の対象になる可能性があるが、歯周病重症化予防治療を算定しなかった患者がいる場合、算定しなかった理由

歯周病重症化予防治療の対象になる可能性があるが、歯周病重症化予防治療を算定しなかった患者の有無について「はい」と回答した場合、算定しなかった理由を尋ねたところ、「歯周基本治療を継続する方が適切であると考えられたため」が59.4%であった。

図表 2-76 歯周病重症化予防治療の対象になる可能性があるが、歯周病重症化予防治療を算定しなかった患者がいる場合、算定しなかった理由（複数回答）



- (8) 「歯科疾患管理料」を算定し、「歯周病安定期治療 (SPT)」又は「歯周病重症化予防治療 (P 重防)」を算定した歯周病の患者について (令和5年6月1日～7月31日)

○施設調査における患者調査

調査対象：歯科疾患管理料を算定した患者のうち、「歯周病安定期治療 (SPT)」又は「歯周病重症化予防治療 (P 重防)」を算定した患者最大2名

回答数：歯周病安定期治療 (SPT) を算定した患者 1719人

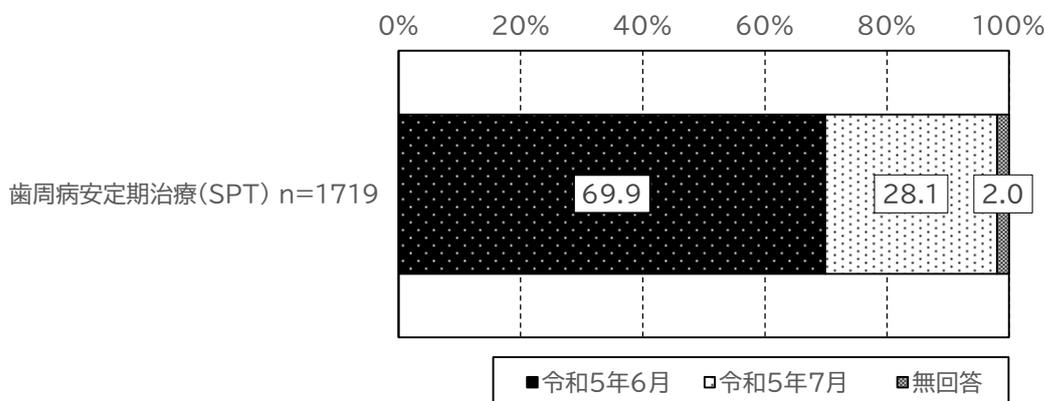
歯周病重症化予防治療 (P 重防) を算定した患者 327人

- (1)-1 「歯周病安定期治療 (SPT)」を算定した患者

- ⑤ 「歯周病安定期治療 (SPT)」に関する算定項目の直近の算定月

① 「歯周病安定期治療 (SPT)」に関する算定項目の直近の算定月は「令和5年6月」が69.9%、「令和5年7月」が28.1%であった。

図表 2-77 「歯周病安定期治療 (SPT)」に関する算定項目の直近の算定月



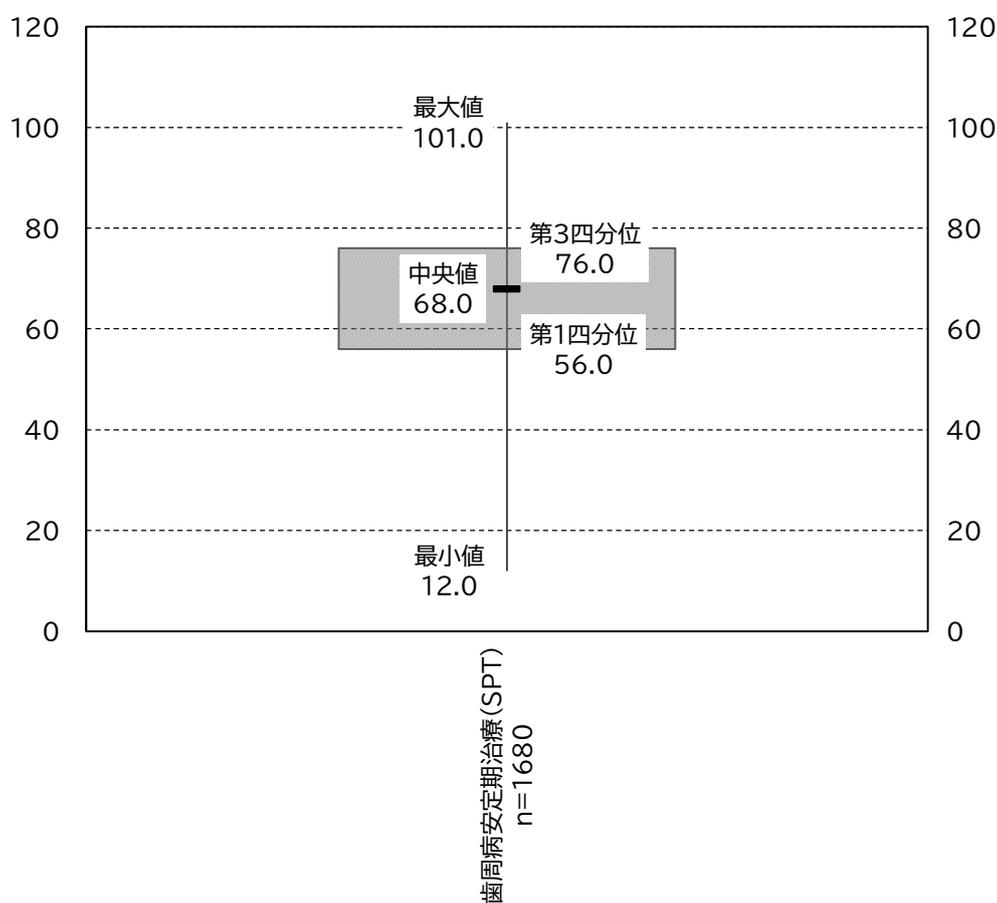
⑥ 患者の年齢

患者の年齢は平均 65.6 歳であった。

図表 2-78 患者の年齢

(単位：歳)

	回答 施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準 偏差
患者の年齢	1680	101.0	12.0	68.0	65.6	14.4

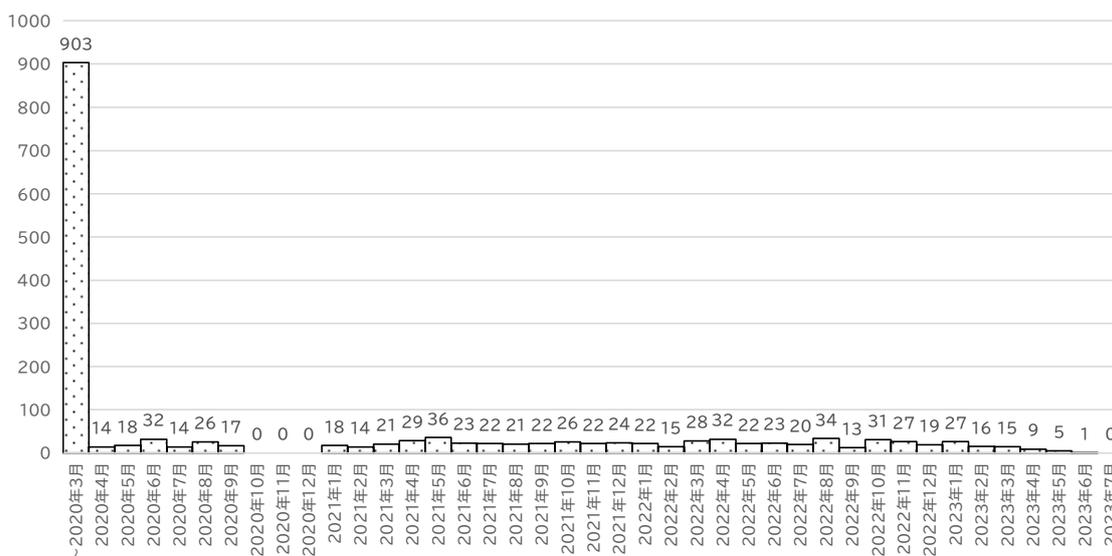


⑦ 患者の初診月

患者の初診月は2020年3月以前が903人、2021年5月が36人であった。

図表 2-79 患者の初診月別人数

(単位：人)

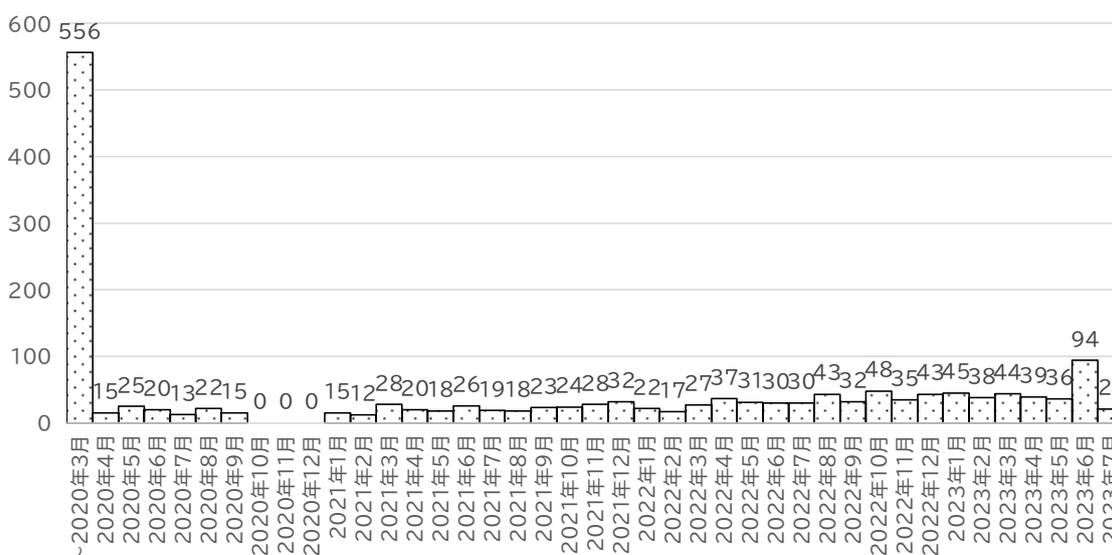


⑧ SPTの初回の算定月

SPTの初回の算定月は2020年3月以前が556人、2023年6月が94人であった。

図表 2-80 SPTの初回の算定月別人数

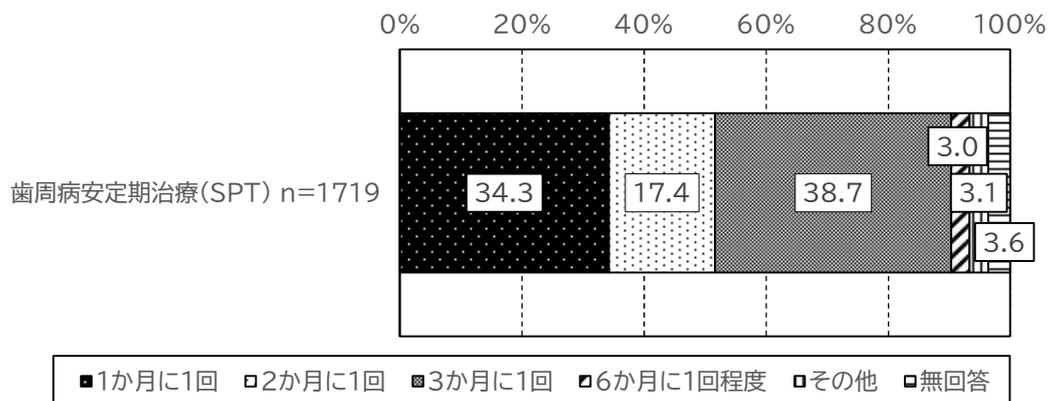
(単位：人)



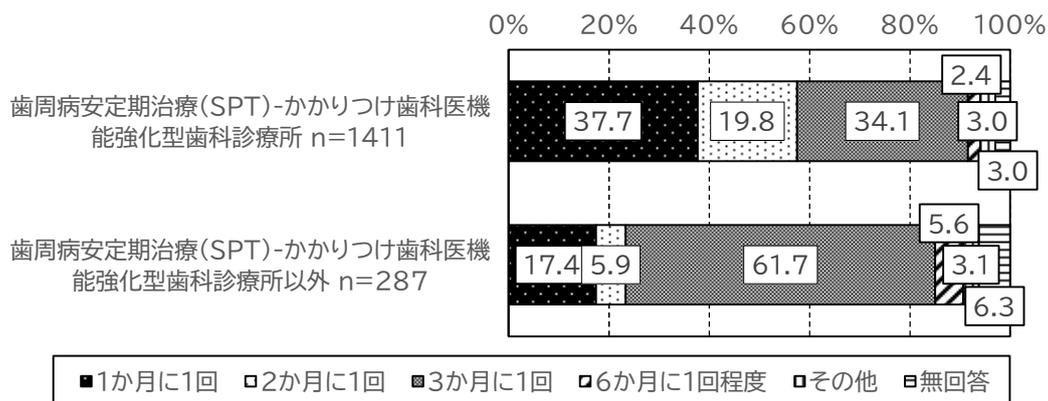
⑨ 直近の半年間の SPT の実施頻度

直近の半年間の SPT の実施頻度は「3 か月に 1 回」が 38.7%であった。

図表 2-81 直近の半年間の SPT の実施頻度



図表 2-82 直近の半年間の SPT の実施頻度（か強診・か強診以外）



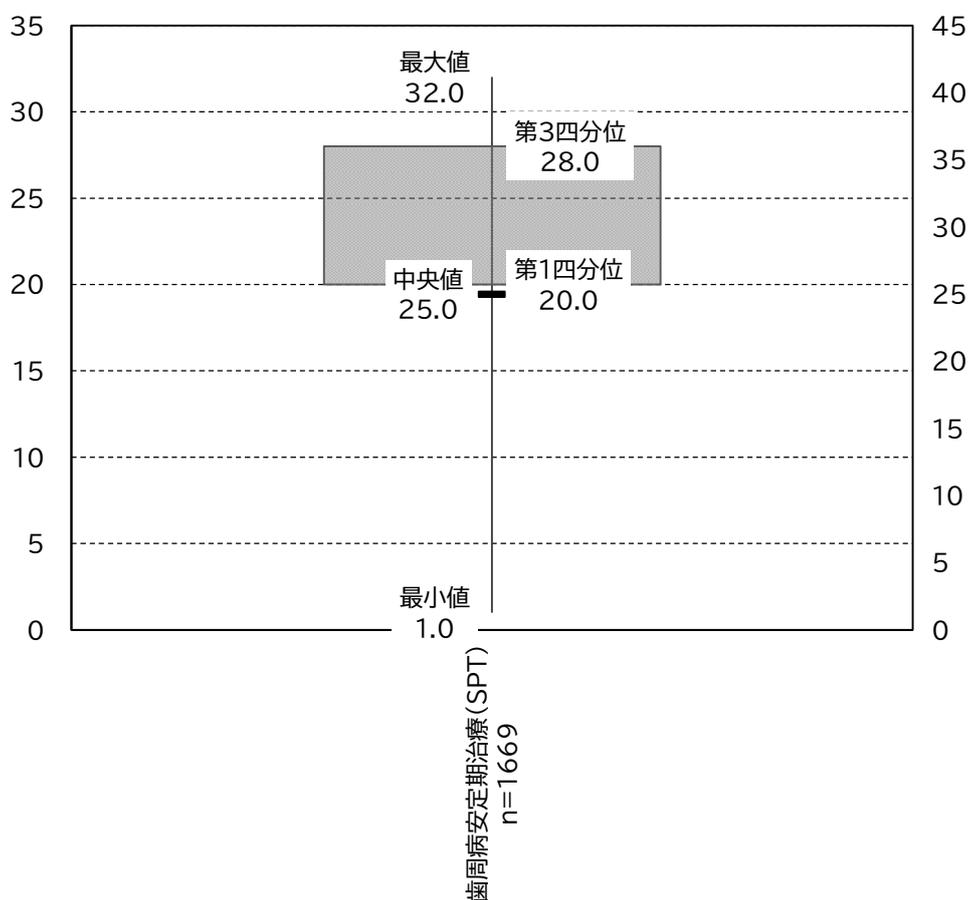
⑩ SPT の初回の算定月時点の歯の本数

SPT の初回の算定月時点の歯の本数は平均で 22.9 本であった。

図表 2-83 SPT の初回の算定月時点の歯の本数

(単位：本)

	回答施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準偏差
5)で回答した SPT の初回の算定月時点の歯の本数	1669	32.0	1.0	25.0	22.9	6.0



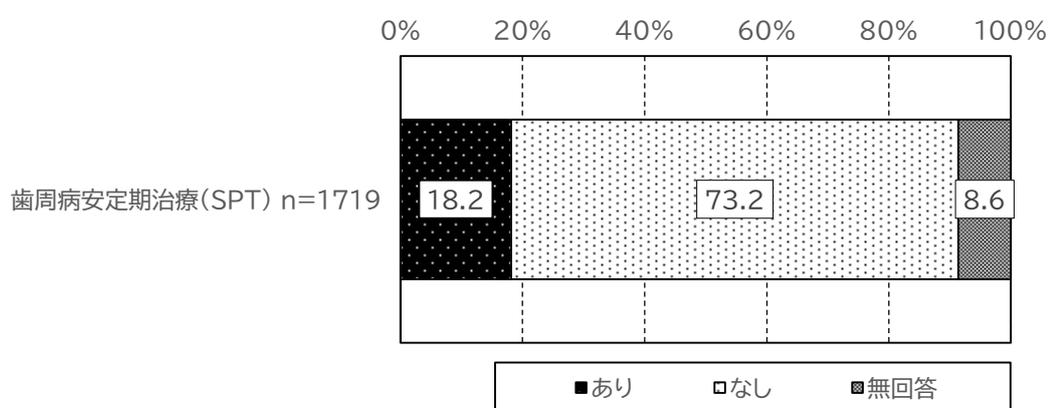
① SPT の初回の算定月の前後で、歯周病により抜歯したことの有無、抜歯の時期とその本数

SPT の初回の算定月の前後で歯周病により抜歯したことがあるかを尋ねたところ、「あり」が 18.2%、「なし」が 73.2%であった。

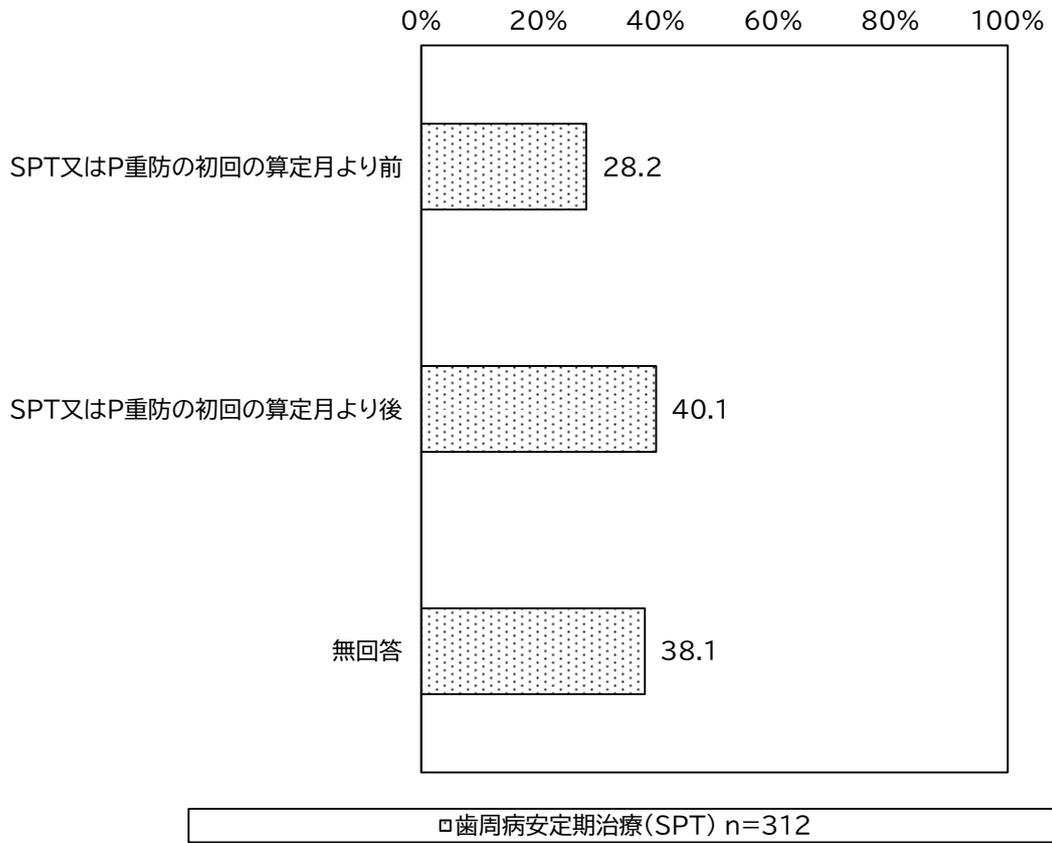
SPT の初回の算定月の前後で抜歯したことがある場合の抜歯の時期は「SPT の初回の算定月より後」が 40.1%であった。

「SPT の初回の算定月の前の抜歯の本数」が平均 1.7 本、「SPT の初回の算定月の後の抜歯の本数」が平均 1.5 本であった。

図表 2-84 SPT の初回の算定月の前後で、歯周病により抜歯したことの有無



図表 2-85 SPTの初回の算定月の前後で抜歯したことがある場合の時期

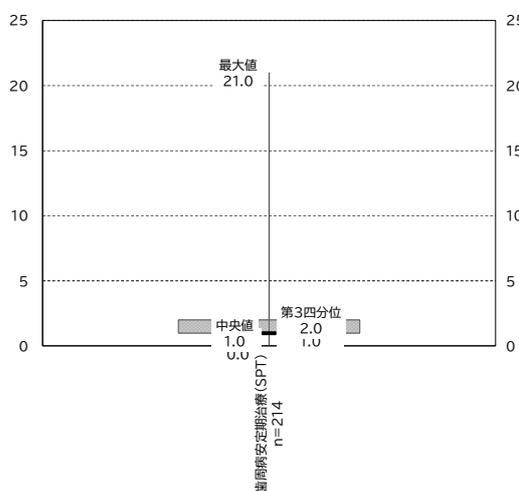


図表 2-86 SPT の初回の算定月の前後で、歯周病により抜歯した本数

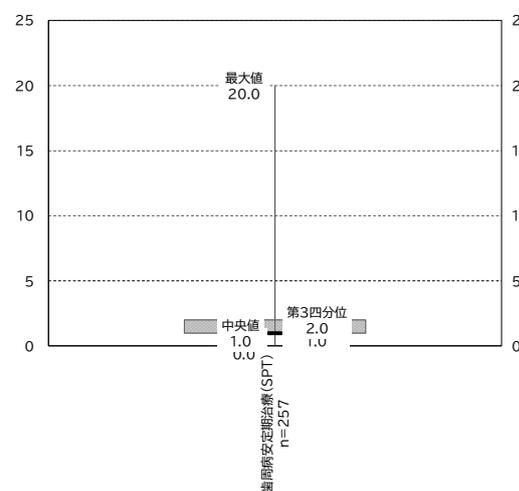
(単位：本)

	回答 施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準 偏差
SPT の初回の算定月の前の 抜歯の本数	214	21.0	0.0	1.0	1.7	2.2
SPT の初回の算定月の後の 抜歯の本数	257	20.0	0.0	1.0	1.5	1.9

SPT の初回の算定月の前の抜歯の本数



SPT の初回の算定月の後の抜歯の本数



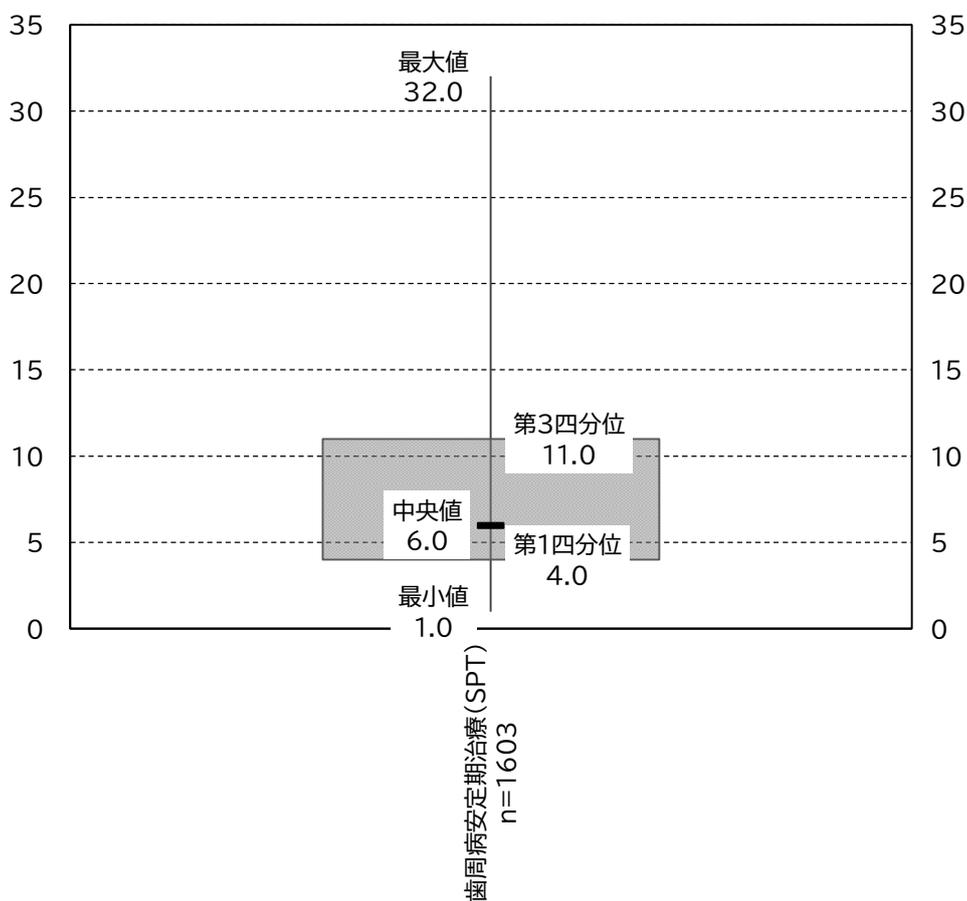
⑫ SPT の初回の算定月時点の 4mm 以上の歯周ポケットを有する歯の本数

SPT の初回の算定月時点の 4mm 以上の歯周ポケットを有する歯の本数は平均で 8.0 本であった。

図表 2-87 SPT の初回の算定月時点の 4mm 以上の歯周ポケットを有する歯の本数

(単位：本)

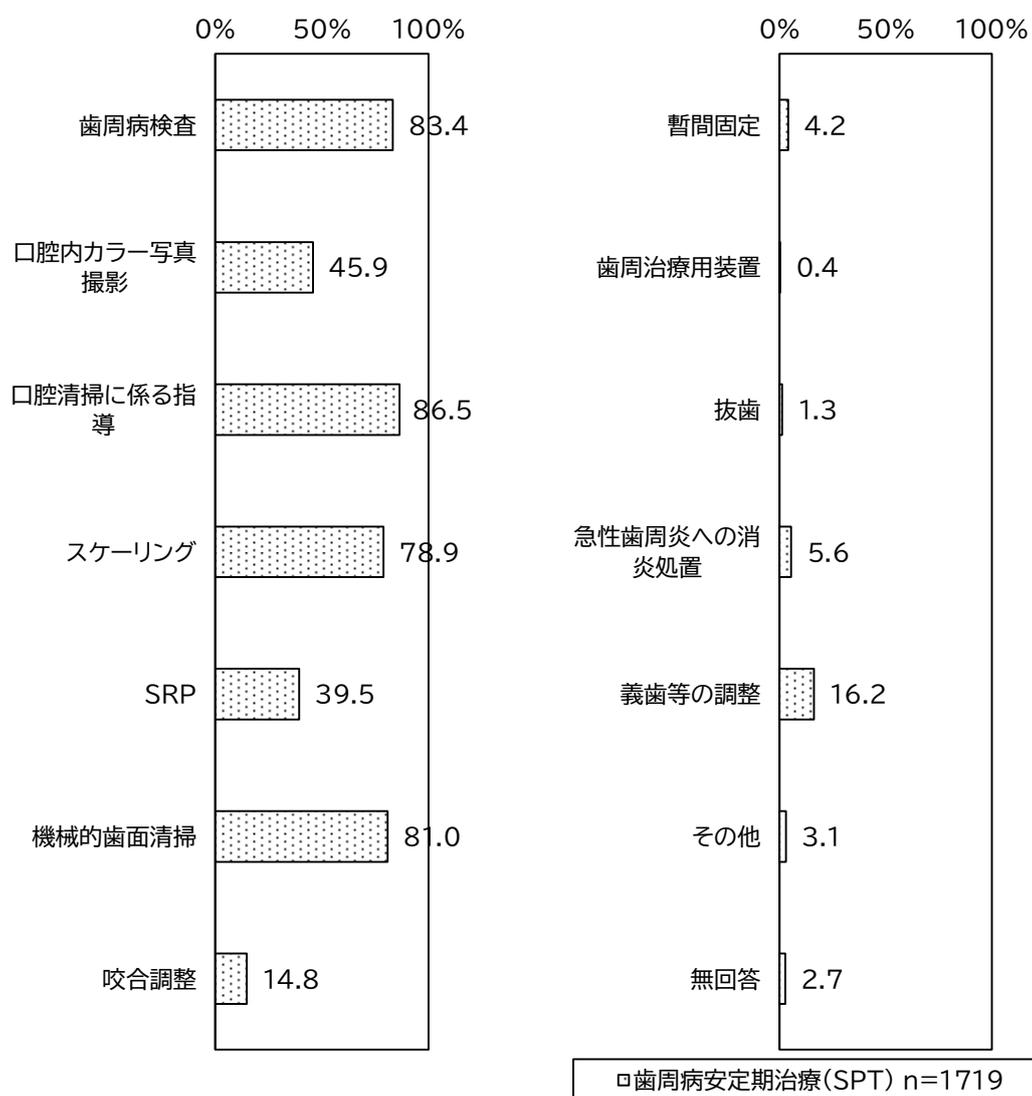
	回答施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準偏差
SPT の初回の算定月時点の 4mm 以上の歯周ポケットを有する歯の本数	1603	32.0	1.0	6.0	8.0	6.1



⑬ SPT の算定項目の算定日に行った、診療内容

SPT の算定項目の算定日に行った診療内容は「口腔清掃に係る指導」が 86.5%であった。

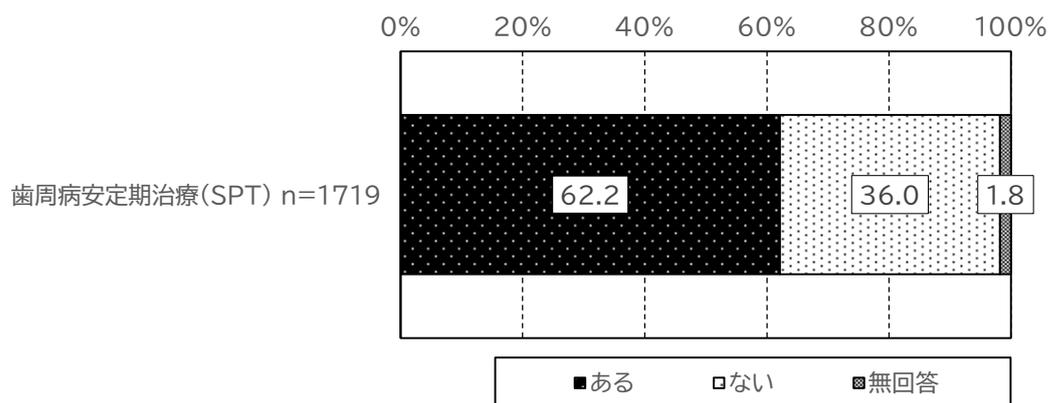
図表 2-88 SPT の算定項目の算定日に行った診療内容（複数回答）



⑭ 当該患者が SPT を開始して以降、前回の算定から 3 月以内の SPT を算定したことの有無

当該患者が算定している項目として「SPT」を選んだ場合、この患者に対して SPT を開始して以降、前回の算定から 3 月以内に SPT を算定したことがあるか尋ねたところ、「ある」が 62.2% 「ない」が 36.0%であった。

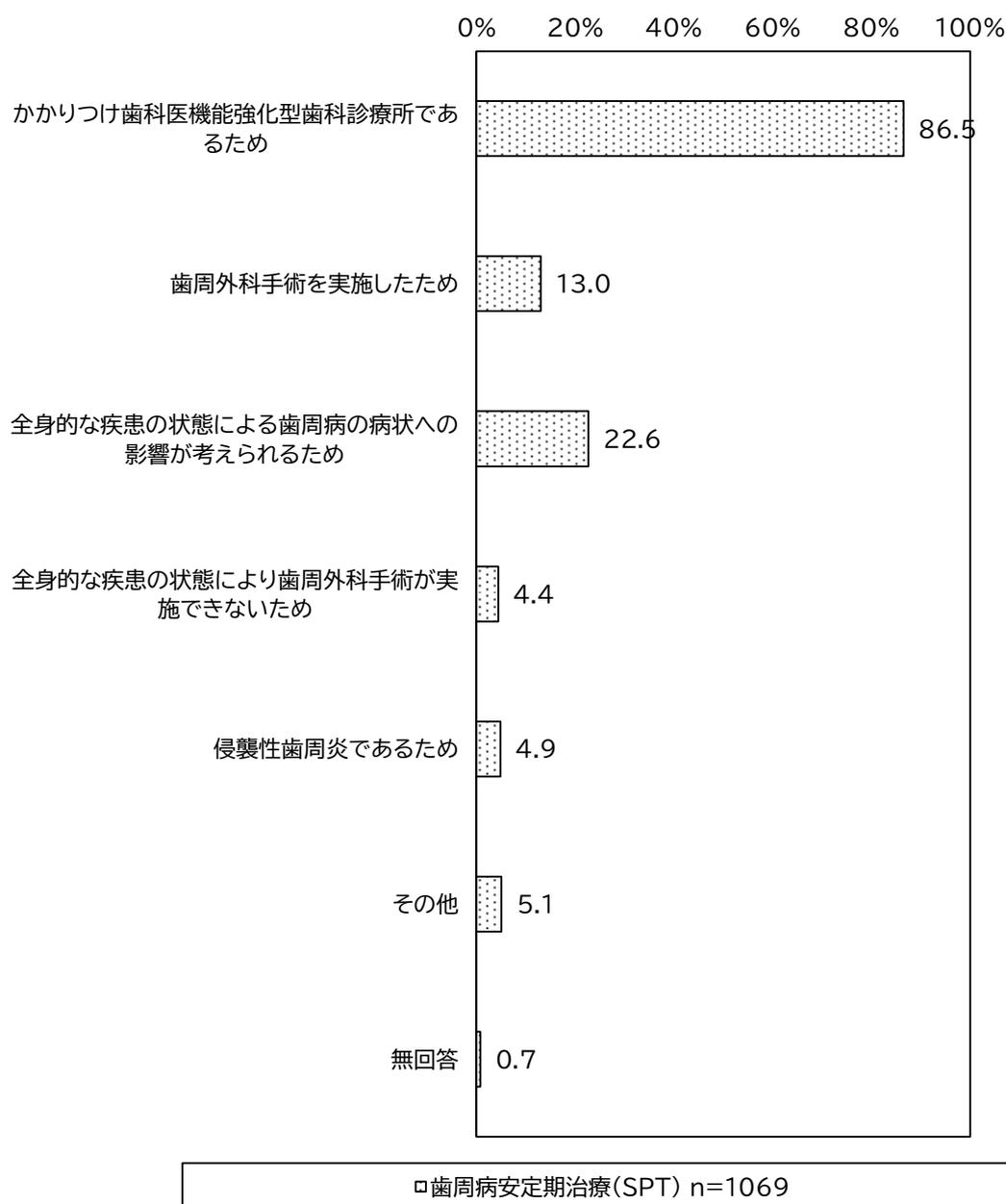
図表 2-89 当該患者が SPT を開始して以降、前回の算定から 3 月以内の SPT を算定したことの有無



- ⑮ 当該患者が SPT を開始して以降、前回の算定から 3 月以内の SPT を算定したことがある場合、その理由

当該患者が SPT を開始して以降、前回の算定から 3 月以内の SPT を算定したことがある場合、その理由を尋ねたところ、「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所であるため」が 86.5%であった。

図表 2-90 当該患者が SPT を開始して以降、前回の算定から 3 月以内の SPT を算定したことがある場合の理由（複数回答）

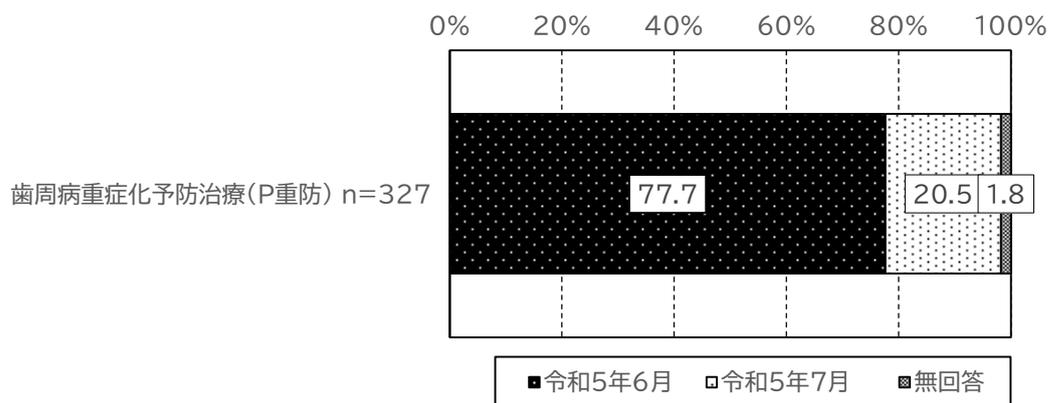


(1)-2 「歯周病重症化予防治療（P重防）」を算定した患者

① 「歯周病重症化予防治療（P重防）」に関する算定項目の直近の算定月

① 「歯周病重症化予防治療（P重防）」に関する算定項目の直近の算定月は「令和5年6月」が77.7%、「令和5年7月」が20.5%であった。

図表 2-91 「歯周病重症化予防治療（P重防）」に関する算定項目の直近の算定月



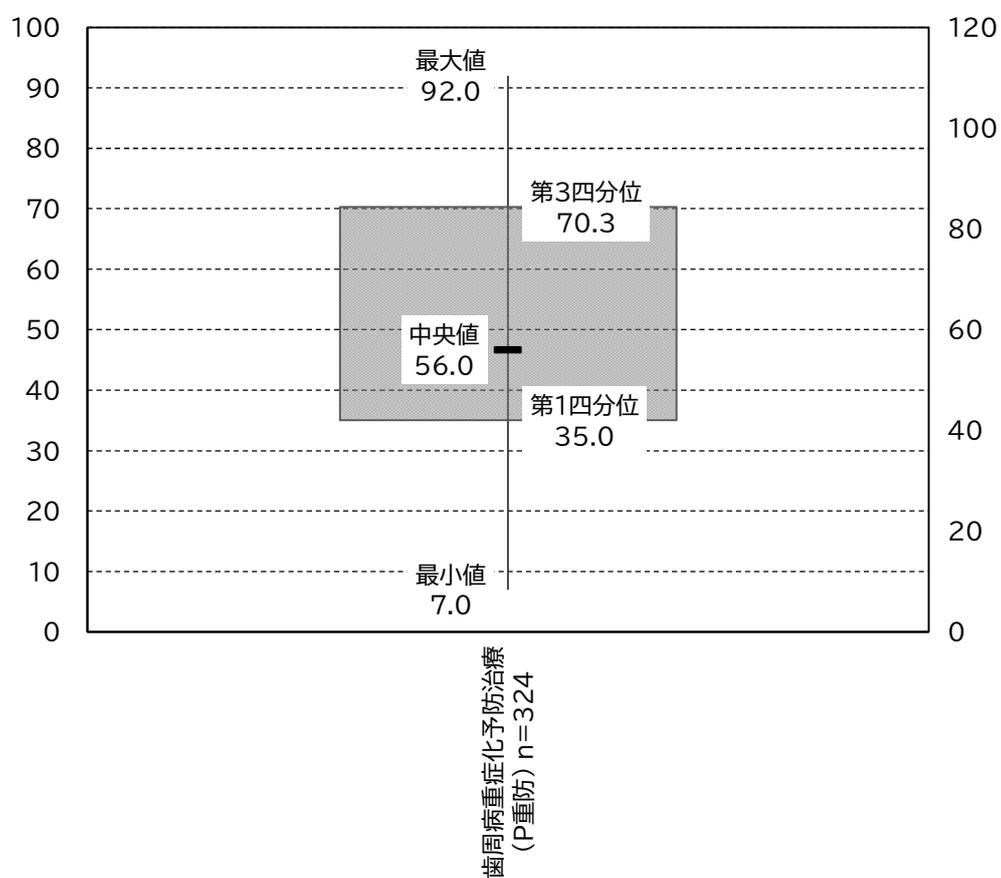
② 患者の年齢

患者の年齢は平均 52.2 歳であった。

図表 2-92 患者の年齢

(単位：歳)

	回答 施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準 偏差
患者の年齢	324	92.0	7.0	56.0	52.2	21.3

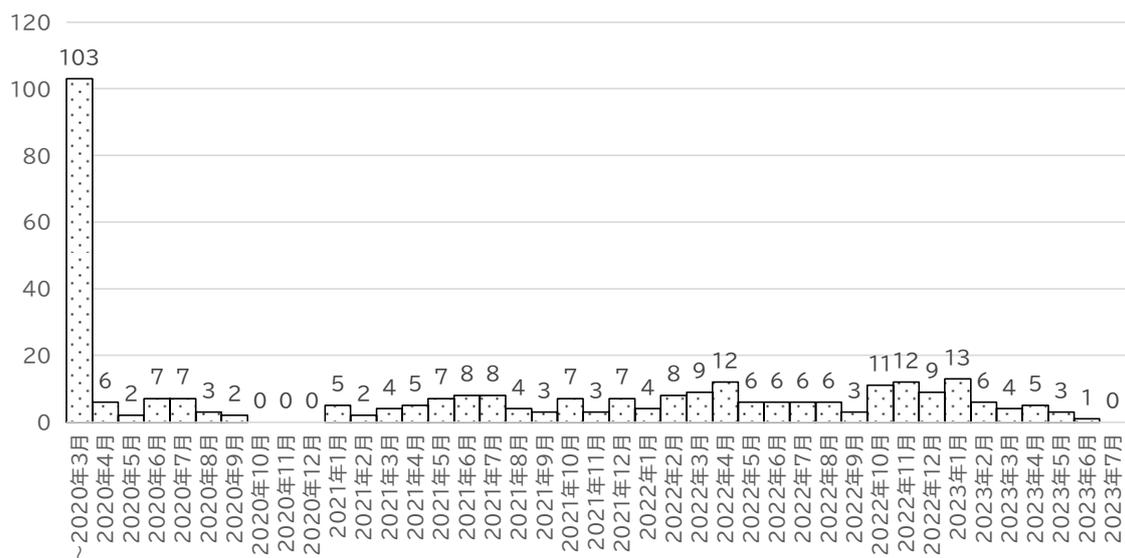


③ 患者の初診月

患者の初診月は2020年3月以前が103人、2023年1月が13人であった。

図表 2-93 患者の初診月

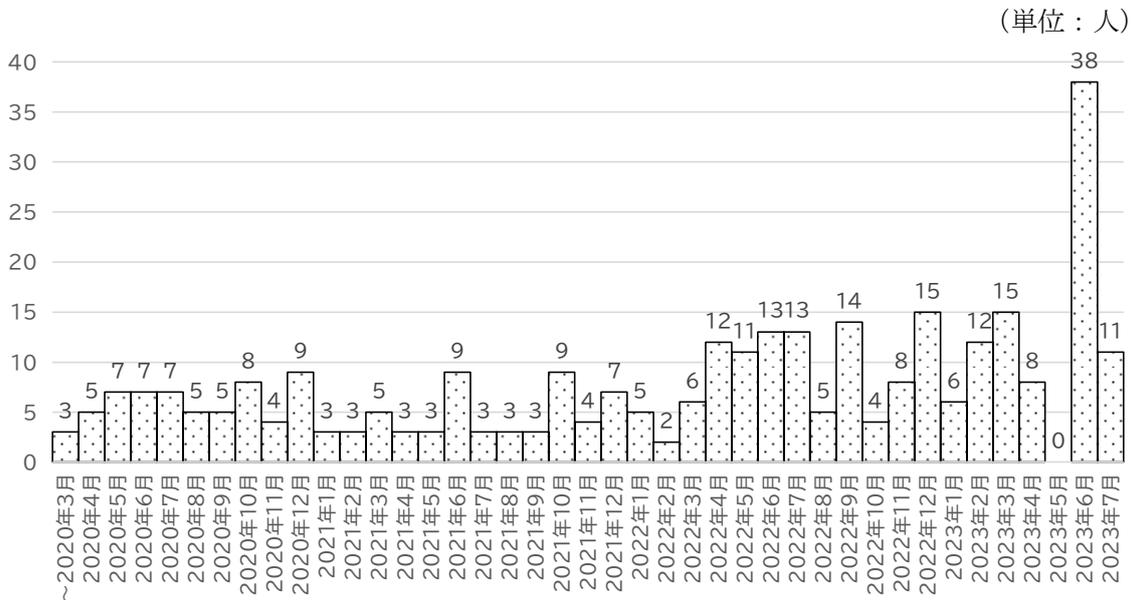
(単位：人)



④ P 重防の初回の算定月

SPT 又は P 重防の初回の算定月は 2023 年 6 月が 38 人であった。

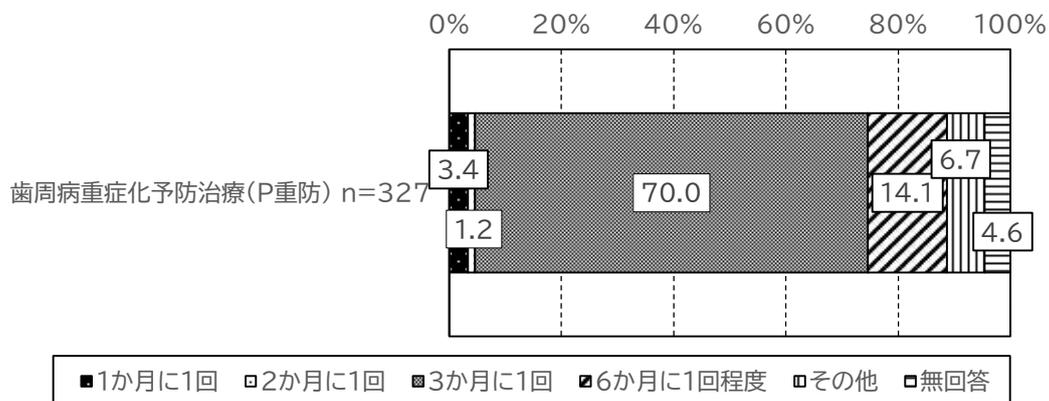
図表 2-94 P 重防の初回の算定月



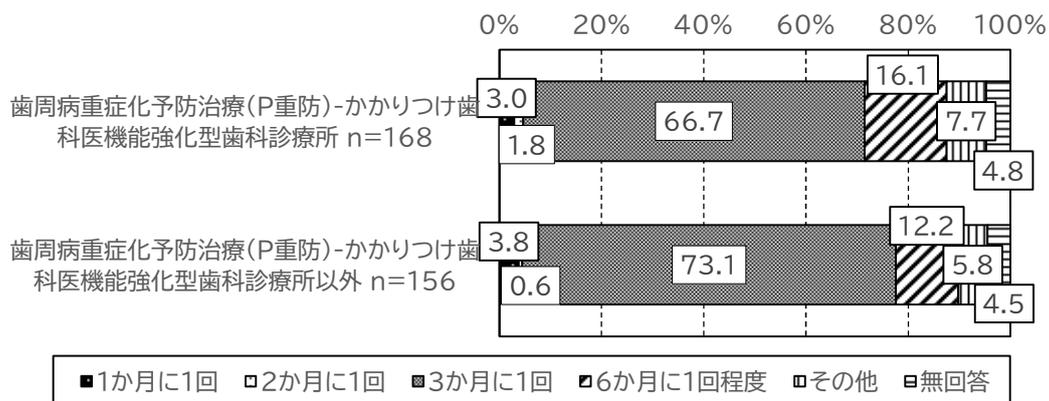
⑤ 直近の半年間のP重防の実施頻度

直近の半年間のP重防の実施頻度は「3か月に1回」が70.0%であった。

図表 2-95 直近の半年間のP重防の実施頻度



図表 2-96 直近の半年間のP重防の実施頻度（か強診・か強診以外）



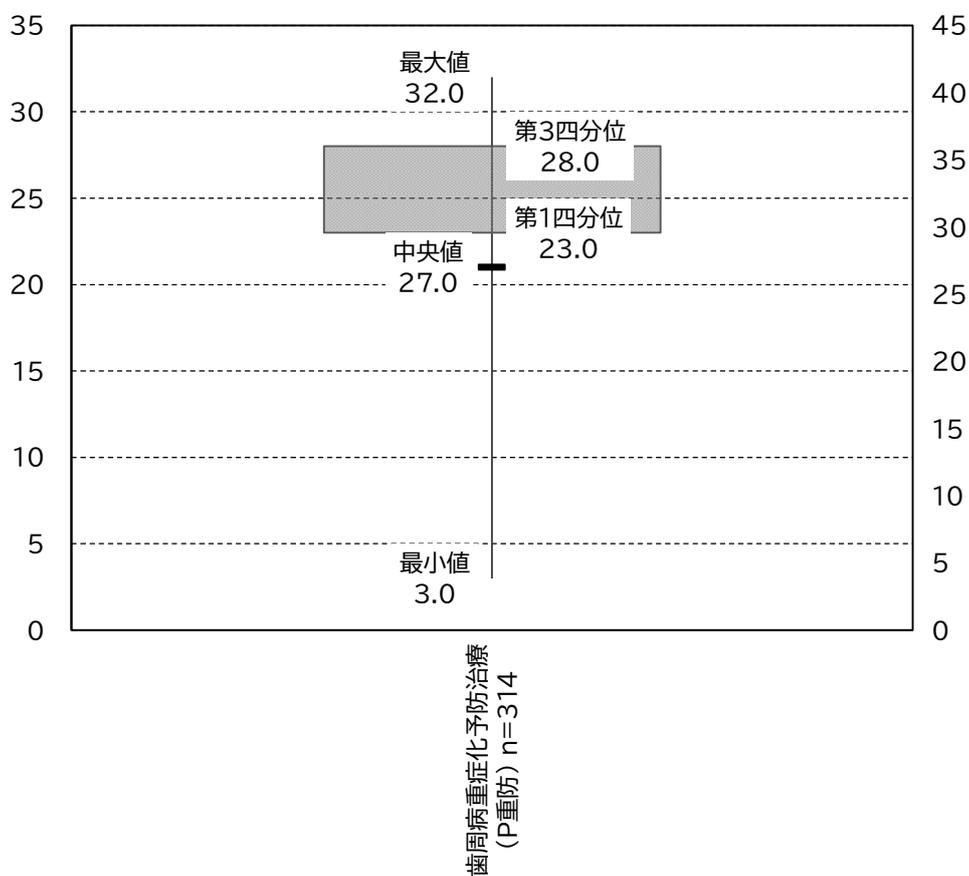
⑥ P重防の初回の算定月時点の歯の本数

P重防の初回の算定月時点の歯の本数は平均で24.8本であった。

図表 2-97 P重防の初回の算定月時点の歯の本数

(単位：本)

	回答 施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準 偏差
5)で回答したP重防の初回の算定月時点の歯の本数	314	32.0	3.0	27.0	24.8	5.4



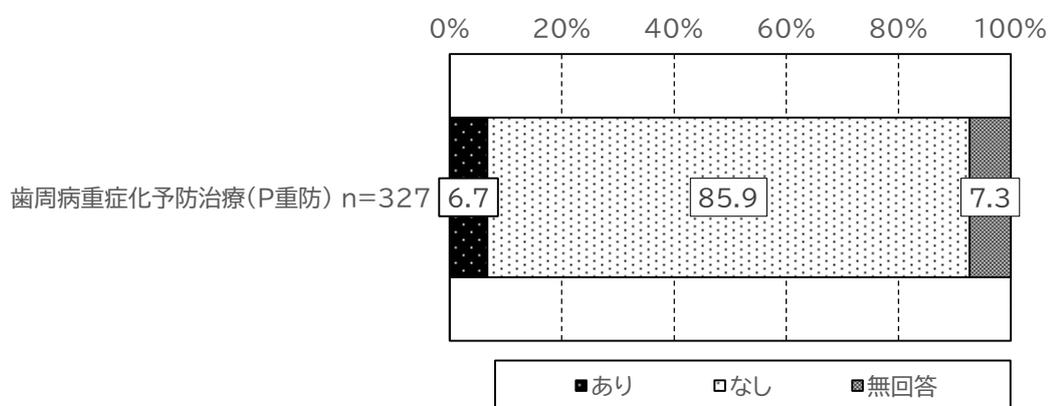
⑦ P重防の初回の算定月の前後で、歯周病により抜歯したことの有無、抜歯の時期とその本数

P重防の初回の算定月の前後で歯周病により抜歯したことがあるかを尋ねたところ、「あり」が6.7%、「なし」が85.9%であった。

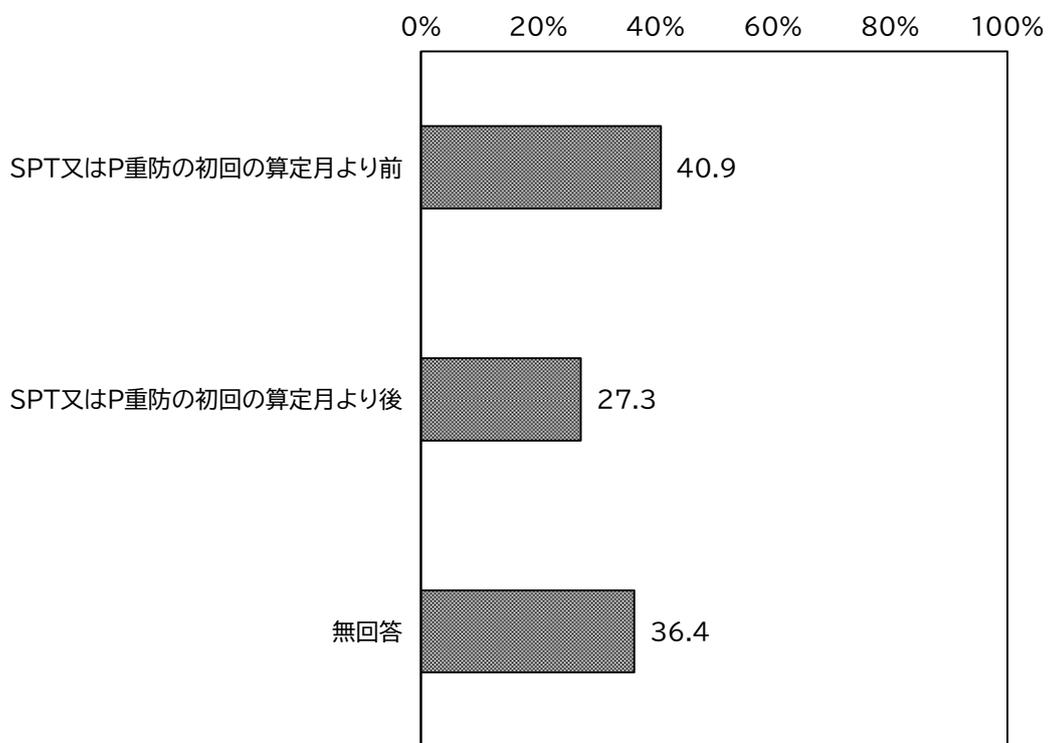
P重防の初回の算定月の前後で抜歯したことがある場合の抜歯の時期は「P重防の初回の算定月より後」が27.3%であった。

「P重防の初回の算定月の前の抜歯の本数」が平均1.8本、「P重防の初回の算定月の後の抜歯の本数」が平均1.1本であった。

図表 2-98 P重防の初回の算定月の前後で、歯周病により抜歯したことの有無



図表 2-99 P重防の初回の算定月の前後で抜歯したことがある場合の時期



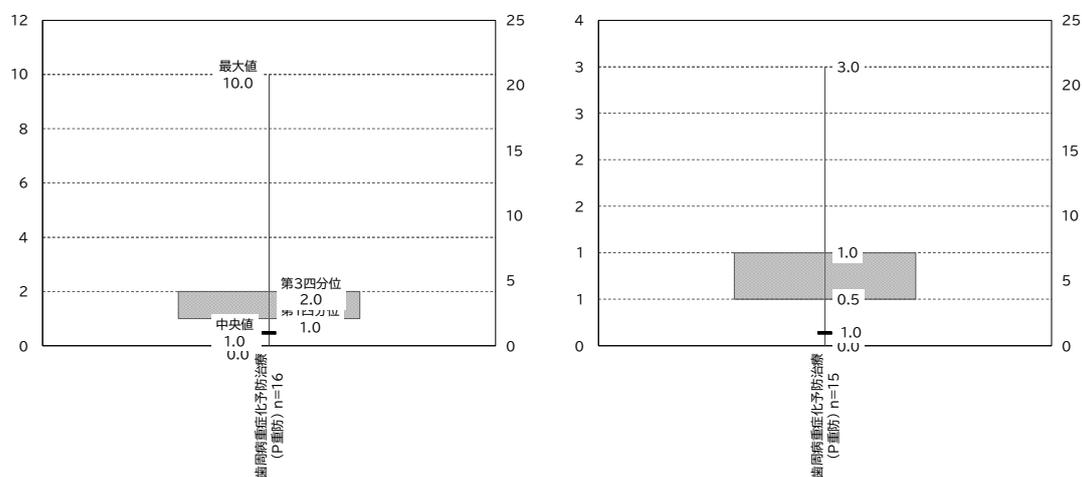
■ 歯周病重症化予防治療(P重防) n=22

図表 2-100 P重防の初回の算定月の前後で、歯周病により抜歯した本数

(単位：本)

	回答施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準偏差
P重防の初回の算定月の前の抜歯の本数	16	10.0	0.0	1.0	1.8	2.4
P重防の初回の算定月の後の抜歯の本数	15	3.0	0.0	1.0	1.1	1.0

P重防の初回の算定月の前の抜歯の本数 P重防の初回の算定月の後の抜歯の本数



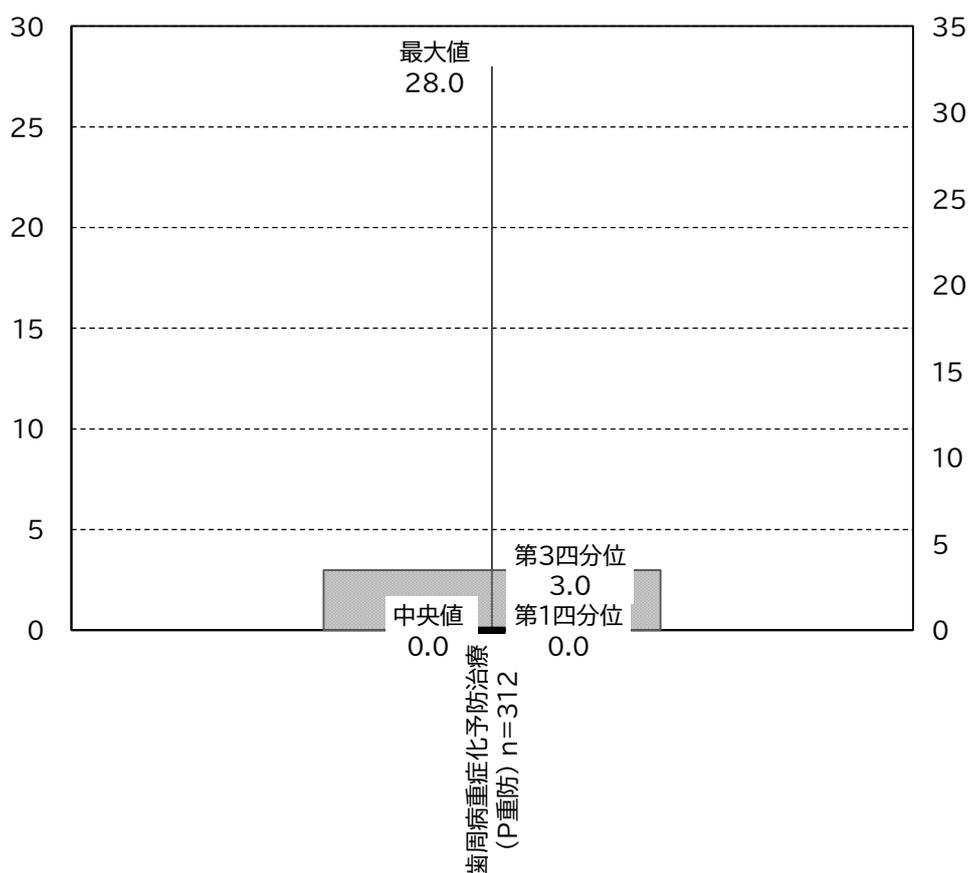
⑧ P重防の初回の算定月時点の4mm以上の歯周ポケットを有する歯の本数

P重防の初回の算定月時点の4mm以上の歯周ポケットを有する歯の本数は平均で2.5本であった。

図表 2-101 P重防の初回の算定月時点の4mm以上の歯周ポケットを有する歯の本数

(単位：本)

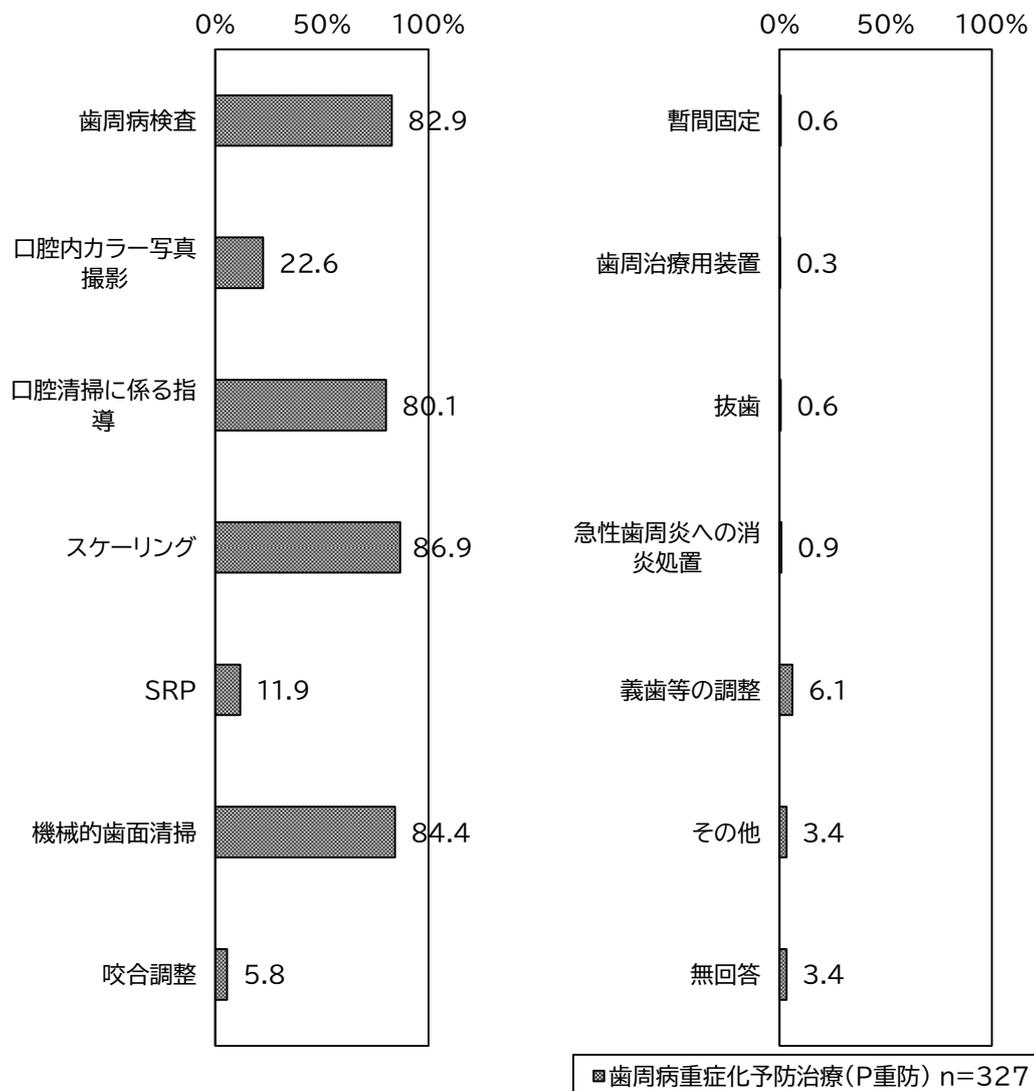
	回答施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準偏差
5)で回答したP重防の初回の算定月時点の4mm以上の歯周ポケットを有する歯の本数	312	28.0	0.0	0.0	2.5	4.7



⑨ P重防の算定項目の算定日に行った、診療内容

P重防の算定項目の算定日に行った診療内容は「スケーリング」が86.9%であった。

図表 2-102 SPT 又はP重防の算定項目の算定日に行った診療内容（複数回答）



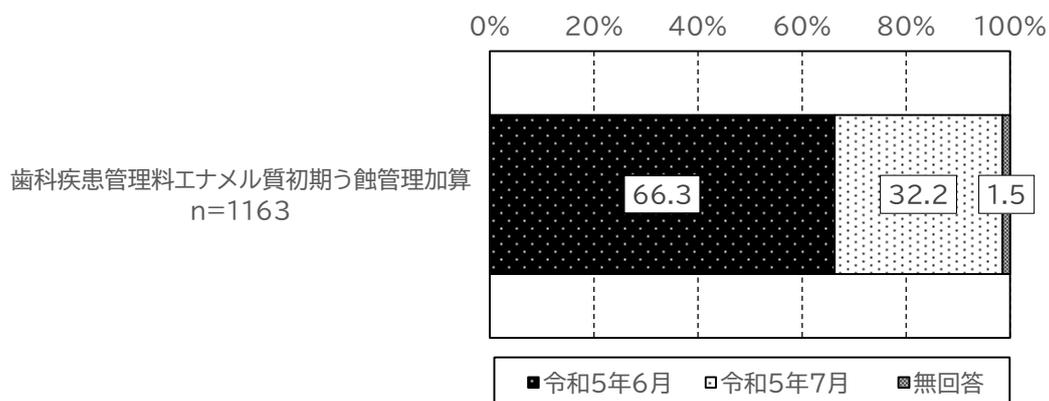
- (9) 「歯科疾患管理料」を算定し、「エナメル質初期う蝕管理加算」または「フッ化物歯面塗布処置 エナメル質初期う蝕に罹患している患者の場合」を算定した患者について（令和5年6月1日～7月31日）

○施設調査における患者調査
調査対象：歯科疾患管理料を算定した患者のうち、「エナメル質初期う蝕管理加算」または「フッ化物歯面塗布処置 エナメル質初期う蝕に罹患している患者の場合」を算定した患者最大2名
回答数：エナメル質初期う蝕管理加算を算定した患者 1163人 フッ化物歯面塗布処置 エナメル質初期う蝕に罹患している患者の場合を算定した患者 229人

(2)-1「エナメル質初期う蝕管理加算」を算定した患者

⑩ エナメル質初期う蝕の指導管理に際し、算定している項目の直近の算定月直近の算定月については、「令和5年6月」が66.3%、「令和5年7月」が32.2%であった。

図表 2-103 エナメル質初期う蝕の指導管理に際し、算定している項目の直近の算定月



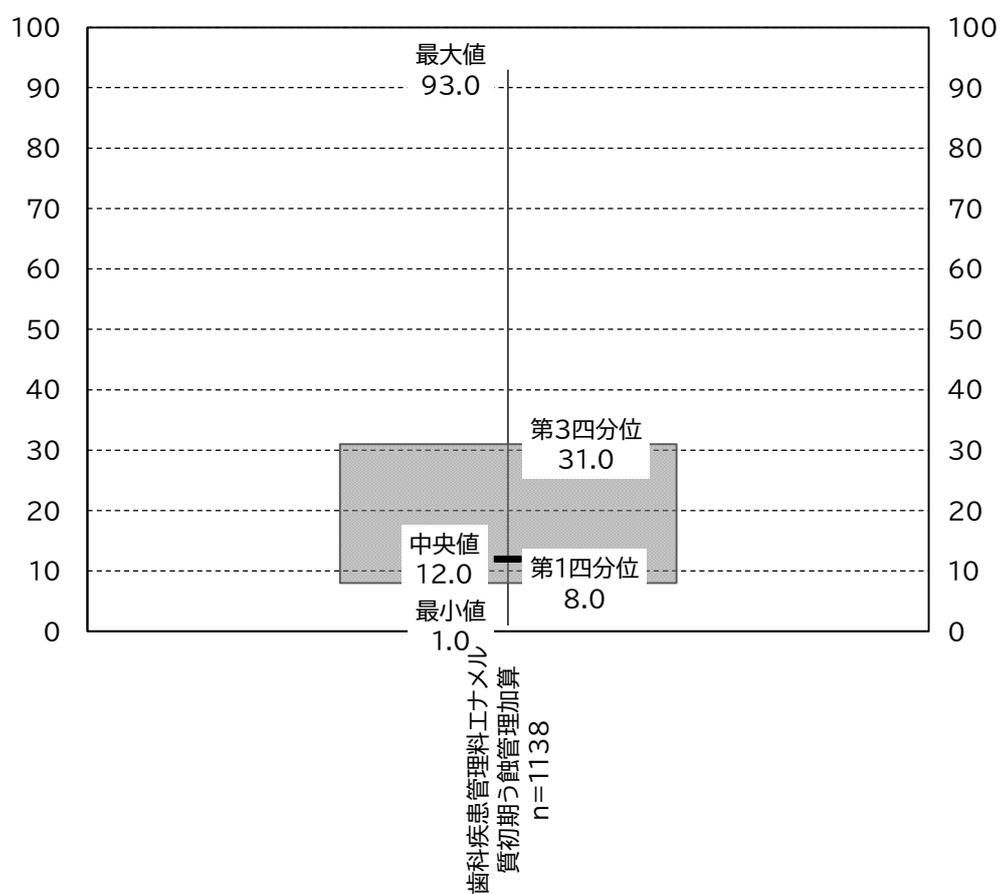
① 患者の年齢

患者の年齢については平均 22.7 歳であった。

図表 2-104 患者の年齢

(単位：歳)

	回答 施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準 偏差
患者の年齢	1138	93.0	1.0	12.0	22.7	22.9

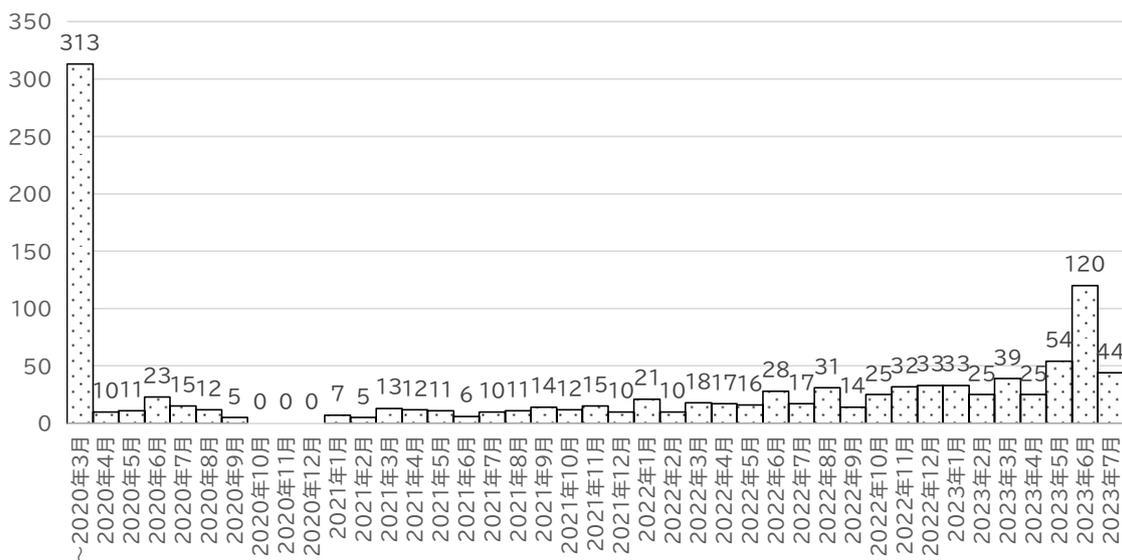


⑫ 患者の初診月

患者の初診月については2020年3月以前が313人、2023年6月が120人であった。

図表 2-105 患者の初診月

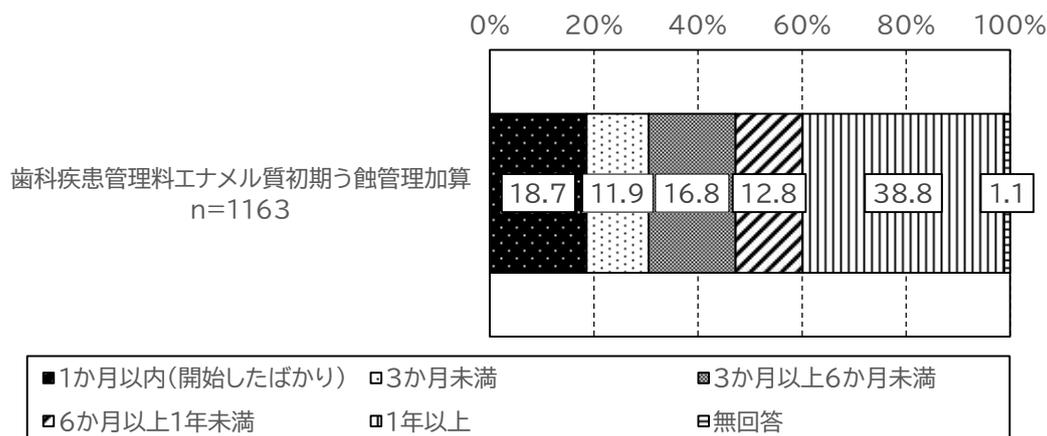
(単位：人)



⑬ 初診から現在までのエナメル質初期う蝕の指導管理の継続状況

初診から現在までのエナメル質初期う蝕の指導管理の継続状況は、「1年以上」が38.8%であった。

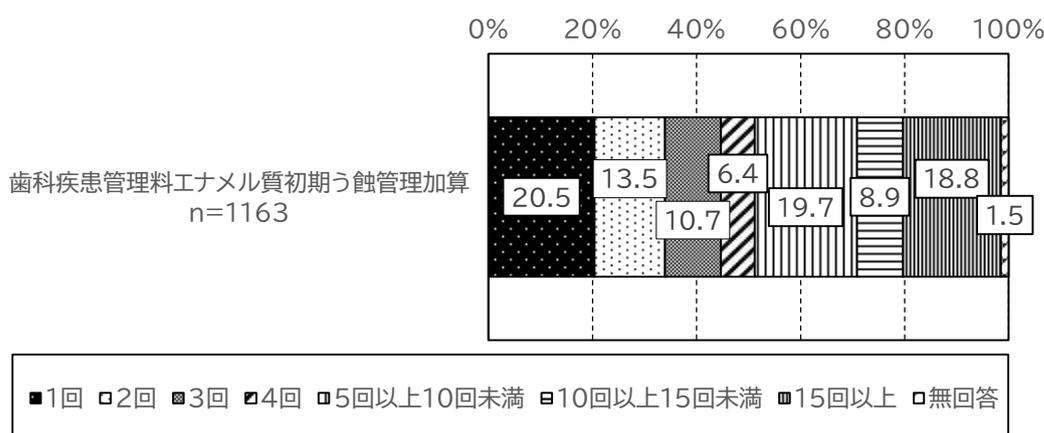
図表 2-106 初診から現在まで、どのくらいの期間継続してエナメル質初期う蝕の指導管理を行っているか



⑭ 初診から現在までのエナメル質初期う蝕の指導管理の実施回数

初診から現在までのエナメル質初期う蝕の指導管理の実施回数は、「1回」が20.5%であった。

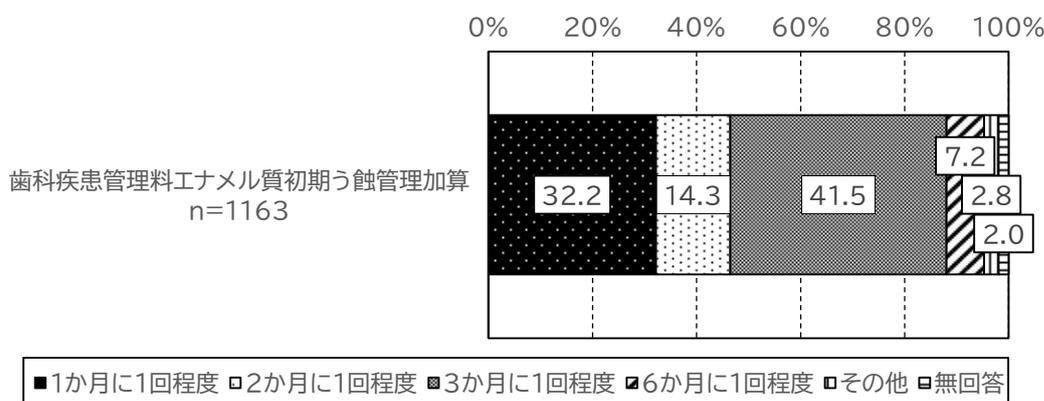
図表 2-107 初診から現在までのエナメル質初期う蝕の指導管理の実施回数



⑮ エナメル質初期う蝕の指導管理に係る治療の実施頻度

エナメル質初期う蝕の指導管理に係る治療の実施頻度は「3か月に1回程度」が41.5%であった。

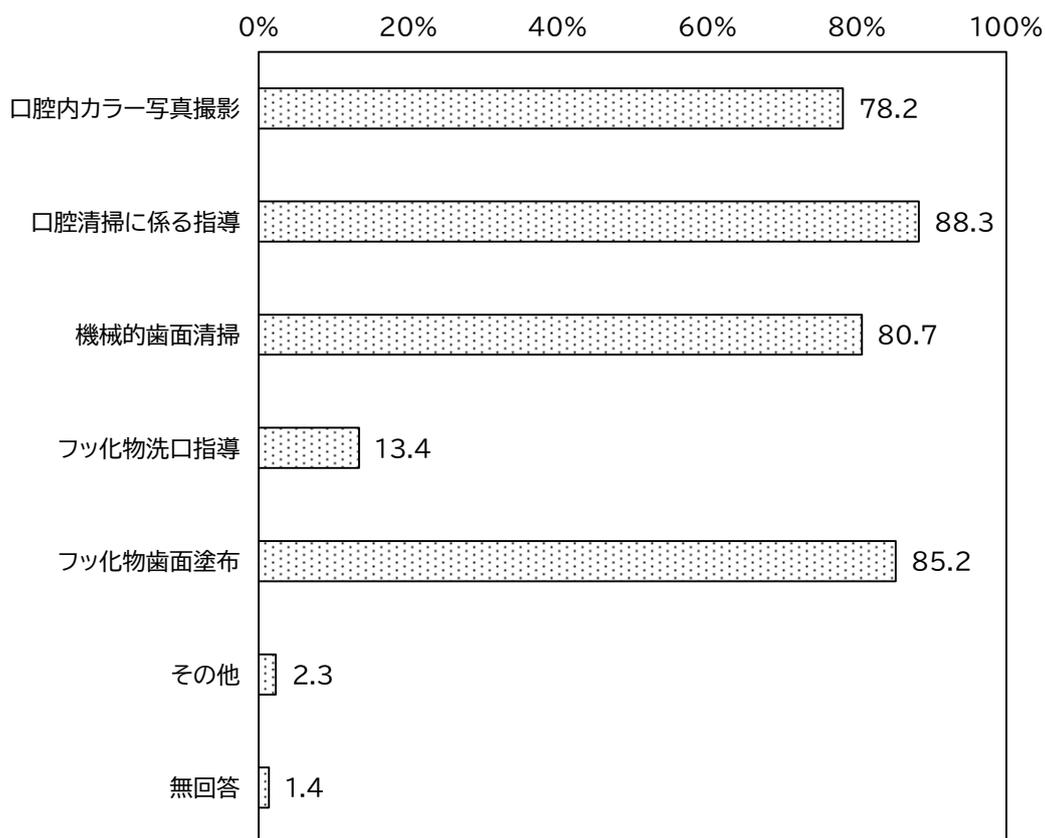
図表 2-108 エナメル質初期う蝕の指導管理に係る治療の実施頻度



⑯ エナメル質初期う蝕の指導管理に際する項目の算定日に行った、う蝕の指導管理に係る診療内容

エナメル質初期う蝕の指導管理に際する項目の算定日に行った、う蝕の指導管理に係る診療内容は「口腔清掃に係る指導」が88.3%であった。

図表 2-109 エナメル質初期う蝕の指導管理に際する項目の算定日に行った、う蝕の指導管理に係る診療内容（複数回答）

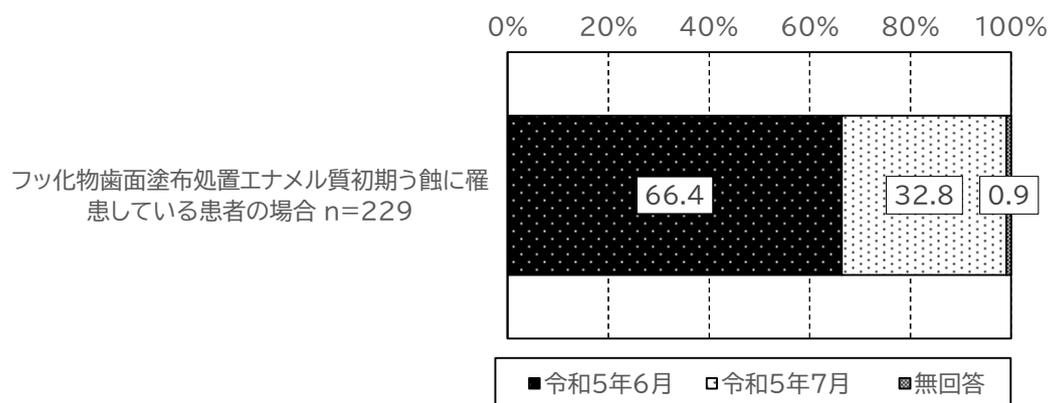


□ 歯科疾患管理料エナメル質初期う蝕管理加算 n=1163

(2)-1「フッ化物歯面塗布処置 エナメル質初期う蝕に罹患している患者の場合」を算定した患者

⑰ エナメル質初期う蝕の指導管理に際し、算定している項目の直近の算定月
直近の算定月については、「令和5年6月」が66.4%、「令和5年7月」が32.8%であった。

図表 2-110 エナメル質初期う蝕の指導管理に際し、算定している項目の直近の算定月



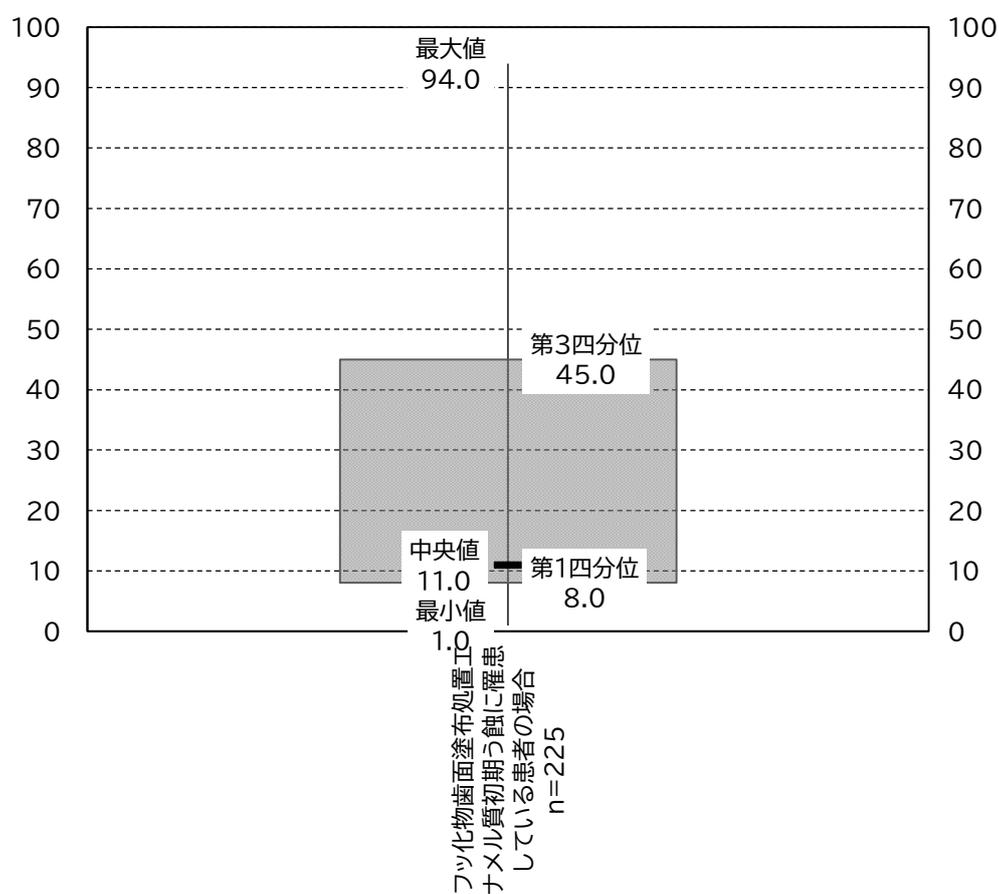
⑱ 患者の年齢

患者の年齢については平均 26.2 歳であった。

図表 2-111 患者の年齢

(単位：歳)

	回答 施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準 偏差
患者の年齢	225	94	1	11.0	26.2	28.4

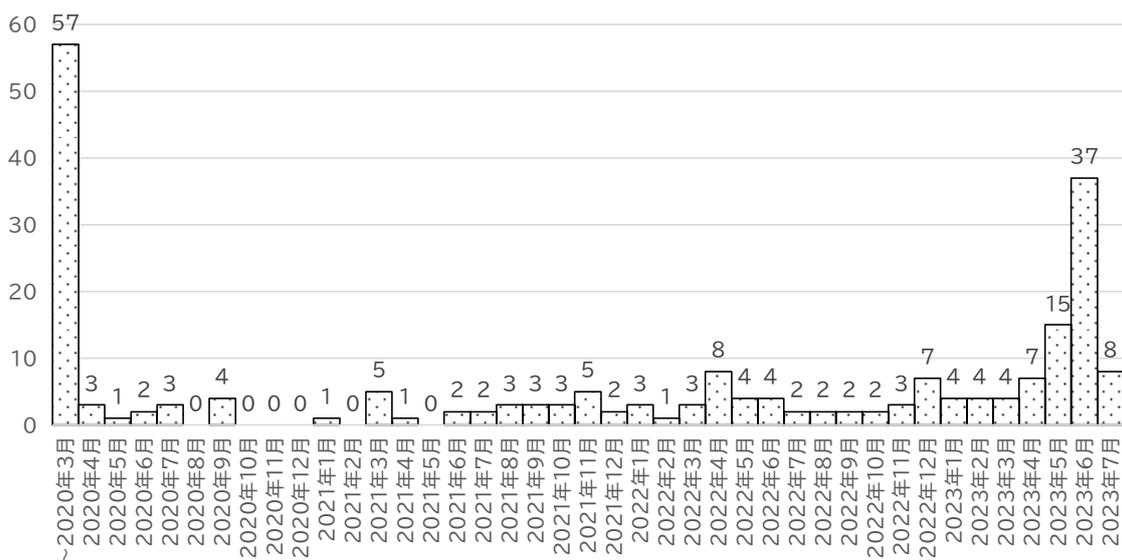


⑱ 患者の初診月

患者の初診月については2020年3月以前が57人、2023年6月が37人であった

図表 2-112 患者の初診月

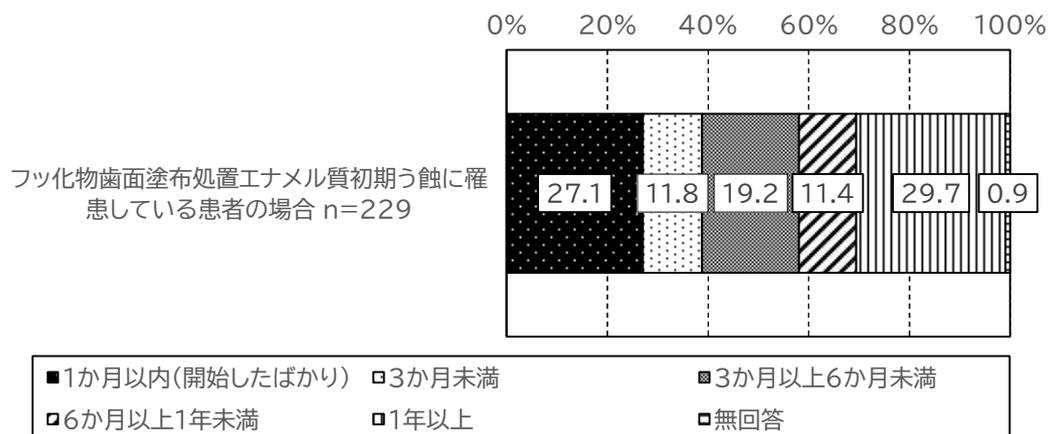
(単位：人)



⑳ 初診から現在までのエナメル質初期う蝕の指導管理の継続状況

初診から現在までのエナメル質初期う蝕の指導管理の継続状況は、「1年以上」が29.7%であった。

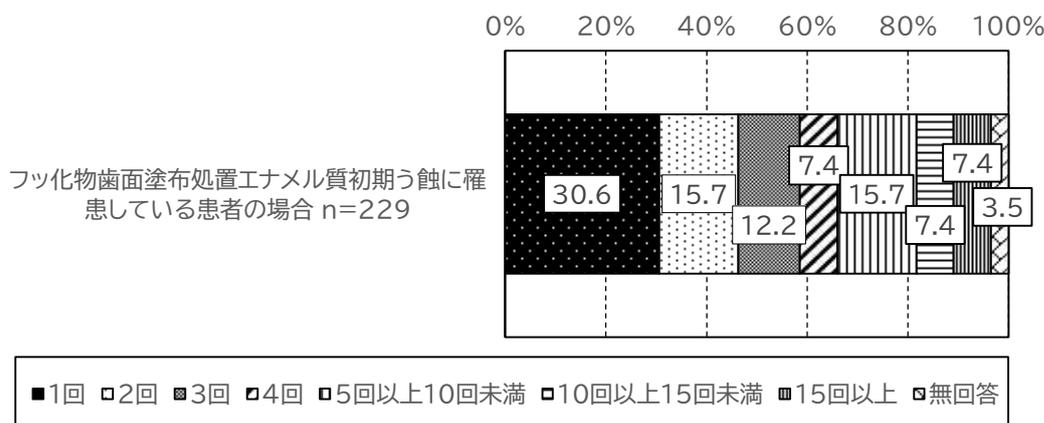
図表 2-113 初診から現在まで、どのくらいの期間継続してエナメル質初期う蝕の指導管理を行っているか



21 初診から現在までのエナメル質初期う蝕の指導管理の実施回数

初診から現在までのエナメル質初期う蝕の指導管理の実施回数は、「1回」が30.6%であった。

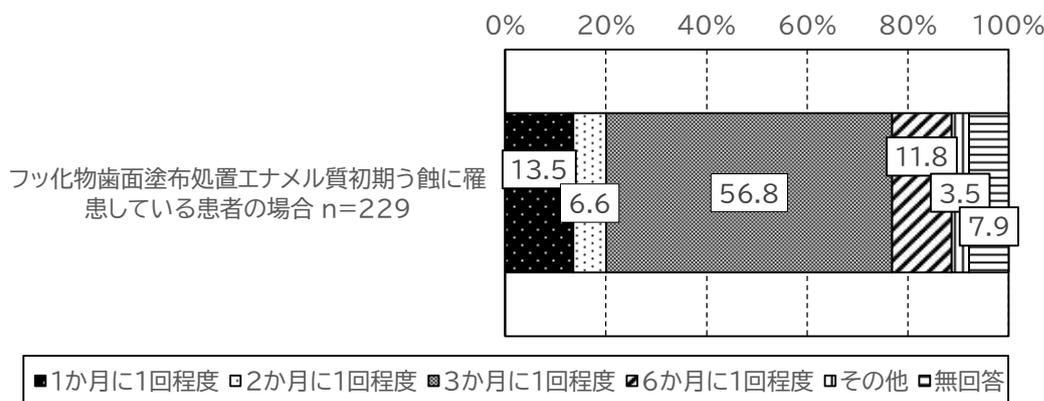
図表 2-114 初診から現在までのエナメル質初期う蝕の指導管理の実施回数



22 エナメル質初期う蝕の指導管理に係る治療の実施頻度

エナメル質初期う蝕の指導管理に係る治療の実施頻度は「3か月に1回程度」が56.8%であった。

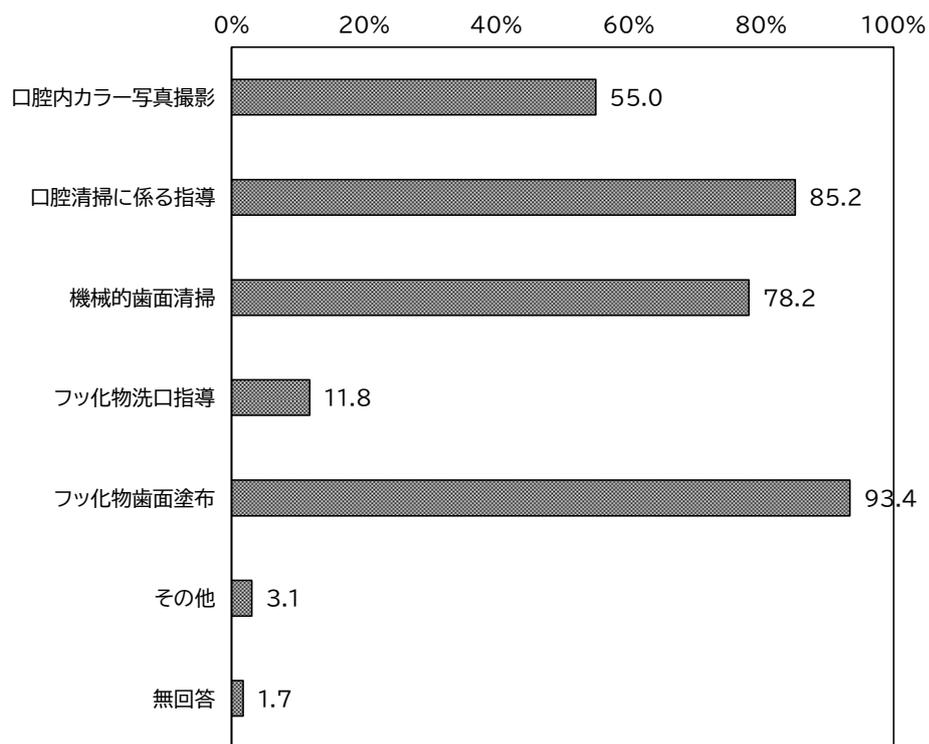
図表 2-115 エナメル質初期う蝕の指導管理に係る治療の実施頻度



23 エナメル質初期う蝕の指導管理に際する項目の算定日に行った、う蝕の指導管理に係る診療内容

エナメル質初期う蝕の指導管理に際する項目の算定日に行った、う蝕の指導管理に係る診療内容は「フッ化物歯面塗布」が93.4%であった。

図表 2-116 エナメル質初期う蝕の指導管理に際する項目の算定日に行った、う蝕の指導管理に係る診療内容（複数回答）



■フッ化物歯面塗布処置エナメル質初期う蝕に罹患している患者の場合 n=229

(10) 小児口腔機能管理料の算定回数（令和5年6月の1か月間）

① 小児口腔機能管理料の算定回数

小児口腔機能管理料の算定回数は15歳未満の患者が平均で5.1回、15歳以上18歳未満の患者が平均で0.4回であった。

図表 2-117 小児口腔機能管理料の算定回数

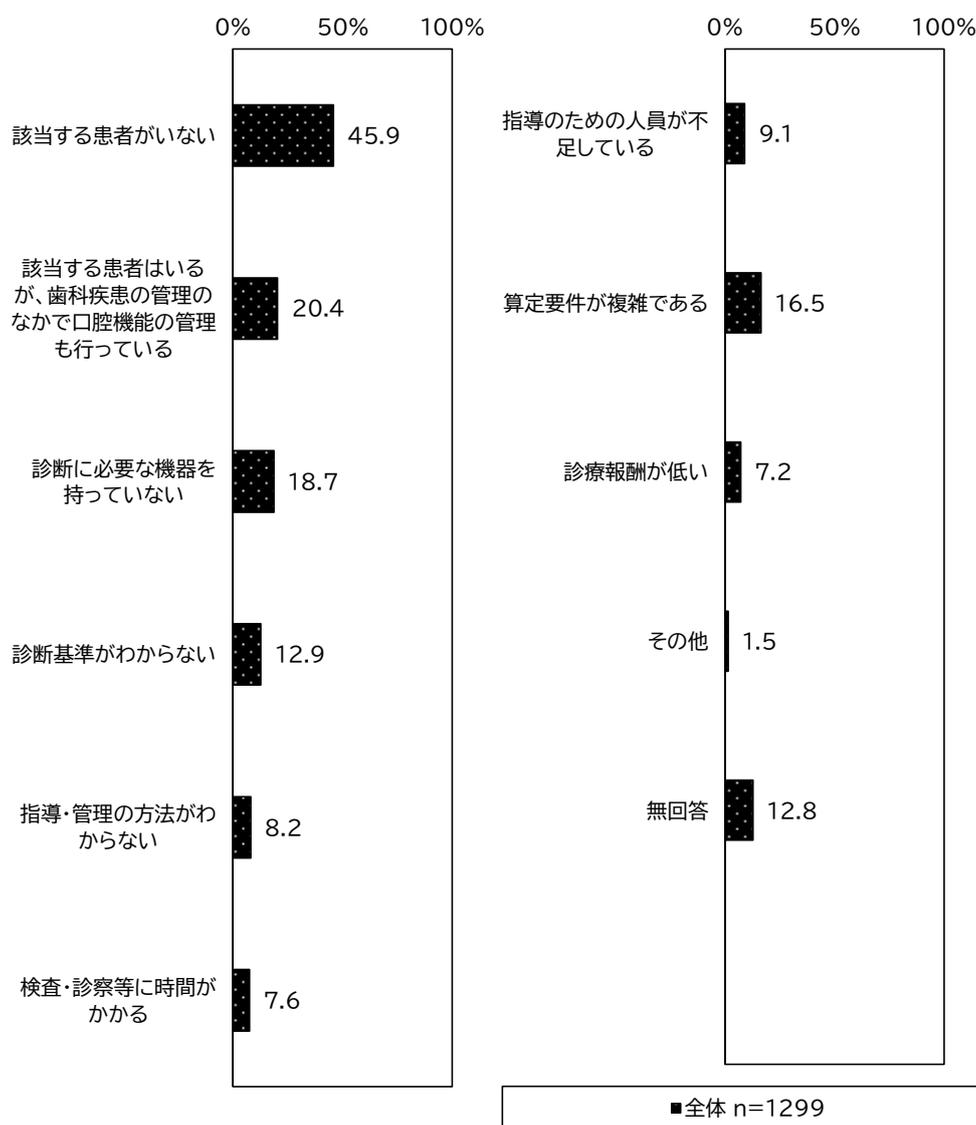
(単位：回)

	回答 施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準 偏差
1)-1 15歳未満の患者	1514	887.0	0.0	0.0	5.1	37.6
1)-2 15歳以上18歳未満 の患者	1490	213.0	0.0	0.0	0.4	6.3

② 小児口腔機能管理料の算定回数が0回の場合に算定していない理由

小児口腔機能管理料の算定回数が0回の場合に算定していない理由を尋ねたところ、「該当する患者がない」が45.9%であった。

図表 2-118 小児口腔機能管理料の算定回数が0回の場合算定していない理由（複数回答）



(11) 口腔機能管理料の算定回数（令和5年6月の1か月間）

① 口腔機能管理料の算定回数

口腔機能管理料の算定回数は50歳以上65歳未満の患者が平均で1.5回であった。65歳以上の患者は3.5回であった。

図表 2-119 口腔機能管理料の算定回数

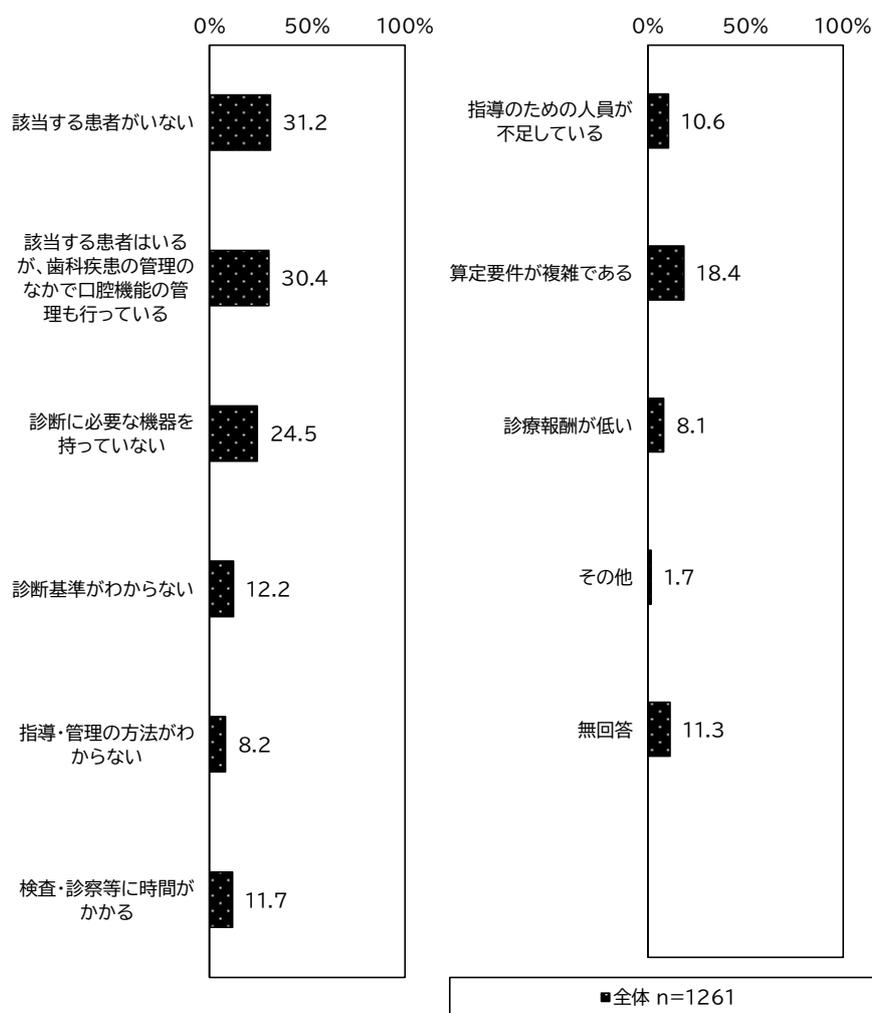
(単位：回)

	回答 施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準 偏差
1)-1 50歳以上65歳未満 の患者	1443	760.0	0.0	0.0	1.5	22.8
1)-2 65歳以上の患者	1442	241.0	0.0	0.0	3.5	18.9

② 口腔機能管理料の算定回数が0回の場合に算定していない理由

口腔機能管理料の算定回数が0回の場合に算定していない理由を尋ねたところ、「該当する患者がない」が31.2%であった。

図表 2-120 (口腔機能管理料の算定回数が0回の場合) 算定していない理由 (複数回答)

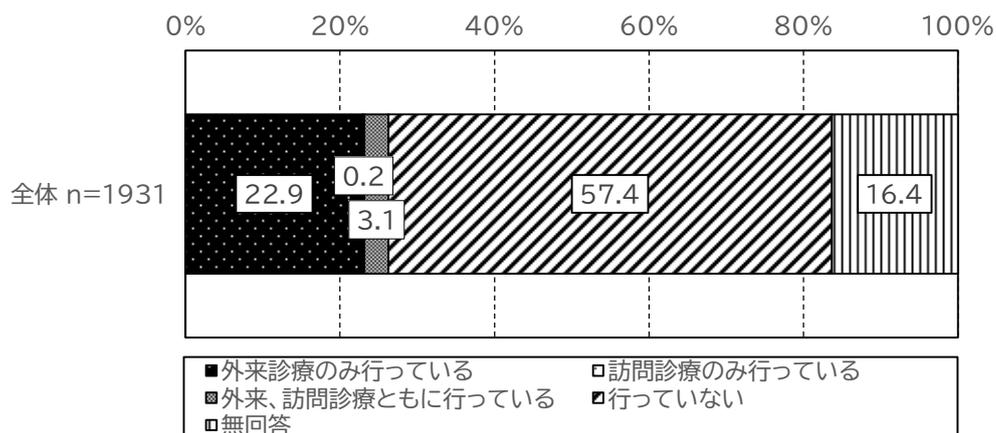


(12) 令和5年6月の1か月間における周術期等口腔機能管理の実施状況

① 周術期等口腔機能管理の実施状況

周術期等口腔機能管理の実施状況は「外来診療のみ行っている」が22.9%、「訪問診療のみ行っている」が0.2%、「外来、訪問診療ともに行っている」が3.1%、「行っていない」が57.4%であった。

図表 2-121 周術期等口腔機能管理の実施状況



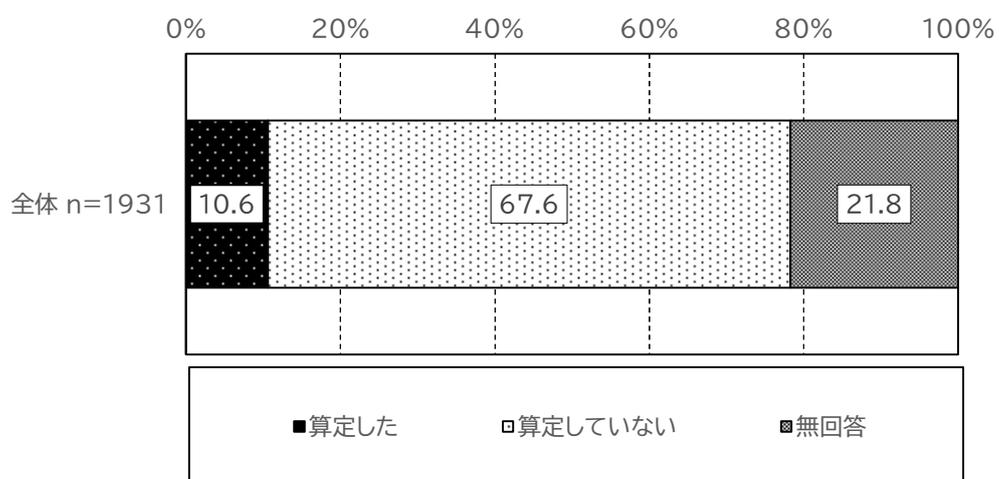
② 周術期等口腔機能管理に関する診療報酬の算定有無

周術期等口腔機能管理に関する診療報酬の算定有無について尋ねたところ※、「算定した」が10.6%、「算定していない」が67.6%であった。

※周術期等口腔機能管理計画策定料、周術期等口腔機能管理料（Ⅰ）、周術期等口腔機能管理料（Ⅲ）、周術期等専門的口腔衛生処置

※

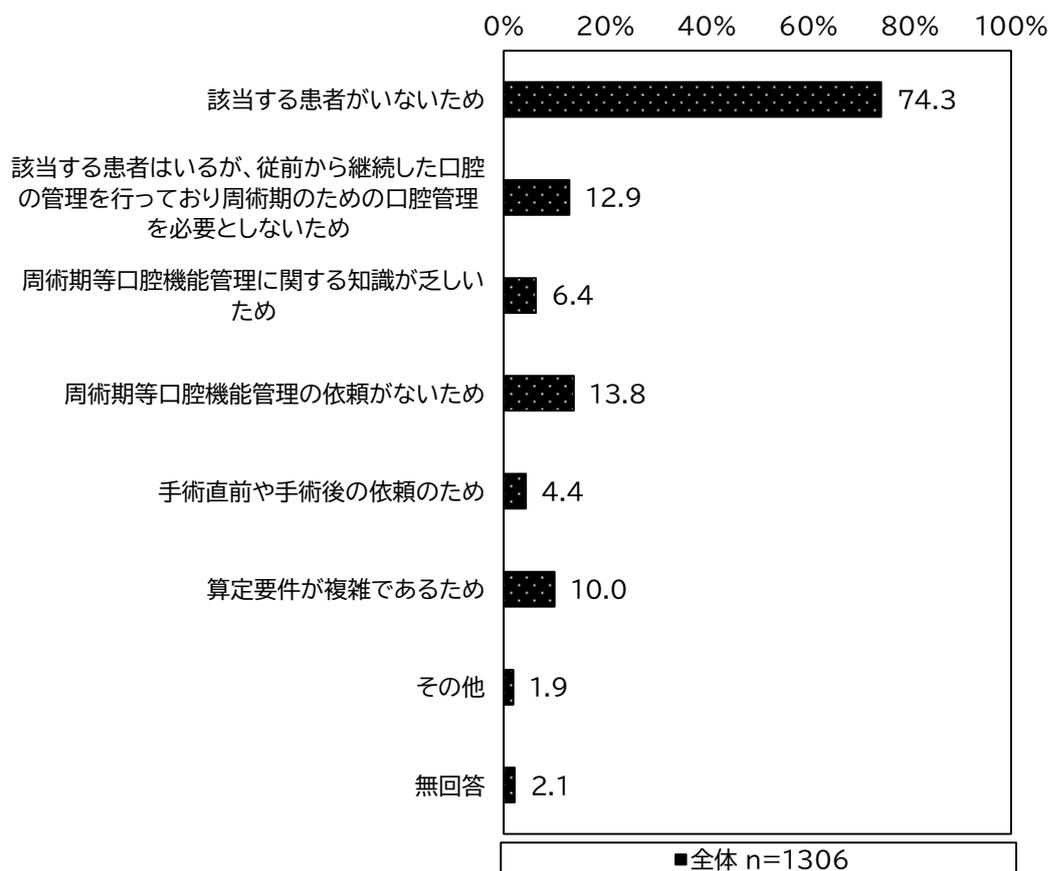
図表 2-122 周術期等口腔機能管理に関する診療報酬を算定したか



③ 周術期等口腔機能管理を算定していない理由

周術期等口腔機能管理を「算定していない」を選んだ場合、その理由を尋ねたところ、「該当する患者がいないため」が74.3%であった。

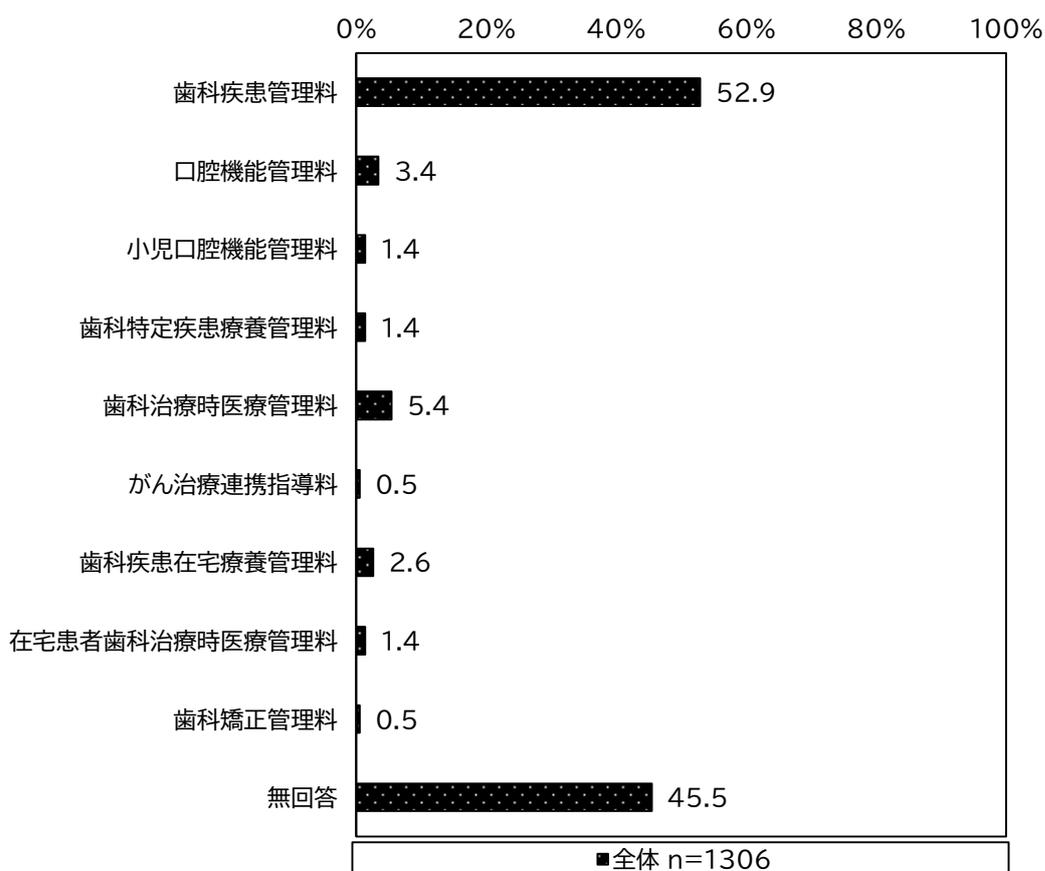
図表 2-123 周術期等口腔機能管理を算定していない理由（複数回答）



④ 周術期等口腔機能管理の対象となる患者に対し、周術期等口腔機能管理料以外の点数で算定している項目

周術期等口腔機能管理料を「算定していない」を選んだ場合、周術期等口腔機能管理の対象となる患者に対し、周術期等口腔機能管理料以外の点数を算定している項目について尋ねたところ、「歯科疾患管理料」が52.9%であった。

図表 2-124 周術期等口腔機能管理の対象となる患者に対し、周術期等口腔機能管理料以外の点数を算定している場合の項目（複数回答）



(13) 障害児者や医療的ケア児に対する歯科診療の実施状況（令和5年6月の1か月間）

① 歯科診療特別対応加算の算定回数

歯科診療特別対応加算の算定回数は平均で5.3回であった。

図表 2-125 歯科診療特別対応加算の算定回数

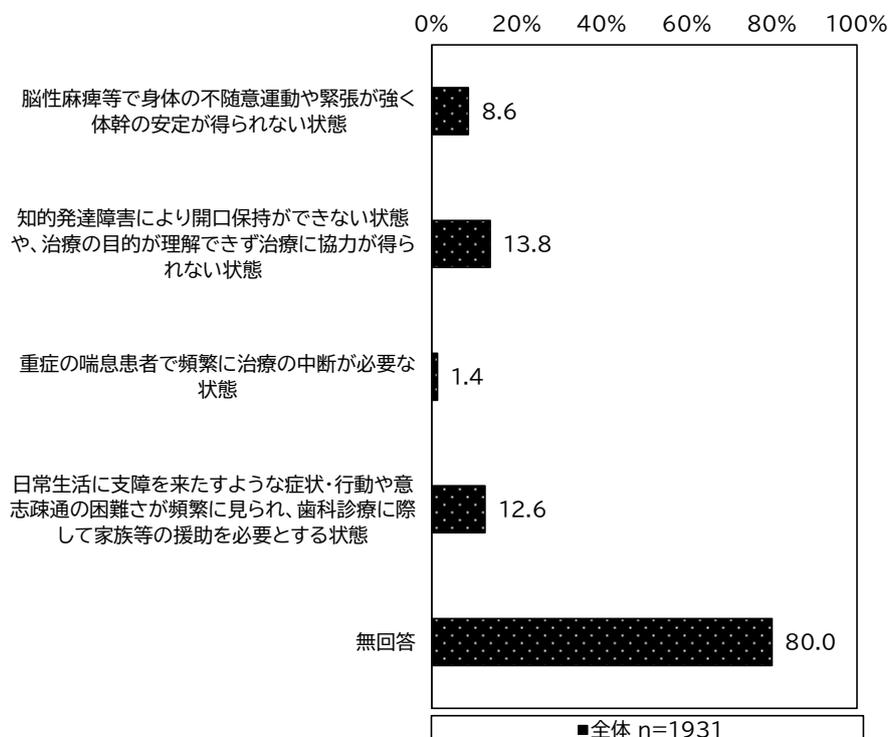
(単位：回)

	回答施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準偏差
歯科診療特別対応加算の算定回数	1619	602	0	0.0	5.3	32.4

② 特別対応加算を算定した患者の状態

特別対応加算を算定した患者の状態について尋ねたところ、「知的発達障害により開口保持ができない状態や、治療の目的が理解できず治療に協力が得られない状態」が13.8%、「日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、歯科診療に際して家族等の援助を必要とする状態」が12.6%であった。

図表 2-126 特別対応加算を算定した患者で、対応に苦慮した場合、その状態（複数回答）



③ 特別対応加算を算定した患者の対応に苦慮した場合、その状態

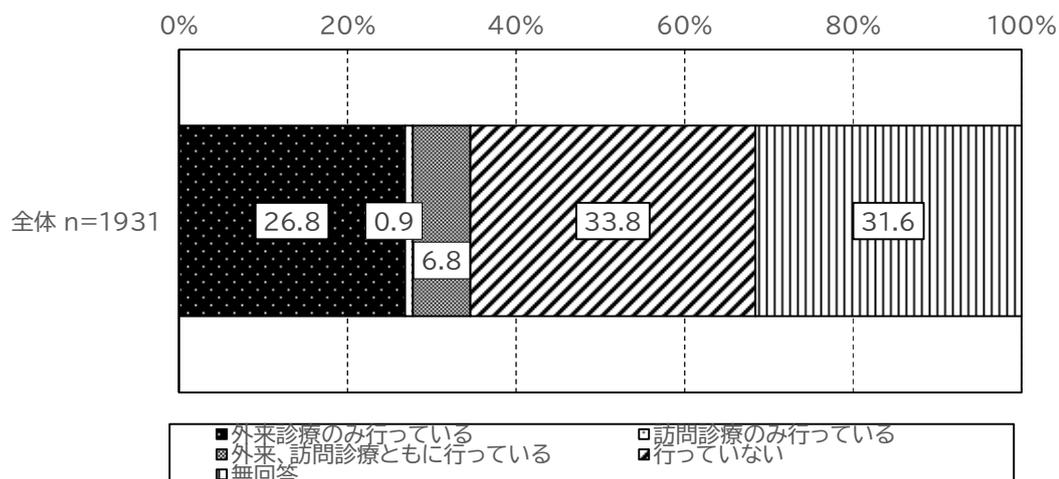
特別対応加算を算定した患者の対応に苦慮した場合、その主な状態は以下の内容であった。（自由記述）

- 治療中に激しい体動、不随意運動による動きが注意を要したこと。
- 口腔内唾液が多く、絶えず吸引が必要であったこと。反り返りが強く、体幹の保持が困難であったこと。
- 治療の協力度が低く、意思疎通が困難であったこと。
- 恐怖心が強く、多動であり、一度パニックを起こすと、意思疎通さえ困難で、治療の安全性を確保するのが困難であった。
- ユニットの着席拒否や開口拒否があったこと。
- 異常嚥下反射、咬反射、むせ／咳込みでの中断が多いこと。
- 不随意運動があり、開口保持が困難で、治療を中断することが多く、治療が進まないこと。
- 処置中に発作をおこし呼吸困難になったこと。 等

④ 障害児者に対する歯科診療の実施状況

障害児者に対する歯科診療の実施状況は「外来診療のみ行っている」が26.8%、「訪問診療のみ行っている」が0.9%、「外来、訪問診療ともに行っている」が6.8%、「行っていない」が33.8%であった。

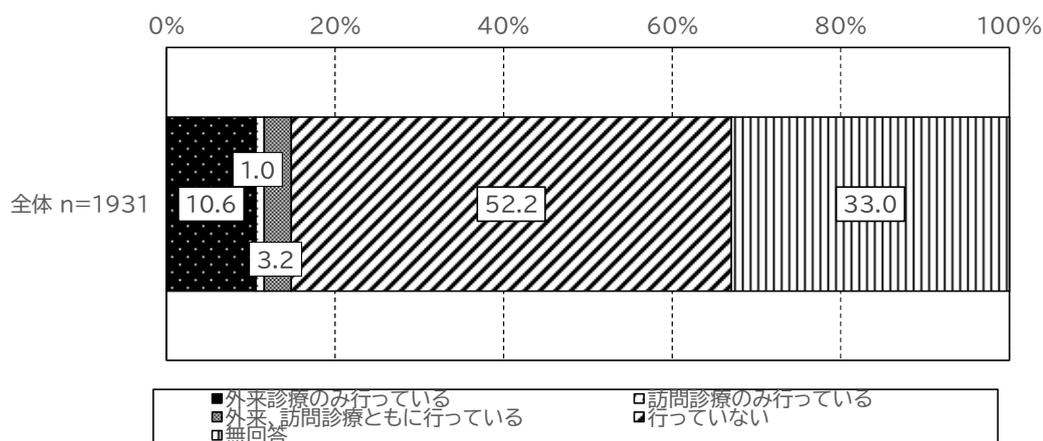
図表 2-127 障害児者に対する歯科診療の実施状況



⑤ 医療的ケア児に対する歯科診療の実施状況

医療的ケア児に対する歯科診療の実施状況は「外来診療のみ行っている」が10.6%、「訪問診療のみ行っている」が1.0%、「外来、訪問診療ともに行っている」が3.2%、「行っていない」が52.2%であった。

図表 2-128 医療的ケア児に対する歯科診療の実施状況

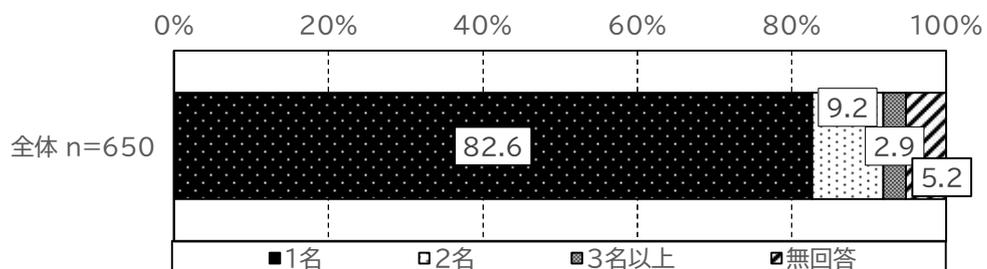


⑥ 障害児者又は医療的ケア児を診療する場合の体制について

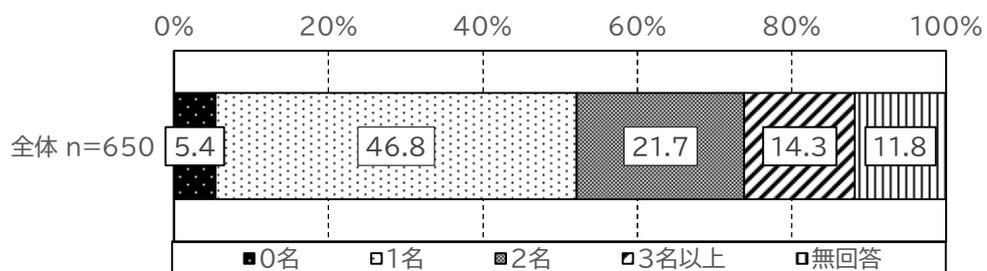
③障害児者に対する歯科診療の実施状況又は④医療的ケア児に対する歯科診療の実施状況について「外来診療のみ行っている」、「訪問診療のみ行っている」、「外来、訪問診療ともに行っている」のいずれかを選んだ場合、障害児者又は医療的ケア児を診療する場合の体制について尋ねた。障害児者の外来は、歯科医師は、「1名」が最も多く82.6%、「2名」が9.2%であり、歯科衛生士は、「1名」が最も多く46.8%、「2名」が21.7%であった。障害児者の訪問は、歯科医師は、「1名」が最も多く77.3%、「2名」が8.7%であり、歯科衛生士は、「1名」が最も多く51.3%、「2名」が14.7%であった。医療的ケア児の外来は、歯科医師は、「1名」が最も多く71.5%、「2名」が12.4%であり、歯科衛生士は、「1名」が最も多く42.7%、「2名」が19.1%であった。医療的ケア児の訪問は、歯科医師は、「1名」が最も多く79.0%、「2名」が7.4%であり、歯科衛生士は、「1名」が最も多く53.1%、「2名」が9.9%であった。

図表 2-129 障害児者又は医療的ケア児を診療する場合の体制

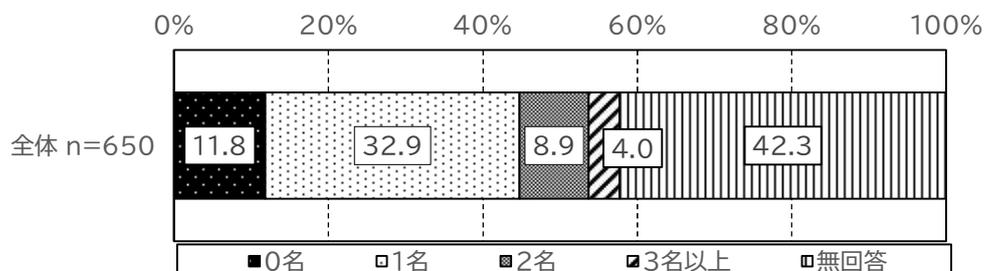
<障害児者の診療体制 外来 歯科医師>



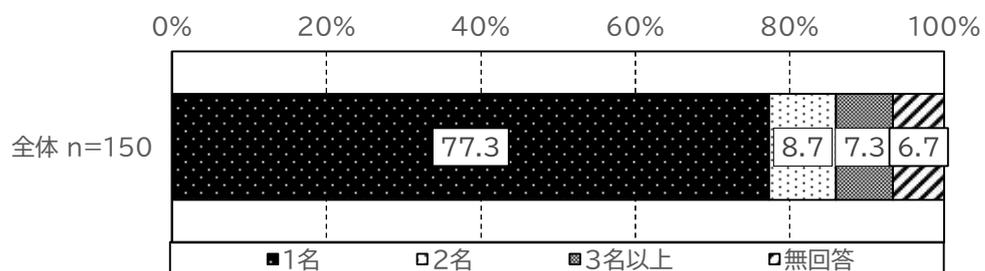
<障害児者の診療体制 外来 歯科衛生士>



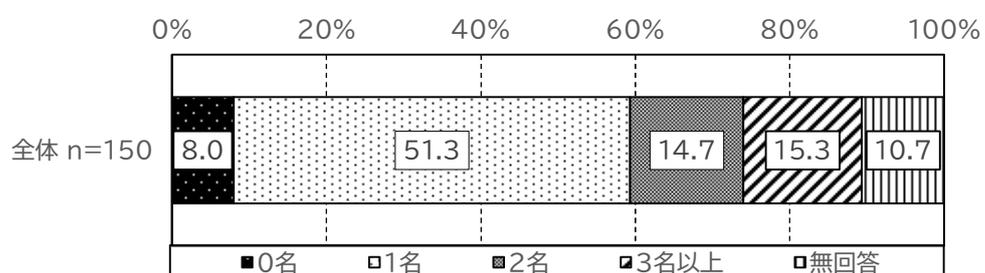
<障害児者の診療体制 外来 その他>



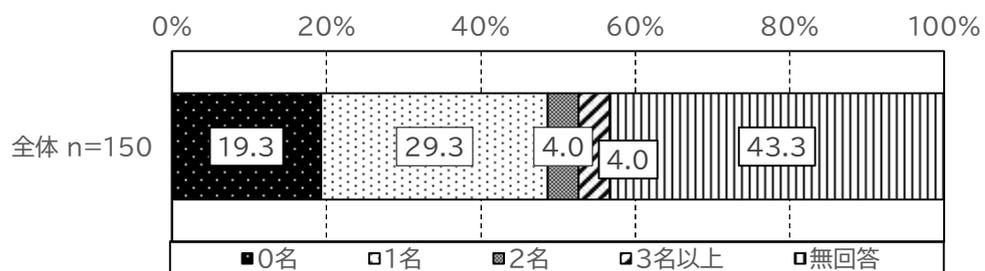
<障害児者の診療体制 訪問 歯科医師>



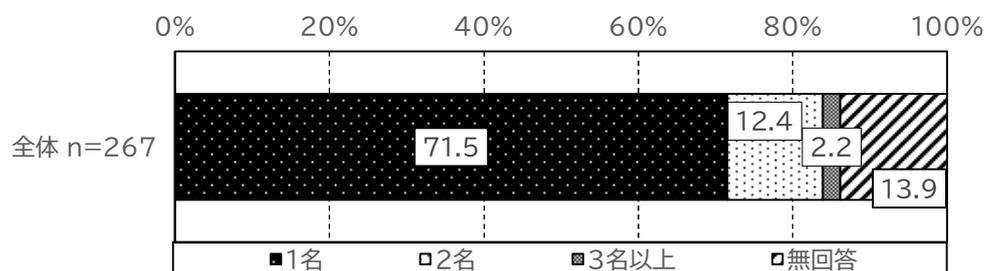
<障害児者の診療体制 訪問 歯科衛生士>



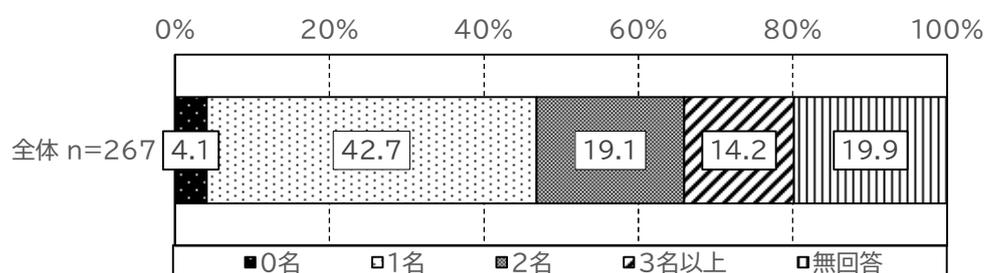
<障害児者の診療体制 訪問 その他>



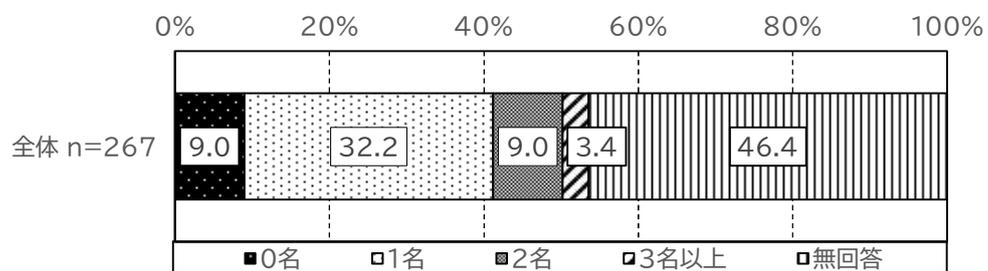
<医療的ケア児の診療体制 外来 歯科医師>



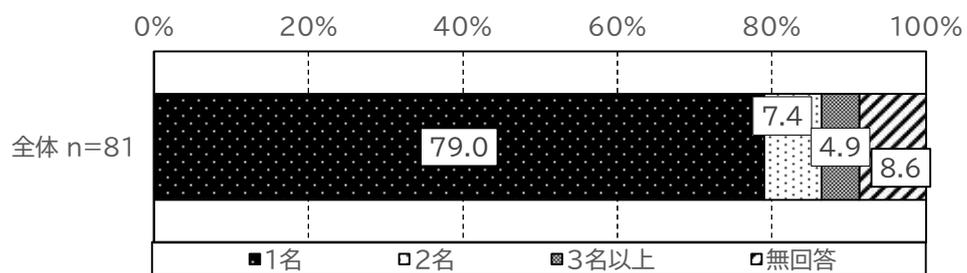
<医療的ケア児の診療体制 外来 歯科衛生士>



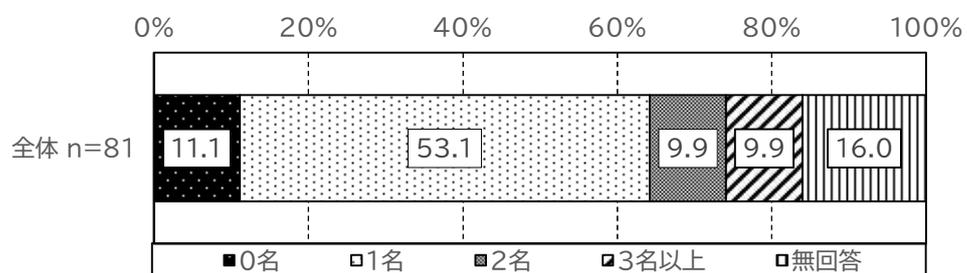
<医療的ケア児の診療体制 外来 その他>



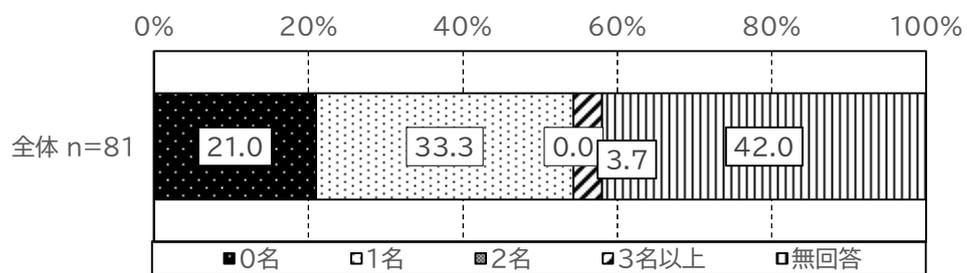
<医療的ケア児の診療体制 訪問 歯科医師>



<医療的ケア児の診療体制 訪問 歯科衛生士>



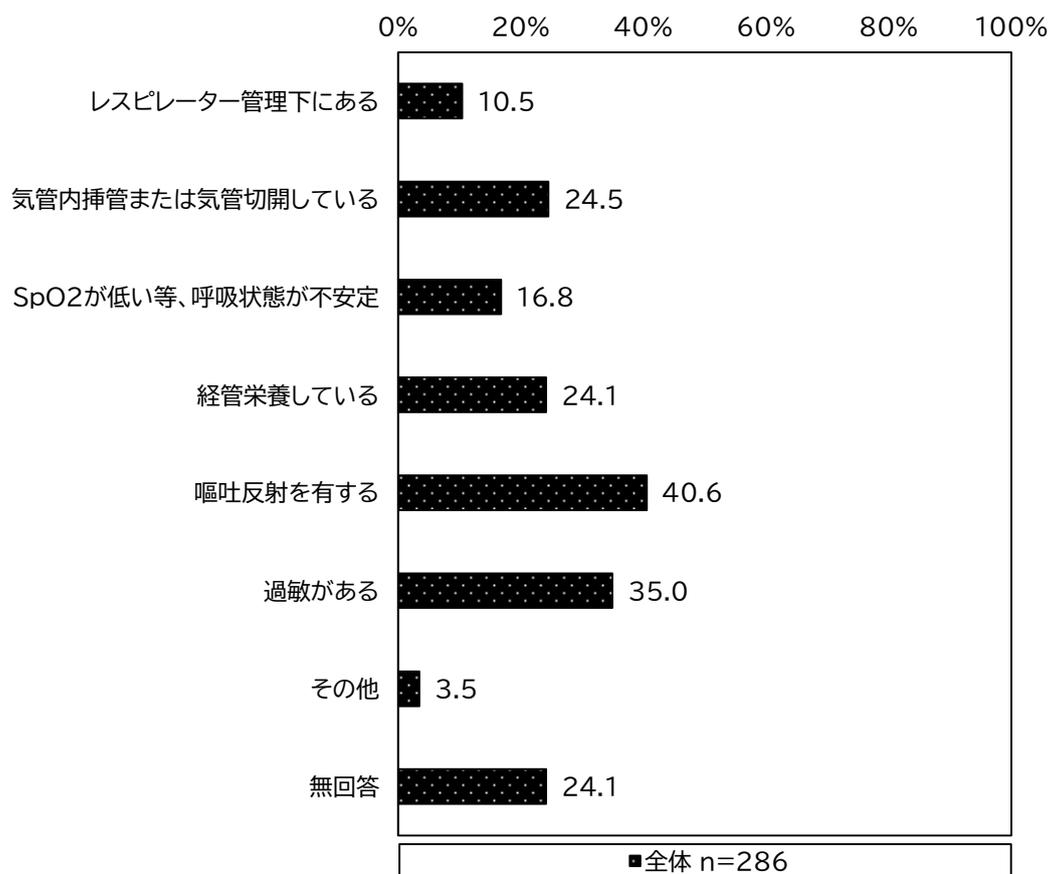
<医療的ケア児の診療体制 訪問 その他>



⑦ 診療したことのある医療的ケア児の患者像

医療的ケア児に対する歯科診療の実施状況について「外来診療のみ行っている」、「訪問診療のみ行っている」、「外来、訪問診療ともに行っている」を選んだ場合、診療したことのある医療的ケア児の患者像について尋ねたところ、「嘔吐反射を有する」が40.6%であった。

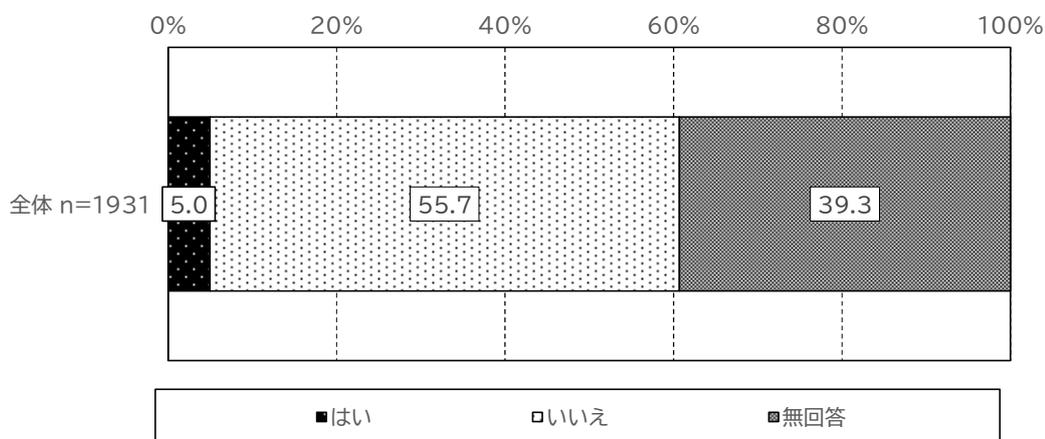
図表 2-130 診療したことのある医療的ケア児の患者像（複数回答）



⑧ 保育所等又は幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、高等専門学校若しくは専修学校への文書による診療情報提供の有無

保育所等又は幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、高等専門学校若しくは専修学校への文書による診療情報提供の有無については「はい」が5.0%、「いいえ」が55.7%であった。

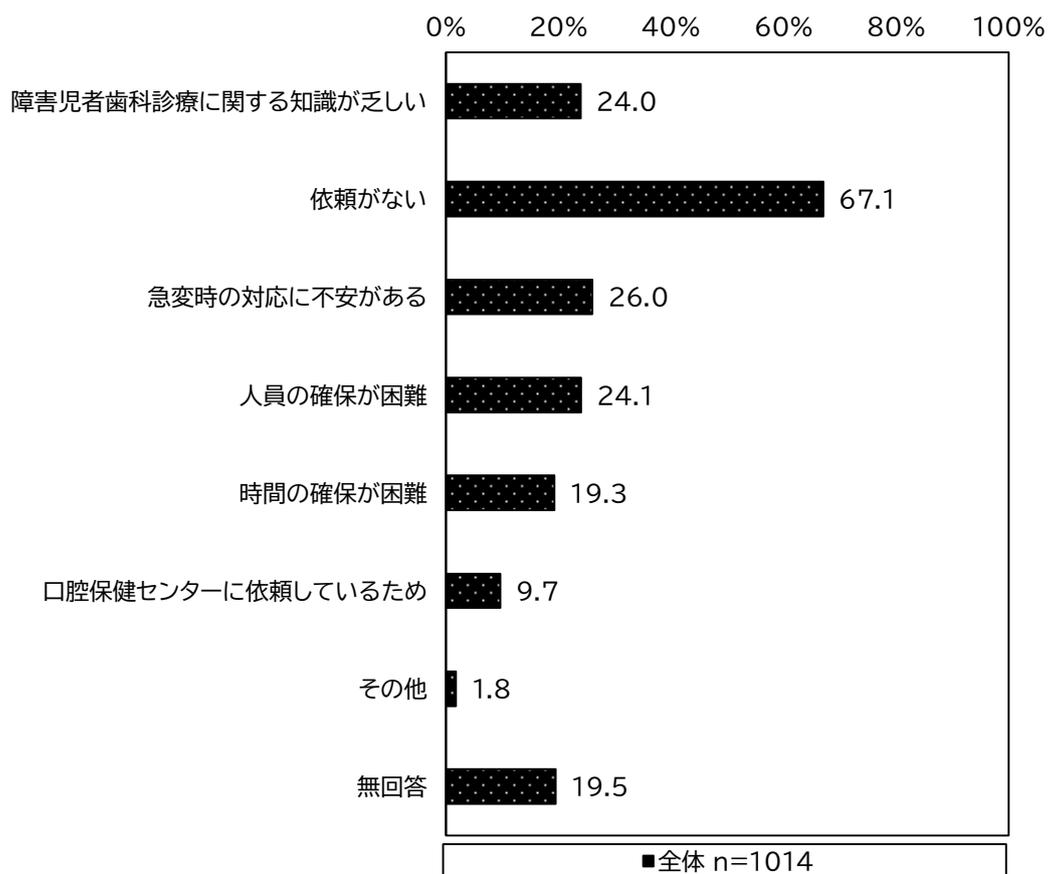
図表 2-131 保育所等又は幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、高等専門学校若しくは専修学校への文書による診療情報提供の有無



⑨ 障害児者や医療的ケア児への歯科診療を実施していない理由

障害児者または医療的ケア児に対する歯科診療の実施状況について「行っていない」と回答した場合、その理由を尋ねたところ、「依頼がない」が67.1%であった。

図表 2-132 障害児者や医療的ケア児への歯科診療を実施していない理由（複数回答）



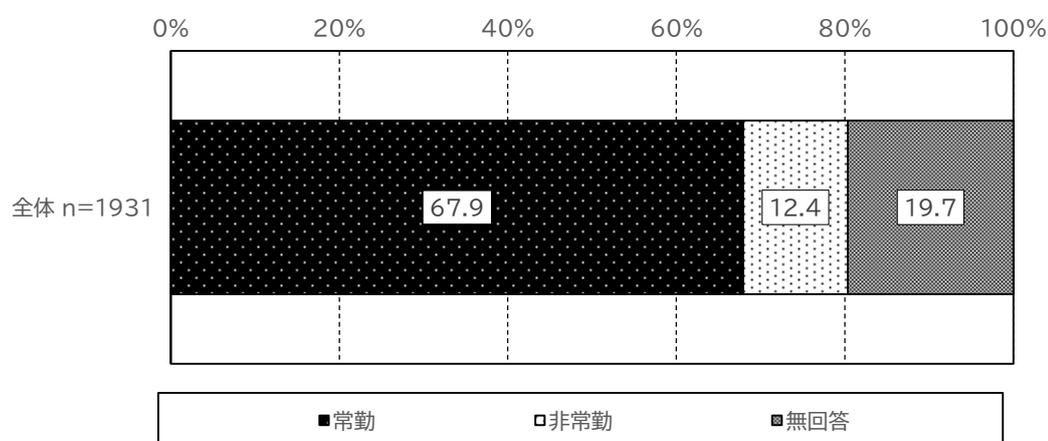
(14) 歯科衛生士の勤務状況について

※本設問は、歯科衛生士による歯科衛生実地指導及び訪問歯科衛生指導について、院内に歯科衛生士がいる場合に、その歯科衛生士が回答を記入した。複数の歯科衛生士が勤務している場合、主として歯科衛生実地指導又は訪問歯科衛生指導を行っている歯科衛生士が回答し、歯科衛生士がいない場合は回答不要とした。

① 勤務形態について

回答者自身の勤務形態について、「常勤」が67.9%、「非常勤」12.4%であった。

図表 2-133 勤務形態



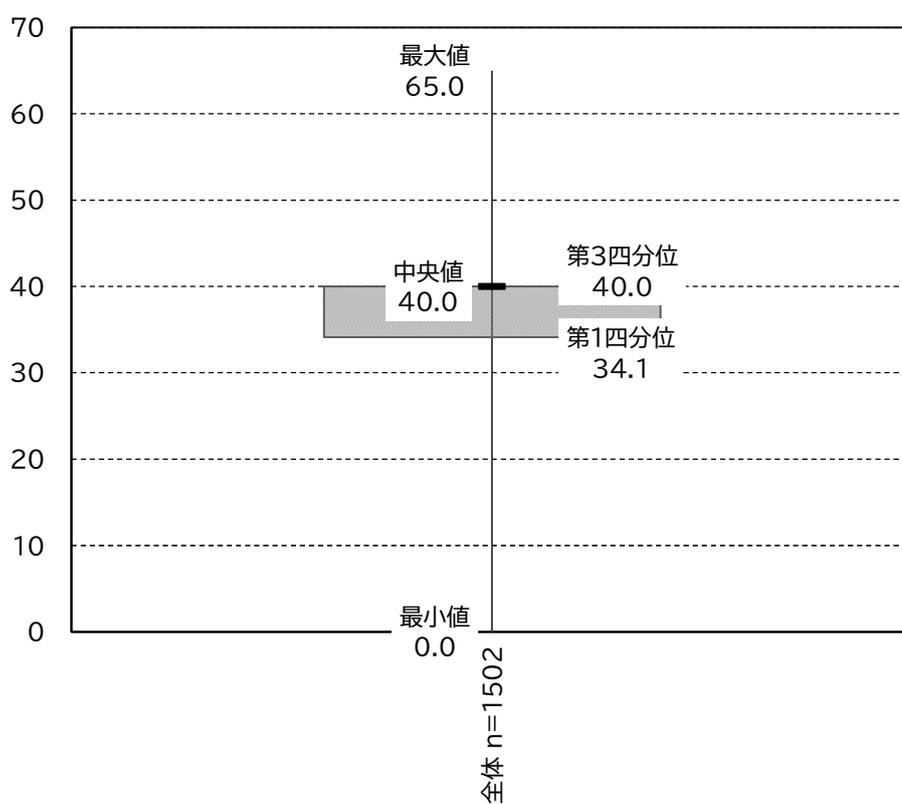
② 一週間あたりの勤務時間

一週間あたりの勤務時間の平均は 34.9 時間であった。

図表 2-134 一週間あたりの勤務時間

(単位：時間)

	回答 施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準 偏差
一週間あたりの勤務時間	1502	65.0	0.0	40.0	34.8	10.4



(15) 歯科衛生実地指導の実施状況について

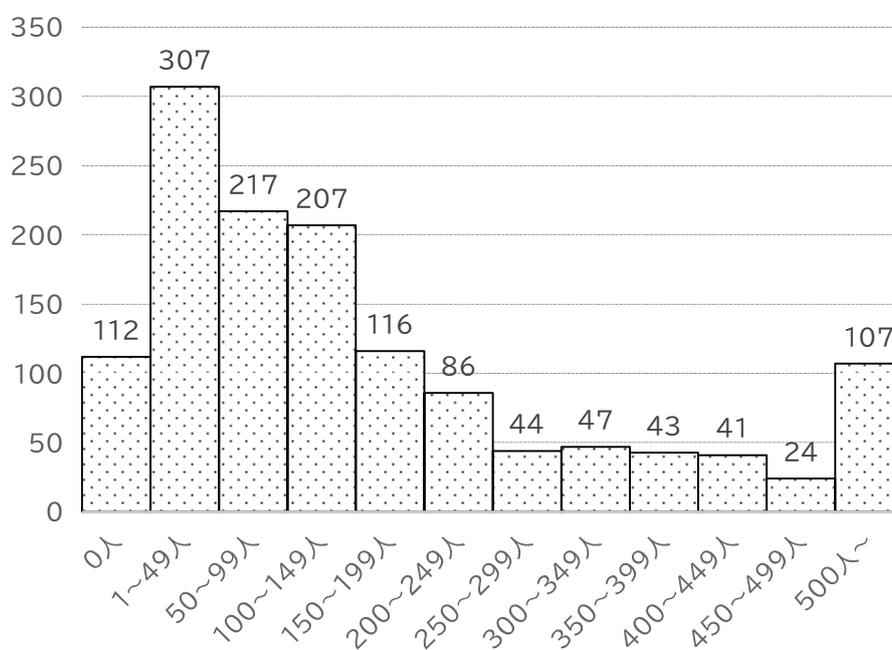
① 歯科衛生実地指導の患者数（実人数）（令和5年6月の1か月間）

令和5年6月の1か月間における歯科衛生実地指導の患者数（実人数）の平均は174.8人であった。

図表 2-135 令和5年6月の1か月間における歯科衛生実地指導の患者数（実人数）

（単位：人）

	回答 施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準 偏差
全体	1351	1999.0	0.0	100.0	174.8	218.9

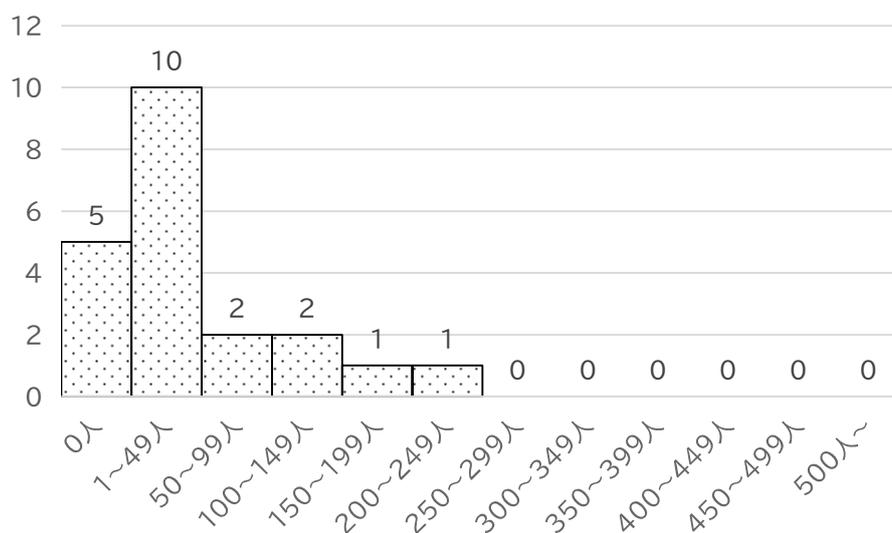


図表 2-136 令和5年6月の1か月間における歯科衛生実地指導の患者数（実人数）
（歯科衛生士人数別）

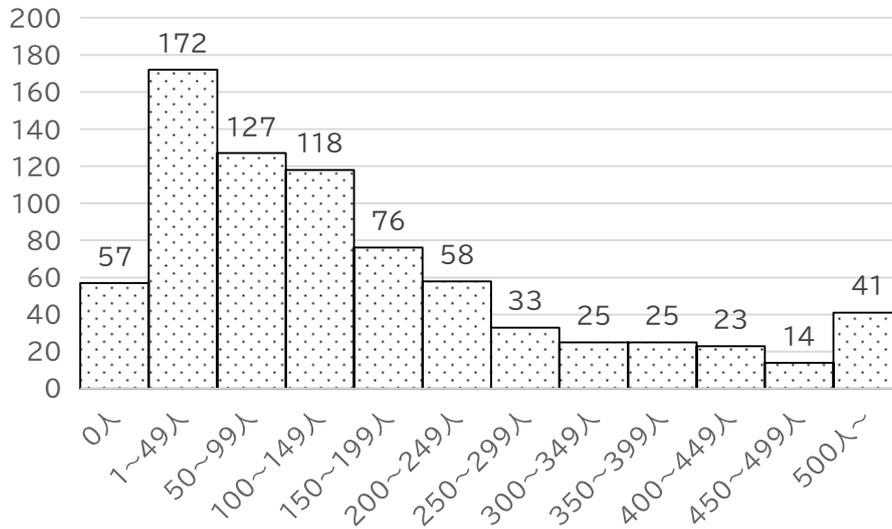
（単位：人）

歯科衛生士人数	回答施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準偏差
0人超1人未満	21.0	201.0	0.0	27.0	45.8	55.7
1人以上6人未満	769.0	1010.0	0.0	104.0	157.2	170.0
6人以上11人未満	132.0	1383.0	0.0	124.0	270.6	304.4
11人以上	41.0	1999.0	0.0	180.0	447.2	512.7

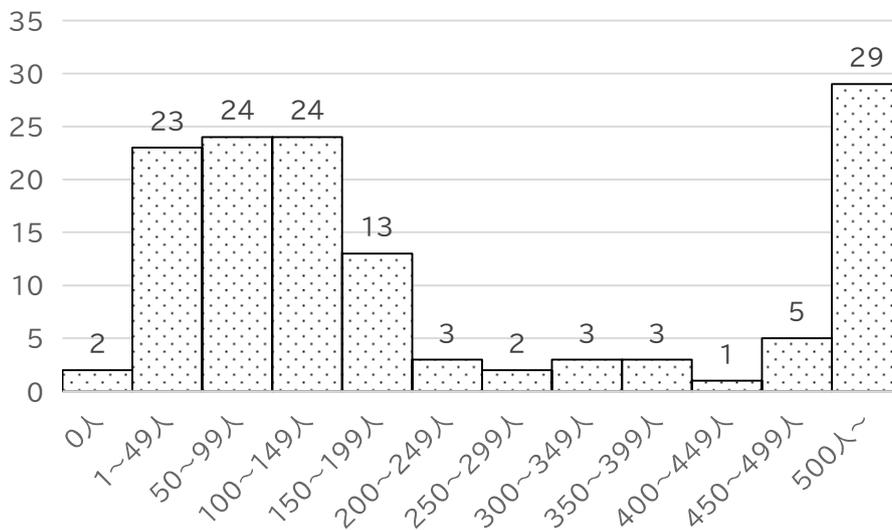
< 歯科衛生士人数：0人超1人未満 >



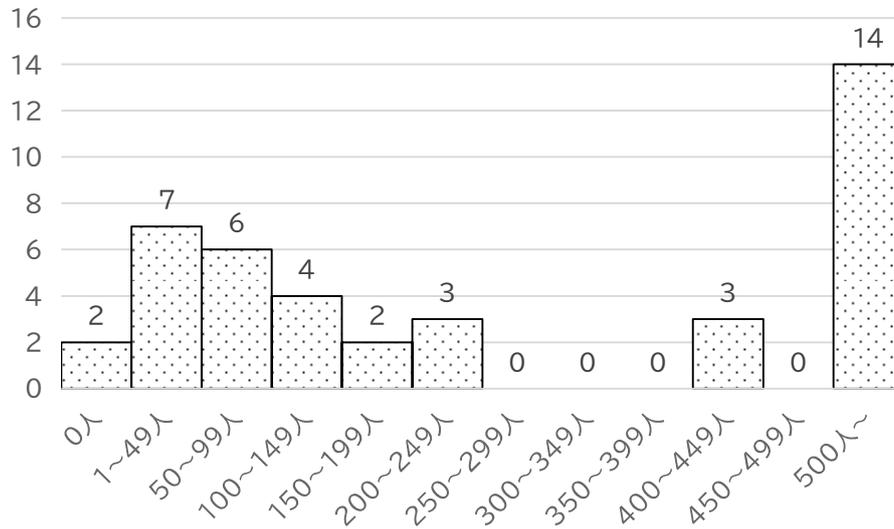
< 歯科衛生士人数：1人以上6人未満 >



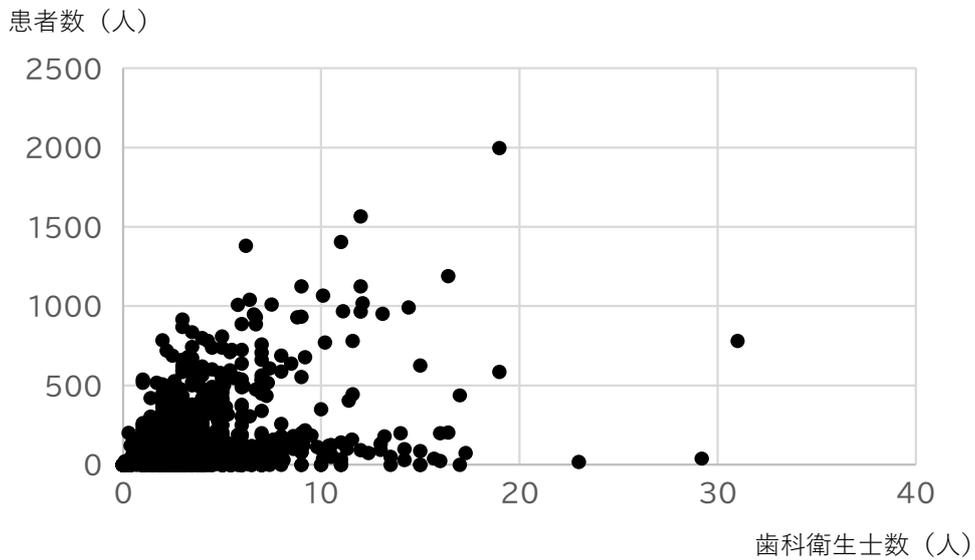
< 歯科衛生士人数：6人以上11人未満 >



< 歯科衛生士人数：11人以上 >



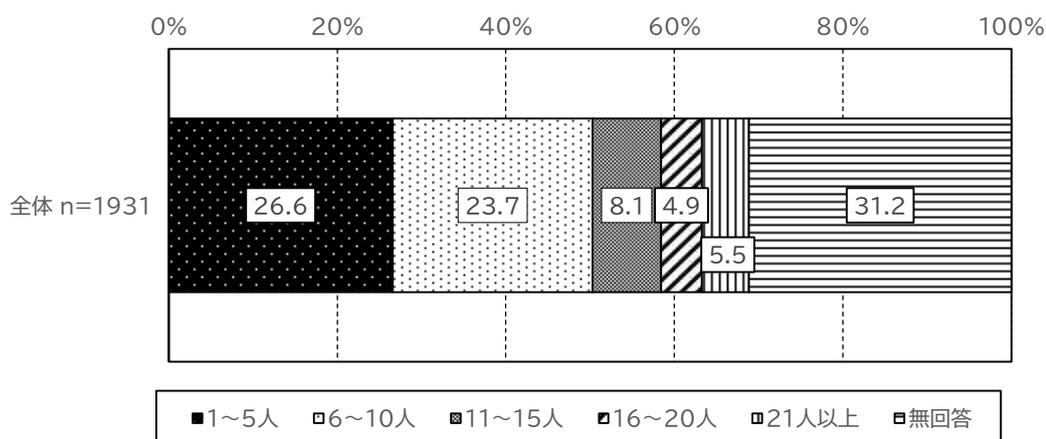
図表 2-137 令和5年6月の1か月間における歯科衛生実地指導の患者数（実人数）
（歯科衛生士人数・患者数）



② 平均的な1日あたりの歯科衛生実地指導の患者数（令和5年6月1か月間）

令和5年6月1か月間における、平均的な1日あたりの歯科衛生実地指導の患者数は、「1～5人」が26.6%、「6～10人」が23.7%であった。

図表 2-138 令和5年6月1か月間における、平均的な1日あたりの歯科衛生実地指導の患者数



③ 1回の歯科衛生実地指導にかかるおおよその時間

1回の歯科衛生実地指導にかかるおおよその時間の平均は22.2分であった。

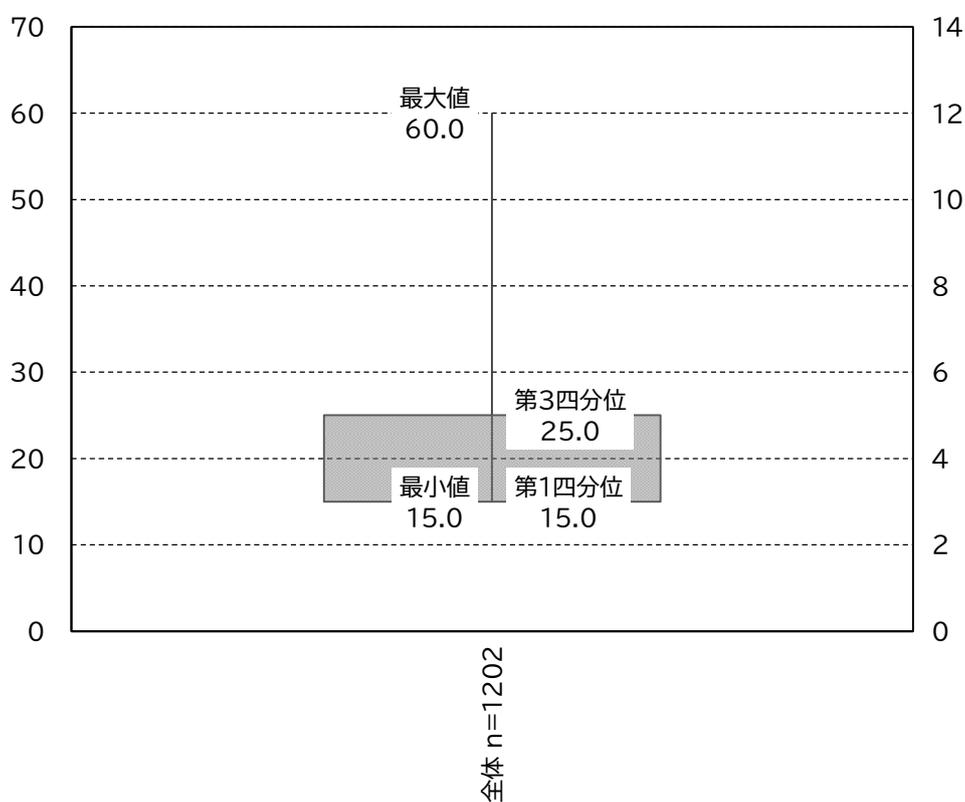
図表 2-139 1回の歯科衛生実地指導にかかるおおよその時間

(単位：分)

	回答 施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準 偏差
全体	1202	60.0	15.0	20.0	22.2	8.3

※本表においては、0を除いて集計した結果を示している。

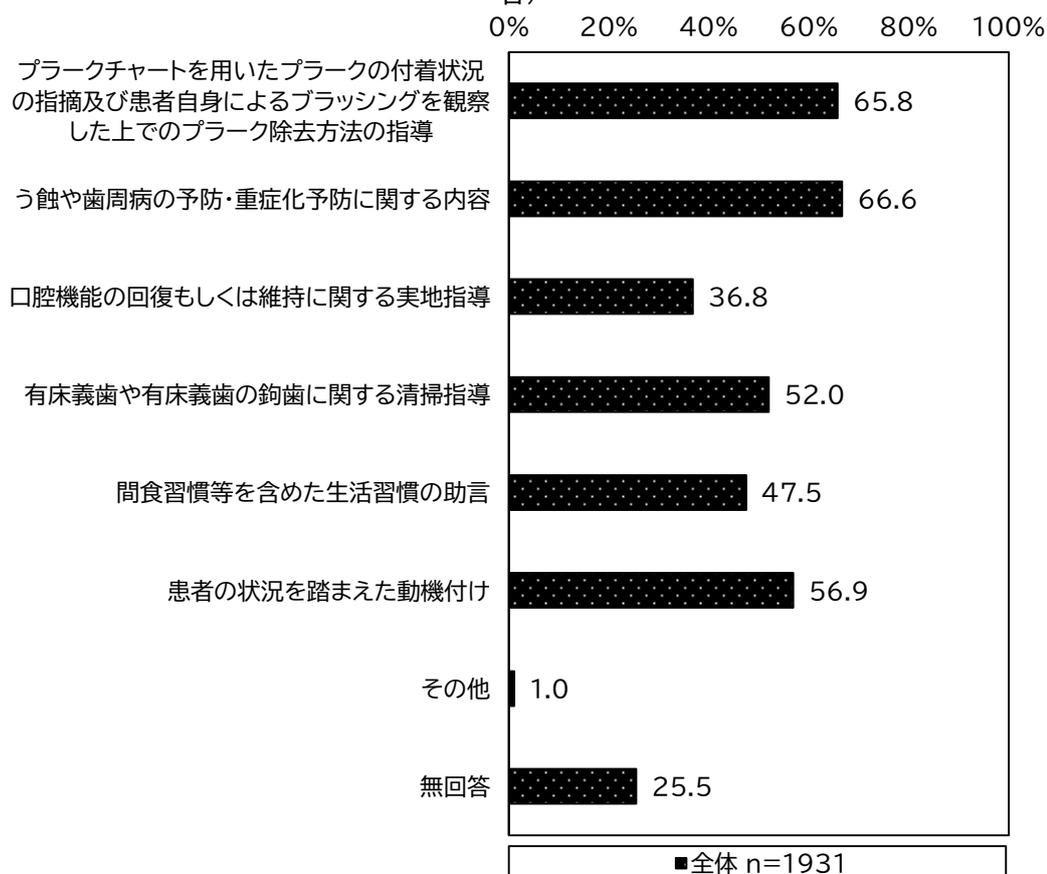
※歯科衛生実地指導料2の月2回の実地指導を合わせて15分以上の場合も含まれている。



④ 歯科衛生実地指導の内容

令和5年6月の1か月間に実施した歯科衛生実地指導の内容は、「う蝕や歯周病の予防・重症化予防に関する内容」66.6%、「プラークチャートを用いたプラークの付着状況の指摘及び患者自身によるブラッシングを観察した上でのプラーク除去方法の指導」が65.8%であった。

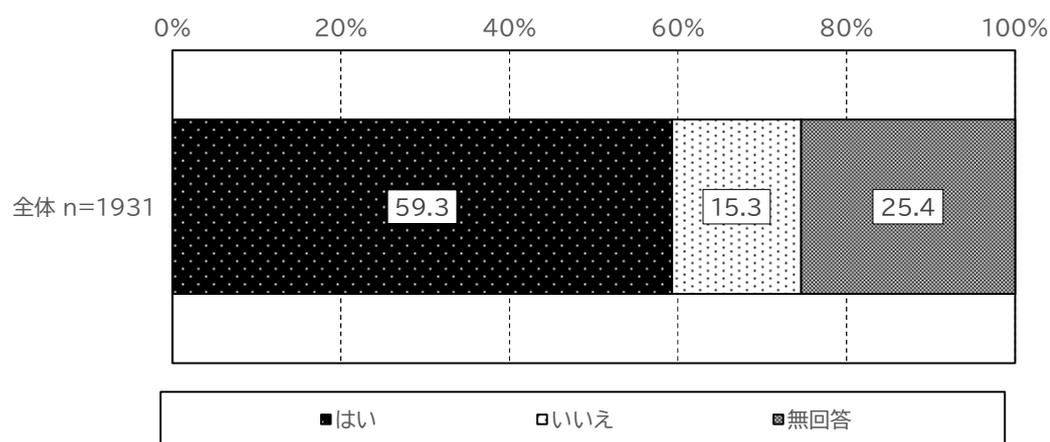
図表 2-140 令和5年6月の1か月間に実施した歯科衛生実地指導の内容（複数回答）



⑤ 歯科衛生実地指導の時間内の指導の実施状況

1回の歯科衛生実地指導で答えた時間内に、十分な指導ができているかについて尋ねたところ、「はい」が59.3%、「いいえ」が15.3%であった。

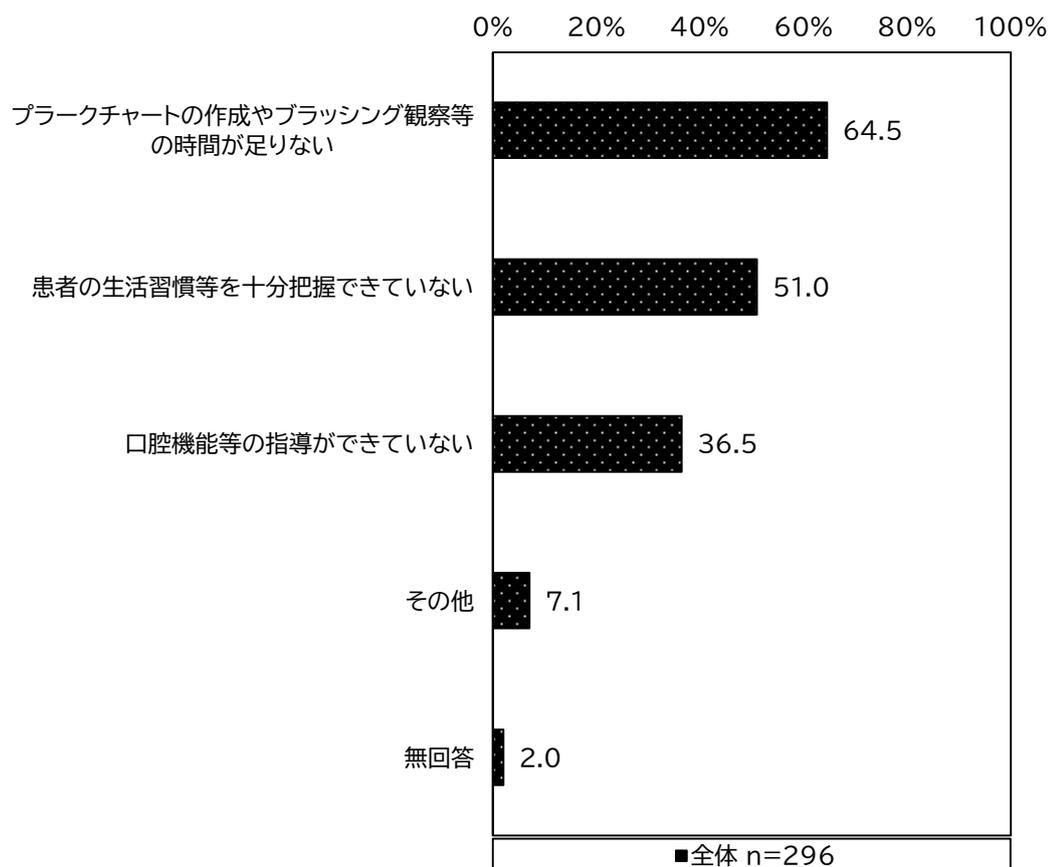
図表 2-141 歯科衛生実地指導の時間内の指導の実施状況



⑥ 1回の歯科衛生実地指導で答えた時間内に、十分な指導ができていない理由

1回の歯科衛生実地指導で答えた時間内に、十分な指導ができていないかについて、「いいえ」を選んだ場合、その理由を尋ねたところ、「プラークチャートの作成やブラッシング観察等の時間が足りない」が64.5%であった。

図表 2-142 1回の歯科衛生実地指導で答えた時間内に、十分な指導ができていない理由
(複数回答)



(16) 訪問歯科衛生指導の実施状況について

① 訪問歯科衛生指導の患者数（実人数）（令和5年6月の1か月間）

令和5年6月の1か月間における訪問歯科衛生指導の患者数（実人数）は平均で21.8人であった。

図表 2-143 令和5年6月の1か月間における訪問歯科衛生指導の患者数（実人数）
(単位：人)

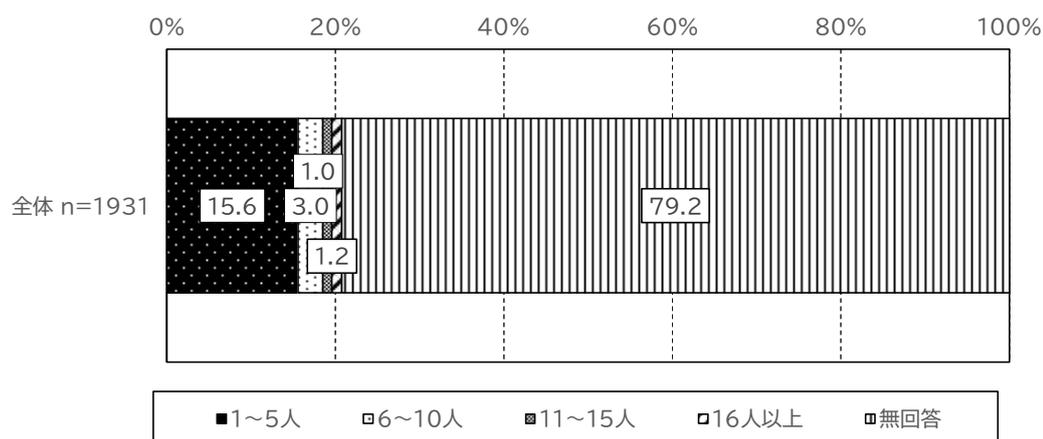
	回答施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準偏差
令和5年6月の1か月間における訪問歯科衛生指導の患者数(実人数)	704	2133.0	0.0	1.0	21.8	117.1

② 令和5年6月1か月間における、平均的な1日あたりの訪問歯科衛生指導の患者数

令和5年6月1か月間における、平均的な1日あたりの訪問歯科衛生指導の患者数※は、無回答を除くと「1~5人」が最も多く、15.6%であった。

※令和5年6月に訪問歯科衛生指導を実施していない場合、実施した直近の月の平均的な1日あたりの訪問歯科衛生指導の患者数

図表 2-144 令和5年6月1か月間における、平均的な1日あたりの訪問歯科衛生指導の患者数



③ 1回の訪問歯科衛生指導にかかるおおよその時間

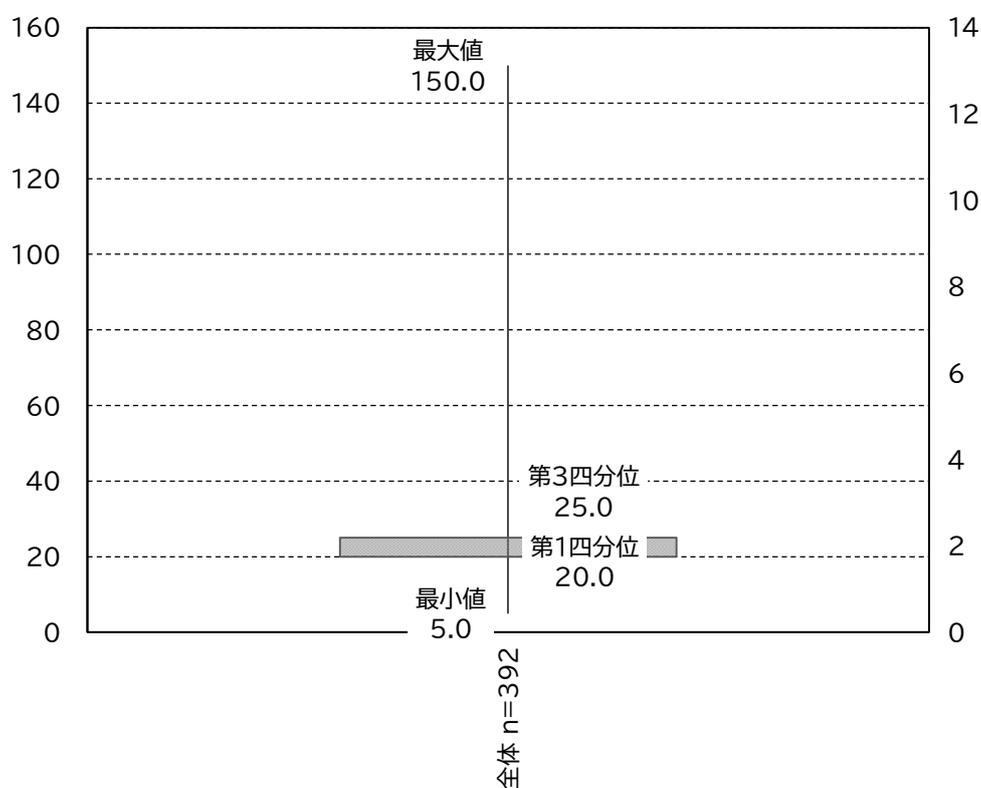
1回の訪問歯科衛生指導にかかるおおよその時間は平均で24.8分であった。

図表 2-145 1回の訪問歯科衛生指導にかかるおおよその時間

(単位：分)

	回答 施設数	最大値	最小値	中央値	平均値	標準 偏差
1回の訪問歯科衛生指導に かかるおおよその時間	392	150	5	20	24.8	13.3

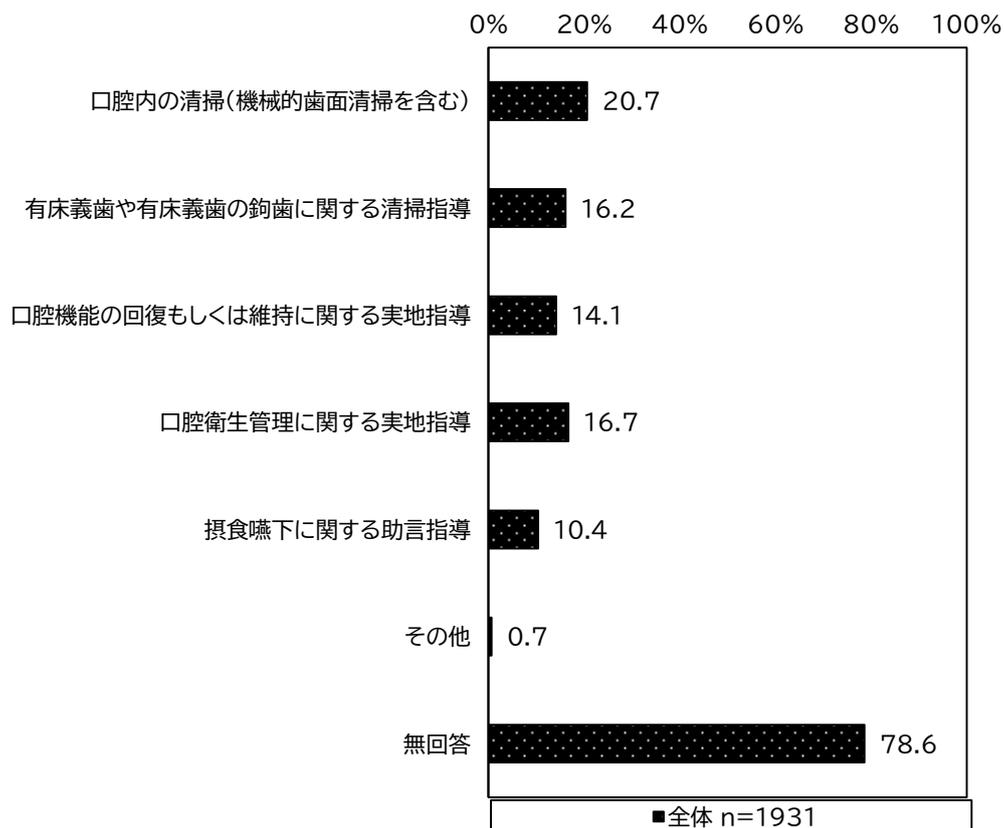
※本表においては、0を除いて集計した結果を示している。



④ 実施した訪問歯科衛生指導の内容

令和5年6月の1か月に実施した訪問歯科衛生指導の内容は、無回答を除くと「口腔内の清掃（機械的歯面清掃を含む）」が最も多く20.7%であった。

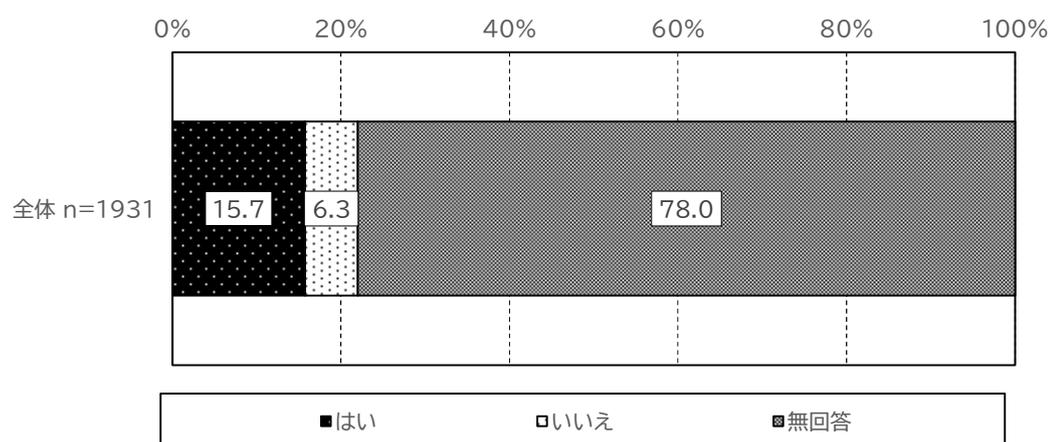
図表 2-146 令和5年6月の1か月に実施した訪問歯科衛生指導の内容（複数回答）



⑤ 訪問歯科衛生指導の時間内の指導の実施状況

1回の訪問歯科衛生指導にかかるおおよその時間で、十分な指導ができているかについて尋ねたところ、「はい」が15.7%、「いいえ」が6.3%であった。

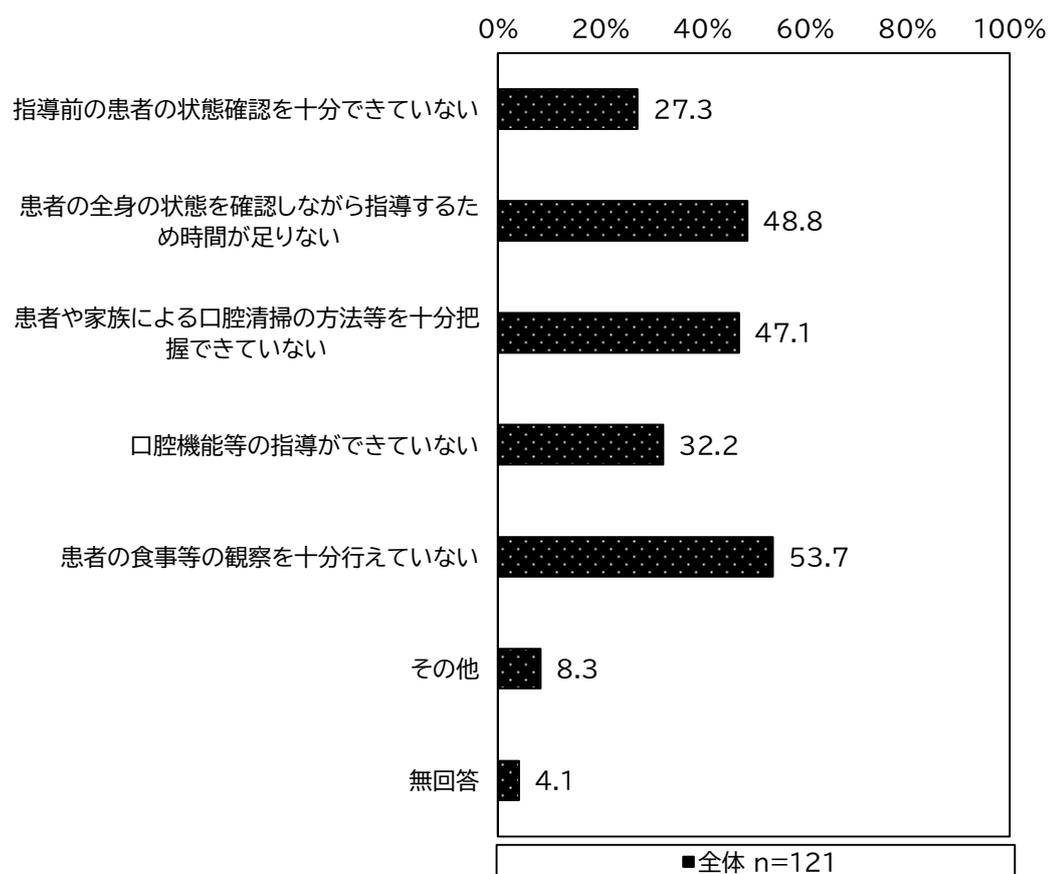
図表 2-147 訪問歯科衛生指導の時間内の指導の実施状況



⑥ 1回の訪問歯科衛生指導にかかるおおよその時間で、十分な指導ができていない理由

1回の訪問歯科衛生指導にかかるおおよその時間で、十分な指導ができていないと回答した場合、その理由を尋ねたところ、「患者の食事等の観察を十分行えていない」が53.7%であった。

図表 2-148 1回の訪問歯科衛生指導にかかるおおよその時間で、十分な指導ができていない理由（複数回答）



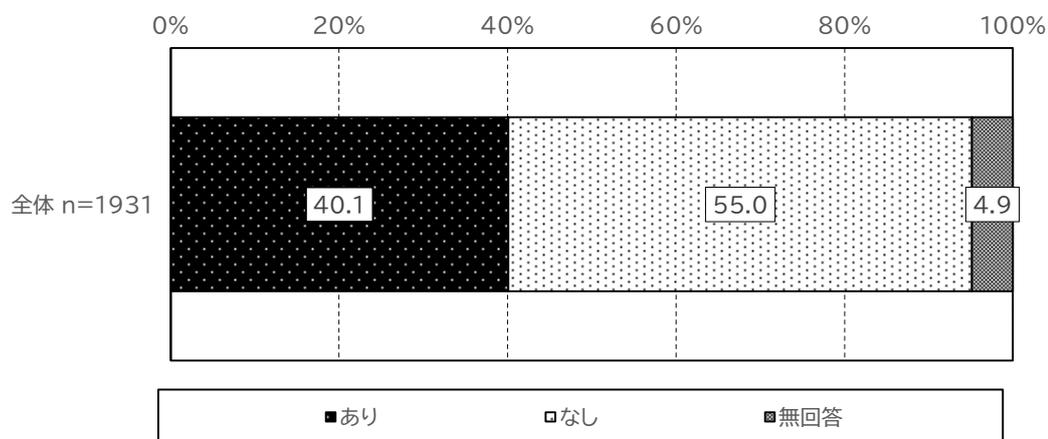
4) 貴施設における、多職種連携に関する取組等について

(1) 医科医療機関・歯科医療機関等との患者紹介や情報提供・共有等の状況（令和5年6月の1か月間）

① 医科医療機関からの診療情報提供や共有の依頼の有無

医科医療機関からの診療情報提供や共有の依頼の有無については「あり」が40.1%、「なし」が55.0%であった。

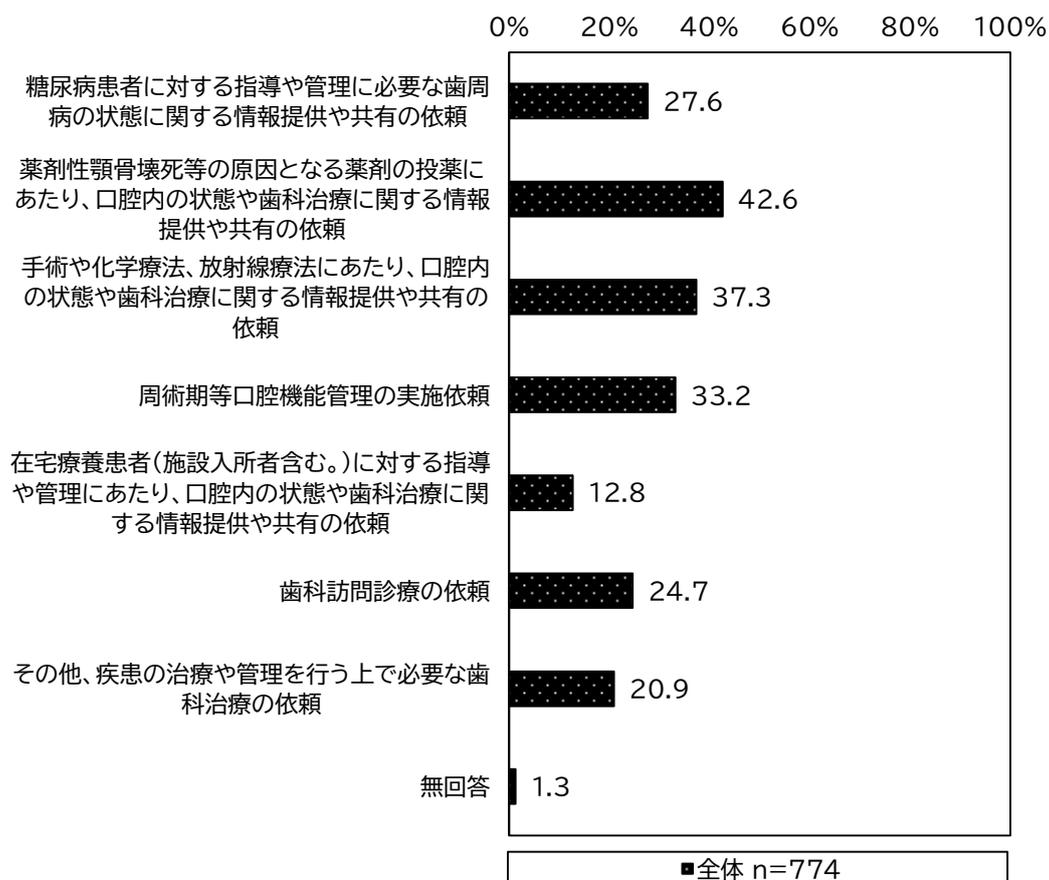
図表 2-149 診療情報提供や共有の依頼



② 医科医療機関からの診療情報提供や共有の依頼内容について

医科医療機関からの診療情報提供や共有の依頼で「あり」を選択した場合、依頼内容について尋ねたところ、「薬剤性顎骨壊死等の原因となる薬剤の投薬にあたり、口腔内の状態や歯科治療に関する情報提供や共有の依頼」が42.6%であった。

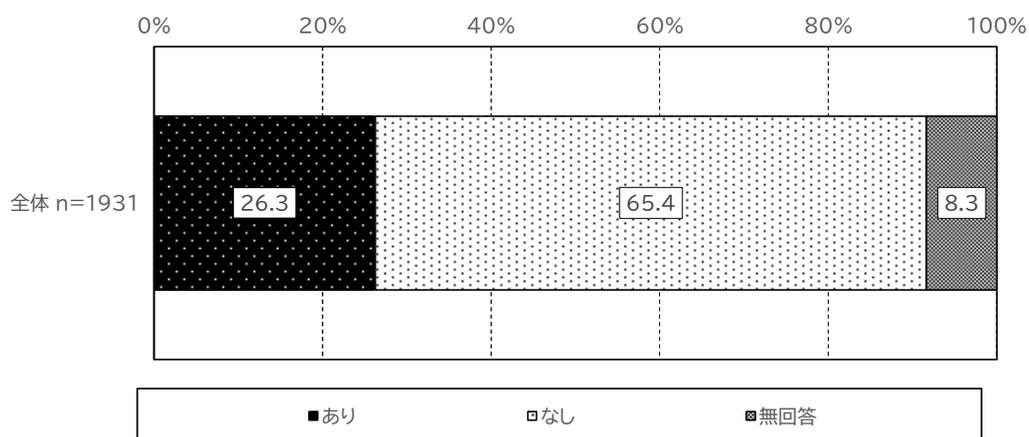
図表 2-150 ①医科医療機関から、診療情報提供や共有の依頼で「あり」を選択した場合の依頼内容（複数回答）



③ 歯科医療機関からの文書による診療情報提供の有無

歯科医療機関からの文書による診療情報提供の有無については「あり」が26.3%、「なし」が65.4%であった。

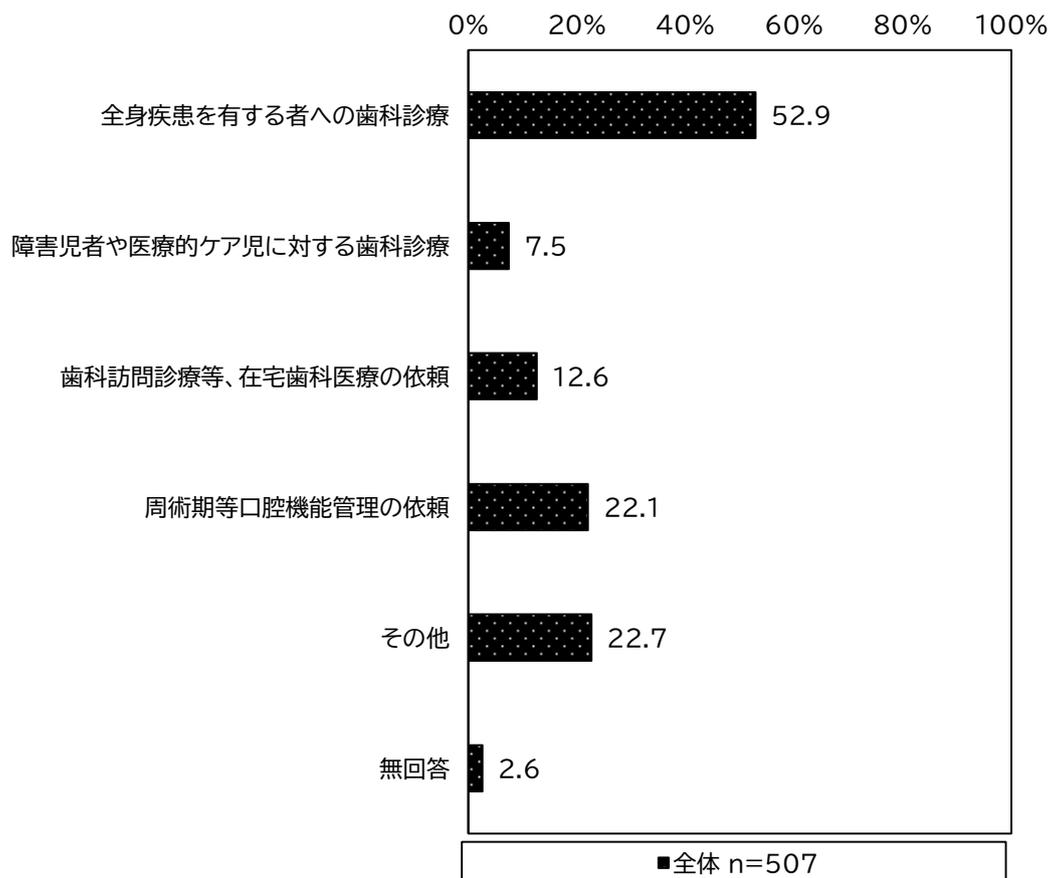
図表 2-151 歯科医療機関からの文書による診療情報提供はあったか



④ 歯科医療機関からの文書による診療情報提供の内容

歯科医療機関からの文書による診療情報提供の有無で「あり」を選択した場合、診療情報提供の内容について尋ねたところ、「全身疾患を有する者への歯科診療」が52.9%であった。

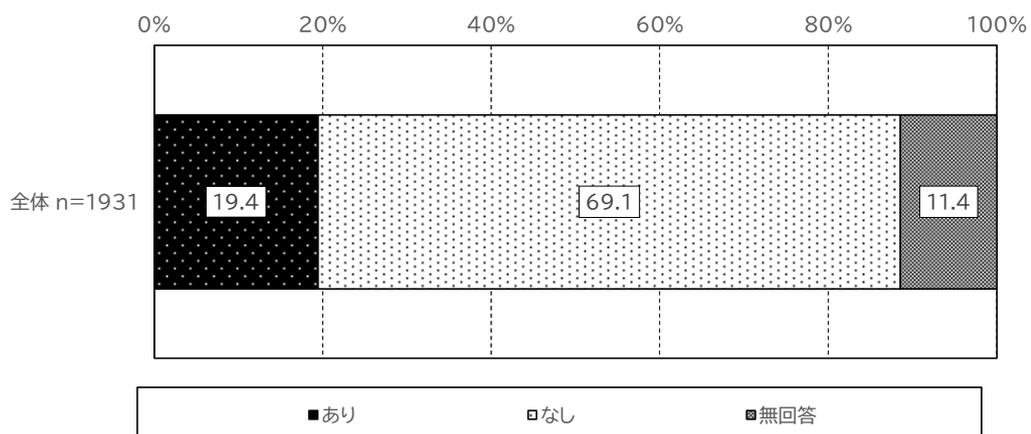
図表 2-152 歯科医療機関からの文書による診療情報提供の内容（複数回答）



⑤ 歯科医療機関への文書による診療情報提供（診療情報提供料を算定していないもの）の有無

歯科医療機関への文書による診療情報提供（診療情報提供料を算定していないもの）の有無については「あり」が19.4%、「なし」が69.1%であった。

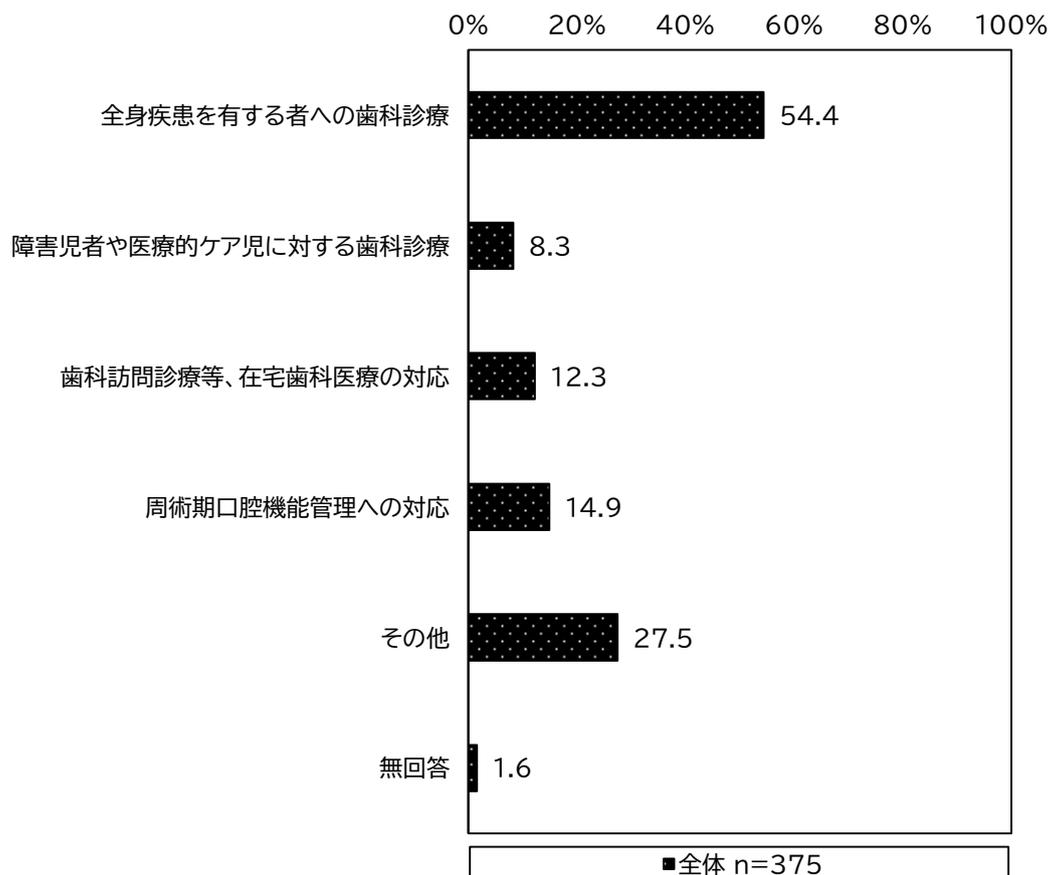
図表 2-153 歯科医療機関への文書による診療情報提供の有無



⑥ 歯科医療機関への診療情報提供の内容

歯科医療機関への文書による診療情報提供の有無について「あり」を選択した場合、診療情報提供の内容について尋ねたところ、「全身疾患を有する者への歯科診療」が54.4%であった。

図表 2-154 歯科医療機関への診療情報の提供内容（複数回答）

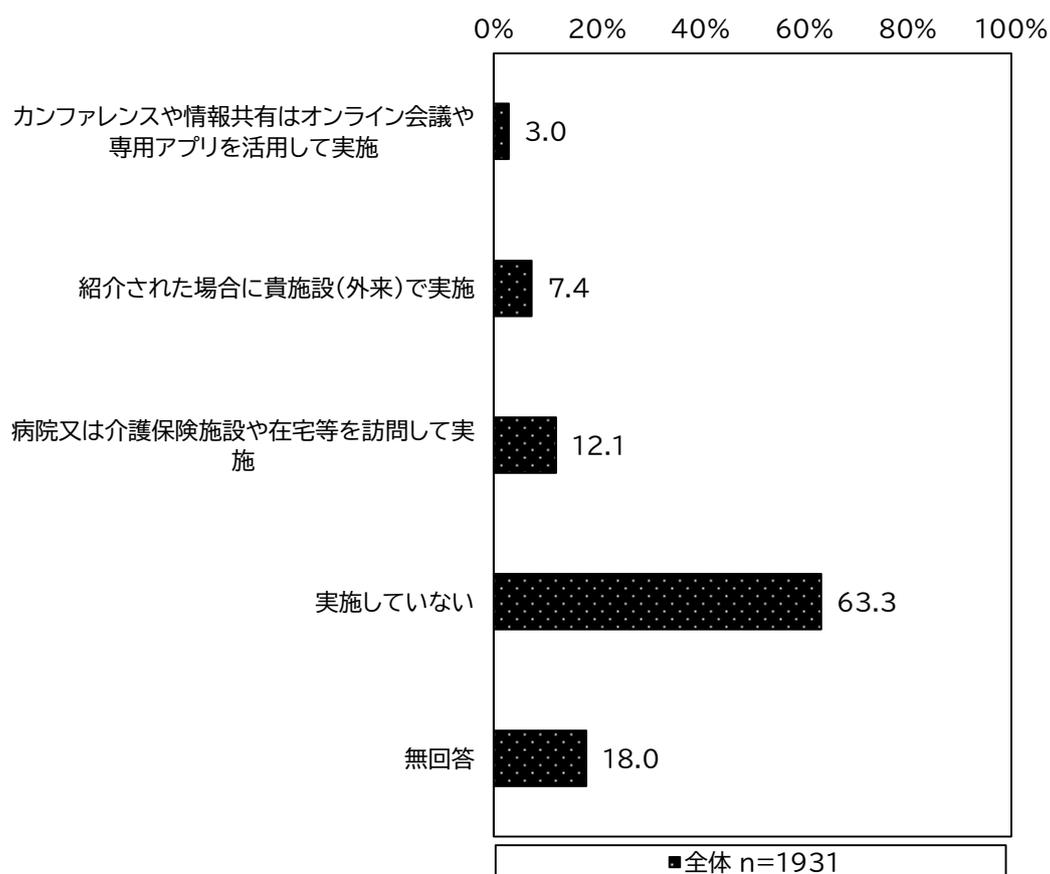


(2) 入院患者や施設入所者などに対する、リハビリテーション・口腔・栄養に関する多職種連携の状況(令和5年6月の1か月間)

① 多職種連携の取組方法

多職種連携の取組方法については、「実施していない」が63.3%、「病院又は介護保険施設や在宅等を訪問して実施」が12.1%であった。

図表 2-155 多職種連携の取組方法をどのように行っているか(複数回答)

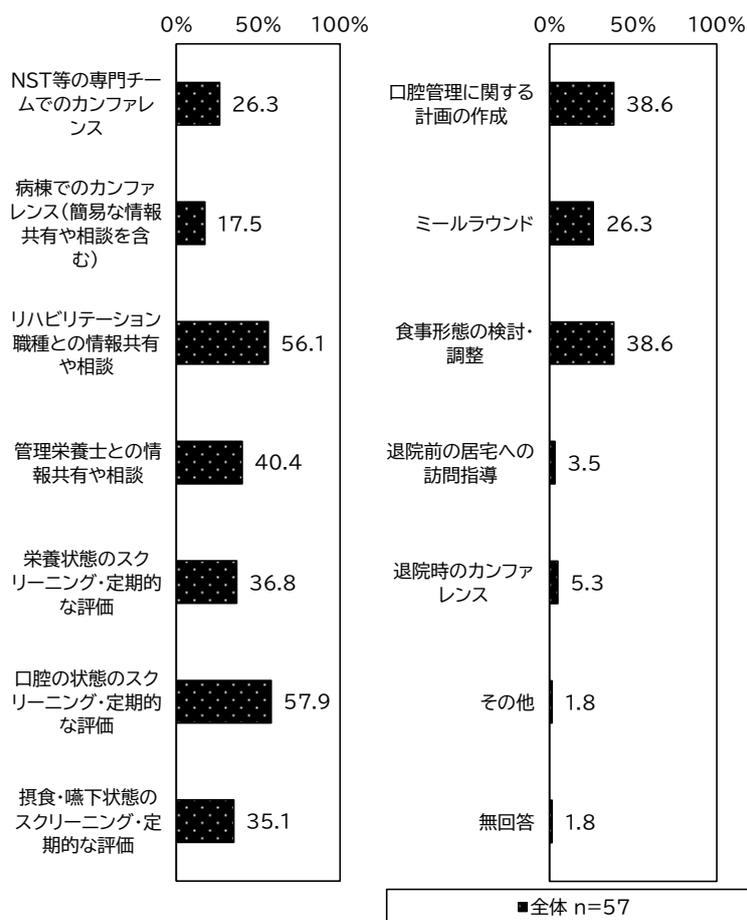


② 多職種連携の取組を「カンファレンスや情報共有はオンライン会議や専用アプリを活用して実施」する場合の実施した内容と、連携した職種

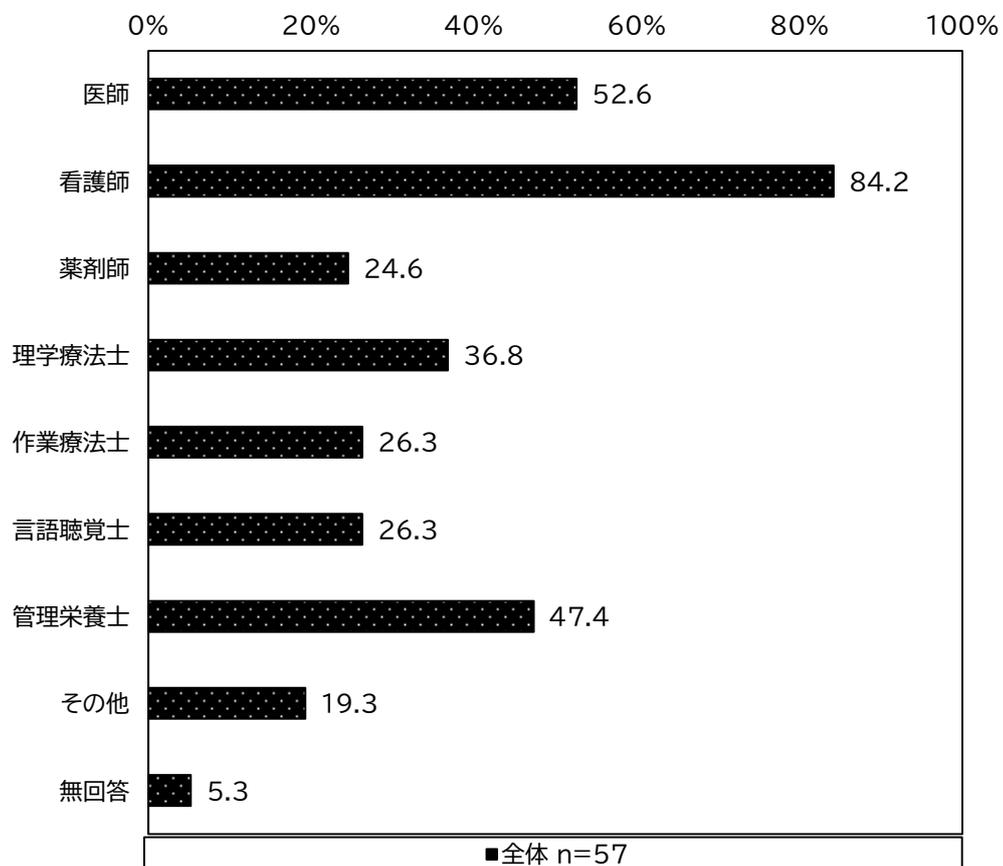
多職種連携の取組を「カンファレンスや情報共有はオンライン会議や専用アプリを活用して実施」している場合、当該期間に実施した内容を尋ねたところ、「口腔の状態のスクリーニング・定期的な評価」が57.9%であった。

連携した職種については「看護師」が84.2%であった。

図表 2-156 多職種連携の取組を「カンファレンスや情報共有はオンライン会議や専用アプリを活用して実施」する場合の実施内容（複数回答）



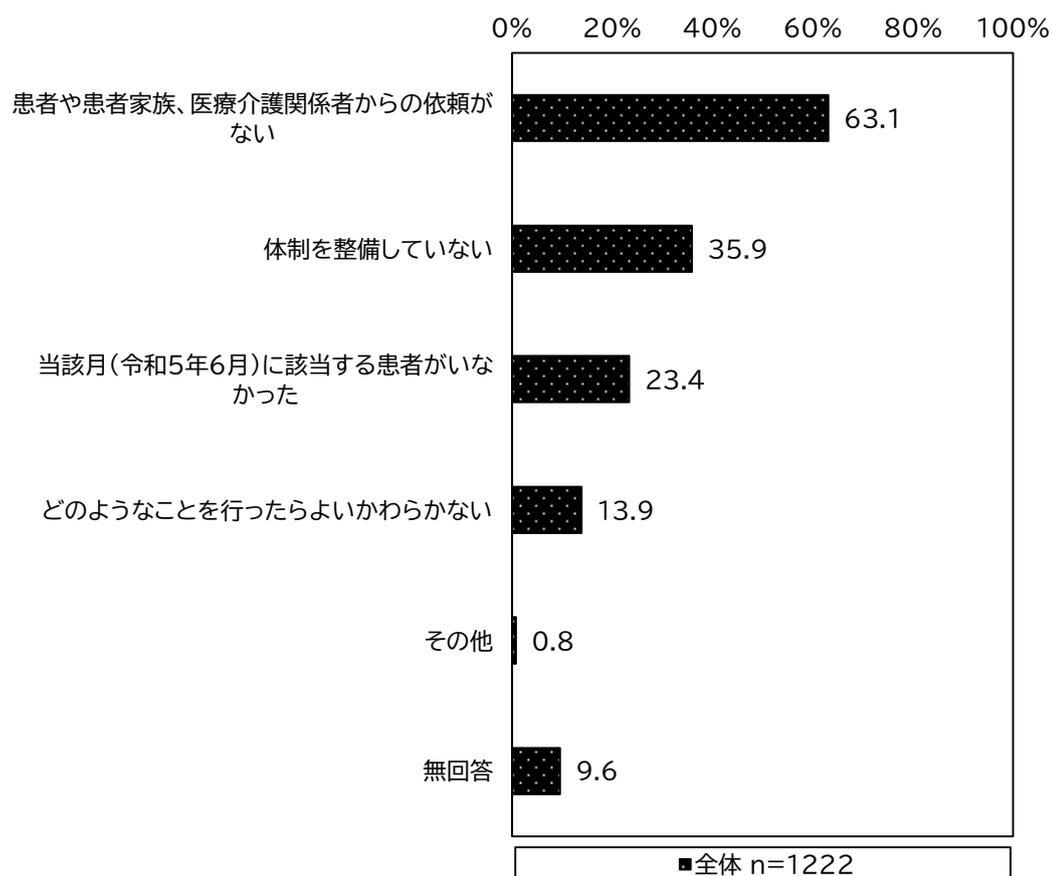
図表 2-157 多職種連携の取組を「カンファレンスや情報共有はオンライン会議や専用アプリを活用して実施」する場合に連携した職種（複数回答）



③ 多職種連携の取組を実施していない理由

多職種連携の取組をどのように行っているかについて「実施していない」を選択した場合、その理由を尋ねたところ、「患者や患者家族、医療介護関係者からの依頼がない」が63.1%であった。

図表 2-158 多職種連携の取組を実施していない理由（複数回答）



3. 患者調査

【調査対象等】

調査対象：「施設調査」の対象施設を受診した患者のうち、各施設で「歯科疾患管理料」を算定した2人の再診患者
調査客体数は最大で4,000人（ $2 \times 2,000 = 4,000$ 人）

回答数：2,666人

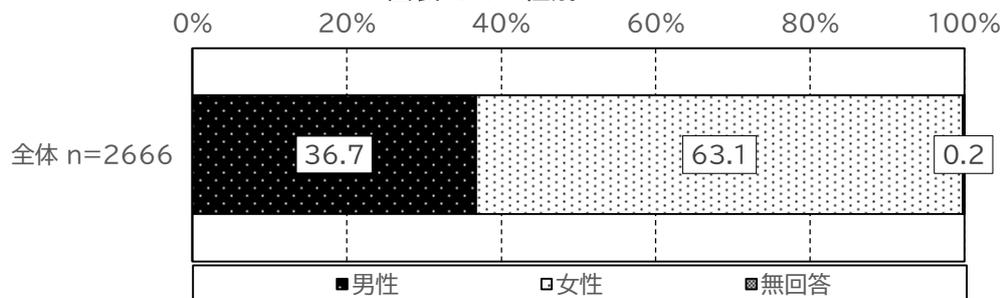
回答者：患者本人もしくは家族

1) 患者さん（本日診療を受けた方）について

(1) 性別

患者の性別は「男性」、36.7%、「女性」、63.1%であった。

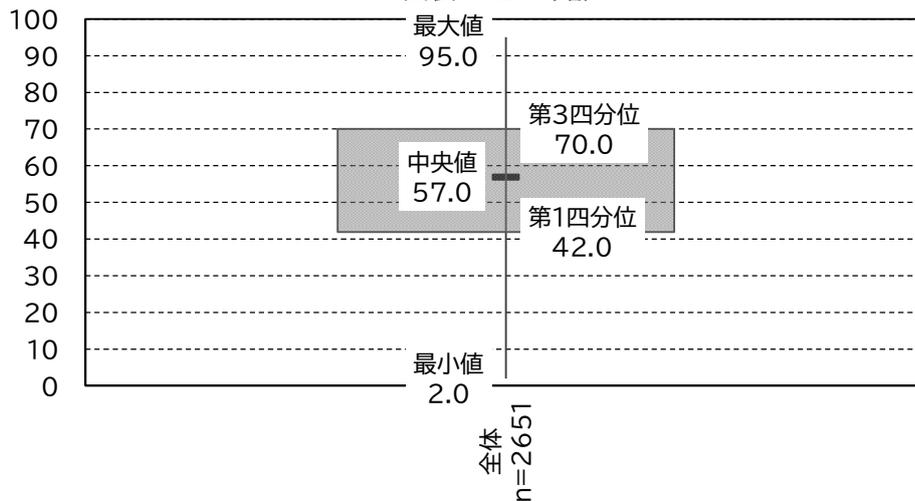
図表 3-1 性別



(2) 年 齢

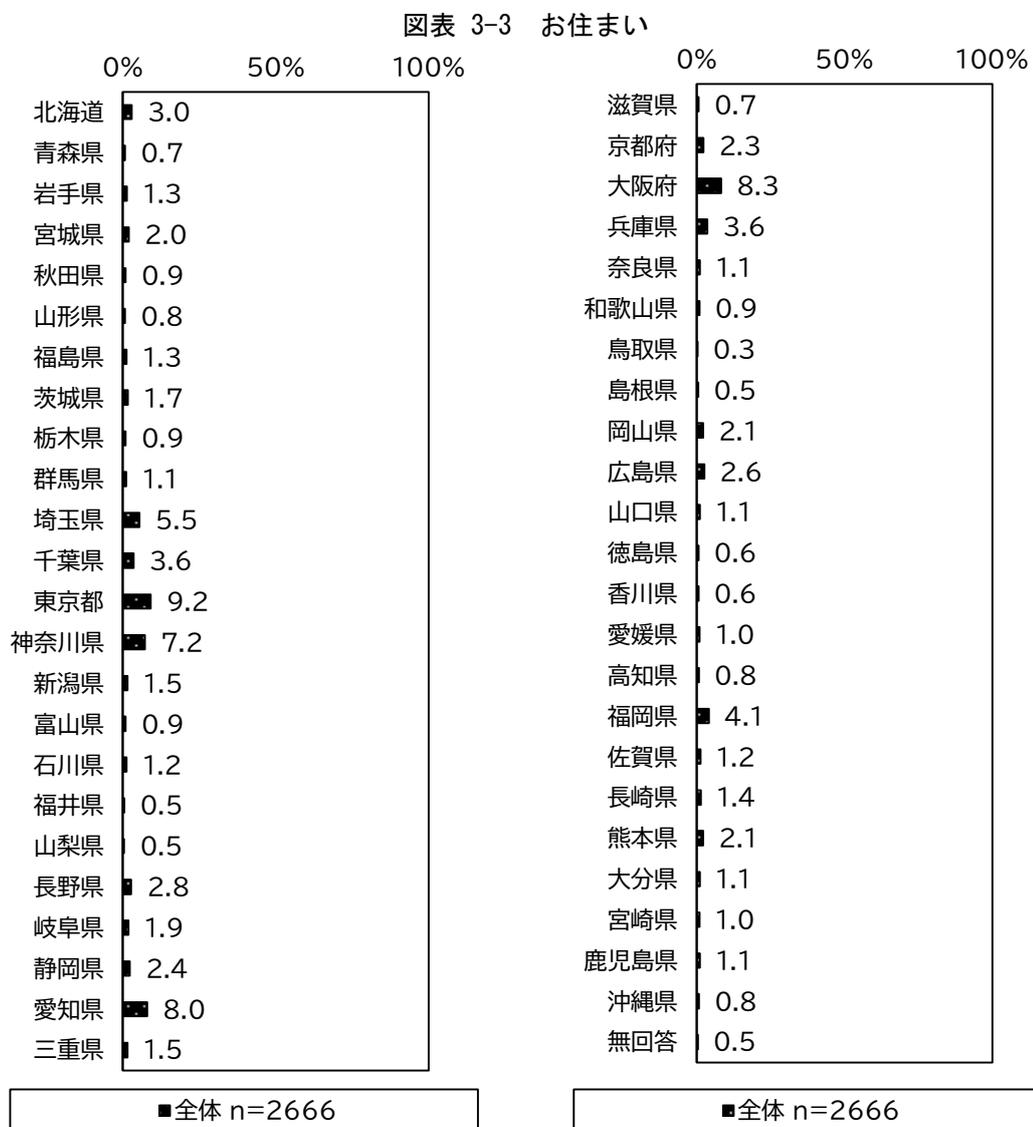
患者の年齢は中央値が 57 歳、最小が 2 歳、最大が 95 歳であった。

図表 3-2 年齢



(3) お住まい

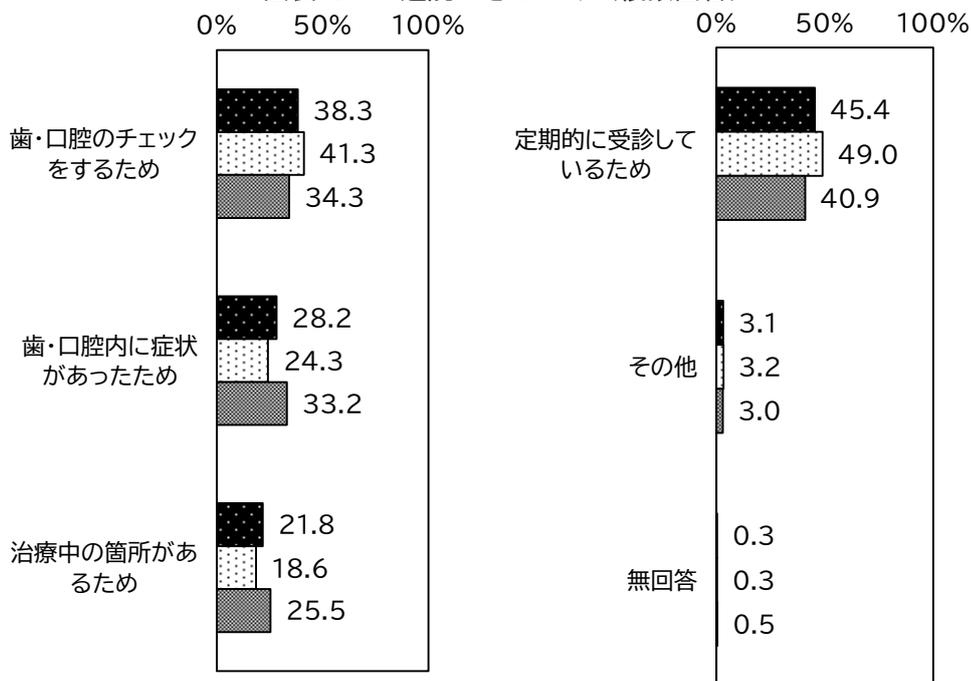
患者の都道府県別分布は東京都が9.2%、大阪府が8.3%であった。



(4) 本日受診している歯科診療所への通院のきっかけ

本日受診している歯科診療所への通院のきっかけは「歯・口腔のチェックをするため」38.3%、「歯・口腔内に症状があったため」28.2%、「治療中の箇所があるため」21.8%、「定期的に通院しているため」45.4%であった。

図表 3-4 通院のきっかけ（複数回答）

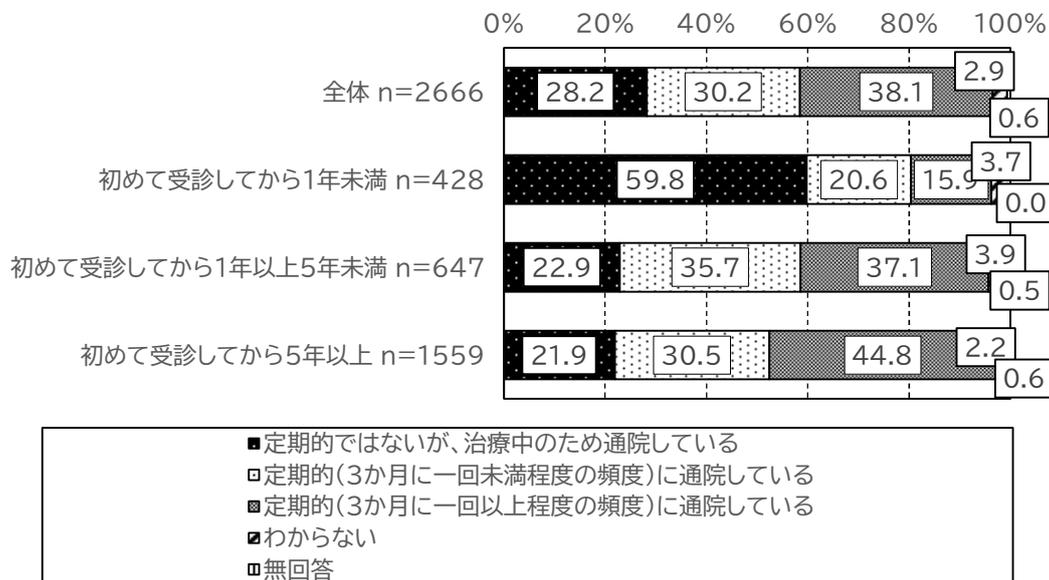
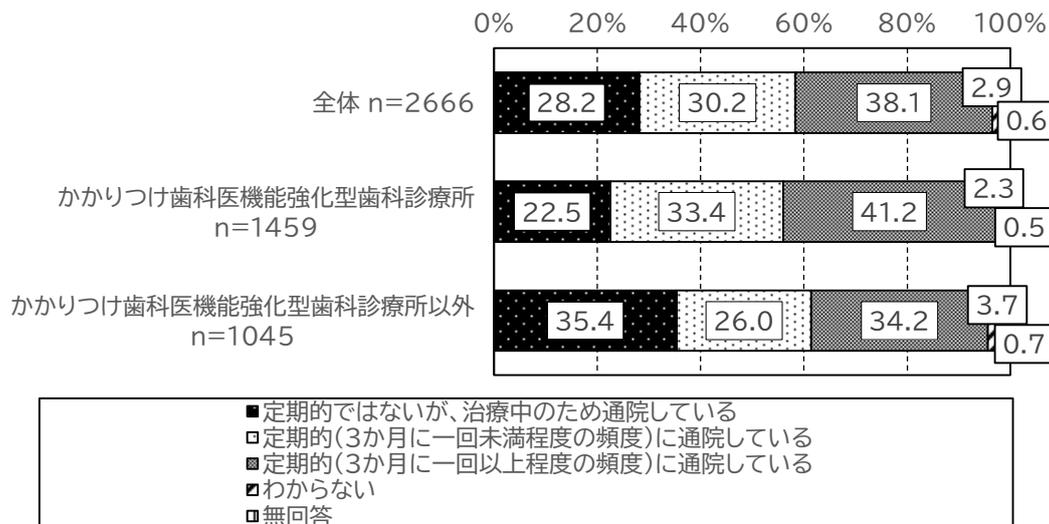


■全体 n=2666
 □かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所 n=1459
 ■かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所以外 n=1045

(5) 本日受診している歯科診療所への通院頻度

本日受診している歯科診療所への通院頻度は「定期的ではないが、治療中のため通院している」28.2%、「定期的（3か月に一回未満程度の頻度）に通院している」30.2%、「定期的（3か月に一回以上程度の頻度）に通院している」38.1%であった。

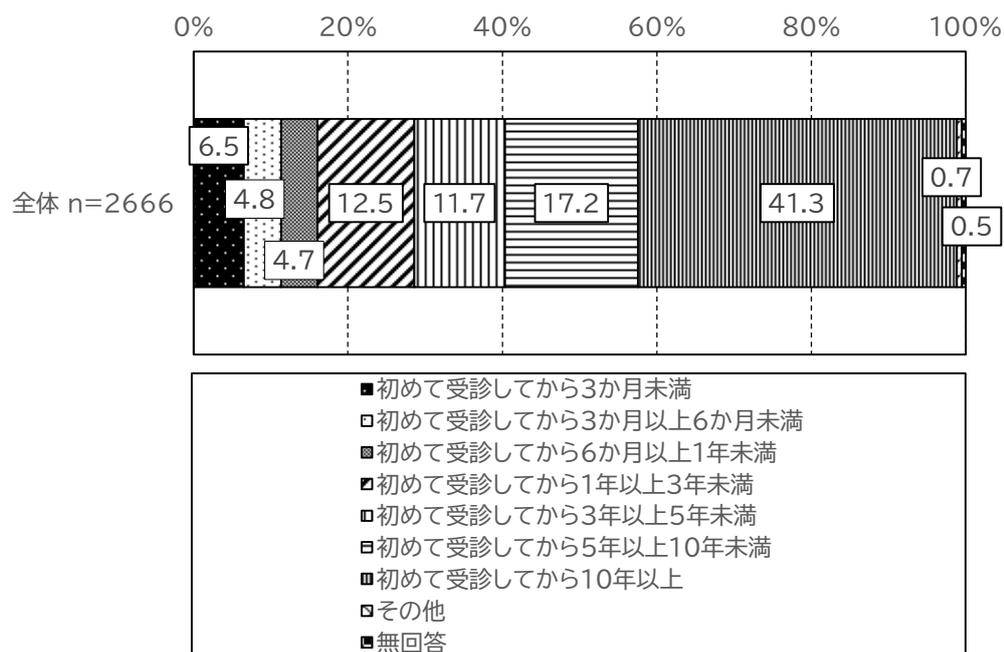
図表 3-5 通院頻度



(6) 本日受診している歯科診療所へいつ頃から受診しているか

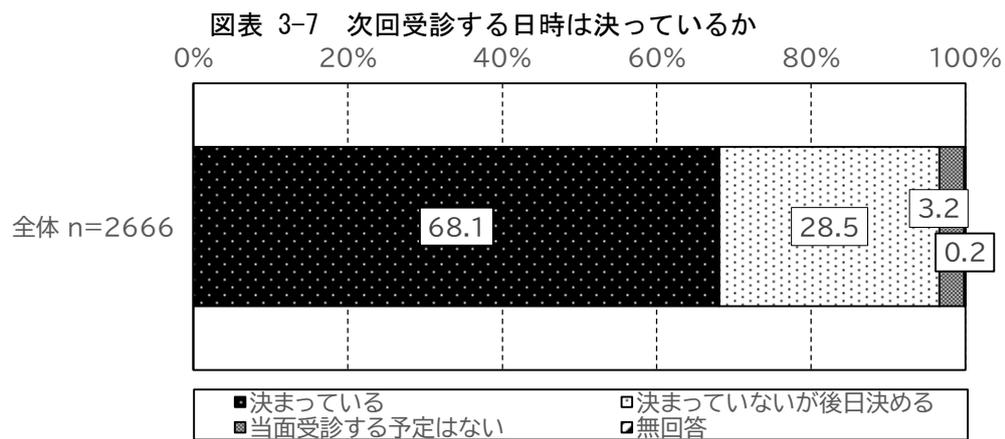
本日受診している歯科診療所へいつ頃から受診しているかについては、「初めて受診してから3か月未満」6.5%、「初めて受診してから3か月以上6か月未満」4.8%、「初めて受診してから6か月以上1年未満」4.7%、「初めて受診してから1年以上3年未満」12.5%、「初めて受診してから3年以上5年未満」11.7%、「初めて受診してから5年以上10年未満」17.2%、「初めて受診してから10年以上」41.3%、であった。

図表 3-6 いつ頃から受診しているか



(7) 本日受診した歯科診療所に次回受診する日時は決まっているか

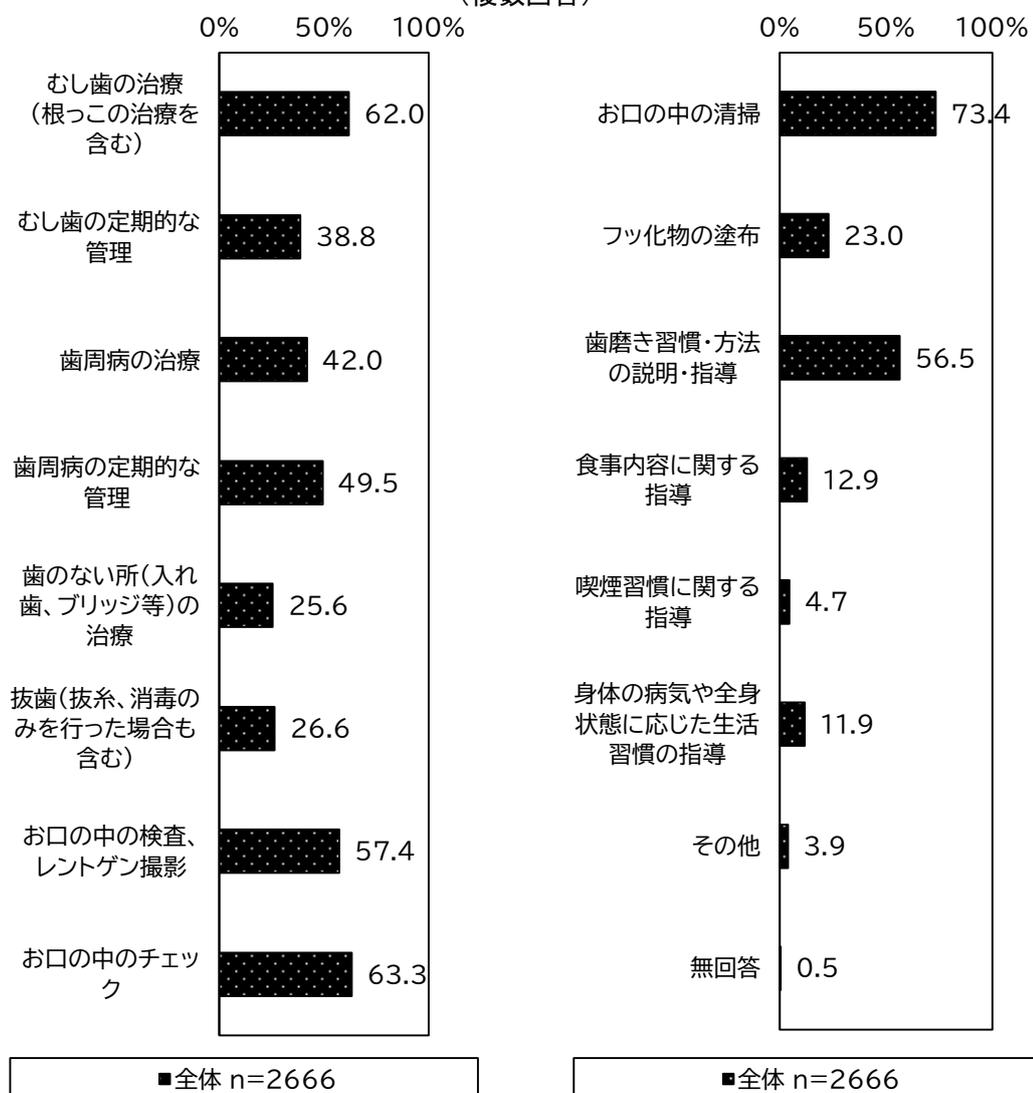
本日受診した歯科診療所に次回受診する日時は決まっているかについては、「決まっている」68.1%、「決まっていないが後日決める」28.5%、「当面受診する予定はない」3.2%であった。



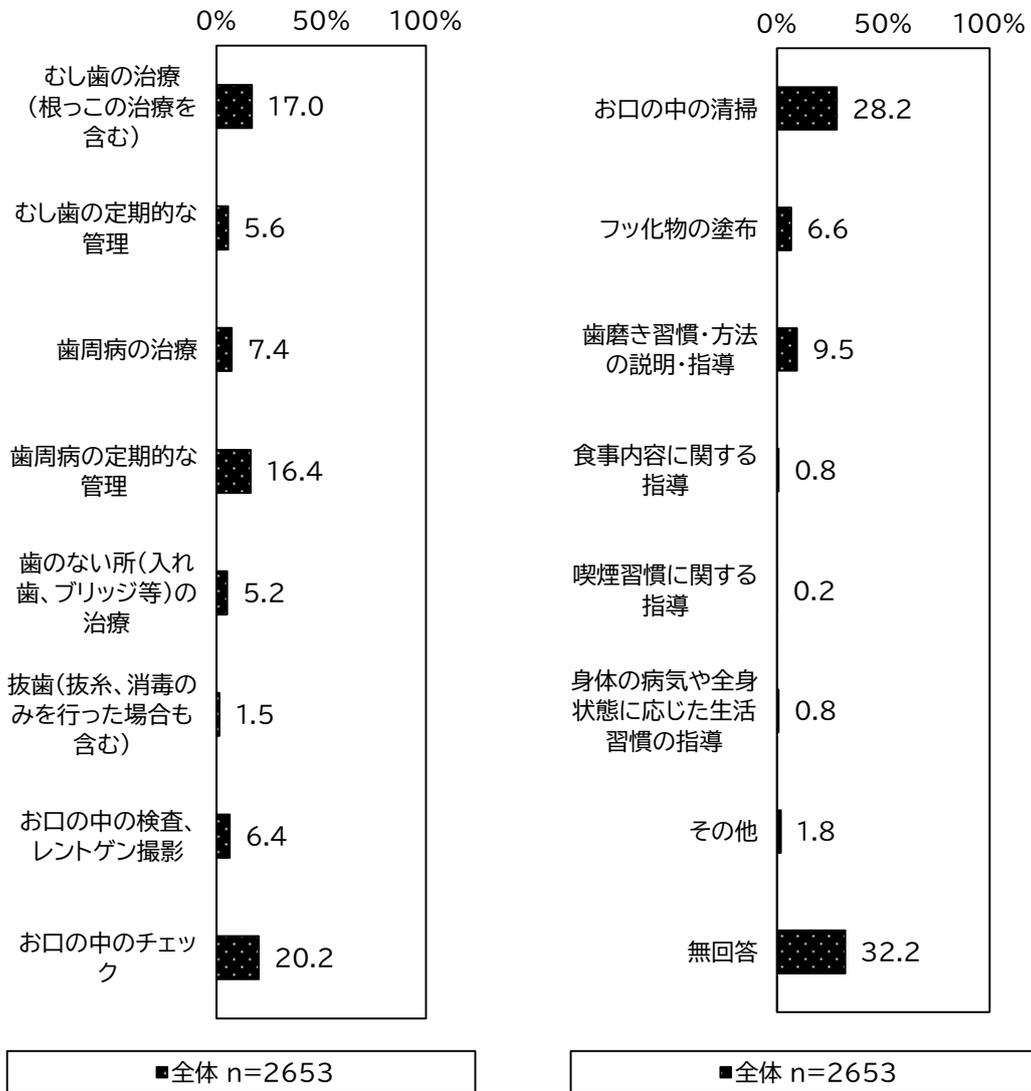
(8) 本日受診している歯科診療所でこれまでに受けたことのある治療と本日受けた治療の内容

歯科医師もしくは歯科衛生士から受けた治療等の内容について本日受診している歯科診療所でこれまでに受けたことのある治療等の内容は「むし歯の治療（根っこの治療を含む）」62.0%、「むし歯の定期的な管理」38.8%、「歯周病の治療」42.0%、「歯周病の定期的な管理」49.5%、「歯のない所（入れ歯、ブリッジ等）の治療」25.6%、「抜歯（抜糸、消毒のみを行った場合も含む）」26.6%、「お口の中の検査、レントゲン撮影」57.4%、「お口の中のチェック」63.3%、「お口の中の清掃」73.4%、「フッ化物の塗布」23.0%、「歯磨き習慣・方法の説明・指導」56.5%、「食事内容に関する指導」12.9%、「喫煙習慣に関する指導」4.7%、「身体の病気や全身状態に応じた生活習慣の指導」11.9%、であった。

図表 3-8 本日受診している歯科診療所でこれまでに受けたことのある治療の内容（複数回答）



図表 3-9 本日受診している歯科診療所で本日受けた治療の内容（複数回答）

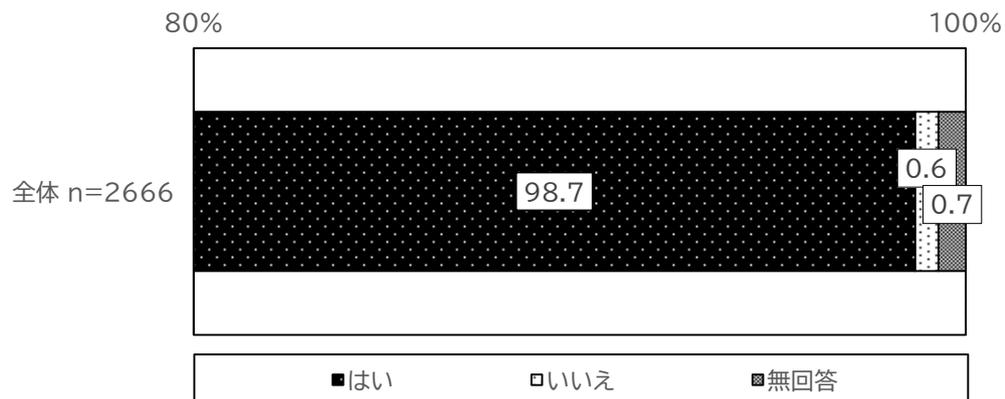


(9) むし歯や歯周病の定期的な管理について

① むし歯や歯周病の定期的な管理は重要だと思うか

むし歯や歯周病の定期的な管理は重要だと思うかについては「はい」98.7%、「いいえ」0.6%であった。

図表 3-10 むし歯や歯周病の定期的な管理は重要だと思うか

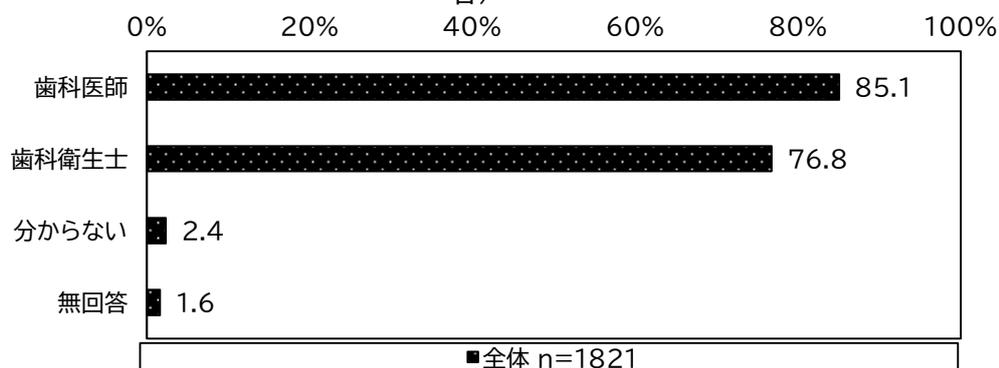


② むし歯や歯周病の定期的な管理を実施している専門職について

※本日受診している歯科診療所への通院頻度が「定期的（3か月に一回未満程度の頻度）に通院している」または「定期的（3か月に一回以上程度の頻度）に通院している」を選んだ方について

むし歯や歯周病の定期的な管理を実施している専門職は「歯科医師」85.1%、「歯科衛生士」76.8%、「分からない」2.4%であった。

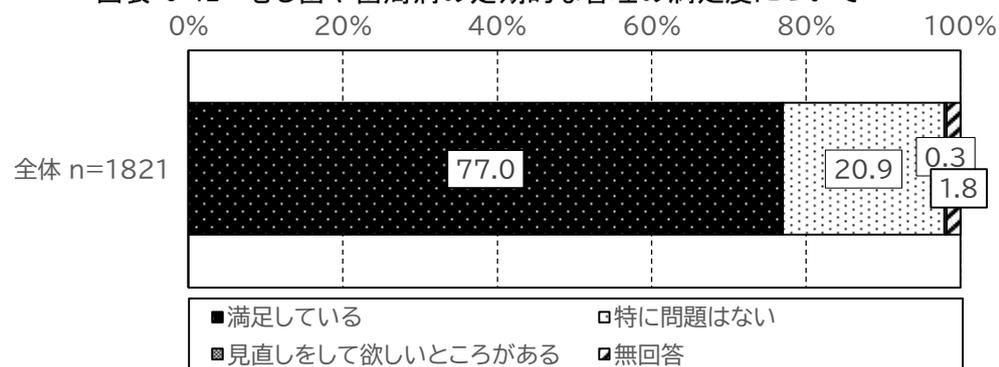
図表 3-11 むし歯や歯周病の定期的な管理を実施している専門職について（複数回答）



③ むし歯や歯周病の定期的な管理の満足度について

むし歯や歯周病の定期的な管理の満足度は「満足している」77.0%、「特に問題はない」20.9%、「見直しをして欲しいところがある」0.3%であった。

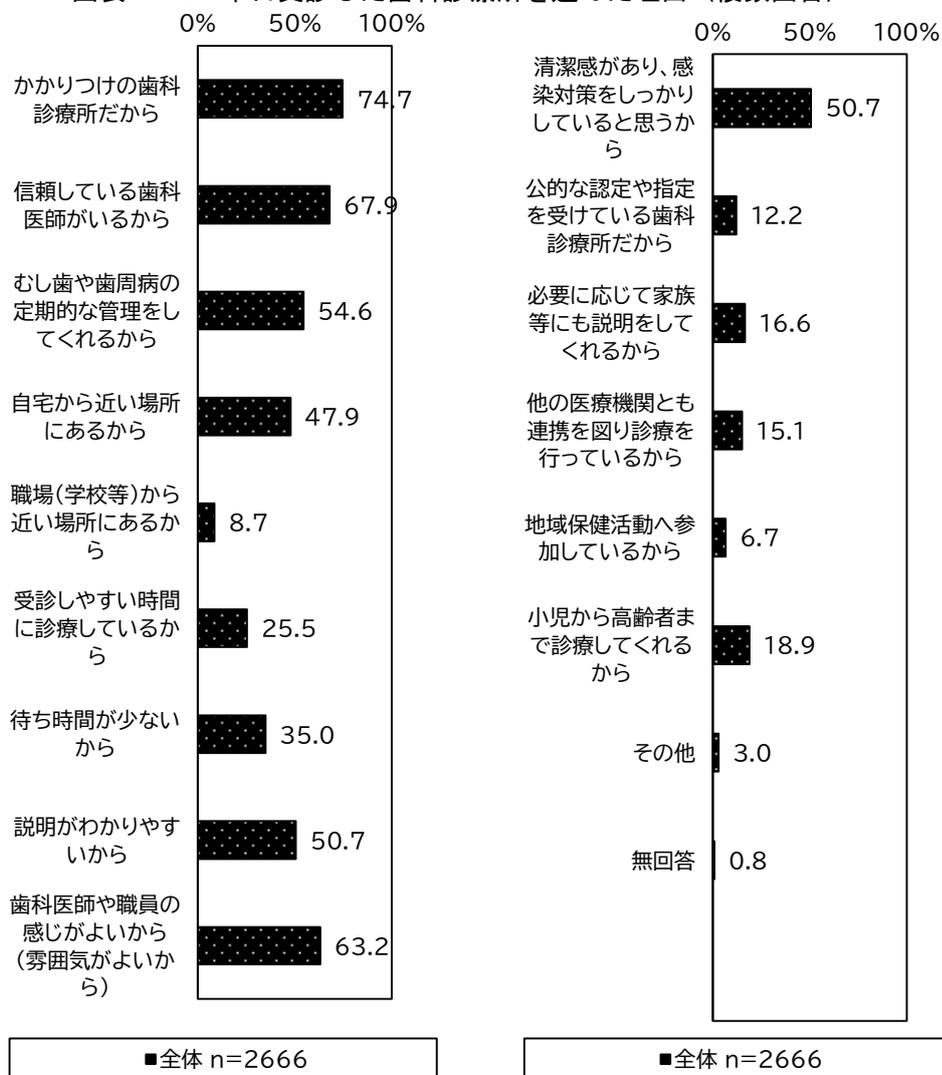
図表 3-12 むし歯や歯周病の定期的な管理の満足度について



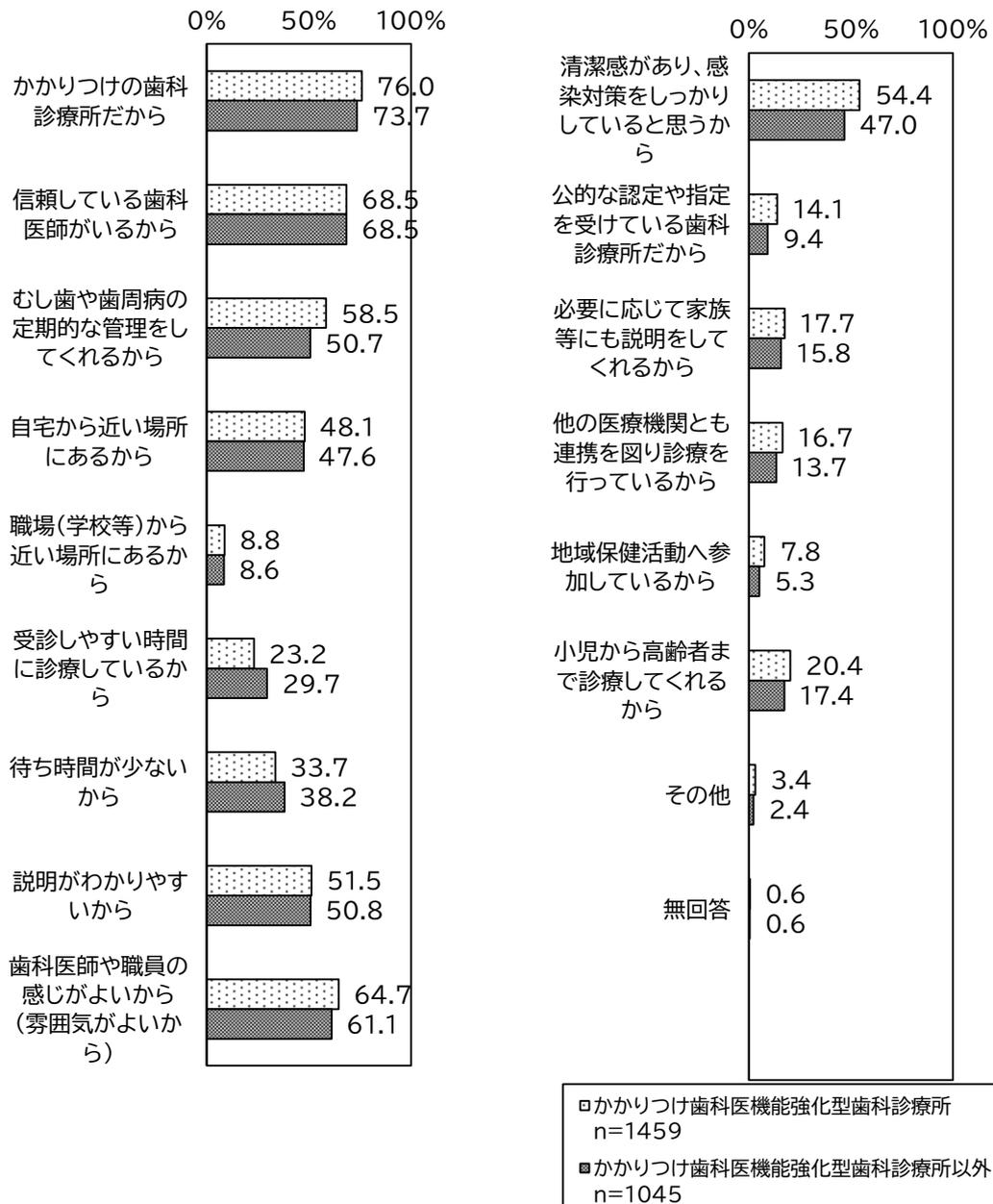
(10) 本日受診した歯科診療所を選んだ理由

本日受診した歯科診療所を選んだ理由は「かかりつけの歯科診療所だから」74.7%、「信頼している歯科医師がいるから」67.9%、「むし歯や歯周病の定期的な管理をしてくれるから」54.6%、「自宅から近い場所にあるから」47.9%、「職場(学校等)から近い場所にあるから」8.7%、「受診しやすい時間に診療しているから」25.5%、「待ち時間が少ないから」35.0%、「説明がわかりやすいから」50.7%、「歯科医師や職員の感じがよいから(雰囲気がよいから)」63.2%、「清潔感があり、感染対策をしっかりとっていると思うから」50.7%、「公的な認定や指定を受けている歯科診療所だから」12.2%、「必要に応じて家族等にも説明をしてくれるから」16.6%、「他の医療機関とも連携を図り診療を行っているから」15.1%、「地域保健活動へ参加しているから」6.7%、「小児から高齢者まで診療してくれるから」18.9%であった。

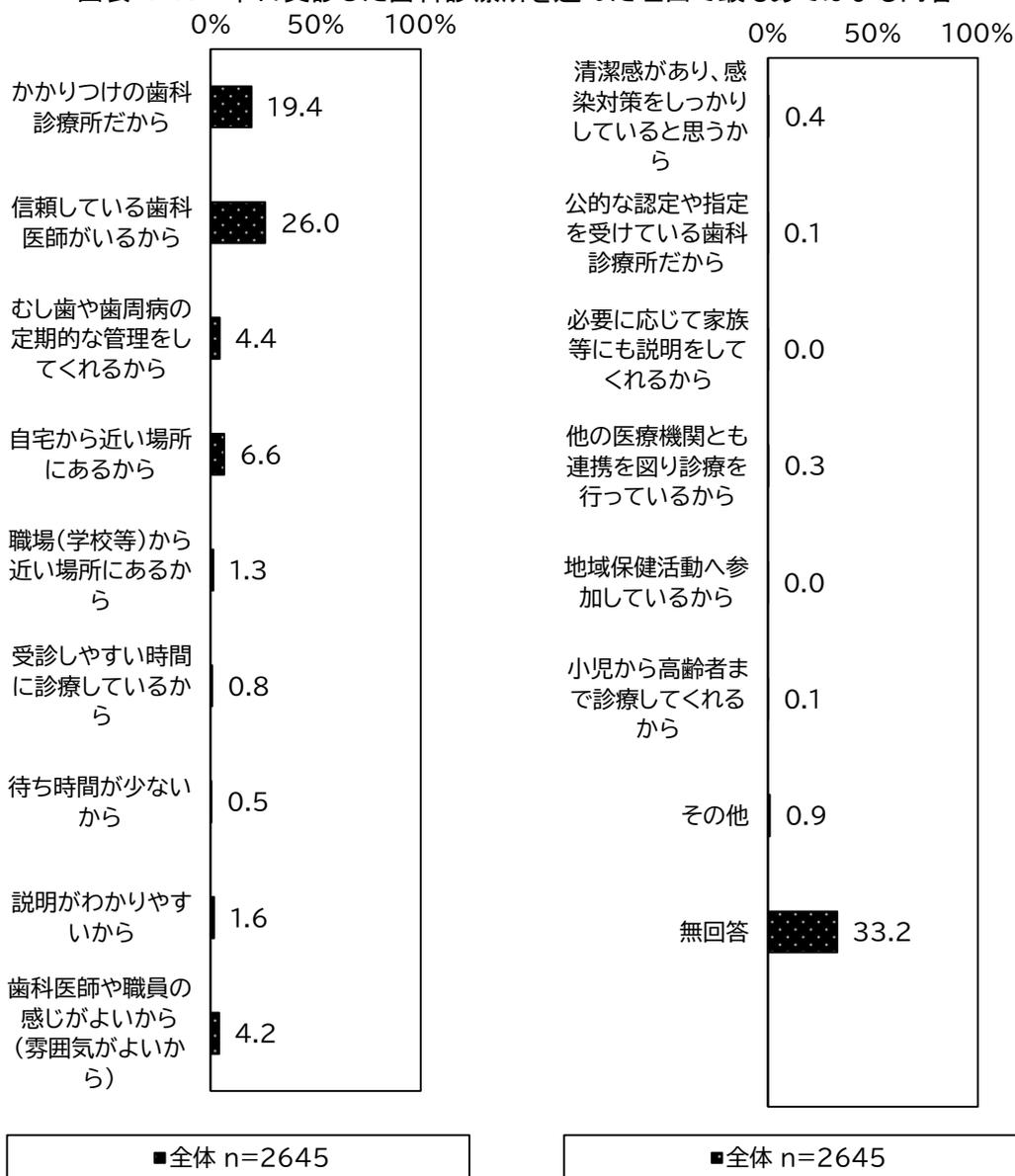
図表 3-13 本日受診した歯科診療所を選んだ理由(複数回答)



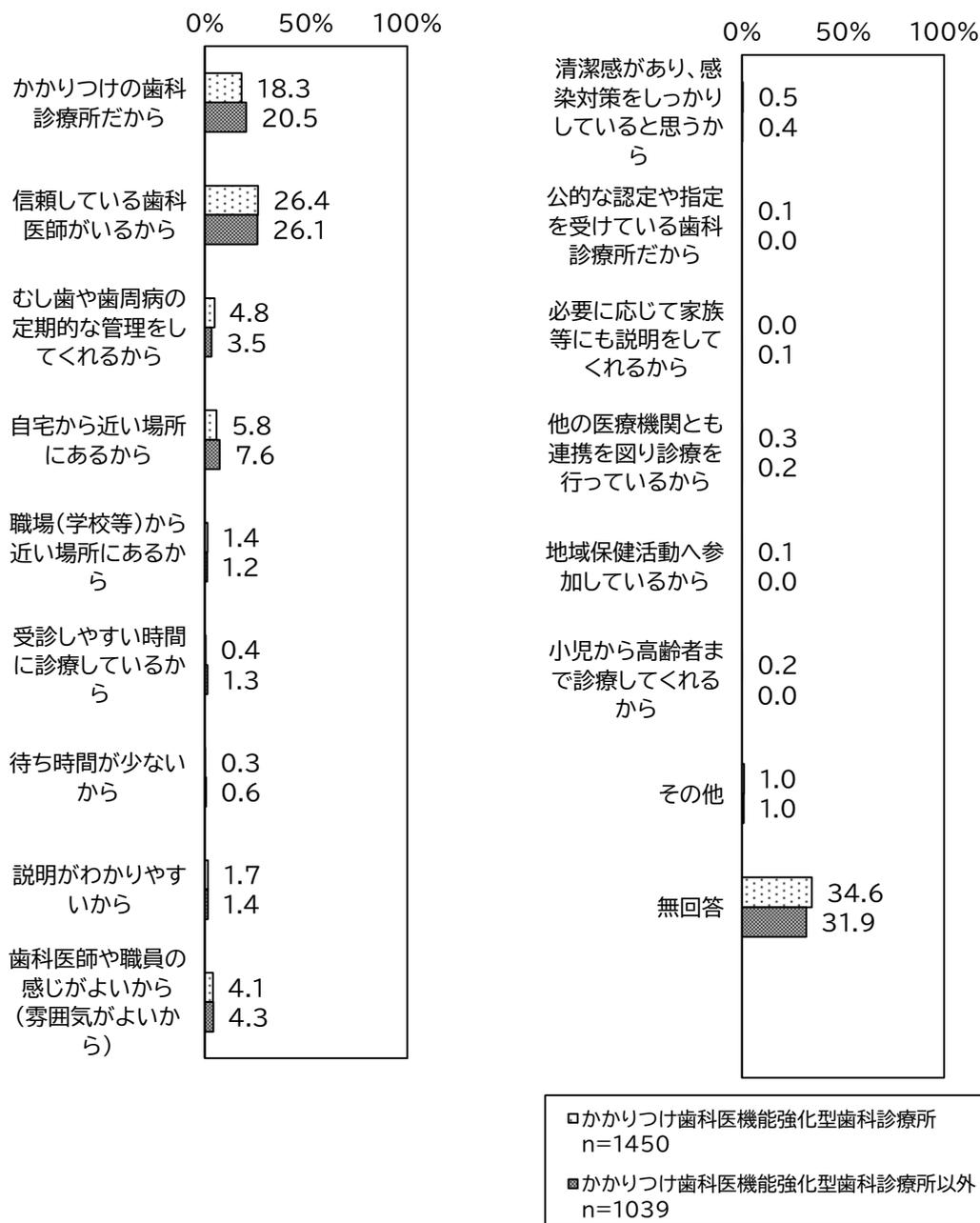
図表 3-14 本日受診した歯科診療所を選んだ理由（複数回答）
（か強診・か強診以外）



図表 3-15 本日受診した歯科診療所を選んだ理由で最もあてはまる内容



図表 3-16 本日受診した歯科診療所を選んだ理由で最もあてはまる内容
(か強診・か強診以外)



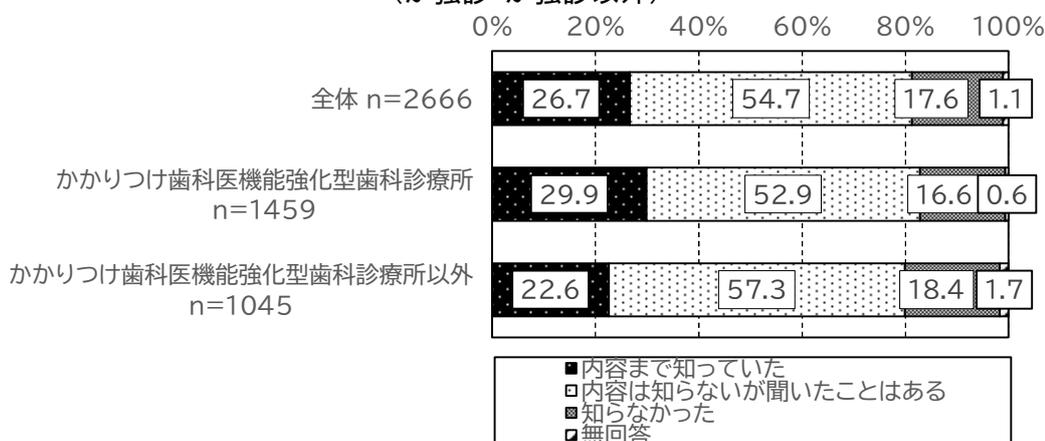
2) かかりつけ歯科医

※かかりつけ歯科医とは、安全・安心な歯科医療の提供のみならず医療・介護に係る幅広い知識と見識を備え、地域住民の生涯に亘る口腔機能の維持・向上をめざし、地域医療の一翼を担う者としてその責任を果たすことができる歯科医師のことを言います。

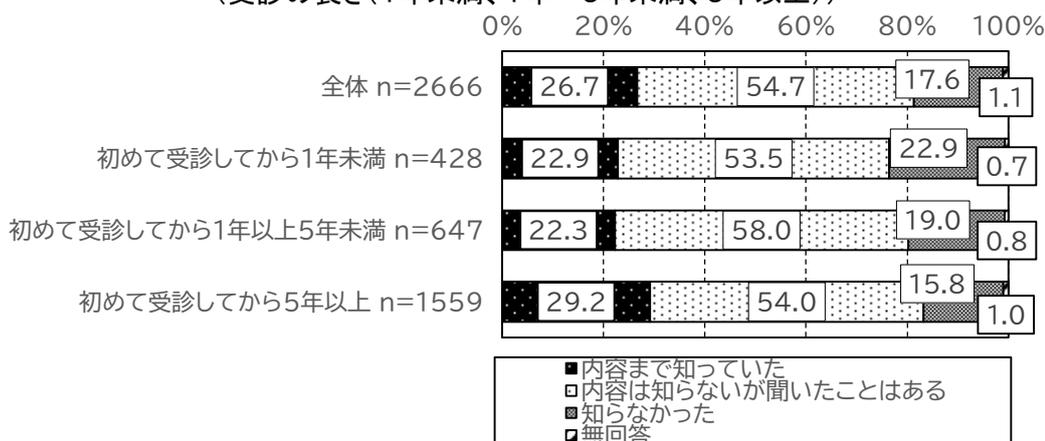
(1) 「かかりつけ歯科医」の認知度

「かかりつけ歯科医」という言葉を知っているかについては「内容まで知っていた」26.7%、「内容は知らないが聞いたことはある」54.7%、「知らなかった」17.6%であった。

図表 3-17 「かかりつけ歯科医」の認知度
(か強診・か強診以外)



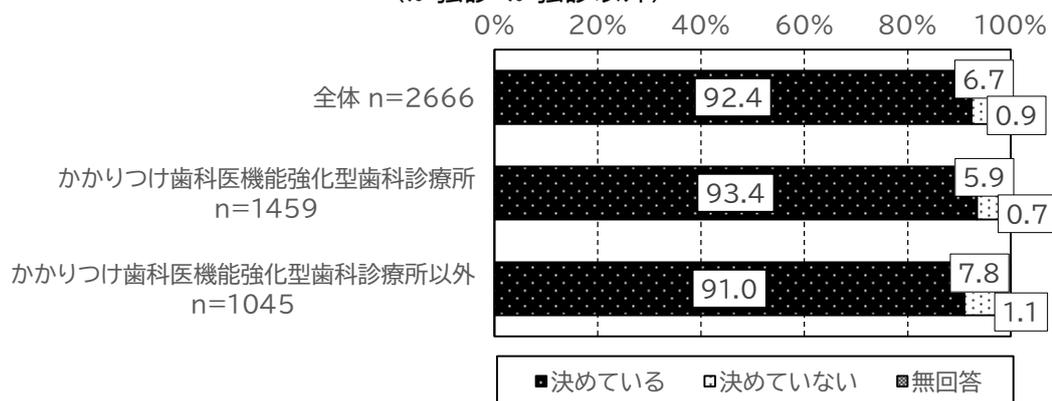
図表 3-18 「かかりつけ歯科医」の認知度
(受診の長さ(1年未満、1年～5年未満、5年以上))



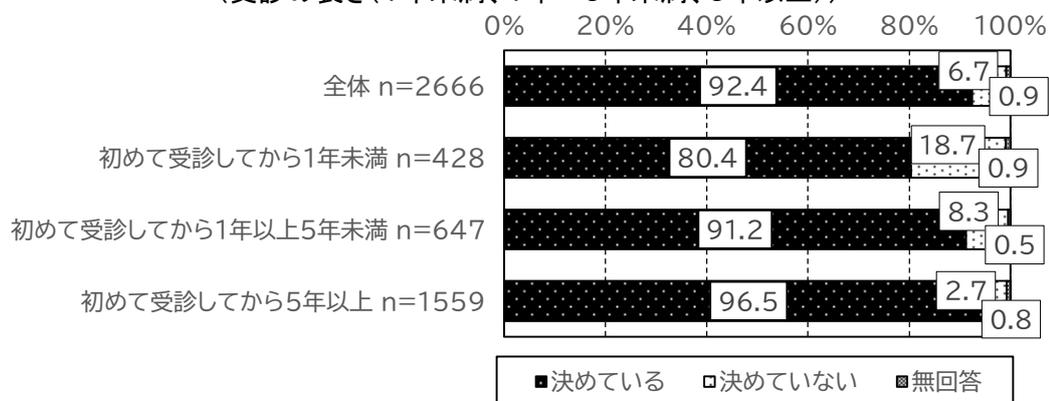
(2) かかりつけ歯科医を決めているか

かかりつけ歯科医を決めているかについては「決めている」92.4%、「決めていない」6.7%であった。

図表 3-19 かかりつけ歯科医を決めているか
(か強診・か強診以外)

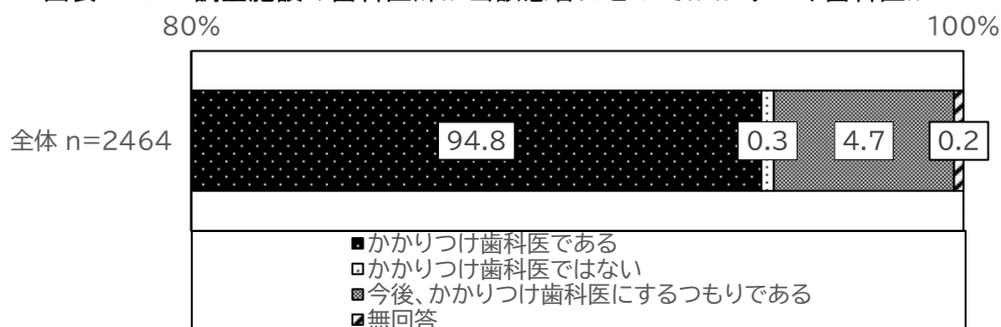


図表 3-20 かかりつけ歯科医を決めているか
(受診の長さ(1年未満、1年～5年未満、5年以上))



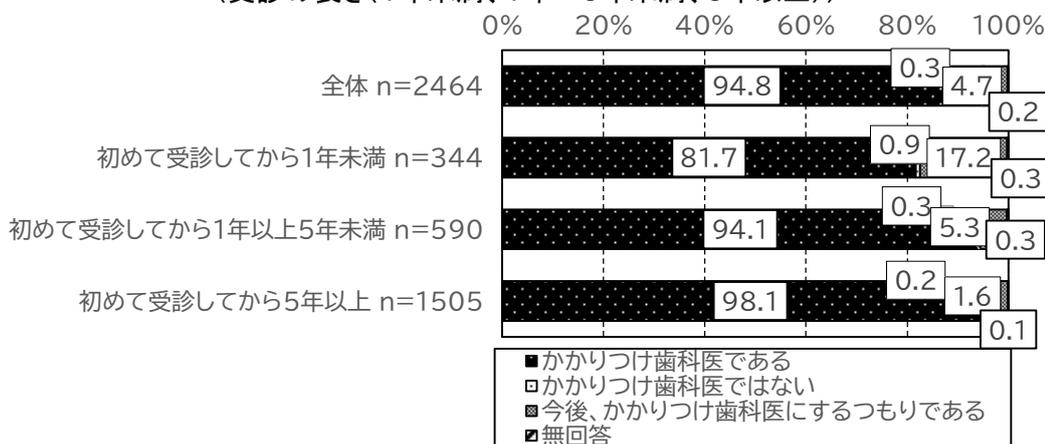
- ① かかりつけ歯科医を決めているかについて「決めている」を選んだ場合、本調査票を渡した歯科診療所の歯科医師は、当該患者にとってのかかりつけ歯科医か

図表 3-21 調査施設の歯科医師が当該患者にとってかかりつけ歯科医か



- ② かかりつけ歯科医を決めている場合に、受診した歯科診療所の歯科医師が「かかりつけ歯科医である」と回答した者は 94.8%、「かかりつけ歯科医ではない」0.3%、「今後、かかりつけ歯科医にするつもりである」4.7%であった。

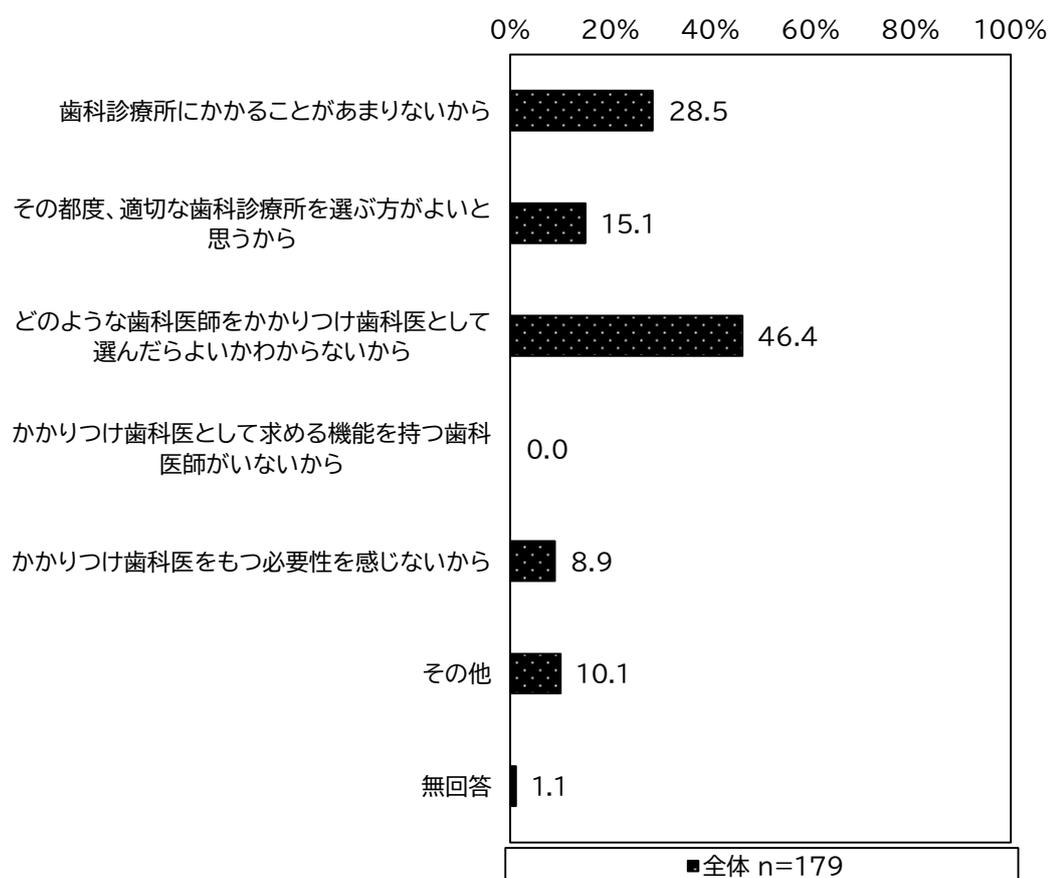
図表 3-22 かかりつけ歯科医を決めているかについて「決めている」を選んだ場合、本調査票を渡した歯科診療所の歯科医師は、当該患者にとってのかかりつけ歯科医か（受診の長さ(1年未満、1年～5年未満、5年以上)）



③ かかりつけ歯科医を決めていない患者の、かかりつけ歯科医を決めていない理由

かかりつけ歯科医を決めていない患者の、かかりつけ歯科医を決めていない理由は「歯科診療所にかかることがあまりないから」28.5%、「その都度、適切な歯科診療所を選ぶ方がよいと思うから」15.1%、「どのような歯科医師をかかりつけ歯科医として選んだらよいかわからないから」46.4%、「かかりつけ歯科医として求める機能を持つ歯科医師がないから」0.0%、「かかりつけ歯科医をもつ必要性を感じないから」8.9%、であった。

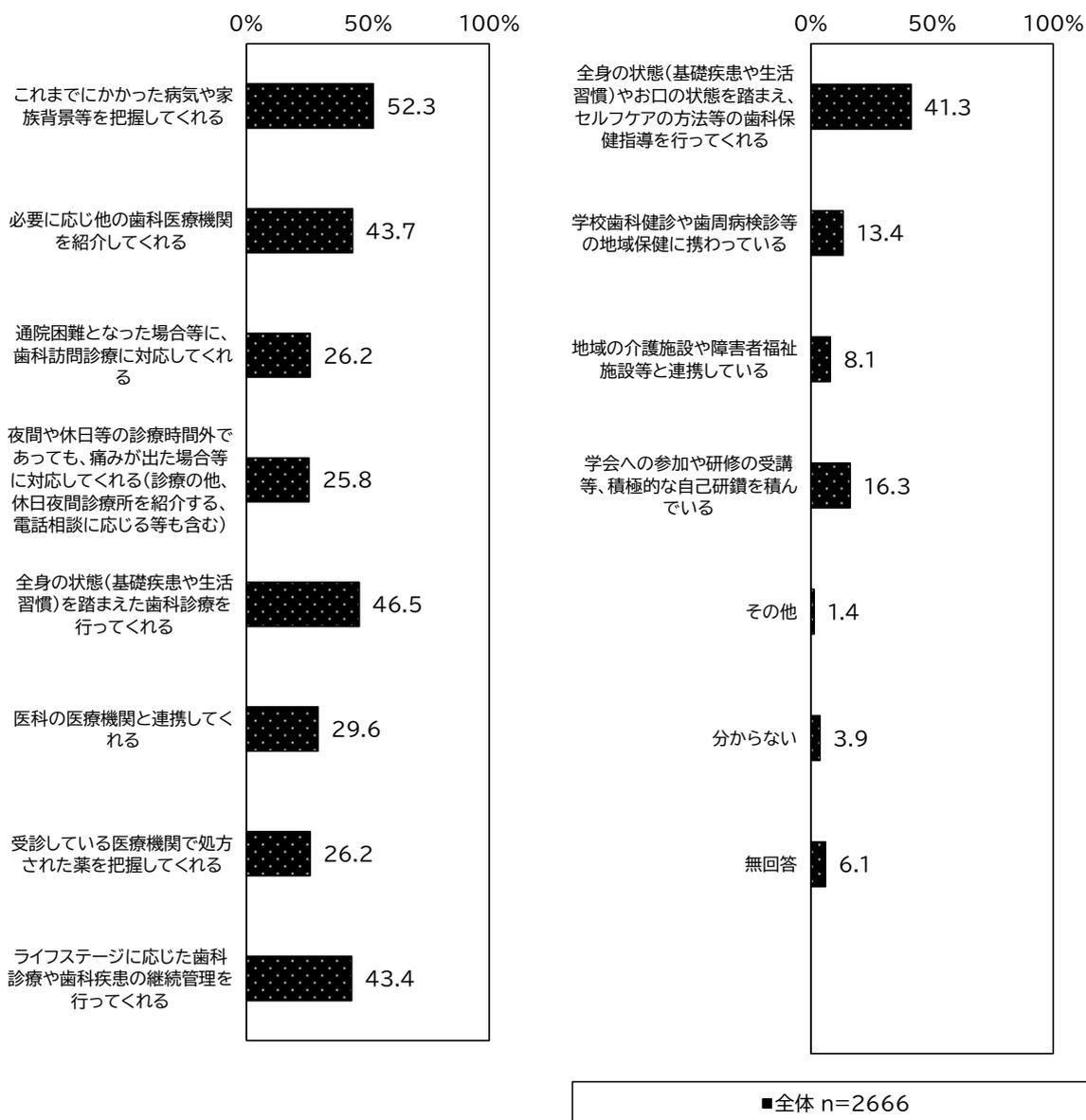
図表 3-23 かかりつけ歯科医を決めていない理由(複数回答)



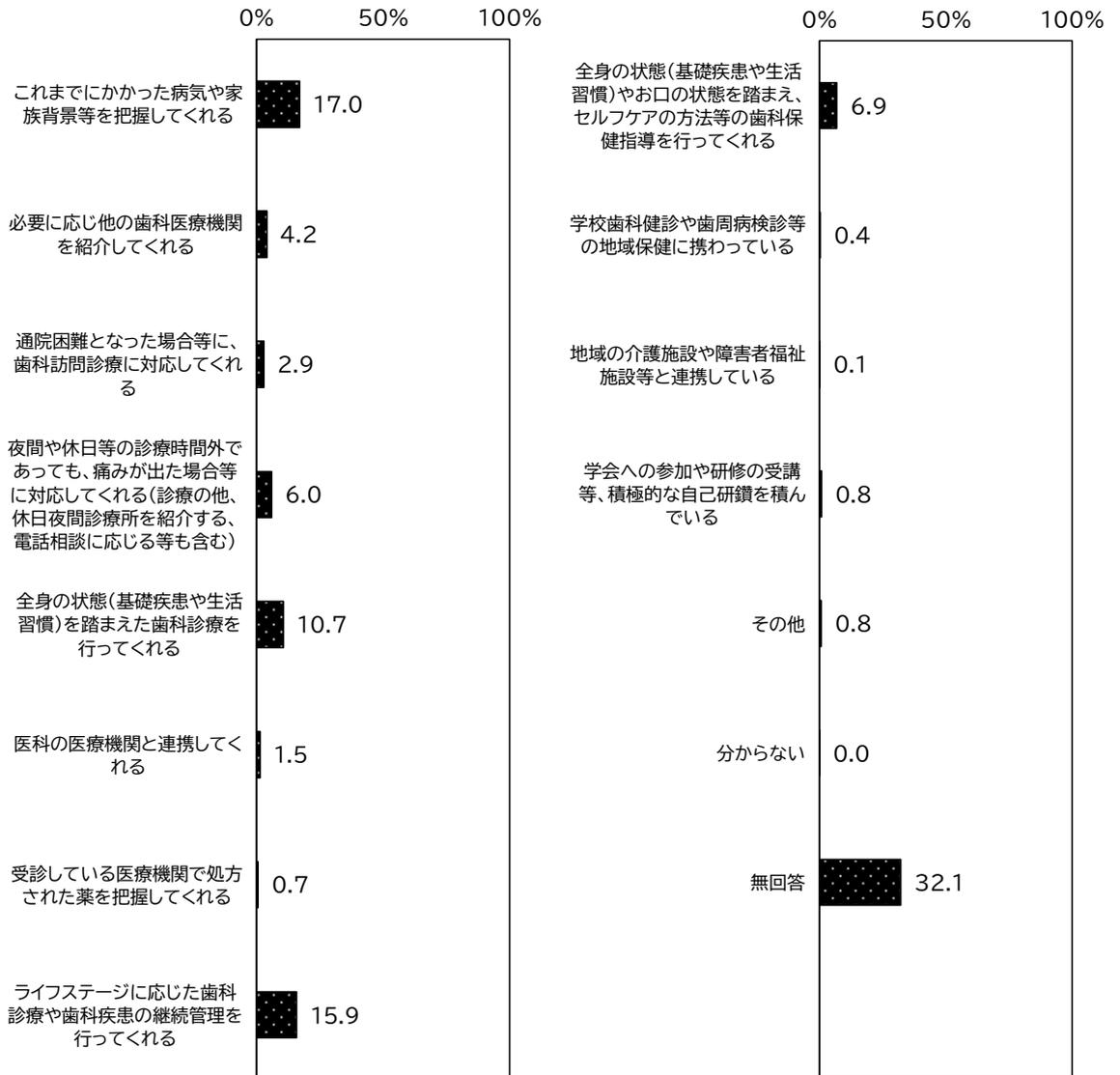
(3) 「かかりつけ歯科医」に求めるものは何か

「かかりつけ歯科医」に求めるものについては「これまでにかかった病気や家族背景等を把握してくれる」52.3%、「全身の状態（基礎疾患や生活習慣）を踏まえた歯科診療を行ってくれる」46.5%、「必要に応じ他の歯科医療機関を紹介してくれる」43.7%、「ライフステージに応じた歯科診療や歯科疾患の継続管理を行ってくれる」43.4%、「全身の状態（基礎疾患や生活習慣）やお口の状態を踏まえ、セルフケアの方法等の歯科保健指導を行ってくれる」41.3%であった。

図表 3-24 「かかりつけ歯科医」に求めるものは何か（複数回答）



図表 3-25 「かかりつけ歯科医」に最も求めるものは何か



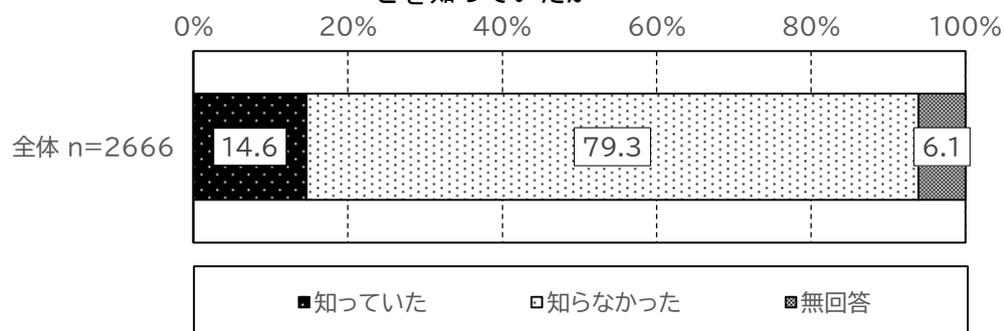
■全体 n=2400

(4) 「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」という歯科診療所があることを知っていたか

※「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」とは、患者さんにとってより安全で安心できる歯科医療の環境の整備、在宅医療、他の医療機関等と連携して、定期的、継続的に患者さんの口腔管理等を積極的に行っている歯科診療所で、一部の継続的な治療に関して、診療報酬で高く評価をしています。

「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」という歯科診療所があることを知っていたかについては「知っている」14.6%、「知らない」79.3%であった。

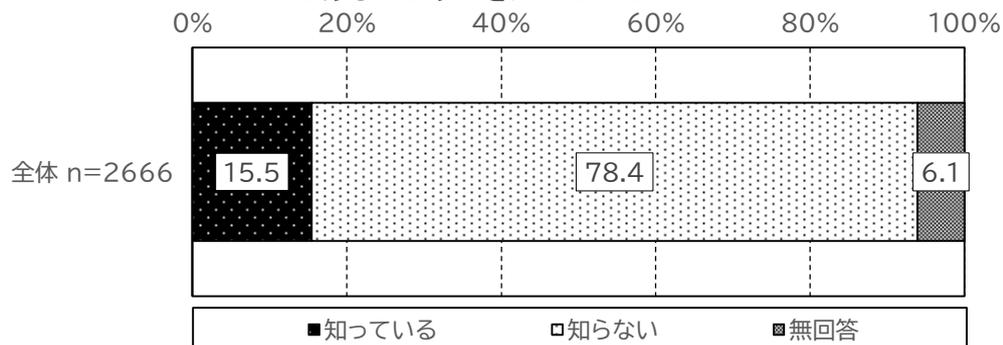
図表 3-26 「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」という歯科診療所があることを知っていたか



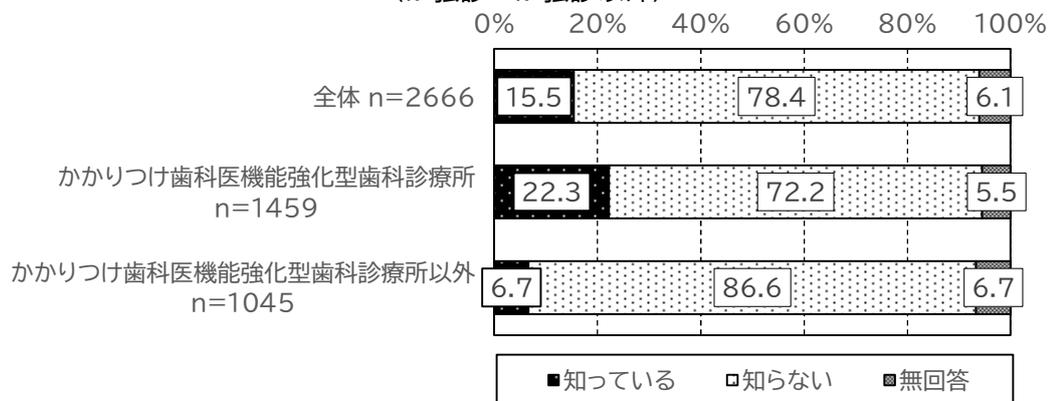
(5) 本日受診した歯科診療所が「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」であるかどうかを知っていたか

本日受診した歯科診療所が「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」であるかどうかを知っていたかについては「知っている」15.5%、「知らない」78.4%であった。

図表 3-27 本日受診した歯科診療所が「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」であるかどうかを知っていたか



図表 3-28 本日受診した歯科診療所が「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」であるかどうかを知っていたか (か強診・か強診以外)



NDB データを用いた集計

● 歯科疾患管理料等の算定状況 (令和4年11月診療分)

	算定医 療機関 数	算定件数	算定回数
歯科疾患管理料（初診月）	59,425	4,509,997	4,509,999
歯科疾患管理料	59,755	12,055,498	12,055,498
フッ化物洗口指導加算	367	1,439	1,439
文書提供加算	37,674	5,410,081	5,410,081
エナメル質初期う蝕管理加算	8,678	733,593	733,593
総合医療管理加算	3,303	35,472	35,472
長期管理加算（かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の場合）	11,915	2,987,605	2,987,605
長期管理加算（イ以外の保険医療機関の場合）	43,852	3,666,867	3,666,867
小児口腔機能管理料	3,872	124,763	124,763
口腔機能管理料	3,213	71,613	71,613

(令和3年11月診療分)

	算定医 療機関 数	算定件数	算定回数
歯科疾患管理料（初診月）	59,309	4,594,977	4,594,980
歯科疾患管理料	59,549	11,553,240	11,553,241
フッ化物洗口指導加算	242	899	899
文書提供加算	37,400	5,067,837	5,067,837
エナメル質初期う蝕管理加算	7,788	563,810	563,810
総合医療管理加算	2,031	24,406	24,406
長期管理加算（かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の場合）	10,855	2,543,141	2,543,141
長期管理加算（イ以外の保険医療機関の場合）	44,381	3,510,149	3,510,149
小児口腔機能管理料	3,344	94,529	94,529
口腔機能管理料	2,559	46,318	46,318

●歯周病安定期治療、歯周病重症化予防治療の算定状況

(令和4年11月診療分)

	算定医 療機関 数	算定件数	算定回数
歯周病安定期治療	25,711	1,925,942	1,925,947
1 1歯以上10歯未満	16,750	114,810	114,811
かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所加算	9,692	88,883	88,884
2 10歯以上20歯未満	21,287	312,420	312,420
かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所加算	10,932	234,568	234,568
3 20歯以上	24,910	1,498,712	1,498,716
かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所加算	11,478	1,123,046	1,123,049
歯周病重症化予防治療	14,679	346,490	346,490
1 1歯以上10歯未満	3,861	9,611	9,611
2 10歯以上20歯未満	7,079	38,030	38,030
3 20歯以上	14,196	298,849	298,849

(令和3年11月診療分)

	算定医 療機関 数	算定件 数	算定回 数
歯周病安定期治療（Ⅰ）	17,983	574,417	574,419
1 1歯以上10歯未満	8,535	29,938	29,938
2 10歯以上20歯未満	12,749	92,851	92,852
3 20歯以上	16,997	451,628	451,629
歯周病安定期治療（Ⅱ）	9,325	922,025	922,027
1 1歯以上10歯未満	7,356	56,905	56,905
2 10歯以上20歯未満	8,465	154,295	154,295
3 20歯以上	9,101	710,826	710,827
歯周病重症化予防治療	12,250	255,007	255,008
1 1歯以上10歯未満	3,036	7,199	7,199
2 10歯以上20歯未満	5,610	27,813	27,814
3 20歯以上	11,789	219,995	219,995

● 歯科衛生実地指導料、訪問歯科衛生指導料の算定状況
 (令和4年11月診療分)

		算定医 療機関 数	算定件数	算定回数
歯科衛生実地指導料		43,857	10,419,381	10,419,381
1	歯科衛生実地指導料 1	43,803	10,386,082	10,386,082
2	歯科衛生実地指導料 2	469	33,299	33,299
訪問歯科衛生指導料		5,680	252,902	571,855
1	単一建物診療患者が1人の場合	3,452	10,520	19,910
2	単一建物診療患者が2人以上9人以下の場合	2,695	30,126	61,827
3	1及び2以外の場合	2,606	212,551	490,118

(令和3年11月診療分)

		算定医 療機関 数	算定件数	算定回数
歯科衛生実地指導料		43,456	10,003,053	10,003,053
1	歯科衛生実地指導料 1	43,403	9,971,471	9,971,471
2	歯科衛生実地指導料 2	463	31,582	31,582
訪問歯科衛生指導料		5,584	236,318	553,279
1	単一建物診療患者が1人の場合	3,286	9,255	17,205
2	単一建物診療患者が2人以上9人以下の場合	2,658	27,948	58,538
3	1及び2以外の場合	2,547	199,424	477,536

●フッ化物歯面塗布処置の算定状況
(令和4年11月診療分)

	算定医療機関数	算定件数	算定回数
フッ化物歯面塗布処置	13,631	331,894	331,895
1 う蝕多発傾向者の場合	3,332	51,122	51,122
2 初期の根面う蝕に罹患している患者の場合	7,363	137,569	137,569
3 エナメル質初期う蝕に罹患している患者の場合	6,149	143,204	143,204

(令和3年11月診療分)

	算定医療機関数	算定件数	算定回数
フッ化物歯面塗布処置	8,118	169,285	169,286
1 う蝕多発傾向者の場合	2,440	36,831	36,831
2 在宅等療養患者の場合	1,242	14,980	14,980
3 エナメル質初期う蝕に罹患している患者の場合	5,206	117,474	117,475

令和4年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(令和5年度調査)
**歯科医療機関における院内感染防止対策の評価等に関する
 実施状況調査**

施設票

- ※ この調査票は、歯科医療機関の開設者・管理者の方に、貴施設における院内感染防止対策や歯科医療の実施状況等についてお伺いするものです。
- ※ ご回答の際は、あてはまる番号を○(マル)で囲んでください。また、()内には具体的な数値、用語等をお書きください。()内に数値を記入する設問で、該当なしは「0(ゼロ)」を、わからない場合は「-」をお書きください。
- ※ 特に断りのない場合は、令和5年7月1日時点の状況についてご記入ください。
- ※ 患者数について「実人数」と記載のある質問についてはレセプト件数と同数をお答えください。
- ※ 特に断りのない場合は、『医療保険』の歯科診療に関してお答えください。介護保険など、医療保険以外に関しては、設問内で指定がない場合には含みません。
- ※ 診療報酬明細書(レセプト)を手書きで記入している場合等、患者数や診療報酬明細書の枚数等の回答が困難な場合は、それ以外の設問のみを回答して頂く形でも構いません。
- ※ 災害に被災した等の事情により回答が困難な場合には、事務局へご連絡くださいますようお願い申し上げます。

1. 貴施設の概要(令和5年7月1日時点)についてお伺いします。

① 開設主体 ※○は1つ	1. 個人 2. 法人 3. その他(具体的に)			
② 標榜診療科 ※あてはまる番号すべてに○	1. 歯科 2. 矯正歯科 3. 小児歯科 4. 歯科口腔外科			
③ 管理者の年齢 ※○は1つ	1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60代 6. 70代以上			
④ 開設時期	西暦()年()月			
⑤ 医科の医療機関の併設状況 ※○は1つ	1. 併設している 2. 併設していない			
⑥ 職員数		常勤	非常勤(常勤換算※)	
	1) 歯科医師	()人	(.)人	
	2) 歯科衛生士	()人	(.)人	
	3) 歯科技工士	()人	(.)人	
	4) その他 (勤務の有無のみ回答ください) ※○は各1つ	看護師・准看護師	勤務している・勤務していない	
		管理栄養士・栄養士	勤務している・勤務していない	
言語聴覚士		勤務している・勤務していない		
その他(歯科業務補助者等)		勤務している・勤務していない		
※常勤換算については、以下の方法で算出してください。また、常勤換算後の職員数は小数点以下第1位までお答えください。 ■ 1週間に複数勤務の場合：(非常勤職員の1週間の勤務時間)÷(貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間) ■ 1か月に複数勤務の場合：(非常勤職員の1か月の勤務時間)÷(貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間×4)				

⑦ 医療機器等の保有台数、保有の有無についてご記入ください。			
1) 歯科用ユニット	()台	12) 歯科用3次元エックス線断層撮影装置	有・無
2) 歯科用ハンドピース※	()本	13) 咀嚼能率測定用のグルコース分析装置	有・無
3) 滅菌器(オートクレーブ等)	()台	14) 舌圧測定器	有・無
4) 手術用顕微鏡(マイクロスコープ)	()台	15) 歯科用咬合力計	有・無
5) ポータブルユニット	()台	16) 口腔細菌定量分析装置	有・無
6) ポータブルエンジン(携帯用マイクロモーター)	()台	17) 光学式う蝕検出装置	有・無
7) ポータブルエックス線撮影装置	()台	18) 自動体外式除細動器(AED)	有・無
8) 歯科用吸引装置(口腔外バキューム)	()台	19) 経皮的酸素飽和度測定器(パルスオキシメーター)	有・無
9) レーザー機器	有・無	20) 酸素供給装置	有・無
10) 歯科パノラマ断層撮影装置(アナログ)	有・無	21) 血圧計	有・無
11) 歯科パノラマ断層撮影装置(デジタル)	有・無	22) 救急蘇生キット	有・無

※ 歯科用ガス圧式ハンドピース、歯科用電動式ハンドピース、ストレート・ギアードアングルハンドピース、歯科用空気駆動式ハンドピースを指す。

⑧ 他の医療機関や訪問看護ステーション、薬局、居宅介護支援事業者等の関係機関の職員と情報共有・連携を行うために、ICT(情報通信技術)を活用しているかお選びください。 ※○は1つ
また、「1. ICTを活用している」を選んだ場合、活用しているICTを全てお選びください。

1. ICTを活用している



活用しているICT ※あてはまる番号 すべてに○	11. メール	12. 電子掲示板
	13. グループチャット	14. 汎用ビデオ通話(オンライン会議システムを含む)
	15. 専用アプリ	16. 地域医療情報連携ネットワーク
	17. 自院を中心とした専用の情報連携システム	
	18. その他(具体的に: _____)	

2. ICTを活用していない

⑨ 施設基準(届出のあるもの)として該当するものをお選びください。 ※あてはまる番号すべてに○	1. かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所
	2. 初診料の注1に規定する施設基準
	3. 歯科外来診療環境体制加算1
	4. 在宅療養支援歯科診療所1
	5. 在宅療養支援歯科診療所2
	6. 歯科診療特別対応連携加算
	7. 歯科疾患管理料の総合医療管理加算(注11に規定する)及び歯科治療時医療管理料
	8. 歯科疾患在宅療養管理料の在宅総合医療管理加算(注4に規定する)及び在宅患者歯科治療時医療管理料
	9. 地域医療連携体制加算
	10. 在宅歯科医療推進加算
	11. 歯科訪問診療料の注13に規定する基準
	12. 上記のいずれもない

⑩すべての施設にお伺いします。
⑩-1 「かかりつけ歯科医」はどのような役割を担うべきと考えていますか。 ※あてはまる番号すべてに○
<ol style="list-style-type: none"> 1. 既往歴、現病歴や家族背景等を把握する 2. 必要に応じ、他の歯科医療機関を紹介する 3. 患者が通院困難となった場合等に、歯科訪問診療に対応している 4. 夜間や休日等の診療時間外であっても、痛みが出た場合等に対応できる(診療の他、休日夜間診療所を紹介する、電話相談に応じる等も含む) 5. 患者の全身の状態(基礎疾患や生活習慣)を踏まえた歯科診療を行う 6. 医科の医療機関と連携している 7. 受診している医療機関で処方された薬を把握する 8. ライフステージに応じた歯科診療や歯科疾患の継続管理を行う 9. 患者の全身の状態(基礎疾患や生活習慣)、口腔衛生状態、口腔機能状態を踏まえ、セルフケアの方法などの歯科保健指導を行う 10. 学校歯科健診や歯周病検診等の地域保健に携わっている 11. 地域の介護施設や障害者福祉施設等と連携している 12. 学会への参加や各種研修の受講等、積極的な自己研鑽を積んでいる 13. その他(具体的に: _____) 14. 分からない
⑩-2 貴施設が関わっている保健事業や地域連携に関する会議への参加実績等があるものはどれですか。 ※あてはまる番号すべてに○
<ol style="list-style-type: none"> 1. 過去1年間に、居宅療養管理指導を提供した実績がある 2. 地域ケア会議に年1回以上出席している 3. 介護認定審査会の委員の経験を有する 4. 在宅医療に関するサービス担当者会議、病院・介護保険施設等で実施される多職種連携会議等に年1回以上出席している 5. ケアマネジャーへの情報提供(メールやファックス等を含む)をしている 6. 過去1年間に、栄養サポートチーム等連携加算1又は2を算定した実績がある 7. 在宅医療・介護等に関する研修を受講している 8. 過去1年間に、退院時共同指導料1、退院前在宅療養指導管理料、在宅患者連携指導料又は在宅患者緊急時等カンファレンス料の算定がある 9. 認知症対応力向上研修等、認知症に関する研修を受講している 10. 過去1年間に、福祉型障害児入所施設、医療型障害児入所施設、介護老人福祉施設又は介護老人保健施設における定期的な歯科健診に協力している 11. 自治体等が実施する事業に協力している 12. 学校歯科医等に就任している 13. 妊産婦や乳幼児に対する歯科健診・歯科保健指導に協力している 14. 歯周病検診等の地域住民を対象とした歯科健診・歯科保健指導に協力している 15. 企業等における歯科健診・歯科保健指導に協力している 16. 後期高齢者に対する歯科健診やフレイル対策等の高齢者の保健事業に協力している 17. 介護予防の通いの場等における口腔保健指導に協力している(歯科衛生士を派遣する場合を含む) 18. 特に関わっている保健事業はない 19. 過去1年間に、歯科診療特別対応加算又は初診時歯科診療導入加算を算定した実績がある

【質問⑩-3は、「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」を届出していない診療所の方にお伺いします。】

⑩-3 「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」の施設基準について、現時点で満たしていない要件としてあてはまる項目をお答えください。 ※あてはまる番号すべてに○

1. 歯科医師が複数配置されている又は歯科医師及び歯科衛生士がそれぞれ1名以上配置されている
2. 過去1年間に歯周病安定期治療又は歯周病重症化予防治療をあわせて30回以上算定している
3. 過去1年間にフッ化物歯面塗布処置又は歯科疾患管理料のエナメル質初期う蝕管理加算をあわせて10回以上算定している
4. クラウン・ブリッジ維持管理料を算定する旨を届け出ている
5. 歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準を届け出ている
6. 過去1年間に歯科訪問診療1若しくは歯科訪問診療2の算定回数又は連携する在宅療養支援歯科診療所1若しくは在宅療養支援歯科診療所2に依頼した歯科訪問診療の回数があわせて5回以上である
7. 過去1年間に診療情報提供料又は診療情報連携共有料をあわせて5回以上算定している実績がある
8. 歯科疾患の重症化予防に資する継続管理に関する研修(口腔機能の管理を含むものであること。)、高齢者の心身の特性及び緊急時対応等の適切な研修を修了した歯科医師が1名以上在籍している
9. 診療における偶発症等緊急時に円滑な対応ができるよう、別の保険医療機関(医科歯科併設の診療所の場合は、医科診療科)との事前の連携体制が確保されている
10. 歯科訪問診療を行う患者に対し、迅速に歯科訪問診療が可能な歯科医師をあらかじめ指定するとともに、当該担当医名、診療可能日、緊急時の注意事項等について、事前に患者又は家族に対して説明の上、文書により提供している
11. 歯科用吸引装置等により、歯科ユニット毎に歯の切削や義歯の調整、歯冠補綴物の調整時等に飛散する細かな物質を吸引できる環境を確保している
12. 患者にとって安心して安全な歯科医療環境の提供を行うにつき次の十分な装置・器具等(AED、パルスオキシメーター、酸素、血圧計、救急蘇生セット)を有している
13. 「8」の歯科医師が、地域連携に関する会議等への参加実績*を満たしている

※ 令和4.3.4 保医発0304 第3号「特掲診療料の施設基準等及びその届出に関する手続きの取扱いについて」第13の2「1 かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の施設基準」の(8)に定めるア～シの項目のうち、3つ以上に該当するもの。

【質問⑪は、「初診料の注1に規定する施設基準」を届出していない診療所の方にお伺いします。】

⑪ 「初診料の注1に規定する施設基準」について、現時点で満たしていない要件としてあてはまる項目をお答えください。 ※あてはまる番号すべてに○

1. 口腔内で使用する歯科医療機器等について、患者ごとの交換や、専用の機器を用いた洗浄・滅菌処理を徹底する等十分な院内感染防止対策を講じている
2. 感染症患者に対する歯科診療を円滑に実施する体制を確保している
3. 歯科外来診療の院内感染防止対策に係る標準予防策及び新興感染症に対する対策の研修を4年に1回以上、定期的に受講している常勤の歯科医師が1名以上配置されている
4. 職員を対象とした院内感染防止対策にかかる標準予防策及び新興感染症に対する対策等の院内研修等を実施している
5. 当該保険医療機関の見やすい場所に、院内感染防止対策を実施している旨の院内掲示を行っている

【質問⑫は、「歯科外来診療環境体制加算1」を届出していない診療所の方にお伺いします。】

⑫ 「歯科外来診療環境体制加算1」の施設基準について、現時点で満たしていない要件としてあてはまる項目をお答えください。 ※あてはまる番号すべてに○

1. 歯科点数表の初診料の注1に係る施設基準の届出を行っている
2. 偶発症に対する緊急時の対応、医療事故対策等の医療安全対策に係る研修を修了した常勤の歯科医師が1名以上配置されている
3. 歯科医師が複数名配置、または歯科医師及び歯科衛生士がそれぞれ1名以上配置されている
4. 患者にとって安心して安全な歯科医療を行うための装置・器具等(AED、パルスオキシメーター、酸素、血圧計、救急蘇生セット)を有している
5. 診療における偶発症等緊急時に円滑な対応ができるよう、別の保険医療機関(医科歯科併設の診療所の場合は、医科診療科)との事前の連携体制が確保されている
6. 歯科用吸引装置等により、歯の切削時等に飛散する細かな物質を吸引できる環境を確保している
7. 緊急時における連携保険医療機関との連携方法やその対応等、歯科診療に係る医療安全管理対策を実施している旨の院内掲示を行っている

2. 貴施設における歯科診療の実施体制および院内感染防止対策の実施状況等についてお伺いします。

① 貴施設では、機器等の滅菌をどのような体制で行っていますか。 ※あてはまる番号すべてに○				
1. 施設内の滅菌器(オートクレーブ等)で行っている		2. 外部業者等に依頼して行っている		
前問で「1. 施設内の滅菌器(オートクレーブ等)で行っている」場合は、滅菌の実施回数および実施する主な時間帯についてお答えください。	滅菌の実施回数	1日()回		
	実施する主な時間帯 ※あてはまる番号すべてに○	1. 1日の診療開始前 2. お昼休み 3. 1日の診療終了後 4. 特に決めておらず随時行う		
② 貴施設では、職員を対象とした院内感染防止対策にかかる標準予防策及び新興感染症に対する対策等の院内研修の実施方法、内容及び頻度についてお答えください。				
②-1 研修の実施方法 ※あてはまる番号すべてに○	1. 院内研修を実施 2. 院外研修を受講			
②-2 研修の内容 ※あてはまる番号すべてに○	1. 標準予防策 2. 新興感染症に対する対策 3. 環境整備 4. 医療機器の洗浄・消毒・滅菌 5. 手指衛生 6. 職業感染防止 7. 感染性廃棄物の処理 8. PPEの適切な着脱・使用法 9. その他(具体的に:)			
②-3 研修の頻度 ※○は1つ	1. 1年に1回程度 2. 6か月に1回程度 3. 3か月に1回程度 4. 1か月に1回程度 5. その他()			
③ 院内感染防止対策として、新型コロナウイルス感染症が流行する以前から取り組んでいた対策をA欄に、新型コロナウイルス感染症が流行している期間に取り組んでいた対策をB欄に、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後(令和5年5月8日以降)も取り組んでいる対策をC欄にお答えください。 ※それぞれ、あてはまる番号すべてに○				
A、B、Cのすべての間にお答えください。 →		A. 新型コロナウイルス感染症が流行する以前から取り組んでいた対策	B. 新型コロナウイルス感染症が流行している期間に取り組んでいた対策	C. 新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後も取り組んでいる対策
1) 職員が、サージカルマスクの着用や手指消毒を適切に実施している				
2) 職員が、毎日の検温等の健康管理を適切に実施している				
3) 職員が、身体の不調を訴えた場合に適切な対応を講じている				
4) 待合室で一定の距離が保てるよう、予約調整等必要な措置を講じている				
5) 玄関入口に手指消毒剤を設置する等、患者来院時の手指消毒等の対策を講じている				
6) 受付における感染予防策(遮蔽物の設置等)を講じている				
7) 患者ごとのチェアの消毒や口腔内で使用する歯科医療機器等の滅菌処理等の感染防止策を講じている				
8) 職員に対して、感染防止対策に係る院内研修等を実施している				
9) 診察室において、飛沫感染予防策を講じている				
9)-1 口腔外バキュームを活用している				
9)-2 窓を開ける等により、換気を適時、適切に実施している				
9)-3 必要に応じてN-95マスクを使用している				
9)-4 その他(具体的に:)				
10) 診療時にマスク、手袋、ゴーグル等の着用等適切な対策を講じている				

3. 貴施設における、歯科診療の内容及び管理料の算定状況等についてお伺いします。

① 令和5年6月の1か月間における、以下に該当する患者数(実人数)をご記入ください。 ※該当患者がいない場合は「0(ゼロ)」、わからない場合は「—」をご記入ください。				
1) 初診料を算定した患者数(実人数)		()人		
2) 上記1)のうち、初診料算定以前に受診歴のある(再初診の)患者数(実人数)		()人		
3) 再診料を算定した患者数(実人数)		()人		
4) 訪問歯科診療を実施した患者数(実人数)		()人		
② 令和5年6月の1か月間における、患者実人数の年齢別の割合をご記入ください。 ※下記1)～4)の数値の合計が計100(%)となるようにご記入ください。 ※ご記入いただく数値は、おおよその割合で結構です。				
1) 15歳未満の患者の割合		約()%		
2) 15歳～65歳未満の患者の割合		約()%		
3) 65歳～75歳未満の患者の割合		約()%		
4) 75歳以上の患者の割合		約()%		
③ 令和5年6月の1か月間における以下の算定回数等をお答えください。				
1) 歯科訪問診療		歯科訪問診療1	歯科訪問診療2	歯科訪問診療3
	20分以上	()回	()回	()回
	20分未満	()回	()回	()回
2) 連携する在宅療養支援歯科診療所1・2に依頼した歯科訪問診療の回数		()回		
3) 診療情報提供料(Ⅰ)・(Ⅱ)・(Ⅲ)(※合計)		()回		
4) 診療情報連携共有料		()回		
5) 歯科衛生実地指導料1		()回		
6) 歯科衛生実地指導料2		()回		
7) 訪問歯科衛生指導料	単一建物患者が1人	単一建物患者が2人以上9人以下	単一建物患者が10人以上	
	()回	()回	()回	
		算定回数	主に実施している者 ※○は1つ	
8) フッ化物歯面塗布処置	う蝕多発傾向者の場合	()回	1. 主に歯科医師が実施 2. 主に歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が実施 3. 症例によっていずれかが実施 4. 予約の状況によっていずれかが実施	
	初期の根面う蝕に罹患している患者の場合	()回		
	エナメル質初期う蝕に罹患している患者の場合	()回		
9) フッ化物洗口指導加算		()回	1. 主に歯科医師が実施 2. 主に歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が実施 3. 症例によっていずれかが実施 4. 予約の状況によっていずれかが実施	
10) 機械的歯面清掃処置		()回	1. 主に歯科医師が実施 2. 主に歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が実施 3. 症例によっていずれかが実施 4. 予約の状況によっていずれかが実施	
11) 非経口摂取患者口腔粘膜処置		()回	1. 主に歯科医師が実施 2. 主に歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が実施 3. 症例によっていずれかが実施 4. 予約の状況によっていずれかが実施	
12) 周術期等専門的口腔衛生処置		()回	1. 主に歯科医師が実施 2. 主に歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が実施 3. 症例によっていずれかが実施 4. 予約の状況によっていずれかが実施	
④ 定期的な管理の実施状況について、全体の患者に占める割合をお答えください。 ※○は1つ			1. 0～25%未満 2. 25～50%未満 3. 50～75%未満 4. 75～100%	

※ ここでいう定期的な管理とは、継続的な管理を必要とする歯科疾患を有する患者に対し、歯科疾患の再発防止及び重症化予防を目的として行う、口腔の定期的な管理です。

⑤ 令和5年6月の1か月間における、 歯科疾患管理料 の以下の算定状況等をお答えください。			
1) 歯科疾患管理料の算定患者数(実人数)		()人	
2) フッ化物洗口指導加算の算定回数	2)-1 13歳未満	()回	
	2)-2 13歳以上15歳未満	()回	
3) エナメル質初期う蝕管理加算の算定回数		()回	
4) 総合医療管理加算の算定回数		()回	
5) 総合医療管理加算を算定した患者のうち、対象患者の疾患をお答えください。 ※あてはまる番号すべてに○			
		1. 糖尿病の患者	2. 骨吸収抑制剤投与中の患者
		3. 感染性心内膜炎のハイリスク患者	4. 関節リウマチの患者
		5. 血液凝固阻止剤投与中の患者	6. HIV感染症の患者
6) 歯科疾患管理料 長期管理加算の算定回数		()回	
⑥ 令和5年6月の1か月間における、 歯周病安定期治療 の以下の算定状況等をお答えください。			
1) 歯周病安定期治療の算定患者数(実人数)	1歯以上10歯未満	10歯以上20歯未満	20歯以上
	()人	()人	()人
2) 歯周病重症化予防治療から歯周病安定期治療に移行した患者がいましたか。 ※○は1つ		1. いる 2. いない	
3) 3か月以内の歯周病安定期治療を算定した場合、算定した患者であてはまるものをお答えください。 ※あてはまる番号すべてに○			
1. かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所であるため、重症化予防のための定期管理をしている			
2. 歯周外科手術を実施した場合			
3. 全身的な疾患の状態により歯周病の病状に大きく影響を与える場合			
4. 全身的な疾患の状態により歯周外科手術が実施できない場合			
5. 侵襲性歯周炎の場合			
6. それ以外の場合(具体的に:)			
4) 歯周病安定期治療の対象になる可能性があるが、歯周病安定期治療を算定しなかった患者はいますか。 ※○は1つ		1. はい 2. いいえ	
【4)で「1. はい」と回答した方にお伺いします。】			
5) 算定しなかった理由をお答えください。 ※あてはまる番号すべてに○			
1. 歯周基本治療を継続する方が適切であると考えられたため			
2. 歯周病安定期治療の実施頻度が算定要件と合わないため			
3. 歯周病安定期治療における管理の方法が分からないため			
4. 対象となる患者の要件が分からないため			
5. 歯周病安定期治療の算定要件が複雑であるため			
6. その他(具体的に:)			
⑦ 令和5年6月の1か月間における、 歯周病重症化予防治療 の以下の算定状況等をお答えください。			
1) 歯周病重症化予防治療の算定患者数(実人数)	1歯以上 10歯未満	10歯以上 20歯未満	20歯以上
	()人	()人	()人
2) 歯周病安定期治療から歯周病重症化予防治療に移行した患者がいましたか。 ※○は1つ		1. いる 2. いない	
3) 歯周病重症化予防治療の対象になる可能性があるが、歯周病重症化予防治療を算定しなかった患者はいますか。 ※○は1つ		1. はい 2. いいえ	
【3)で「1. はい」と回答した方にお伺いします。】			
4) 算定しなかった理由をお答えください。 ※あてはまる番号すべてに○			
1. 歯周基本治療を継続する方が適切であると考えられたため			
2. 歯周病重症化予防治療の実施頻度が算定要件と合わないため			
3. 歯周病重症化予防における管理の方法がわからないため			
4. 対象となる患者の要件が分からないため			
5. 歯周病重症化予防治療の算定要件が複雑であるため			
6. その他(具体的に:)			

【⑧については、歯科疾患管理料を算定した患者のうち、「歯周病安定期治療(SPT)」又は「歯周病重症化予防治療(P重防)」を算定した患者についてお伺いします。算定日の早い順に2名の患者をお選びください。歯周基本治療後、SPTのみ又はP重防のみを実施している患者についてご回答ください。】

⑧ 令和5年6月1日～7月31日に「歯科疾患管理料」を算定し、「歯周病安定期治療(SPT)」又は「歯周病重症化予防治療(P重防)」を算定した歯周病の患者についてお伺いします。														
	1人目の患者	2人目の患者												
1) 算定している項目をお答えください。 ※○は1つ	1. 歯周病安定期治療(SPT) 2. 歯周病重症化予防治療(P重防)	1. 歯周病安定期治療(SPT) 2. 歯周病重症化予防治療(P重防)												
2) 直近の1)の項目の算定月をお答えください。 ※○は1つ	令和5年 6月・7月	令和5年 6月・7月												
3) 患者の年齢をお答えください。	()歳	()歳												
4) 患者の初診月をお答えください。	西暦()年()月	西暦()年()月												
5) SPT 又は P 重防の初回の算定月をお答えください。	西暦()年()月	西暦()年()月												
6) 直近の半年間の SPT 又は P 重防の実施頻度ではまるものをお答えください。 ※○は1つ	1. 1か月に1回 2. 2か月に1回 3. 3か月に1回 4. 6か月に1回程度 5. その他()	1. 1か月に1回 2. 2か月に1回 3. 3か月に1回 4. 6か月に1回程度 5. その他()												
7) 5)で回答した SPT 又は P 重防の初回の算定月時点の歯の本数をお答えください。	()本	()本												
8) 5)で回答した SPT 又は P 重防の初回の算定月の前又は後に、歯周病により抜歯したことがありますか。ある場合、抜歯の時期と、その本数をお答えください。	<table border="1"> <tr> <td>1. あり</td> <td>2. なし</td> </tr> <tr> <td>抜歯の時期 ※あてはまる番号すべてに○</td> <td> 1. SPT 又は P 重防の初回の算定月より前 2. SPT 又は P 重防の初回の算定月より後 </td> </tr> <tr> <td>抜歯の本数</td> <td> 前()本 後()本 </td> </tr> </table>	1. あり	2. なし	抜歯の時期 ※あてはまる番号すべてに○	1. SPT 又は P 重防の初回の算定月より前 2. SPT 又は P 重防の初回の算定月より後	抜歯の本数	前()本 後()本	<table border="1"> <tr> <td>1. あり</td> <td>2. なし</td> </tr> <tr> <td>抜歯の時期 ※あてはまる番号すべてに○</td> <td> 1. SPT 又は P 重防の初回の算定月より前 2. SPT 又は P 重防の初回の算定月より後 </td> </tr> <tr> <td>抜歯の本数</td> <td> 前()本 後()本 </td> </tr> </table>	1. あり	2. なし	抜歯の時期 ※あてはまる番号すべてに○	1. SPT 又は P 重防の初回の算定月より前 2. SPT 又は P 重防の初回の算定月より後	抜歯の本数	前()本 後()本
1. あり	2. なし													
抜歯の時期 ※あてはまる番号すべてに○	1. SPT 又は P 重防の初回の算定月より前 2. SPT 又は P 重防の初回の算定月より後													
抜歯の本数	前()本 後()本													
1. あり	2. なし													
抜歯の時期 ※あてはまる番号すべてに○	1. SPT 又は P 重防の初回の算定月より前 2. SPT 又は P 重防の初回の算定月より後													
抜歯の本数	前()本 後()本													
9) 5)で回答した SPT 又は P 重防の初回の算定月時点の 4mm 以上の歯周ポケットを有する歯の本数をお答えください。	()本	()本												
10) 1)の項目の算定日に行った、診療内容についてお答えください。 ※あてはまる番号すべてに○	1. 歯周病検査 2. 口腔内カラー写真撮影 3. 口腔清掃に係る指導 4. スケーリング 5. SRP 6. 機械的歯面清掃 7. 咬合調整 8. 暫間固定 9. 歯周治療用装置 10. 抜歯 11. 急性歯周炎への消炎処置 12. 義歯等の調整 13. その他()	1. 歯周病検査 2. 口腔内カラー写真撮影 3. 口腔清掃に係る指導 4. スケーリング 5. SRP 6. 機械的歯面清掃 7. 咬合調整 8. 暫間固定 9. 歯周治療用装置 10. 抜歯 11. 急性歯周炎への消炎処置 12. 義歯等の調整 13. その他()												
11) 1)で「1. SPT」を選んだ方にお伺いします。この患者に対し、SPTを開始して以降、前回の算定から3月以内のSPTを算定したことはありますか。 ※○は1つ	1. ある 2. ない	1. ある 2. ない												
12) 11)で「1. ある」を回答した場合、その理由ではまるものをお答えください。 ※あてはまる番号すべてに○	1. かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所であるため 2. 歯周外科手術を実施したため 3. 全身的な疾患の状態による歯周病の病状への影響が考えられるため 4. 全身的な疾患の状態により歯周外科手術が実施できないため 5. 侵襲性歯周炎であるため 6. それ以外()	1. かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所であるため 2. 歯周外科手術を実施したため 3. 全身的な疾患の状態による歯周病の病状への影響が考えられるため 4. 全身的な疾患の状態により歯周外科手術が実施できないため 5. 侵襲性歯周炎であるため 6. それ以外()												

【⑨については、歯科疾患管理料を算定した患者のうち「エナメル質初期う蝕管理加算」又は「フッ化物歯面塗布処置 エナメル質初期う蝕に罹患している患者の場合」を算定した患者についてお伺いします。条件にあてはまる患者で、算定日の早い順に2名の患者をお選びください。】

⑨ 令和5年6月1日～7月31日に「歯科疾患管理料」を算定し、「エナメル質初期う蝕管理加算」または「フッ化物歯面塗布処置 エナメル質初期う蝕に罹患している患者の場合」を算定した患者についてお伺いします。		
	1人目の患者	2人目の患者
1) エナメル質初期う蝕の指導管理に際し、算定している項目をお答えください。 ※○は1つ	1. 歯科疾患管理料 エナメル質初期う蝕管理加算 2. フッ化物歯面塗布処置エナメル質初期う蝕に罹患している患者の場合	1. 歯科疾患管理料 エナメル質初期う蝕管理加算 2. フッ化物歯面塗布処置 エナメル質初期う蝕に罹患している患者の場合
2) 直近の1)の項目の算定月をお答えください。 ※○は1つ	令和5年 6月・7月	令和5年 6月・7月
3) 患者の年齢をお答えください。	()歳	()歳
4) 患者の初診月をお答えください。	西暦()年()月	西暦()年()月
5) 初診から現在まで、どのくらいの期間継続してエナメル質初期う蝕の指導管理を行っているかお答えください。 ※○は1つ	1. 1か月以内(開始したばかり) 2. 3か月未満 3. 3か月以上6か月未満 4. 6か月以上1年未満 5. 1年以上	1. 1か月以内(開始したばかり) 2. 3か月未満 3. 3か月以上6か月未満 4. 6か月以上1年未満 5. 1年以上
6) 初診から現在までのエナメル質初期う蝕の指導管理の実施回数をお答えください。 ※○は1つ	1. 1回 2. 2回 3. 3回 4. 4回 5. 5回以上 10回未満 6. 10回以上 15回未満 7. 15回以上	1. 1回 2. 2回 3. 3回 4. 4回 5. 5回以上 10回未満 6. 10回以上 15回未満 7. 15回以上
7) エナメル質初期う蝕の指導管理に係る治療の実施頻度をお答えください。 ※○は1つ	1. 1か月に1回程度 2. 2か月に1回程度 3. 3か月に1回程度 4. 6か月に1回程度 5. その他()	1. 1か月に1回程度 2. 2か月に1回程度 3. 3か月に1回程度 4. 6か月に1回程度 5. その他()
8) 1)の項目の算定日に行った、う蝕の指導管理に係る診療内容をお答えください。 ※あてはまる番号すべてに○	1. 口腔内カラー写真撮影 2. 口腔清掃に係る指導 3. 機械的歯面清掃 4. フッ化物洗口指導 5. フッ化物歯面塗布 6. その他()	1. 口腔内カラー写真撮影 2. 口腔清掃に係る指導 3. 機械的歯面清掃 4. フッ化物洗口指導 5. フッ化物歯面塗布 6. その他()

⑩ 令和5年6月の1か月間における小児口腔機能管理料の算定回数等をお答えください。

1) 小児口腔機能管理料の算定回数	1)-1 15歳未満の患者	()回
	1)-2 15歳以上18歳未満の患者	()回
2) (小児口腔機能管理料の算定回数が0回の場合) 算定していない理由 ※あてはまる番号すべてに○	1. 該当する患者がいない 2. 該当する患者はいるが、歯科疾患の管理のなかで口腔機能の管理も行っている 3. 診断に必要な機器を持っていない 4. 診断基準がわからない 5. 指導・管理の方法がわからない 6. 検査・診察等に時間がかかる 7. 指導のための人員が不足している 8. 算定要件が複雑である 9. 診療報酬が低い 10. その他(具体的に:)	

⑪ 令和5年6月の1か月間における口腔機能管理料の算定回数等をお答えください。

1) 口腔機能管理料の算定回数	1)-1 50歳以上65歳未満の患者	()回
	1)-2 65歳以上の患者	()回
2) (口腔機能管理料の算定回数が0回の場合) 算定していない理由 ※あてはまる番号すべてに○	1. 該当する患者がいない 2. 該当する患者はいるが、歯科疾患の管理のなかで口腔機能の管理も行っている 3. 診断に必要な機器を持っていない 4. 診断基準がわからない 5. 指導・管理の方法がわからない 6. 検査・診察等に時間がかかる 7. 指導のための人員が不足している 8. 算定要件が複雑である 9. 診療報酬が低い 10. その他(具体的に:)	

⑫ 令和5年6月の1か月間における周術期等口腔機能管理の実施状況等をお答えください。

1) 周術期等口腔機能管理の実施状況 ※○は1つ	1. 外来診療のみ行っている 2. 訪問診療のみ行っている 3. 外来、訪問診療ともに行っている 4. 行っていない	
2) 周術期等口腔機能管理に関する診療報酬を算定しましたか。※○は1つ ※ 周術期等口腔機能管理計画策定料、周術期等口腔機能管理料(Ⅰ)、周術期等口腔機能管理料(Ⅱ)、周術期等口腔機能管理料(Ⅲ)、周術期等専門的口腔衛生処置	1. 算定した 2. 算定していない	
【2)で「2. 算定していない」を選んだ方にお伺いします。】 3) 周術期等口腔機能管理を算定していない理由であてはまるものをお答えください。 ※あてはまる番号すべてに○	1. 該当する患者がいないため 2. 該当する患者はいるが、従前から継続した口腔の管理を行っており周術期のための口腔管理を必要としないため 3. 周術期等口腔機能管理に関する知識が乏しいため 4. 周術期等口腔機能管理の依頼がないため 5. 手術直前や手術後の依頼のため 6. 算定要件が複雑であるため 7. その他(具体的に:)	
【2)で「2. 算定していない」を選んだ方にお伺いします。】 4) 周術期口腔機能管理の対象となる患者に対し、周術期口腔機能管理料以外の点数を算定している場合、算定している項目をお答えください。 ※あてはまる番号すべてに○	1. 歯科疾患管理料 2. 口腔機能管理料 3. 小児口腔機能管理料 4. 歯科特定疾患療養管理料 5. 歯科治療時医療管理料 6. がん治療連携指導料 7. 歯科疾患在宅療養管理料 8. 在宅患者歯科治療時医療管理料 9. 歯科矯正管理料	

⑬ 令和5年6月の1か月間における**障害児者や医療的ケア児に対する歯科診療の実施状況**等をお答えください。

1) 歯科診療特別対応加算の算定回数		()回							
2)-1 特別対応加算を算定した患者の状態 ※あてはまる番号すべてに○ ※これらに準ずる場合も含む		1. 脳性麻痺等で身体の不随意運動や緊張が強く体幹の安定が得られない状態 2. 知的発達障害により開口保持ができない状態や、治療の目的が理解できず治療に協力が得られない状態 3. 重症の喘息患者で頻繁に治療の中断が必要な状態 4. 日常生活に支障を来たすような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、歯科診療に際して家族等の援助を必要とする状態							
2)-2 特別対応加算を算定した患者ので、対応に苦慮した場合、その状態をお答えください。 ※自由記載		()							
3) 障害児者に対する歯科診療の実施状況 ※○は1つ		1. 外来診療のみ行っている 2. 訪問診療のみ行っている 3. 外来、訪問診療ともに行っている 4. 行っていない							
4) 医療的ケア児に対する歯科診療の実施状況 ※○は1つ		1. 外来診療のみ行っている 2. 訪問診療のみ行っている 3. 外来、訪問診療ともに行っている 4. 行っていない							
【3)又は4)で「1. 外来診療のみ行っている」、「2. 訪問診療のみ行っている」、「3. 外来、訪問診療ともに行っている」を選んだ方にお伺いします。】									
5) 障害児者又は医療的ケア児を診療する場合の体制についてお答えください。 ※患者等によって異なる場合、よく行う体制についてご回答ください。 ※それぞれ○は1つ									
		障害児者の診療体制		医療的ケア児の診療体制					
外来診療	歯科医師	1名	2名	3名以上	1名	2名	3名以上		
	歯科衛生士	0名	1名	2名	3名以上	0名	1名	2名	3名以上
	その他	0名	1名	2名	3名以上	0名	1名	2名	3名以上
訪問診療	歯科医師	1名	2名	3名以上	1名	2名	3名以上		
	歯科衛生士	0名	1名	2名	3名以上	0名	1名	2名	3名以上
	その他	0名	1名	2名	3名以上	0名	1名	2名	3名以上
【4)で「1. 外来診療のみ行っている」、「2. 訪問診療のみ行っている」、「3. 外来、訪問診療ともに行っている」を選んだ方にお伺いします。】									
6) 診療したことのある医療的ケア児の患者像についてご回答ください。 ※あてはまる番号すべてに○									
1. レスピレーター管理下にある		2. 気管内挿管または気管切開している							
3. SpO ₂ が低い等、呼吸状態が不安定		4. 経管栄養している		5. 嘔吐反射を有する					
6. 過敏がある		7. その他(具体的に:)							
7) 保育所等又は幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、高等専門学校若しくは専修学校への文書による診療情報提供を行ったことがありますか。 ※○は1つ					1. はい 2. いいえ				
【3)または4)で「4. 行っていない」と回答した方(障害児者や医療的ケア児への歯科診療を行っていない方)のみお答えください。】				1. 障害児者歯科診療に関する知識が乏しい					
8) 障害児者や医療的ケア児への歯科診療を実施していない理由をお答えください。 ※あてはまる番号すべてに○				2. 依頼がない					
				3. 急変時の対応に不安がある					
				4. 人員の確保が困難					
				5. 時間の確保が困難					
				6. 口腔保健センターに依頼しているため					
				7. その他(具体的に:)					

4. 貴施設における、多職種連携に関する取組等についてお伺いします。

① 令和5年6月の1か月間について、医科医療機関・歯科医療機関等との患者紹介や情報提供・共有等の状況をご記入ください。	
1) 医科医療機関から、診療情報提供や共有の依頼はありましたか。 ※○は1つ	1. あり 2. なし
【1)で「1. あり」を選択した方にお伺いします。】 2) 依頼内容についてお答えください。 ※あてはまる番号すべてに○	1. 糖尿病患者に対する指導や管理に必要な歯周病の状態に関する情報提供や共有の依頼 2. 薬剤性顎骨壊死等の原因となる薬剤の投薬にあたり、口腔内の状態や歯科治療に関する情報提供や共有の依頼 3. 手術や化学療法、放射線療法にあたり、口腔内の状態や歯科治療に関する情報提供や共有の依頼 4. 周術期等口腔機能管理の実施依頼 5. 在宅療養患者(施設入所者含む。)に対する指導や管理にあたり、口腔内の状態や歯科治療に関する情報提供や共有の依頼 6. 歯科訪問診療の依頼 7. その他、疾患の治療や管理を行う上で必要な歯科治療の依頼
3) 歯科医療機関からの文書による診療情報提供はありましたか。 ※○は1つ ※保険外診療の依頼は除く	1. あり 2. なし
【3)で「1. あり」を選択した方にお伺いします。】 4) 診療情報提供の内容についてお答えください。 ※あてはまる番号すべてに○	1. 全身疾患を有する者への歯科診療 2. 障害児者や医療的ケア児に対する歯科診療 3. 歯科訪問診療等、在宅歯科医療の依頼 4. 周術期等口腔機能管理の依頼 5. その他(具体的に:)
5) 歯科医療機関への文書による診療情報提供(診療情報提供料を算定していないもの)はありましたか。 ※○は1つ	1. あり 2. なし
【5)で「1. あり」を選択した方にお伺いします。】 6) 診療情報提供の内容についてお答えください。 ※あてはまる番号すべてに○	1. 全身疾患を有する者への歯科診療 2. 障害児者や医療的ケア児に対する歯科診療 3. 歯科訪問診療等、在宅歯科医療の対応 4. 周術期口腔機能管理への対応 5. その他(具体的に:)
② 令和5年6月の1か月間について、入院患者や施設入所者などに対する、リハビリテーション・口腔・栄養に関する多職種連携の状況についてお伺いします。	
1) 多職種連携の取組をどのように行っているか、あてはまるものをお答えください。 ※あてはまる番号すべてに○	1. カンファレンスや情報共有はオンライン会議や専用アプリを活用して実施 2. 紹介された場合に貴施設(外来)で実施 3. 病院又は介護保険施設や在宅等を訪問して実施 4. 実施していない
【1)で「1. カンファレンスや情報共有はオンライン会議や専用アプリを活用して実施」を選択した方にお伺いします。】 2) 当該期間に実施した内容と、連携した職種をお答えください。 ※あてはまる番号すべてに○	
内容	1. NST等の専門チームでのカンファレンス 2. 病棟でのカンファレンス(簡易な情報共有や相談を含む) 3. リハビリテーション職種との情報共有や相談 4. 管理栄養士との情報共有や相談 5. 栄養状態のスクリーニング・定期的な評価 6. 口腔の状態のスクリーニング・定期的な評価 7. 摂食・嚥下状態のスクリーニング・定期的な評価 8. 口腔管理に関する計画の作成 9. ミールラウンド 10. 食事形態の検討・調整 11. 退院前の居宅への訪問指導 12. 退院時のカンファレンス 13. その他(具体的に:)
職種	1. 医師 2. 看護師 3. 薬剤師 4. 理学療法士 5. 作業療法士 6. 言語聴覚士 7. 管理栄養士 8. その他(具体的に:)
【1)で「4. 実施していない」を選んだ方にお伺いします。】 3) 実施していない理由をお答えください。 ※あてはまる番号すべてに○	1. 患者や患者家族、医療介護関係者からの依頼がない 2. 体制を整備していない 3. 当該月(令和5年6月)に該当する患者がいなかった 4. どのようなことを行ったらよいかわからない 5. その他(具体的に:)

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

令和5年8月31日(木)までに返信用封筒をご使用の上投函ください(切手不要)。

令和4年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(令和5年度調査)

歯科医療に関する意識調査

歯科診療所・患者票

- この調査票は、患者さんに、歯科医療の受診内容やお考えなどをお聞きするものです。
- この調査の設問については、全て患者さんご本人のことをお答えください。
- 調査結果は、診療報酬の見直し等について検討するための資料となります。
- 本調査のご回答内容はデータ化し、集計いたします。受診した診療所に個人の回答内容をお知らせしたり、個人が特定される形で回答内容を公表することはありません。
- 本調査票にご回答頂けない場合も、患者さんに不利益はございません。
- ご回答頂いた調査票は、返信用封筒を用いて8月31日(木)までにご投函ください(切手不要)。

以下の設問について、あてはまる番号を○(マル)で囲んでください。また、()内には具体的な数字や内容・理由等をお答えください。

問1. 患者さん(本日診療を受けた方)についてお伺いします。

① 性別	1. 男性 2. 女性
② 年齢	() 歳
③ お住まい	() 都・道・府・県 ※都道府県名まで
④ 本日受診している歯科診療所への通院のきっかけをお答えください。 (○はいくつでも)	1. 歯・口腔のチェックをするため 2. 歯・口腔内に症状があったため 3. 治療中の箇所があるため 4. 定期的に受診しているため 5. その他 ()
⑤ 本日受診している歯科診療所への通院頻度をお答えください。 (○は1つ)	1. 定期的ではないが、治療中のため通院している 2. 定期的(3か月に一回未満程度の頻度)に通院している 3. 定期的(3か月に一回以上程度の頻度)に通院している 4. わからない
⑥ 本日受診している歯科診療所へいつ頃から受診しているかお答えください。 (○は1つ)	1. 初めて受診してから3か月未満 2. 初めて受診してから3か月以上6か月未満 3. 初めて受診してから6か月以上1年未満 4. 初めて受診してから1年以上3年未満 5. 初めて受診してから3年以上5年未満 6. 初めて受診してから5年以上10年未満 7. 初めて受診してから10年以上 8. その他(具体的に)
⑦ 本日受診した歯科診療所に次回受診する日時は決まっていますか。(○は1つ)	1. 決まっている 2. 決まっていないが後日決める 3. 当面受診する予定はない

<p>⑧ 歯科医師もしくは歯科衛生士から受けた治療等の内容をお答えください。 本日受診している歯科診療所で<u>これまでに受けたことのある治療等の内容に○、本日受けた治療等の内容に◎をつけてください。</u> (○、◎はいくつでも)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. むし歯の治療（根っこの治療を含む） 2. むし歯の定期的な管理 3. 歯周病の治療 4. 歯周病の定期的な管理 5. 歯のない所（入れ歯、ブリッジ等）の治療 6. 抜歯（抜糸、消毒のみを行った場合も含む） 7. お口の中の検査、レントゲン撮影 8. お口の中のチェック 9. お口の中の清掃 10. フッ化物の塗布 11. 歯磨き習慣・方法の説明・指導 12. 食事内容に関する指導 13. 喫煙習慣に関する指導 14. 身体の病気や全身状態に応じた生活習慣の指導 15. その他（具体的に： _____)
--	---

⑨-1 むし歯や歯周病の定期的な管理は重要だと思いますか。(○は1つ)		
1. はい 2. いいえ		
【前ページの⑤で「2. 定期的(3か月に一回未満程度の頻度)に通院している」または「3. 定期的(3か月に一回以上程度の頻度)に通院している」を選んだ方にお伺いします。】		
⑨-2 むし歯や歯周病の定期的な管理を実施している専門職について、あてはまるものをお答えください。(○はいくつでも)		
1. 歯科医師 2. 歯科衛生士 3. 分からない		
⑨-3 むし歯や歯周病の定期的な管理の満足度について、あてはまるものをお答えください。(○は1つ)		
1. 満足している 2. 特に問題はない 3. 見直しをして欲しいところがある		

⑩ 本日受診した歯科診療所を選んだ理由は何ですか。あてはまる内容に○、最もあてはまる内容に◎をつけてください。(○はいくつでも、◎は1つ)		
<ol style="list-style-type: none"> 1. かかりつけの歯科診療所だから 2. 信頼している歯科医師がいるから 3. むし歯や歯周病の定期的な管理をしてくれるから 4. 自宅から近い場所にあるから 5. 職場（学校等）から近い場所にあるから 6. 受診しやすい時間に診療しているから 7. 待ち時間が少ないから 8. 説明がわかりやすいから 9. 歯科医師や職員の感じがよいから（雰囲気が良いから） 10. 清潔感があり、感染対策をしっかりしていると思うから 11. 公的な認定や指定を受けている歯科診療所だから 12. 必要に応じて家族等にも説明をしてくれるから 13. 他の医療機関とも連携を図り診療を行っているから 14. 地域保健活動へ参加しているから 15. 小児から高齢者まで診療してくれるから 16. その他（具体的に： _____) 		

③ あなたが「かかりつけ歯科医」に求めるものは何ですか。あてはまる内容に○、最もあてはまる内容に◎をつけてください。(○はいくつでも、◎は1つ)

1. これまでにかかった病気や家族背景等を把握してくれる
2. 必要に応じ他の歯科医療機関を紹介してくれる
3. 通院困難となった場合等に、歯科訪問診療に対応してくれる
4. 夜間や休日等の診療時間外であっても、痛みが出た場合等に対応してくれる（診療の他、休日夜間診療所を紹介する、電話相談に応じる等も含む）
5. 全身の状態（基礎疾患や生活習慣）を踏まえた歯科診療を行ってくれる
6. 医科の医療機関と連携してくれる
7. 受診している医療機関で処方された薬を把握してくれる
8. ライフステージに応じた歯科診療や歯科疾患の継続管理を行ってくれる
9. 全身の状態（基礎疾患や生活習慣）やお口の状態を踏まえ、セルフケアの方法等の歯科保健指導を行ってくれる
10. 学校歯科健診や歯周病検診等の地域保健に携わっている
11. 地域の介護施設や障害者福祉施設等と連携している
12. 学会への参加や研修の受講等、積極的な自己研鑽を積んでいる
13. その他（具体的に： _____)
14. 分からない

④ 「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」という歯科診療所があることを知っていましたか。
(○は1つ)

※「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」とは、患者さんにとってより安全で安心できる歯科医療の環境の整備、在宅医療、他の医療機関等と連携して、定期的、継続的に患者さんの口腔管理等を積極的に行っている歯科診療所で、一部の継続的な治療に関して、診療報酬で高く評価をしています。

1. 知っていた
2. 知らなかった

⑤ 本日受診した歯科診療所が「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」であるかどうかをご存知ですか。(○は1つ)

1. 知っている
2. 知らない

質問は以上です。ご協力頂き誠にありがとうございました。

令和5年8月31日(木)までに返信用封筒をご使用の上投函ください（切手不要）。

歯科診療における院内感染防止対策の推進

中医協 検-3-2参考
5 . 1 1 . 1 0

基本診療料の施設基準及び評価の見直し

- 歯科外来診療における院内感染防止対策を推進し、新興感染症にも適切に対応できる体制を確保する観点から、歯科初診料における歯科医師及び職員を対象とした研修等に係る要件を見直すとともに、基本診療料の評価を見直す。

現行

【初診料】

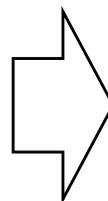
1 歯科初診料 261点

【再診料】

1 歯科再診料 53点

【施設基準】

- 1 歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準
- (2) 感染症患者に対する歯科診療に対応する体制を確保していること。
- (3) 歯科外来診療の**院内感染防止対策に係る研修**を4年に1回以上、定期的に受講している常勤の歯科医師が1名以上配置されていること。
- (4) 職員を対象とした**院内感染防止対策にかかる標準予防策等の院内研修**等を実施していること。



改定後

【初診料】

1 歯科初診料 264点

【再診料】

1 歯科再診料 56点

【施設基準】

- 1 歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準
- (2) 感染症患者に対する歯科診療を円滑に実施する体制を確保していること。
- (3) 歯科外来診療の**院内感染防止対策に係る標準予防策及び新興感染症に対する対策の研修**を4年に1回以上、定期的に受講している常勤の歯科医師が1名以上配置されていること。
- (4) 職員を対象とした**院内感染防止対策にかかる標準予防策及び新興感染症に対する対策等の院内研修**等を実施していること。

【経過措置】

令和4年3月31日において、現に歯科点数表の初診料の注1の届出を行っている保険医療機関については、令和5年3月31日までの間に限り、1の(3)及び(4)の基準を満たしているものとみなす。ただし、令和3年4月1日から令和4年3月31日の間に(3)の研修を受講した者については、当該研修を受けた日から2年を経過する日までは当該基準を満たしているものとみなす。

かかりつけ歯科医の機能の充実

かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の施設基準の見直し

- 地域の関係者との連携体制を確保しつつ、口腔疾患の重症化予防や口腔機能の維持・向上を推進する観点から、かかりつけ歯科医の機能の評価について、地域における連携体制に係る要件及び継続的な口腔管理・指導に係る要件を見直す。

現行

【かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所】

[施設基準]

(2) 次のいずれにも該当すること。

ア 過去1年間に歯周病安定期治療(Ⅰ)又は歯周病安定期治療(Ⅱ)をあわせて30回以上算定していること。

イ～エ (略)

(8) (5)に掲げる歯科医師が、以下の項目のうち、3つ以上に該当すること。

ア～ク (略)

(新設)

ケ 自治体が発行する事業に協力していること。

コ・カ (略)

改定後

【かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所】

[施設基準]

(2) 次のいずれにも該当すること。

ア 過去1年間に歯周病安定期治療又は歯周病重症化予防治療をあわせて30回以上算定していること。

イ～エ (略)

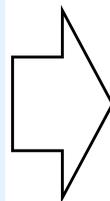
(8) (5)に掲げる歯科医師が、以下の項目のうち、3つ以上に該当すること。

ア～ク (略)

ケ 過去1年間に福祉型障害児入所施設、医療型障害児入所施設、介護老人福祉施設又は介護老人保健施設における定期的な歯科健診に協力していること。

コ 自治体が発行する事業 (ケに該当するものを除く。) に協力していること。

サ・シ (略)



総合的医療管理に係る医科歯科連携の推進

総合医療管理加算等の算定要件の見直し

- 口腔に症状が発現する疾患に係る医科歯科連携を推進する観点から、総合医療管理加算等について対象疾患及び対象となる医療機関を見直す。

現行

【総合医療管理加算（歯科疾患管理料）】

[算定要件]

注11 **別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において**、別の保険医療機関（歯科診療を行うものを除く。）から歯科治療における総合的医療管理が必要な患者であるとして文書による診療情報の提供を受けたものに対し、必要な管理及び療養上の指導等を行った場合は、総合医療管理加算として、50点を所定点数に加算する。

[対象患者]

糖尿病の患者、骨吸収抑制薬投与中の患者、感染性心内膜炎のハイリスク患者、関節リウマチの患者又は血液凝固阻止剤投与中の患者

[施設基準]

六の二の四 **歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び**歯科治療時医療管理料の施設基準

改定後

【総合医療管理加算（歯科疾患管理料）】

[算定要件]

注11 別の保険医療機関（歯科診療を行うものを除く。）から歯科治療における総合的医療管理が必要な患者であるとして文書による診療情報の提供を受けたものに対し、必要な管理及び療養上の指導等を行った場合は、総合医療管理加算として、50点を所定点数に加算する。

[対象患者]

糖尿病の患者、骨吸収抑制薬投与中の患者、感染性心内膜炎のハイリスク患者、関節リウマチの患者、血液凝固阻止剤投与中の患者又は**HIV感染症の患者**

[施設基準]

六の二の四 歯科治療時医療管理料の施設基準



※ 在宅総合医療管理加算についても同様の見直しを行う。

歯科口腔疾患の重症化予防の推進

歯周病安定期治療の見直し

- 全身の健康にもつながる歯周病の安定期治療及び重症化予防治療を更に推進する観点から、歯周病安定期治療（Ⅰ）及び（Ⅱ）について、歯科診療の実態を踏まえ、整理・統合し、評価を見直す。

現行

【歯周病安定期治療（Ⅰ）】

[算定要件]

注2 2回目以降の歯周病安定期治療（Ⅰ）の算定は、前回実施月の翌月の初日から起算して2月を経過した日以降に行う。ただし、一連の歯周病治療において歯周外科手術を実施した場合等の歯周病安定期治療（Ⅰ）の治療間隔の短縮が必要とされる場合は、この限りでない。

(新設)

【歯周病安定期治療（Ⅱ）】

改定後

【歯周病安定期治療】

[算定要件]

注2 2回目以降の歯周病安定期治療の算定は、前回実施月の翌月の初日から起算して2月を経過した日以降に行う。ただし、一連の歯周病治療において歯周外科手術を実施した場合等の歯周病安定期治療の治療間隔の短縮が必要とされる場合又はかかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所において歯周病安定期治療を開始した場合は、この限りでない。

3 かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所において歯周病安定期治療を開始した場合は、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所加算として、120点を所定点数に加算する。

【削除】



歯科口腔疾患の重症化予防の推進

フッ化物洗口指導加算の対象患者の見直し

- フッ化物洗口指導について、小児のう蝕罹患状況等を踏まえ、対象患者の範囲を見直す。

現行

【フッ化物洗口指導加算（歯科疾患管理料）】

[算定要件]

注8 **13歳未満**のう蝕に罹患している患者であって、う蝕多発傾向にあり、う蝕に対する歯冠修復終了後もう蝕活動性が高く、継続的な指導管理が必要なもの（以下「う蝕多発傾向者」という。）のうち、4歳以上のう蝕多発傾向者又はその家族等に対して、当該患者の療養を主として担う歯科医師（以下「主治の歯科医師」という。）又はその指示を受けた歯科衛生士が、フッ化物洗口に係る薬液の取扱い及び洗口法に関する指導を行った場合は、歯科疾患管理の実施期間中に患者1人につき1回に限り、フッ化物洗口指導加算として、40点を所定点数に加算する。（略）

（う蝕多発傾向者の判定基準）

年 齢	歯冠修復終了歯	
	乳 歯	永 久 歯
0～4歳	1歯以上	-
5～7歳	3歯以上	又は 1歯以上
8～10歳	-	2歯以上
11～12歳	-	3歯以上

改定後

【フッ化物洗口指導加算（歯科疾患管理料）】

[算定要件]

注8 **16歳未満**のう蝕に罹患している患者であって、う蝕多発傾向にあり、う蝕に対する歯冠修復終了後もう蝕活動性が高く、継続的な指導管理が必要なもの（以下「う蝕多発傾向者」という。）のうち、4歳以上のう蝕多発傾向者又はその家族等に対して、当該患者の療養を主として担う歯科医師（以下「主治の歯科医師」という。）又はその指示を受けた歯科衛生士が、フッ化物洗口に係る薬液の取扱い及び洗口法に関する指導を行った場合は、歯科疾患管理の実施期間中に患者1人につき1回に限り、フッ化物洗口指導加算として、40点を所定点数に加算する。（略）

（う蝕多発傾向者の判定基準）

年 齢	歯冠修復終了歯	
	乳 歯	永 久 歯
0～4歳	1歯以上	-
5～7歳	2歯以上	又は 1歯以上
8～11歳	2歯以上	又は 2歯以上
12～15歳	-	2歯以上

歯科口腔疾患の重症化予防の推進

フッ化物歯面塗布処置の対象患者見直し

- ▶ フッ化物歯面塗布処置について、高齢者のう蝕罹患状況等を踏まえ、対象患者の範囲を見直す。

現行

【フッ化物歯面塗布処置（1口腔につき）】
2 在宅等療養患者の場合 110点

[算定要件]

注2 2については、区分番号C000に掲げる歯科訪問診療料を算定し、初期の根面う蝕に罹患している在宅等で療養を行う患者に対して、主治の歯科医師又はその指示を受けた歯科衛生士が、フッ化物歯面塗布処置を行った場合に、月1回に限り算定する。ただし、2回目以降のフッ化物歯面塗布処置の算定は、前回実施月の翌月の初日から起算して2月を経過した日以降に行った場合に限り、月1回に限り算定する。



改定後

【フッ化物歯面塗布処置（1口腔につき）】
2 **初期の根面う蝕に罹患している患者の場合**
110点

[算定要件]

注2 2については、区分番号C000に掲げる歯科訪問診療料を算定し、初期の根面う蝕に罹患している在宅等で療養を行う患者**又は区分番号B000-4に掲げる歯科疾患管理料（注10に規定するエナメル質初期う蝕管理加算を算定した場合を除く。）**を算定し、**初期の根面う蝕に罹患している65歳以上の患者**に対して、主治の歯科医師又はその指示を受けた歯科衛生士が、フッ化物歯面塗布処置を行った場合に、月1回に限り算定する。ただし、2回目以降のフッ化物歯面塗布処置の算定は、前回実施月の翌月の初日から起算して2月を経過した日以降に行った場合に限り、月1回に限り算定する。

ライフステージに応じた口腔機能管理の推進

- ▶ ライフステージに応じた口腔機能管理を推進する観点から、口腔機能管理料について、口腔機能の低下がみられる年齢等の実態を踏まえ、対象患者を見直す。

現行

【口腔機能管理料】

[算定要件]

- (1) 口腔機能管理料とは、**65歳以上**の歯の喪失や加齢、これら以外の全身的な疾患等により口腔機能の低下を認める患者に対して、口腔機能の回復又は維持・向上を目的として行う医学管理を評価したものをいい、関係学会の診断基準により口腔機能低下症と診断されている患者のうち、咀嚼機能低下（区分番号D011-2に掲げる咀嚼能力検査を算定した患者に限る。）、咬合力低下（区分番号D011-3に掲げる咬合圧検査を算定した患者に限る。）又は低舌圧（区分番号D012に掲げる舌圧検査を算定した患者に限る。）のいずれかに該当するものに対して、継続的な指導及び管理を実施する場合に当該管理料を算定する。
(略)



改定後

【口腔機能管理料】

[算定要件]

- (1) 口腔機能管理料とは、**50歳以上**の歯の喪失や加齢、これら以外の全身的な疾患等により口腔機能の低下を認める患者に対して、口腔機能の回復又は維持・向上を目的として行う医学管理を評価したものをいい、関係学会の診断基準により口腔機能低下症と診断されている患者のうち、咀嚼機能低下（区分番号D011-2に掲げる咀嚼能力検査を算定した患者に限る。）、咬合力低下（区分番号D011-3に掲げる咬合圧検査を算定した患者に限る。）又は低舌圧（区分番号D012に掲げる舌圧検査を算定した患者に限る。）のいずれかに該当するものに対して、継続的な指導及び管理を実施する場合に当該管理料を算定する。
(略)



ライフステージに応じた口腔機能管理の推進

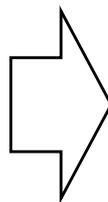
- ライフステージに応じた口腔機能管理を推進する観点から、小児口腔機能管理料について、口腔機能の発達不全がみられる年齢等の実態を踏まえ、対象患者を見直す。

現行

【小児口腔機能管理料】

〔算定要件〕

注1 区分番号B000-4に掲げる歯科疾患管理料又は区分番号B002に掲げる歯科特定疾患療養管理料を算定した患者であって、口腔機能の発達不全を有する**15歳未満の小児**に対して、口腔機能の獲得を目的として、当該患者等の同意を得て、当該患者の口腔機能評価に基づく管理計画を作成し、療養上必要な指導を行った場合に、月1回に限り算定する。



改定後

【小児口腔機能管理料】

〔算定要件〕

注1 区分番号B000-4に掲げる歯科疾患管理料又は区分番号B002に掲げる歯科特定疾患療養管理料を算定した患者であって、口腔機能の発達不全を有する**18歳未満の児童**に対して、口腔機能の獲得を目的として、当該患者等の同意を得て、当該患者の口腔機能評価に基づく管理計画を作成し、療養上必要な指導を行った場合に、月1回に限り算定する。

